宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第４集

熊野原遺跡Ａ・Ｂ地区
KUMA NO BARU

前原西遺跡
MAE BARU NISHI

陣ノ内遺跡
JIN UCHI

前原南遺跡
MAE BARU MINAMI

前原北遺跡
MAE BARU KITA

今江城（仮称）跡
IMA E

車坂城西ノ城跡
KURUMAZAKA

本文編

1988
宮崎県教育委員会

正　誤　表

ページ	行	誤	正
8	上から11	，中葉には継絶する	，中葉には断絶する
23	上から9	からの検であるため	からの検出であるため
24	下から11	“方形周溝基”	“方形周溝墓”
78	上から9	口縁部の系態	口縁部の形態
127	上から13	都城盆地を中心隈や	都城盆地を中心に大隅地方や
127	上から19	建久図田張りよれば	建久図田帳によれば

「宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第4集・本文編」

宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第４集

熊野原遺跡Ａ・Ｂ地区
KUMA NO BARU

前原西遺跡
MAE BARU NISHI

陣ノ内遺跡
JIN UCHI

前原南遺跡
MAE BARU MINAMI

前原北遺跡
MAE BARU KITA

今江城（仮称）跡
IMA E

車坂城西ノ城跡
KURUMAZAKA

本文編

1988
宮崎県教育委員会

序

宮崎県教育委員会では，昭和55年度から地域振興整備公団の委託を受け，宮崎学園都市建設地内に於ける埋蔵文化財包蔵地の発掘調査を実施してきましたが，昭和61年度をもって発掘調査を終了しました。今年度，住宅地区建設予定地内所在の埋蔵文化財調査報告書を刊行しますが，本書の刊行によって受託事業のすべてを完了することになりました。

長期にわたる宮崎学園都市遺跡群の発掘調査は，本県の学史に残る画期的な調査であり，また，調査内容も多岐にわたり本県の歴史の解明に数多くの貴重な資料を得ることができました。

発掘調査の報告書としては満足いくものではありませんが，この報告書が専門の研究者だけではなく，学校教育や社会教育の面にも広く活用されると共に，埋蔵文化財に対する認識と理解のための一助となることを期待しています。

発掘調査にあたって，深い御理解と御協力を賜わった，公団や調査指導の先生方，地元の宮崎市，清武町に対して，衷心から御礼を申し上げます。

昭和63年３月

宮崎県教育委員会

教育長　船　木　　哲

例　言

1．本書は，昭和56～61年度に実施した宮崎学園都市建設事業に係るものの内，住宅地区建設予定地を中心とする７遺跡の発掘調査報告である。

2．発掘調査は，地域振興整備公団宮崎学園都市開発事務所の委託を受けて，宮崎県教育委員会が実施した。

3．本書の執筆は，面高哲郎・永友良典・長津宗重・北郷泰道・菅付和樹・谷口武範が行った。文責については本文に明記している。

4．各遺跡の報告は担当調査員が分担し，永友が総括編集した。

5．本報告では，次の通りの略記号を用いている。

ＳＡ……竪穴住居跡，ＳＢ……掘立柱建物跡，ＳＣ……土壙，ＳＤ……墓，ＳＥ……溝，ＳＨ……ピット，ＳＩ……集石遺構，ＳＪ……カマド，ＳＬ……周溝墓

本 文 目 次

第Ⅰ章　序　　説

第１節　調査の契機と経過

１．調査に至る経緯…… 1

２．調査の組織…… 1

第２節　遺跡の位置と環境…… 5

第Ⅱ章　熊野原遺跡Ａ・Ｂ地区の調査

第１節　調査の経過と概要……12

第２節　遺跡の立地……12

第３節　弥生時代の遺構と遺物……13

１．住 居 跡……13

２．周溝状遺構……24

第４節　その他の遺構と遺物……25

１．土　　壙……25

２．掘立柱建物跡……27

３．溝状遺構……27

第５節　まとめ……28

第Ⅲ章　前原西遺跡の調査

第１節　遺跡の位置……39

第２節　層　　序……39

第３節　調査の概要……39

第４節　遺構と遺物……40

１）　第１地点……40

２）　第２地点……41

３）　第３地点……43

第５節　まとめ……43

第Ⅳ章　陣ノ内遺跡の調査

第１節　遺跡の立地と環境……48

第２節　調査の概要……48

第３節　包含層の状態……49

第４節　縄文時代の遺構と遺物……49

第５節　弥生時代の遺構と遺物……51

第６節　古墳時代の遺構と遺物……53

第７節　古代～中世の遺構と遺物……54
第８節　まとめ……59
第Ⅴ章　前原南遺跡の調査
第１節　遺跡の立地と環境……71
第２節　Ａ地区・Ｂ地区の調査……71
１．調査の概要……71
２．包含層の状態……72
３．古墳時代の遺構と遺物……72
４．古代の遺構と遺物……74
第３節　水田跡の調査……79
１．調査の概要……79
２．包含層の状態……79
３．遺構と遺物……80
第４節　まとめ……82
第Ⅵ章　前原北遺跡の調査
第１節　遺跡の位置と環境……90
第２節　調査の経過……90
第３節　調査の結果……91
１．縄文時代の遺構と遺物……92
２．弥生時代の遺構と遺物……92
３．古墳時代の遺構と遺物……94
４．中世の遺構と遺物……95
第４節　まとめ……95
第Ⅶ章　今江城（仮称）跡の調査
第１節　調査の経過と概要……123
第２節　環　　境……123
第３節　遺構と遺物……128
１．第　１　郭……128
２．第　２　郭……130
３．第　３　郭……131
４．その他の調査区……131
５．遺　　物……132
第４節　弥生時代の遺構と遺物……135
第５節　まとめ……136

第Ⅷ章　車坂城西ノ城跡の調査
第１節　調査の経過と概要……147
１．調査の経過……147
２．調査の概要……147
第２節　遺跡の立地と歴史的環境……149
第３節　遺　構……151
１．第１曲輪……151
２．第２曲輪……153
第４節　遺　物……155
１．中世の遺物……155
２．その他の遺物……156
３．小　結……157
第５節　まとめ……158
第Ⅸ章　結　　語……163

挿　図　目　次

序　説
Fig. 1　学園都市遺跡群位置図…… 6
熊野原遺跡
Fig. 1　ＳＡ５遺物出土状況実測図……16
Fig. 2　ＳＡ９出土土器実測図……18
Fig. 3　ＳA12遺物出土状況実測図……19～20
Fig. 4　ＳA14遺物出土状況実測図……21～22
Fig. 5　周溝状遺構遺物出土状況実測図……25
Fig. 6　ＳＣ１遺物出土状況実測図……26
陣ノ内遺跡
Fig. 1　縄文時代集石遺構分布図……49
Fig. 2　弥生時代・古墳時代遺構分布図……52
Fig. 3　古代～中世遺構分布図……55
前原南遺跡
Fig. 1　古墳時代遺構分布図……73
Fig. 2　古代遺構分布図……73
Fig. 3　A地区古代遺物分布状況図……77
Fig. 4　プラントオパール検出面図……80
Fig. 5　水田跡遺物出土状況およびC-4区足跡検出状況図……81
前原北遺跡
Fig. 1　打製石鏃実測図……92
Fig. 2　前原北遺跡弥生土器編年案……97～98
Fig. 3　前原北遺跡土師器編年案……99
Fig. 4　前原北遺跡集落の変遷……101
今江城跡
Fig. 1　遺跡位置図……124
Fig. 2　今江城跡周辺地形図……125～126
車坂城
Fig. 1　現況概念図……148
Fig. 2　遺構およびグリッド配置図……154

表　目　次

序　説

表１　宮崎学園都市遺跡発掘調査関係遺跡一覧表･３～４

表２　宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書掲載項目一覧表……10

熊野原遺跡Ａ・Ｂ地区

表１　Ａ・Ｂ地区住居跡一覧表……13

表２　Ｂ地区ＳＡ９出土土器観察表……17

表３　掘立柱建物跡一覧表……27

表４　Ａ地区・Ｂ地区土器観察表……32～38

表５　土師器・磁器観察表……38

前原西遺跡

表１　ピット計測表……40

表２　第２地点集石遺構一覧表……41

表３　第１地点遺物観察表……45

表４　第１地点土師器観察表……45

表５　第２地点縄文土器観察表……45

表６　第２地点弥生土器観察表……46

表７　第２・３地点土師器観察表……47

陣ノ内遺跡

表１　縄文時代集石遺構一覧表……50

表２　弥生時代及び古墳時代竪穴住居跡一覧表……51

表３　平安時代竪穴住居跡一覧表……56

表４　掘立柱建物跡一覧表……57

表５　土壙・土壙墓一覧表……58

表６　石器計測一覧表……64

表７　土錘計測一覧表……64

表８　土器観察表……65～70

前原南遺跡

表１　古墳時代竪穴住居跡一覧表……74

表２　平安時代竪穴住居跡一覧表……75

表３　掘立柱建物跡一覧表……76

表４　土壙一覧表……79

表５　石器一覧表……83

表６　土製品一覧表……83

表７　Ａ・Ｂ地区出土土器観察表……84～89

表８　水田跡出土土器観察表……89

前原北遺跡

表１　集石遺構一覧表……103

表２　竪穴住居跡一覧表……104～105

表３　土坑一覧表……105～106

表４　掘立柱建物一覧表……106～107

表５　石器一覧表……107～108

表６　縄文土器観察一覧表……109～110

表７　土器観察一覧表……111～122

今江城（仮称）跡

表１　第１郭土坑観察表……129

表２　土師器観察表……139～141

表３　陶磁器観察表……142～143

表４　土錘観察表……144～145

表５　弥生土器観察表……146

車坂城西ノ城跡

表１　第１曲輪遺構一覧表……152

表２　土師器観察表……159～160

表３　陶磁器観察表……161

表４　土錘計測表……162

表５　縄文土器観察表……162

付　図

宮崎学園都市今江城跡（仮称）地形測量図

第Ⅰ章　序　説

第１節　調査の契機と経過

１．調査に至る経緯

宮崎学園都市構想は，昭和47年８月に宮崎大学が移転統合の基本方針を決定したことで具体化した。その後，『宮崎学園都市開発整備調査報告書』（Ｓ．53．３），『宮崎学園都市開発整備基本方針概要』（Ｓ．53．９）等が作成され宮崎学園都市建設計画は更に進み，昭和54年８月には『宮崎学園都市開発整備事業に係る環境影響評価報告書』が作成された。

事業区内の文化財の取り扱いについては，昭和54年10月９日付けで宮崎学園都市建設局から県教育長に対して「宮崎学園都市開発事業に係る文化財の事前調査について」の依頼があり，県文化課では昭和54年10月24日から26日（清武町域），昭和54年11月12日から15日（宮崎市域）の二回にわたり，宮崎市大字熊野から宮崎郡清武町大字木原にまたがる約 300*ha*の対象区の分布調査を実施した。その結果，22箇所の遺物散布地の外，石塔群１箇所の合計23遺跡を確認することができた。その面積は対象区の約１割にあたる約 399,000㎡ に及んだ。

県文化課ではこの23箇所に及ぶ遺跡の取り扱いについて地域振興整備公団や宮崎学園都市建設局等と協議を重ねた。公園や運動場など現状保存が可能な場所や，農学部の農場など現況で利用可能な場所などについては，発掘調査を保留する措置を取ることとした。さらに，昭和56年度の第２期契約によって対象地区の全体的な試掘調査を実施したことによって，遺物の散布が認められた箇所でも遺構や包含層がすでにカットされたり，あらたに遺構や包含層が確認される箇所が発見されるなど分布調査の段階に比べてさらに詳細な把握がなされた。

また，この間，当初確認されていなかった山城が住宅地区で２箇所良好な状態で確認された。県文化課では，現状保存前提として取り扱いについて協議を重ねたが，事業施行上，保存が困難であるため他の遺跡同様，記録保存の措置を取ることとした。

一方，調査体制の強化も行われ昭和55年度に２名であった調査員の数も昭和56年度に６名，昭和57年度には８名と体制の充実が計られた。

本報告書に収録する遺跡は，宮崎学園都市内の住宅地区にあたる地域に所在するものである。これら，各遺跡の発掘調査年次は，２年目の昭和56年度から最終年度の昭和61年度にわたる。昭和56年度は昭和56年６月27日から昭和57年３月31日までの第１期契約において熊野原遺跡Ａ地区と前原西遺跡と前原北遺跡の一部の発掘調査，さらに，昭和56年10月16日から昭和57年３月31日までの第２期契約で 226,070㎡ を対象とした試掘調査，昭和57年度は，昭和57年６月24日から昭和58年３月25日までの第１期契約の間に熊野原遺跡Ｂ地区と前原西遺跡と前原南遺跡，昭和58年度は昭和58年４月５日から昭和59年３月20日までの契約において前原南遺跡水田跡，昭和59年度は昭和59年10月９日から昭和60年３月20日までの契約（昭和59年12月10日に契約変更）で今江城跡（仮称），昭和60年度は昭和60年４月２日から昭和61年３月25日までの契約で前原北遺跡，昭和61年度は昭和61年４月14日から昭和62年３月25日までの契約において陣ノ内遺跡と車坂城西ノ城跡の発掘調査をそれぞれ実施した。

２．調査の組織

発掘調査委員会および調査事務局の組織は，次のとおりである。

委　員　長　　石　川　恒太郎　県文化財保護審議会委員

委　　員	遠　藤　　尚　宮崎大学学長（委員は昭和56年度まで）
	岡　崎　　敬　九州大学名誉教授
	田　中　熊　雄　宮崎大学名誉教授
	田　中　　琢　奈良国立文化財研究所埋蔵文化財センター長
	寺　原　俊　文　県文化財保護審議会委員（委員は昭和61年度まで）
	日　高　正　晴　県文化財保護審議会委員
	森　　貞次郎　九州産業大学教授
	柳　　宏　吉　県文化財審議会委員（委員は昭和60年度まで）
	横　山　浩　一　九州大学教授
特別調査員	市川米太　奈良教育大学教授，大塚　誠　宮崎大学講師，小田富士雄　北九州考古博物館長，金子弘二　宮崎大学教授，亀井明徳　九州歴史資料館主査，小林達雄　国学院大学助教授，柴田喜太郎　広島大学理学部地鉱教室，橘　昌信　別府大学教授，中村　純　元高知大学教授，藤原宏志　宮崎大学教授，松下孝幸　長崎大学助教授，三辻利一　奈良教育大学教授，山本輝雄　九州大学講師，原口正三　大阪府立島上高等学校教諭，下條信行　愛媛大学教授，村田修三　奈良女子大学教授，木村幾多郎　九州大学講師，町田　洋　東京都立大学教授
事　務　局	宮崎県教育委員会
教　育　長	四本　茂（昭和55年度），後藤賢三郎（昭和56～59年度），船木　哲（昭和60～62年度）
教育次長	甲斐俊則（昭和55・56年度），内田琢也（昭和57・58年度），兼田克己（昭和59年度），村田　綜（昭和60年度），山本一磨（昭和61・62年度）
教育次長	坂口鉄夫（昭和55年度），船木　哲（昭和56～59年度），児玉郁夫（昭和60～62年度）
文化課長	山本一磨（昭和55・56年度），井上鉄哉（昭和57・58年度），平田和彦（昭和59年度），永井初志（昭和60～62年度）
課長補佐	村田広則（昭和55・56年度），佐野芳弘（昭和57・58年度），成見　実（昭和59年度），梨岡　孝（昭和60～62年度）
庶務係長	田中君彦（昭和55年度），島中　勲（昭和56・57年度），安部信宏（昭和58・59年度），日高達男（昭和60～62年度）
主任主事	穂ノ上昇（昭和55～58年度），井野伸一（昭和59～61年度），串間俊也（昭和62年度）
文化財係長	山下正明（昭和55・56年度まで）
主幹兼埋蔵文化財係長	田中　茂（昭和57～61年度）
埋蔵文化財係長	丸目恵教（昭和62年度）
（調査員）	岩永哲夫（昭和55～58年度），面高哲郎（昭和56～59年度），永友良典（昭和56～59・61年度）長津宗重（昭和57～59年度），北郷泰道（昭和55～60年度），石川悦雄（昭和56年度），近藤　協（昭和59年度），菅付和樹（昭和56～59・61年度），日高孝治（昭和57～59年度），谷口武範（昭和57～60年度）
調査協力	宮崎市教育委員会，清武町教育委員会
調査補助員	有田辰美，永友加奈子，佐藤譲治，長友三千夫，鎌田亮一，蓑方政幾，岩見典子，戸高真知子

表１．宮崎学園都市遺跡発掘調査関係遺跡一覧表

地点	遺跡名	所在地	内容	調査面積㎡（分布面積）	調査地区と面積							備考	報告書・概要	
					55年度 ㎡	56	57	58	59	60	61			
1	山内石塔群	清武町大字木原	中近世～板碑　五輪塔	1,650		1,650							宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第１集	宮崎学園都市埋蔵文化財発掘調査概報（Ⅱ）
2	下田畑遺跡	〃	弥生～竪穴住居１　土坑１ 古代～掘立柱建物7 カマド付竪穴住居2 土坑1	33,200				10,600	22,600				〃　第３集	—
3	赤坂遺跡	〃	縄文～集石４ 古代～掘立柱建物２　カマド付竪穴住居１	4,000		4,000							〃　〃	〃　（Ⅲ）
4	小山尻西石塔群	〃	中世～板碑	100					100				〃　〃	—
5	浦田遺跡	〃	縄文～集石９ 弥生～竪穴住居６　土坑10	1,000					1,000				〃　第２集	〃　（Ⅳ）
6	入料遺跡	〃	縄文～集石３ 古代～土坑３	3,250	3,250								〃　〃	〃　（Ⅰ）
7	小山尻東遺跡	〃	縄文～集石９ 古代～竪穴住居１	2,000					2,000				〃　第３集	—
8	田上遺跡	〃	縄文～集石８	7,000				2,400	4,600				〃　〃	—
9	堂地西遺跡	宮崎市大字熊野	旧石器～集石６ 縄文～集石12 弥生～竪穴住居２ 中世～柱穴群	31,800			800	31,000					〃　第２集	〃　（Ⅳ）
10	平畑遺跡	〃	縄文～竪穴住居55 古代～カマド付竪穴住居２　土坑１ 中世～掘立柱建物24	31,700 (120,900)			1次 23,700	2次 3,000				未調査地区は農場用地として未造成のため調査除外(59年度から大学調査)	〃　〃	〃　（Ⅲ）1次 〃　（Ⅳ）2次
11	堂地東遺跡	〃	縄文～集石５ 弥生～竪穴住居20　土拡18 中近世～掘立柱建物10　石塔群　井戸　近世墓	43,830	1次 6,830		2次 17,200	3次 19,800					〃　〃	〃　（Ⅰ） 〃　（Ⅲ） 〃　（Ⅳ）
12	熊野原遺跡	〃	弥生～竪穴住居20　土拡１　周溝状遺構１ 古墳～竪穴住居23　土拡１　周溝状遺構１ 中世～掘立柱建物18	56,100		A地区 14,100	B地区 18,900	C地区 23,100					〃　第２集（C地区） 本書（A・B地区）	〃　（Ⅱ）A地区 〃　（Ⅲ）B地区 〃　（Ⅳ）C地区
13	犬馬場遺跡	〃	弥生～中世散布地	(1,100)								未造成のため調査除外	—	—
14	前原西遺跡	〃	縄文～集石12 弥生～竪穴住居３ 中世～周溝墓１　掘立柱建物４　竪穴住居１	18,000		15号地 4,000 16号地 6,000	16号地 8,000						本　書	〃　（Ⅱ）15,16号 〃　（Ⅲ）16号
15	前原北遺跡	〃	縄文～集石31　弥生～竪穴住居 古墳～　〃　} 60 中世～掘立柱建物51 近世～近世墓	29,000		5,000				24,000			〃	〃　（Ⅱ） 〃　（Ⅴ）
16	前原南遺跡	〃	古墳～竪穴住居６，水田址 古代～カマド付竪穴住居３ 中世～掘立柱建物18	11,770			6,770	水田5,000					〃	〃　（Ⅲ） 〃　（Ⅳ）水田
17	陣ノ内遺跡	〃	縄文～集石14　弥生～竪穴住居１ 古墳～竪穴住居13 古代～カマド付竪穴住居９ 中世～掘立柱建物13	6,500							6,500		〃	〃　（Ⅵ）
18	車坂城西ノ城跡	〃	中世山城	6,000							6,000		〃	〃　（Ⅵ）
19	木花遺跡	〃	弥生～中世散布地	(13,000)								未造成のため調査除外	—	—
20	今江城跡(仮称)	〃	弥生～竪穴住居３ 中世山城	6,000					1,000	5,000			本　書	〃　（Ⅴ）
（報告書刊行年度）					概報（Ⅰ）	（Ⅱ）	（Ⅲ）	（Ⅳ）本報告書第1集	第2集,第3集	（Ⅴ）	（Ⅵ）			

埋蔵文化財センター整理専門員　津隈久美子

整理補助員　増田慈子，酒井晴子（昭和58年度まで），日野美智子

整　理　員（昭和55～62年）　藤丸美代子，渡辺祥子，菊野悦子，冨田優子，長友玲子，手束千恵美，有田具子，今橋牧子，勇端枝，鳥越智子，荒武望恵，桑畑　礼，荒木慶子，荒木真由美，加藤泰子，富永優子，橋本真智子，松岡邦子，清水玲子，永峰まり子，竹島典江，川崎法子，田原辰子，高山幸子，野村涼子，長沼幸子，東えり子，斉藤保子，迫坪千代子，金井裕子，溝口フサ子，丸山直子，佐々木ゆみ子，金丸琴路，西　洋子，清武和子，岸沢悦子，横尾理恵，石田裕美，安部美智子，戸高真知子，中村江里，松田京子，清武幸美，染矢裕子，押方マミ，椎葉順子，岩見典子，甲斐智子，押川京子，横山千穂

（永友良典）

第２節　遺跡の位置と環境

宮崎学園都市遺跡群は，行政区では宮崎市大字熊野と清武町大字木原であり，北の清武川と南の加江田川に挟まれた標高15m の洪積台地上に分布している。台地の東端から日向灘の海岸線まで約２kmであり，西の鰐塚山系から東へ中位面Ⅰ～同Ⅱ～後背低地と傾斜した台地で，谷底低地や開析谷が数本も入り込んでいる。

本報告に収録した遺跡は，台地中央の熊野原遺跡・陣ノ内遺跡・前原西遺跡であり，東端部の前原北遺跡・前原南遺跡・今江城である。

旧石器時代

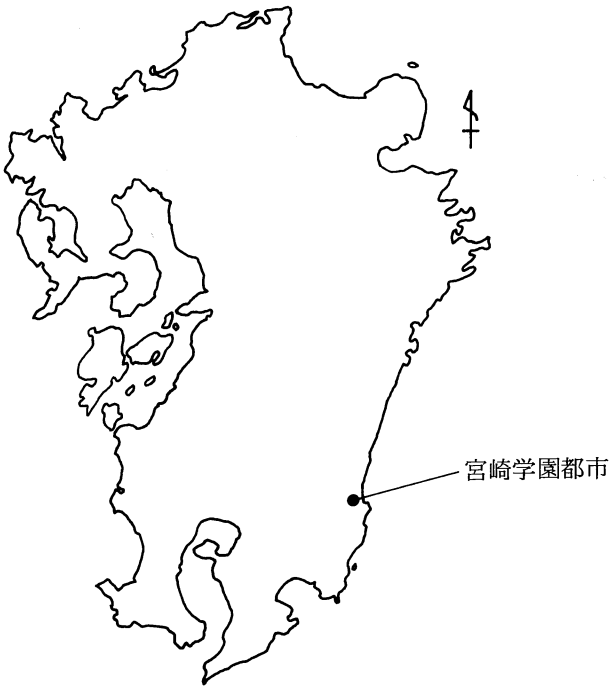
学園都市遺跡群が存在する洪積台地に最初に人間の生活が営まれたのは，西北端（平坦地中位面Ⅱ）の標高30～50m（比高10～30m）に位置する堂地西遺跡*である。当遺跡では第２オレンジ層（ＡＴ22,000～21,000年前）上位のハードローム層（Ⅴb層）から縦長剥片を素材とした二側辺加工のナイフ形石器と一側辺と両側辺の基部に加工のある剥片尖頭器が出土しており，九州の旧石器編年の後期前半[1]に比定されている。生活遺構としての集石遺構は標高40mで直径約20m の範囲に６基が３ブロックに分かれる。また石器の分布から，直径10m の３つのユニットが15m の間隔で想定され，Ａユニット（ナイフ形石器３・尖頭器１・彫器１）からは 100点も出土している。当遺跡群では浦田遺跡*（ナイフ形石器１・細石刃１・彫器１）・前原西遺跡*（細石核・細石刃・剥片）・堂地東遺跡*（剥片尖頭器１）でも出土しているが，堂地西遺跡で見られるようなユニットの復元までには至っていない。

近隣の田野町では，芳ケ迫第１遺跡[2]では２基の集石遺構間の径５m のユニットからナイフ形石器３・剥片尖頭器１・三稜尖頭器１・彫器１・掻器１などが出土している。同第３遺跡[3]では石核２・剥片を伴った集石遺構１基と剥片尖頭器１が出土している。札ノ元遺跡[4]では１基の集石遺構を中心として径３m 程度の範囲で石核２・ナイフ形石器１・剥片などが出土している。

縄文時代

草創期の遺跡としては前時代から継続して堂地西遺跡*が営まれ，Ⅳ層～Ⅴ層上部から爪形文土器（文様として爪ないしヘラによる規則的に施されたもの）と隆起線文土器（隆起線の上下に張り付けの際についたと思われる爪形文が文様となっているａ類，指頭による隆起線の張り付けが行なわれたｂ類）に伴なって細石刃・局部磨製石斧を出土している。この時期の土器群は当遺跡群には他には存在していないが，県北の岩土原遺跡[5]（北方町）でも第２文化層から堂地西遺跡の隆起線文ａ類が細石器を共伴している。

1. 山内石塔群（23号地）
2. 下田畑遺跡（１号地）
3. 赤坂遺跡（７号地）
4. 小山尻西石塔群（８号地）
5. 浦田遺跡（４号地）
6. 入料遺跡（５号地）
7. 小山尻東遺跡（２号地）
8. 田上遺跡（３号地）
9. 堂地西遺跡（９号地）
10. 平畑遺跡（10号地）
11. 堂地東遺跡（11号地）
12. 熊野原遺跡（14号地）
13. 犬馬場遺跡（13号地）
14. 前原西遺跡（15・16号地）
15. 前原北遺跡（20号地）
16. 前原南遺跡（19号地）
17. 陣ノ内遺跡（18号地）
18. 車坂城西ノ城跡
19. 木花遺跡（21号地）
20. 今江城（仮称）跡



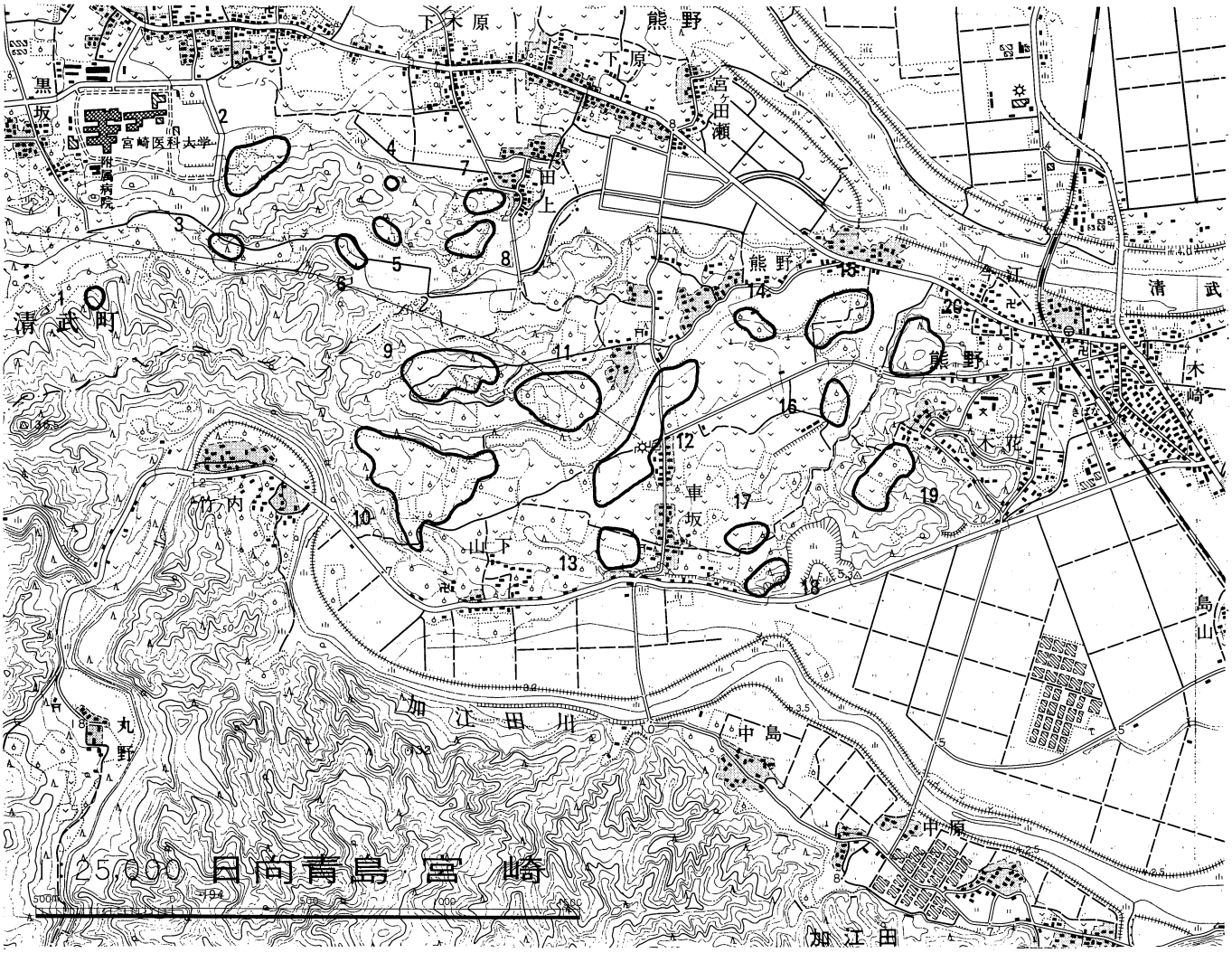


Fig. 1　学園都市遺跡群位置図

早期になると遺跡が拡大し，堂地西遺跡（集石遺構28基）・堂地東遺跡*（同５基）・平畑遺跡*（散　石）・前原西遺跡*（同12基）・前原北遺跡*（同31基）・陣ノ内遺跡*（同14基），下田畑遺跡*（散　石）・小山尻東遺跡*（同10基）・田上遺跡*（同８基）・赤坂遺跡*（同２基）・入料遺跡*（同３基）・浦田遺跡*（同９基）がある。貝殻条痕文を主体とする前原西遺跡，小山尻東遺跡，入料遺跡，塞ノ神式を主体とする堂地西遺跡Ａ区，下田畑遺跡，押型文を主体とする陣ノ内遺跡，堂地東遺跡，前平式・吉田式を主体とする前原北遺跡，田上遺跡，堂地西遺跡Ｂ地区であり，前平・吉田式の前原北遺跡，塞ノ神式の堂地西遺跡が拠点的な集落である。各遺跡間の距離は0.5㎞～1.5㎞と近距離でありながら，それぞれ土器群の様相を異にしている。集石遺構の機能としては「石蒸し」や「炉」などが想定されているが，確定に至っていない。当遺跡群から西へ9.8km離れた前平遺跡群（田野町）では芳ケ迫第１遺跡(6)で集石遺構54基，同第３遺跡(7)で集石遺構104基，札ノ元遺跡(8)で集石遺構84基・竪穴住居２軒検出されており，４遺跡とも押型文土器が出土しているが，手向山式・平栫式土器は札ノ元遺跡だけで，塞ノ神式土器は又五郎遺跡だけであり，吉田・前平式土器は芳ケ迫第３遺跡では全く出土していない。前平遺跡群でも学園都市遺跡群の２倍の規模ながら遺跡間の距離が180～300ｍと近距離で遺跡と土器群の様相が似ている。平栫式土器は下田畑遺跡，手向山式土器は小山尻東遺跡で出土しているが，主体的なあり方は示していない。竪穴住居は当遺跡群では検出されなかったが札ノ元遺跡・又五郎遺跡(9)では方形プランの竪穴住居が検出され，県内唯一の例として注目される。

前期になると遺跡数が激減し，曽畑式土器を出土した下田畑遺跡*・入料遺跡*のみである。土器は口縁部が小さく山形を成すものがみられ，かつ短線列文を主とした文様もやや粗く，曽畑式土器Ⅱ式(10)に位置付けられる。県内では11遺跡で確認されているが，宮崎平野部での出土としては初例であるので注目される。

中期は日向においては希薄であり，当遺跡群においても良好な遺跡はない。

後期になると再び遺跡が営まれ，平畑遺跡*の標高31m ～37m に円形プランの竪穴住居が24軒発掘調査された。土器としては指宿式・松山式・市来式などの土器群が出土している。磨製石斧と伴に石錘が出土しており，石錘は両端打ち欠きが90％以上で、切目は少ない。県内の他の集落としては丸野第二遺跡(11)（田野町）があり，円形プラン・方形プランの竪穴住居が26軒発掘調査され，方形プランから円形プランの変遷が追える。下弓田遺跡(12)（串間市）でも方形プランが３軒検出されている。特徴的な遺物としては堂地東遺跡*で蛇頭を表現した土器の口縁部が出土しており注目される。

晩期になると遺跡規模が増大し，平畑遺跡*では後期の集落より一段低い標高25m ～27m に円形プランの竪穴住居が42軒発掘調査された。42軒は６グループに分けられ，平畑晩期Ⅰ期（初頭）４軒、同Ⅱ期（前半）14軒，同Ⅲ期12軒と推移しており，一軒の大型住居（床面積20㎡）・数棟の通有の住居（同10㎡前後）・１棟の焼土面を形成する小形住居（同５㎡前後）によって構成された３～６軒の集落景観が復元されている(13)。住居の規模は34号住居が19㎡と最大規模であり，10㎡前後が平均的な規模で，２本柱で円形ないし楕円形プランである。県北のセベット遺跡(14)（高千穂町）では長軸330ｍ ×短軸260ｍ の楕円形プランの竪穴住居１軒が調査され，晩期前半期中葉に比定されている。この時期には円形・楕円形プランの竪穴住居となる。今まで県北の山間部の陣内遺跡(15)（高千穂町）の土偶・石棒・石刀の祭祀形態しか祭式を窺うことはできなかったが，平畑遺跡でも第二の道具としての石刀・石棒が出土し，平野部での祭式に新たな彩を添えた。石器構成から平畑遺跡の経済基盤は狩猟・採集に加えて漁撈の比重も高いことが窺える。石錘は両端打ち欠きがほとんどであり，他地域で指摘されるように海岸部の遺跡の様相と同じである。

弥生時代

弥生時代になると，前原北遺跡*で夜臼式系の未穿孔の孔列を有する刻目突帯文土器が数点出土しているが，この時

期の遺構は未検出であり，主体的なあり方を示していない。前期～中期前半は土器が出土しておらず，遺跡は形成されていない。県内では前期後半～中期前半の集落としては持田中尾遺跡[16]（高鍋町・円形住居２軒），鐙遺跡[17]（新富町・円形住居２軒）がある。特に２遺跡とも環濠を有しており，当時期の緊張関係がうかがえる。

中期後半になると前原北遺跡に集落が形成される。該期の竪穴住居は13軒で，13・14号住居は直径８ｍの円形プランの住居である。住居のほぼ中心に２本の主柱穴があり，壁寄りに８本の柱穴が円形状に巡る。この時期の袋状竪穴も検出されているが，群としてのあり方は示していない。また住居内の貯蔵穴もこの時期から見られる。堂地東遺跡*では中期後半の方形プランの住居２軒，下田畑遺跡では中期後半の方形プランの住居１軒があるのみで，前原北遺跡からの分村と想定され，前原北遺跡が拠点集落である。県内ではこの時期の集落は調査されていない。

後期初頭になると円形プラン及び方形プランを基調として内側に複数の突出壁を有する「日向型間仕切り住居[18]」によって構成された集落が堂地東遺跡*（19軒）に形成される。堂地東遺跡は初頭に９軒，前半に８軒と８～９軒で集落を形成し，中葉には継絶する。当遺跡からは瀬戸内系の凹線文の壺形土器・軽石製石製品などと伴に鉄器がかなり出土しており，この時期に鉄器が普及し始める。この時期の土器はくの字口縁状に１条の刻目突帯を有する土器を特徴とする。後期後葉には谷を挟んで南東へ約 400m 離れた平坦地中位面Ⅱの熊野原遺跡Ｂ地区*（18軒）と前原北遺跡*（20軒）に集落の中心が移動し，末葉まで継続するが，前者が古墳時代初頭には断絶するのに対して後者は古墳初頭まで継続する。堂地東遺跡・熊野原遺跡Ｂ地区とも「日向型間仕切り住居」を主体とする集落であるが，前者がⅠ・Ⅱ・Ⅲ類，後者がⅠ・Ⅳ類で構成されており，時期的・構造的変遷が見られる。後期後葉～末葉の時期の集落としては別丘陵の浦田遺跡*（６軒）があり，後葉には竪穴住居４軒と土坑７＋α基，末葉には竪穴住居１～２軒・土坑１～２基と変遷しており，分村的あり方を示している。６軒とも方形プランであり，分村的なあり方を加味すると，当遺跡群では「日向型間仕切り住居」が主体的な集落であり，方形プランの集落は従的な集落であることがおぼろげながらも窺える。当丘陵では溝・濠は掘削されておらず，他地域に見られるような緊張関係は遺構では追えない。しかし，前方後円墳の出現という社会的・政治的変革の中で土器変化と伴に在地的な住居であった「日向型間仕切り住居」が消滅という形で連動していったことを端的に示している。

古墳時代

古墳時代になると，学園都市遺跡群が存在する丘陵の中央部及び東部の平坦地中位面Ⅱに熊野原Ｃ遺跡*・前原北遺跡*・前原南遺跡*が営まれる。これらの遺跡は標高12～18m，谷底低地との比高差４～７ｍである。熊野原Ｃ遺跡では23軒の竪穴式住居が調査された。２本柱ないし４本柱の１辺６～７ｍの方形プランの住居跡で，壁帯溝を持つものもあった。堂地東遺跡・熊野原Ｂ遺跡・前原北遺跡で検出された「日向型間仕切り住居」は，学園都市遺跡内ではこの時期を以て消滅している。住居跡に挟まれて隅丸方形の周溝状遺構が１基検出され，主体部がなく単独であるため，墓よりも祭祀の場としての性格が考えられる。これは熊野原Ａ遺跡*の弥生時代末葉の周溝状遺構から系譜を追える点で注目される。当遺跡の時期は，小型丸底壺・高坏から布留式併行期に比定される。１辺４～５ｍの方形プランの住居跡が，前原北遺跡で４軒，前原南遺跡で５軒調査されている。前段階の庄内併行期の墓地として東平下周溝墓[19]（川南町）・川床遺跡[20]（新富町）で周溝墓が，布留式併行期の下屋敷１号墳[21]（新富町）が調査されているが，学園都市遺跡では発見されていない。墓地は当丘陵以外の地に求めるのが妥当であろう。

須恵器Ⅰ・Ⅱ期の５世紀後半～６世紀前半になると，学園都市遺跡内には集落も墓地も検出されていない。須恵器Ⅲ期の６世紀後半になると前原北遺跡（８軒）・陣ノ内遺跡（１軒）が営まれる。しかし，学園都市遺跡が存在する北へ約 1.3km，清武川右岸に木花古墳群が存在する。主軸長50～60m 級の前方後円墳３基，円墳５基で構成されており，木花第１号墳出土の円筒埴輪により川西編年の第Ⅴ期に相当し，６世紀代を中心とした時期に営まれたと思われる。[22]

北へ約5kmの清武川左岸には，前方後円墳1基，円墳3基で構成された清武古墳群が存在する。当古墳群はすべて滅失しており，また出土遺物は知られておらず，時期は不明である。北西へ約9kmの清武川左岸では灰ケ野地下式横穴墓[23]（田野町）が調査されているが，当地域には日向の在地型墓制である地下式横穴墓は導入されていない。集落の調査としては，5世紀後半～6世紀後半の浄土江遺跡[24]（宮崎市），6世紀後半の藤掛遺跡[25]（新富町），上別府遺跡[26]（高鍋町）が調査され，方形プランの竪穴式住居が検出されている。また上薗遺跡[27]（新富町）では5世紀～6世紀の竪穴住居が300軒も調査されている。

古　代

奈良時代の遺跡は当遺跡群においては確認されていないが，北東3.0kmには奈良時代後半の須恵器の窯跡である松ケ迫遺跡[28]がある。

平安時代になると遺跡が再び増大し，平畑遺跡*（掘立柱建物14棟・カマド付竪穴住居2軒）・前原南遺跡*（カマド付竪穴住居3軒）・陣ノ内遺跡*（カマド付竪穴住居9軒・竪穴住居1軒）・下田畑遺跡*（掘立柱建物7棟・カマド付竪穴住居2軒）・赤坂遺跡*（掘立柱建物1棟・カマド付竪穴住居1軒）・堂地東遺跡*（掘立柱建物6棟）である。平畑遺跡では2間×3間を主体とした掘立柱建物とカマド付竪穴住居が3群に分かれ，布痕土器・緑釉・車輪文叩きの須恵器などの遺物がそれぞれの群で異なるあり方を示しており時期差・機能差が考えられている。布痕土器は内面に布目圧痕のある粗製の尖底土器であり森田勉氏分類[29]のⅡa類に相当し，焼塩壺と考えられている。日向においても古代の道沿いの遺跡に分布しており，平畑遺跡の出土量は他地域よりも多く，かつ「延喜式」の日向16駅の1つである救麻駅は宮崎市大字熊野に比定されているので，当遺跡群はそういう位置付けも必要である。前述の平安時代の遺跡のすべてから布痕土器が出土していることからも窺える。カマド付住居は日向において浄土江遺跡[30]の7世紀を上限としているが，当遺跡群においては平安時代以降である。陣ノ内遺跡ではカマドのタイプは煙道を有しないもの，煙道を壁面から地中に掘り込むもの，煙道を掘り込み粘土等で天井を覆うものなど様々である。

中近世

当遺跡群が存在する熊野は，11世紀後半から日下部氏が開発した国富荘の一円荘であり，天授5（1379）年には隈野氏によって支配された。この時期の遺跡として平畑遺跡*（掘立柱建物10棟・13～14C前半）・堂地東遺跡*（掘立柱建物4棟・13～16C前半）・陣ノ内遺跡*（掘立柱建物10棟・13～15C）・熊野原遺跡C地区*（掘立柱建物13棟・14C～15C）・前原北遺跡*（掘立柱建物50棟）がある。熊野原遺跡C地区では掘立柱建物が3群に分けられ，各群は庇をもつ掘立柱建物（母屋）2棟の掘立柱建物（納屋あるいは倉庫）を「コ」の字形，或いは逆「コ」の字形に配置されている。また掘立柱建物を囲む溝も検出されており，集落の最小単位と集落景観をある程度復元できる。墓地としては鶴の文様の入った漆器皿・土師皿・銅銭を副葬した前原西遺跡の周溝墓（14C～15C）があるぐらいで少ない。しかし，詣り墓としての石塔は，山内石塔群*（13C後半～17C）・小山尻西遺跡*（15C前半）・堂地東遺跡（15C～16C）がある。山内石塔群では，丘陵斜面に3段の平坦面を造成し，そこに12区に分かれて石塔群が造営されている。その数は五輪塔539基，板碑74基であり，それぞれの群は2～6基を単位として一列に構成されるが，コの字形に配列されるものもある。石塔群の周囲には河原石を敷きつめており，コの字形配列のⅣ区では空風輪のかわりに相輪を載せた五輪塔が倒壊した状態で出土し，注目された。堂地東遺跡でも溝で区画された中に2～4基を一単位として39基が東西方向に一列に並んでいた。

車坂城と今江城は伊東氏と島津氏の争いの産物である。車坂城では曲輪東端で幅7mの空堀が検出され，14世紀後

半から15世紀前半の遺物が出土している。東側を削られていたが，山城としては良好な状態であった。一方今江城は曲輪の周囲に深さ２ｍの堀や土塁を有しており，15世紀から16世紀前半の遺物が出土した。車坂城は文献に記載されているが，今江城について文献では不明な所が多い。1.25km離れた２つの城の間では遺物の時期的なズレが見られ，そこに２つの城の関係が暗示されている。

近世になると堂地東遺跡では墓が営まれ，「墓道」が想定される溝の末端の両側に３号墓・４号墓を中心に計14基営まれており，一族の墓地と推定される。

以上のように，学園都市遺跡群がある当丘陵では縄文時代中期・弥生時代前期・古墳時代（５世紀後半～６世紀前半）・奈良時代に空白を有しながらも，連綿として遺跡が営まれ，それを発掘調査したことで，小地域（学園都市遺跡群）の歴史が解明されるだけでなく，日向の歴史を解明して行く大きな手懸りの一つを得た。

（長津　宗重）

註　＊印は学園都市遺跡群であり，下記の報告書による。

番号	遺跡名	概報	本報告書
1	山内石塔群	宮崎学園都市埋蔵文化財発掘調査概報（Ⅱ）　１９８１	宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第１集　１９８５
2	下田畑遺跡		同上　第３集　１９８５
3	赤坂遺跡	同上（Ⅱ）　１９８１	同上　第３集　１９８５
4	小山尻西石塔群		同上　第３集　１９８５
5	浦田遺跡	同上（Ⅳ）　１９８３	同上　第２集　１９８５
6	入料遺跡	同上（Ⅰ）　１９８０	同上　第２集　１９８５
7	小山尻東遺跡		同上　第３集　１９８５
8	田上遺跡		同上　第３集　１９８５
9	堂地西遺跡	同上（Ⅳ）　１９８３	同上　第２集　１９８５
10	平畑遺跡	同上（Ⅲ）　１９８２ 同上（Ⅳ）　１９８３	同上　第２集　１９８５
11	堂地東遺跡	同上（Ⅰ）　１９８０ 同上（Ⅲ）　１９８２ 同上（Ⅳ）　１９８３	同上　第２集　１９８５
12	熊野原遺跡 A地区	同上（Ⅱ）　１９８１	本報告
	B地区	同上（Ⅲ）　１９８２	本報告
	C地区	同上（Ⅳ）　１９８３	同上　第２集　１９８５
13	犬馬場遺跡	試掘のみ	
14	前原西遺跡	同上（Ⅱ）　１９８１ 同上（Ⅲ）　１９８２	本報告
15	前原北遺跡	同上（Ⅱ）　１９８１ 同上（Ⅴ）　１９８５	本報告
16	前原南遺跡	同上（Ⅲ）　１９８２ 同上（Ⅳ）　１９８３	本報告
17	陣ノ内遺跡	同上（Ⅳ）　１９８４	本報告
18	車坂城跡	同上（Ⅵ）　１９８４	本報告
19	木花遺跡	試掘のみ	
20	今江城跡	同上（Ⅴ）　１９８５	本報告

表２．宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書掲載項目一覧表

(1) 橘昌信・萩原博文 「九州における火山灰層序と旧石器時代の石器群」 『第四紀研究』 第22巻3号 1983
(2) 面高哲郎 「芳ケ迫第1遺跡」 『田野町文化財調査報告書』第2集 1986
(3) 寺師雄二 「芳ケ迫第3遺跡」 『田野町文化財調査報告書』第2集 1986
(4) 寺師雄二 「札ノ元遺跡」 『田野町文化財調査報告書』第2集 1986
(5) 鈴木重治 「本邦における土器起源に関する研究ー岩土原遺跡を中心にー」 『南九州大学園芸学部研究報告』第3集 1973
(6) (2)に同じ
(7) (3)に同じ
(8) (4)に同じ
(9) 未報告。伊東但氏の御教示。
(10) 水ノ江和同 「西九州における曽畑式土器の諸様相」 『同志社大学考古学シリーズ』Ⅲ 1987
(11) 長津宗重 「丸野第二遺跡」 『田野町文化財調査報告書』第4集 1987
(12) 石川恒太郎他 「下弓田遺跡」 『日向遺跡総合調査報告』第1輯 1961
(13) 北郷泰道 「集落論ノートー南九州の縄文晩期集落から」 『考古学研究』第34巻第1号 1987
北郷泰道 「縄文の『むら』」 『文明のクロスロード Museum Kyushu』第24号 1987
(14) 長津宗重 「セベット遺跡」 『高千穂町文化財調査報告書』第3集 1985
(15) 鈴木重治・賀川光夫 「陣内遺跡」 『日向遺跡総合調査』第2輯 1962
(16) 北郷泰道 『持田中尾遺跡』 1982
(17) 面高哲郎 「鐙遺跡」 『新富町文化財調査報告書』第2集 1983
(18) 長津宗重 「『日向型間仕切り住居』研究序説」 『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第2集 1985
(19) 川南町教育委員会 『東平下周溝墓群ー2号方形周溝墓』 1982
日高正晴・岩永哲夫 「東平下1号円形周溝墓」 『宮崎県文化財調査報告書』第29集 1986
(20) 有田辰美 「川床遺跡」 『新富町文化財調査報告書』第5集 1986
(21) 新富町教育委員会「新富町・下屋敷1号墳発掘調査中間報告」 『宮崎考古』第9号 1984
(22) 長津宗重・北郷泰道「首長墓の系譜ー大淀川下流域の古墳群を中心として」 『宮崎考古』第6号 1980
(23) 田中茂「宮崎郡田野町灰ケ野地下式横穴」 『宮崎県総合博物館研究紀要』第1輯 1973
(24) 宮崎市教育委員会「浄土江遺跡」 1981
(25) 岩永哲夫「藤掛遺跡」 『新富町文化財調査報告書第2集』 1983
(26) 宮崎県教育委員会「上別府遺跡」 1979
(27) 有田辰美 「上薗遺跡」 『新富町文化財調査報告書』第4集 1987
(28) 石川恒太郎 『宮崎県の考古学』 1968
(29) 森田勉 「焼塩壺考」 『大宰府古文化論叢』下巻 1983
(30) (24)に同じ

第Ⅱ章　熊野原遺跡Ａ・Ｂ地区の調査

第１節　調査の経過と概要

熊野原遺跡は，昭和54年11月の遺跡分布調査によって発見された。遺跡の範囲は熊野川を望む台地北縁の約５万㎡に及んだため，便宜上，台地の中央を南北に走る市道の東側をＡ地区，さらに台地中央を東西に走る農道によって，Ａ地区の西側からこの農道の北側までをＢ地区，農道の南側をＣ地区とした。現在の地形では，熊野川にかかる橋の東側の住宅地と河川敷付近がＡ地区，橋の南側の拡張された市道とその南西側タウンセンター付近がＢ地区，九州電力青島変電所の西側，宮崎大学のテニスコート及びグランド付近がＣ地区にあたる。発掘調査は，Ａ地区が昭和56年８月～12月，Ａ地区東半部が昭和57年６月～９月，Ｂ地区が昭和57年７月～９月及び昭和58年４月～10月，Ｃ地区が昭和58年４月～７月及び昭和59年１月～３月にかけて実施された。このうち，Ｃ地区については昭和60年『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第２集の中で既に報告済みである。

Ａ地区は、初め試掘トレンチを入れ遺構の残存状況の確認をした。その結果，南半部は既に通常の遺構検出面であるアカホヤ火山灰層まで攪乱や削平を受けていることが判明したため除外し、遺構及び包含層の確認された北半部とその北側下段の河川改修部分について面的調査を行った。また，Ａ地区東半部の発掘は，翌年，Ｂ地区の発掘に並行して行ったが，遺物の出土はごく少なく，谷地形を確認したにすぎない。Ａ地区北半部でも西側は，第２次大戦前後頃には小高い丘であったが，重機で押して平らにしたとの地区民の話通り，既にかなり削平を受けていた。しかし，中央の谷地形部分には黒色土包含層が残存し，その西方に周溝状遺構１基，北西方向に住居跡２軒がいずれもアカホヤ層上面で黒色土の落ち込みとして検出された。また，中央の浅い谷地形の黒色土を除去すると，北から南へ下る溝状遺構３条が検出された。周溝状遺構の南側では、精査の結果，掘立柱建物跡１棟が検出された。北側下段の河川改修部付近では、遺物は殆ど出土しなかったが，交差しあう溝状遺構数条と最近まで使用されていた水田跡が検出された。

Ｂ地区は，初年度，幹線道路建設予定地の北側の一部を試掘し，遺構を確認したため面的調査を行った。その後，遺構の広がりが予想された北側の畑地及び豚舎部分については，翌年調査を行った。また，南側については，初年度のうちに面的調査を行い溝状遺構３条を検出したが，こちらは遺物の出土も殆どみられなかった。北側は，表土下の黒色土層の残りが悪く，北端部付近のみ厚い堆積状況がみられた。黒色土の厚い部分は割合遺存状況が良好であったが、豚舎付近はアカホヤ層下まで削平を受けており，また，その南側はアカホヤ層まで深耕による影響がみられ，遺構上部の削平あるいは床面に達する攪乱などを受けていた。Ｂ地区では，先にあげた溝状遺構のほかに，この北半部で住居跡18軒，土壙１基，掘立柱建物跡５棟などを検出している。

なお，本報告では，以後，特に断らない限り，Ａ地区北半部とその北側下段の河川改修部分についてを「Ａ地区」，Ｂ地区北半部の遺構集中部分についてを「Ｂ地区」と呼称する。

（菅付　和樹）

第２節　遺跡の立地

学園都市遺跡群は加江田川と清武川に南北を挟まれて東へとのびる２本の丘陵上に点在している。このうち，南側の丘陵は西部の山地と南東部の丘陵地帯との間に広大な台地状の緩傾斜面が形成されている。熊野原遺跡は，この台地のほぼ中央に位置し，遺跡の西側から北東方向は小河川熊野川とその谷底低地に面している（第１図）。Ｃ地区が

やや台地の中央へ寄っているほかは，Ａ・Ｂ地区ともこの低地に面した比高差約1.5～4ｍの段丘上に立地している。調査時に観察された表土下の削平状況から推測すると，前述のとおりＡ地区の西側とＢ地区の東側，つまり中央付近は，当時やや小高くなっていたと思われ，遺構はその東側斜面と西側斜面とに営まれている。その間に遺構が存在したか否かは現在不明である。Ａ・Ｂ両地区は，その営まれた時期や地形上からみて一体性が強く，同一の遺跡と考えてよいと思われる。その点Ｃ地区は，地形上も隔たり時期的にも新しい住居跡群であるため，熊野原遺跡はＡ・Ｂ地区とＣ地区とに二分できると思われる。行政区分上はすべて宮崎市大字熊野字熊野原に含まれる。

Ａ・Ｂ地区の基本的な層序は，Ⅰ層表土，Ⅱ層黒（褐）色シルト質土，Ⅲ層赤褐色砂質土（アカホヤ火山灰層），Ⅳ層褐色（硬質）土，Ⅴ層明褐色粘質土で，学園都市遺跡群内の他の遺跡の基本層序とほぼ同じである。ただ，Ⅱ層は残存状況が悪く，遺構内及びその周辺と旧谷地形にみられるほか，Ｂ地区北端部でのみ厚い堆積状況が観察された。また，Ⅲ層は，同台地上南西約1㎞の平畑遺跡のものに比べると赤味が強い。

（菅付　和樹）

第３節　弥生時代の遺構と遺物

Ａ地区，Ｂ地区の順に遺構及び遺物の出土状況等を報告する。なお，住居一覧については表１を，また，個々の遺物については第18図～第43図，Fig．２，並びに表２・４を参照されたい。

１．住居跡

表１　Ａ・Ｂ地区住居跡一覧表

地区名	住居跡番号	形　態	規模 m	面　積 ㎡	中央空間 ㎡	間仕切られた空間 ㎡	主柱穴	突出壁	焼土面	掘り込み	備　考
A	ＳＡ１	方形	5.7×5.6	31.6			不明	4	0	0	
	ＳＡ２	方形	3.4×2.9	9.9			不明	0	6	2	
B	ＳＡ１	円形	6.5×6.3	32.1	13.6	18.5(2.6㎡×７)	4	7	1	4	
	ＳＡ２	方形+円形	6.4×5.6	29.2	5.4	23.8	4	4	1	1	
	ＳＡ３	方形	6.1×5.7	26.6			4	2	2	1	
	ＳＡ４	方形	7.0×6.0	38.8			4	1	4	2	
	ＳＡ５	方形	4.7×？	—			1＋α	1＋α	上部１ 床面１	0	
	ＳＡ６	方形	4.2×3.6	13.6			2	0	1	0	
	ＳＡ７	方形	4.6×4.5	18.3			2	2	0	1	有茎磨製石鏃
	ＳＡ８	円形	7.0×6.9	34.8	19.0	15.8(2.0㎡×８)	5	8	2	1	
	ＳＡ９	方形	3.6×？	—			2？	—	0	0	
	ＳＡ10	方形	4.8×4.4	18.9			2	1	0	2	
	ＳＡ11	方形	4.5×？	—			1＋α	1＋α	不明	2＋α	
	ＳＡ12	方形	4.8×4.1	16.2			2	0	0	1	磨製石鏃， ガラス製小玉
	ＳＡ13	方形	4.5×4.4	15.9			2	2	1	2	
	ＳＡ14	方形	3.3×？	—			2	—	0	1	
	ＳＡ15	方形？	2.1×？	—			—	—	—	—	
	ＳＡ16	方形	5.3×4.4	21.2			2	1	1	1	
	ＳＡ17	方形？	？	—			—	—	不明	不明	
	ＳＡ18	方形	5.5×5.0	25.3			2	1＋α	1	1	

A地区（第3図）

SA1（第5図，図版1・3）

周囲のぼんやりした黒色土の落ち込みとして検出された。残存状況は割合良好と思われる。検出時の黒色土の堆積状況からみて掘り込み面は黒色土下部であろう。検出面からの深さは壁際で約30cm前後，中央に向かってゆるやかに深くなり中央で約40数cmある。床面は固くなく貼床はみられない。床面中央部には約5cmの厚さで灰が堆積していたが，掘り込み，焼土面等は確認できなかった。また，床面を精査したにもかかわらず柱穴は検出できなかった。東西の壁の中央に各1箇所，南壁の張り出し部分を挟んで両側に2箇所，突出壁と思われる硬いブロック状のⅢ層下部～Ⅳ層を掘り残した部分が確認できたが，調査中にあやまって削り取られてしまった。図中の破線はその推定復元範囲である。

遺物は中央空間に多く出土し壁際は少ない。遺物の全体量は多くないが，各器種から主なものを図化した（第18図）。出土傾向としては，甕形土器が少なく，壺形土器の小型のものは長頸，算盤玉状の胴部を持ち，高坏・器台が殆どみられなかった。1・2の甕形土器は中央北壁よりに，3～5の壺形土器は南壁西側の突出壁付近に出土している。また，7・8の鉢形土器は東壁突出壁の両側で，6の線刻絵画文のある小型長頸壺形土器は南西隅で出土している。絵画文は磨耗が激しく全体像は捕らえにくいが，双葉のような文様と渦巻き文，不明な線刻及び平行3本沈線文などが肩部を巡り，頸部には1条の沈線が巡るようである。

SA2（第5図，図版1）

かなり削平を受けた状態で検出された。遺物量はごく少なく，弥生土器片が少量出土したほかは中央部東西方向に炭化材片が散乱，そして小さな焼土面も同様の範囲の各所に観察された。土器片はいずれも小片で図化にたえるものではなかった。床面は割合平坦で中央部に浅い掘り込みがあるほかは柱穴等検出できなかった。

B地区（第4図）

SA1（第6図，図版6）

上部は削平され深耕により床面にいたる攪乱を受けていた。また，東側の1/5強の壁面も攪乱されている。突出壁は40～50cm幅で1m前後の長さ掘り残されている。この壁によって区画された空間は7箇所で平面プランはいわゆる“花弁状”を呈する。柱穴と突出壁との対応関係は希薄である。中央には2箇所の掘り込みがあり，そのうちのひとつは北側に焼土面がみられる。遺構全体の平面プランは正円ではなく規格性に乏しい。より中央空間の方が正円には近い。

遺構が床面に達する溝状の攪乱を受けていたため遺物の出土状態も安定しているとは考えがたいが，中央空間南東及び北西側，中央焼土面付近，北東側間仕切り部分で多く出土している。しかし，図化にたえる遺物は少ない（第20図）。30は完形に近い壺形土器で中央部掘り込み付近出土。31は長短2本の弧を描く線刻記号文のある壺形土器片で西側突出壁先端のやや南側で出土している。

SA2（第7図，図版6）

遺構検出面の攪乱が著しいためアカホヤの残り具合によって平面プランを確認した。北西及び南西側は直線的な壁面を有し，他の壁面はそれぞれは直線的ながら全体としては弧状を呈する方円折衷的な平面プランの住居跡である。突出壁はA地区SA1類似の配置がなされ，北東と南西の壁面中央に各1箇所，その南東側壁面に2箇所あり，北西側壁面にはみられない。また，南東壁面の突出壁の幅は先細りとなっていて他とは異なっている。掘り込みは南東側間仕切り部近くにみられる。柱穴は北東及び東側の突出壁先端に対応して各1個，ほかは通路確保のためか中央寄りに掘り込まれている。西側の柱穴付近には焼土面がみられる。

遺物は全面に出土しているが，特に掘り込み北西壁周辺に集中している。第20図47・54・55の鉢形土器や高坏・ミ

ニチュアの器台などは掘り込み付近で出土し，52・53の高坏は北東部突出壁の両側の空間で出土している。また，46は肩部に５条の細沈線と重弧文が線刻されている壺形土器で南西側間仕切り部を中心に出土している。しかし，甕形土器については殆ど出土をみない。

ＳＡ３（第７図，図版７）

南東～南側壁付近はかなり削平されている。突出壁は方形プランの東西両壁中央付近に各１箇所掘り残されている。遺存状況の良い西側の突出壁は，幅50cm，長さ130㎝を測る。柱穴に挟まれた中央部には浅い掘り込み及び焼土を伴う浅い掘り込み，その北側には焼土の堆積が検出されている。

遺物（第20図～第21図）は全面的に出土しているが，中央部に多く，特に柱間の浅い掘り込みと焼土の付近に集中している。甕形土器片はごく少ない。西側突出壁の北側の付け根付近では大型の高坏66が完形のまま押し潰れた状態で出土している。壺形土器56は南壁西側の壁際で出土した。

ＳＡ４（第８図，図版８）

検出時はＳＡ５同様ボーリング調査の際に捨てられたヘドロの堆積がみられ，相当攪乱を受けていると考えられた。しかし，攪乱は西側の埋土上部にとどまり，検出面からの深さは壁際で20～40cmを測る。床面は割合平坦である。床面中央には柱穴に挟まれて方形の掘り込みがあり，その南側にも浅い不定形の掘り込みがある。方形の掘り込みの方はプランも深さもしっかりしており，２箇所に床面上からの焼土の流れ込みがみられる。また，このほかにも西壁寄りと北東隅側に焼土や灰の堆積がみられる。突出壁は東壁にのみ１箇所みられ，幅約40cm，先細りの先端部は傾斜面となっている。

遺物（第21図～第23図）は北西～北側が希薄なほかは，ほぼ全面に出土している。特に，中央の柱穴で囲まれた範囲とその南側，そして突出壁の周辺に多い。甕形土器片は中央部に多く，壺形土器片は不定形掘り込みの南東側に比較的多い。また，肩部に９（＋α）条の線刻が巡る83は突出壁先端の北西側付近に，波状の線刻文のある86は南西側壁際に，逆「つ」字状線刻文のある87は中央方形掘り込みの北東縁に，下向きの３重弧線刻文のある88は突出壁先端の南側に出土している。鉢形土器は全面に，高坏106と器台109は線刻壺83と同じく突出壁先端北西側付近に出土している。ミニチュアの鉢形土器103は南西隅の壁際で出土している。

ＳＡ５（第８図，図版９）

遺構の半分以上を数十年前の天然ガスボーリング調査によるヘドロ処理用の穴で破壊されている。また，上部も削平を受けていると思われる。平面プランはＳＡ７と同タイプと推定され，北東壁中央に幅50～60cm，長さ120㎝の突出壁が，その先端部近くに柱穴が１箇所検出された。この柱穴の約10cm西側の床面には焼土面が確認されているが，焼土面は突出壁北側の埋土上部でも検出されている。埋土に埋め戻したような状況は観察されていないので，ある程度自然埋没した段階でこの焼土は形成されたものと考えられる。残存している床面には掘り込み等検出されていない。

遺物は壁際を除いてほぼ全面に出土している。しかし，中央部の南北方向に出土量が希薄な所があり，ここを境に東西２箇所に遺物の集中している状況が観察できる。遺物は完形に近いものが重なるように出土した。Fig．1 はその上部面での出土状況である。半壊されているため遺物の全体像は不明だが，器種は甕形土器が最も多く，ついで壺形土器，鉢形土器と高坏はずっと少なく ⅕ 以下の出土量を示す。 今回は図化できる土器のうち半数に満たない数の土器しか掲載できなかった（第23図～第31図）。遺物の出土状況は前述したとおり東西に二分できるが， 122の甕形土器が両方をまたいで接合できるほかは殆ど東西それぞれの範囲内で接合できる。その内訳は， 111～113， 115～117， 119～125， 127～132， 134の甕形土器が東側で， 114， 118， 113の甕形土器が西側で出土している。また，先の122は東側を中心に西側の希薄部付近でも出土している。中・小型の甕形土器は圧倒的に東側に多い。頸部に突帯の巡る大型の甕形土器は， 135・136が西側で出土しているほか，東側突出壁先端南側に１点，北壁東側の

Fig.1　SA 5　遺物出土状況実測図

中央付近に刻み突帯の巡るものが1点出土している。大型の壺形土器は137・138が西側，二重口縁のものでは139・141が東側，140が西側の希薄部分に近い所で出土している。中・小型の壺形土器では小さな平底を持つ142・143，短頸または無頸壺の154・155などは東側出土で，145～148，152及び二重口縁の150は西側，151は東側出土である。鉢形土器は156が西側のほか，157～161など大半は東側出土である。高坏は坏部の深い162・163とやや浅い164が東側，165が西側で出土している。大型器台は166が西側端部で，167が東側の西端部中央付近で出土している。土器観察表を若干補えば，121の甕形土器は口縁部から頸部にかけてハケメ原体の上側面側を強く押し付けることによってハケメの端部が浅い沈線状になり装飾効果をあげている。141の壺形土器は，図には表現されていないが，部分的に肩部から胴部に及ぶ縦方向のヘラミガキがみられる。また，153の壺形土器は肩部の線刻文のほかに頸部にも2条の沈線が巡っている。このほか，壺形土器から貝類が出土している（図版13）。

ＳＡ６（第９図，図版10）

平面プランは方形を呈し，突出壁はみられない。中央に2個の柱穴，その北側に焼土面が検出されている。掘り込みはみられない。南西隅と北西隅の壁面は攪乱を受けている。

遺物の出土量は多くない（第31図～第32図）。中央の柱穴間及びその南側を中心に出土している。甕形土器は168が西側の柱穴付近，170が焼土面北東付近，169と線刻のある壺形土器173，そして，鉢形土器が柱穴南側の遺物の集中している所，ミニチュアの鉢形土器181が焼土面の西側1ｍに出土している。

ＳＡ７（第９図，図版10）

ＳＡ６とともに黒色土の堆積した掘り込みとして検出された。初め，南壁付近に試掘トレンチを入れ，壁面及び床

面を確認した。平面プランは方形で，東西両壁中央部に幅60～40cm，長さ約120cmの先細りで先端のなだらかな突出壁を有する。柱穴は突出壁先端よりやや南側に各1個検出され，柱穴の南側には略方形の掘り込みがある。焼土面はみられない。

遺物の出土量は少ない（第32図）。頸部に突帯の巡る大型の壺形土器184は西壁突出壁先端のやや北寄りに出土。182・186・187などは北側空間の中央部で，188・189の高坏は東側突出壁の先端部から中央，南側掘り込み付近にかけて出土している。また，このほか試掘トレンチを入れた時に略方形掘り込みの周辺で有茎磨製石鏃（第45図10，図版13）が出土している。これは，全面に研磨痕が残るが，茎の片側の少し欠けている部分には研磨痕は観察されない。

ＳＡ８（第10図，図版11）

埋土上部は黒色土と黒褐色土との攪乱（耕作によるものか）で，下部はアカホヤ粒を含んだ暗褐色砂質土，壁際はこれにアカホヤ層のブロックが混じっている。遺構は，８箇所の突出壁によって８箇所に区画された空間を持ついわゆる“花弁状住居”で円形の平面プランを呈する。区画された個々の空間の外壁は緩やかな弧状であるが，遺構全体としては正円ではなく規格性に乏しい。北側と東側の壁の一部は攪乱のため不明瞭である。また，北東側の間仕切り部分は当初からアカホヤ塊混じりの凹凸の激しい床面であり，浅くなっている。中央空間には５個の柱穴と円形の掘り込みが検出され，掘り込みの南西側の柱穴間は他の柱穴間より若干広くなっている。焼土面は，西側の柱穴の間と北側の床面の２箇所に検出された。

遺物の出土量は比較的多い（第32図～第33図）。その分布状況は、中央空間に多く，間仕切り部分の方は割合少ない。また，前述の北東側間仕切り部分からは全く出土していない。中央空間では，中央部東西方向により多く，区画された空間では南西側間仕切り部分により多く出土している。甕形土器191・193は西側焼土付近で、 190は南西側間仕切り部，192・194は東側間仕切り部で出土している。壺形土器195～197は西側焼土の西～北側の一帯に出土し，鉢形土器は甕形土器と同様の出土傾向を示す。高坏及び器台は、203・204が北東側柱穴付近， 205が円形掘り込みの西側付近，206が円形掘り込み内及び東側間仕切り部を中心に出土している。

ＳＡ９（第10図，図版11）

遺構は柱穴の南側付近から北側全部が破壊され，わずかに遺存していた。柱穴は上部を削平された状態で検出できた。平面プランはＳＡ６と同タイプになると推定される。突出壁，掘り込み，焼土面等は確認されていない。

遺物は小片がごく少量出土したにすぎない。Fig．２ （表２）はその主なものである。南壁から柱穴の間に分布している。

（菅付　和樹）

表２．Ｂ地区ＳＡ９出土土器観察表

遺物番号	器形	部位	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
			外面	内面		外面	内面		
1	甕	口縁部	口縁部　よこナデ 胴部上半　ハケメ	口縁部　ハケメのあとナデ 胴部上半　ナデ	良好	浅黄橙色 (10YR8/3)	淡黄色 (2.5Y 8/3)	1～3ミリの砂粒を含む	外面スス付着 風化
2	壺	口縁部～頸部	口縁部　よこナデ 頸部　ハケメ	よこナデ	良好	浅黄橙色 (10YR8/3))	浅黄橙色 (10YR8/3)	1～4ミリの砂粒を多く含む	
3	壺	口縁部～肩部	ハケメ	口縁部　よこナデ 頸部　ナデ	良好	淡黄色 (2.5Y8/3)	淡黄色 (2.5Y 8/3)	1～4ミリの砂粒を多く含む	
4	高坏	脚部	たてヘラミガキ・よこヘラミガキ 端部　よこナデ	よこナデ	良好	淡黄色 (2.5Y 8/3)	淡黄色 (2.5Y 8/3)	1ミリの砂粒を含む	
5	鉢	口縁部～胴部	ハケメのあと よこナデ	口縁部　ハケメ 胴部　たてナデ	良好	浅黄橙色 (10YR8/4)	灰色 (7.5Y 5/1)	1～3ミリの砂粒を多く含む	

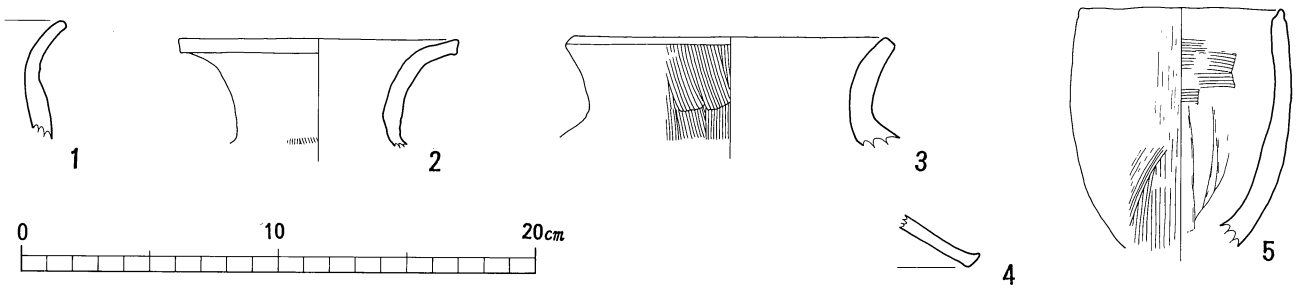


Fig.2 ＳＡ９出土土器実測図

ＳＡ10（第11図，第34図208～213，図版14）

東壁中央に１箇所内側に突出する部分をもつ住居跡である。検出面からの深さは南側で20cm，北側で約40cmを測る。突出部に平行して２本の柱穴があり，床面からの深さは約60cmである。住居中央南には不定形の掘り込みがある。その掘り込みと南壁の間には径約60cmの凹みを検出し，壁面には一部壁帯溝が巡る。焼土については確認できなかった。遺構検出面での突出部の存在は確認できず，発掘途中で検出した。残存する突出部は地山を掘り残したもので壁より約１m 内側に張り出し，幅は45cmほどで先端は丸い。土層断面で観察すると，突出部の高さは検出面の壁より10cmほどなだらかに傾斜し，その上部には住居内全体にみられる黒褐色土が堆積している。このことから「土壁」としての機能は考えられない。

遺物は床面を中心に破片として散逸した状況で出土しているため，図示できるものは少なかった。高坏，器台などの器種はまったくみられず，甕の胴部片も数点出土しただけ，他の住居と出土状況や器種構成に違いがみられる。

ＳＡ11（第11図，第35図214～217，図版15）

攪乱がアカホヤ層下の褐色土までおよび，住居の残存状態は良好でなかった。また西側半分には豚舎が立ち，発掘することができなかった。検出面は自ずから褐色土となり，住居の深さは約10cmしかなく，遺物も柱穴など床面に掘り込まれた遺構内からしか出土してない。このことからも弥生時代にはこの周辺は現在より約１m ほど高かったことが窺える。住居は東壁ほぼ中央に突出部をもつ方形を基調としている。突出部は長さ約１m，幅付け根部で60cm，先端部で約40cmを測り，先端はやや丸味をおびるものの，型崩れしている。突出部先端近くに切り合った状態で２個の柱穴がみられ，建て替えが行われたと考えられる。柱穴は東側の方が新しく，216の壺形土器がほぼ完形で出土している。また，突出部を境に南北の広い空間に径約60cmの掘り込みがあり，北側のからは 217 の鉢形土器が出土している。豚舎移転後，その下を精査したが遺構は確認できなかった。

ＳＡ12（第12図，第34図218・219，第35～38図，第45図１，図版15，16）

方形の住居跡で柱穴を２個検出し，南壁ほぼ中央の床面には径85cmの掘り込みがある。検出面からの深さは南側で40cm，北側で20cmを測る。南西隅には地山が掘り残された高まりがあり，壁面から内側に向かって傾斜している。また，南壁の西側部分は長さ40cm，幅約70cm，深さ10cmほど外側に広げられ，その部分から遺物も出土している。遺物は西壁中央よりやや南側と北西隅に多量の完形土器が重なり合い廃棄された状態で検出されたが，両者の土器の接合関係はみられない。これらの土器群は断面で観察すると壁面近くからレンズ状に出土し，この住居が廃絶されある程度土が堆積した後，廃棄されたと考えられる。それとは別に住居中央や東壁近くにほぼ完形で出土した遺物があり，これらの土器が住居に伴うものとして捉えられるかもしれない。

出土遺物は甕が最も多く，壺，高坏，鉢，器台の順で，図示したものは半数程度である。甕は土器溜りから出土したものがほとんどである。くの字口縁のものやくの字が崩れ滑らかに立ち上がるものなどあり時期差が感じられる。壺も甕と同様に底部が平底や丸底，乳房状のものがみられ時期差があるようだ。また，外面に複数の直線文や弧を描

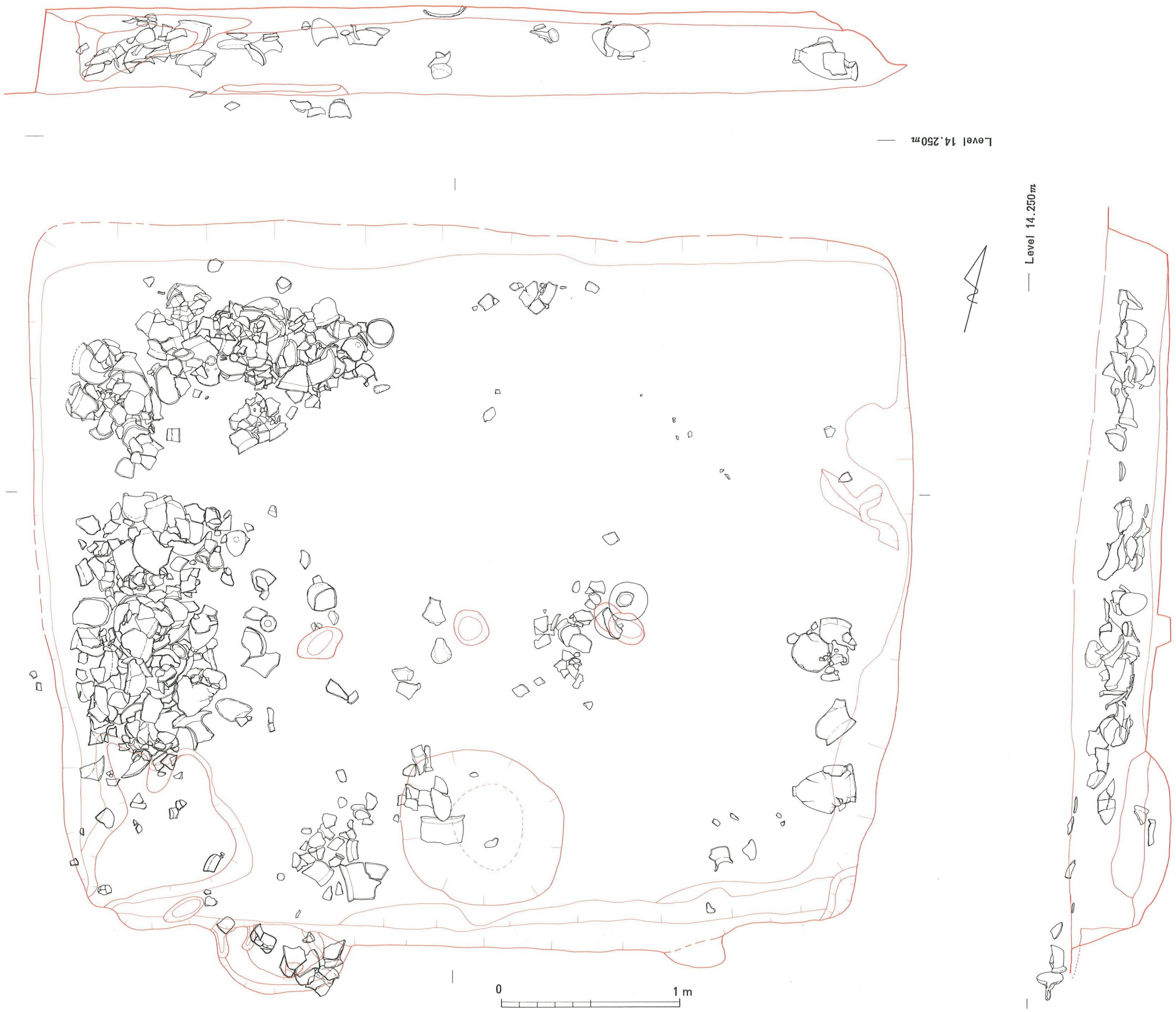


Fig.3　ＳＡ12　遺物出土状況実測図

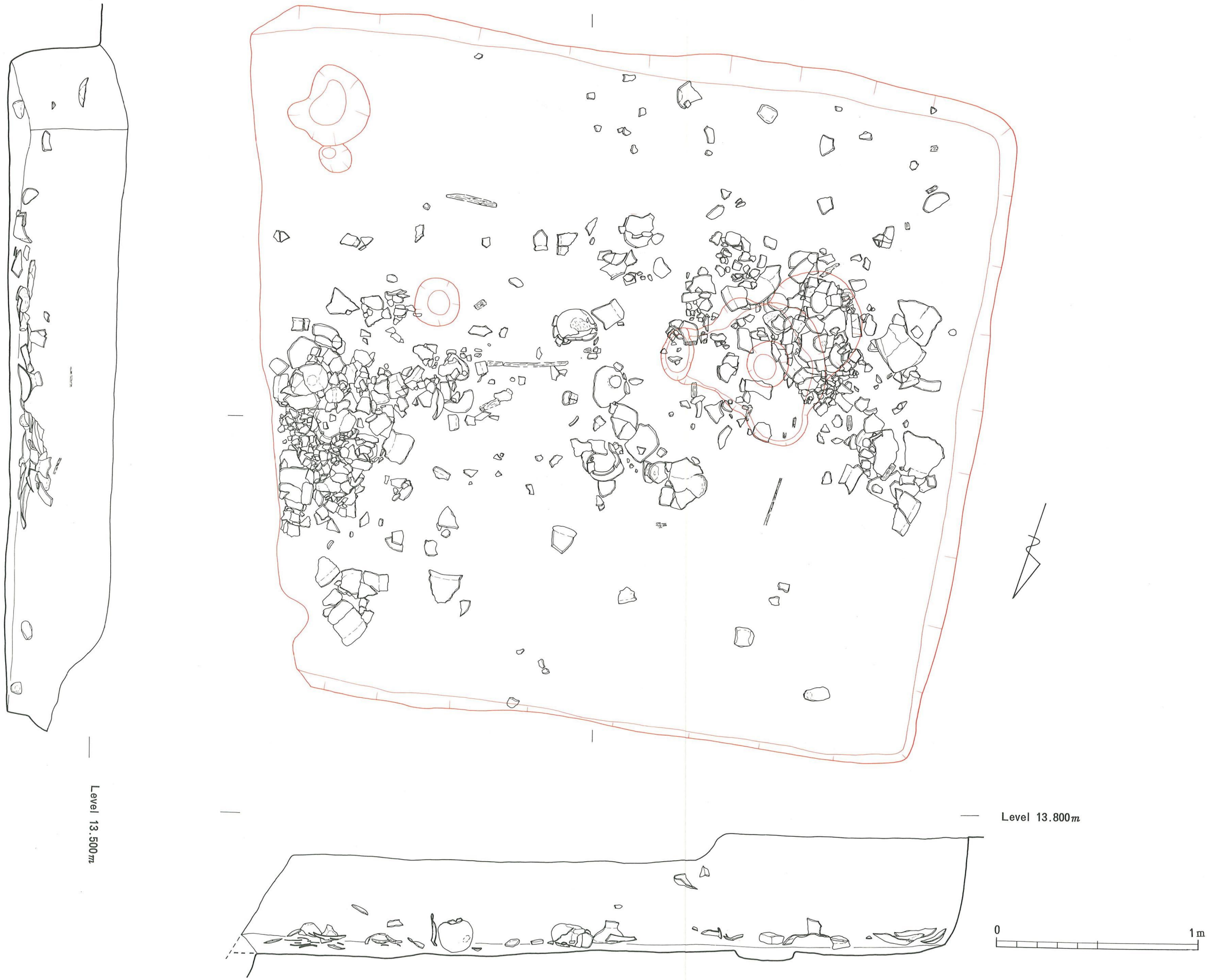


Fig.4　ＳＡ14　遺物出土状況実測図

くもの，波状のものなど線刻が施されるものもある。特に,241は頸部下に下向きの重弧文と沈線がヘラ状の工具によって施される。線刻は全て記号文でA地区で出土したような絵画文はみられない。他に 240のような大型のものも出土している。高坏は 244のように坏部がやや内湾し屈曲部から強く外反するタイプと24のような坏部が直線的にのび屈曲部からやや外反するタイプとに分かれる。前者の脚部は厚手で細く，後者は薄手で比較的太い。坏部と脚部の接合は両者とも差し込み方式である。 246の器台はくびれるが上方にあり口縁部が垂直に拡張される。また，床面直上からガラス製の小玉１個が出土した。石器では磨石，凹石，軽石製石器のほかに磨製石鏃が破片を含めて３本出土している。（Fig.3）

ＳＡ13（第12図，第39図247～249，図版17）

ＳＡ11同様アカホヤ層下の褐色土面からの検であるため遺構の残存状況は悪い。検出面からの住居の深さは約５cmで，床面は張り床である。東壁と西壁に突出部もち，それに対応して２個の柱穴がみられ，床面からの深さは約60cmを測る。壁面に沿って壁帯溝が途切れながら巡る。焼土は住居中央よりやや北側に南北 120cm，東西60cmの範囲で確認できた。その下は60cm，40cmの楕円形に掘り込まれ底の部分は焼けて固くなっていた。それに伴い炭化物も南北方向に長く広がっている。東側の突出部は長さ 110cm，幅70cm，西側の突出部は長さ 110cm，幅は付け根付近では 120cm，先端では65cmを測る。突出部と柱穴との間は10cmと非常に狭い。二つの突出部で区切られた南側空間のほぼ中央には径70cm，深さ20cmの掘り込みがあり,247～ 249の土器が出土している。床面からは削平を辛うじて逃れた甕や壺，高坏などの破片が少量出土しただけであった。 247は長頸壺で外面はヘラ磨きが施される。 249の高坏は坏部は直線的にのび，屈曲部から外反し口縁端部は丸味をおびる。脚部は高く，下半に円形の透かしが施される。全体的に厚手である。

ＳＡ14（第13図，第39図250～253，第40・41図，第45図，図版18）

発掘区の北東隅に位置し，東側は河川改修に伴う仮設道路によって削平されている。北側は河川改修が行われたが，辛うじて壁の立ち上がり部分が残されていた。検出面からの深さは南側で45cm，北側で15cmを測る。柱穴は２個検出したが，焼土は確認できなかった。遺物は殆ど床面から10cmほど上層で出土し，分布状況は東側と西壁の周辺に集中し中央部は比較的少ない。接合関係は東側と中央部から西壁に分布する遺物とに分かれる。前者には250，252，265，267，268，270 などが，後者にはそれ以外のものが含まれる。この二つの分布・接合状況において土器形態に違いがみられ時期差か，同時期内のバリエーションと考えられる。ほとんど床面よりやや上層から出土し,住居に伴うかどうかは疑問があり前者の可能性が高いが，それほどの時間差はないと思われる。

図示した土器は出土遺物の半数ほどで，出土量は甕が最も多く，次に壺，高坏，鉢の順で器台は出土していない。甕はくの字口縁，底部はあげ底で外方へつまみ出される特徴をもち，胴部があまり張らないものと胴部上半が口径を大きく上回るぐらい異常に張り出すものの二種類がある。壺は平底のものと丸底のものとがある。 261は底部に２本の線刻が,262は壺の肩部と思われる場所に重弧文と沈線が施されている。高坏は坏部が浅く，屈曲部から長く外反してのびる口縁をもつもの（263～265）や坏部がやや深く屈曲部から短くのびる口縁をもつもの（266・267）などある。石器は少なく磨石が１点出土しているだけである。（Fig． 4）

ＳＡ15

昭和57年度調査の際には排土の下になっていた部分に位置し，昭和58年度豚舎東側を調査時に確認した。しかし，大部分削平を受け薄く輪郭が認められただけで，遺物については不明である。

ＳＡ16（第13図，第42図275～277）

南西隅を後世の攪乱によって消失しているが，長方形を基調とし短辺である東壁が１箇所内側に張り出す形態の住居跡である。この突出部は遺構検出面で確認でき， 長さ80cm， 幅55cm， 高さ20cmを測る。突出部の延長に２個の

柱穴があり，床面からの深さは約60cmである。また，突出部と東側柱穴との長さは50cm，２個の柱穴間の距離は190cmである。床面南よりのところには径1.3ｍの落ち込みがあるが，遺物が集中しているとか，焼けているなどといった特徴は認められなかった。遺物は破片が多く大部分は南側に分布していた。出土遺物のうち275の器台が西壁中央付近の床面から出土しているだけで，他は上～中位にかけて出土した。

ＳＡ17（第14図，第42図278～280）

北側と西側がすでに土取りや河川改修によって削平されていて住居の規模や形態は不明である。検出面からの深さは約20cmで，柱穴や焼土は確認できなかった。遺物は少ないがほとんど床面から検出し，279の甕北西隅に，278の壺はほぼ中央に，280と281は同一個体と思われ南西隅からそれぞれ出土している。 279の甕は口径45cmと大型で頸部には刻み目突帯を有しＳＡ５出土の甕に類似している。280と281の高坏は坏部は薄手で屈曲部から口縁までが長い。坏部と脚部の接合は，中空の脚部を坏部に差し込んだ後粘土を充填している。

ＳＡ18（第14図，第42図282・283，第43図）

東側は後世の攪乱を受けている。残存状況では西壁中央に張り出しをもち，その延長上に２個の柱穴がある。検出面からの深さは約20cm，突出部の長さは110cm，幅は付け根部分で55cm，先端で35cmを測る。また，他の住居跡をみた場合突出部が東西あるいは東に設けられていることからすれば，攪乱を受けている東壁にもあった可能性がある。突出部の延長上に２個の柱穴があり，突出部と西側柱穴との間の長さは80cm，柱穴間の距離は170cmである。床面中央のやや北には焼土を検出した。焼土と反対側の南には不定形で深さ約10cmの掘り込みがある。遺物は住居内全体から出土しているが，どちらかといえば突出部より南に多くみられる。283の壺は突出部のすぐ南の西壁のところにまとまった状態で，282は北西隅の１ｍの範囲から，284は南東隅から，288は南西隅より南壁に沿って１ｍほど東にいったところから出土し，これらの遺物はほとんど壁面近くに分布している。これに対し，前述した遺物以外は住居全体の遺物と接合関係を示し，それはすべて南北に分布しているものとの接合である。

遺物の特徴は次のとおりである。 283は長胴の壺で胴部上半には「×」，下半には３本の線刻が施されている。284は複合口縁壺で拡張部に櫛描波状文がみられる。拡張部は擬口縁の口唇部から貼り付けられていて薄手である。また，頸部は明瞭な稜をもち厚手である。高坏は288と290の二つのタイプのものがある。前者は坏部がやや内湾しながらのびて屈曲し，脚部は比較的高く二段に円形の透しがある。脚部と坏部は粘土を充填することによって接合される。後者は坏部はやや外反しながらのび屈曲部から直線的に短く口縁にいたる。脚部は前者に比べ低く，坏部に脚部を差し込んで接合されている。

（谷口　武範）

２．周溝状遺構（第６図，図版２・３）

Ａ地区で検出された。当初，“方形周溝基“ として概要報告したものであるが，黒色土層下部から検出されたにもかかわらず，中央部その他に当然アカホヤ層に達しているべき土壙等の掘り込みがみられなかったこと，昭和60年に報告された熊野原遺跡Ｃ地区をはじめとして住居跡群に近接する周溝状遺構（中央に土壙がなく溝が一周巡っているだけのもの）の存在が各地で確認されるようになったことなどから今回新たに“周溝状遺構“ として報告する。

遺構はＡ地区ＳＡ１の南南西約10m，ＳＡ２の南東約８ｍに位置する。平面プランは北東側が半円形，南西側が隅丸方形の方円折衷形を呈し，北東～南西方向に長軸を有する。周溝はⅣ層まで掘り込まれ，検出面での幅80～90cm，底面幅60～70cmを測る。全体に南東～東側が低く，旧谷地形の方へ傾斜している。溝に囲まれた中央部は割合平坦で土壙等はみられない。その他の掘り込み，焼土面等も確認されていない。

遺物（第18図～第19図）は周溝及びその周辺から出土している。周溝出土の遺物では，北側の上位に土器片が出土したが，いずれも小片である。下部の遺物は南東側の溝に集中している。その分布状況はFig.5に示したが，東端では線刻絵画文のある壺形土器18が出土，二重口縁部に沈線の巡る壺形土器17及び図化しなかったがその他の壺形土器

・甕形土器がその西側に出土，少し間をおいて鉢形土器15や甕形土器12などが出土し，その西側には突帯をもつ大型の甕形土器13が広く散乱した状況で出土している。この13の西端上部には線刻絵画文のある壺形土器19が出土し，その西に10・11の甕形土器，周溝の角に鉢形土器14が出土している。また，北西側の角では高坏脚部片16が出土している。中央部東側では上位で凹石26が出土している。（菅付　和樹）

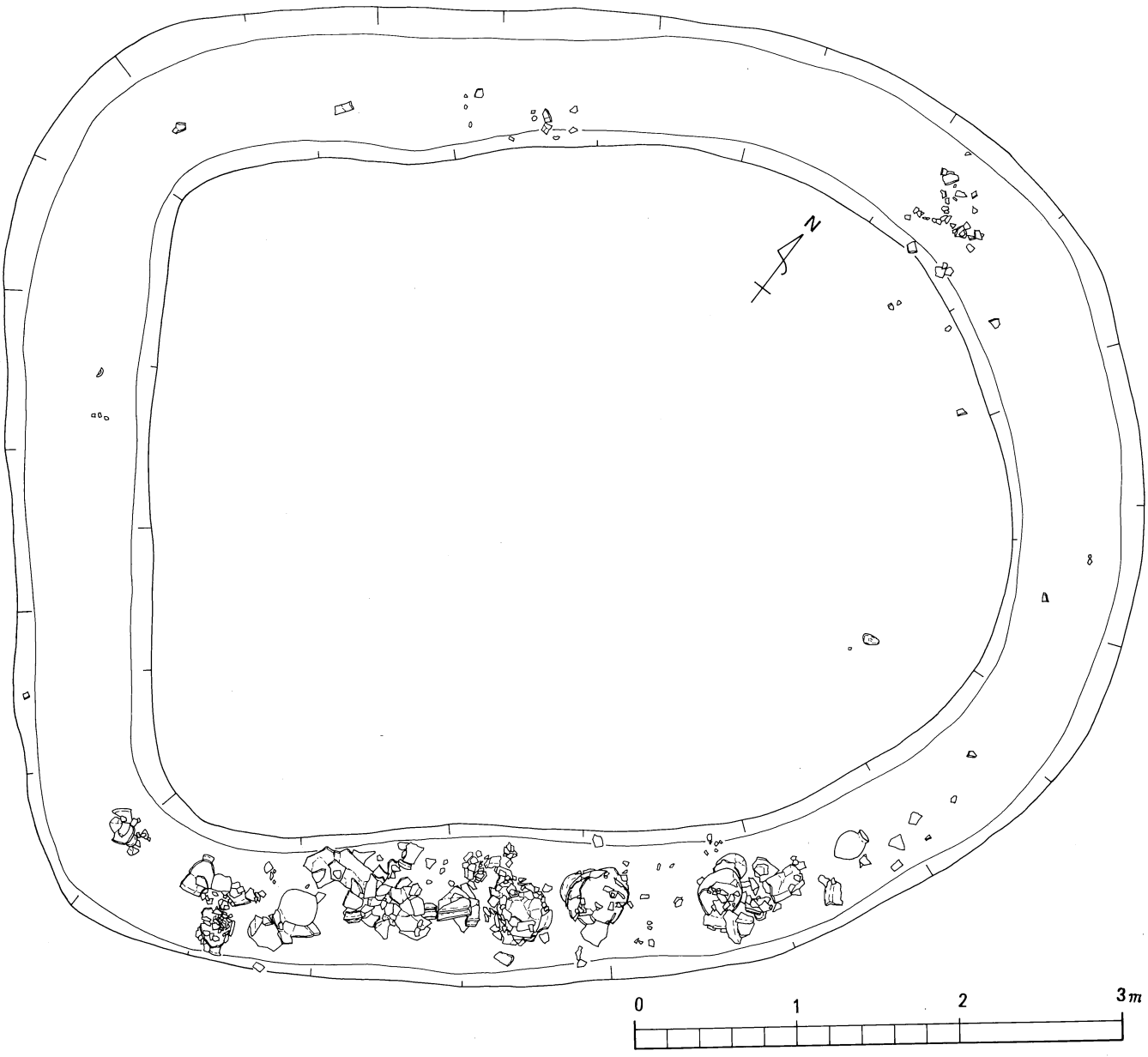


Fig. 5　周溝状遺構遺物出土状況実測図

第４節　その他の遺構と遺物

１．土　　壙

ＳＣ１（第10図，図版12）

Ｂ地区ＳＡ８の東側，ＳＡ３の北側で検出した。Ｂ地区の弥生時代の住居跡群の中にあって切り合いもなく検出されているが，出土遺物は土師器である。平面プランは隅丸長方形。北東～南西方向に長軸を有し，335cm×260cmを測

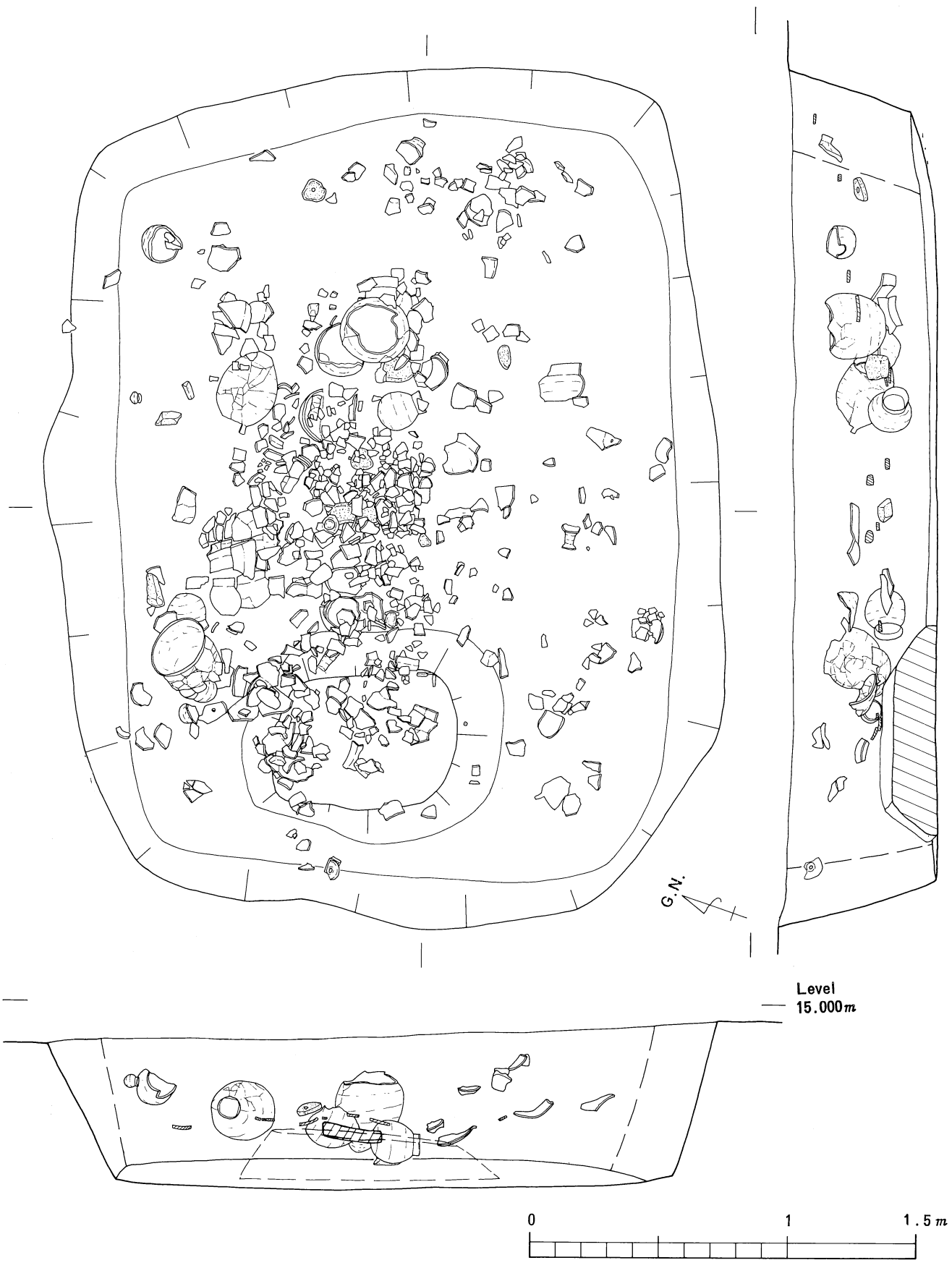


Fig. 6　SC1　遺物出土状況実測図

る。検出面からの深さは北東側壁際で約50cm，南西側及び南東側壁際で約60cm，北西側壁際で約55cmを測る。土壙内には掘り込み等検出されなかったが，南西側壁面近くに直径1cm前後の小さな軽石と焼土を多量に含んだ土塊が検出され，床面近くまで堆積していた。

遺物の出土状況はFig．6のとおりである。完形または完形に近いものが多数出土している。遺物は主軸線より北側に多く，中央に集中している。各器種から主なものを図化した（第44図）。このうち，291・292は土塊の北側，293は北東隅壁近く，294・295・298は土塊の東側中央部付近で出土している。また，296・297・300などは主軸線上東側中央部付近，299は土塊の北北東壁際付近で出土している。そのほか，299と土塊との間に302が，主軸南側中央に304が，295などと同じく土塊東側中央部に306が，その東側297などと同位置付近に305が出土している。ミニチュアの303は北壁中央東寄りの位置に出土している。これらの土器は，中央部出土のものは土塊上面と同じかそれに近いレベルで出土し，壁際のものはそれより高いレベルで出土している。また，完形土器は殆どが横倒位である。

土器以外の遺物では，第45図16の軽石製品が北東壁中央付近で，2～9の玉類（図版13）が土塊の南縁付近で出土している。

2．掘立柱建物跡（第2図，第15図～第17図）

熊野原遺跡A・B地区では，A地区で1棟，B地区で5棟の掘立柱建物跡が検出されている。その規模，主軸方向等については表3に示したとおりである。掘立柱建物跡の柱穴以外にA地区では周溝状遺構の南側にピットが数十個検出された。そのうち，南西側の4個のピットはほぼ6.2～6.8m間隔で直線上に並ぶが性格は不明である。また，B地区ではSB5の北側に数個のピットが検出されている。両地区とも掘立柱建物跡の上層に包含層はなく，柱穴からも遺物は出土していないため，時期を特定できない。ただ，A地区では東側の旧谷地形の黒色土層及び溝状遺構の一部から，また，北側下段の河川改修部付近から中世の遺物が出土していること（第19図20～24，表5），B地区では表土除去中に中世の土師器片や土錘がみられたこと，そして，学園都市遺跡群内では現在までに弥生時代の掘立柱建物跡が検出されていないことなどから，この両地区の掘立柱建物跡も中世に営まれたものと推定される。これらの掘立柱建物跡は主軸方向からみると，A地区SB1とB地区SB3が他と異なるほかは，B地区SB1・SB4・SB5はほぼ同方向，SB2はそれに直交方向と大まかな規則性がみられる。規模からは，A地区SB1・B地区SB1，SB2・SB5，SB3・SB4がそれぞれ近似値を示すが全く同規模のものはない。

3．溝状遺構

A地区南東側旧谷地形で3条，北側下段河川改修部付近で7条検出された（第3図参照）。また，B地区南側でも

表3．掘立柱建物跡一覧表

地区名	建物番号	柱間	桁行(m)	梁行(m)	柱間寸法 桁行(m)	柱間寸法 梁行(m)	主軸方向	備考
A	SB1	3間×1間	5.4	3.5	1.8	3.5	N27° W	
B	SB1	3間×1間	5.1	3.4	1.7	3.4	N69° E	
〃	SB2	3間×2間	4.4	3.2	1.5	1.6	N16.5° W	
〃	SB3	3間×2間	5.7	3.2	1.9	1.6	N69° E	
〃	SB4	3間×1間	6.1	3.2	2.0	3.2	N73° E	
〃	SB5	(2+α)間×1間	—	3.2	1.4	3.2	N72° E	建物規模不明

3条検出されたが，こちらは遺構に伴う遺物も包含層もなく，その性格や時期等については不明である。A地区南東部の溝状遺構は南側の谷地形の方へ傾斜しており，掘り込みはⅢ層またはⅣ層に及んでいる。出土遺物は殆どない（第19図）が，SE2では弥生土器，須恵器片及び土師器小皿20と青磁碗片23・24が出土している。また，北側下段の河川改修部付近では土師器小皿21・22などのほかに目立った遺物もみられないため，これら溝状遺構は中世に営まれた可能性が大きい。

（菅付　和樹）

第5節　まとめ

学園都市遺跡群の各遺跡は，当初，それぞれ番号で呼び分けられていた。当熊野原遺跡はそのうちの14号地遺跡とされていたもので，後に字名を取って現在の名称にかえられている。今回報告したのは，この熊野原遺跡のA・B地区についてである。なお，前述のとおり，C地区は既に報告ずみ(1)である。

A・B地区の調査結果をまとめると次のとおりである。

A・B両地区は，遺跡の営まれた時期や立地等からみて同一の遺跡として把握できる。その点，C地区は，時期的立地的にもA・B地区とは別の遺跡として把握されよう。

検出された遺構は弥生時代の竪穴住居跡20軒、周溝状遺構1基，古墳時代の土壙1基，中世と推定される掘立柱建物跡6棟，溝状遺構13条などである。

弥生時代の竪穴住居跡は，基本的には平面プラン円形，方形，両者折衷様の3種が検出された(2)。その内訳は円形2軒，方形17軒、折衷様1軒である。そのうち突出壁を有するもの（竪穴を掘る段階で居住空間内部へ突出した固定的な障壁として壁の一部を掘り残すもの）は13軒（約65%）検出されている。これらはいずれも切り合いがなく，しかもB地区では約1600㎡という狭い範囲に集中して検出されている。柱穴は不明なものを除き，一般に大型のものは4本柱（SA1～4）を中心に5本柱のもの（SA8）もみられる。また，SA18はSA3の規模に近いにもかかわらず2本柱であり，その他小型のものは2本柱が中心である。主軸方向(3)は2本柱のものが東西，4本柱のものも東西，南北方向に並んでいる。小型の住居跡は厳密には殆ど方形に近い長方形プランを呈する。　住居跡内部に掘り込みのみられるものが11軒ある。それらは円形，方形あるいは不定形のプランを有し，床面中央部からやや南寄りに位置する。焼土面は10軒に確認されている。その殆どは掘り込みの北側や中央部北寄り付近にみられるが，A地区SA1は中央に灰が堆積していたものの焼土面はなく，同SA2・B地区SA4は中央部以外にも焼土や灰の堆積がみられた。この掘り込みについては，概要報告(4)Ⅲ・Ⅳ(5)で触れられたように，掘り込みには直接焼土が伴わず，また，掘り込み面も焼けていないことなどいわゆる貯蔵穴的な役割を果たしていたものと考えられる。前原北遺跡(6)の弥生時代後期後半の住居跡内の貯蔵穴に比べるとかなり見劣りするが，SA5をはじめ大型の壺形土器・甕形土器の存在はそれを補う役割を果たしていたものであろう。また，焼土面についてはすべての住居跡からは検出されず，柱穴の近くにあり通常火災の起こる危険性があるもの，SA13のように2本の主柱間に焼土面があり，突出壁と柱と火を用いた場所とでその南北両空間の通行が困難になると思われるような例があるなど，焼土面＝日常的に火を用いた場所（＝炉）とは考えがたいものがある。

これら遺構と遺物の出土状況との関連をみた場合，4本（または5本）柱の住居跡では，いわゆる中央部空間に小さな掘り込みがみられ近くには焼土面がある。そして，甕形土器を中心とする日常の土器はその掘り込みの周囲に集中しているという，中央部空間＝日常の生活空間という様相が想定され，新田原遺跡の報告(7)の中で述べられた中央部空

間を回廊としてとらえる考えかたとは異なった在り方が指摘できる。また，２本柱の住居跡も含めた全体の出土状況を見た場合，壺形土器や線刻のある壺形土器は住居跡の南半部に多く出土し，高坏及び器台は住居跡東半部でも突出壁に近い位置により多く出土している。特に線刻文のある壺形土器はＡ地区ＳＡ１・Ｂ地区ＳＡ１・ＳＡ２・ＳＡ４では南西隅またはその間仕切られた部分に出土している。また，高坏は比較的突出壁付近での出土が多い。これらは当初考えられた耕作による攪乱を辛うじて免れ，床面近くあるいは良好な覆土の中から出土したものが多い。そのため，出土した個々の土器は殆どその住居跡に伴い，他の住居跡出土の土器と接合する例は住居跡が互いに近接しているにもかかわらずごく希である。

Ａ・Ｂ地区出土弥生土器の時期観については概要報告書[8]Ⅱ・[9]Ⅲの中で若干触れている。今回，整理報告を行うにあたり，特にＳＡ５・ＳＡ12・ＳＡ14などは出土土器の半数以上を公表できなかった。そのため，本報告は昭和57年に概要報告書が公刊されて以来，宮崎平野部の弥生土器編年試案[10]の中に必ず取り上げられてきた当遺跡Ａ・Ｂ地区の遺物の大半を公表し，また，住居跡と遺物の出土状況を報告することでその責の一端を果たすことにし，出土土器の細分については他日に期すことにしたい。しかし，Ｂ地区では狭い範囲の中で住居跡の切り合いがないこと，ＳＡ５・ＳＡ12・ＳＡ14など遺物を廃棄したと思われる住居跡があることなどからそれぞれの住居跡にわずかな時期差があると考えられる。そのような時期差のわずかな中で甕形土器・壺形土器など複雑な新旧の要素が入り混じっており，今後，これを細分することによって住居跡の先後関係や形態の違いが機能差であるか時期差であるかという問題も解決できると思われる。それで甕形土器・壺形土器の全体所見のみ一応述べておきたい。

甕形土器は端部にシャープさを欠いたくの字口縁，内外面の細かなハケ目もしくはナデ調整，指押さえや指頭つまみ出しによる高台状の底部，口縁部径と胴部径がほぼ等しいことなどその大半は石川悦雄氏編年[11]のⅤ期（後期後半）の甕形土器の特徴に相当するが，その中でも128・132・183などの胴部下半にみられるハケ目原体によると思われる削り気味の強いナデ[12]やその他口頸部のくの字状が間延びしたものなどは新しい様相を示しており，後期後半でも「終末」に近いものであろう。また，ＳＡ10 208，ＳＡ12 218・222・225・229，ＳＡ14 250・251・254など頸部が明確に屈曲し胴部が張るものは，口縁部がやや長くなり高台状の底部の指頭つまみ出しが強く横に張り出す。胴部下半には削り状の強いナデもみられ，そして，それらの相乗効果で底部が締まって見える。胴部径は口縁部径を上まわるかほぼ同じで，胴部最大径は胴部中央か上位にある。これらの諸特徴のうち胴部下半～底部は当遺跡Ａ・Ｂ地区出土の大半の甕形土器から系譜をたどれるものであるが，胴部上半～口縁部にかけては石川悦雄氏が「弥生最終末」としてとらえた[13]東平下１号円形周溝墓出土土器群中の甕形土器[14]に最も近く，さらに下ってＢ地区ＳＣ１の291の土器にも通じる様相を持つ。よって，これらの甕形土器は当遺跡出土の弥生土器の中では新しい時期のものであろう。ここで，石川氏が述べているように[15]「古墳出現期とのからみで庄内式のいずれかの段階もしくは布留式（最古）のどれを最古の土師器と考えるか」によって終末期の位置付けは「微妙に」変化しうるものの前述の東平下１号円形周溝墓出土甕形土器を「最」終末期のものとする考えかたに立てば，ＳＡ14出土の甕形土器などに代表される新しい様相の甕形土器は弥生時代「終末期」の中のある段階としてとらえてよかろう。一方，壺形土器についても単口縁壺の場合，口縁部が比較的長いもの，短いもの，底部がしっかりした平底，凸レンズ状の平底，不安定な小さな平底，極めて丸底に近い平底，尖底気味の丸底など新旧両要素がみられるが，甕形土器とのセットで見た場合，それらは複雑に入り混じっている。

Ｂ地区では，ＳＡ４・ＳＡ８出土の炭化物について樹種分析を依頼した[16]。それによると，この熊野原一帯は暖帯の常緑広葉樹が混生する照葉樹林が形成されており，それらを丸太のまま使用していたと推定されている。

Ａ地区で検出された周溝状遺構は，中央部に墓壙はなく，しかも住居跡の近くに位置するものである。平面プランや周溝出土の遺物からは古墳の墳丘が削平された後の周溝とは考えられず，当時県内でも類例が知られていなかった。

その後，児湯郡川南町で竪穴住居跡群に混在して円形周溝状遺構及び方形周溝状遺構が確認された丸山西原遺跡[17]（弥生後期），竪穴住居跡１軒に近接して２基の円形周溝状遺構が発掘された野稲尾遺跡[18]（弥生後期初頭）など公表，発見が相次ぎ，学園都市遺跡群でも熊野原遺跡Ｃ地区で住居跡群の中に存在する周溝状遺構１基（古墳時代初頭）が発掘された[19]。このように，住居跡に近接する周溝状遺構の類例は増えてきたものの，その性格については依然として特定しがたく，このＡ地区の場合も同様に，線刻絵画文壺形土器を含む土器群が南側の周溝部分に一括して埋没していた状況は“祭祀的”ではあるが，高坏，器台，その他特殊な用途を窺わせる遺物は殆ど欠落し，火を用いた痕跡もないなど，いわゆる「祭祀」と断言できる証拠には乏しい。

Ｂ地区でただ１基検出された古墳時代の土壙（ＳＣ１）は，埋没していた遺物や玉類の出土状況，焼土と軽石を含んだ特殊な土塊など極めて“土壙墓”的な様相を示してはいる。しかし，埋土中の脂肪酸分析は行っていないので断定は避けたい。出土遺物は，形態上若干の違いがみられるが，特に時間差を示すような出土状況は確認できず，一括遺物と考えてもよいと思う。甕形土器291は現在のところ熊野原遺跡Ｃ地区ＳＡ７出土の外面タタキの甕形土器[20]のプロポーションに最も近く，また，内湾気味の口縁部や不安定な平底を持つほかの甕形土器，球形丸底の壺形土器など合わせて考えても，Ｃ地区ＳＡ７出土遺物（布留式併行期）よりはやや新しい時期に落ち着くものと考えられる。

以上のように，当遺跡は弥生時代後期後半から終末にかけて住居跡群と周溝状遺構が営まれ，古墳時代初頭をやや下る時期に土壙が，中世と考えられる時期には掘立柱建物跡や溝状遺構が営まれている。主体となる弥生時代後期後半～終末頃の遺跡としては，同じ学園都市遺跡群内の浦田遺跡[21]，前原北遺跡[22]，前原西遺跡[23]，堂地東遺跡[24]，堂地西遺跡[25]，平畑遺跡[26]などがあげられるが，前２者がある程度まとまった住居跡群であるのに対し，ほかは数軒あるいは遺物のみ発見されている小規模な遺跡であり，今後これらの遺跡と関連付けて検討することによって熊野原遺跡Ａ・Ｂ地区を含めた学園都市遺跡群の立地する台地上のこの時期の集落の様相が明確になってくると思われる。ただ，墓域や経済基盤等の問題はこれから土地区画整理事業等周辺の開発が進む中で慎重に解決すべき課題である。

（菅付　和樹）

註（１）面高哲郎「第Ⅶ章　熊野原遺跡Ｃ地区の調査」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第２集　1985

（２）当遺跡で検出された住居跡に類似する県内の住居跡の例は既に次の各報告書・雑誌等の中で種々取り上げられている。

ａ．長津宗重　「第Ⅵ章　堂地東遺跡の調査」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第２集　1985

ｂ．長津宗重　「「日向型間仕切り住居」研究序説」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第２集　1985

ｃ．山本輝雄　「所謂日向型間仕切り住居について――建築史上の問題点――」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第２集　1985

ｄ．山中悦雄　「５．20号地遺跡」『宮崎学園都市埋蔵文化財発掘調査概報』（Ⅱ）　1982

ｅ．北郷泰道　「Ⅳ．結語――住居の変遷にふれて――」『宮崎学園都市埋蔵文化財発掘調査概報』（Ⅲ）　1983

ｆ．北郷泰道　「祝吉遺跡」『都城市文化財調査報告書』第１集　1981

ｇ．面高哲郎　「祝吉遺跡」『都城市文化財調査報告書』第２集　1982

ｈ．面高哲郎　「丸谷第１遺跡」『九州縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書』（３）　宮崎県教育委員会　1979

ｉ．茂山　護　「上示野原遺跡発掘調査」『宮崎県文化財調査報告書』第22集　1980

ｊ．茂山　護・日高正晴ほか　『大萩遺跡』（２）　宮崎県教育委員会　1976

ｋ．日高正晴　「寺原第１遺跡」『西都市埋蔵文化財調査報告書』第１集　1985

ｌ．石川悦雄　「新田原遺跡」『宮崎県児湯郡新富町文化財調査報告書』第４集　1986

ｍ．緒方博文　「越シ遺跡」『亀崎土地区画整理事業に伴う埋蔵文化財調査報告書』日向市教育委員会　1986

ｎ．谷口武範　「永田原遺跡」『えびの市埋蔵文化財調査報告書』第２集　1987

ｏ．石川悦雄　「日向における外来系土器の伝播とその地域性（Ⅰ）」『宮崎県総合博物館研究紀要』No.9　1984

ｐ．野間重孝・伊東　但　「宮崎の古墳文化――出現前夜――」『えとのす』31　1986

q．菅付和樹　「ひむかの弥生時代後期住居跡」『えとのす』31　1986

このほかに，県外では舞田原遺跡（大分県），前谷遺跡・王子遺跡・小田遺跡・中ノ丸遺跡（鹿児島県），県内では紙屋城址遺跡（野尻町）・城ケ尾遺跡（高城町）・犬ノ馬場遺跡（宮崎市）に類例が求められる。

（3）これについては（2）1の文献の中で南九州では東西方向が多いと指摘されている。

（4）（2）eに同じ。

（5）谷口武範　「熊野原遺跡〈B地区〉」『宮崎学園都市埋蔵文化財発掘調査概報』（Ⅳ）　1984

（6）北郷泰道　「前原北遺跡」『宮崎学園都市埋蔵文化財発掘調査概報』（Ⅴ）　1986

（7）（2）lに同じ。

（8）（2）dに同じ。

（9）（2）eに同じ。

(10) a．山中悦雄　「宮崎平野における弥生土器編年試案」『宮崎県総合博物館研究紀要』No.8　1983

b．石川悦雄　「宮崎平野における弥生土器編年試案――素描（Mk.Ⅱ）」『宮崎考古』第9号　1984

c．長津宗重　「上ノ原遺跡」『国富町文化財調査資料』第4集　1986

(11)（10）bに同じ。

(12) 谷口武範　「下那珂貝塚」（『埋蔵文化財調査研究報告』Ⅱ　宮崎県総合博物館　1988）の後期後半の甕形土器の中にも同じ調整のものが指摘されている。

(13)（10）bに同じ。

(14) 岩永哲夫・日高正晴「東平下1号円形周溝墓」『宮崎県文化財調査報告書』第29集　1986

(15)（10）bに同じ。

(16) 大塚　誠　「住居跡出土の木材炭化物」『宮崎学園都市埋蔵文化財発掘調査概報』（Ⅳ）　1984

(17) 長津宗重・日高孝治　『川南町の埋蔵文化財――遺跡詳細分布調査報告書――』　1983

(18) 県文化課　近藤　協氏調査。未報告。

(19)（1）に同じ。

(20)（1）の図面編p357の86・87の甕形土器

(21) 谷口武範　「第Ⅱ章　浦田遺跡の調査」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第2集　1985

(22) 本報告書所収

(23) 本報告書所収

(24)（2）aに同じ。

(25) 永友良典　「第Ⅳ章　堂地西遺跡の調査」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第2集　1985

(26) 日高孝治　「宮大農学部平畑遺跡ⅩⅩⅤ区」『宮崎大学埋蔵文化財調査報告』Ⅰ　1985

表４．Ａ地区・Ｂ地区土器観察表

図面番号	遺物番号	遺構名	器形	部位	文様および調整 外面	文様および調整 内面	焼成	色調 外面	色調 内面	胎土	備考
18	1	Ａ地区 ＳＡ１	甕	口縁部 胴部下半	口唇部 ナデ 口縁部 ナデ・ハケメ 胴 部 ハケメ	口縁部 ナデ 胴 部 ハケの上をナデ	良 好	橙 色 (7.5YR 7/6)	橙 色 (7.5YR 7/6)	1～3ミリの砂粒を含む	外面 スス付着
〃	2	〃	甕	胴部下半 〜 底 部	胴部下半 調整不明 底 部 ナデ	ナ デ	良 好	浅黄橙色 (7.5YR 8/4)	浅黄橙色 (7.5YR 8/4)	1~6ミリの砂粒を多く含む	風化
〃	3	〃	壺	口縁部 〜 胴 部	口縁部 よこナデ 胴 部 ハケメ	口縁部 よこナデ・ナデ 胴 部 ナデ	良 好	浅黄橙色 (10YR 8/4) 橙色 (10YR 7/6)	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	1～2ミリの砂粒を含む	風化
〃	4	〃	壺	口縁部 〜 胴 部	口唇部 ハケメ 口縁部 よこナデ・ゆびおさえ 胴 部 ハケメ・よこナデ	口縁部 ハケメ・ナデ 胴 部 ゆびおさえ・ハケメ	良 好	浅黄橙色 (10YR 8/4)	浅黄橙色 (10YR 8/4)	1～3ミリの砂粒を含む	
〃	5	〃	壺	胴 部	調整不明	胴 部 よこナデ・シボリ ゆびおさえ・ナデ	良 好	橙色 (7.5YR 7/6) 浅黄色 (2.5Y 7/4)	浅黄色 (2.5Y 7/4) 灰黄色 (2.5Y 6/2)	1～2ミリの砂粒を含む	風化
〃	6	〃	壺	完 形	ハケメ	口縁部 よこナデ 胴 部 ハケメ 底 部	良 好	浅黄橙色 (10YR 8/4)	浅黄橙色 (10YR 8/4) 橙色 (10YR 7/6)	1～2ミリの砂粒を含む	肩部,線刻あり 風化
〃	7	〃	鉢	口縁部 〜 底 部	口縁部 ハケメのあとナデ 胴部下半 ハケメのあとナデ 底 部 ナデ	口縁部 ナデ 胴 部 ハケメのあとナデ	良 好	浅黄橙色 (10YR 8/4)	浅黄橙色 (10YR 8/4)	2ミリ前後の砂粒を多く含む	風化
〃	8	〃	鉢	完 形	口縁部 ハケメ 胴部下半 ハケメ 底 部 ゆびおさえ	ナ デ	良 好	浅黄橙色 (7.5YR 8/4)	浅黄橙色 (7.5YR 8/4) 橙色 (7.5YR 7/6)	2ミリの砂粒を多く含む 5ミリの砂粒を含む	風化・剝落
〃	9	〃	高坏	坏 部	ヘラミガキ よこナデ	ヘラミガキ	良 好	橙 色 (7.5YR 7/6)	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	1～3ミリの砂粒を含む	
〃	10	周溝状遺構	甕	口縁部 〜 胴 部	口縁部 ナデ 胴 部 ハケメのあとナデ	ナ デ	良 好	浅黄橙色 (7.5YR 8/3)	浅黄橙色 (7.5YR 8/3)	1～6ミリの砂粒を含む	外面スス付着 風化
〃	11	〃	甕	口縁部 〜 底 部	口縁部 ナデ・よこナデ 胴 部 ナデ・ハケメ 底 部 ナデ	ナ デ 胴 部 ゆびおさえ	良 好	にぶい黄橙色 (10YR 6/3) 浅黄橙色 (10YR 8/3)	にぶい橙色 (5YR 7/4)	2～3ミリの砂粒を多く含む	外面 スス付着
〃	12	〃	甕	口縁部 底部付近	口唇部 よこナデ ハケメ	ナ デ 胴 部 ゆびおさえ	良 好	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	2～3ミリの砂粒を含む	
〃	13	〃	甕	口縁部 〜 底部付近	口唇部・突帯 よこナデ ハケメ	口縁部 ハケメ	やや不良	浅黄橙色 (7.5YR 8/4)	浅黄橙色 (7.5YR 8/4)	1~3ミリの砂粒を多く含む	風化
〃	14	〃	鉢	口縁部 〜 底 部	口唇部 よこナデ 胴 部 ハケメ・ナデ ゆびおさえ	口縁部 よこナデ 胴 部 調整不明	良 好	浅黄橙色 (7.5YR 8/6)	浅黄橙色 (7.5YR 8/6)	1ミリの砂粒を含む	風化
〃	15	〃	鉢	口縁部 〜 底 部	ナ デ	ナ デ	良 好	橙 色 (5YR 7/6)	橙 色 (5YR 7/6)	1ミリの砂粒を含む	
〃	16	〃	高杯	脚 部	ヘラミガキ	ゆびおさえ	良 好	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	1～3ミリの砂粒を含む	透かし 推定４ヶ所
19	17	〃	壺	完 形	口縁部 ナデ 調整不明	胴部下半 ハケ ナ デ	良 好	橙 色 (5YR 7/8)	橙 色 (5YR 7/8)	1～5ミリの砂粒を多く含む	風化・剝落
〃	18	〃	壺	完 形	口縁部 よこナデ ハケメ	口縁部 よこナデ ナデ・ゆびおさえ	良 好	黄橙色 (10YR 8/6) 浅黄橙色 (7.5YR 8/6)	浅黄橙色 (7.5YR 8/6)	1～3ミリの砂粒を含む	肩部 線刻あり
〃	19	〃	壺	完 形	口縁部 よこナデ 胴 部 ハケメ 底 部 ナデ	口縁部 よこナデ・ハケメ 肩部・底部 ハケメのあとゆびおさえ 胴 部 ハケメ	良 好	橙 色 (5YR 7/6)	橙 色 (5YR 7/6)	1～2ミリの砂粒を多く含む	胴部 線刻あり
20	27	Ｂ地区 ＳＡ１	甕	口縁部 〜 胴 部	口縁部 ナデ 胴 部 ハケメ	口縁部 ハケメ 頸 部 ハケメのあとナデ 胴 部 ハケメのあとナデ	良 好	浅黄橙色 (10YR 8/4)	にぶい黄橙色 (10YR 7/2)	1～3ミリの砂粒を含む	外面 スス付着
〃	28	〃	甕	口 縁	調整不明	ナ デ	良 好	橙 色 (5YR 7/6)	にぶい黄橙色 (10YR 7/4) 浅黄橙色 (7.5YR 8/4)	0.1~2ミリの砂粒を多く含む	風化
〃	29	〃	甕	頸 部	ハケメ	ハケのあとよこナデ	良 好	明黄褐色 (10YR 7/6)	明黄褐色 (10YR 7/6)	きめ粗い 0.5~3ミリの砂粒を多く含む	
〃	30	〃	壺	完 形	口縁部 よこナデ ハケメ	口縁部 よこナデ 胴部 ゆびおさえ・ハケメ 胴部下半 ヘラナデ・ゆびおさえ	良 好	黄 橙 色 (7.5YR 7/8)	黄 橙 色 (7.5YR 7/8)	0.5~2ミリの砂粒を含む	
〃	31	〃	壺	頸 部 〜 底 部	胴部上半 ていねいなナデ 胴部下半 ハケメ	胴部上半 ゆびおさえ 胴部下半 ハケメ	良 好	にぶい黄橙色 (10YR 7/2)	にぶい黄橙色 (10YR 7/2)	きめ細かい 0.1~2ミリの砂粒を多く含む	胴部線刻あり 丸底に近い平底
〃	32	〃	壺	口 縁	ミガキ	ミガキ	良 好	橙 色 (5YR 7/6)	橙 色 (5YR 7/6)	きめ細かい 1ミリ程の砂粒を含む	
〃	33	〃	壺	胴部下半 〜 底 部	ミガキ	胴部下半 ハケのあとナデ 底 部 ゆびおさえ	良 好	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	にぶい橙色 (5YR 7/4)	きめ細かい 1ミリ程の砂粒を含む	
〃	34	〃	壺	胴部下半 〜 底 部	ナ デ	ゆびおさえのあとナデ	良 好	浅黄橙色 (10YR 8/4)	褐 灰 色 (10YR 5/1)	きめ細かい 0.5~1ミリの砂粒を含む	
〃	35	〃	壺	胴部下半 〜 底 部	ナ デ	ナ デ	良 好	橙 色 (7.5YR 7/6)	褐 灰 色 (10YR 5/1)	きめ細かい 0.5~2ミリの砂粒を含む	
〃	36	〃	鉢	口 縁	口唇部 よこナデ ミガキ	口唇部 よこナデ ミガキ	良 好	にぶい黄橙色 (10YR 8/3)	にぶい黄橙色 (10YR 8/3)	きめ細かい 1～3ミリの砂粒を含む	
〃	37	〃	甕	口 縁	ハケメ	ナ デ	良 好	にぶい橙色 (5YR 7/4)	灰 白 色 (7.5YR 8/2)	きめ細かい 0.5~2ミリの砂粒を含む	
〃	38	〃	鉢？	脚 部	ナ デ	調整不明	良 好	浅黄橙色 (7.5YR 8/6)	黄 橙 色 (7.5YR 7/8)	きめ粗い 0.5~3ミリの砂粒を多く含む	
〃	39	〃	高坏	坏 部	ヘラミガキ	ヘラミガキ	良 好	橙 色 (5YR 6/6)	橙 色 (5YR 6/6)	きめ細かい 1ミリ程の砂粒を少し含む	
〃	40	〃	高坏	坏 部	ヘラミガキ	ヘラミガキ	良 好	橙 色 (5YR 7/6)	浅黄橙色 (7.5YR 8/4)	1～2ミリの砂粒を含む	
〃	41	〃	高坏	脚 部	調整不明	ナ デ	良 好	浅黄橙色 (10YR 8/4)	浅黄橙色 (10YR 8/4)	きめ粗い 0.3~2ミリの砂粒を含む	
〃	42	〃	高坏	脚 部	ヘラミガキ	ナ デ	良 好	浅黄橙色 (10YR 8/3)	浅黄橙色 (10YR 8/3)	1ミリ程の砂粒を少し含む	透かし推定 4ヶ所
〃	43	Ｂ地区 ＳＡ２	甕	口 縁	ナ デ	口唇部 ゆびおさえ ナ デ	良 好	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	浅黄橙色 (10YR 8/4)	きめ粗い 2～3ミリの砂粒を含む	外面 スス付着
〃	44	〃	壺	口 縁 〜 胴 部	口唇部 よこナデ ハケメ	口縁部 よこナデ ゆびおさえ ナデ	良 好	浅黄橙色 (7.5YR 8/6)	灰 白 色 (10YR 7/1)	0.5~2ミリ程の砂粒を含む	
〃	45	〃	壺	口 縁	口唇部 よこナデ ハケメ	口唇部 よこナデ ゆびおさえ	良 好	浅黄橙色 (7.5YR 8/6)	浅黄橙色 (7.5YR 8/6)	2～3ミリの砂粒を含む	
〃	46	〃	壺	頸 部 〜 胴 部	ヘラミガキ	ゆびおさえ	良 好	黄 橙 色 (10YR 8/6)	黄 灰 色 (2.5Y 4/1)	1ミリ程の砂粒を含む	肩部多条細沈線文+重弧文
〃	47	〃	甕	口 縁 〜 胴 部	口唇部 よこナデ ハケメ	口唇部 よこナデのあとゆびおさえ	良 好	浅黄橙色 (10YR 8/4)	浅黄橙色 (10YR 8/4)	1～2ミリの砂粒を含む	外面一部 スス付着
〃	48	〃	鉢	口縁部 胴部下半	口唇部 よこナデ 調整不明	わずかにハケメ	良 好	黄 橙 色 (10YR 8/6)	黄 橙 色 (10YR 8/6)	きめ細かい 2ミリ程の砂粒を含む	風化
〃	49	〃	甕	底 部	ハケメ	ナ デ ゆびおさえ	良 好	黄 橙 色 (7.5YR 8/6)	橙 色 (7.5YR 6/6)	0.5~2ミリの砂粒を含む	
〃	50	〃	甕	底 部	ハケメ	ゆびおさえ	良 好	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	橙 色 (7.5YR 6/6)	1～2ミリの砂粒を含む	
〃	51	〃	—	胴部下半 〜 底 部	ナ デ	ナ デ	良 好	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	浅黄橙色 (10YR 8/4)	1～3ミリの砂粒を含む	外面 スス付着

図面番号	遺物番号	遺構名	器形	部位	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
					外面	内面		外面	内面		
20	52	B地区 SA2	高坏	坏部	口唇部 よこナデ 口縁部 よこナデのあとミガキ 坏部下半 ハケメのあとミガキ	口縁部 よこナデのあとミガキ 坏部下半 調整不明	良好	黄橙色 (7.5YR8/6)	黄橙色 (7.5YR8/6)	きめが粗い 1~2ミリの砂粒を多く含む	風化
〃	53	〃	高坏	坏部	ミガキ	ミガキ	良好	橙色 (7.5YR7/6)	にぶい黄橙色 (10YR 8/4)	0.5~1ミリの砂粒を含む	風化
〃	54	〃	高坏	脚部	ナデ 一部調整不明	ゆびおさえ	良好	黄橙色 (10YR 8/6)	浅黄橙色 (10YR 8/4)	きめ細かい 1~2ミリの砂粒を多く含む	風化
〃	55	〃	器台	完形	ナデ ゆびおさえ	ナデ	やや不良	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	1~5ミリの砂粒を多く含む	ミニチュア
〃	56	B地区 SA3	壺	口縁部〜底部	口縁部・胴部上半 ハケメ 胴部下半 ナデ	口縁部・胴部 ナデ 肩部・底部 ゆびおさえ	良好	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	浅黄橙色 (7.5YR8/6) (10YR 8/3)	きめ細かい 1~3ミリの砂粒を含む	
〃	57	〃	壺	口縁部〜底部	胴部下半 ケズリ気味のナデ ハケメ	口縁部 ハケメ 胴部上半 ゆびおさえ 胴部下半 ナデ	良好	橙色 (7.5YR7/6) (5YR 7/6)	黄橙色 (10YR 8/6) にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	1~4ミリの砂粒を含む	平底
〃	58	〃	壺	口縁部〜胴部	口唇部 よこナデ 口縁部 ハケメ,ハケメのあとよこナデ 胴部 ハケメ	口縁部 よこナデ 胴部 ゆびおさえ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/4)	淡黄色 (2.5Y 8/3)	きめ細かい 1~2ミリの砂粒を含む	
〃	59	〃	壺	口縁部	口唇部 よこナデ 調整不明	よこナデ	良好	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	黄褐色 (2.5Y 5/3)	0.5~2.5ミリの砂粒を含む	風化
〃	60	〃	壺	口縁部〜頸部	口唇部 よこナデ 口縁部・頸部 ハケメのあとよこナデ	口縁部 よこナデ 頸部 ゆびおさえ	良好	黄橙色 (10YR 8/6)	黄橙色 (10YR 8/6)	0.5~4ミリの砂粒を含む	
〃	61	〃	短頸壺	口縁部〜底部付近	口唇部 よこナデ 調整不明	ゆびおさえ	良好	黄橙色 (10YR 8/6)	黄橙色 (10YR 8/6)	きめ細かい 1~2ミリの砂粒を含む	風化
21	62	〃	甕	胴部下半〜底部	ハケメ ゆびおさえ	ハケメ ナデ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/4)	浅黄橙色 (10YR 8/4)	0.5~6ミリの砂粒を含む	
〃	63	〃	鉢	口縁部〜胴部下半	口唇部 よこナデ 調整不明	口縁部 よこナデ・ゆびおさえ	良好	橙色 (7.5YR7/6)	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	きめ細かい 1~2ミリの砂粒を含む	風化
〃	64	〃	高坏	口縁部	口唇部 よこナデ 口縁部 ミガキ	よこナデ	良好	橙色 (7.5YR7/6)	橙色 (7.5YR7/6)	きめ細かい 1ミリ程の砂粒を含む	
〃	65	〃	高坏	坏部	ミガキ	ミガキ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/4)	黒変	きめが粗い 1ミリ程の砂粒を含む	
〃	66	〃	高坏	完形	口縁部 よこナデのあとミガキ 坏部下半・脚部 ミガキ	口縁部 よこナデのあとミガキ ミガキ	良好	黄橙色 (7.5YR7/6) にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	黄橙色 (7.5YR7/6)	きめ細かい 1~2ミリの砂粒を含む	風化
〃	67	B地区 SA4	甕	完形	ハケメ 底部 ゆびおさえ	口縁部 よこナデ ナデ	良好	橙色 (7.5YR7/6) にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	にぶい黄橙色 (10YR7/4)	1~5ミリの砂粒を含む	外面 スス付着 風化
〃	68	〃	甕	口縁部〜底部付近	口唇部 ナデ ハケメ	ハケメ	良好	橙色 (7.5YR7/6) にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	きめ細かい 1~4ミリの砂粒を含む	外面 スス付着
〃	69	〃	甕	完形	口縁部 ハケメ 胴部上半 調整不部 胴部下半 底部からかきあげ	口縁部 ゆびおさえのあとハケメ 胴部 ハケメ 底部 シボリ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/4)	浅黄橙色 (10YR 8/4)	0.5~3ミリの砂粒を含む	風化
〃	70	〃	甕	口縁部〜胴部	ハケメ	口縁部 よこナデ 胴部 ハケメ	良好	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	1~3ミリの砂粒を含む	外面スス付着 風化
〃	71	〃	甕	口縁部〜胴部	口縁部 ハケメのあとナデ 頸部・胴部 ハケメ	口縁部 ナデ 頸部 ハケメ 胴部 ハケメのあとナデ	良好	黄橙色 (7.5YR7/6)	黄橙色 (7.5YR7/6)	0.5~2ミリの砂粒を含む	外面 スス付着
〃	72	〃	甕	口縁部〜胴部	口縁部 ハケメのあとよこナデ 頸部・胴部 ハケメ	口縁部 よこナデ 頸部 ナデ 胴部 ハケメのあとゆびナデ	良好	橙色 (7.5YR6/6)	橙色 (7.5YR7/6)	1~3ミリの砂粒を含む	外面 スス付着
〃	73	〃	甕	完形	口縁部 よこナデ ナデ	口縁部 よこナデ ナデ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/4)	浅黄橙色 (10YR 8/4)	1~4ミリの砂粒を多く含む	外面スス付着
22	74	〃	甕	完形	口唇部・口縁部 よこナデ 胴部 ハケメ 底部 ゆびおさえ	口縁部 よこナデ 胴部 ハケメ 底部 ゆびおさえ	良好	浅黄橙色 (7.5YR8/4) にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	2~4ミリの砂粒を含む	内面・外面 スス付着
〃	75	〃	甕	口縁部〜胴部	口唇部・突帯 よこナデ 胴部 ヘラナデ	ヘラナデ	良好	橙色 (7.5YR7/6)	橙色 (7.5YR7/6)	1~3ミリの砂粒を含む	風化
〃	76	〃	甕	口縁部〜底部	口縁部 よこナデ ハケメ	口縁部 よこナデ 頸部・胴部 ハケメのあとナデ 底部 ゆびおさえ	良好	橙色 (7.5YR7/6) にぶい黄橙色 (10YR 8/4)	橙色 (7.5YR7/6) にぶい黄橙色 (10YR 8/4)	1~4ミリの砂粒を含む	外面 スス付着
〃	77	〃	壺	完形	口縁部 よこナデ 胴部上半 ゆびおさえのあとよこナデ 胴部下半 ナデ,ゆびおさえのあとよこナデ ハケメのあとナデ	肩部 ゆびおさえ・よこナデ 胴部 シボリ,ゆびおさえ・ナデ 底部 ゆびおさえ・ナデ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/4)	浅黄橙色 (10YR 8/4) 褐灰色 (10YR 4/1)	1~4ミリの砂粒を含む	風化
〃	78	〃	壺	口縁部〜肩部	口縁部 よこナデ 肩部 ハケメ	ハケメのあとナデ	良好	明黄褐色 (10YR 7/6)	明黄褐色 (10YR 7/6) にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	1~4ミリの砂粒を多く含む	
〃	79	〃	壺	口縁部〜肩部	口縁部 よこナデ 肩部 ハケメ	ナデ ゆびおさえ	良好	浅黄橙色 (7.5YR8/4) にぶい橙色 (5YR 7/4)	浅黄橙色 (7.5YR8/4) (10YR 8/4)	1~4ミリの砂粒を含む	
〃	80	〃	壺	口縁部〜肩部	ミガキ	口縁部 ミガキ ナデ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/6)	浅黄橙色 (10YR 8/6)	0.5~1ミリの砂粒を含む	
〃	81	〃	壺	胴部	胴部上半 ヘラミガキ 胴部下半 ハケメ	ナデ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	浅黄橙色 (10YR 8/4) にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	きめ細かい 0.5~2ミリの砂粒を含む	風化
〃	82	〃	壺	胴部〜底部	胴部上半 ヘラミガキ 胴部下半 ハケメ	胴部上半 ゆびおさえ 胴部下半 ハケメ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 7/4) (10YR 7/3)	黄灰色 (2.5Y 5/1)	1ミリ程の砂粒を含む	
〃	83	〃	壺	胴部	わずかにヘラミガキ	上・下端 ゆびおさえ 調整不明	やや良好	黄橙色 (10YR 8/6) 橙色 (5YR 7/6)	明黄褐色 (10YR 6/6)	0.5~2ミリの砂粒を含む	風化 頸部多条細沈線文
〃	84	〃	長頸壺	口縁部〜胴部	胴部 ハケメ 調整不明	胴部 ゆびおさえ 調整不明	良好	橙色 (5YR 7/6) にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	2~3ミリの砂粒を含む	風化
〃	85	〃	壺	口縁部	口唇部 ハケメ 口縁部 櫛描波状文・ナデ	ナデ	良好	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	にぶい橙色 (5YR 7/4)	きめ細かい 0.5~2ミリの砂粒を含む	
〃	86	〃	壺	胴部	ハケメ	ゆびおさえ ナデ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/3)	浅黄橙色 (10YR 8/3)	0.5~3ミリの砂粒を含む	外面 スス付着 風化
〃	87	〃	壺	胴部	ナデ	ゆびおさえ ナデ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/3)	浅黄橙色 (10YR 8/3)	1ミリ程の砂粒を含む	胴部 線刻あり
〃	88	〃	壺	胴部	ハケメ	ハケメ	やや良好	浅黄橙色 (10YR 8/3)	浅黄橙色 (10YR 8/3)	0.5~2ミリの砂粒を含む	胴部 線刻あり 風化
〃	89	〃	—	底部	ハケメのあとナデ ゆびおさえ	ハケメのあとナデ	良好	にぶい橙色 (5YR 7/4)	浅黄橙色 (7.5YR8/3)	0.1~2ミリの砂粒を含む	
〃	90	〃	甕	胴部〜底部	胴部 ハケメ 底部 ゆびおさえ	ナデ	良好	浅黄橙色 (7.5YR8/3)	黄灰色 (2.5Y 4/1)	1~3ミリの砂粒を含む	内面 スス付着
〃	91	〃	—	胴部〜底部	胴部 ナデ 底部 ゆびおさえのあとナデ	ナデ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/3)	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	きめ細かい 0.5~3ミリの砂粒を含む	内面 スス付着
〃	92	〃	—	胴部〜底部	胴部 ハケメのあとナデ 底部 ゆびおさえ	ナデ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	きめ細かい 0.1~0.15ミリの砂粒を含む	外面 スス付着
〃	93	〃	—	胴部〜底部	胴部 ナデ 底部 ゆびおさえ	ナデ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/3)	浅黄橙色 (10YR 8/3)	きめ細かい 0.1~0.15ミリの砂粒を含む	
〃	94	〃	壺	底部	ナデ	ナデ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/3)	灰白色 (10YR 8/2)	きめ細かい 2~3ミリの砂粒を含む	
〃	95	〃	壺	胴部〜底部	ナデ	ハケメ	良好	にぶい橙色 (5YR 7/4)	浅黄橙色 (10YR 8/3)	きめ細かい 1~3ミリの砂粒を含む	

図面番号	遺物番号	遺構名	器形	部位	文様および調整 外面	文様および調整 内面	焼成	色調 外面	色調 内面	胎土	備考
22	96	B地区 SA4	壺	胴部 / 底部	胴部 ヘラミガキ 底部 ヘラミガキのあとゆびおさえ	ハケメのあとゆびおさえ	やや不良	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	1～3ミリの砂粒を含む	外面スス付着
23	97	〃	鉢	口縁部 / 底部	口縁部 ハケメのあとヘラミガキ ハケメ ヘラミガキ	ヘラミガキ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/4)	浅黄橙色 (10YR 8/4)	1～5ミリの砂粒を含む	
〃	98	〃	鉢	口縁部 / 底部	口唇部 よこナデ ハケメ	口縁部 ヘラミガキ ハケメ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/3)	浅黄橙色 (10YR 8/4)	きめ細かい 1～3ミリの砂粒を含む	
〃	99	〃	鉢	口縁部 / 底部	わずかにヘラミガキ	口縁部 よこナデ 調整不明	良好	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	0.2～2ミリの砂粒を含む	風化
〃	100	〃	鉢	口縁部 / 胴部	調整不明	ナデ	良好	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	きめ細かい 1～2ミリの砂粒を含む	風化
〃	101	〃	鉢	口縁部	よこナデ	ハケメのあとナデ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/3)	浅黄橙色 (10YR 8/4)	砂粒を含む	
〃	102	〃	鉢	口縁部 / 底部付近	ハケメ	口縁部 手づくね ハケメ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	にぶい黄橙色 (10YR 8/3)	1～2ミリの砂粒を含む	
〃	103	〃	鉢	口縁部 / 底部	手づくね	ゆびおさえのあとナデ	良好	灰白色 (10YR 8/2)	浅黄橙色 (10YR 8/3)	0.5～1ミリの砂粒を少し含む	ミニチュア
〃	104	〃	鉢	口縁部 / 胴部	手づくね	手づくね	良好	灰白色 (10YR 8/2)	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	きめ細かい	ミニチュア
〃	105	〃	—	底部	ナデ	ナデ	良好	橙色 (5YR 7/6)	橙色 (5YR 7/6)	0.5ミリ程の砂粒を含む	ミニチュア?
〃	106	〃	高坏	口縁部 / 脚部	ヘラミガキ	坏部 ヘラミガキ 脚部上半 ゆびおさえ・ナデ 脚部下半 ハケメ	良好	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	0.5～1ミリの砂粒を多く含む	透かし脚部上・下段4ヶ所，風化
〃	107	〃	高坏	脚部	ゆびおさえ ハケメ ハケメのあとヘラミガキ	ナデ	良好	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	きめ細かい 0.5～2ミリの砂粒を含む	風化
〃	108	〃	高坏	脚部	ヘラミガキ	ナデ	良好	橙色 (5YR 7/6)	橙色 (5YR 7/6) 灰白色 (7.5YR8/2)	きめ細かい 0.5～2ミリの砂粒を含む	透かし 4ヶ所
〃	109	〃	器台	口縁部 / 脚部	ハケメ ハケメのあとナデ 脚部すそ よこナデ	口縁部・脚部すそ ハケメ 粘土のしぼり・ゆびおさえ	良好	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	浅黄橙色 (7.5YR8/6)	きめ細かい 1ミリ程の砂粒を多く含む	透かし推定5～6ヶ所 風化
〃	110	〃	器台	胴部	ヘラミガキ	ヘラミガキ よこナデ ナデ	良好	橙色 (5YR 7/6) 浅黄橙色 (10YR 8/4)	橙色 (5YR 7/6) にぶい橙色 (5YR 7/4)	きめ細かい 0.5～2.5ミリの砂粒を含む	透かし 推定4ヶ所＋α
〃	111	B地区 SA5	甕	完形	口縁部 よこナデ 胴部 ハケメ 胴部下半 ナデ	口縁部 よこナデ ハケメ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 橙色 (7.5YR7/6)	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	1～7ミリの砂粒を含む	
〃	112	〃	甕	完形	口縁部 よこナデ ハケメ	口唇部 ハケメのあとおびおさえ 胴部 ハケメ 底部 ゆびおさえ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 橙色 (7.5YR7/6)	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	1～5ミリの砂粒を含む	
24	113	〃	甕	完形	ナデ	ナデ	不良	橙色 (5YR 7/6)	橙色 (2.5YR7/6)	きめ細かい 1～5ミリの砂粒を含む	
〃	114	〃	甕	口縁部～底部	口縁部 よこナデ ハケメ	ハケメ	良好	橙色 (5YR 6/6)	にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 橙色 (5YR 6/6)	きめ粗い 1～3ミリの砂粒を多く含む	
〃	115	〃	甕	口縁部～底部	口縁部 よこナデ 胴部 ハケメ 底部 ナデ	口縁部 ゆびおさえのうえをハケメ 胴部 ハケメ 底部 ナデ	良好	にぶい橙色 (7.5YR7/4) にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	浅黄橙色 (10YR 8/4) 黄灰色 (2.5Y 5/1)	2～3ミリの砂粒を含む	
〃	116	〃	甕	口縁部～底部	口縁部 ナデ 胴部 ハケメ 底部 ハケメのあとナデ	ハケメ	良好	橙色 (5YR 7/6)	橙色 (5YR 7/6)	きめ細かい 0.5～5ミリの砂粒を含む	
〃	117	〃	甕	完形	口唇部 ナデ 胴部 ハケメ 胴部下半 ナデ	ハケメ	良好	橙色 (7.5YR8/6)	黄橙色 (10YR 7/8)	きめ細かい 2ミリ程の砂粒を含む	外面スス付着
25	118	〃	甕	口縁部～底部	口縁部 よこナデ ハケメ	ハケメ 底部 ゆびおさえ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	きめ粗い 2～5ミリの砂粒を含む	
〃	119	〃	甕	完形	口縁部 よこナデ 胴部 ハケメ 胴部下半 ナデ	口縁部 ナデ 胴部 ハケメ 胴部下半 ナデ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/4) にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	1～3ミリの砂粒を多く含む	外面一部スス付着 風化
〃	120	〃	甕	完形	口縁部 よこナデ 胴部 ハケメ 胴部下半 ゆびおさえ	ハケメ	良好	明黄褐色 (10YR 7/6)	明黄褐色 (10YR 7/6)	5ミリ程の砂粒を含む	
〃	121	〃	甕	完形	口唇部 よこナデ 胴部上半 ハケメ 胴部下半 ナデ	口縁部 よこナデ ハケメのあとナデ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	きめ細かい 0.5～3ミリの砂粒を含む	外面部分的にスス付着
〃	122	〃	甕	口縁部～底部	口唇部 よこナデ 胴部上半 ハケメ 胴部下半 ナデ	口唇部 よこナデ 胴部上半,ナデ 口縁部 ハケメ 胴部上半 ハケメ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 淡黄色 (2.5Y 8/3)	浅黄色 (2.5Y 7/4)	2～5ミリの砂粒を含む	
26	123	〃	甕	口縁部～底部	口唇部 よこナデ 口縁部～胴部上半 ハケメ 胴部 ナデ 胴部下半 ハケメ	口唇部 よこナデ 口縁部 ハケメ 胴部 ハケメのあとナデ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	黄橙色 (10YR 8/6)	1～6ミリ程の砂粒を含む	外面一部スス付着 内面スス付着
〃	124	〃	甕	口縁部～底部	口唇部 よこナデ 口縁部 ナデ 胴部 ハケメ	口唇部 よこナデ 口縁部 ハケメ 胴部 ナデ	良好	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	にぶい橙色 (5YR 7/4)	きめ細かい 0.5～2ミリ程の砂粒を多く含む	
〃	125	〃	甕	完形	口縁部 よこナデ 胴部 ナデ 底部 ゆびおさえ	口縁部 ハケメのあとナデ 胴部 ハケメ 底部 ナデ	良好	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	0.5～2ミリ程の砂粒を多く含む	外面風化
〃	126	〃	甕	完形	口縁部 よこナデ 胴部 ハケメ 底部 ゆびおさえ	ハケメ	良好	にぶい橙色 (7.5YR7/4) にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	3～5ミリ程の砂粒を含む	外面スス付着
〃	127	〃	甕	完形	口唇部 よこナデ 口縁部～胴部上半 ハケメ 胴部下半 ナデ	ハケメ 胴部下半 ナデ	良好	橙色 (5YR 7/6)	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	1～3ミリの砂粒を含む	外面・部分的にスス付着外面風化
〃	128	〃	甕	完形	口唇部 よこナデ ハケメ 胴部下半 ケズリぎみのナデ	ハケメ 底部 ゆびおさえ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	2～5ミリの砂粒を含む	
〃	129	〃	甕	完形	ナデ 胴部下半 ケズリぎみのナデ 底部 ゆびおさえ	ナデ	良好	にぶい橙色 (5YR 7/4)	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	きめ細かい 0.5～5ミリ程の砂粒を多く含む	外面一部スス付着
27	130	〃	甕	完形	口縁部 よこナデ 胴部上半 ハケメ 胴部下半 ケズリぎみのナデ	口縁部 よこナデ 胴部 ハケメ 胴部下半 ケズリぎみのナデ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 7/4) 橙色 (7.5YR7/6)	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	きめ細かい 1～3ミリ程の砂粒を多く含む	外面一部スス付着
〃	131	〃	甕	口縁部～底部	口縁部 よこナデ 胴部 ナデ 底部 ゆびおさえ	口縁部 よこナデ 胴部 ハケメ 底部 ゆびおさえ	良好	橙色 (7.5YR7/6)	にぶい橙色 (7.5YR7/4)	きめが細かい 1～4ミリ程の砂粒を含む	
〃	132	〃	甕	口縁部～底部	口縁部 よこナデ 胴部下半 ケズリぎみのナデ	口縁部 よこナデ ハケメ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	にぶい黄色 (2.5Y 8/4)	1～3ミリ程の砂粒を多く含む	全体的風化
〃	133	〃	甕	口縁部～底部	口縁部,胴部下半 ナデ 胴部 ハケメ	口縁部, 胴部下半 ナデ ハケメ	良好	橙色 (7.5YR8/6)	橙色 (7.5YR7/6)	きめ細かい 1～6ミリの砂粒を多く含む	外面風化
〃	134	〃	甕	口縁部～底部	口縁部 よこナデ 胴部上半 ハケメ 胴部下半 調整不明	口縁部 よこナデ 胴部 ハケメのあとナデ 胴部下半 ていねいなナデ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	きめ粗い 1～3ミリの砂粒を多く含む	外面一部スス付着 外面風化
〃	135	〃	甕	口縁部～底部	口縁部 よこナデ ハケメ	口縁部 よこナデ ハケメ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	にぶい黄橙色 (10YR 8/4)	1～5ミリ程の砂粒を多く含む	
〃	136	〃	甕	口縁部 / 胴部下半	口縁部 よこナデ 胴部上半 ハケメ 胴部下半 ナデ	口縁部 よこナデ ハケメ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/4) にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	0.5～4ミリの砂粒を多く含む	外面一部スス付着
〃	137	〃	壺	口縁部～底部	口唇部 よこナデ 口縁部 ハケメ ミガキ	口縁部 よこナデ 胴部上半 ハケメ 胴部下半 調整不明	良好	浅黄橙色 (10YR 8/4) にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	灰色 (5Y 5/1)	1～4ミリ程の砂粒を多く含む	風化
〃	138	〃	壺	口縁部 / 胴部下半	口唇部 よこナデ 口縁部,胴部下半 ハケメ 胴部 ヘラミガキ	口縁, 胴部 ハケメ 肩部, 胴部下半 ナデ	良好	浅黄橙色 (7.5YR8/4)	淡黄色 (2.5Y 8/3)	1～5ミリの砂粒を多く含む	
28	139	〃	壺	口縁部 / 胴部下半	ハケメ 胴部下半 ミガキ	ハケメ 胴部下半 ナデ	良好	にぶい橙色 (10YR 7/4)	にぶい橙色 (10YR 7/4)	2～5ミリ程の砂粒を含む	口唇部櫛描き波状文

図面番号	遺物番号	遺構名	器形	部位	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
					外面	内面		外面	内面		
28	140	B地区SA5	壺	口縁部～胴部上半	口縁部 ハケメ 胴部上半 調整不明 胴部下半 ミガキ	口縁 ハケメ 肩部 ナデ 胴部 ハケメ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	浅黄色 (2.5Y 7/4)	1～3ミリの砂粒を含む	口唇部櫛描き波状文
〃	141	〃	壺	口縁部～胴部上半	肩部 ハケメのあとミガキ ハケメ	頸部 ナデ ハケメ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/4) (7.5YR 8/4)	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	2～5ミリの砂粒を含む	
〃	142	〃	壺	口縁部～底部	口縁部 よこナデ 肩部 ハケメ ミガキ	口縁部 よこナデ胴下半ヘラナデ 肩部 ゆびおさえ 胴部 ハケメ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/3) にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	にぶい橙色 (7.5YR 7/4) 淡黄色 (2.5Y 8/4)	2ミリ程の砂粒を含む	
〃	143	〃	壺	完形	口縁部，頸部 ハケメ ケズリぎみのナデ	口縁部 調整不明 ハケメ	良好	橙色 (5YR 7/6)	橙色 (5YR 7/6) にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	1～3ミリ程の砂粒を多く含む	小さな平底 外面風化
〃	144	〃	壺	口縁部～胴部上半	口唇部 よこナデ 口縁部 ゆびおさえ ハケメ	口縁部 ハケメ 肩部 ゆびおさえ ハケメ	良好	橙色 (5YR 7/6)	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	1～4ミリの砂粒を含む	
29	145	〃	壺	口縁部～底部	口縁部 よこナデ ハケメ	口縁部 よこナデ 肩部 ゆびおさえ ナデ	良好	橙色 (7.5YR 7/6)	褐灰色 (10YR 5/1)	0.5～3ミリの砂粒を含む	肩部線刻あり 外面風化
〃	146	〃	壺	完形	口縁部 ハケメのあとよこナデ ハケメ	口縁部 よこナデ 肩部 ゆびおさえ ハケメ	良好	橙色 (5YR 6/6) 橙色 (7.5YR 7/4)	橙色 (5YR 6/6)	1～3ミリの砂粒を含む	胴部線刻あり
〃	147	〃	壺	口縁部～底部	口唇部 よこナデ 口縁部，胴部上半 ハケメ 胴部下半 ケズリぎみのナデ	口縁部 ハケメ 肩部 ゆびおさえ ハケメのあとナデ	良好	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	にぶい橙色 (7.5YR 7/4) 灰 (5Y 5/1)	0.2～3ミリの砂粒を含む	肩部，胴部下半線刻あり
〃	148	〃	壺	完形	口唇部 よこナデ ハケメ	口縁部，胴部 ナデ 肩部 ゆびおさえ 胴部下半 ハケメ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4) 灰 (10YR 5/1)	1～2ミリの砂粒を含む	肩部線刻あり
〃	149	〃	壺	口縁部～底部	口唇部 よこナデ ハケメ	口縁部，胴部上半 ナデ 胴部下半 ハケメ	良好	橙色 (7.5YR 7/6)	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	砂粒を含む	胴部下半～底部線刻あり
〃	150	〃	壺	口縁部～胴部下半	ハケメ 胴部下半 ケズリぎみのナデ	口縁部，胴部下半 ハケメ 肩部 ゆびおさえ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	1～3ミリの砂粒を多く含む	口唇部，櫛描波状文
〃	151	〃	壺	口縁部～胴部下半	口縁部 ハケメのあとナデ ハケメのあとミガキ	口縁部 ナデ 頸部～肩部 ゆびおさえ，シボリ 胴部下半 ハケメ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	2～4ミリの砂粒を含む	胴部線刻あり 口縁，櫛描波状文
〃	152	〃	壺	完形	口縁部 ナデ 胴部上半 ハケメ 胴部下半 ハケメのあとナデ	口縁部 ナデ 胴部下半 ハケメ	良好	橙色 (7.5YR 7/6)	橙色 (7.5YR 7/6)	0.5～2ミリ程の砂粒を含む	
〃	153	〃	壺	頸部～底部	ハケメ 胴部下半 ナデ	頸部 よこナデ 胴部上半 ゆびおさえ 胴部下半 ハケメ＋板ナデ	良好	橙色 (7.5YR 7/6)	にぶい橙色 (5YR 7/4) 灰 (5Y 5/1)	きめ細かい 1～6ミリの砂粒を多く含む	肩部，線刻あり
〃	154	〃	短頸壺	完形	口縁部 ゆびおさえ ナデ	ゆびおさえ	良好	橙色 (7.5YR 7/6) 橙色 (5YR 7/6)	橙色 (7.5YR 7/6) にぶい黄橙色 (10YR 7/2)	きめ細かい 1～8ミリ程の砂粒を含む	丸底に近い平底
〃	155	〃	無頸壺	完形	肩部 ゆびおさえ 胴部上半 ヘラナデ 胴部下半 ナデ 底部 板状によるケズリ	肩部 ゆびおさえ，シボリ ヘラナデ	良好	黄橙色 (7.5YR 7/8)	にぶい橙 (5YR 7/4)	きめ細かい 1～5ミリの砂粒を多く含む	内外面，底部付近に粒痕あり
30	156	〃	鉢	完形	口縁部 よこナデ 胴部上半 ハケメ 胴部下半 ナデ	口縁部 よこナデ ハケメ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	2～5ミリの砂粒を含む	内外面部分的にスス付着
〃	157	〃	鉢	完形	口縁部，胴部下半 ハケメのあとゆびおさえ 胴部上半 ハケメ	口縁部 ゆびおさえ 胴部 ハケメ 胴部下半 調整不明	良好	黄橙色 (10YR 8/6)	明黄褐 (10YR 7/6)	きめ細か 1～3ミリの砂粒を含む	内面風化
〃	158	〃	鉢	口縁部～底部	口縁部，底部 よこナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ 胴部下半 ナデ	良好	橙色 (5YR 7/6)	橙色 (5YR 7/6)	きめ細か 1ミリ程の砂粒を含む	
〃	159	〃	鉢	口縁部～底部	ナデ	胴部上半 ハケメ 胴部下半 ナデ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	橙色 (7.5YR 7/6)	きめ細か 0.5～4ミリ程の砂粒を含む	外面一部スス付着
〃	160	〃	鉢	口縁部～底部	口縁部 よこナデ ナデ	ナデ	良好	橙色 (7.5YR 7/6)	橙色 (7.5YR 7/6)	0.1～5ミリの砂粒を多く含む	
〃	161	〃	鉢	口縁部～底部	口縁部，胴部上半 ミガキ 胴部下半 ハケメ＋ミガキ	口縁部 ハケメ 胴部 ナデ一部ハケメ	良好	明黄褐色 (10YR 7/6)	明黄褐色 (10YR 7/6)	0.5～4ミリの砂粒を含む	内面風化
〃	162	〃	高坏	口縁部～脚部	坏口縁部 よこナデ 坏下半部，脚部 ミガキ	坏部 ミガキ 脚部 ゆびおさえ	良好	橙色 (7.5YR 8/6)	橙色 (7.5YR 8/6)	2ミリ程の砂粒を含む	透かし脚部4ヶ所
〃	163	〃	高坏	口縁部～脚部	坏口縁部 よこナデ 坏下半部 ハケメ 脚部 ミガキ	坏部 ミガキ 脚部 ナデ，シボリ	良好	橙色 (7.5YR 7/6) 橙色 (5YR 7/6)	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	0.5～3ミリ程の砂粒を多く含む	透かし脚部4ヶ所
〃	164	〃	高坏	口縁部～脚部	坏部 ミガキ 脚部 ミガキ	坏口縁部 ミガキ 坏部下半 ナデ	良好	橙色 (7.5YR 7/6)	橙色 (7.5YR 7/6)	0.5～3ミリ程の砂粒を含む	透かし脚部4ヶ所
〃	165	〃	高坏	口縁部～脚上部	坏口縁 よこナデ 坏下半 ハケメ＋ヘラミガキ 脚部 ヘラミガキ	坏部 ヘラミガキ 脚部 ゆびおさえ	良好	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	淡黄色 (2.5Y 8/4)	0.2～3ミリの砂粒を含む	透かし 4ヶ所
31	166	〃	器台	完形	ハケメ 脚裾 ヘラナデ	受部 ハケメ＋ゆびおさえ ハケメ	良好	橙色 (5YR 6/6)	橙色 (5YR 6/6)	2～4ミリの砂粒を含む	
〃	167	〃	器台	口縁部～脚部	口縁部 櫛描波状文 脚部すそ ハケメのあとヘラナデ ハケメ	口縁部 ナデ 脚部上・すそ ハケメ ゆびおさえ	良好	橙色 (5YR 7/6) (7.5YR 7/6)	橙色 (5YR 7/6) (7.5YR 7/6)	0.5～2ミリの砂粒を含む	風化透かし脚部・上段下段4ヶ所
〃	168	B地区SA6	甕	完形	口縁部 ナデ 頸部 ゆびおさえのあとナデ 底部 ゆびおさえ	口縁部 ハケメのあとナデ 頸部 ゆびおさえ ナデ	良好	明黄褐色 (10YR 7/6) にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	1～5ミリの砂粒を含む	外面スス付着
〃	169	〃	甕	口縁部～底部	口唇部 ナデ 胴部 ハケメ 底部 ゆびおさえ・よこナデ	口縁部 ゆびおさえ・ハケメ 胴部上半 ハケメ 胴部下半 ナデ	良好	灰白色 (10YR 8/2) 浅黄橙色 (7.5YR 8/4)	浅黄橙色 (10YR 8/4)	きめが粗い 2～5ミリの砂粒を含む	外面スス付着 風化
〃	170	〃	甕	口縁部～底部	口縁部 よこナデ 頸部 ハケのあと 底部 ゆびおさえ	口縁部 よこナデ 頸部 ゆびおさえ ナデ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/4)	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	2～5ミリの砂粒を含む	外面スス付着 風化
〃	171	〃	甕	口縁部～胴部	ナデ	頸部 ゆびおさえ ナデ	良好	浅黄橙色 (7.5YR 8/6)	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	1～4ミリの砂粒を含む	外面スス付着
〃	172	〃	壺	口縁部～底部	口縁部 よこナデ 胴部上半 ハケメ 胴部下半 ナデ・ハケメ	口縁部 ハケメのあとナデ 胴部上半 ゆびおさえ 胴部下半 ハケメ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/4)	浅黄橙色 (10YR 8/4)	1～2ミリの砂粒を含む	
〃	173	〃	壺	口縁部～底部	ハケメ	口縁部 わずかにハケメ 肩部 シボリ 胴部 ハケメ，底部ゆびおさえ	良好	浅黄橙色 (7.5YR 8/4)	浅黄橙色 (7.5YR 8/4)	1～3ミリの砂粒を含む	胴部線刻あり 風化
32	174	〃	—	底部	ナデ ゆびおさえ	ナデ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 8/3)	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	1～5ミリの砂粒を含む	
〃	175	〃	甕？	底部	ハケメ	ハケメ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	にぶい黄橙色 (10YR 6/4)	0.5～2ミリの砂粒を含む	
〃	176	〃	壺	底部	ヘラミガキ	ナデ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/3)	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	0.5～3ミリの砂粒を含む	風化
〃	177	〃	壺	底部	ナデ	ナデ	良好	橙色 (7.5YR 6/6)	褐灰色 (7.5YR 5/1)	2～3ミリの砂粒を含む	
〃	178	〃	鉢	口縁部～胴部	口縁部 よこナデ 頸部 ハケメ	ナデ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/4)	浅黄橙色 (10YR 8/4)	0.5～3ミリの砂粒を含む	
〃	179	〃	鉢	口縁部	ハケメのあとヘラミガキ	よこナデ ヘラミガキ	良好	浅黄橙色 (7.5YR 8/6)	浅黄橙色 (7.5YR 8/3)	きめ細かい 1ミリ程の砂粒を含む	
〃	180	〃	鉢	口縁部	口唇部 よこナデ ヘラミガキ	ナデ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/3)	浅黄橙色 (10YR 8/3)	きめ細かい 1～2ミリの砂粒を含む	
〃	181	〃	鉢	完形	ゆびおさえ	ナデ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/4)	浅黄橙色 (10YR 8/4)	1～2ミリの砂粒を含む	ミニチュア
〃	182	B地区SA7	甕	完形	ナデ	ナデ	良好	橙色 (7.5YR 7/6) 浅黄橙色 (7.5YR 8/4)	橙色 (7.5YR 7/6) にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	2ミリ程の砂粒を多く含む	外面スス付着
〃	183	〃	甕	口縁部～胴部	ナデ 板状工具による強いナデ	ナデ	良好	浅黄橙色 (7.5YR 8/4) 明褐灰色 (7.5YR 7/2)	浅黄橙色 (7.5YR 8/4)	2～5ミリの砂粒を含む	外面スス付着

図面番号	遺物番号	遺構名	器形	部位	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
					外面	内面		外面	内面		
32	184	B地区 SA7	甕	口縁部〜胴部	ナデ	ナデ	やや不良	橙色 (5YR 7/6)	橙色 (5YR 7/6)	1〜5ミリの砂粒を含む	
〃	185	〃	甕	口縁部〜胴部	胴部 ゆびおさえ ナデ	口縁部 よこナデ 頸部 ゆびおさえ 胴部 ナデ	良好	浅黄橙色 (7.5YR 8/4)	浅黄橙色 (7.5YR 8/4) にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	きめ細かい 0.5〜4ミリの砂粒を含む	
〃	186	〃	—	胴部〜底部	胴部 ナデ 底部 ゆびおさえ	胴部 ナデ 底部 ゆびおさえ	良好	淡橙色 (5YR 8/3)	浅黄橙色 (10YR 8/3)	きめ細かい 0.5〜4ミリの砂粒を含む	
〃	187	〃	高坏	坏部	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙色 (5YR 7/4) 浅黄橙色 (7.5YR 8/3)	浅黄橙色 (10YR 8/4) (7.5YR 8/3)	0.5〜2ミリの砂粒を多く含む	風化
〃	188	〃	高坏	坏部	ミガキ（単位不明）	ミガキ（単位不明）	やや良好	橙色 (5YR 7/6)	橙色 (5YR 7/6)	きめ細かい 1ミリ程の砂粒を多く含む	風化
〃	189	〃	高坏	脚部	ミガキ	ナデ	良好	にぶい橙色 (7.5YR 7/4) にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	きめ細かい 0.5〜2ミリの砂粒を含む	内面スス付着 透かし推定4ヶ所
〃	190	B地区 SA8	甕	完形	口縁部 よこナデ 胴部 ナデ 底部 ゆびおさえ	口縁部 よこナデ ナデ	良好	にぶい橙色 (5YR 7/4)	にぶい橙色 (5YR 7/4)	きめ細かい 1〜3ミリの砂粒を多く含む	外面スス付着
〃	191	〃	甕	完形	底部 ゆびおさえ ナデ	口縁部 よこナデ ナデ	良好	浅黄橙色 (7.5YR 8/6)	浅黄橙色 (7.5YR 8/6)	1〜3ミリの砂粒を含む	外面スス付着 風化
33	192	〃	甕	口縁部〜底部	口縁部 よこナデ ナデ	口縁部 よこナデ ナデ	良好	暗灰黄色 (2.5Y 5/2)	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	1〜2ミリの砂粒，8ミリの砂粒を含む	外面スス付着
〃	193	〃	甕	口縁部〜胴部	ハケメ	口縁部 よこナデ，ハケメ 胴部 ナデ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	浅黄橙色 (10YR 8/4)	2〜4ミリの砂粒を含む	外面スス付着
〃	194	〃	甕	口縁部〜胴部	口縁部 よこナデ 胴部 ナデ	ナデ	良好	浅黄橙色 (7.5YR 8/6)	橙色 (7.5YR 7/6)	1〜5ミリの砂粒を多く含む	外面スス付着
〃	195	〃	甕	口縁部〜肩部	口縁部 よこナデ 肩部 ハケメのあとナデ	口縁部 ナデ 肩部 ハケメのあとナデ	良好	浅黄橙色 (7.5YR 8/4)	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	きめ細かい 1〜4ミリの砂粒を含む	風化
〃	196	〃	壺	肩部〜底部	肩部 よこナデ 胴部 ナデ ケズリぎみのナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	にぶい橙色 (7.5YR 7/4) 褐灰色 (10YR 6/1)	細砂粒を含む	
〃	197	〃	壺	頸部〜胴部	ヘラミガキ	肩部 ナデ・ゆびおさえ 胴部 ゆびおさえ・ハケメ	良好	橙色 (7.5YR 6/6)	浅黄橙色 (10YR 8/4)	1〜3ミリの砂粒を多く含む	風化
〃	198	〃	鉢	口縁部〜胴部	ハケメ	口縁部 わずかにハケメ ナデ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	浅黄橙色 (7.5YR 8/4)	3ミリの砂粒を含む	外面スス付着
〃	199	〃	鉢	口縁部〜底部	口縁部 ナデ 胴部 ハケメ 底部 ナデ	ハケメのあとナデ	良好	橙色 (7.5YR 7/6)	橙色 (7.5YR 7/6)	2〜3ミリの砂粒を多く含む	
〃	200	〃	鉢	口縁部〜底部	口縁部 よこナデ ナデ	口縁部 よこナデ ナデ	良好	橙色 (7.5YR 7/6)	褐色 (10YR 5/4)	2〜3ミリの砂粒を含む	
〃	201	〃	鉢	完形	よこナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	にぶい黄橙色 (10YR 7/4)	細砂粒を多く含む	
〃	202	〃	鉢	口縁部〜底部	口縁部 よこナデ 底部 2段の櫛描波状文 ミガキ	口縁部・胴部上半 よこナデ ミガキ	良好	橙色 (5YR 7/6)	橙色 (5YR 7/6)	0.5〜1ミリの砂粒を含む	風化
〃	203	〃	高坏	坏部	ミガキ（単位不明）	ミガキ（単位不明）	良好	橙色 (7.5YR 7/6)	橙色 (7.5YR 7/6)	きめ細かい 1〜2ミリの砂粒を含む	風化
〃	204	〃	高坏	坏部	口唇部 よこナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/4)	浅黄橙色 (10YR 8/4)	1ミリ程の砂粒を多く含む	
〃	205	〃	高坏	坏部	ヘラミガキ (滑らかで単位不明)	ヘラミガキ	良好	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	にぶい黄橙色 (10YR 7/3)	0.5〜2ミリの砂粒を含む	
〃	206	〃	器台	完形	口縁部 よこナデ ミガキ	口縁部 ミガキ ナデ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/4)	浅黄橙色 (10YR 8/4)	0.5〜4ミリの砂粒を含む	透かし4ヶ所 風化
〃	207	試掘	壺	完形	口縁部 よこナデ 胴部 ハケメ 底部 ゆびおさえ	口縁部 よこナデ 肩部 ゆびおさえ ナデ	良好	浅黄橙色 (7.5YR 8/4)	浅黄橙色 (7.5YR 8/4)	2〜4ミリの砂粒を含む	頸部 ヘラキザミ
34	208	SA10	甕	ほぼ完形	口縁部 横ナデ 胴部 ナデ目一部スス付着 底部 ナデ	口縁部 ハケ目 胴部 ハケ目 中程に指頭痕	良好	明黄褐 (10YR 7/6)	明黄褐 (10YR 7/6)	きめ細か 0.2〜4mm程の灰、茶、黒等の砂粒を多く含む	スス付着 あけ底
〃	209	〃	鉢	ほぼ完形	口縁部 ナデ 胴部 ハケ目指押え一部黒斑 底部 ハケ目	口縁部 風化のため調整不明 胴部から底部 たて方向のハケ目	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	浅黄橙 (10YR 8/4)	白色の粒を含む 1〜3mm大の茶色の粒を多く含む	
〃	210	〃	壺	胴部下半〜底部	胴部 横ヘラミガキ 底部 ナデ	ハケ目	良好	浅黄橙色 (10YR 8/4)	淡黄色 (2.5Y 8/3) 浅黄色 (2.5Y 7/3)	0.2〜2mmの褐色，灰色，白色の砂粒を含む	そろばん型？
〃	211	〃	鉢？	底部	胴部 底部付近は横ナデ 底部 横ナデ	底部 ナデ，黒変	良好	にぶい橙色 (10YR 7/4) 灰色 (5Y 4/1)	にぶい黄橙色 (10YR 7/4) 灰色 (5Y 4/1)	0.2mm前後の灰色，白色の砂粒と石英，角閃石？を含む	穿孔 2ヶ所あり
〃	212	〃	鉢	ほぼ完形	口縁部 横ナデ 胴部 ナデ 底部 ナデ	口縁部〜胴部〜底部 板状のもので斜めたてのナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	4mm以下の茶色の粒が多量に含まれる。細砂粒も含む	平底
〃	213	〃	鉢	ほぼ完形	口縁部 ナデ 胴部 斜め方向のハケ目，指押え	口縁から底部までナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	褐灰 (10YR 5/1)	砂粒を含む	
〃	214	SA11	甕？	底部	胴部 底部付近ナデ	胴部 底部付近ナデ 斜方向ハケ目	良好	浅黄 (2.5Y 7/4)	黒褐 (2.5Y 3/1)	2mm大の茶色の粒と細砂粒を含む	
〃	215	〃	壺	口縁部	口縁部 ナデ	口縁部 ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4) 淡黄 (2.5Y 8/3)	淡黄 (2.5Y 8/3) 褐 明黄褐 (10YR 7/6)	黒く光る粒，透明な粒，1mm大の白い粒を含む。1mm内の砂粒を多く含む	〉同一個体
〃	216	〃	壺	頸部〜底部	胴部 ハケ目のあとミガキ 底部 ミガキ	胴部 ハケ目からナデ 底部 ナデ一部黒斑	良好	同上	同上	同上	
〃	217	〃	小型甕	完形	口縁部 横ナデ 胴部 中位タテ方向ナデ 下位斜方向のハケメ指調整	口縁 指による調整 胴部 上位ナデ下位はタテ方向にナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	1〜3mm程度の砂粒を多く含む	スス付着 全体の1/4黒斑
〃	218	SA12	甕	ほぼ完形	口縁部から底部までナデ 底部付近は指押え	ナデ	良好	明黄褐 (2.5Y 7/6)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	きめ細かいごく細かな砂粒，4mm大までの，黒，茶，褐等の砂粒を多く含む，透明に光る粒を含む	スス付着
〃	219	〃	甕	完形	口縁部 ナデ 胴部 ナデ 底部付近は指押えていねい，充填の痕跡なし 底部 ナデ	口縁部 ナデ 胴部 ナデ 黒変	良好	浅黄橙(10YR 8/4) 橙 (7.5YR 7/6) 黒(ススス)(10YR 2/1)	浅黄 (2.5Y 8/4) 灰(黒変) (5Y 5/1)	4mm前後の茶，灰の粒を多く含む	スス付着 あげ底
35	220	〃	甕	完形	口縁部 ナデ 胴部 ナデ指押圧 底部 ナデ	口縁部 ナデ 胴部 タテ，斜のハケのあとナデ 底部 タテハケの上をナデ	良好	上半部 橙 (7.5YR 7/6) 下半部 にぶい黄橙 (10YR 7/4)	浅黄 (2.5Y 7/4)	暗灰，褐色の丸味のある細礫(1.5〜5mm)赤色酸化鉄粒〜塊，細かい砂粒等を多く含む	スス付着
〃	221	〃	甕	完形	口縁部 横ナデ 胴部 ハケメのあと部分的にナデ 底部 指押え	口縁部 横ナデのあとハケメ 胴部 ハケ 底部 指押え	良好	にぶい橙色 (5YR 7/4)	橙色 (5YR 7/6)	1〜4mmの砂粒を含む 1mm弱の透明粒を少量含む	スス付着 三種類の原体
〃	222	〃	甕	完形	口縁部から胴部上半までナデ 胴部下半 ハケ目 底部は粗いナデ	口縁から底部にかけてナデ 下位は黒変	良好	橙 (7.5YR 7/6) 黒(スス付着) (10YR 3/1)	明黄褐 (10YR 7/6) 黒褐(黒変部) (10YR 3/1)	2〜3mmの茶，灰の砂粒を多く含む	スス付着
〃	223	〃	甕	完形	口縁部 ナデ 胴部 横ナデとタテナデ 底部 ナデ	口縁部 ナデ 胴部から底部 ナデ一部指押え	良好	浅黄 (2.5Y 7/3) スス部分黒 (2.5Y 3/1)	浅黄 (2.5Y 7/3) 胴部 黄灰(2.5Y 4/1) 下半部 黒(2.5Y 3/1)	細かな砂粒の他，暗灰色〜褐色の丸味のある細礫(径1〜3mm)を多く含む，2〜3mmのもの最多，赤色の酸化鉄粒を含む	スス付着
〃	224	〃	甕	ほぼ完形	風化著しく調整不鮮明 底部 ナデ	口縁部 ナデ 胴部 ハケ	良好	淡黄 (2.5Y 8/3) にぶい黄橙(10YR 8/4) 褐灰 (10YR 8/1)	浅黄橙 (10YR 8/4) 明黄褐(10YR 8/6) 暗灰黄(2.5Y 5/2)	1〜4mm大の灰，茶色の粒を多く含む	あげ底
36	225	〃	甕	完形	口縁部〜胴部 横方向の粗いハケのあと斜ハケ ハケ部分的にナデ 下半削り状のナデ 底部 指ナデ	口縁部 ハケ調整のあと指おさえ 胴部 ハケ 底部 指おさえ	良好	橙色 (5YR 7/6)	橙色 (5YR 7/6)	1〜3mm程度の砂粒を多く含む	スス付着 三種類のハケ原体
〃	226	〃	甕	完形	口縁部 横ナデ 頸部から底部 ハケ 底部 指ナデ	口縁部 横ナデ 胴部 ハケ 底部 指ナデ	良	橙色 (2.5YR 6/6)	橙色 (2.5YR 6/6) 下半は黒褐色	1〜3mm程度の砂粒を多量に含む	スス付着
〃	227	〃	小型の甕	完形	口縁部 指押え，ナデ 胴部 ハケ 底部 ナデ	口縁部 ハケ目 胴部 タテハケ目 底部 指おさえ	良好	上半…にぶい黄橙色 (10YR 7/3) 下半…にぶい橙色 (7.5YR 6/4)	にぶい黄橙色 (10Y 7/4)	1mm強の砂粒を含む	スス付着

図面番号	遺物番号	遺構名	器形	部位	文様および調整 外面	文様および調整 内面	焼成	色調 外面	色調 内面	胎土	備考
36	228	SA12	甕	完形	口縁から胴部上半はナデ 胴部下半はハケによる削り	口縁部 横ナデ 胴部 ナデ 底部 ハケでついたような跡	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	にぶい黄 (2.5Y 6/4)	2～3mmの砂粒を含む	スス付着
〃	229	〃	甕	完形	口縁部 ハケのあとナデ 胴部 摩耗のため調整不明 底部 ナデ 粗いナデ	口縁部 ナデ 胴部 ハケ 底部 ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	黄橙 (10YR 8/6) 下半部…黒 (10YR 2/1)	暗灰～褐色の丸味のある細礫(2～3mm)沼鉄鉱(赤変細かいもの～1.4cm)を含む	スス付着 平底に近い若干のあげ底
37	230	〃	壺	完形	口縁部 横ナデ 胴部 上半はタテハケ一部ナデ 下半は横ハケのあと粗いナデ	口縁部 横ナデ 胴部 上半ナデ 下半はハケ 底部 指おさえ	良好	橙色 (5YR 7/6)	上半…にぶい赤褐色 (2.5YR 5/4)	1mm弱の砂粒を少量含む	
〃	231	〃	壺	完形	口縁部から胴部上半はナデ 下半はけずりに近いナデ 底部 ナデ	口縁から胴部上半 指おさえ	良好	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	砂粒を少量含む	
〃	232	〃	壺	完形	口縁部 横ナデ 頸部 横ナデのあとタテハケ目 胴部 ハケ目のあとナデ 下半はナデ 底部 ナデのあとていねいなみがき	口縁部 横ナデ	良好	橙色 (5YR 7/8)	暗赤褐色 (5YR 3/4)	1～3mm程度の砂粒含む	尖底気味の丸底
〃	233	〃	壺	完形	口縁部 横ナデ 頸部 横ナデのあとハケ目 胴部 上半 タテハケ ナデ 下半ハケ 底部 ていねいなナデ	口縁部 指おさえのあと横ナデ 頸部 横ナデ 胴部から底部 指ナデ	良好	にぶい橙色 (7.5YR 6/4)	にぶい橙色 (7.5YR 7/3)	1mm弱の砂粒を少量含む	三種類のハケ原体
〃	234	〃	壺	頸部～底部	ナデ	ナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	砂粒を少量含む	胴部下半から底部にかけて一条の線刻
〃	235	〃	壺	完形	口縁部 横ナデ 胴部 ハケ状のナデ 底部 部分的にハケ原体によるケズリ	口縁部 横ナデ 胴部 指圧の後なで上げ 一部ハケ目が残る	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	2mmくらいの砂粒を含む	頸部から胴部にかけて二本の線刻
〃	236	〃	壺	完形	口縁部 ナデ 胴部 ナデ 頸部付近はハケ目 底部 ナデ ハケ目原体によるおさえ	口縁部 指による横ナデ	良好	黄橙色 (10YR 8/6)	にぶい黄褐色 (10YR 4/3)	1～3mm程度の砂粒を含む	頸から胴部にかけて4本の線刻
〃	237	〃	壺	完形	口縁部 横ナデ 頸部 ハケ目 胴部 斜ヨコのハケメ 底部 ていねいなナデ	口縁部 横ナデ 胴部 上半 しぼり 下半 指なで	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4) 褐 (10YR 5/4, 5/3)	褐 (10YR 5/4, 4/) にぶい橙 (7.5YR 7/4)	0.5～2mm前後の茶黒色の砂粒を含む	胴上半に一条の波状線刻文
〃	238	〃	壺	完形	口縁部 横ナデ 頸部 タテハケのあと横ナデ 胴部 ハケ目のあと粗いナデ 底部 ハケ目	胴部 上半指おさえ 下半ハケメあとナデ	良好	淡黄 (2.5Y 8/4)	淡黄 (2.5Y 8/4)	1～3mmの茶の粒を含む 1cm前後のものもある	胴中位に弧状の線刻
〃	239	〃	壺	完形	口縁部 横ナデ 胴部 ハケ目	口縁部 横ナデ 胴部～底部 ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	黒,灰,褐色の砂粒を含む	胴中位に弧状の線刻下半に曲線及び直線線刻
38	240	〃	壺	完形	口縁部 横ナデ 胴部 タテ斜めハケ	胴部 上部タテナデあとは風化のため調整不明	良好	にぶい黄橙 (10YR 6/3)	灰 (5Y 5/1)	細かい砂粒の他1mm～5mmの砂粒を多く含む	
〃	241	〃	壺	完形	口縁部 ハケ目 胴部 上半はヘラミガキ 下半はハケのあとミガキ	胴部 上半 指おさえ 中位はハケ目 下半はナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	1～3mmの砂粒を多量に含む	黒斑有り頸部下半に一条の細沈線のち重弧文
〃	242	〃	壺	胴部～底部	胴部 上半はタテのヘラミガキ 中位はヨコのヘラミガキ 底部ナデ 下半はヨコのヘラミガキ	胴部 上位はシボリ 中位は指ナデ 〃下半部…黒	良好	胴上半部…淡黄 (2.5Y 8/3) 〃下半部…黒	オリーブ黒 (5Y 3/1)	白,灰,透明に光る細砂粒を含む	乳房状底部
〃	243	〃	鉢	完形	口縁部 横ナデ 胴部 ナデ 底部 指おさえ ナデ	口縁部 粗い横ナデ 胴部 ていねいなナデ	良好	橙色 (2.5YR 6/6)	橙色 (2.5YR 6/6)	1mm強の砂粒を多量に含む	あげ底
〃	244	〃	高坏	坏部から脚部上半	口縁部 ナデの上をヘラミガキ 坏部 タテハケの上をヘラミガキ 脚 タテヘラミガキ	口縁部 タテヘラミガキ 坏部 タテヘラミガキ 脚内部 ナデ タテ方向の指あと有り	良好	淡黄 (2.5Y 8/4)	淡黄 (2.5Y 8/3) 脚部内面灰 (5Y 5/1)	白色,無色透明有光沢黒色の細かい砂粒と灰～暗褐色の砂粒,赤色の砂粒を多く含む	
〃	245	〃	高坏	完形	口縁部 横方向のヘラ 坏部 ハケ 脚 タテ方向のハケ？	脚内部 上半 指ナデ 下半 横ナデ	良好	黄橙 (7.5YR 7/6)	黄橙 (7.5YR 7/6)	2mm～5mmの砂粒を多く含む	二段に円形スカシ,上・下段が4個 計8個
〃	246	〃	器台	完形	拡張部 タテ方向のハケ目のあと横ナデ くびれ部 横方向のナデ 指によるナデ 裾部 タテ方向のヘラミガキ	拡張部 横ナデ くびれ部 部分的に粗いみがき他はナデ 裾部 指によるナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	黄 (2.5Y 8/6)	砂粒を含む	
39	247	SA13	壺	頸部～底部	口縁部 タテ方向のミガキ 胴部 上半ハケメのあとミガキ 下半ミガキ 底部 ナデ	口縁部 ナデ 胴部 剝離しているため調整不明 底部 少しハケ目の痕がある	良好	橙 (7.5YR 6/6)	橙 (7.5YR 6/6) (7.5Y 4/1)	白,茶の1～2mm大の砂粒を含む 0.5～1mm大の粒を含む	
〃	248	〃	甕	完形	口縁部 ハケ 胴部 下半・けずり状のハケ 底部 指ナデ	口縁部 ハケ 胴部 ハケ 底部 指ナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	きめ細か,灰,茶,黒等の0.2～3mm大の砂粒を多く含む	スス付着 あげ底
〃	249	〃	高坏	半完形	口縁部 横ナデ 坏部 内を描くような方向のハケ目 脚 タテ方向のヘラミガキ	口縁部 横方向のヘラミガキ ヘラミガキ 脚内部 指で整形	良好	橙 (7.5YR 7/6)	明黄褐 (10YR 7/6)	2～3mmの砂粒, 石英を多く含む	脚部下半に4個の円形スカシ
〃	250	SA14	甕	ほぼ完形	口縁部 ナデ一部指おさえ 胴部 タテ方向のナデ 下半ケズリ状のナデ 底部 指おさえ	口縁部 横ナデ 胴部 上半横ナデ 下半タテ方向のナデ 底部 指おさえ	良好	明黄褐 (10YR 7/6)	明黄褐 (10YR 7/6)	8mm以下の灰,茶,黒,白透明の粒及び光る微粒を含む	一部スス付着 あげ底
〃	251	〃	甕	完形	口縁部 タテ方向のハケメ 胴部 ハケメ 下半 指押え 底部 ナデ	口縁部 横ナデ 胴部 ナデ 上半 指押え 底部 指押え	良好	上半部にぶい黄橙 (10YR 7/4) 下半部にぶい黄橙 (10YR 7/4)	口縁部淡黄 (2.5Y 8/4) 胴部 黄灰 (2.5Y 5/1)	2mm前後の茶,白,灰の粒を含む	スス付着
〃	252	〃	小型甕	完形	口縁部 横ナデ 胴部 ナデ 底部 ナデ	口縁部 ナデ 胴部 ナデ一部指押え 底部 指おさえ	良好	浅黄色 (7.5YR 8/4) 底部にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	3mm前後の黒,茶,灰,白透明の粒及び2mm前後の灰,茶,白透明の砂粒を含む	平底
〃	253	〃	甕	完形	口縁部 ハケメ 指押え 胴部 上半ハケ目 中位ナデ 下半ハケメ 底部 ナデ	口縁部 横ナデ 胴部 上半は指おさえ 下半ナデ 底部 指おさえ	良好	にぶい黄橙 (10YR 8/4)	にぶい黄橙 (10YR 8/4) にぶい黄橙 (10YR 7/2)	4mm前後の茶,灰,黒,白透明の粒及び2mm前後の茶,灰,黒,白透明の砂粒を含む	あげ底
40	254	〃	甕	ほぼ完形	口縁部 タテナデの後横ナデ 胴部 上半ハケ目 下半削り状ナデ 底部 ナデ	口縁部 ナデ(風化) 胴部 指でのナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 6/4) 橙 (7.5YR 6/6) 灰黄褐(10YR 5/2)	にぶい黄橙 (10YR 8/4) 橙 (7.5YR 6/6, 6/4)	1～4mm大の灰, 茶色の粒を割に多く含む	スス付着 あげ底
〃	255	〃	甕	完形	口縁部 ナデ,ハケ目 胴部 ハケ目 下部 指押え 底部 ナデ	口縁部 横ナデ 胴部 指押えの後斜ハケ 下半から底部は風化のため調整不明	良好	にぶい黄褐 (10YR 5/3, 5/4) 橙 (7.5YR 6/6) 黒 (2.5YR 2/1)	にぶい黄橙 (10YR 7/4) 褐 (10YR 4/1)	1～4mm大の白,茶,灰色の粒を含む	あげ底 スス付着
〃	256	〃	甕	口縁から胴部下半	口縁部 指押えの後ナデ 胴部 タテ方向のナデ	口縁部 横方向のハケの後ナデ 胴部 タテ方向のナデ原体の幅で凹凸が残る	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	浅黄 (2.5Y 7/4)	2～3mm前後の灰,茶,白透明,黒色の粒及び1mm前後の灰,茶,白透明,黒色の砂粒及び光る微粒含む	
〃	257	〃	壺	ほぼ完形	口縁部 横ナデ 胴部 ハケ目 下部 ナデ 底部 ハケによる粗い調整	口縁部 指押え 胴部 ナデ	良好	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	0.2～4mmの褐色, 灰色の砂粒を含む	
〃	258	〃	壺	ほぼ完形	口縁部から胴部上半にかけては風化著しい 胴部下半 ハケ目 黒斑	口縁部 風化著しい 胴部 ナデ 上部指頭痕あり	良好	橙(7.5YR 7/6) 橙(7.5YR 7/4) 黒(7.5YR 2/1)	橙 (5YR 6/6) 橙 (5YR 7/4)	1～5mm大の砂粒を多く含む	
〃	259	〃	壺	完形	口縁部 指の後ハケ 黒斑 胴部 ハケの後ナデ	口縁部 横ナデ 胴部 上半は指による調整 下半は横ナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR 7/4) 褐 (7.5YR 4/3) 灰 (7.5YR 5/1)	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	きめ細かい 1～2.5mmの砂粒を含む	
〃	260	〃	壺	口縁～胴部下半	口縁部 風化のため調整不明 胴部 ヘラミガキと思われるが部分的に剝離している	口縁部 ナデ 胴部 上半 指押え 下半 ミガキ 黒斑	良好	橙(5YR 6/6) 橙(7.5YR 7/6) 褐灰(黒斑)(7.5YR 5/1)	橙 (7.5YR 7/6) 褐灰(黒斑) (7.5YR 5/2)	1～6mmの砂粒を多く含む	
41	261	〃	壺	完形	風化著しく調整不明 胴部下半一部黒斑	胴部 指頭痕	良好	黄橙 (7.5YR 8/6)	明黄褐 (10YR 7/6)	きめ細か, 灰, 茶, 黒等のごく細い砂粒, 2mm程の砂粒を含む	平底 底部付近に二本の線刻
〃	262	〃	壺	胴部	ナデ	ナデ	良好	浅黄橙色 (10YR 8/3)	灰黄色 (2.5Y 7/2)	0.1～2mmの褐色, 灰色の砂粒を含む	上向きの重弧文及び多条沈線
〃	263	〃	高坏	坏部～脚部上半	口縁部 ハケナデ 坏部 ナデ 脚 ヘラミガキ	口縁部 横ナデ 坏部 ヘラミガキ	良好	明黄褐 (10YR 7/6) 黄橙 (10YR 7/8)	明黄褐 (10YR 7/6)	1～3mmの砂粒を多く含む	脚部中央に4個の円形スカシ
〃	264	〃	高坏	坏部	口縁端部 横方向のミガキ 体部 ナデ及びタテ方向のミガキ	口縁部 タテ方向のミガキ 屈曲部付近 横方向のミガキ 下半 タテ方向のミガキ	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	約4mmの茶色の粒, 及び2mm前後以下の茶,黒,白透明, 灰色の砂粒及び光る微粒を含む	
〃	265	〃	高坏	坏部	口縁部 横ナデに続きタテのハケ目 坏部 横方向のていねいなナデ	口縁部 タテ方向のナデ 坏部 ヨコとタテのミガキ	良好	橙 (7.5YR 7/6)	明黄褐 (10YR 7/6)	2mm前後の茶,灰,黒,透明,白及び光る微粒を含む	
〃	266	〃	高坏	坏部	口縁部 横方向のミガキ 坏部 タテ方向のミガキ	口縁部 横方向のミガキ 坏部 タテ方向のミガキ黒斑	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	3mm以下の茶,黒,白,灰,白透明の粒, 及び非常に細い砂粒及び光る微粒を含む	
〃	267	〃	高坏	坏部	口縁部 ミガキ 坏部 ナデ	口縁部 ハケ目の後横ミガキ 坏部 ハケ目の後タテミガキ	良好	橙 (7.5YR 7/6)	上半部 橙 (5YR 6/6) 下半部にぶい黄橙 (10YR 6/4)	2mm前後の茶,灰,白透明,黒透明の砂粒を含む	
〃	268	〃	高坏	脚部	脚部 タテ方向のハケ調整の後ミガキ	脚部 上半部 横方向のケズリ状のナデ 下半部 横方向のナデの後指もんがついている	良好	明黄褐 (10YR 7/6)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	2mm前後の灰,茶,白透明,黒の砂粒及び光る微粒を含む	4個の円形スカシ
〃	269	〃	高坏	脚部	脚部 上半部,ヘラ状工具の後タテナデ 下半部ヘラ状工具による横ナデの後タテ, ナナメナデ	脚部 横ナデ (板状工具による溝あり)	良好	浅黄橙色 (10YR 8/4) 灰黄 (2.5Y 8/2)	浅黄橙色 (10YR 8/4)	0.1～2mmの褐色, 灰色の砂粒を含む	4個の円形スカシ
〃	270	〃	高坏	脚部	脚部 タテヘラミガキ	脚部 ナデ 指押え 部分的に黒変	良好	にぶい橙色 (7.5YR 7/4)	にぶい橙色 (10YR 7/4) 灰色 (7.5Y 5/1)	0.1～3mmの褐色,灰色,白色の砂粒を含む	4個の円形スカシ
〃	271	〃	鉢	完形	口縁部 斜方向のハケ目 胴部 横斜め方向のハケ目 底部付近 指押えナデ	非常に粗いハケメ 時計の方向にハケメ	良好	橙 (7.5YR 6/6)	灰 (5Y 5/1)	5mm以下の灰, 茶の粒が多量に含まれる	焼きひずみ

図面番号	遺物番号	遺構名	器形	部位	文様および調整 外面	文様および調整 内面	焼成	色調 外面	色調 内面	胎土	備考
41	272	SA14	鉢	完形	口縁部 斜方向のハケ目 胴部 上半部 横ミガキ 下半部 タテミガキ	口縁部 ナデ 胴部 上半部横方向ミガキ 下半部ナデ 底部 指押え	良好	にぶい黄橙(10YR 7/4)	にぶい黄橙(10YR 8/4)	4mmの茶色の粒と2mm状の茶,灰色の粒を含む	
〃	273	〃	鉢	底部	胴部 底部付近ミガキ 底部 ていねいなナデ	底部 ナデ	良好	淡黄(2.5Y 8/3)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	約3mmの茶,白,灰の粒,及び1mm以下の黒,灰茶,白,茶色く光る砂粒を含む	
〃	274	〃	鉢	ほぼ完形	口縁部から底部までナデ	ナデ	良好	淡黄褐色 底部…暗褐色	黒褐色	2mmから5～6mmの砂粒を多く含む	
42	275	SA16	器台	くびれ部～裾部	くびれ部 上半部タテ方向ヘラミガキ 風化著しく不鮮明 裾部 下半部タテ方向のヘラミガキ ヨコナデ	くびれ部 上半部ヨコ方向のハケメ 風化のため不鮮明 下半部ヨコ方向のハケメ,ナデ 底部 横ナデ	良好	にぶい橙(7.5YR 7/4) 浅黄橙(10YR 8/4)	にぶい橙(7.5YR 7/4)	1～2mmの白,うす茶,灰色の粒を含む	裾端部に凹線状の沈線
〃	276	〃	ミニチュア	完形	口縁部 ナデ 胴部 指ナデ 底部 ナデ	口縁部 ナデ 胴部から底部 ナデ	良好	浅黄橙(10YR 8/4)	浅黄橙(10YR 8/4)	2～3mmの茶,白の粒を含む	
〃	277	〃	壺	頸部～胴部上半	頸部 上方向のハケ目 胴部 タテのハケ目	頸部 横ナデ 胴部 指ナデ	良好	浅黄橙(7.5YR 8/4)	口縁部…淡黄橙(7.5YR 8/3) 胴部…灰白(5Y 8/2)	茶,黒の細粒,2mm前後の茶の粒を含む	
〃	278	SA17	甕	ほぼ完形	口縁部 横ナデの後指押え 胴部 タテ方向のハケ目	口縁部 指で整形の後横ナデ 胴部 左から右下方向へのハケ目 底部 指で調整	良好	褐灰(10YR 4/1)	褐灰(10YR 5/1)	2～3mmの白っぽい粒を含む	
〃	279	〃	甕	口縁部～胴部上半	口縁部 ナデ 胴部 ナデ 一部黒斑,一部斜方向のハケ目	口縁部 斜方向のハケ目 黒斑 頸部 横ナデ 胴部 ハケ目	良好	橙(7.5YR 7/6) 灰一黒斑部(5Y 5/1)	にぶい黄(2.5Y 6/4) 灰一黒斑部(5Y 5/1)	1～5mmの茶,灰,白の砂粒を多く含む	頸部に台形状の刻目突帯
〃	280	〃	高坏	坏部	口縁端部が横方向のミガキ 体部がたて方向のミガキ 下半 横方向のミガキ	口縁部 タテ方向(?)ミガキ	良好	橙(7.5YR 7/6)	橙(7.5YR 7/6)	1～2mmの茶,灰の砂粒を含む	
〃	281	〃	高坏	坏部下半～脚部	坏部 タテ方向ミガキ 脚部 タテ方向ミガキ	脚内部 上半 タテナデ 中 タテナデ指押え 下半 斜方向ハケ目	良好	橙(7.5YR 8/6)	橙(7.5YR 7/6)	1～2.5mmの茶,灰,透明の砂粒を含む	5個の円形スカシ
〃	282	SA18	壺	ほぼ完形	口縁部 横ナデ 胴部 上半ナデか,下半タテハケ目 底部 ナデ 黒変	口縁部から胴部風化のため不明 胴部下半 ナデ	良好	にぶい橙色(7.5YR 7/4)	にぶい橙色(10YR 7/2)	0.2～3mmの褐色,灰色の砂粒を多く含む	胴部上半に「ム」下半に三本の線刻
〃	283	〃	壺	ほぼ完形	口縁部 横ナデ 胴部 タテハケ目の上をタテミガキ 底部 ナデ 黒変	口縁部 横ハケ目指押え 胴部 上半 指ナデ 下半 タテハケ目	良好	淡黄(2.5Y 8/4) 橙(7.5YR 7/6)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	2mm前後の茶,灰,黒の粒を含む	丸底気味の平底
43	284	〃	複合口縁壺	口縁～頸部	口縁部 櫛描波状文 頸部 タテハケ目,風化	口縁部 ナデ ハケ目 頸部 ハケ目	良好	にぶい黄橙(10YR 8/4) 橙(7.5YR 7/6)	橙(7.5YR 6/6) 黄褐(2.5Y 5/3)	1.5mm大の白,2mm幅,1.2cm長さの朱色,3.5mm大の暗赤の粒を含む 0.5～2mm大の砂粒を含む	口縁部上半に櫛描波状文の後沈線が施される
〃	285	〃	甕	完形	口縁部 横ナデ指押え 胴部 上半 ナデ 下半 風化 底部 黒斑	口縁部 横ナデハケ目 胴部 上半横ナデ 下半ヘラ状工具でのナデ底部 指押え	良好	浅黄橙(7.5YR 8/4)	浅黄橙(10YR 8/4) 一部口縁にぶい橙(10YR 7/4)	4mm前後の茶,灰,黒色の粒,及び2mm前後の茶,灰,光る黒色,白透明の砂粒を含む	上げ底 スス付着
〃	286	〃	器台	完形	口縁部 横ヘラミガキ くびれ部 タテヘラミガキ 裾部 横ヘラミガキ	口縁部 横ヘラミガキ くびれ部上半ハケ目 下半ナデ 裾部 横ナデ	良好	浅黄橙(10YR 8/3)	浅黄橙(10YR 8/3)	1～5mm大の砂粒を多く含む	くびれ部上半と下半に4個ずつの円形のスカシ
〃	287	〃	高坏	坏部	口縁部 斜方向のヘラミガキ 坏部 風化のため調整不明	口縁部 横ヘラミガキ 坏内部 タテヘラミガキ	良好	橙色(5YR 7/6)	橙(5YR 7/6) にぶい橙色(5YR 7/4)	0.1～3mmの褐色,灰色,白色の砂粒を含む	
〃	288	〃	高坏	完形	口縁部 タテヘラミガキ 坏部 横から斜のミガキ 脚部 タテミガキ	口縁部 横ミガキ 坏部 ミガキ 脚部 上半指ナデ 下半ハケ目ナデ	良好	坏部一橙(7.5YR 7/4) 脚部一淡黄(2.5Y 8/4)	坏部…浅黄(2.5Y 7/4) 脚部…浅黄(2.5Y 8/4)	1mm前後の茶,白,灰の砂粒を含む	脚部中位と下半に互い違いに4個の円形スカシ
〃	289	〃	高坏	坏部	口縁部 風化のため調整不明 坏部 ハケ目	口縁部 風化のため調整不明 坏部 ハケ目とミガキの痕,風化	良好	橙(5YR 6/6)	橙(5YR 6/6) にぶい黄橙(10YR 7/3) 約半分黒斑あり	1～2mmの茶,白,灰色の粒を含む	
〃	290	〃	高坏	完形	口縁部 ナデ 坏部 ハケメ 脚部 上半 ハケメ 下半 横ナデ風化	口縁部 ハケの後ナデ 坏部 ハケ目 脚部 横ナデ 黒変	良好	橙(7.5YR 7/6) にぶい黄橙(10YR 7/4)	にぶい橙(5YR 7/4) (5YR 7/3)	0.5～2mm弱の茶,灰色などの砂粒多く含む	
34	291	B地区SC1	甕	完形	口縁部 よこナデ・ハケメ ナデ・わずかにハケメ	口縁部 よこナデ 胴部 ハケメ 底部 ナデ	良好	浅黄橙色(10YR 8/4) 橙色(5YR 7/4)	淡黄色(2.5Y 8/3) 黄灰色(2.5Y 5/1)	0.5～3ミリの砂粒を多く含む 8ミリの砂粒を含む	風化・剝離
〃	292	〃	甕	完形	口縁部 よこナデ ハケメのあとナデ	口縁部 よこナデ ハケメ	良好	橙色(7.5YR 7/6) にぶい黄橙色(10YR 7/4)	橙色(5YR 7/6) 灰白色(10YR 8/2)	1～3ミリの砂粒多く含む	剝離
〃	293	〃	口縁部～底部	口縁部 よこナデ 肩部 ハケメ ナデ	口縁部 ハケメのあとゆびおさえ 肩部 ゆびおさえのあとハケメ 胴部 ハケメ 底部 ゆびおさえ	良好	浅黄色(2.5Y 7/4) 橙色(7.5YR 7/4)	にぶい黄橙色(10YR 7/4) 橙色(7.5YR 7/4)	2～5ミリの砂粒を含む	
〃	294	〃	甕	完形	口縁部 よこナデ・ゆびおさえ ナデ	口縁部 よこナデ 胴部 ハケメのあとナデ 底部 ゆびおさえ	良好	にぶい黄橙色(10YR 7/4)	橙色(7.5YR 7/6)	1ミリ以下の砂粒を多く含む	外面スス付着
〃	295	〃	甕	完形	口縁部 よこナデ ナデ	口縁部 よこナデ ナデ・よこナデ	良好	にぶい橙色(7.5YR 7/4) にぶい黄橙色(10YR 7/4)	にぶい黄橙色(10YR 7/4) 灰色(5Y 4/1)	0.5～2ミリの砂粒を含む	外面スス付着 風化
〃	296	〃	壺	口縁部～底部	ナデ	口縁部 よこナデ 頸部 底部ゆびおさえ 胴部 わずかにハケメ	やや不良	橙色(5YR 7/6) 黄橙色(10YR 8/6)	橙色(5YR 7/6) にぶい黄橙色(10YR 8/4)	2～3ミリの砂粒を多く含む	風化
〃	297	〃	壺	口縁部～底部	口縁部 ナデ・ゆびおさえ 調整不明	口縁部 ナデ 調整不明	良好	にぶい黄橙色(10YR 7/4) 浅黄橙色(10YR 8/4)	浅黄橙色(10YR 8/4) 灰白色(5Y 7/1)	1ミリ以下の砂粒を多く含む 2～3ミリの砂粒を含む	風化
〃	298	〃	壺	完形	口縁部 よこナデ 胴部上半 ナデ 胴部下半 ナデのあとミガキ ナデのあとゆびおさえ	口縁部 よこナデ ナデ	良好	にぶい黄橙色(10YR 7/4)	にぶい黄橙色(10YR 7/3) 灰黄色(2.5Y 6/2)	2ミリ程の砂粒を含む	
〃	299	〃	壺	完形	口縁部 よこナデ ミガキのあと・調整不明	底部 ゆびおさえ よこナデ	良好	にぶい橙色(7.5YR 7/3)	にぶい黄橙色(10YR 7/3) 黄灰色(2.5Y 5/1)	3ミリ程の砂粒を含む	風化
〃	300	〃	壺	完形	口縁部 よこナデ ナデ	口縁部 よこナデ ナデ	良好	にぶい橙色(7.5YR 7/4) 橙色(7.5YR 7/6)	にぶい橙色(7.5YR 7/4)	1～3ミリの砂粒を多く含む	外面スス付着
〃	301	〃	壺	完形	調整不明	口縁部 よこナデ 胴部上半 ゆびおさえ・ハケメ	良好	浅黄橙色(10YR 8/4) にぶい黄橙色(10YR 7/4)	橙色(7.5YR 7/6) 浅黄橙色(7.5YR 8/4)	1～3ミリの砂粒を多く含む	風化
〃	302	〃	高坏	坏部	よこナデ	よこナデ	良好	黄橙色(10YR 8/6) 浅黄橙色(7.5YR 8/4)	黄橙色(10YR 8/6) 浅黄橙色(7.5YR 8/4)	2ミリ程の砂粒を含む	ヘラミガキ
〃	303	〃	壺	完形	口縁部 よこナデ ハケメのあとナデ	ナデ	良好	にぶい橙色(7.5YR 7/4) にぶい黄橙色(10YR 7/4)	にぶい黄橙色(10YR 7/3)	2～3ミリの砂粒を含む	ミニチュア
〃	304	〃	高坏	坏部～脚部	ミガキのあと	調整不明	良好	黄橙色(7.5YR 8/6) (10YR 8/6)	黄橙色(7.5YR 8/6) 浅黄橙色(10YR 8/3)	1～2ミリの砂粒を多く含む	風化
〃	305	〃	高坏	脚部	よこナデ	ヘラ状工具による くりぬき	良好	橙色(7.5YR 7/6)	橙色(7.5YR 7/6)	2～3ミリの砂粒を含む	脚上部,沈線風化
〃	306	〃	高坏	坏部	ゆびおさえのあとよこナデ ミガキのあと	ゆびおさえのあと・よこナデ ゆびおさえのあと ナデ	良好	橙(5YR 6/6) にぶい橙(7.5YR 6/4)	橙(7.5YR 6/6) にぶい黄橙(10YR 7/3)	きめ細かい 1ミリ程の砂粒を含む	接合面にヘラミガキ

表5．土師器・磁器観察表

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器形	法量(cm) 口径	法量(cm) 底径	法量(cm) 高	色調 内面	色調 外面	胎土	焼成	調整 内外面	調整 底部	備考
19	20	A地区SE2	土師器	小皿	推定 9.35	推定 7.5	1.5	浅黄橙色	浅黄橙色	精良	良好	ナデ		
〃	21	A地区河川部	土師器	小皿	推定 8.1	推定 3.3	1.9	浅黄橙色	浅黄橙色	精良	良好	ナデ		ヘラ切り
〃	22	〃	土師器	小皿	—	推定 6.8	—	浅黄橙色	浅黄橙色	精良	良好	ナデ		ヘラ切り
〃	23	A地区SE2	磁器	青磁碗	—	—	—	明緑灰 光沢がある		にぶい黄褐				蓮弁の一部陰刻が1本残る
〃	24	〃	磁器	青磁稜花皿	—	—	—	灰オリーブ 光沢がある						

第Ⅲ章　前原西遺跡の調査

第１節　遺跡の位置

前原西遺跡は，宮崎市大字熊野字前原に所在する。

加江田川と清武川の間には，標高約30m から約13m と東へ緩やかに傾斜する台地がある。台地は，ほぼ中央部を東流する熊野川により開析された谷底低地が形成され，台地は南北に分断されている。この２つの台地には小規模な開析谷が発達しており，特に南側台地東半部には数ケ所の舌状の台地が見られる。この舌状の台地上にここに報告する前原西遺跡の他，前原北遺跡，前原南遺跡等が立地している。

前原西遺跡は，台地北縁の中程の北西へ延びる舌状の台地上に立地する。当地は，中世の山城「車坂城」跡が立地する丘陵を除けば，標高17.2m と周辺部の中では最高所にあたる。この最高所は丘状を呈し，四方に緩やかに傾斜する。北眼下に熊野川，その周辺に沖積地が開け，南に開析谷を望む。遺跡の所在地と沖積地上の比高差は 1.5m ～３m である。

第２節　層　　序

前原西遺跡の基本層序は，第Ⅰ層表土（耕土），第Ⅱ層黒色土，第Ⅲ層アカホヤ，第Ⅳ層石英・長石の小粒が白色の斑点に見える硬質の黒褐色ローム，第Ⅴ層褐色ローム，第Ⅵ層成層シラスとなっている。県内では一般に第Ⅲ層より上層が縄文前期以後，第Ⅳ層が縄文早期，第Ⅴ層が旧石器時代の遺物を包含するが，前原西遺跡の包含層も同様である。なお，遺跡は，耕作等により相当が攪乱を受け，先の基本層序が残存する地区は少なく，場所によっては，第Ⅲ層～第Ⅴ層まで削平を受けている。

第３節　調査の概要（第１図）

前原西遺跡は，昭和56年度から57年度にかけて，舌状台地西端部，最高位を示す中央部，南緩斜面の３地区に分けて調査を行った。西端部は15号地，中央部及び南緩斜面部は16号地として調査の概要を報告している。ここでは，西端部を第１地点，中央部を第２地点，南緩斜面部を第３地点として報告する。

第１地点は，標高約14m の畑地（Ａ地区），標高11.5m の北端の畑地（Ｂ地区）の２ケ所を発掘調査を実施した。Ａ地区の南側の畑地は，既に削平を受けていたため調査から除外している。調査はＡ地区より実施し，磁北に合わせてグリッドを設定した。当地区の南半は，以前に削平を受けアカホヤは残存せず，耕土下は当地の基本層序の第Ⅴ層にあたる褐色ロームとなっている。北半はアカホヤは残存するが急傾斜である。検出された遺構は，調査区の北半で残存状態の悪い溝状遺構１条のみであった。埋土は褐色味の強い黒褐色土で，遺物は溝底より若干浮いた位置で土錘，須恵器片，土師器片等が出土しているが，攪乱を受けていると判断された。遺物は，その他攪乱層より12世紀～13世紀の玉縁口縁白磁（３図３），14世紀前半の蓮弁文青磁（図版２－Ａ），土師器片等が出土している。Ａ地区ではこのように遺構・遺物の残存状態が悪かったので，下段の畑地（Ｂ地区）に調査区を拡張した。

Ｂ地区は，標高11.5m で眼下の沖積面との比高差は約 1.5m で台地縁に沿って熊野川が東流している。当地区も耕作等によりアカホヤ層上層まで削平を受けていたが，竪穴状遺構１基，周溝状遺構１基，溝状遺構３条，ピット群が

検出された。遺物は，ヘラ切り及び糸切りの土師器坏，皿，東播系の片口鉢，シノギ蓮弁文青磁等が出土している。

第２地点は，第１地点の東40m に位置し，付近では最高位にあたる場所である。当地点の西縁・北縁は開発により数m 削取されている。頂部は丘状を呈し，北及び東へ傾斜しているが，北端部はテラス状の緩斜面となっている。当地は，以前みかん園であったため，第１地点同様削平を受け，東半部は表土下が褐色土ないし成層シラスである。表土より土師器，陶磁器類が出土したのみで遺構等は検出されていない。頂部では表土下が基本層序の第Ⅳ層にあたる小白斑を含む黒褐色ロームで縄文早期の集石遺構６基が検出されている。表土を剝いだ時点では，集石遺構ＳＩ４の周辺で１辺３m 前後，幅30cmほどの時期不詳の方形周溝状の遺構の痕跡が見られたが，記録する時点ではプランの確認は困難であった。北端部のテラス状の緩斜面東部では黒色土，アカホヤが残存していた。この部分で検出された遺構は，縄文早期の集石遺構６基，弥生後期後半ごろの竪穴住居跡３軒である。その他，南北に走る幅 0.7m 程の溝が数条検出されていたが，埋土等より新しいと考えられたので調査から除外している。

第２地点では，縄文早期の貝殻条痕文土器，塞ノ神式，石鏃，磨石，弥生後期後半の弥生土器の他，旧石器時代の細石刃，黒曜石製の細石刃核，古代～中世のヘラ切りの土師器皿，坏等が出土している。

第３地点は，南に開析谷を望む舌状台地の南面する緩斜面に立地する。当地点は，他の２地点に比べ土層の残存状態がわりに良好で，調査区南半の土層は表土下が黒色土，アカホヤとなっており，北半部もアカホヤ層の上部が削平されているのみであった。南部は，表土が厚く淡黒褐色砂質土，暗黒褐色土と細分されるが，これは南半部が北半部を削平して客土していると判断された。第３地点ではアカホヤが良好に残存していたため，遺構はこの面で安易に確認することができた。検出された遺構は，周溝墓１基，掘立柱建物３棟，溝状遺構４条である。周溝墓は，主体部である土壙内及び溝より出土した遺物から中世のものと判明しているが，切り合い関係より溝状遺構等は，ＳＥ１，ＳＥ２，周溝墓，ＳＥ４，ＳＥ３の順に古いと判断されている。掘立柱物の時期は不詳である。出土遺物は，周溝墓等から土師器坏，皿，熙寧通宝，元豊通宝，漆膜，墨色石の他，周辺部等から石鏃，櫛描波状文等が出土している。

第４節　遺構と遺物

１）第１地点

遺構（第２・３図，図版１・２）

竪穴状遺構：Ｂ地区の東端で検出される。平面形が方形プランで東西2.45m，南北2.55m，深さ７～10cmを測る。遺構に伴うと推定されるピットは，略東西に走る溝ＳＥ１下で検出された床面中央のピットのみで径約50cm，深さ約40cmを測る。その他，床面内の西縁及び南縁を中心に10個のピットが検出されているが，当遺構周辺に中世と推定されるピットが多数検出されているので，これが当遺構に伴うかは不明である。時期については，当遺構のほぼ中央を走る溝ＳＥ１からは糸切りの土師器皿が出土しているが，切り合い関係よりＳＥ１より当遺構が古いことが確認されている。遺物は，糸切りの土師器皿，須恵器小片が出土している。

掘立柱建物：Ｂ地区では多数のピットが検出されているが，復元された掘立柱建物は，２間×３間の１棟のみである。柱穴間は 1.7m ～ 2.1m で平均約 1.9m である。柱穴の径は約20cm，深さは14cm～44cmを測る。

周溝状遺構：竪穴状遺構の西１m 程で検出された。幅20cm～40cm，深さ５cm～15cmの溝が略方形状に巡る。北辺で約 3.4m，南辺で約2.5m，東辺で約 3.5m，西辺で約 4.1m を測る。遺物は糸切りの土師器

表１．ピット計測表

Ｐ 1	14cm	Ｐ 2	22cm
Ｐ 3	16cm	Ｐ 4	14cm
Ｐ 5	18cm	Ｐ 6	22cm
Ｐ 7	33cm	Ｐ 8	25cm
Ｐ 9	44cm	Ｐ 10	23cm

坏片が出土している。

溝状遺構：調査区の中央より南半を南西から東北方向に走る溝が３条検出された。この溝方向は，当地の傾斜面の等高線に沿った方向である。ＳＥ１は，幅 1.2m 前後で深さ約20cmである。溝の床面約80cm幅は固くしまっていた。遺物は，糸切りの土師器皿（図３－13）が出土している。ＳＥ２は，幅 0.5m ～ 1.2m，深さ10cm前後を測る。また，ＳＥ２より枝分れした状態でＳＥ３が検出され，幅約 0.7m，深さ10cm前後である。

その他，周溝状遺構の北西約２m で径50cmほどの焼土が検出されている。焼土中からは，ヘラ切りの土師器（図３－12），糸切りの土師器皿が出土している。

遺物（第３図，図版２）

第１地点では，土師器，東播系須恵器，青磁，白磁，陶器，土錘等が出土しているが，Ａ地区出土の図３－３の12～13世紀の玉縁口縁白磁，図版２－Ａの14世紀前半の蓮弁文青磁以外は，Ｂ地区出土である。図３－１は片口鉢で口唇部はヨコナデによる粘土の盛り上がりが両端に見られる。胴部下部には２単位の断続的な下から上へのカキ目がある。５～８は東播系須恵器で器形は片口鉢と思われる。口縁部突帯外面に暗青灰色を呈する釉らしいものが見られる。４の口縁部断面形は５～７に類似するが，色調が黄橙色を呈し，酸化炎焼成である。８～12はヘラ切りの土師器坏・皿，13～15は糸切りの土師器坏・皿である。土錘は，中央がふくらみ両端に面をもたないもの，中央のふくらみがなく，両端に面をもつものなどが出土している。図版２－Ｂ・Ｃは明緑灰色を呈する鎬蓮弁文青磁でＢが13世紀前半，Ｃが14世紀前半に比定されているものである。同Ｂは，14世紀から15世紀の軟質の割高台をもつ白磁である。

２）第２地点

遺構（第４・５・６図）

集石遺構：第２地点では縄文早期の集石遺構は12基検出された。この中でＳＩ７・８・９については，焼石は土坑内の埋土にほとんど含まれない。集石遺構の概念からするとＳＩ７等を集石遺構とするのは問題もあるが，ＳＩ７等が焼石層の下で検出されたこと，集石遺構の中には土坑内に焼石の量が少ないものもあることなどから，ここでは集石遺構の一形態例として報告する。12基の集石遺構の規模は下表のとおりである。

表２．第２地点集石遺構一覧表

（単位：cm）

番号	区	平面図	規模			配石の有無	焼石の密度	備考
			長径	短径	深さ			
1	南	楕円形	84	75	14	無	密	炭化物若干含む
2	〃	円形	58	54	11	〃	〃	
3	〃	楕円形	58	53	5	〃	〃	
4	〃	略楕円形	76	50	14	〃	粗	
5	〃	隅丸長方形	60	52	12	有(?)	〃	中央配石床面より浮いている
6	〃	略楕円形	61	49	13	無	〃	炭化材含む
7	北	楕円形	61	53	15	〃	ほとんど無	埋土に炭化物小粒を多く含む
8	〃	〃	70	48	15	〃	〃	〃
9	〃	円形	88	78	24	〃	〃	〃
10	〃	略円形	107	102	25	有	密	下層に炭化材を多く含む
11	〃	円形	90	83	18	無	〃	中央床面に炭化物小片を多く含む
12	〃	不正方形	83	83	13	有	〃	

第２地点の中央には，略東西方向のやや急傾斜の部分があり，その地形的特徴からテラス状の緩斜面の北区と丘状地形を呈する頂部の南区とに分けることができる。北区は，アカホヤないし黒褐色ローム層の上面まで削平を受けていたが，縄文早期の包含層にはあまり影響を与えていず，集石遺構はほぼ完全な状態で残存していた。北区では集石遺構は６基確認され，うちＳＩ12の１基は約６ｍの距離を隔てているが，その他のＳＩ７～11の５基その間数ｍとまとまりを示している。また，ＳＩ７～11の上部とその周辺では径４～５ｍの範囲に挙大の焼けた角礫が厚さ10cmほどの層をなしていた。

南区では，北部では黒褐色ロームが若干残存するが，頂部では黒褐色ロームないし褐色ローム層の上部まで削平を受けている。集石遺構は６基確認されたが，北区のようにまとまりは認められない。集石遺構は北区に比べ若干規模が小さくなるが　それは，黒褐色ロームないし褐色ローム層まで削平され，包含層の一部が影響を受けているためと考えられる。北区で見られた焼石の層は，南区では存在せず，ＳＩ３～６周辺の北面する緩斜面の部分で焼石の散石が見られたのみである。遺物は，この散石内で出土している。

12基の集石遺構は，深さにバラツキは見られるが，全て土坑を伴う。土坑内の焼石の量，床面の配石の有無等により次のように分類される。土坑内に焼石を含み，床面に配石を有するＳＩ５・10，12，焼石を多量に含むＳＩ１・２・３・11，焼石の量が少ないＳＩ４・６，焼石をほとんど含まないＳＩ７・８・９に分けられる。土坑内の埋土に炭化物　炭化粒を含むものが多い。ＳＩ10は，配合を有し保存状態も良好だったので遺構の取り上げを行っている。床面のほぼ中央に長径35cm，短径27cmの楕円形の偏平な河原石を配置し，その周囲を10数cmの角礫を２～３重に丁寧に配石している。土坑傾斜部はやや粗雑である。配石上では炭化材が出土している。

竪穴住居跡：弥生後期末葉の竪穴住居跡が北区で３軒検出された。検出面は，アカホヤないし黒褐色ローム層面である。竪穴住居跡の平面形は，いずれも方形プランと思われる。ＳＡＩは，１辺約5.8m で深さ13～20cmが残存し，柱は４本柱である。南柱穴間に径0.8ｍ，深さ６cmの浅い窪みがある。焼土は見られない。ＳＡ２は，両辺の一部が後世の溝で消滅しているが，１辺約3.4ｍの方形プランと思われる。深さは約10cm残存する。柱穴は，南北の壁際で２個検出された。ＳＡ３は，北区東端の傾斜地に位置し，東半部のプランが未確認ではあるが，方形プランと思われる。西辺は約3.8ｍを測る。柱穴は確認されていない。

遺物（第７，８図）

縄文土器：出土した縄文土器は，縄文早期の貝殻文，撚糸文，押型文（山形）土器で貝殻文土器が主体をなす。

貝殻文土器は，外面に斜方向の貝殻条痕文を地文とするものが多いが，これは口縁直下に文様帯をもつもの（Ａ類・１～14)、クサビ形の突帯をもつもの（Ｂ類・15）短斜条痕をもつもの（Ｃ類・24）に大別される。16は　貝殻腹縁刺突文が連続して施文されている。策２地点で主体を占めるＡ類は，口縁直下の文様によりさらに細分されるが，器形は円筒形で口唇部は丸く仕上げられ，口唇部及び内面は丁寧なヘラナデであり，中には11のように光沢をもつものもある。口縁部の文様は，貝殻腹縁による短斜条痕文（１，２，７等），列点文様に施文された貝殻腹縁刺突文（９，10，13），貝殻腹縁による横短条痕文（４），平行沈線文様の横条痕文（11），ヘラ様施文具による圧痕文（９・12）等がある。Ａ類の底部は９～12と思われる。Ｂ類は前平・吉田式に，Ｃ類は桑ノ丸３類に，17は網目の撚糸文で塞ノ神式ａ類に類似する。

石器：石器は，石鏃，磨石等が出土している。石鏃は，三角形式，二等辺三角形式，砲弾形式があり，基部に抉りをもつ。29の根の両面は磨製石鏃様に仕上げられている。

弥生土器：弥生土器は，甕，壺，高坏，鉢等が出土している。甕は，口唇部が平らに仕上げられ，底部端部に明瞭に指頭痕を残す。最大径は大半が口径にある。壺は，二重口縁壺，口縁部が外反ないし短く直立する壺が出土している。胴部は球形ないし長胴で底部は平底である。高坏は，坏部口縁が外反し，体部との境に明瞭な稜をもつ。脚部に

穿孔がある。器面はいずれも丁寧なヘラミガキである。

土師器：攪乱土より土師器坏・皿が出土している。底部切り離しはヘラ切りが大半であるが，糸切りも少量出土している。

3）第３地点

遺溝（第10～12回）

周溝墓：周溝は，略東西及び南北方向に方形状に巡り，東西約5.9ｍ，南北約5.4を測る。周溝は，東辺で幅約80cm，深さ約30cm，南辺で幅約60cm，深さ18cm，北辺で幅約1.1ｍ，深さ約31cmを測る。両辺については，幅約180cm，深さ約50cmを測るが，この部分はＳＥＩと切り合っているため，詳細には不明である。主体部は，台状部のほぼ中央に位置する長方形の土坑である。主軸方位Ｎ－10°－Ｅで長軸約150cm，短軸約77cm，深さ約40cmを測る。土坑内の土層に木棺の痕跡は見られない。

副葬品は，糸切りの土師器坏・皿，銅銭，漆器で，土坑北端西よりに置かれている。副葬状態は，出土状況より小皿４枚を方形状に置き，その上に倒置した漆器を置き，さらにその上に坏２点を重ねていたと考えられる。土師器の南東15ｍの位置に銅銭が出土している。周溝からも糸切りの土師器皿が出土している。

溝状遺構：溝状遺構は略南北に走る４条が検出された。溝状遺構４条は周溝墓付近で合流するが，溝の北半は削平されているため，本来の形状を保っているのは周溝墓付近のみである。周溝墓付近での溝の計測値は，ＳＥＩが幅約50cm，深さ約50cm，ＳＥ２が幅約96cm，深さ約38cm，ＳＥ３が幅約30cm，深さ約24cm，ＳＥ４が幅約45cm，深さ約40cmで，溝断面は台形を呈する。溝・周溝の新旧関係は，土層の観察よりＳＥ１，ＳＥ２，周溝墓，ＳＥ４，ＳＥ３，の順に古いと判断されている。

掘立柱建物：第３地点西端で掘立柱建物が３棟検出されている。検出面はアカホヤ面であるが，残存状態は悪く柱穴の底部がわずかに残るのみである。ＳＢ１は，棟方向が略東西方向で２間（3.76m）×１間（3.8ｍ）で柱間は約1.9mである。ＳＢ２は棟方向が略南北方向で３間（5.16m）×（１間（3.46m）で柱間は約1.17mである。ＳＢ３は，棟方向が略東西方向で２間（3.36m）×１間（2.64m）で柱間は約1.17mである。３棟は，分布状況から同時期のものと考えられる。

遺物（第12図）

土師器：土師器は，坏・皿が出土し，いずれも糸切りである。坏は口径約7.5cm，器高3.6cmを測る。皿は口径約8.2cm，器高約1.2cmを測る。７は周溝出土の皿片で，３－６に比べ口縁部は直立ぎみに立ち上がる。

漆器：坏と小皿の間に倒置され図柄は裏返しであった。木質部はなく，漆膜のみが残存している。漆膜には白泥で描かれたと思われる鶴丸３羽が認められる。

銅銭：銅銭は土坑内より熙寧通宝（1068年），元豊通宝（1078年）及び不明銅銭の３枚が出土している。

第５節　まとめ

縄文時代の遺構・遺物は，第２地点でアカホヤ下の小白斑を含む硬質の黒褐色ローム層より検出されている。土器は貝殻文土器が大半で，特に斜方向の貝殻条痕文を地文とし，口唇部に文様帯をもち，内面はヘラナデにより平滑に仕上げられ，口唇部が丸くおさめられている土器が主体である。同種資料は，田野町芳ケ迫第１遺跡[1]，同町札ノ元遺跡[2]等で出土している。このタイプの土器は，前平式土器に類似するが，器面調整等が異なるので前平式と分

離可能と考えられる。時期的には，前平式に前後する時期と思われる。集石遺構は，北区，南区で各６基計12基検出されたが，両区の集石遺構は形態差が見られる。形態差は，機能差か時期差かについては現在のところ不明である。

弥生時代の遺構は，第２地点北区で竪穴住居跡３軒が検出された。出土土器は，壺，甕，鉢，高坏等があり，石器は出土していない。時期は，二重口縁壺，甕等の特徴から弥生後期後半に比定されるが，熊野原遺跡Ｂ地区より後出すると思われる。竪穴住居跡ＳＡ２は，柱穴が壁際に２ケ所ある。類例は，時期は古墳時代ではあるが，熊野原遺跡Ｃ地区[3]のＳＡ21，22がある。３軒の住居跡は，いずれも方形を基本とした平面形であり，突出部はない。前原西遺跡に先行する熊野原遺跡Ｂ地区では，多数に突出部が見られることとは対照的である。

中世の遺構は，第１地点で掘立柱建物跡，ピット群，溝状遺構，第３地点で周溝墓，掘立柱建物跡が検出された。第１地点で多数のピットが検出されたが，復原できたのは１棟のみである。遺物は青磁・白磁，東播系須恵器など13～14世紀を中心とした遺物が出土している。土師器坏・皿については底部切り離し手法が，当地ではヘラ切りから糸切りへの転換期が13世紀前後と推定されている[4]が，Ｂ地区の焼土中よりヘラ切りと糸切りが共伴して出土したことは，先の説を追認したと言える。なお，出土したヘラ切りの土師器は，その手法に荒いものがあり渦巻状を呈するものもある。

第３地点の周溝墓は，２の時期では類例のない墓である。出土遺物は，11世紀後半の銅銭が出土しているが，土師器坏，皿はいずれも糸切りであるので，14～15世紀の所産と考えられる。第１地点でも中世の遺構等は検出されているが，第３地点に先行する時期であることから，周溝墓は隣接する前原北遺跡と関連があると考えられる。

（面高　哲郎）

注

(1) 田野町教育委員会「芳ケ迫第１遺跡」田野町文化財調査報告書第３集　1986年。
(2) 田野町教育委員会「札ノ元遺跡」田野町文化財調査報告書第３集　1986年。
(3) 宮崎県教育委員会「熊野原遺跡」宮崎学園都市遺跡発掘調掘調査報告書第２集　1985年。
(4) 宮崎県教育委員会「山内石塔群」宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第１集　1984年。

表３．第１地点遺物観察表

図面番号	遺物番号	地点名	器種	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
					外面	内面		外面	内面		
3	1	1—B	片口鉢	口縁～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ	ヨコナデ	良好	にぶい黄褐（10YR 5/3） 橙（5YR 6/6）	橙（5YR 6/6） にぶい黄褐（10YR 5/3）	1～2㎜の白・灰の粒を含む	①と②は同一個体
〃	2	〃	片口鉢	口縁部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	にぶい赤褐（5YR 5/3）	にぶい赤褐（2.5YR 5/3）	1～4㎜の白・黒の砂粒を含む	
〃	3	〃	鉢	口縁部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	灰白（5Y 8/1）	灰白（5Y 8/1）	1㎜以下の砂粒を含む	玉縁口縁白磁
〃	4	〃	鉢	口縁部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	黄橙（10YR 8/6） 橙（5YR 7/6）	黄橙（10YR 8/6） 橙（5YR 7/6）	0.5～2㎜の白・灰透明で光る砂粒含む	
〃	5	〃	片口鉢	口縁部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄（2.5Y 7/4）	明青灰（5PB 7/1）	白・黒・灰・茶・光る砂粒を含む	東播系魚住
〃	6	〃	片口鉢	口縁部	ヨコナデ 口唇部に釉がかかっている	ヨコナデ	良好	灰（N5/） …口唇部 灰オリーブ（5Y 5/2）	灰オリーブ（5Y 5/2）	白・黒・光る白の砂粒を含む	東播系魚住
〃	7	〃	片口鉢	口縁部	ヨコナデ 口唇部に釉がかかっている	ヨコナデ	良好	灰オリーブ（5Y 6/2）	灰オリーブ）（5Y 6/2）	白・灰・ガラス状の細砂粒を含む	東播系魚住

表４．第１地点土師器観察表

図面番号	遺物番号	地点名	器種	法量（cm）			色調		胎土	焼成	調整			備考
				口径	底径	高	内面	外面			内面	外面	底部	
3	8	1—B	坏	—cm	—cm	3.1cm	浅黄橙（10YR 8/4）	浅黄橙（10YR 8/4）	1㎜前後の茶・黒・灰の粒を含む	良好	ナデ	ナデ	ヘラ切り	
〃	9	〃	皿？	—	8.35	—	浅黄橙（10YR 8/3）	浅黄橙（10YR 8/3）	1㎜前後の茶・灰色の粒を含む	良好	ナデ	ナデ	ヘラ切り	
〃	10	〃	坏？	—	—	—	浅黄橙（10YR 8/4）	浅黄橙（10YR 8/4）	茶・灰の細砂粒を含む	良好	ナデ	ナデ	ヘラ切り	
〃	11	〃	坏？	—	—	—	浅黄橙（7.5YR 8/6）	黄橙（10YR 8/6）	茶・灰の細砂粒を含む	良好	ナデ	ナデ	ヘラ切り	
〃	12	〃	皿？	—	7.7	—	浅黄橙（10YR 8/4）	浅黄橙（10YR 8/4）	うす茶・灰の細砂粒を含む	良好	ナデ	ナデ	ヘラ切り	
〃	13	〃	皿	7.3	6	1.6	橙（7.5YR 7/6）	橙（7.5YR 7/6）	光る微粒子を含む 1㎜前後の灰・赤褐色の細砂粒を含む	良好	ナデ	ナデ	糸切り	
〃	14	〃	坏	—	6.2	—	浅黄橙（7.5YR 8/4）	浅黄橙（7.5YR 8/4）	光る微粒子を含む 1㎜前後の黒・茶の細砂粒を含む	良好	ナデ	ナデ	糸切り	
〃	15	〃	坏	—	6.4	—	浅黄橙（10YR 8/3）	浅黄橙（10YR 8/3）	光る微粒子を含む 細砂粒を含む	良好	ナデ	ナデ	糸切り	

表５．第２地点縄文土器観察表

図面番号	遺物番号	地点名	器種	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
					外面	内面		外面	内面		
7	1	第2地点	深鉢	口縁～胴部	口縁部 貝殻短条痕文 胴部 斜方向貝殻条痕文	口縁部 丁寧なヨコヘラナデ 胴部 タテヘラナデ	良好	黄橙（10YR 8/6）	橙（7.5YR 7/6）	白，灰，黒，透明に光る粒子を含む	
〃	2	〃	深鉢	口縁部	斜短線 ヨコ方向貝殻条痕文	ヨコ ヘラナデ	良好	浅黄橙（10YR 8/4）	浅黄橙（10YR 8/3）	うす茶，黒，白，透明に光る粒子を含む	
〃	3	〃	深鉢	口縁部	短沈線 斜方向貝殻条痕文	ナデ	良好	にぶい橙（7.5YR 7/4）	にぶい橙（7.5YR 7/4）	黒，白，白く光る粒子を含む	
〃	4	〃	深鉢	口縁部	ヨコ方向貝殻短条痕文 斜方向貝殻条痕文	ナデ	良好	黄橙（10YR 8/6）	明黄褐（10YR 7/6）	2㎜前後の白，灰，茶の砂粒を多く含み，黒や透明に光る粒を含む。	
〃	5	〃	深鉢	口縁部	貝殻腹縁刺突文 斜方向貝殻条痕文	口唇部 ヘラナデ 胴部剥離のため不明	良好	にぶい黄橙（10YR 7/4）	灰黄褐（10YR 6/2）	2㎜前後の白，茶等の砂粒を含む	
〃	6	〃	深鉢	口縁部	口縁部 貝殻刺突文 斜方向 貝殻条痕文	丁寧なヨコヘラナデ	良好	明黄褐（10YR 7/6）	橙（7.5YR 6/6）	灰・白・黒の細砂粒と光る粒を含む	①と同一個体
〃	7	〃	深鉢	口縁部	短貝殻条痕文 斜方向 貝殻条痕文	ヘラナデ	良好	スス付着 にぶい黄橙（10YR 7/4）	灰黄褐（10YR 5/2）	1～2㎜の白，茶等の砂粒を多く含み，透明に光る粒を含む	
〃	8	〃	深鉢	口縁部	圧痕文 貝殻条痕文	ナデ	良好	浅黄橙（10YR 8/4）	浅黄橙（10YR 8/4）	灰，白等の細砂粒と，黒や透明に光る粒を含む	外面 スス付着
〃	9	〃	深鉢	口縁～胴部	貝殻腹縁刺突文 斜方向 貝殻条痕文	ヘラナデ	良好	浅黄橙（10YR 8/4）	浅黄橙（10YR 8/3）	1㎜前後の茶，黒，白，光る粒子を含む	口縁部に穿孔有
〃	10	〃	深鉢	口縁部	貝殻腹縁刺突文 ヨコ方向貝殻条痕文	ヨコヘラナデ	良好	浅黄橙（7.5YR 8/6）	浅黄橙（10YR 8/4）	白，灰，透明に光る粒子を含む	
〃	11	〃	深鉢	口縁部	短沈線 斜方向 貝殻条痕文	丁寧なヨコヘラナデ	良好	にぶい黄橙（10YR 7/4）	明黄褐（10YR 7/6）	細砂粒と透明に明る粒を含む	
〃	12	〃	深鉢	口縁部	圧痕文 斜方向 貝殻条痕文	ナデ	良好	にぶい黄橙（10YR 6/4）	明黄褐（10YR 6/6）	白，茶等の細砂粒を多く含み，黒く光る粒，透明な粒を含む	
〃	13	〃	深鉢	口縁部	貝殻連続刺突文 斜方向 貝殻条痕文	ヨコヘラナデ	良好	明黄褐（10YR 7/6）	灰黄褐（10YR 6/2）	細砂粒を多く含み，黒や透明に光る粒を含む	外面口縁部 スス付着
〃	14	〃	深鉢	口縁部	斜方向 貝殻条痕文	ヘラナデ	良好	にぶい橙（7.5YR 6/4）	橙（7.5YR 6/6）	細砂粒を多く含み，透明や黒く光る粒を含む	
〃	15	〃	深鉢	口縁部	口唇部 貝殻条痕文 口縁部 貼付クサビ突帯 貝殻腹縁刺突文，貝殻条痕文	風化	良好	橙（5YR 6/8）	橙（5YR 6/8）	細砂粒と透明に光る粒を多く含む	
〃	16	〃	深鉢	胴部	タテ方向 貝殻腹縁刺突文	ナデ	良好	浅黄橙（10YR 8/3）	浅黄橙（10YR 8/3）	1～2㎜の黒，茶，白の粒，黒く光る粒子を含む	粘土接合痕残
〃	17	〃	深鉢	胴部	タテ方向 網目撚糸文	ナデ	良好	浅黄橙（10YR 8/3）	浅黄橙（10YR 8/4）	白，黒，黒く光る粒子を含む	
〃	18	〃	深鉢	底部	斜方向 貝殻条痕文 ナデ	ナデ	良好	浅黄橙（10YR 8/3）	灰白（2.5Y 8/2）	1～2㎜の石英，角閃石砂粒を多く含む	
〃	19	〃	深鉢	底部	ナデ	ナデ	良好	浅黄橙（10YR 8/4）	灰黄（2.5Y 6/2）	0.2～3㎜の白，灰色，褐色の砂粒と石英，角閃石などを含む	
〃	20	〃	深鉢	底部	タテヘラナデ	ナデ	良好	浅黄橙（10YR 8/4）	浅黄橙（10YR 8/3）	0.2～1㎜の白，灰色の砂粒と石英，角閃石などを含む	

表6．第２地点弥生土器観察表

図面番号	遺物番号	地点名	器種	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
					外面	内面		外面	内面		
7	21	第２地点	深鉢	底部	ナデ	ナデ	良好	浅黄 (2.5Y 8/3)	浅黄橙 (10YR 8/3)	0.2～3㎜の白，灰，褐色の砂粒と石英，角閃石などを含む	底面黒斑有
〃	22	〃	深鉢	底部	丁寧なヘラナデ	ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4) 黄灰 (2.5Y 6/1)	0.2～2㎜の白，灰，褐色の砂粒と石英，角閃石などを含む	
〃	23	〃	深鉢	底部	貝殻腹縁刺突文 短沈線	ナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/3)	白，茶，灰，光る粒子を含む	
〃	24	〃	深鉢	底部	ヨコ方向 貝殻条痕文 ナデ		良好	橙 (5YR 6/6)	橙 (5YR 6/6)	1㎜前後の石英と1～2㎜の角閃石を多く含み，1㎜前後の砂粒少含む	
〃	30	SA1	壺	口縁～肩部	口縁部 ヨコナデ 肩部 タテハケ	口縁部 ヨコナデ 肩部 指押え有	良好	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	浅黄橙 (10YR 8/4) 褐灰 (10YR 4/1)	0.5～2㎜程の茶・灰色の砂粒と光る微粒子を含む	
〃	31	〃	壺	頸部～肩部	頸部 ヨコナデ？ 肩部 タテハケ	頸部 ナデ 肩部 指押え	良好	橙 (5YR 7/6)	浅黄橙 (7.5YR 8/4) 橙 (5YR 7/6)	1㎜前後の灰・茶・半透明の砂粒含む	
〃	32	〃	埦	口縁～胴部	ヨコハケ，口縁部ナデ消す	タテハケ	良好	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	0.5㎜程の砂粒を含む	
〃	33	〃	甕	口縁～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナナメハケメ後ナデ消	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	0.5～1㎜程の砂粒を含む	外面スス付着
〃	34	〃	甕	底部	ナデ，指押え	ナデ	良好	橙 (2.5YR 7/6) 明黄褐 (10YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	ガラス状の粒を含む 1～2㎜程の茶・半透明の砂粒含む	あげ底 熱のため変色
〃	35	〃	甕	底部	ナデ 指押え	ナデ 指押え	良好	明黄褐 (10YR 7/6)	褐灰 (10YR 4/1)	1～2㎜程の茶色の砂粒含む	あげ底，スス付着
〃	36	〃		底部	指押え，ナデ	指押え	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	1～2㎜程の砂粒を含む	平底
〃	37	SA2	壺	口縁～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 ハケ目の後ヘラナデ	頸部・胴部に指押え ハケ目の後ナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/3) 橙 (7.5YR 7/6)	浅黄橙 (7.5YR 8/3) 浅黄橙 (10YR 8/3)	0.5～2㎜程の砂粒を多く含む	外面一部黒斑有
〃	38	〃	二重口縁壺	口縁～胴部	口縁部 櫛描波状文 胴部 タテハケ後ナデ消す	口縁部 ナデ，ヨコハケメ 胴部 ハケ	良好	橙 (5YR 7/8) 明黄橙 (10YR 7/6)	にぶい黄橙 (10YR 7/3) 黄灰 (2.5Y 6/1)	暗褐，灰白色鈍光沢，褐色の1～2.5㎜程の粗砂～細礫を含2～3㎜の酸化鉄塊の細粒含む	
〃	39	〃	壺	口縁～底部（口昏部欠損）	ハケ 底部 ナデ	ヨコハケ 肩部 指ナデ	良好	黄橙 (7.5YR 7/8)	黄橙 (10YR 7/8)	きめ細か 2㎜以下の灰・茶・黒の砂粒を多く含む	平底
〃	40	〃	鉢	口縁～底部	ヘラナデ	口縁部・底部 指押え有 ヘラナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR 7/3)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	2～3㎜の茶・灰の粒を含む	平底
〃	41	〃	鉢	口縁～胴部	ハケ後ヘラナデ	ハケ後ヘラナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6) 橙 (2.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 6/8)	2～5㎜の茶・灰・白の粒多く含む	外面 黒斑有，スス付着
〃	42	〃	甕	口縁	ヨコナデ，	ヨコナデ，ナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	1～2㎜の茶・灰色の粒・光る粒子を含む	外面スス付着
〃	43	〃	甕	口縁	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	橙 (7.5YR 7/6)	1～2㎜の茶・灰・黒の粒を含む	外面スス付着
〃	44	〃	高坏	脚裾部	ナナメハケ後ナデ消す	ヘラナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	1～2㎜のうす茶・白・灰の粒を含む	
9	45	SA3	壺	口縁 肩部	口縁部 ナデ 肩部 ヘラナデ	ナデ，指押え有	良好	にぶい黄橙 (10YR 6/4)	にぶい黄橙 (10YR 6/4)	きめ細か 1㎜以下の黒・灰・茶の砂粒を含む	
〃	46	〃	壺	口縁～肩部	口縁部 タテハケ 肩部 風化	口縁部 ヨコハケ 肩部 風化	良好	橙 (5YR 6/8)	橙 (5YR 6/8)	きめ細か 2㎜程の灰・白・茶の砂粒を多く含む	
〃	47	〃	壺	胴部～底部	胴部 タテハケ後ナデ消す 胴部下半 ハケ，底面ナデ	胴部 ハケ後ナデ 底部 ヘラナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	褐灰 (10YR 4/1)	1～2㎜の砂粒を多く含む	平底，外面底部黒斑有
〃	48	〃		底部	タテハケ 底面 ナデ	ハケ目，ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/3) にぶい橙 (5YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	1～3㎜の茶・透明で光る白の砂粒を含む	外面，底面黒斑有
〃	49	〃	甕	口縁～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 タテハケとナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	1～4㎜の砂粒を多く含む	
〃	50	SA3	甕	口縁～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 タテヘラナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ヘラナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	橙 (7.5YR 6/6)	3㎜前後の茶・黒・灰 2㎜以下の灰・茶・黒の砂粒光微粒含	外面一部黒斑有
〃	51	〃	甕	底部	ミガキ 底面 ナデ，指押え有	ナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	2～4㎜の茶・黒・白の粒含む	外底面黒斑有 あげ底
〃	52	〃	甕	底部	ナデ 指押え	ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	暗灰黄 (2.5Y 5/2) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	1～3㎜の砂粒を多く含む 4～5㎜の小石を含む	外面一部スス付着，あげ底
〃	53	〃	高坏	坏部	ヘラミガキ	ミガキ？（風化著るしい）	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	2㎜前後の茶・白・黒・透明・光る微粒を含む	
〃	54	〃	高坏	坏部	ヘラミガキ	ヘラミガキ	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	1㎜前後の石英と，1～2㎜の砂粒を多く含む	
〃	55	〃	高坏	坏部	ヘラミガキ	ヘラミガキ	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (5YR 6/6)	1㎜前後の石英を少しと1～2㎜程の砂粒を多く含む	
〃	56	〃	高坏	裾部	タテ方向のヘラミガキ	風化	良好	橙 (7.5YR 7/6) 浅黄橙 (10YR 8/4)	にぶい橙 (5YR 7/4) 浅黄橙 (10YR 8/4)	1～3㎜程の茶・灰・うす茶の粒を多く含む	外面，黒斑有 3ケ所スカシ有
〃	57	〃	高坏	裾部	タテ方向のヘラミガキ？	風化	良好	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	橙 (7.5YR 7/6)	1～2㎜の白・灰・茶の粒を含む	2ケ所スカシ有
〃	58	〃	鉢		ハケ	ハケ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	2㎜以下の茶・灰・白・黒く光る微粒を含む	
〃	59	〃	鉢		風化	風化	良好	黄橙 (7.5YR 7/8)	黄橙 (7.5YR 7/8)	2㎜以下の茶・灰・等の砂粒，光る粒を含む	
〃	60	〃	鉢 ミニチュア	完形	ナデ，指押え有	タテナデ	良好	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/6)	2～3㎜程の砂粒を多く含む	外面黒斑有
〃	61	〃	鉢	完形	ハケ目，ナデ	ナデ，指押え有	良好	淡橙 (5YR 8/3)	橙 (5YR 7/6)	0.5～3㎜程の砂粒を多く含む	外面，黒斑有 スス付着
〃	62	第２地点	高坏	坏部	ヘラミガキ	ヘラミガキ	良好	橙 (7.5YR 6/6)	橙 (7.5YR 6/6)	2㎜以下の茶・黒・白・灰・光る微粒を含む	外面，一部黒斑有

表7．第2・3地点土師器観察表

図面番号	遺物番号	地点名	器種	法量(cm)			色調		胎土	焼成	調整			備考
				口径	底径	高	内面	外面			内面	外面	底部	
9	63	第2地点	坏	11.5	7.3	4.6	浅黄橙(10YR 8/3)	浅黄橙(10YR 8/3)	細砂粒を含む	良好	ナデ	ナデ	ヘラ切り	
〃	64	〃	皿	8.1	6.5	1.4	にぶい黄橙(10YR 7/3)	にぶい黄橙(10YR 7/3)	〃	良好	〃	〃	〃	
〃	65	〃	〃	7.3	6.6	1.3	にぶい橙(5YR 7/4)	にぶい橙(5YR 7/4)	〃	良好	〃	〃	〃	
〃	66	〃	坏	—	—	—	浅黄(2.5Y 7/3)	黄灰(2.5Y 5/1)	光る透明の粒と白色の細砂粒を含む	良好	〃	〃	〃	
〃	67	〃	皿	—	—	—	にぶい黄橙(10YR 7/3)	にぶい黄橙(10YR 7/3)	細砂粒を含む	良好	〃	〃	〃	
〃	68	〃	〃	—	—	—	にぶい黄橙(10YR 7/3)	にぶい黄橙(10YR 7/3)	〃	良好	〃	〃	〃	
12	1	周構墓	坏	13	7.55	3.6	浅黄橙(10YR 8/3)	浅黄橙(10YR 8/3)	1～4㎜程の赤褐色の粒を少しと細砂粒を含む	良好	〃	〃	糸切り	
〃	2	〃	〃	13.45	7.4	3.6	〃	〃	1～2㎜程の赤褐色の粒を少しと細砂粒を含む	良好	〃	〃	〃	
〃	3	〃	皿	8.2	5.7	1.0	橙(5YR 7/6)	橙(5YR 7/6)	1㎜前後の赤褐色の粒を少し含む	良好	〃	〃	〃	
〃	4	〃	〃	8.2	5.35	1.25	〃	〃	2㎜程の赤褐色の粒を少し含む	良好	〃	〃	〃	
〃	5	〃	〃	8.1	6.3	1.2	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	細砂粒を含む	良好	〃	〃	〃	
〃	6	〃	〃	8.3	5.7	1.2	橙(5YR 7/6)	橙(5YR 7/6)	きめ細か	良好	〃	〃	〃	
〃	7	〃	〃	—	—	—	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	きめ細か(光る微粒子を含む)	良好	〃	〃	〃	

第Ⅳ章　陣ノ内遺跡の調査

第１節　遺跡の立地と環境

陣ノ内遺跡は宮崎市大字熊野字陣ノ内9288番地に所在する。

宮崎市学園都市遺跡群の東端に位置する陣ノ内遺跡は，清武川から南方向へ延びる谷底低地の最も奥ばった所からさらに，南及び南西方向へのびる２本の開析谷に挟まれた約300m ×約100m の北東方向へのびる細長い平坦地中位面Ⅱに立地する。この平坦地は西側の開析谷によって北側から西側にひろがる平坦地中位面Ⅱとは分断されたかたちとなっている。現況は東側と西側がそれぞれ３分の１近くアカホヤ層面から40～50cm程度削平されていた。今回の調査区も畑地として利用されていたため開墾の際にアカホヤ層直上まで削平を受けていた。調査区のアカホヤ層確認面から旧地形を想定すると，西側ではアカホヤ層が完全に削平されていたことから西方向に若干高まりを持つ地形であったと思われる。調査区の標高は12～13m である。

遺跡南側の平坦地の続きには中世の山城である車坂城跡がある。また，遺跡の南から東にかけては車坂城跡から同じく中世の山城である今江城跡（仮称）へと続く平坦地上位面が開析谷や谷底低地を隔てて北東から北方向に延びる。北側には，谷底低地に沿って前原南遺跡と前原北遺跡が所在する。前原南遺跡からは古墳時代前期の竪穴住居跡６軒と平安時代のカマドを持つ竪穴住居跡３軒のほか17棟の掘立柱建物跡を検出した。また，前原南遺跡の南に形成された谷底低地からは古墳時代前期の遺物を伴う水田跡が確認された。更に北に所在する前原北遺跡からは36基にも及ぶ縄文時代早期の集石遺構をはじめ弥生時代中期から古墳時代中期にかけての竪穴住居跡76軒や中世を中心とした掘立柱建物跡が50棟以上も検出された。

一方，開析谷を隔てた北側，及び北西側には前原西遺跡と熊野原遺跡が所在する。前原西遺跡からは縄文時代早期の集石遺構６基と弥生時代後期の竪穴住居跡３軒のほかに中世の方形周溝墓１基を検出した。熊野原遺跡からは弥生時代終末期の間仕切り住居跡や古墳時代初頭の竪穴住居跡を合わせて24軒検出したのをはじめ，同時期の方形周溝墓２基も検出された。

その他の関連の遺跡としては，陣ノ内遺跡の所在する南台地の平坦地中位面Ⅰに位置する縄文時代後晩期大集落群を検出した平畑遺跡からはカマドを持つ竪穴住居跡を含む平安時代の住居跡が検出されている。また，谷底低地をはさんだ北側の中位面Ⅰに所在する堂地東遺跡では間仕切り住居跡を中心とした弥生時代後期の集落跡が検出されたが，そのうち方形プランの弥生時代中期の竪穴住居跡２軒も見られる。

一方，田上川を挟んだ北側に広がる北台地では西側の下田畑遺跡と南側の赤坂遺跡からはカマドを持つ平安時代の竪穴住居跡がそれぞれ検出されている。また，南側の浦田遺跡からは弥生時代後期の竪穴住居跡６軒と土壙10基検出されている。

第２節　調査の概要

陣ノ内遺跡の立地する地形は，谷底低地と開析谷に挟まれた細長い舌状地形を呈しておりその面積は約２万㎡に及ぶ。しかし，昭和56年度に実施した試掘調査では東側と西側がそれぞれ３分の１程度削平や土取りなどによってアカホヤ層下層までとんでおり遺物の包含層は確認できなかった。包含層が確認されたのは中央部の約6,500㎡の範囲からで，土師器片や焼け石等の散布が見られた。この段階でアカホヤ層の上下に２枚の文化層が確認された。

第３節　包含層の状態

陣ノ内遺跡は平坦面中位面Ⅱに位置している。

現況は荒れ地であったが以前には畑として利用されていた。そのため全体的に削平されており地形はほぼ平坦となっている。削平はアカホヤ面まで及んでおり弥生時代以降の遺物の包含層は確認できなかった。アカホヤ面上位の層序については不明であるが，アカホヤ層の純粋な堆積層上位には二次堆積か風化したアカホヤの堆積が見られた。アカホヤ層前後の層序は次の通りである。０層～耕土（約20cm)，Ⅰ層～二次堆積か風化したアカホヤ層（約30cm)，Ⅱ層～アカホヤ層（約20cm)，Ⅲ層～暗褐色土層（約20cm)，Ⅳ層～褐色土層（40～50cm)，Ⅴ層～シラス層。

弥生時代以降の遺構はⅢ層まで掘り込んでいる。また，縄文時代の文化層はⅢ層下位～Ⅳ層にかけて検出された。遺構内の埋土の状態は，検出されたほとんどの竪穴住居跡の埋土が褐色系の埋土であるのに対して，溝状遺構や柱穴の埋土は暗褐色系のものである点に特徴が見られる。調査区の西側では耕土を剝いだ状態でⅢ層が検出されており，旧地形は西側に向かって緩やかな微高地が形成されていたと推定される。

第４節　縄文時代の遺構と遺物

縄文時代の文化層は第Ⅲ層下位から第Ⅳ層直上にかけてみられる。集石遺構は調査区の西側を中心に14基を検出した。集石遺構は直径約１ｍの掘り込みを持ち，掘り込み内に挙大の角礫や破砕礫からなる焼け石が密な状態で構成されている。集石遺構はほとんどが上部を削平されている。周囲の散石はあまり認められない。遺物は菱形押型文の深鉢形土器が出土した。調査区東側の４基は住居跡に切られている。また，表採品として石鏃３点とスクレイパー１点がある。

Fig. 1　縄文時代　集石遺構分布図

本調査は昭和61年４月13日から実施した。調査は重機を使って表土剝ぎを行った後に遺構の検出を行った。しかし，明確なアカホヤ層の堆積ではなく，二次堆積のアカホヤかあるいは風化したアカホヤの堆積が見られた。しかも，遺構内の埋土が自然層と区別しにくい埋土であったため，遺構の確認が困難で検出に時間を費やした。

その結果，弥生時代後期の竪穴住居跡１軒，古墳時代の竪穴住居跡12軒，カマドを持つ竪穴住居跡９軒を含む平安時代の竪穴住居跡10軒，土壙14基，中世の土壙墓１基，中世を中心とした掘立柱建物跡13棟，溝状遺構14本等を検出することができた。遺物は弥生土器，土師器，須恵器，布痕土器，内黒土器，陶磁器，土錘，古銭などが出土した。アカホヤ上面の調査は９月下旬で終了した。

10月に入ってからアカホヤ層下面の縄文時代早期の文化層の調査を実施した。縄文時代早期の文化層は，表土を剝いだ段階で西側では削平の程度が大きかったため，既に集石遺構が８基ほど検出されていた。そのため，東側の部分について重機をつかってアカホヤ層（二次堆積か風化アカホヤ層）を剝いで遺構検出を行った。その結果，西側の８基のほかに新たに６基の集石遺構を検出した。遺物は検出層から菱形押型文土器が出土した。調査は10月31日をもって終了した。

表１　縄文時代集石遺構一覧表

集石番号	集石の範囲(cm) 長軸×短軸	掘り込み	掘り込みの規模(cm) 長径×短径×深さ	焼石の疎密	焼石の大きさ	焼石の状態	配石	焼土	炭化物	遺物	備考
ＳＩ１	60× 40	○	95× ？ ×28	疎	拳大	角礫	×	×	×	×	西半分削平
ＳＩ２	120× 90	○	150×115×24	やや密	拳大	角礫 破砕礫	×	×	×	×	
ＳＩ３	120×105	○	154×124×48	密	拳大	角礫 破砕礫	○？	×	×	×	
ＳＩ４	50× 40	○	106× 86×30	疎	拳大	角礫 破砕礫	×	×	×	×	礫は南西側に集中する。
ＳＩ５	110× 80	○	95× 90×30	密	拳大	角礫 破砕礫	×	×	×	×	
ＳＩ６	75× 70	○	100× 95×15	やや密	拳大	角礫 破砕礫	×	×	×	×	
ＳＩ７	120×115	○	120× 78×30 140× 70×45	疎	拳大	破砕礫	○？	×	×	×	２個の掘り込みが切り合う(切り合い状態不明)
ＳＩ８	100×100	○	112×110×30	やや密	拳大～ 平扁な 人頭大	破砕礫 川原石	○？	×	×	×	ＳＡ６内(西側削平)
ＳＩ９	113× 55	○	118×108×20	密	拳大～ 平扁な 人頭大	角礫 破砕礫	○	×	×	×	
ＳＩ10	75× 35	○	80× 45×15	密	拳大	角礫	×	×	×	×	ピットに切られる
ＳＩ11	100× 75	○	105× 85×15	やや密	拳大	角礫	×	×	×	×	
ＳＩ12	140× 80	×	—	疎	拳大	角礫 破砕礫	×	×	×	×	散石？
ＳＩ13	105× 95	○	100× 95×22	密	拳大	角礫 破砕礫	×	×	×	×	ＳＡ12内
ＳＩ14	68× 55	○	110× 75×20	疎	拳大	角礫 川原石	×	×	×	すり石	ＳＡ21内

第５節　弥生時代の遺構と遺物

弥生時代の遺構としては，竪穴住居跡１軒が検出された（ＳＡ４)。調査区の東側に位置する。約４ｍ×4.2ｍのほぼ方形プランを呈している。削平を受けており壁面の残りは僅かである。柱穴は４本柱。壁帯溝らしい溝が部分的にめぐる。遺物は少ないが床面直上からの出土土器が多く,鋤先口縁に円形浮文を施した壺形土器や倒Ｌ字状口縁を持つ甕形土器など弥生時代中期後葉の特徴を持つ遺物が見られる。さらに，住居跡中央には置石（石皿？）が出土した。また，検出された土壙のうち，弥生土器を出土するものは１基（ＳＣ６）見られる。

表２．弥生時代及び古墳時代竪穴住居跡一覧表

住居番号	平面形	柱数（主柱）	規模		住居内施設	遺物出土状況	備考	時期
			長軸×短軸(m)	床面積				
ＳＡ４	方形	4	4.25×3.97	14.7	壁帯溝	床面に貼りついた状態で出土 円形浮文壺，倒Ｌ字口縁甕		弥生中期後葉
ＳＡ２	方形	1	2.97×2.86	7.4	中央部に落ち込み	覆土中から出土（床面より15～20cm上部に集中して出土）		古墳前期
ＳＡ５	方形	？	6.60×6.32	37.6	中央部やや南側に掘り込み 柱穴は周辺に円形に巡る？	一部は床面から若干浮いた状態で出土 多くは覆土中から出土。（土器多量） 壺（丸底），甕，高坏（高坏多）	ＳＣ５に切られる。 住居跡中央部の覆土上部に布痕土器,内黒土器等を多量に出土	〃
ＳＡ６	長方形	2	3.95×3.17	10.8	掘り込み 柱穴は壁際	覆土中から出土（土器少量）	ＳＥ１に一部切られる。	〃
ＳＡ９	長方形	2	3.92×3.08	10.4	柱穴南側に掘り込み 東側に掘り込み(大形壺)	完形の状態で出土した土器が多い。完形品の甕は床面からやや浮いた状態で出土。大形の壺は床面の掘り込み中に口縁部を下に出土。甕，壺(大型壺)，高坏。		〃
ＳＡ11	台形～長方形	—	4.35×3.35	13.3	—	床面直上から出土 壺，高坏	ＳＥ11に切られる。 住居跡のうえを農道が通っており遺構･遺物の検出状況悪し	〃
ＳＡ12	長方形	？	6.70×5.72	16.3	掘り込み 中央部が一段低くなる	一部は床面よりやや浮いた状態で出土。 多くは覆土中から出土（土器多量） 壺，甕，高坏，小型壺（高坏多）	北側をＳＣ23に切られる。 炭化材多量出土。	〃
ＳＡ14	方形	4	6.51×6.47	40.2	—	遺物はほとんど出土なし （覆土中）		〃
ＳＡ15	長方形	2～3	4.04×3.38	19.1	北西角に一段高い所あり	覆土中から出土（土器比較的多量）壺，甕，高坏		〃
ＳＡ18	長方形	2,4,6？	5.66×4.65	23.1	２本柱南側に掘り込み （炭化物、焼き含む） 南西角にベット状遺構 （高さ10～20cm）	床面よりやや浮いた状態で出土 住居跡南西角に集中 壺（櫛描波状文二重口縁),甕,高坏		〃
ＳＡ19	方形	2	4.32×3.90	14.9	主柱南側に掘り込み	床面よりやや浮いた状態で出土 炭化材出土。甕，埦，高坏，器台	南壁，東壁をカクランによって破損。	〃
ＳＡ22	方形	2～4？	？×3.40	？	中央部にピット状の掘り込み,その周辺に焼土	覆土中から出土。土器多量。 壺，甕，高坏	ＳＡ８，ＳＥ４に切られる。	〃
ＳＡ８	方形	？	3.45×3.32	11.45	埋甕炉	覆土中から出土。須恵器壺は床面直上から出土。	ＳＡ22を切る。	古墳後期

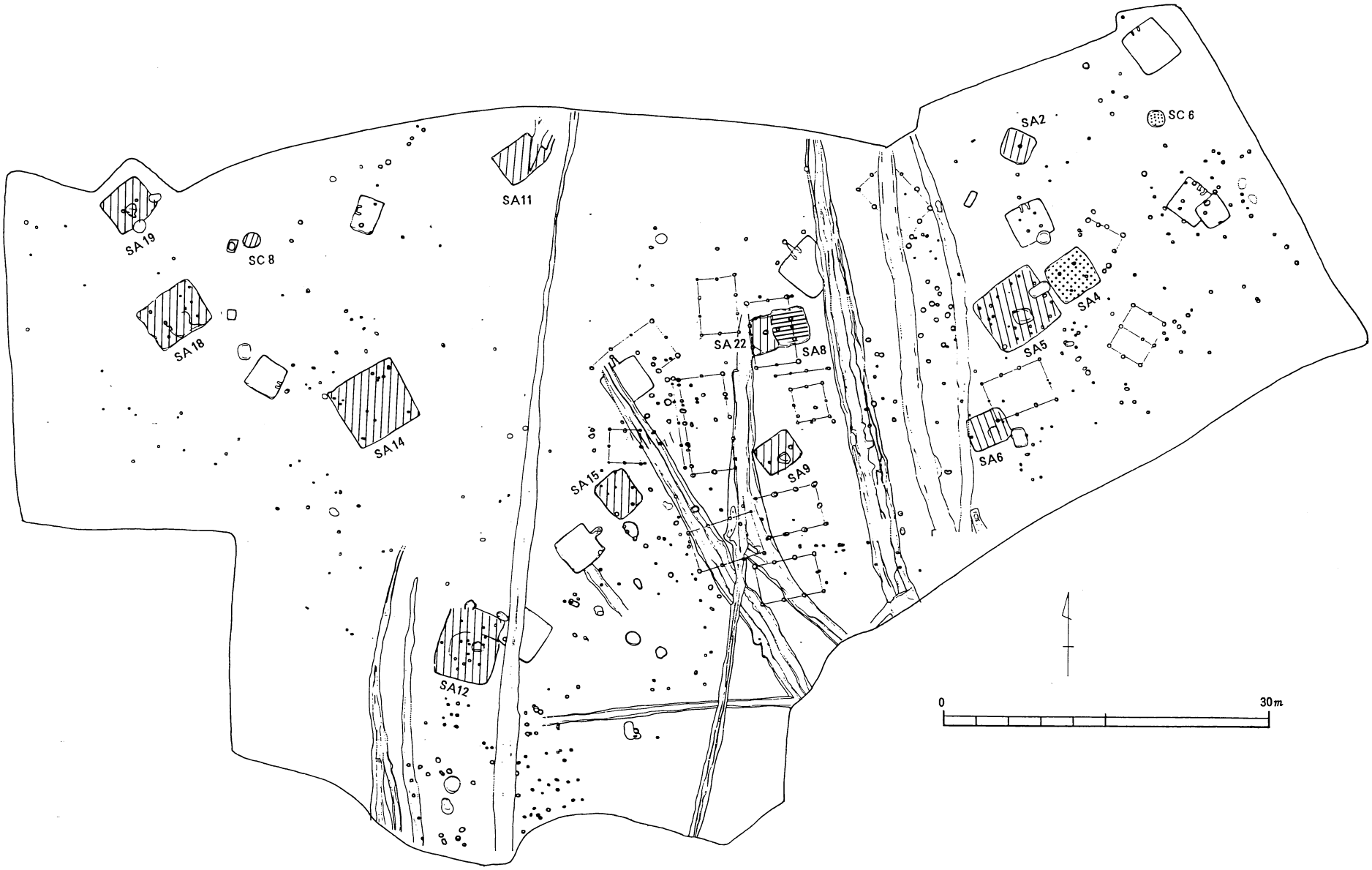


Fig. 2 弥生時代・古墳時代遺構分布図

第６節　古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構としては，竪穴住居跡12軒，土壙１基が検出された。時期的に見ると，土壙からは余り遺物が出土しておらず詳細については不明であるが，12軒の住居跡にていては古墳時代前期の住居跡11軒（ＳＡ２，５，６，９，11，12，14，15，18，19，22），古墳時代後期の住居跡１軒（ＳＡ８）の内訳となる。

１．竪穴住居跡

竪穴住居跡12軒は方形プランと長方形プランが半数づつで住居跡規模は床面積10㎡以下の住居跡１軒（ＳＡ２），10～15㎡の住居跡５軒（ＳＡ９，６，８，11，19），15～20㎡の住居跡２軒（ＳＡ12，15），20～30㎡の住居跡１軒（ＳＡ18），30～40㎡の住居跡１軒（ＳＡ５），40㎡以上の住居跡１軒（ＳＡ14）を数える。柱数は不明な住居跡もあるが，確認できる住居跡では１本柱（ＳＡ２），２本柱（ＳＡ６，９，15？，18？，19，22？），４本柱（ＳＡ14，18？，22？）のものがみられる。また，住居内部施設としては，主柱穴間の南側に掘り込みを持つ住居跡（ＳＡ５？，６，９，12？，18，19）ベット状遺構を持つ住居跡（ＳＡ18），埋甕炉を持つ住居跡（ＳＡ８）などがある。

住居跡はほとんどが単独で検出されたがこのうち，ＳＡ８とＳＡ22が重複して検出されたのをはじめ，ＳＡ５，ＳＡ12，ＳＡ18などで重複の可能性が認められた。ＳＡ18では主柱と思える柱数が６本であるが，組み合わせとしては２本柱と４本柱が考えられ住居の立て替えが想定できる。また，ＳＡ５では検出された柱数は10本を超える。床面積が37㎡とかなり大型の住居跡であることから立て替えが考えられるが，他に，住居跡中央部の覆土上から布痕土器や内黒土器などが多量に出土していることから平安時代の竪穴住居跡が重複していたことも想定できる。ＳＡ12も主柱は明確ではないが住居跡のプランから北側への拡張が考えられる。しかし，ＳＡ５，12，18のいづれの住居跡からも，埋土の状態や床面のプランなどから切り合いや拡張の確認はできなかった。ＳＡ８とＳＡ22の切り合い関係は，ＳＡ８がＳＡ22を切っているのが埋土の状態や床面のプランから確認できる。出土遺物からもＳＡ22では古墳時代前期の土師器，ＳＡ８では須恵器や古墳時代後期の土師器が出土している。また，ＳＡ８には古墳時代後期に見られる住居跡中央に埋甕炉を設けている。

出土遺物の特徴としては，住居跡間の出土量の違いから見ると，ＳＡ５，９，12，15，18，22では多量の遺物が出土しているのに対して，ＳＡ２，６，11，14では少量の出土となっている。また，器種組成の上から見ると，全体的には甕，壺，高坏を中心とした組成となっている。いずれの器種も在地系の弥生土器の系譜を引くものが主流を成す。甕では底部に依然として上げ底や平底のものが多いが尖底気味の丸底の底部も現れてくる。また，頸部に刻目突帯を持つ甕も見られる。壺にも平底の底部のものが少しみられるが尖底気味の丸底や完全な丸底のものが主流となる。また，二重口縁壺も数点見られ櫛描波状文を施すものもある。高坏は坏部下位で屈曲し大きく外反する口縁部に僅かに外反する長目の脚部と脚端から屈曲し大きく外反する裾部から成る高坏と，埦状の坏部に裾端部まで大きく外反する脚部を持つ高坏が見られる。エンタシス状の中膨らみの脚部も見られる。その他の器種では，平底気味の底部と丸底から成る小型壺，やや上部で屈曲し上下へ大きく外反する器台などが見られる。

住居跡ごとの組成の特徴としては，ＳＡ５とＳＡ12で高坏の出土量が多い点があげられるが，全体的には甕の出土の割合が多い。

ＳＡ５では坏部下位で屈曲して大きく外反するタイプの高坏が６～７個体分出土している。ほかに，平底と丸底の甕，二重口縁壺や内湾気味の口縁を持つ丸底壺，丸底の小型壺なども出土している。

ＳＡ15では上げ底や平底の甕のほかにやや平底を残す甕や尖り気味の底部を持つ甕がある。壺では丸底のものが主体となる。その他，坏部下位の屈曲して大きく外反する高坏も見られる。

ＳＡ18では上げ底や平底の甕10～11固体のなかに頸部に刻目突帯を特つ甕４固体分ある。壺は櫛描波状文を施した

二重口縁壺や直立口縁を持つ壺が出土している。いずれも尖り気味の底部を呈する。

ＳＡ９では上げ底の底部を持つ甕，わずかに平底を呈する大型の壺や丸底気味の壺，埦状の坏部に八の字状に開く脚部を持つ高坏などが出土している。

ＳＡ22では平底の甕のほかに尖り気味の丸底の甕や丸底気味の底部を持つ壺，坏部下位で屈曲して大きく外反する高坏などが出土している。

その他の住居跡では，ＳＡ11は二重口縁壺や僅かに平底を残す底部を持つ壺，ＳＡ２では平底気味の底部を持つ壺や八の字状に開く高坏の脚部，ＳＡ６では甕や平底の壺の底部，ＳＡ16では丸底の小型壺，ＳＡ19では上げ底の底部を持つ甕や刻目突帯の甕，エンタシス状の膨らみを持つ高坏の脚部のほかに，器台も見られる。

石器類の出土もあり，ＳＡ５からはすり石４点，石皿の欠損品１点，ＳＡ12からはすり石３点，ＳＡ14からすり石，ＳＡ18からはと石がそれぞれ１点づつ出土している。

２．土壙

土壙は，土壙と思われるものも含めると調査区全体で14基検出されたが，遺物を伴う土壙が少なく時期不明の土壙が多い。14基の土壙は円形，楕円形，方形，不定形と種々の平面プランを呈しており，規模は長軸（直径）が１ｍ以下の小型の土壙がほとんどで深さも20～40cmと浅い土壙が多い。

古墳時代の土壙としては，ＳＣ２で刻目突帯をもつ甕の頸部少片が出土している。ＳＣ２は約100 cm×50cmの方形プランの土壙である。

第７節　古代～中世の遺構と遺物

古代～中世の遺構としては，竪穴住居跡10軒，土壙6基，掘立柱建物跡13棟，土壙墓１基，溝状遺構14条等が検出された。包含層は弥生・古墳時代同様にすでに削平されている。

１．竪穴住居跡

検出された竪穴住居跡10軒は，カマドを持つ住居跡９軒（ＳＡ３，７，10，13，16，17，20，21，24），カマドを持たない住居跡１軒（ＳＡ１）からなる。そのうち，カマドを持つ住居跡は，１ｍ前後の長目の煙道を有するカマド付きの住居跡が８軒，煙道を持たないカマド付きの住居跡が１軒(ＳＡ20)である。いずれも平安時代の住居跡である。

竪穴住居跡はいずれも方形プランを呈しており，床面積が10㎡以下の住居跡が３軒(ＳＡ13，20，１)，10～20㎡の住居跡が７軒（ＳＡ３，７，10，16，17，21，24)といずれも小型の住居跡である。特に，ＳＡ１は5.8㎡，ＳＡ20は6.0㎡とかなり小型である。

カマドを持つ住居跡のカマドの形態は，１住居跡には１カマドの構築のみである。カマドは北を中心に北西から北東にかけての壁際に構築してあるが，西壁（ＳＡ20）や南東壁（ＳＡ13）に構築する例も見られる。いずれの場合も住居の壁を越えることなく，住居の内側に構築されている。また，カマドは煙道を持つカマドと持たないカマドの二種類に大別される。煙道を持たないカマドは小型の住居跡のＳＡ20である。煙道を持つカマド（ＳＡ３，７，10，13，16，17，21，24）のうち，削平のためにＳＡ３，21，22では煙道部が削られており煙出しのピットが残る程度である。また，ＳＡ７，10でも煙道の床面近くまで削られている。煙道を持つカマドでは，煙道の形態に２つのタイプが見られる。一つは，ＳＡ13で見られるように，カマド奥からトンネル状の煙道を村中に堀り込んで行き煙出しのピットにつなぐタイプのカマドと，ＳＡ16，17のようにあらかじめ煙道用の溝（トレンチ状）と煙出し用のピットを掘り込んだ後に灰白色の粘土を煙道の天井部として構築するタイプが見られる。ＳＡ３，７，10，21，24はＳＡ13のタイプであると推定される。また，カマドの焚き口や火床の形態では，ＳＡ７のカマド左袖部に甕の設置された痕跡

Fig. 3 古代～中世遺構分布図

が見られる。また，ＳＡ13とＳＡ16では火床内と左袖部外側に支脚に用いたと思われる柱状の焼け礫が出土している。

出土遺物の中心は土師器の甕やヘラ切り底の坏，布痕土器などで，土師器の壺，鉢，椀，内黒土器や須恵器の壺なども僅かではあるが出土している。１住居当たりの遺物の出土量はＳＡ20で他の住居跡に比べて２～３倍の出土量である以外は概して多くない。また，特殊な出土遺物としては，ＳＡ１からは床面よりやや浮いた状態で「政和通宝」銘の銭が１枚出土した。

なお，古墳時代の住居跡であるＳＡ５内の中央部を中心とした覆土上層から土師器の甕，ヘラ切り底の坏，内黒土器や布痕土器が出土した。周辺で掘立柱建物跡はなく，ＳＡ５と切り合う形のプランやＳＡ５床面に住居跡の重なるプラン，さらには覆土断面の変化等で住居の切り合いを実証する明確な痕跡は確認できなかった。遺物の出土状況からＳＡ５の覆土の窪みに遺物が混入したことも考えられるが，ＳＡ５の中央部の床面に若干の落ち込みがある点や，ＳＡ５の柱穴と判断しにくいが円形に柱穴が巡る点など竪穴住居か掘立柱建物など，平安期の住居跡の存在が考えらる。

表３　平安時代竪穴住居跡一覧表

住居番号	平面形	柱数(主柱)	規模 長軸×短軸(m)	規模 (床面積)(㎡)	住居内施設	カマド,煙道規模(m) カマド幅	カマド奥行	煙道長	煙道幅	遺物出土状況	備考	時期
ＳＡ１	方形	2	2.63×2.48	5.8	壁帯溝？	—	—	—	—	覆土中から出土,(少量) 床面よりやや浮いた状態で銭（政和通宝）出土。	ＳＡ21を切る。 炭化材出土。	平安後期
ＳＡ３	方形	4	3.70×3.63	13.43	カマド，煙道 (北壁) 置石	0.85	0.70	0.50？	？	床面よりやや浮いた状態で出土。	カマド中央部に掘り込み有り。 煙道部は削平されている。 ＳＤ１に南壁を切られる。	平安前期
ＳＡ７	方形	—	推定 4.60×4.40	推定 20.00	カマド，煙道 (北西壁)	0.90	0.80	0.94	0.36	カマド左袖先端部に甕設置？ 覆土中（土器少量）	ＳＥ３に切られる。 ＳＥ5に住居跡東側を切られる。	〃
ＳＡ10	方形	—	4.02×3.73	14.99	カマド，煙道 (北西壁)	？	？	0.80	0.35 (床0.20)	床面直上？から出土（少量）	床面近くまで削平されている。 住居跡全面に灰白色粘土質土が流れこんでいる。 カマド部分は削平のため詳細不明。	〃
ＳＡ13	方形	？	3.20×3.03	9.36	カマド,煙道(南東壁) 中央部に焼土の高まり壁帯溝	0.65	0.65	0.55	0.26	カマド周辺に床面よりやや浮いた状態で出土。 カマド内に柱状の礫有り	煙道の天井はかん没せずに元の状態で検出。	〃
ＳＡ16	方形	2～3	3.58×3.53	12.64	カマド，煙道 (北東 壁)壁帯溝	0.65	0.50	0.68 (煙出し部分まで1.10)	0.6? (床0.24)	床面よりやや浮いた状態で出土。 カマド左袖外に20cm大のの柱状の礫出土	煙道上部に灰白色粘質土がかぶさる。	〃
ＳＡ17	方形	2？	4.28×4.08	17.46	カマド，煙道 (北西壁)	？	？	0.75 (煙出し部端まで1.15)	0.60 (床0.34)	覆土中より出土（少量）	煙道上部に灰白色粘質土がかぶさる。煙道と煙出し部との境に礫を置く。カマド部分はＳＥ８に切られる。	〃
ＳＡ20	長方形	2	3.38×2.23	6.00	カマド（西壁）	0.87	0.45	—	—	覆土中より出土した量が多い。カマド手前の床面よりやや浮いた状態で土師器甕破片出土。	煙道を持たない。 カマド手前に炭化物検出。	〃
ＳＡ21	方形	1？	4.30×3.87	15.93	カマド，煙道？ (北西壁)	0.85	0.40？	1.50？	？	床面直上？より出土（少量）	床面近くまで削平されている。 北側は削平によって壁面不明 煙道部は削平されている。	〃
ＳＡ24	方形	？	3.54×3.55	12.71	カマド，煙道？ (北東壁)	0.80	0.80	1.70？	？	床面直上？より出土（少量）	カマド前部に掘り込みあり。 床面近くまで削平されている。 ＳＡ１に南東角を切られる。 煙道部は削平されている。	〃

2．土壙

調査区全体から検出された14基の土壙のうち出土遺物から古代の時期と思われるもの４基，中世の時期と思われるもの２基を数える。

古代の遺物を出土する土壙のうち，ＳＣ９は楕円形状プランの土壙でヘラ切り底の土師器の坏や布痕土器を出土する。ＳＣ22はＳＡ12と切り合う楕円形状プランの土壙でヘラ切り底の土師器の坏２枚に貝殻数十点を入れた状態で検出された。

中世の遺物を出土する土壙のうち，ＳＣ３は２ｍ×１ｍの長方形プランの土壙で土壙内からの遺物の出土はなかったがプラン検出時に輪郭線ぎりぎりの位置でほぼ完形の古瀬戸灰釉水滴が出土した。

3．掘立柱建物跡

調査区東側を中心に13棟の掘立柱建物跡が検出された。特に，溝状遺構のＳＥ３とＳＥ８に挟まれた中央部に９棟が集中する。残りはＳＥ３より東側に４棟が分布する。その規模および主軸方向については表４に示す通りである。

全体的に見て，柱間は２間×３間が８棟（ＳＢ３，４，５，６，８，９，10，12）と主体をなす。他に２間×２間が３棟（ＳＢ２，７，13），２間×４間が１棟（ＳＢ11）存在する。この内，規模的に一番大きいＳＢ11では桁行方向に東西廂を有する。

柱間寸法は，２ｍ前後（約７尺），1.8ｍ前後（約６尺），1.5ｍ前後（約５尺）の３つの寸法に分けられる。

主軸方向は，南北方向と東西方向に２分できる。ＳＢ８，９，10はＮ－72～78°－Ｅ，ＳＢ５，６，７，11はＮ－７°～12°－Ｗと方向性を持つ。

4．土壙墓

調査区東側のＳＡ３の南壁を切る形で検出された。直径約１ｍの円形土壙ですり鉢状の掘り込みを呈する。確認面からの深さ約50㎝である。土壙墓の中央部に歯４点のほかに数片の骨片が床面よりやや浮いた状態で出土した。また，骨片の西側からは床面直上でヘラ切り底の底部を持つ土師器皿５枚，床面から壁へと立ち上がる位置で１枚出土した。東側ではやはり床面直上から洪武通宝など銭52枚が固まった状態で出土した。いずれも副葬されたものであろう。また，骨片等は出土の状態から集骨されたものと思われる。

表４　掘立柱建物跡一覧表

建物番号	柱　間	桁　行	梁　行	柱間寸法		主軸方向	備　考
				桁　行	梁　行		
ＳＢ２	２間×２間	4.4m	3.35m	2.2m	1.6m	N28°E	梁はいびつ
ＳＢ３	２間×３間	6.1	4.0	2.0	2	N10°W	
ＳＢ７	２間×２間	3.2	3.1	1.5	1.5	N12°W	
ＳＢ８	２間×３間	5.8	3.9	1.9	1.9	N74°E	梁の西辺は中間の柱を欠く
ＳＢ９	２間×３間	5.9	3.6	1.9	1.8	N78°E	〃
ＳＢ10	１間×３間	6.2	4.1	2.1	4.1	N72°E	
ＳＢ11	２間×４間	8.0	4.2	2.0	2.1	N10°W	南辺，北辺に軒がある
ＳＢ５	２間×３間	5.3	3.5	1.8	1.7	N5.5'W	北辺いびつ
ＳＢ13	２間×２間	3.2	2.9	1.6	1.4	Ｎ１°W	
ＳＢ６	２間×３間	6	4.0	2.2	2.1	Ｎ８°W	

5．溝状遺構

溝状遺構は調査区東側からＳＥ１，２，３……と称した。調査区中央を中心に12～13条が検出された。主要なものとしてはＳＥ１，２，３，４，５，６，８などが上げられる。調査区の旧地形やその後の削平の状態から詳細は不明であるが，ＳＥ１，２，３，８の４条が調査区を切断する形で検出された。溝状遺構の方向としては，ＳＥ７のみが東西方向である以外は，台地を縦に切る形で南北方向を中心に延びる。そのなかでＳＥ１，２，３は真北よりやや西に偏って延びており３本が並列する。ＳＥ１とＳＥ２は南側で切り合う。調査区西側のＳＥ８，９，10および中央部のＳＥ６はほぼ真北に延びる。ＳＥ６はＳＥ７とＳＥ４，５をそれぞれ切っている。調査区中央部のＳＥ５は北西方向に延びる。ＳＥ４は北西方向に延びながらＳＥ５方向に接近するところで２本にわかれて真北方向へと延びる。断面はＳＥ１，６，７，８，９，10がＶ字形，ＳＥ２，３，４，５が逆台形を呈する。

ＳＥ３とＳＥ５は逆台形状の溝である。床面中央に硬化面(幅50～60cm)があり,その左右には幅20cm程度の窪みが延びている。この構造から道として使われていたと考えられる。なお，ＳＥ３は硬化面が３層確認されその上下には軟質の層が堆積しており，３回にわけて使用されていたと思われる。遺物は土師器甕，ヘラ切り底の坏，高台付埦，青磁，備前系の甕などがみられる。

ＳＥ８はＶ字状の溝で２箇所に陸橋部と思われる幅１ｍ程度の高まりがみられる。遺物は土錘，土師器のヘラ切り底の坏，木ノ葉底，青磁，備前系のすり鉢，須恵器片と混入がみられる。

ＳＥ２からは，土師器甕，須恵器壺，備前系甕，すり鉢等遺物の混入がみられる。

ＳＥ１からは土師器のヘラ切り底の皿，土錘，布痕土器などがみられる。

表５．土壙・土壙墓一覧表（ＳＣ…土壙，ＳＤ…土壙墓）

土壙番号	プラン	規模 長軸×短軸×深さ（m）	内部施設	出土遺物	備考
ＳＣ２	長方形	1.58×0.60×0.45	100		
ＳＣ３	長方形	1.81×1.28×0.20	—	瀬戸灰釉水滴？	14世紀
ＳＣ４	円形	1.27×1.16×47.8	—		
ＳＣ５	長方形	1.97×0.93×0.82	—		
ＳＣ６	円形？	1.64×1.58×0.60	—	弥生土器（甕）	弥生後期
ＳＣ７	長方形	1.22×0.88×0.12	—		
ＳＣ８	円形	1.58×1.44×0.10	—	土師器（刻目突帯甕）	古墳前期
ＳＣ９	楕円形？	1.80×1.09×0.20	—	布痕土器，土師器坏	平安
ＳＣ10	方形	0.94×0.79×0.10	—		
ＳＣ11	長方形(隅丸)	1.52×1.27×0.15	—		
ＳＣ12	楕円形？	1.58×1.10×0.21	—		
ＳＣ13	円形	1.65×1.48×0.27	—		
ＳＣ14	円形？	1.08×0.97×0.13	—		
ＳＣ23	楕円形？	？×0.82×0.12	—	土師器坏（ヘラ切底） 貝ガラ	平安
ＳＤ１	円形	1.26×1.26×0.35	—	土師器坏（ヘラ切底） 人骨，古銭(洪武通宝他)	中世土壙墓

第８節　まとめ

陣ノ内遺跡では縄文・弥生・古墳・古代～中世の各時期の遺構・遺物が確認された。

１．縄文時代

陣ノ内遺跡では縄文時代に属する遺構としては，アカホヤ(Ⅱ)層下位層であるⅢ～Ⅳ層から集石遺構14基を検出，同層より押型文（菱形）土器を出土している。学園都市遺跡群内では，北側丘陵に位置する下田畑，浦田，田上遺跡，南丘陵中位面Ⅰに位置する堂地西，平畑遺跡，南丘陵中位面Ⅱに位置する前原西，前原北の各遺跡がある。いづれの遺跡でも層位は全てアカホヤ層の下位層での検出である。共伴遺物としては，押型文，貝殻条痕文，縄文，撚糸文，無文等の各土器片が共伴している。陣ノ内遺跡は前原西遺跡や前原北遺跡と同じ南丘陵中位面Ⅱに分布しており標高11～12mと低位置に立地する。時期的には，押型文（菱形）土器を集石遺構が伴う資料は得られなかったが，他遺跡においても遺構に伴う遺物検出の例は少なく，同一レベル層での検出である点から集石遺構の時期は押型文の多くみられる縄文早期に比定したい。

なお，１は鹿児島県横川町中尾田遺跡出土の第９ｆ類土器に類似する。

２．弥生時代

弥生時代に属する遺構は竪穴住居跡（ＳＡ４）一軒のみであった。出土した円形浮文の壺や倒Ｌ字状口縁の甕がみられる点から中期後葉～後期初頭に位置づけられる。住居プランは四本柱の方形プランを呈しており，熊野原遺跡Ｂ地区等でみられる間仕切り型の住居出現の前段階にあたる。調査区東側で検出されたが，遺跡の立地する微高地は東にのびており，弥生中期～後期にかけての住居が東にのびる可能性を含む。しかし，東側はすでに削平されており想像の域を脱しない。弥生時代中期後半から後期前半にかけての住居跡は学園都市遺跡群内では堂地東遺跡で中期の後半の住居跡２軒，前原北遺跡でも，数軒検出されている。

３．古墳時代

古墳時代の竪穴住居跡10軒は，前期９軒，後期１軒に分けられる。

後期の住居（ＳＡ８）は，中央に埋甕炉をもつタイプの住居跡である。このタイプの住居跡は新富町藤掛遺跡，高鍋町上別府遺跡，宮崎市浄土江遺跡などで類例を見る。いずれも６世紀後半～７世紀中ごろにかけての時期にあたり，浄土江遺跡では同時に７世紀後半～８世紀前半の時期にあたるカマドを持つ住居跡も出土しておりカマド出現前の炉の形態として位置づけられている。陣ノ内遺跡ＳＡ８の場合土師器のヘラ切り底の坏の混在？もみられるが，６世紀後半～７世紀中ごろと思われる須恵器壺（141，142）が床直上で出土しており，この時期に比定したい。このタイプの竪穴住居は学園都市遺跡群内でははじめての検出例である。

前期の住居については，２本ないし４本柱の方形プランが主体をなし，主柱間の南側に焼土等を含む掘り込みを持つ住居である。このタイプの住居は，学園都市遺跡群においても，前原南遺跡や前原北遺跡，熊野原遺跡Ｃ地区等でみられる古墳時代前期の住居跡に類例を見る。

住居跡出土の土器類については次のように分類できる。

甕形土器

甕形土器は次のように分類できる。

甕Ⅰ類　口縁部が外湾するもの。

ⅠA類　球形に近い中膨らみの胴部に，「く」の字に外反する口縁部を持つ。底部は上げ底気味の平底をなし，口縁部径と胴部最大径が同じである。(83)

ⅠB類　最大径を胴部中位に持つ。「く」の字に外反する口縁部に卵倒形の長胴部が付く。底部は上げ底気味の平底を呈する。(59)

ⅠC類　最大径を口縁部に持つ甕

ⅠC－a類　胴部最大径を胴部上位にもがあまり肩の張らない胴部に，頸部にわずかにしまりを持ちながら外反する口縁部を持つ。底部は上げ底気味の平底をなし，最大径を口縁部に持つ。(57, 60, 94, 109, 111)

ⅠC-b_1類　口縁部に最大径を持つ。頸部にしまりがなく口縁部が外反する。胴部はあまり張らないが，少し膨らみを持つ。底部は上げ底気味の平底。(82, 85, 112, 120)

ⅠC-b_2類　b類に比べ胴部の膨らみがない。底部は平底を呈する。(56, 58, 84, 110)

ⅠD類　刻み目突帯を持つ甕

ⅠD－a類　張りのある胴部に大きく開く口縁部を持つ。幅広の突帯に3～4条の十字状の刻み目文が施されている。底部は上げ底気味の平底。(106)

ⅠD－b類　肩のあまり張らない胴部に大きく開く口縁部を持つ。底部は上げ底気味の平底。比較的器高の高い甕である。(105, 108)

ⅠD－c類　頸部にしまりがなく，胴部に張りを持たない。わずかに外反する口縁部から逆「八」の字状に底部へ続く。(107)

甕Ⅱ類　口縁部が直立気味に外反するもの。

ⅡA－a類　器高の低い甕で口縁部径と器高の比率がほぼ同じ。わずかにくびれを持つ頸部から直立気味に口縁部が開く。底部は上げ底を呈する。(95, 96)

ⅡA－b類　器高の低い甕。頸部のしまりがなくわずかに開く口縁部を持つ。底部は平底。(23)

ⅡA－c類　頸部にしまりがなくわずかに開く口縁部を持つ甕。胴部下位に膨らみを持ち，丸底気味のレンズ状の底部を持つ。器高はやや高くなる。(22)

ⅡB－a類　しまりのある頸部に直立気味に外反する口縁部を持つ。最大径が胴部上位から中位にあり，器形に丸みを持つ甕。底部はわずかな平底を呈する。(92, 93)

ⅡB－b類　胴部～口縁部にかけてはa類に類似するが最大径を口縁部と胴部中位に持つ。底部は丸底気味の尖底を呈する。(90)

ⅡB－c類　頸部にしまりがなく胴部の張りもさほどない。(91)

甕Ⅲ類　口縁部が内湾するもの。(132)

壺形土器

壺形土器は次ぎのように分類できる。

壺Ⅰ類　二重口縁を持つもの。

ⅠA類　口縁部の立ち上がりが直立するもの。口縁部に櫛描波状文，口縁部の立ち上がり部に刻み目突帯を施す。締まった頸部から口縁部へ向って大きく外湾して開く。最大径を胴部中位にもつ球形の胴部に尖底

気味の丸底を持つ。胴部上位に線刻あり。(113)

ⅠB類　口縁部の立ち上がりが外反するもの。(9，26)

壺Ⅱ類　単純口縁で口縁部が外反するもの。

ⅡA類　口唇部が開き気味の外湾する口縁を持つ。胴部は卵倒形で底部は平底をわずかにのこす。(16，63，86)

ⅡB-a_1類　口縁が直線的に外反する。最大径を胴部中位に持つ球形に近い胴部で平底をわずかにのこす底部を持つ。(24)

ⅡB-b_2類　口縁は直立気味に外反する。最大径を胴部中位に持つが肩が張る胴部に尖り気味の丸底を呈する。(98)

ⅡC類　器高に比べ口縁部が高い。(13，97)

壺Ⅲ類　器高が50cmを超す大型の壺。頸部をかなり絞ってある。肩部は張りをもたずに，胴部中位から下位にかけて最大径を持つ下膨らみの器形を呈する。底部はわずかに平底を残す。(89)

壺Ⅳ類　単純口縁で口縁部が直立するもの。

ⅣA類　器高の高い器形の壺。胴部上位に最大径を持ち，尖り気味の丸底を呈する。(119)

壺Ⅴ類　口縁部が内湾気味に立ちあがるもの。

ⅤA類　器高20cmの比較的小型の壺で，頸部はしまり球形の胴部に丸底をもつ。(25)

壺Ⅵ　小型の壺

ⅥA類　口縁部に最大径を持ち大きく外反する。底部は平底。(100)

ⅥB－a類　胴部最大径と口縁部径がほぼ同じ長さで，口縁部は内湾気味に外反する。外反の傾きは直立気味に立ち上がる。胴部は下位にやや膨らみを持ち，底部は平底を僅かに残す。(68)

ⅥB－b類　球形の胴部に丸底の底部を持つ。口縁部は二重口縁状に内湾する。(80)

高坏形土器

高坏形土器は次のように分類できる。

高坏Ⅰ類　坏部下位から口縁部へ大きく外反する坏部を持つ高坏。

ⅠA－a類　坏部下位はやや立ち気味に延びる。下位に稜を持ち口縁部へ大きく開く。(102)

ⅠA－b_1類　坏部下位は水平に小さく延び口縁部が若干低い。脚部はやや開き気味に延びる。(46)

ⅠA－b_2類　b_1類に比べて坏高が高い。(42，43，101)

ⅠA－c_1類　坏部下位に稜を持たず，脚部付け根から真っすぐに口縁まで外反する坏部を持つ。脚部は若干中位に膨らみを持ち開き気味に延びる。裾部は脚部から大きく外反する。(41)

ⅠA－c_2類　坏部は内湾気味に延びる。(45)

ⅠB－a類　坏部下位は内湾し中位から大きく外湾する坏部を持つ。中膨らみの太い脚部に短く内湾する裾部を持つ。(70)

高坏Ⅱ類　埦状の坏部に「八」の字状に大きく広がる脚部を持つ高坏。

ⅡA－a類　坏部下位は内湾し，中位から口縁端へは大きく外湾する比較的浅い坏部を持つ。(71)

ⅡA－b類　坏部下位から中位にかけては内湾し，口縁部は外湾する。(88)

ⅡB-a_1類　坏状の坏部に裾部まで大きく広がる脚部を持つ。裾端部は外反する。(73)

ⅡB-a_2類　坏状の坏部に内湾気味に広がる脚部を持つ。(72)

高坏Ⅲ類　口縁部の直立する坏部を持つ高坏。坏部下位から中位にかけて大きく外反し，中位から上位に移る箇所に稜から若干外反気味に直立する口縁を持つ。口縁部に櫛描波状文を施す。脚部は「八」の字に大き

く開き，裾部で稜を持ち外反する。(74，75)

高坏Ⅳ類　脚部

ⅣＡ類　中膨らみのエンタシス状の脚部を持つ高坏。(126)

ⅣＢ類　「八」の字状に内湾気味に開く脚部に外反するわずかな裾部を持つ。脚部に三角透しを持つ。(76)

陣ノ内遺跡における古墳時代前期の住居は，大きく３つに分けられる。

Ⅰ期はＳＡ２，９，12，18を中心とする時期。上げ底の甕が主体で，刻目突帯を頸部にもつ甕，櫛描波状文を施した二重口縁壺や高坏，三角透しの脚部がみられ，大型の壺も加わる。壺は「く」の字に外湾する口縁部が主体で底部は平底をわずかに残す。

Ⅱ期はＳＡ15，22を中心とする時期。上げ底の甕は小型の甕にのみ残り丸底気味の尖底の底部をもつ甕が出現する。壺の口縁部はまっすぐ外反しより丸底に近くなる。高坏は坏部下位に稜をもち大きくひらく口縁をもつ。脚はややひらく口縁をもつ。脚はややひらき気味の脚部である。

Ⅲ期はＳＡ５を中心とする時期。甕・壺に平底が残るが，壺は口縁が直線的に外反するものと内湾するものがある。とくに内湾する口縁部の壺は球形の胴部をもつ。(25)。高坏は坏部はⅡ期とあまり変化はみられないが，ふくらみをもつ脚部が出現する。

Ⅰ期を４世紀前半，Ⅲ期を４世紀後半～５世紀はじめの時期としたい。

４．古代～中世

古代になるとカマド付竪穴住居と掘立柱建物を主体とする集落が営まれる。

カマド付竪穴住居11軒とカマドを持たない竪穴住居１軒が確認されている。カマド付竪穴住居はカマドの形態から３つのタイプに分類できる。

Ａ類……屋外に煙道を設けないタイプ（ＳＡ20）。

Ｂ類……屋外に煙道を延ばすタイプ。

Ｂ－１類……くりぬき式の煙道。住居内カマド奥壁から屋外方向にトンネル状の煙道をくりぬき，煙り出しピットとつなぐ（ＳＡ13）。

Ｂ－２類……掘り込み式の煙道。煙道～煙り出しピットを掘り込んだ後に粘土で煙道天井部を形成する。煙道と煙り出しピットの境には礫を置く。（ＳＡ16，17）

その他のカマド付住居は削平が著しくカマドの形態は把握し難いがいづれもＢ－１類に属するタイプと思われる。

カマド付住居は，宮崎市浄土江遺跡で検出された２軒をはじめ学園都市遺跡群内でも下田畑・赤坂・前原南・平畑・浦田の５遺跡で９軒発見された。浄土江205号住居がＡ類。浄土江304号住居と前原南ＳＡ７がＢ－１類だが浄土江304号住居は煙道先端に煙り出しのピットを設けていない（Ｂ－1′類）。浦田ＳＡ－２，赤坂ＳＡ１，平畑ＳＡ 101，102，前原南ＳＡ１，ＳＡ６はいずれもＢ－２類に属する。下田畑ＳＡ１は掘り込み式で石蓋式の煙道に甕使用の煙り出しをもつ特種な形態を示す。住居跡内から出土した土器類については次のように分類できる。

土師器

壺はＳＡ17から１点のみ出土した。内湾気味に立ちあがる口縁部に球形に近い胴部をもつ。（172）

甕はＳＡ７，10，13，16，17，20で出土する。

Ⅰ類……大きくひらく口縁部にほぼ直線的に下降する胴部をもつ。最大径は口縁部に有る。口縁径は20cm前後である。

Ⅰ－ａ類……口縁部の立ちあがりが若干立つタイプ（156，157）。胴部に若干のふくらみがみられる。

Ⅰ-a′類……頸部に若干の丸味をもち，口縁部が幅広くなるタイプ（162）。胴部に若干のふくらみがみられる。

Ⅰ－b類……口縁部の立ちあがりが倒れるタイプ（174）。木ノ葉底を呈する。胴部に若干のふくらみがみられる。

Ⅱ類……やや倒れ気味に大きくひらく口縁に胴部中央に向ってひらき気味の胴部をもつ。口縁部は20cmを若干切る。（169）

Ⅲ類……大きくひらく口縁に，底部からひらき気味の胴部をもつ。口縁径は20cm以下である。（151）

Ⅳ類……直立気味にひらく口縁部に頸部にしまりがなく，肩部にも張りのない球形に近い胴部をもつ。器高と最大径が同じ比率を呈する。底部は平底である。（175）

Ⅴ類……頸部にあまりくびれを持たずに外反する口縁へとのびる。胴部はわずかに張りをもつ。口縁径が胴部径をうわまわる。（148）

Ⅵ類……外湾気味に外反する口縁部に，頸部が著しくくびれており張りのある胴部をもつ。Ⅰ～Ⅳ類とは様相が異る。（163，176，177）

坏はすべてヘラ切り底を呈する。

Ⅰ類……底部と体部の境が明瞭なタイプ。

Ⅰ－a類……口縁部が直線的ないしは内湾気味に立ちあがるもの。（184）

Ⅰ－b類……口縁部が直線的に立ちあがり口縁部付近で外反するもの。（186，187）

Ⅱ類……底部と体部の境に丸味をもつタイプ。

Ⅱ－a類……口縁部が直線的ないしは内湾気味に立ちあがるもの。（145，158，154，182，188，191）

Ⅱ－b類……口縁部が直線的に立ちあがり口縁部付近で外反するもの。（159，160，183，185，186，187，192）

埦はＳＡ20からの出土のみである。

Ⅰ類……平底でＵ字状の器形を呈する。口縁部は頸部でくびれ外反する。（178，180）

Ⅱ類……平底でＵ字状の器形はⅠと同じだがそのまま口縁部までのびる。（179）

布痕土器

内面に布目圧痕のある土器で口径12～15cm程度で尖底を呈する。器形は円錐形で，口縁部はヘラ状工具によって外方はそぎ落されている。

平安時代のカマドを持つ住居は出土土器から平安時代前半のものと思われる。学園都市遺跡群内の他の遺跡のカマドを持つ住居の年代は，浦田遺跡が９世紀後半～末，平畑，下田畑遺跡が10世紀前半に比定している。陣ノ内遺跡の住居出土の土器は平畑，下田畑遺跡の土器と類似しており，10世紀前半に比定したい。

また，ＳＡ１からは政和通宝が出土しており，12世紀前半の住居跡である。

（永友　良典）

参考文献

(1) 「山内石塔群」『宮崎学園都市遺跡群発掘調査報告書第１集』宮崎県教育委員会　1984年

(2) 「浦田遺跡，平畑遺跡，堂地東遺跡，熊野原遺跡」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第２集』宮崎県教育委員会　1985年

(3) 「下田畑遺跡，小山尻東遺跡，田上遺跡，赤坂遺跡，小山尻西遺跡」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第３集』宮崎県教育委員会　1985年

(4) 外山秀一「学園都市遺跡群周辺の地形分類」『宮崎学園都市埋蔵文化財発掘調査概報』（Ⅲ）宮崎県教育委員会　1982年

(5) 「浄土江遺跡」『宮崎市文化財調査報告書』第６集 宮崎市教育委員会　1981年

(6) 「中尾田遺跡」『鹿児島県埋蔵文化財発掘調査報告書』（15）鹿児島県教育委員会　1981年。

(7) 石川悦雄「宮崎平野における弥生土器編年試案一素描（ＭＫ・Ⅱ）」『宮崎考古』第９号1984年。

(8) 長津宗重「弥生後期～庄内，布留式併行期の土器編年」『シンポジウム，地域間交流を考える』資料1986年。
(9) 森田勉「焼塩壺考」『太宰府古文化論叢，下巻』吉川弘文館，1983年。
(10) 「藤掛遺跡」『新富町文化財調査報告書』第２集　新富町教育委員会　1983年
(11) 「上別府遺跡」『お染が岡地区特殊農地保全整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』宮崎県教育委員会　1979年

表６　石器計測一覧表

図面番号	遺物番号	遺構名	種類	大きさ (cm)			備考
				長軸	短軸	厚さ	
第20図	2		スクレイパー	7.45	4.55	0.9	
〃	3		石鏃	2.03	1.25	3.02	
〃	4		〃	—	1.40	0.38	欠損
〃	5		〃	2.60	1.70	0.42	
第40図	268	ＳＡ４	石皿	26.06	20.75	3.60	
〃	269	ＳＡ５	磨石	12.90	5.50	5.03	
〃	270	〃	〃	12.65	5.3	3.12	
〃	271	〃	〃	13.15	5.4	3.85	
〃	272	〃	石斧？	—	6.50	3.90	欠損
〃	273	〃	石皿	—	—	2.20	欠損
〃	274	ＳＡ10	磨石	12.00	8.07	4.46	
〃	275	ＳＡ12	〃	13.55	10.15	4.96	
〃	276	〃	〃	12.25	7.20	4.20	
〃	277	〃	〃	13.02	5.90	3.32	
〃	278	ＳＡ14	〃	15.20	5.21	4.75	
〃	289	ＳＡ18	砥石	13.00	7.41	2.60	欠損
〃	280	ＳＡ21	磨石	9.65	7.90	4.60	ＳＩ14に伴う遺物
〃	281		石包丁	9.10	5.00	4.00	欠損

表７．土錘計測一覧表

図面番号	遺物番号	遺構名	長さ (cm)	径 (cm)	孔径 (cm)	重 (g)	備考
第39図	266	ＳＥ８	4.4	1.4	0.45	10	
〃	267	〃	5.1	1.6	0.40	12	

表8．土器観察表

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器部	文様および調整 外面	文様および調整 内面	焼成	色調 外面	色調 内面	胎土	備考
第20図	1	f 9区	縄文土器 深鉢	口縁～ 胴部下位	口　縁　ナデ 胴　部　菱形押型文	口　縁　菱形押型文 胴　部　ナデ	良好	浅黄 (2.5Y 7/3)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	1～2㎜程の砂粒を含む	
第21図	6	SA4	甕	完形	口唇部～頸部　ヨコナデ 胴部上位～下位　ナデ 胴部下位～底部　タテ方向のハケ目	口唇部～頸部　ヨコナデ 胴部上位　指押えのあとナデ 胴部上位～底部　ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/3)～ 灰黄褐 (10YR 6/2)	浅黄橙 (10YR 8/3～8/4)～ 褐灰 (10YR 4/1)	0.5～1㎜程の砂粒を含む	あげ底 胴部中位外面スス付着
〃	7	〃	壺	口縁～ 頸部	口縁上位　ヨコナデ 頸部タテ・左斜方向ハケ目後一部ナデ	口縁上位　ヨコナデ 頸　部　ヨコ方向のハケ目後ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)～ にぶい黄橙 (10YR 7/4)	浅黄橙 (10YR 8/4) 一部灰黄 (2.5Y 6/2)	0.5～1㎜程の砂粒を含む	円径浮文2個づつ4ヶ所有
〃	8	〃	壺	頸部	タテ方向ミガキ	ナデ	良好	赤褐 (5YR 4/8)	明赤褐 (5YR 5/8) 赤褐 (5YR 4/8)	1～4㎜程の金雲母・角閃石・石英・白色の粒を含む	
〃	9	SA11	壺	口縁～ 頸部	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR 6/4) 橙 (7.5YR 7/6)	にぶい黄橙 (10YR 7/4) 橙 (7.5YR 7/6)	0.5～1㎜程の砂粒・石英を含む	5と同一個体
〃	10	〃	壺	頸部～ 肩部	ナデ	ナデ 肩　部　指押えの後ナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR 6/4) 橙 (7.5YR 7/6)	にぶい橙 (10YR 7/4) 橙 (7.5YR 7/6)	0.5～1㎜程の砂粒・石英を含む	4と同一個体
〃	11	〃	高坏	脚～	ナデ	ナデ	良好	黄橙 (10YR 8/6)	灰オリーブ (5Y 5/2)	0.5～1㎜程の砂粒を含む	
〃	12	〃		底部	ナデ	ナデ	良好	明黄褐 (10YR 7/6) 橙 (7.5YR 6/6・6/8)	橙 (7.5YR 7/6) 暗灰黄 (2.5Y 5/2)	1～3㎜程の砂粒を含む 4～5㎜程の小石を含む	
〃	13	SA2	壺	完形	口縁上半　ヨコナデ 頸部～肩部　タテ方向にハケ目 肩部～底部　ナデ	口唇部　ヨコナデ 口縁～頸部　ハケ目のあとナデ 頸部～底部　ナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	橙 (7.5YR 7/6) 淡黄 (2.5Y 8/4)	石英と砂粒を含む	丸底，胴部中位～底部内面黒斑有
〃	14	〃	甕	口縁～ 胴部	口唇部 ヨコナデ，口縁部 ヨコナデの後タテナデ 胴　部　タテ方向にハケ目？	口　縁　ヨコナデ 胴　部　左斜方向ナデ 胴部中位　一部指押えあり	良好	橙 (5YR 6/6, 6/8)	橙 (7.5YR 6/6) 橙 (5YR 6/6)	0.5～2㎜程の砂粒を含む	外面スス付着
〃	15	〃	甕	口縁～ 胴部下位	口縁部　ヨコナデ 頸部～胴部下位　ナデ	口縁部　ヨコナデ 頸部～胴部下位　ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	1～3㎜程の砂粒を含む	外面スス付着 胴部下位内面スス付着
〃	16	〃	壺	口縁～ 肩部	口縁部　ヨコナデ 肩　部　タテ方向にハケ目	ヨコナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/3)	褐灰 (10YR 4/1)	1～4㎜の砂粒を含む	内面に黒斑有，12と同一個体，外面スス付着，内面胴部上位継ぎ目明瞭
〃	17	〃	壺	頸部～ 底部	頸　部　ヨコナデ 胴部上位～底部　タテ方向にハケ目	頸部～胴部中位　ヨコナデ 胴部中位～底部　ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/3)	褐灰 (10YR 4/1) 黒 (7.5YR 2/1)	1～4㎜の砂粒を含む 1㎜弱の角閃石・石英を少し含む	外面スス付着，平底，11と同一個体
〃	18	〃	高坏	脚部	脚　部　ナデ？ 裾　部　ヨコナデ	脚　部　指押えの後ナデ？ 裾　部　ヨコナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4) にぶい橙 (5YR 6/4)	にぶい黄橙 (10YR 6/3) 浅黄 (2.5Y 7/3)	1㎜前後の砂粒・石英を含む	
第22図	19	SA5	甕	完形	口縁～頸部　ヨコナデ 胴　部　左斜，タテ方向のナデ 底　部　指押えその後ナデ	口縁～頸部　ヨコナデ 胴　部　ナデ 底　部　指押えの後ナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	橙 (7.5YR 7/6) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	1～3㎜程の砂粒を多く含む	平底
〃	20	〃	甕	口縁～ 胴部下位	口縁～頸部　左斜方向のハケ目の後ヨコナデ 胴　部　左斜・タテ方向のハケ目	口縁～頸部 ハケ目の後，ヨコナデ 胴　部　左斜方向のハケ目	良好	明黄褐 (10YR 7/6) 黄灰 (2.5Y 4/1・5/1)	にぶい黄橙 (10YR 7/4・6/4)	1～2㎜程の砂粒や4～5㎜程の小石を含む	
〃	21	〃	甕	口縁～ 胴部上位	口縁～頸部　ヨコナデ 胴部上位　ナデ	ナデ	良好	淡黄 (2.5Y 8/4)	淡黄 (2.5Y 8/4)	0.5～2㎜程の砂粒を含む 雲母や石英を含む	外面スス付着
〃	22	〃	甕	完形	口縁～底部　ハケ目の後ナデ 胴　部　タテ・ヨコ・斜方向のハケ目後ナデ 底　部　ナデ	口縁～胴部 斜方向のハケ目後ナデ 底　部　指押えの後ナデ	良好	淡黄 (2.5Y 8/4) にぶい橙 (5YR 7/4)	にぶい橙 (5YR 7/4)	0.5～1㎜程の砂粒を多く含む，石英を含む	丸底 胴部外面スス付着
〃	23	〃	甕	口縁～ 底部	ナデ	ナデ	良好	明黄褐 (10YR 7/6) にぶい橙 (7.5YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 6/3, 7/3) にぶい橙 (5YR 7/3)	0.5～2㎜程の砂粒を多く含む，石英を含む	あげ底 底部外面に黒斑有
〃	24	〃	壺	口縁～ 底部	口縁～頸部　ヨコナデ 胴部～底部　ナデ	ナデ（口縁，一部ヨコナデ）	良好	にぶい橙 (5YR 7/4) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	橙 (7.5YR 7/6) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	0.5～2㎜程の砂粒を多く含む	平底
第23図	25	〃	壺	完形	口縁～頸部　ヨコナデ 胴部～底部　ナデ	口縁～胴部　ヨコナデ 底　部　ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4) にぶい橙 (7.5YR 7/4)	浅黄橙 (10YR 8/4) 橙 (7.5YR 7/6)	0.5～2㎜程の砂粒を多く含む	丸底
〃	26	〃	壺	口縁部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6) (2.5YR 6/6)	橙 (7.5YR 7/6) (2.5YR 6/6)	0.5～2㎜程の砂粒を多く含む	
〃	27	〃	甕	口縁～ 胴部上位	ナデ	ヨコナデ	良好	にぶい橙 (5YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	0.1～1㎜程の砂粒を多く含む，雲母を含む	
〃	28	〃	壺	頸部～ 胴部下位	ナデ	風化	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4) にぶい橙 (7.5YR 7/4)	黄灰 (2.5Y 5/1) にぶい黄 (2.5Y 6/3)	0.5～4㎜程の砂粒を多く含む，黒雲母，石英を含む	24と同一個体
〃	29	〃	壺	胴部下位～ 底部付近	ナデ（一部ヘラナデ）	ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4) にぶい橙 (7.5YR 7/4)	黄灰 (2.5Y 5/1) にぶい黄 (2.5Y 6/4)	0.5～4㎜程の砂粒を多く含む，黒雲母，石英を含む	23と同一個体
〃	30	〃	小型壺	頸部～ 底部	ナデ	風化	良好	淡黄 (2.5Y 8/4)	黄灰 (2.5Y 6/1) 淡黄 (2.5Y 8/4)	0.5㎜前後の砂粒を含む 黒雲母，石英を含む	丸底 底部外面に黒斑有
〃	31	〃	小型壺	頸部～ 底部	頸　部　ヨコナデ 胴部～底部　ナデ	頸部～胴部　ヨコナデ 胴部～底部　ナデ	良好	橙 (7.5YR 6/6) (5YR 7/6)	浅黄橙 (10YR 8/4) 灰黄褐 (10YR 5/2)	0.5～1㎜程の砂粒を多く含む，石英を含む	丸底 胴部外面に黒斑有
〃	32	〃	小型壺	頸部～ 胴部	頸　部　タテ方向のミガキ 胴　部　ヨコ方向のミガキ	ヨコナデ	良好	明黄褐 (10YR 6/6)	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	0.5㎜程の砂粒を含む 雲母，石英を含む	外面スス付着
〃	33	〃	壺	胴部～ 底部	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 6/4) 橙 (7.5YR 6/6)	にぶい黄橙 (10YR 6/4)	0.5～3㎜程の砂粒を含む 雲母，石英を含む	丸底 外面スス付着
〃	34	〃	壺	胴部～ 底部付近	風化	胴部上位　ヨコナデ 胴部上位～下位 斜・タテ方向のハケ目後ナデ 底　部　指押え	良好	明黄褐 (10YR 7/6) にぶい橙 (7.5YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 6/3, 7/3) にぶい橙 (5YR 7/3)	0.5～2㎜程の砂粒を多く含む，石英を含む	丸底気味
〃	35	〃		胴部～ 底部	胴　部　タテ方向のナデ 底　部　ナデ	左斜・タテ方向のナデ	良好	橙 (7.5YR 6/6) 明黄褐 (10YR 6/6)	淡黄 (2.5Y 8/4) 明黄褐 (10YR 6/6)	1～2㎜程の砂粒を多く含む	平底
〃	36	〃		胴部下位 ～底部	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR 6/4) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	灰オリーブ (5Y 5/2) 灰 (5Y 4/1)	1～2㎜程の砂粒を含む	平底
〃	37	〃		底部	ナデ	ナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6, 6/6)	橙 (7.5YR 7/6, 6/6)	1～4㎜程の砂粒を含む	あげ底
〃	38	〃		底部	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙 (5YR 7/4) 明黄褐 (10YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	0.5～1㎜程の砂粒を含む 石英を含む	丸底
〃	39	〃		底部	ナデ	ナデ	良好	橙 (2.5YR 6/6) にぶい黄橙 (10YR 6/4)	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	1～2㎜程の砂粒を含む	あげ底
〃	40	〃		底部	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 6/4)	にぶい黄橙 (10YR 6/4)	1㎜前後の砂粒を含む	平底
〃	41	〃	高坏	完形	坏　部　ナデ（口唇部ヨコナデ） 脚　部　ナデ 裾　部　ヨコナデ	坏　部　指押えの後ナデ （口唇部はヨコナデ） 脚　部　ナデ，裾部　ヨコナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4) 灰オリーブ (5Y 5/2)	浅黄橙 (10YR 8/4) 灰オリーブ (5Y 5/2)	0.5～1㎜程の砂粒を多く含む	
〃	42	〃	高坏	坏部～ 脚部	坏　部　ヘラミガキ 脚　部　ナデ	ナデ	良好	橙 (7.5Y 6/6) にぶい黄橙 (10YR 6/3)	灰黄褐 (10YR 5/2) 橙 (7.5YR 6/6)	0.5～1㎜程の砂粒を含む 石英を含む	
〃	43	〃	高坏	坏部	ナデ（口唇部ヨコナデ）	ヨコナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4) 橙 (7.5YR 6/6, 7/6)	橙 (5YR 6/6)	1㎜前後の砂粒を多く含む	45と同一個体？
〃	44	〃	高坏	坏部	ナデ	ヨコナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6)	明黄褐 (10YR 7/6) 浅黄 (2.5Y 7/4)	0.5～1㎜程の砂粒を含む 石英を含む	
〃	45	〃	高坏	坏部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4) 黄橙 (10YR 8/6)	0.5～2㎜程の砂粒を含む	
〃	46	〃	高坏	坏部	ナデ（受部一部にハケ目）	ナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6) (5YR 6/8)	0.5～1㎜程の砂粒を多く含む，黒雲母，石英を含む	外面スス付着？
〃	47	〃	高坏	脚部	ナデ	ナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	黒褐 (10YR 3/1)	1㎜前後の砂粒を含む	
〃	48	〃	高坏	脚部	ナデ	ナデ	良好	橙 (5YR 7/8, 6/8) (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	1㎜前後の砂粒を含む 石英を含む	

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
					外面	内面		外面	内面		
第23図	49	ＳＡ５	高坏	脚裾部	ヨコ方向のハケ目後ナデ	脚部 ナデ 裾部 ヨコナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/4) 橙(5YR 7/6)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	0.5～1mm程の砂粒を多く含む，石英を含む	
〃	50	〃	高坏	脚部	ナデ	ナデ	良好	明黄褐(10YR 7/6) 橙(7.5YR 6/6)	橙(5YR 7/6)	1mm前後の砂粒を多く含む，石英を含む	38と同一個体？
〃	51	〃	高坏	裾部	風化	風化	良好	橙(5YR 7/6)	橙(5YR 7/6)	0.5mm前後の砂粒を多く含む，石英を含む	
〃	52	〃	高坏	裾部	ナデ	ナデ	良好	浅黄橙(7.5YR 8/4)	浅黄橙(7.5YR 8/4)	0.5mm前後の砂粒を多く含む，石英を含む	
〃	53	ＳＡ６	甕	口縁～胴部	口縁～頸部 ハケ目の後ヨコナデ 頸部～胴部 斜ハケ目	口縁～頸部 斜ハケ目の後ナデ 頸部～胴部 斜ハケ目	良好	浅黄(2.5Y 7/3)	浅黄橙(10YR 8/4)	1～4mm程の砂粒を含む石英を含む	外面スス付着
〃	54	〃		底部	縦ハケ目，端部に指押え	ナデ	良好	淡黄(2.5Y 8/4)	明黄褐(10YR 6/6) 灰黄(5Y 4/1)	1～4mm程の砂粒を含む	平底 内面黒斑有
〃	55	〃	壺	胴部～底部	ミガキ	剝離	良好	明黄褐(10YR 7/6) 橙(5YR 7/6)	浅黄橙(10YR 8/4)	0.5～4mm程の砂粒を含む	平底 外面スス付着
第24図	56	ＳＡ12	甕	完形	口縁部 ナデ 胴部 タテ，斜方向のナデ 底部 指によるナデ	口縁 ヨコナデ 胴部上半 ナデ 胴部下半～底部 タテ方向のナデ	良好	にぶい橙(7.5YR 7/4) 浅黄橙(10YR 8/4)	浅黄橙(10YR 8/4) 灰(2.5YR 5/1)	0.5～2mm程の砂粒を多く含む	外面口縁～底部付近スス付着，平底
〃	57	〃	甕	ほぼ完形	口縁 ヨコナデ 胴部～底部 ナデ	口縁 ヨコナデ 胴部 ナデ 底部 指頭圧	良好	にぶい褐(7.5YR 5/3) 明黄褐(10YR 7/6)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	0.5～4mm程の砂粒を含む	平底
〃	58	〃	甕	完形	口縁 ヨコナデ 頸部～胴上半 斜方向のハケメ 胴下半～底部 ハケメの上をタテ方向のナデ	口縁 ヨコナデ 胴上半 斜，ヨコ方向のハケメ 胴下半 ナデ	良好	橙(5YR 6/6)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	0.5～2mm程の砂粒を含む	外面口縁～胴上半スス付着，平底
〃	59	〃	甕	ほぼ完形 (口縁一部欠)	口縁 ヨコナデ 頸部 ヨコナデのあと↓方向のハケメ 胴部 ハケメ，底部付近 指押え	口縁 ヨコナデ 底部 ハケメ 胴～底部 ナデ	良好	明黄褐(10YR 7/6) 黄灰(2.5Y 5/1)	橙(5YR 7/6)	0.5～3mm程の砂粒を含む	上げ底
〃	60	〃	甕	口縁～胴部	口縁 ヨコナデ 胴部 ナデ	口縁 ヨコナデ 胴部 ナデ	良好	淡黄(2.5Y 8/4)	淡黄(2.5Y 8/4)	1mm前後の砂粒を多く含む	外面全体スス付着
〃	61	〃	甕	完形	口縁 ヨコナデ 胴部上半 タテ方向のハケメ 底部 ナデ	口縁～胴部 ヨコナデ 底部 指押え	良好	にぶい橙(7.5YR 7/4)	にぶい橙(7.5YR 7/4) 黒(2.5Y 3/1)	0.5～1mm程の細砂粒を多く含む	平底
〃	62	〃	壺	口縁～胴部	口縁 ヨコナデ 胴部 ナデ	口縁 ヨコナデ 胴部 ナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/4)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	0.5～1mm程の細砂粒を含む	
〃	63	〃	壺	完形	口縁 ヨコナデ 胴上半～半ば タテ～ヨコ方向のハケメ 底部付近 ナデ	口縁 ヨコナデ，頸部 指押え 胴部 ヨコ方向のハケメ，底部 指押え	良好	明黄褐(10YR 7/6) 灰(10Y 5/1)	明黄褐(10YR 7/6) 灰(10Y 5/1)	0.5～3mm程の砂粒を多く含む	外面頸部～胴上半スス付着，平底
第25図	64	〃	壺	口唇部欠	ナデ 一部ハケメの上をナデ	口縁 ヨコナデ 胴部 ナデ	良好	浅黄橙(10YR 8/4) 浅黄(2.5Y 7/4)	浅黄橙(10YR 8/4) 灰黄(2.5Y 6/2)	0.5～4mm程の砂粒を含む	外面底部付近スス付着 丸底
〃	65	〃	壺	底部～胴部	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/4)	淡黄(2.5Y 8/4) にぶい橙(10YR 7/4)	0.5～2mm程の砂粒を含む	外面スス付着 平底
〃	66	〃	甕	底部	ナデ	ナデ	良好	浅黄(2.5Y 7/3)	淡黄(2.5Y 8/3)	0.5～1mm程の細砂粒を多く含む	平底
〃	67	〃	甕	底部	ナデ	剝離のため不明	良好	明黄褐(10YR 7/6)	浅黄橙(10YR 8/4)	0.5～1mm程の細砂粒を多く含む	上げ底
〃	68	〃	壺	完形	ナデ 底部 指押え	口縁 ヨコナデ 胴部 ナデ 底部 指押え	良好	口縁…浅黄(2.5Y 7/4) 胴部…黄灰(2.5Y 5/1)	口縁…浅黄(2.5Y 7/4) 胴部…黄灰(2.5Y 5/1)	0.5mm前後の細砂粒を含む	丸底気味 粘土のつなぎ明瞭
〃	69	〃	壺	口縁欠	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/2)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	0.5～1mm程の細砂粒を多く含む	丸底気味
〃	70	〃	高坏	完形	坏部上半 ヨコナデ 坏部下半～脚部 ナデ	坏部上半・脚裾部 ヨコナデ 坏部下半～脚部 ナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/4) 浅黄橙(10YR 8/4)	にぶい黄橙(10YR 7/4) にぶい橙(7.5YR 7/4)	0.5～1mm程の細砂粒を多く含む	円形透し 4ヶ有
〃	71	〃	高坏	坏部～脚部	口唇部～坏上半 ヨコナデ 坏下半～脚部 タテ方向のナデ 脚裾部 ヨコナデ	坏上半 ヨコナデ 坏下半～脚部 ナデ 脚裾部 ヨコナデ	良好	浅黄(2.5Y 8/3) 灰(5Y 4/1)	浅黄(2.5Y 7/3) 灰(5Y 4/1)	0.5～1mm程の細砂粒を含む	坏部屈曲部刻み目
〃	72	〃	高坏	完形	口縁端部 ヨコナデ 坏下半 ハケメの上を斜方向のナデ 脚部 タテ方向のナデ	口縁端部 ヨコナデ 坏下半 ヨコナデ 脚部 ナデ	良好	浅黄橙(10YR 8/4)	坏部…暗灰黄(2.5Y 5/2) 脚部…明赤褐(10YR 5/6)	1～3mm程の砂粒を含む	
〃	73	〃	高坏	坏部～脚部	口縁端部・脚裾端部 ヨコナデ 坏下半 斜方向のナデ 脚部 タテ方向のナデ	坏部 ヨコナデ 脚部 ヨコナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/3)	坏部…浅黄(2.5Y 7/3) 脚部…淡黄(2.5Y 8/3)	0.5～3mm程の砂粒を含む	脚部外面沈線文
〃	74	〃	高坏	完形	口縁・脚端部 ヨコナデ 坏部下半 タテ方向のナデ 脚部 ナデ	口縁 ヨコナデ 坏下半・脚部 ナデ 脚端部 ヨコナデ	良好	淡黄(2.5Y 8/3) にぶい橙(7.5YR 7/4)	坏部…にぶい黄橙(10YR 7/4) 脚部…淡黄(2.5Y 8/3)	0.5～2mm程の砂粒を多く含む	口縁部櫛描波状文
〃	75	〃	高坏	坏部	ヨコナデ	口縁部 ヨコナデ 坏下半 ナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/4) にぶい橙(7.5YR 7/4)	にぶい黄橙(10YR 7/4) 明黄褐(10YR 7/6)	0.5～2mm程の砂粒を含む	口縁部櫛描波状文，71と同一個体
〃	76	〃	高坏	脚部	脚部 ナデ 脚裾部 ヨコナデ	脚部 ナデ 脚裾部 ヨコナデ	良好	淡黄(2.5Y 8/3) にぶい黄橙(10YR 7/4)	浅黄(10YR 8/3) にぶい橙(7.5YR 7/4)	0.5～2mm程の砂粒を多く含む	三角透し 3ヶ有
〃	77	ＳＡ14		口縁部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	淡黄(2.5Y 8/3)	淡黄(2.5Y 8/3)	0.5～1mm程の砂粒を含む 石英を含む	
〃	78	〃	高坏	坏部	ミガキ	ナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/3)	淡黄(2.5Y 8/3)	細砂粒を含む	
〃	79	〃		底部	ナデ	ナデ	良好	浅黄橙(10YR 8/3)	浅黄橙(10YR 8/4) 灰(5Y 5/1)	1mm前後の砂粒を含む	平底
〃	80	〃	壺	口縁～底部	口縁～頸部 ヨコナデ 頸部～胴部 ヨコハケ目の後丁寧なナデ 胴部～底部 ナデ	口縁～頸部 ヨコナデ 頸部～胴部上位 指押え 胴部～底部 ナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/4)	橙(7.5YR 7/6) にぶい黄橙(10YR 7/4)	0.5～1mm程の砂粒を含む 石英を含む	丸底 外面黒斑有
〃	81	〃	壺	頸部～底部	頸部 ナデ 胴部 斜ハケ目の後ナデ 底部 ナデ	頸部～胴部 ナデ 底部 ナデ	良好	橙(5YR 6/6) 明黄褐(10YR 7/6)	橙(5YR 7/6)	0.5～1mm程の砂粒を含む	丸底
第26図	82	ＳＡ９	甕	完形	口縁部 ヨコナデ 頸部～胴部 斜・タテ方向のナデ 底部 指押えの後ナデ	口縁 ヨコナデ 頸部～胴部下位 タテ，斜方向のナデ 底部 ナデ	良好	浅黄橙(10YR 8/4) にぶい橙(10YR 7/3)	明黄褐(10YR 7/6) にぶい橙(10YR 7/3)	0.5～2mm程の砂粒・石英を含む 3～5mmの小石も少し含む	平底
〃	83	〃	甕	完形	口縁部 ヨコナデ 頸部～胴部下位 底部 指押えの後ナデ	口縁部 ヨコナデ 頸部～底部 ナデと指押えあり	良好	浅黄橙(10YR 8/4)	浅黄橙(10YR 8/3)	1～3mm程の砂粒を含む	外面スス付着 平底，底部内面黒斑有
〃	84	〃	甕	口縁～胴部下位	口縁部 ヨコナデ 頸部～胴部下位 ナデ	口縁部 ヨコナデ 頸部～胴部下位 斜方向にナデ	良好	にぶい橙(5YR 6/4)	にぶい橙(5YR 6/4)	1～2mmの砂粒を含む	外面スス付着，胴部内面黒斑有
〃	85	〃	甕	口縁～胴部下位	口唇部 ヨコナデ 口縁～胴部下位 風化	口唇部 ヨコナデ 口縁～胴部下位 風化	良好	淡黄(5YR 8/3) 黄橙(10YR 8/8)	黄橙(10YR 8/8)	2～3mm程の砂粒を含む	
〃	86	〃	壺	完形	口縁部 ヨコナデ 頸部～底部 ナデ	口縁～頸部 ヨコ方向にハケ目の後横ナデ 胴部中位 タテ方向にハケ目 胴部中位～下位 ナデ	良好	明黄褐(10YR 7/6)	黄橙(10YR 7/8)	0.5～1mm程の砂粒・石英を含む	小さくあいまいな平底，胴部中位外面スス付着
〃	87	〃	壺	頸部～底部	頸部～肩部 タテ，斜方向にハケ目 肩部～胴部中位 斜方向にハケ目後ナデ 胴部下位～底部 ナデ	頸部～肩部 ヨコナデ 胴部 ナデ 頸部と底部に指押えあり	良好	明赤褐(2.5YR 5/6) 橙(7.5YR 6/6)	にぶい橙(7.5YR 6/4)	4mm程の小石を少し含む 石英・角閃石・砂粒を含む	胴部外面スス付着 丸底，胴部下位～底部内面黒斑有
〃	88	〃	高坏	完形	坏部 ナデ 脚部 タテ方向にナデ	坏部ナデ，脚部 指押えの後ナデ 裾部 ナデ	良好	浅黄橙(10YR 8/4)	浅黄橙(10YR 8/4)	1～3mm程の砂粒を含む	坏部の底部内面黒斑有
第27図	89	〃	壺	頸部～底部	頸部～胴部中位 斜，ヨコ方向にハケ目 胴部下位 ナデ	頸部 ヨコ方向にハケ目 頸部～底部 ナデ	良好	にぶい橙(5YR 7/4)～橙(10YR 7/6)	頸部，浅黄橙(10YR 8/4)	1mm以下の砂粒を含む 1～2mm程の石英・砂粒を含む	頸部下位に4ヶ所穿孔有，丸底
〃	90	ＳＡ15	甕	口縁～底部	口縁～胴部中位 ナデ 胴部下位 タテ方向のケズリ	口縁部 ヨコナデ，胴部下位 ナデ 頸部～胴部中位 ハケ目 頸部と底部に指押えあり	良好	にぶい黄橙(10YR 7/4)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	黒雲母・石英を含む 0.5～2mm程の砂粒を含む	口縁～胴部中位外面スス付着，内面，雑ぎ目明瞭，丸底
〃	91	〃	甕	完形	口縁部 ヨコナデ，底部 ナデ 胴部 ハケ目の後ナデ	口縁部・底部 ナデ 横，斜，タテ方向のハケ目後ナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/4)～橙(7.5YR 7/6)	浅黄(10YR 8/4)～橙(7.5YR 7/6)	1～4mm程の砂粒を含む	丸底，頸部～胴部外面スス付着
第28図	92	〃	甕	完形	口縁部 ヨコナデ，肩部 斜方向のハケ目 胴部 斜・タテ方向のハケ目の後ナデ 底部 ナデ	口縁部 ヨコナデ 頸部～胴部下位 ヨコ・斜・タテ方向のハケ目 底部 ハケ目の後ナデ	良好	浅黄(2.5Y 7/4) にぶい黄橙(10YR 7/4)	浅黄(2.5Y 7/4) にぶい黄橙(10YR 7/4)	0.5～3mm程の砂粒を含む	平底

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器部	文様および調整 外面	文様および調整 内面	焼成	色調 外面	色調 内面	胎土	備考
第28図	93	SA15	甕	完形	ヨコナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ナデ	良好	にぶい黄橙(2.5Y 6/3) 浅黄橙(10YR 8/4)	にぶい黄橙(10YR 7/4) 明黄褐(10YR 7/6)	1～3㎜程の砂粒を含む	平底
〃	94	〃	甕	完形	口縁部　ヨコナデ 頸部～胴部下位　ナデ	口縁部　ヨコナデ 頸部～胴部下位　ナデ 底部　指押えの後ナデ	良好	橙(7.5YR 6/6, 7/6) にぶい赤褐(2.5YR 5/4)	橙(7.5YR 6/6, 5YR 6/8)	0.5～2㎜程の砂粒を含む	平底 胴部中位外面スス付着
〃	95	〃	甕	完形	口縁～胴部下位　ナデ 底部　指押えあり	口縁部　ナデ 頸部～底部　ハケ目の後ナデ	良好	浅黄橙(7.5YR 8/4, 8/6, 10YR 8/4)	浅黄橙(7.5YR 8/4) 橙(7.5YR 7/6)	1㎜程の砂粒を含む	あげ底
〃	96	〃	甕	完形	口縁部　ヨコナデ，頸部～胴部中位　ナデ 胴部下位　タテ方向のナデ 底部　指押え	口縁部　ヨコナデ 頸部～底部　ナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/4) にぶい橙(7.5YR 7/4)	にぶい黄橙(10YR 7/3, 7/4) 暗灰黄(2.5Y 5/2)	1㎜程の砂粒・石英を含む	あげ底
〃	97	〃	壺	完形	口縁部　ヨコ方向のハケ目の後ナデ 頸部～胴部下位　タテ，ヨコ，斜方向のハケ目の後ナデ，底部　ナデ	ヨコ方向のハケ目の後ナデ 頸部・底部に指押えあり	良好	橙(10YR 7/6) にぶい橙(7.5YR 7/4)	橙(7.5YR 7/6)	石英・角閃石を含む 0.5～2㎜程の砂粒を含む	内面継ぎ目明瞭，丸底，胴部中位～底部外面スス付着
〃	98	〃	壺	完形	口縁部　ヨコナデ 頸部～胴部下位　ヨコ・タテ方向のナデ 底部　ナデ	口縁部　ヨコナデ 頸部～胴部中位　ヨコ・左斜方向のナデ 胴部下位～底部　ナデ	良好	橙(7.5YR 7/6) にぶい黄橙(10YR 7/4)	橙(7.5YR 7/6) にぶい黄橙(10YR 7/4)	1～3㎜程の砂粒を含む	内面継ぎ目明瞭 丸底
〃	99	〃	壺	頸部～底部	頸部　ヨコナデ 肩部～底部　ナデ	頸部　ハケ目の後ナデ 胴部　ナデ 底部　指押え後ナデ	良好	橙(7.5YR 6/6)	暗灰黄(2.5Y 5/2) 浅黄(2.5Y 7/4)	石英・角閃石を含む 0.5～1㎜程の砂粒を含む	内面継ぎ目明瞭 丸底
〃	100	〃	壺	完形	口縁部・胴部～底部　ナデ 頸部　タテ方向の後ナデ	口縁部　ナデ 頸部～底部　ハケ目の後ナデ	良好	浅黄橙(10YR 8/4) にぶい橙(5YR 7/4)	にぶい橙(7.5YR 7/4) にぶい黄橙(10YR 7/4)	1～2㎜程の砂粒を含む	平底
〃	101	〃	高坏	完形	坏上半　ヨコナデ，坏下半　ナデ 脚部　タテ方向のヘラナデ 脚裾部　ナデ	坏上半　ヨコナデ，坏下半　ナデ 脚部　ナデ 裾部　ヨコナデ	良好	浅黄橙(10YR 8/4) 橙(7.5YR 7/6)	浅黄橙(10YR 8/4) 橙(7.5YR 7/6)	1㎜程の石英と1～3㎜程の砂粒を含む	
〃	102	〃	高坏	坏部	ナデ	ナデ	良好	橙(7.5YR 6/6, 7/6・5YR 7/6)	橙(7.5YR 6/6, 7/6・5YR 6/6, 7/6)	0.5～2㎜程の砂粒を含む	
〃	103	〃	高坏	脚部	ナデ	脚部　シボリ痕あり 裾部　ヘラナデ	良好	暗灰黄(2.5Y 5/2) 橙(7.5YR 7/6)	橙(7.5YR 7/6)	石英を含む 0.5～1㎜程の砂粒を含む	
〃	104	〃	ミニチュア	完形	ナデ	口縁～胴部　指押え 胴部下位～底部　ナデ	良好	明黄褐(10YR 6/6)	橙(7.5YR 6/6)	1㎜程の石英や砂粒を含む	丸底
第29図	105	SA18	甕	完形	口縁～頸部　ヨコナデ 頸部～底部付近　ナデ 底部　ナデ	口縁部　ヨコナデ 頸部～底部　ナデ	良好	浅黄橙(10YR 8/3) 灰黄褐(10YR 4/2, 5/2)	にぶい黄橙(10YR 7/4) 灰褐(5YR 6/2)	1～2㎜程の砂粒を多く含む	刻み目突帯，平底，胴部外面スス付着
〃	106	〃	甕	完形	口縁部　ヨコナデ 胴部～底部　丁寧な斜方向のナデ	口縁部　ヨコナデ 頸部～底部　丁寧なヨコナデ	良好	浅黄橙(7.5YR 8/3)	灰白(7.5YR 8/2) 浅黄橙(7.5YR 8/3)	0.5～2㎜程の砂粒を多く含む，石英を含む	刻み目突帯，やや上げ底，胴部外面スス付着
〃	107	〃	甕	口縁～胴部	口縁部　左斜ハケ目の後ヨコナデ 胴部　ナデ	口縁部　ヨコナデ 頸部～胴部　ナデ	良好	浅黄(2.5Y 7/3・7/4) にぶい黄橙(10YR 7/4)	にぶい橙(5YR 7/4) にぶい黄橙(10YR 7/4)	0.5～2㎜程の砂粒を多く含む	刻み目突帯
〃	108	〃	甕	口縁～胴部下位	口縁部　ヨコナデ 胴部　ナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ナデ	良好	橙(2.5YR 7/6) にぶい黄橙(10YR 6/4)	橙(10YR 6/6) にぶい黄橙(10YR 6/4)	0.5～3㎜程の砂粒を多く含む，石英を含む	刻み目突帯 胴部外面スス付着
〃	109	〃	甕	完形	口縁部　ヨコナデ 頸部～胴部　あらいハケ目 胴部～底部　ナデ	口縁部　ヨコナデ (一部指押え，ヨコハケ目) 頸部～底部　ヨコナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/3)	にぶい黄橙(10YR 7/3) 赤橙(10R 6/6)	1～2㎜程の砂粒を含む	側面に楕円形状にスス付着，底部内面黒斑有，上げ底
〃	110	〃	甕	完形	口縁～底部付近　ナデ 底部　指押え	口縁部　ヨコナデ 胴部　ヨコ方向のハケ目の後ナデ 底部　ナデ	良好	淡黄(2.5Y 8/3) にぶい橙(7.5YR 7/3・7/4)	橙(10YR 7/6) 淡黄(2.5Y 8/3)	0.5～3㎜程の砂粒を多く含む，8㎜程の小石を含む	平底 胴部外面スス付着
第30図	111	〃	甕	完形	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜方向のナデ 底部　タテ方向のハケ目の後ナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　丁寧なナデ 底部　タテ方向のナデ	良好	浅黄橙(10YR 8/4)	浅黄橙(7.5YR 8/3)	2㎜前後の砂粒を含む	上げ底 胴・底部外面スス付着
〃	112	〃	甕	完形	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜・タテ方向のナデ 底部　指押えの後ナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜・タテ方向のナデ 底部　指ナデ	良好	淡黄(2.5Y 8/3)	浅黄橙(10YR 8/4)	1～2㎜程の砂粒を多く含む	平底 胴部外面スス付着
〃	113	〃	壺	完形	口縁～胴部　ヨコナデ 胴部～底部　ナデ	口縁～胴部下位　ヨコナデ 底部　剝離 一部指押え	やや不良	にぶい橙(5YR 7/4) 橙(2.5YR 7/6)	橙(2.5YR 6/6)	2㎜前後の砂粒を含む	口縁部・櫛描波状文，口縁屈曲部…刻み目突帯，頸部下方～胴部…沈線文，尖底
第31図	114	〃	甕	口縁半ば～底部付近	口縁半ば～頸部　ハケ目の後ナデ 頸部～底部付近　斜・横方向のハケ目	口縁半ば～頸部　ナデ 頸部～底部付近　斜方向のハケ目	良好	橙(2.5YR 7/6) 浅黄橙(10YR 8/4)	橙(5YR 7/6) 浅黄橙(7.5YR 8/4)	0.5～2㎜程の砂粒を含む 石英を含む	胴部外面スス付着
〃	115	〃		底部	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/4) 橙(7.5YR 7/6)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	0.5～2㎜程の砂粒を多く含む	平底
〃	116	〃		底部	ナデ	指押えの後ナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 6/4) 黄褐(2.5Y 5/4)	橙(7.5YR 7/6) にぶい黄橙(10YR 7/4)	0.5～4㎜程の砂粒を多く含む	平底
〃	117	〃	壺	胴部～底部	胴部　斜・横方向のハケ目 底部　剝離	剝離	良好	にぶい黄橙(10YR 6/4) にぶい黄(2.5YR 6/4)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	0.5～1㎜程の砂粒を含む	丸底
〃	118	〃	鉢	完形	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙(7.5YR 7/4)	にぶい橙(7.5YR 7/4)	1㎜前後の砂粒を含む	平底
〃	119	〃	壺	完形	口唇部　ヨコナデ 口縁部～底部　ヨコ・タテ・斜方向のナデ	口唇部　ヨコナデ 口縁部～底部　ヨコ・斜方向のナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/4)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	1～3㎜程の砂粒を含む	胴部外面スス付着 尖底
〃	120	SA19	甕	口縁～底部	口縁～頸部　ヨコナデ 頸部～胴部　タテハケ目の後ナデ 胴部～底部　ナデ	口縁～頸部　ヨコナデ 頸部～底部　斜・タテ方向のナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/4)	浅黄橙(10YR 8/4)	2㎜前後の砂粒を含む	胴部下位内面に黒斑有，胴部外面スス付着，平底
〃	121	〃	甕	口縁～突帯部	ヨコナデ	ナデ	良好	淡橙(5YR 8/4)	灰(7.5Y 5/1) にぶい黄橙(10YR 7/4)	2㎜前後の砂粒を含む	刻み目突帯
〃	122	〃	壺	胴部～底部	ナデ	ナデ	良好	黄橙(7.5YR 7/8)	黄橙(7.5YR 7/8)	細砂粒を含む	丸底
〃	123	〃	埦	口縁～底部	口唇部　丁寧なヨコナデ 口縁～底部　ハケ目の後ナデ	(一部暗文風) 丁寧なヨコナデの後ミガキ	良好	にぶい赤褐(5YR 5/4)	にぶい赤褐(5YR 5/4)	0.5～3㎜程の金雲母，角閃石などの砂粒を含む	内面に黒斑有，丸底
〃	124	〃	鉢	口縁～底部付近	口唇部　ヨコナデ 口縁～底部付近　斜方向のナデ	口縁～胴部　ヨコナデ 胴部～底部付近　ナデ	良好	にぶい橙(7.5YR 6/4)	橙(5YR 6/6)	2㎜前後の砂粒を含む	口縁～胴部外面スス付着
〃	125	〃	高坏	坏部下位～脚部上位	坏部下半　斜方向のハケ目 脚部　ナデ	ナデ	良好	浅黄橙(7.5YR 8/4) 褐灰(10YR 4/1)	浅黄橙(7.5YR 8/4) 橙(5YR 7/6)	0.5～2㎜程の砂粒を含む	
〃	126	〃	高坏	脚部	ナデ	ナデ	良好	淡黄(2.5Y 8/4)	淡黄(2.5Y 8/4)	2㎜前後の砂粒を多く含む	
〃	127	〃	器台	完形	ナデ	ナデ	良好	橙(5YR 7/8)	橙(5YR 7/8)	0.5～3㎜程の砂粒を含む	円形透し4ヶ所有
第32図	128	SA22	甕	完形	口縁上半・胴部上位　ハケ目の後ナデ 頸部ヨコ・胴部下位はタテ方向にハケ目	ヨコ方向にハケ目	良好	浅黄橙(10YR 8/3) 淡橙(5YR 8/4)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	1～4㎜程の砂粒を含む	平底，内・外面黒斑有，口縁～胴部中位外面スス付着
〃	129	〃	甕	完形	口縁～胴部中位　ヨコナデ 胴部中位～底部　ナデ	口縁部　ヨコナデ 頸部～底部　ナデ	良好	橙(7.5YR 7/6) 淡黄(2.5Y 8/4)	浅黄橙(10YR 8/4) 褐灰(10YR 4/1)	1～2㎜の石英・砂粒を含む	口縁～胴部中位スス付着，丸底
〃	130	〃	甕	口縁～胴部下位	口唇部・胴部下位　ナデ 口縁～胴部中位　ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙(5YR 7/6) 浅黄橙(10YR 8/3)	にぶい橙(5YR 7/4) 灰(5Y 4/1)	0.5～2㎜の砂粒を含む	口縁上半黒斑有
〃	131	〃	甕	口縁～胴部中位	口唇部・胴部　ナデ 口縁部　ヨコナデ	口縁部　ヨコナデ 頸部～胴部　ナデ	良好	浅黄橙(10YR 8/4) 橙(5YR 7/6)	浅黄橙(10YR 8/4) 橙(5YR 7/6)	1～4㎜程の砂粒を含む	外面スス付着
〃	132	〃	甕	口縁～胴部下位	口縁部　ヨコナデ 頸部～胴部下位　ナデ	ヨコナデ	良好	淡黄(2.5Y 8/3)	淡黄(2.5Y 8/3) 浅黄橙(7.5YR 8/3)	0.2～4㎜程の砂粒を含む	口縁～肩部外面黒斑有
〃	133	〃	壺	口縁～底部付近	口縁部　ヨコナデ 胴部上位～中位　ミガキ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ナデ	良好	明黄褐(10YR 7/6)	灰(5Y 5/1)	2㎜前後の砂粒を含む	胴部外面スス付着
〃	134	〃	ミニチュア	完形	口縁上半・底部に指押えあり ナデ	口縁上半　指押えあり 胴部～底部　ナデ	良好	橙(7.5YR 7/6) にぶい黄橙(10YR 7/4)	橙(7.5YR 6/6) 褐灰(7.5YR 6/1)	1㎜前後の砂粒・角閃石を含む	平底 外面黒斑有
〃	135	〃	ミニチュア	完形	ナデ	胴部中位に指押えあり ナデ	良好	浅黄橙(10YR 8/4)	黄橙(10YR 8/6)	0.5～4㎜程の砂粒を含む	丸底
〃	136	〃	高坏	坏部	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/4)	明黄褐(10YR 7/6)	細砂粒を含む	

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器部	文横および調整		焼成	色調		胎土	備考
					外面	内面		外面	内面		
第32図	137	SA22	高坏	脚部	ハケ目	坏底部 ナデ 脚部 ナデ	良好	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/6)	細砂粒と石英を含む	
第33図	138	SA8	甕	完形	口縁～胴部 ヨコナデ 胴部～底部 ナデ	口縁～胴部上位 ヨコナデ 胴部上位～底部 ナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6)	浅黄橙 (10YR 8/4) 灰黄褐 (10YR 5/2)	2～3mm程の砂粒を含む	丸底
〃	139	〃	須恵器	口縁部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 6/3)	灰黄 (2.5Y 6/2)	精良	
〃	140	〃	須恵器	口縁部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	灰黄 (2.5Y 6/2)	浅黄 (5Y 7/3)	細砂粒を含む	
〃	141	〃	須恵器	頸部～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	灰白 (5Y 5/1) 灰オリーブ (7.5Y 3/3・5/2)	灰白 (5Y 8/2)	1mm前後の砂粒を含む	平底
〃	142	〃	須恵器	胴部下位～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	胴部…にぶい黄 (2.5Y 6/4) 底部…にぶい黄 (2.5Y 5/4)	灰 (5Y 5/1)	精良	平底 (ヘラ切り)
〃	143	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙 (5YR 7/6) 浅黄橙 (7.5YR 8/6)	橙 (5YR 7/6) 浅黄橙 (7.5YR 8/6)	細砂粒を含む	ヘラ切り底
〃	144	〃	坏	完形	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	黄橙 (10YR 8/6) 橙 (5YR 7/6)	黄橙 (10YR 8/6) 橙 (5YR 7/6)	細砂粒を含む	ヘラ切り底
〃	145	SA3	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/6)	きめが細かい	ヘラ切り底
〃	146	〃	布痕	口縁～胴部	口唇部 ソギオトシ 胴部 ナデ	布目	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	細砂粒を含む	口唇部ス付着
〃	147	〃	布痕	口縁～底部	口唇部 ソギオトシ 胴部～底部 指押えの後ナデ	布目	良好	橙 (2.5YR 6/8)	橙 (2.5YR 6/8)	きめが細かい 3mm前後の砂粒を少し含む	尖底 自然釉がかかっている
〃	148	SA7	甕	口縁～胴部下位	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	1～3mm程の砂粒を含む	
〃	149	〃	布痕	口縁～胴部	指押えの後ナデ	布目	良好	にぶい橙 (7.5YR 7/4) 橙 (5YR 7/6)	にぶい橙 (7.5YR 7/4) 橙 (5YR 7/6)	1～5mm程の砂粒を含む	外面自然釉のため浅黄橙(7.5YR 8/4)を呈す
〃	150	〃	布痕	口縁～胴部	口唇部 ソギオトシ 胴部 指押えの後ナデ	布目	良好	橙・ (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/6)	細砂粒を含む	
第34図	151	SA10	甕	口縁～胴部上位	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ	ヨコナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 8/4) 淡赤橙 (2.5YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	1～2mm程の砂粒を含む 石英を含む	
〃	152	〃		口縁部	ヨコナデ	ナデ	良好	橙 (5YR 7/6) (7.5YR 7/6)	にぶい黄橙 (7.5YR 7/4)	0.5～1mm程の砂粒を含む 石英を含む	
〃	153	〃		底部	ナデ?	ナデ	良好	橙 (7.5YR 8/4)	橙 (7.5YR 8/4)	0.1～2mm程の砂粒を多く含む	
〃	154	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	細砂粒を多く含む	ヘラ切り底
〃	155	〃	布痕	口縁～胴部	口唇部 ソギオトシ 胴部 指押えの後ナデ	布目	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	0.1～3mm程の砂粒を含む 石英を含む	
〃	156	SA13	甕	口縁～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ	口縁部 ヨコナデ 頸部～胴部上位 指押えの後ナデ 胴部 剝離	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4) 浅黄橙 (10YR 8/4)	淡黄 (2.5Y 8/4) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	0.5～2mm程の砂粒を含む	
〃	157	〃	甕	口縁～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 斜方向のナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4) 灰 (5Y 5/1・5/1)	0.5～2mm程の砂粒を含む	
〃	158	〃	坏	完形	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ	ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4) 橙 (7.5YR 7/6)	淡黄 (2.5Y 8/4) にぶい橙 (7.5YR 7/4)	1～3mm程の砂粒を多く含む	外側面に「大」のヘラ文字有 ヘラ切り底?
〃	159	〃	坏	完形	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6, 8/6)	橙 (7.5YR 7/6)	きめが細かい	ヘラ切り底
〃	160	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4) 橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	きめが細かい 細砂粒を少し含む	ヘラ切り底
〃	161	〃	布痕	口縁～胴部	口唇部 ソギオトシ 胴部 ナデ	布目	良好	橙 (5YR 6/6)	橙 (5YR 6/6)	1～2mm程の砂粒や4mm前後の砂粒を含む	
〃	162	SA16	甕	口縁～胴部上位	口縁～頸部 ヨコナデ 頸部～胴部上位 ナデ	口縁～頸部 ヨコナデ 頸部～胴部上位 ナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	口縁部…浅黄橙 (7.5YR 8/4) 胴部…浅黄橙 (10YR 8/4)	0.5～2mm程の砂粒を含む	
〃	163	〃	甕	口縁～頸部下位	口縁部 ヨコナデ 頸部 タテ方向のハケ目の後ナデ	口縁部 ヨコナデ 頸部 ヨコ・左斜方向のハケ目の後ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4・7/3) 褐 (10YR 4/4)	にぶい橙 (7.5YR 7/4) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	1～4mm程の砂粒を含む	
〃	164	〃		底部	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	灰 (2.5Y 5/2) 灰 (5Y 5/1)	0.5～2mm程の砂粒を多く含む, 石英を含む	平底
〃	165	〃		底部	ナデ	ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	淡黄 (2.5Y 8/3)	0.5～2mm程の砂粒を多く含む	平底
〃	166	〃	鉢	口縁～底部付近	口縁～頸部 ヨコナデ 頸部～底部付近 斜方向のハケ目の後ナデ	口縁～頸部 ヨコナデ 頸部～底部付近 ヨコ・斜方向のハケ目の後ナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6) 浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/6, 8/4)	1～4mm程の砂粒を含む	
〃	167	〃	坏	底部	ナデ	ナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	黄橙 (7.5YR 8/8)	きめが細かい	
〃	168	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/4) にぶい橙 (7.5YR 7/4)	橙 (7.5YR 7/6)	0.5～1mm程の砂粒を含む	ヘラ切り底
第35図	169	SA17	甕	口縁～胴部	口縁～頸部 ヨコナデ 胴部 ナデ	口縁～頸部 ヨコナデ 胴部 ナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	浅黄橙 (10YR 8/4)	1～3mm程の砂粒を含む	
〃	170	〃		底部	ナデ	タテ方向のナデ	良好	にぶい橙 (10YR 7/4)	にぶい橙 (10YR 7/4)	1mm前後の砂粒を含む	平底 圧痕有(植物の繊維?)
〃	171	〃		底部	ナデ	指押えの後ナデ	良好	明黄褐 (10YR 7/6)	灰黄 (2.5Y 7/2)	0.5～1mm程の砂粒を含む	丸底
〃	172	〃	壺	口縁～胴部	口縁～頸部 ヨコナデ 胴部 ナデ	口縁～頸部 ヨコナデ 胴部 ナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	1～3mm程の砂粒を含む	
〃	173	〃	布痕	底部	ナデ	布目	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	5～8mm程の小石を含む	尖底
〃	174	SA20	甕	口縁～底部	口縁～頸部 ヨコナデ 胴部～底部 ナデ	口縁～胴部 ヨコナデ 胴部～底部 ナデ	良好	淡橙 (5YR 8/4) 橙 (5YR 7/6)	にぶい橙 (5YR 7/4) 橙 (5YR 7/6)	2～3mm程の砂粒を含む 8mm前後の小石を含む	外面継ぎ目明瞭, 平底(木の葉圧痕), 口縁～胴部外面ス付着
〃	175	〃	甕	完形	口縁～頸部 ヨコナデ 胴部～底部 ナデ	口縁～胴部 ヨコナデ 胴部～底部 ナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4) 褐 (10YR 4/1) 灰 (10YR 5/1)	2～3mm程の砂粒を含む	内面継ぎ目明瞭 平底
〃	176	〃	甕	口縁～頸部下位	ヨコナデ	口縁～頸部 ヨコハケ目 頸部下位 ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4) 橙 (7.5YR 7/6・6/6)	橙 (5YR 6/6) (7.5YR 7/6)	0.5～2mm程の砂粒を含む 石英を含む	
〃	177	〃	甕	口縁～胴部上位	口縁～頸部 指押えの後ヨコナデ 胴部 ナデ	指押えの後ヨコナデ	良好	淡黄 (5Y 8/4) にぶい黄 (2.5Y 6/4)	淡黄 (2.5Y 8/4) 淡黄 (2.5Y 8/4)	1～5mm程の砂粒を多く含む	
〃	178	〃	鉢	口縁～底部	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ 底部 ナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 斜ハケ目の後ナデ 底部 ナデ	良好	灰黄褐 (10YR 6/2)	褐灰 (10YR 5/1)	1～3mm程の砂粒を含む	木の葉底
〃	179	〃	鉢	完形	粗いヨコナデ 底部 ナデ	粗いヨコナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	3～5mm程の砂粒を含む	外面ス付着, 外面継ぎ目明瞭
〃	180	〃	鉢	口縁～底部付近	口縁～胴部上位 ヨコナデ 胴部 ナデ	粗いヨコナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	1～3mm程の砂粒を含む	内・外面ス付着

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器部	文様および調整 外面	文様および調整 内面	焼成	色調 外面	色調 内面	胎土	備考
第35図	181	ＳＡ20	小鉢	口縁～胴部	ナデ	ナデ	良好	浅黄 (2.5Y 7/4)	浅黄 (2.5Y 7/4)	きめが細かい 1mm前後の砂粒を含む	
第36図	182	〃	坏	完形	底部 ナデ ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	2mm前後の砂粒を含む	
〃	183	〃	坏	完形	底部 粗いナデ ヨコナデ	ヨコナデ	良好	口縁部…浅黄橙 (10YR 8/4) 底部…オリーブ黒 (10Y 3/1)	淡黄 (2.5Y 8/3)	2mm前後の砂粒を含む	内面一部黒斑有
〃	184	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	橙 (7.5YR 7/6) 浅黄橙 (7.5YR 8/6)	きめが細かい	ヘラ切り底
〃	185	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ナデ	良好	橙 (5YR 7/6) にぶい橙 (7.5YR 6/4)	橙 (5YR 7/6) (7.5YR 7/6)	きめが細かい	ヘラ切り底
〃	186	〃	坏	完形	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	橙 (7.5YR 7/6)	細砂粒を含む	ヘラ切り底
〃	187	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	淡黄 (2.5Y 8/4)	淡黄 (2.5Y 8/4)	1mm前後の砂粒を含む	ヘラ切り底 内面一部黒斑有
〃	188	〃	坏	完形	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	にぶい橙 (5YR 6/3)	にぶい橙 (5YR 6/3)	石英などの細砂粒を含む	ヘラ切り底
〃	189	〃	布痕	口縁～胴部	口唇部 ソギオトシ 胴部 指押えの後ナデ	布目	良好	橙 (5YR 7/6) 一部褐灰 (5YR 4/1)	橙 (5YR 7/6)	3～5mm程の砂粒を含む	
〃	190	ＳＡ21	須恵器 壺	口縁～肩部	口縁～頸部 ヨコナデ 肩部 格子目文タタキ	口縁～頸部 ヨコナデ 肩部 平行線文タタキ	良好	灰 (7.5Y 6/1)	灰 (7.5Y 6/1)	0.5～1mm程の砂粒を含む	
〃	191	〃	黒色土器 埦	口縁～底部	ミガキ（底部付近風化）	ミガキ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	黒 (10YR 1.7/1)	1mm程の砂粒を含む	
〃	192	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙 (2.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 6/6)	細砂粒を多く含む	ヘラ切り底
〃	193	ＳＡ24	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4) 橙 (5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	細砂粒を含む	ヘラ切り底 内外面スス付着
〃	194	〃	布痕	底部	風化	布目	良好	にぶい橙 (5YR 7/4)	橙 (5YR 7/6)	細砂粒を含む	尖底
〃	195	ＳＡ1		底部	ナデ	ナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6)	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	細砂粒を含む	外面スス付着 ヘラ切り底
〃	196	〃	坏	底部	ヨコナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	橙 (7.5YR 7/6)	細砂粒を含む	ヘラ切り底
第37図	197	d・e-10・11	甕	口縁～胴部上位	口縁～頸部 ヨコナデ 頸部～胴部上位 櫛目の後ナデ	口縁～頸部 櫛目 頸部～胴部上位 左斜方向の削り	良好	明黄褐 (10YR 7/6) 橙 (5YR 7/6)	明黄褐 (10YR 7/6) (5YR 7/6)	1～5mm程の砂粒を多く含む	
〃	198	〃	甕	口縁～胴部上位	口縁～頸部 ヨコナデ 頸部～胴部上位 タテ方向のナデ	ヨコナデ	良好	明黄褐 (10YR 7/6) 淡黄 (2.5Y 8/4)	明黄褐 (10YR 7/6) 淡黄 (2.5Y 8/4)	1～5mm程の砂粒を多く含む	
〃	199	〃	甕	口縁～頸部	ヨコナデ	風化	良好	淡黄 (2.5Y 8/4)	淡黄 (2.5Y 8/4)	1mm前後の砂粒を多く含む	
〃	200	〃		口縁～底部	口縁～胴部 ヨコナデ 胴部～底部 ナデ	口縁～底部付近 ヨコナデ 底部 ナデ	良好	橙 (5YR 7/6) 浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/6) 橙 (7.5YR 8/4)	1～5mm程の砂粒を含む	
〃	201	〃		口縁～底部	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 ナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 指押えの後ナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR 7/4) 淡黄 (2.5Y 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/4・8/6)	0.5～2mm程の砂粒を多く含む	
〃	202	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	浅黄橙 (10YR 8/4) (7.5YR 8/4)	きめが細かい，石英などの砂粒を含む	ヘラ切り底
〃	203	〃	坏	完形	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙 (5YR 6/6) 黄橙 (7.5YR 7/8)	橙 (7.5YR 7/6)	きめが細かい，石英・黒雲母などの細砂粒を含む	ヘラ切り底
〃	204	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙 (5YR 7/6・7/8)	橙 (5YR 7/6・7/8)	きめが細かい，石英などの砂粒を少し含む	ヘラ切り底
〃	205	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6) (5YR 7/8)	橙 (7.5YR 7/6) (5YR 7/8)	きめが細かい 細砂粒を少し含む	ヘラ切り底
〃	206	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ナデ？	良好	橙 (5YR 6/8)	橙 (5YR 6/8)	きめが細かい 石英などの細砂粒を含む	ヘラ切り底
〃	207	〃	坏	口縁～底部	風化	ヨコナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/3)	浅黄橙 (10YR 8/3)	きめが細かい	ヘラ切り底？
〃	208	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	きめが細かい 砂粒を少し含む	ヘラ切り底
〃	209	〃	坏	胴部～底部	風化	風化	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	きめが細かい	ヘラ切り底
〃	210	〃	黒色土器 埦	胴部～底部	丁寧なナデ	ミガキ？	良好	明黄褐 (10YR 7/6)	オリーブ黒 (5Y 3/2)	1mm前後の砂粒を含む	平底
〃	211	〃	黒色土器 埦	胴部～底部	丁寧なナデ	ミガキ？	良好	明黄褐 (10YR 7/6) にぶい黄 (2.5Y 6/4)	オリーブ黒 (5Y 3/2)	1～2mm程の砂粒を含む	平底
〃	212	〃	坏	底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	淡黄 (2.5Y 8/4) にぶい橙 (7.5YR 7/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	きめが細かい	ヘラ切り底
〃	213	〃	坏	胴部～底部	風化	ヨコナデ	良好	橙 (5YR 6/6) 浅黄橙 (10YR 8/4)	橙 (5YR 7/6)	きめが細かい	ヘラ切り底
〃	214	〃	黒色土器 埦	口縁～底部付近	風化	風化	良好	浅黄橙 (10YR 8/4) 橙 (7.5YR 7/4)	黒 (N 2/0)	きめが細かい 雲母などの砂粒を含む	
〃	215	〃	黒色土器 埦	口縁～底部	ミガキ	ミガキ？	良好	橙 (7.5YR 7/6) 明黄褐 (10YR 7/6)	黒 (5Y 2/1)	きめが細かい	
〃	216	〃	黒色土器 埦	口縁～底部付近	ミガキ	ミガキ	良好	明黄褐 (10YR 7/6) にぶい黄橙 (10YR 8/4)	黒 (10Y 2/1)	きめが細かい 雲母などの砂粒を含む	
〃	217	〃	須恵器 坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	やや良	灰白 (5Y 8/1.5/2) 灰 (5Y 5/1)	灰白 (5Y 8/1.5/2) 灰 (5Y 5/1)	精良 細砂粒を含む	ヘラ切り底
〃	218	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ 底部 ナデ	ヨコナデ	良好	にぶい黄 (2.5Y 6/4) にぶい橙 (7.5YR 6/4)	にぶい黄 (2.5Y 6/4) にぶい橙 (7.5YR 6/4)	精良 1mm前後の砂粒を含む	火ダスキがかかっている
第38図	219	〃	布痕	完形	口唇部 ソギオトシ 胴部～底部 指押えの後ナデ	布目	良好	(5YR 7/6 7/8・8/6)	橙 (7.5YR 7/6) (5YR 7/8)	1mm前後の砂粒を含む 石英を含む	外面自然釉のために灰白(5Y 8/2・7/2)を呈す
〃	220	〃	布痕	口縁～底部付近	ナデ	布目	良好	橙 (2.5YR 6/6)	橙 (5YR 7/6)	1mm前後の砂粒を含む 石英を含む	外面自然釉のために灰白(5Y 8/2・7/2)を呈す
〃	221	〃	布痕	口縁～底部付近	ナデ	布目	良好	橙 (2.5YR 7/6 7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	0.5～2mm程の砂粒を含む	
〃	222	〃	布痕	口縁～胴部	ナデ	布目	良好	橙 (5YR 7/6) (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	1～3mm程の砂粒を含む	外面自然釉のために灰白(5Y 8/2)を呈す
〃	223	〃	布痕	口縁～胴部	口唇部 ソギオトシ 胴部 ナデ	布目	良好	橙 (5YR 7/6, 6/6)	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	1～4mm程の砂粒を含む	
〃	224	〃	布痕	口縁～胴部	口唇部 ソギオトシ 胴部 ナデ	布目	良好	橙 (5YR 6/6)	橙 (5YR 6/6)	細砂粒を含む	

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器部	文様および調整 外面	文様および調整 内面	焼成	色調 外面	色調 内面	胎土	備考
第38図	225	d・e -10・11	布痕	口縁～胴部	ナデ	布目	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	石英などの細砂粒を含む	
〃	226	〃	布痕	口縁～胴部	口唇部 ソギオトシ 胴部 ナデ	布目	良好	浅黄橙 (10YR 8/4) (7.5YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4) (7.5YR 8/4)	1mm前後の砂粒を少し含む	
〃	227	〃	布痕	口縁～胴部	口唇部 ソギオトシ 胴部 ナデ	布目	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/6) 橙 (7.5YR 7/6)	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	1～3mm程の砂粒を含む	
〃	228	〃	布痕	口縁～胴部	ナデ	布目	良好	明黄褐 (10YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	石英などの細砂粒を含む	
〃	229	〃	布痕	口縁～胴部	ナデ	布目	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	細砂粒を少し含む	
〃	230	〃	布痕	口縁～胴部	口唇部 ソギオトシ 胴部 ナデ	布目	良好	にぶい褐 (7.5YR 5/4) 淡黄 (2.5Y 8/4)	橙 (7.5YR 7/6) 灰褐 (7.5YR 5/2)	1～3mm程の砂粒や7mm前後の小石も含む	
〃	231	〃	布痕	底部	ナデ	布目	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	1mm前後の砂粒を含む	尖底
〃	232	〃	布痕	底部	ナデ	布目	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	橙 (7.5YR 7/6)	細砂粒を少し含む	尖底
第39図	233	SC6	甕	口縁～胴部	口縁 ヨコナデ 頸部 タテ方向のハケメ 胴部 斜方向のハケメの痕跡	口縁 ナデ 胴部 タテ方向のナデ	良好	淡黄 (2.5Y 8/3)	淡黄 (2.5Y 8/3)	1～3mm程の砂粒を含む	
〃	234	〃		底部	風化（ハケ様の痕跡）	風化のため不明	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	淡黄 (2.5Y 8/4)	1mm程の砂粒を含む	平底
〃	235	〃		胴部～底部	胴部 タテ方向のハケメ 底部 指押え	ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4) 淡赤橙 (2.5YR 7/4)	灰白 (5Y 8/2) 灰 (5Y 5/1)	細砂粒，3mm前後の砂粒を含む，酸化鉄粒を少量含む	平底
〃	236	SC14	坏	胴部中位～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	石英を多含	ヘラ切り底
〃	237	SC19	椀	口縁～胴部下位	口縁 ヨコナデ 胴部 横・斜方向のハケメ	口縁～胴部上位 ヨコナデ 胴部下位 ナデ	良好	明黄褐 (10YR 7/6) 黒褐 (10YR 3/1)	橙 (7.5YR 7/6) 明黄褐 (10YR 7/6)	1mm程の細砂粒，2～4mm程の粒を含む	
〃	238	〃	布痕	口縁～胴部下位	口縁 ソギオトシ 胴部 ナデ	布目	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	細砂粒，石英を含む	
〃	239	〃	布痕	口縁～底部	ナデ	布目	良好	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/6)	粗い礫を多含	尖底
〃	240	SC22	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	きめ細かい	ヘラ切り底
〃	241	〃	坏	口縁～底部	ヘラナデ	ヘラナデ	良好	赤褐 (10YR 5/4) にぶい橙 (7.5YR 7/4)	橙 (5YR 6/6) にぶい橙 (5YR 6/4)	きめ細かい	ヘラ切り底
〃	242	SC3	瀬戸灰釉水滴	ほぼ完形	ナデ	ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/3)	浅黄橙 (10YR 8/3)	きめ細かい	外面全体に施釉され，淡いオリーブ色を呈す
〃	243	SD1	坏	完形	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	きめ細かい，細砂粒を含む	ヘラ切り底
〃	244	〃	坏	完形	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	きめ細かい	ヘラ切り底
〃	245	〃	坏	完形	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	きめ細かい	ヘラ切り底
〃	246	〃	坏	完形	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	きめ細かい	ヘラ切り底
〃	247	〃	坏	完形	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄 (2.5Y 8/4)	浅黄 (2.5Y 8/4)	きめ細かい	ヘラ切り底
〃	248	〃	坏	完形	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	きめ細かい	ヘラ切り底
〃	249	SE2	甕	口縁～胴部上位	ヨコナデ	口縁 ヨコナデ 胴部 ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	1～2mm程の砂粒を含む	
〃	250	〃	壺	頸部～胴部上位	タテ方向のタタキ	頸部 ヨコナデ 胴部 同心円タタキ	良好	暗オリーブ (5Y 4/3)	灰 (5Y 5/1)	細砂粒を含む	外面自然釉かかる
〃	251	〃	坏	胴部下位～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	橙 (7.5YR 7/6)	細砂粒を含む	ヘラ切り底
〃	252	〃	青磁皿	底部	ナデ	ナデ	良好	淡黄 (2.5Y 8/3)	淡黄 (2.5Y 8/3)	精良	外内面とも施釉され緑灰色(7.5GY 7/1)を呈す
〃	253	〃	高台付椀	底部～高台	ナデ	ナデ	良好	橙 (2.5YR 7/6)	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	1～2.5mm程の粒と細砂粒を含む	
〃	254	〃	常滑甕	口縁～胴部	ナデ	ヨコナデ	良好	にぶい赤褐 (5YR 5/4) 褐灰 (5YR 5/1)	にぶい赤褐 (5YR 5/4) 灰 (7.5YR 5/1)	1mm前後の細砂粒と4mm程の粒を含む	
〃	255	〃	擂鉢	口縁～胴部上位	ヨコナデ	口縁 ヨコナデ 胴部 ヨコナデのあとカキメ	良好	褐灰 (10YR 5/1)	褐灰 (5YR 5/1) 灰褐 (5YR 5/2)	2～4mmの粒と砂粒を含む	256 と同一個体
〃	256	〃	擂鉢	胴部下位～底部	ヨコナデ	ヨコナデののち，ハケ状のものでカキメを放射状に施す	良好	褐灰 (10YR 5/1)	褐灰 (5YR 5/1) 灰 (5YR 5/1)	2～4mmの粒と砂粒を含む	255 と同一個体
〃	257	SE5	甕	口縁～胴部中位	ヨコナデ	口縁 ヨコナデ 胴部 ナデ	良好	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/6) 淡黄 (5Y 7/4)	砂粒を含む	
〃	258	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR 6/4)	にぶい橙 (7.5YR 6/4)	精良	ヘラ切り底
〃	259	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/6)	細砂粒を含む	ヘラ切り底
〃	260	SE3	椀	口縁～胴部下位	ナデ	口縁 ヨコナデ 胴部 ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	きめ細かい	
〃	261	〃	坏	底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	灰黄 (2.5Y 7/2)	灰黄 (2.5Y 7/2)	1mm程の砂粒を含む	ヘラ切り底
〃	262	〃	椀	底部～高台	ナデ	ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/3)	浅黄橙 (10YR 8/3)	細砂粒と石英を含む	付け高台
〃	263	〃	椀	底部～高台	ナデ	ナデ	良好	灰黄褐 (10YR 6/2)	灰黄褐 (10YR 6/2)	精良	外内面とも施釉されオリーブ灰(10Y 5/2)を呈す
〃	264	SE8	坏	胴部下位～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	細砂粒を含む	ヘラ切り底
〃	265	〃	青磁皿	胴部下位～高台	ナデ	ナデ	良好	灰白 (10Y 7/1)	灰白 (10Y 7/1)	精良	外内面とも胴部施釉されオリーブ灰(10Y 5/2)を呈す

第Ⅴ章　前原南遺跡の調査

第１節　遺跡の立地と環境

前原南遺跡は宮崎市大字熊野字前原8542番地外に所在する。

宮崎学園都市遺跡群の東端に位置する前原南遺跡は、清武川から南方向と南西方向へ細長く延びる二本の谷底低地に挟まれて広がる平坦地中位面Ⅱの東縁辺部にある。遺跡中央部に南北に小道が通り西側が標高12～13m の平坦地となっている（Ａ地区）。また，東側は一段低く標高10～11m となっている（Ｂ地区）。更に，遺跡の東下（比高差約７m）には谷底低地に形成された水田地帯が南北に延びる（水田跡）。また，遺跡北側では谷底低地から遺跡方向に開析谷が短く入り込んでいるため調査区（Ａ地区）中央部にアカホヤ面の窪地が見られる。遺跡の北側は若干の開析谷の入り込みもあるが中位面Ⅱが広がる。西側には南西方向に延びる谷底低地から南東に開析谷が入り込み西に延びる中位面Ⅱと分断する形となっている。しかし，南西側には中位面Ⅱが広がる。南側は谷底低地が延びる。東側には谷底低地を挟んで標高30～40m の平坦地上位面が形成されている。

谷底低地を挟んだ遺跡の南側の中位面Ⅱには弥生時代中期の竪穴住居跡１軒，古墳時代の竪穴住居跡12軒，カマドを持つ竪穴住居跡９軒を含む平安時代の竪穴住居跡10軒，中世の時期を中心とした掘立柱建物跡群などを検出した陣ノ内遺跡が，また，さらに南の上位面には中世の山城である車坂城跡がある。車坂城跡から北東に延びる上位面の北西端には同じく中世の山城である今江城跡（仮称）が所在する。北側の中位面Ⅱの続きには前原北遺跡が所在する。前原北遺跡は二本の谷底低地がまじあう中位面Ⅱの北東端にあり，弥生時代中期から古墳時代中期にかけての竪穴住居跡60軒や中世を中心とした掘立柱建物跡が50棟以上も検出された。

一方，開析谷を隔てた北側，及び北西側には前原西遺跡と熊野原遺跡が所在する。前原西遺跡からは弥生時代後期の方形プランの竪穴住居跡３軒を検出した。熊野原遺跡からは弥生時代終末期の間仕切り住居跡や古墳時代初頭の竪穴住居跡が合わせて40軒検出されたのをはじめ，同時期の方形周溝墓２基も検出された。

その他の関連の遺跡としては，前原南遺跡の所在する南台地では，西端の平坦地中位面Ⅰに位置する平畑遺跡からカマドを持つ竪穴住居跡を含む平安時代の住居跡が検出されている。また，平畑遺跡とは谷底低地をはさんだ北側の中位面Ⅰに所在する堂地東遺跡では間仕切り住居跡を中心とした弥生時代後期の集落跡が検出されたが，そのうち方形プランの弥生時代中期の竪穴住居跡２軒も見られる。

一方，田上川を挟んだ北側に広がる北台地では西側の下田畑遺跡と南側の赤坂遺跡からカマドを持つ平安時代の竪穴住居跡がそれぞれ検出されている。また，南側の浦田遺跡からは弥生時代後期の方形プランの竪穴住居跡６軒と土壙10基検出されている。

第２節　Ａ地区・Ｂ地区の調査

１．調査の概要

前原南遺跡は，平坦地中位面Ⅱの東端部に位置ある。東側に谷底低地が南北に延びており北側と西側には開析谷が入り込んでいる。昭和56年度にＡ地区，Ｂ地区の試掘調査を行った結果，アカホヤ層上位の黒褐色土層が良好な状態で残っており，多くの土師器片が出土したほか，竪穴住居跡（Ａ地区）や柱穴（Ｂ地区）が確認された。

本調査は昭和57年６月24日から実施した。まず，重機を使って耕作土から黒褐色土層上部までを剝いだ。その段階でＡ地区では窪地となっている調査区中央部から南東寄りでは包含層の黒褐色土が良好に残っていたため包含層の精査を行った。Ａ地区のその他の地域とＢ地区では包含層の残りが悪くすぐに遺構の精査が行えた。包含層の残りの良好だったＡ地区中央部周辺については，包含層の精査後に遺構の精査を行った。

その結果，Ａ地区からは北側で古墳時代の竪穴住居跡３軒，南側で平安時代のカマドを持つ竪穴住居跡２軒を検出した。その他，中央部や東側を中心に掘立柱建物跡13棟や土壙５基を検出した。また，Ｂ地区からは古墳時代の竪穴住居跡３軒や平安時代のカマドを持つ竪穴住居跡１軒のほかに掘立柱建物跡５棟，土壙６基をそれぞれ検出した。遺物は，土師器，須恵器，布痕土器，内黒土器，陶磁器などの土器類，土錘，紡錘車などのほか，たたき石，すり石などの石器も出土している。

２．包含層の状態

前原南遺跡における基本層序は次の通りである。耕作土（Ⅰ層・20cm），旧耕作土（Ⅱ層・10cm），淡黒褐色砂質土層（Ⅲ層・10cm），暗褐色土層（Ⅳ層・20cm），アカホヤ層（Ⅴ層・20cm），褐色土層（Ⅵ層・30cm）と続く。

Ａ地区の北側や西側は既にアカホヤ層まで削平されており，調査区も北端や南東端，さらに西半分ではアカホヤ層から褐色土層まで削平されている。中央部は開析谷が調査区へ入り込んでくるため少し低くなる窪地地形が東から南へ弧状にのびており，暗褐色土が残る。Ｂ地区は東側の谷底低地へとゆるやかに下る地形を呈しており調査区の西半分はアカホヤ層から褐色土層まで削平されている。また，東端へ行くほど黒褐色土が厚く堆積する。遺物はＡ地区，Ｂ地区とも黒褐色土層の下位に集中しており，特に，Ａ地区の中央部西側の黒褐色土層の残る窪地に多くの遺物が散布している。

３．古墳時代の遺構と遺物

古墳時代の遺構としては，Ａ地区で竪穴住居跡３軒（ＳＡ３，４，５），Ｂ地区で竪穴住居跡３軒（ＳＡ２，８，９）をそれぞれ検出した。いずれも古墳時代前期の時期にあたり，遺物は土師器の甕，壺，高坏，器台，鉢，埦，ミニチュア土器などの土器類や，やり石，たたき石などの石器類も見られる。土壙はＡ地区，Ｂ地区あわせて11基検出したが，遺物を伴う土壙としては４基で古代の遺物を検出しただけで，古墳時代の遺物を伴う土壙は検出されなかった。

竪穴住居跡

竪穴住居跡５軒は床面積15㎡前後の方形プランの住居跡である。このうちＳＡ４，５，８は北方向の壁が若干広がりを見せておりわずかに台形状のプランを呈している。床面積も一番小さいＳＡ３で12.9㎡，一番大きいＳＡ8で18.0㎡，その他の住居跡もＳＡ３，４が15㎡，ＳＡ５，９が16㎡と床面積にあまり違いが見られない。柱数は２本柱がほとんどである。ＳＡ４，５，８が住居中央に２本柱が並ぶタイプ，ＳＡ３は２本柱が南北壁際の中心に寄るタイプ，ＳＡ９は２本柱が住居中央から東側に片寄るタイプである。また，ＳＡ２は１本柱の住居であり住居東側に１本柱が検出されただけであった。住居内部施設としてはＳＡ５ではベット状遺構（長軸145cm，短軸214cm，高さ10cm），ＳＡ５，８では主柱間の南側に焼土を含む掘り込み（ＳＡ５～長軸184cm，短軸115cm，深さ14cm，ＳＡ８～長軸160cm，短軸110cm，深さ12cm）を持つ。

出土土器の特徴としては，最も出土量の多い器種が甕で在地系のものが主流をなし，上げ底や平底の底部をなす。頸部に刻み目突帯を持つ甕や，表面に叩き目を施す在地系の甕なども数点見られる。壺は出土量はさほど多くないが

Fig.1 古 墳 時 代 遺 構 分 布 図

Fig.2 古 代 遺 構 分 布 図

ＳＡ９に集中する。ほとんどが丸底を呈している。高坏や器台も出土量は少ない。また，特殊な器形のものとしてはＳＡ３出土の蓋，コップ状土器，ＳＡ２出土の尖り気味の底部を持つ長頸の小型壺などがある。

住居間の土器量の違いではＳＡ９が多量であるのに対して，ＳＡ５，８，２は土器量がかなり少なくなる。

ＳＡ２では遺物量は少なく完形品もない。二重口縁壺の口縁部，刻み目突帯を持つ甕の頸部，尖り気味の底部を持つ長頸小型壺などが数点出土している。

ＳＡ３では平底を呈する外湾気味に外反する口縁を持つ在地系の甕，外反する口縁に楕円形の胴部を持ち丸底を呈する壺，八の字状に大きく開く蓋，脚から裾端へ大きく開く小型の高坏の脚部，緩やかに外反する脚部に内湾して開く裾部を持つ高坏の脚，鼓状に開く器台の胴部，コップ状の土器などが見られる。

ＳＡ４では頸部にあまり締まりがなく胴部もあまり張らない甕，直立気味に外反する口縁部に肩部のあまり張らない甕，平底の厚手の鉢，外面にヘラ削りを施し平底をわずかに残す埦やコップ状の土器などが見られる。

ＳＡ５では頸部のくびれがほとんどなく胴部の張らない甕，無頸に近い丸底の小型の壺のほかに，レンズ状の丸底や平底の底部などが見られる。

ＳＡ８では遺物量は少ないが壺や埦は小型のものである。また，穿孔を持つ高坏の裾部も見られる。

ＳＡ９では最も多い遺物量を持つ。その主体は上げ底や平底の底部を持つ在地系の甕である。特徴的な甕としては外面叩きの甕，頸部に刻み目突帯をもつ甕がある。刻み目突帯を持つ甕は頸部がかなりくびれ口縁が大きく外反する。その他に口縁部のかなり短いタイプのものもある。壺はやや反りながら外反する口縁部に倒卵形の胴部と丸底の底部を持つ壺で，外面ヘラ削りのものも見られる。高坏は坏底部から緩やかに内湾気味に広がり坏部中位で稜を持ち口縁へ外湾気味に大きく開く坏部と僅かに開く脚部に内湾気味に開く裾部を持つ高坏である。器台は鼓状に口縁部，裾部へ大きく開く器台である。

表１．古墳時代竪穴住居跡一覧表

住居番号	平面形	柱数（主柱）	規模 長軸×短軸(m)	規模 床面積(㎡)	住居内施設	遺物出土状況	備考	時期
ＳＡ２	方形	１？	3.85×3.68	12.88	—	覆土中より出土（少量）		古墳前期
ＳＡ３	方形	2	4.33×4.00	15.09	—	床面よりやや浮いた状態で出土	柱穴は南北壁際，ＳＢ3に切られる 覆土上位より土錘，土師坏等出土	〃
ＳＡ４	方形	2	4.39×4.18	15.41	—	床面よりやや浮いた状態で出土		〃
ＳＡ５	方形	2	4.52×4.33	16.47	主柱間の南側に掘り込み 北西角にベット状遺構	床面よりやや浮いた状態で出土	主柱間北側に焼土あり	〃
ＳＡ８	方形	2	4.83×4.38	17.98	主柱間の南側に掘り込み	覆土中より出土	掘り込み覆土上部に焼土あり	〃
ＳＡ９	方形	2	4.27×3.80	16.27	—	覆土中～床面よりやや浮いた状態で出土(多量)	柱穴は東寄り ＳＢ16，カクランに切られる	〃

４．古代の遺構と遺物

古代の遺構としては，Ａ地区ではカマドを持つ竪穴住居跡２軒，掘立柱建物跡13棟，Ｂ地区ではカマドを持つ竪穴住居跡１軒，掘立柱建物跡５棟をそれぞれ検出した。カマドを持つ竪穴住居跡３軒はいずれも平安時代の時期にあた

り，掘立柱建物跡も同じ時期を中心とする。遺物は土師器の甕，甑，椀，坏，鉢，内黒土器の椀，布痕土器，須恵器の甕，壺，蓋，椀などが見られた。

竪穴住居跡

検出された3軒の竪穴住居跡はいずれも煙道を持つカマド付きの方形プランの住居跡である。床面積10㎡以下の小型の住居跡1軒（ＳＡ６），20～30㎡の比較的大型の住居跡（ＳＡ１，７）がある。柱数はＳＡ７では不明であるが大型の住居跡ＳＡ１は４本柱，小型の住居跡ＳＡ６では柱穴は確認できなかった。

カマドの形態はいずれも住居の壁を越えることなく内側に構築する非突出型のカマドに，１m 前後の長い煙道を持つもので先端部に煙り出しのためのピットを設けている。

ＳＡ１は北西と南西側に１基づつ２カマドを持つ。北西カマドは煙道が1.24m と長いが南西カマドは0.62m と短い煙道である。２基とも削平を受けており詳細は不明である。北西カマドの周辺には土師器のヘラ切り底の坏，甕等の破片が散乱している。その他の遺物としては内黒土器の椀，布痕土器，須恵器の甕等の破片が覆土中から出土している。

ＳＡ６は西カマドで約0.8mの煙道を持つ。カマド内奥中央に土師器の甕が口縁を下にして立てた状態で置かれていた。また，カマド右袖の手前に支脚に使われたと思われる柱状の礫が１点見られ，カマド左袖の外側には土師器甕の破片が多く出土した。その他の遺物としては，土師器の器，須恵器の蓋が完形で出土した。住居跡が小型であるためか柱穴はなかった。

ＳＡ７は北カマドを持ち煙道は約0.85mである。カマド両袖の手前に口縁を下にした状態で土師器甕を１点づつ置いている。また，カマド右袖の外側に格子叩き目を施した胴部から上の壺が置かれている。その他の遺物としては土師器の椀，坏，内黒土器，須恵器の壺，蓋，高台付き椀などが出土している。

表２．平安時代竪穴住居跡一覧表

住居番号	平面形	柱数（主柱）	規模 長軸×短軸（m）	規模 床面積（㎡）	住居内施設	カマド，煙道規模(m) カマド幅	カマド，煙道規模(m) カマド奥行	カマド，煙道規模(m) 煙道長	カマド，煙道規模(m) 煙道幅	遺物出土状況	備考	時期
ＳＡ１	方形	4	5.25×5.15	27.04	カマド・煙道（北西壁と南西壁の２か所）	北西カマド 1.00？ 南西カマド —	0.50？ —	1.24 0.62	0.70 0.34	カマド周辺に土師器坏，甕破片等多く散布。カマド両袖に人頭大の礫が１個づつ置かれている。他の遺物は覆土中より出土。	南西カマドはカクランによって削平。北西カマドもかなり崩壊している。	平安前期
ＳＡ６	方形	0	3.10×3.10	9.3	カマド・煙道（西壁）	0.76	0.34	0.78	0.25	カマド奥中央に土師器甕横転の状態で出土。カマド左袖外に土師器甕破片出土。カマド右袖手前に支脚に使用したと思われる柱状の礫出土。北東角床面直上に土師器の完形品出土（横転の状態）。	煙道天井部は，部分的に残存。カマド右袖外に灰白色粘質土の流出あり。	〃
ＳＡ７	方形	？	4.76×4.37	20.80	カマド・煙道（北壁）	0.90？	0.64	0.86	0.55	カマド両袖手前に口縁部を下に甕を置く。カマド右袖外に格子叩き目を施した壺出土。他の遺物，ほとんど床面直上からの出土。	カマド右袖破損。(柱穴によって？)カマド周囲に掘り込み有り。ＳＢ６に切られる。	〃

掘立柱建物跡

A地区では調査区西側と北側に集中しており12棟を検出，B地区では北側を中心に5棟の合計17棟の掘立柱建物跡が検出された。

掘立柱建物の規模は，2間×2間が5棟（SB3，4，5，12，13）検出され，そのうち総柱のものが2棟（SB3，13）ある。SB4は桁行 4.2m，梁行 3.2m と桁行が長く，2間×3間の規模に類似する。また，2間×3間が12棟（SB1，2，4，7，8，9，10，11，14，15，16，17）と最も多い。SB2は桁方向に東西廂を有する。最も大型なものは2間×5間でSB6が1棟検出された。柱穴も径平均50cm，深さ平均 100cmと大きく，比較的大型の建物が想定される。

主軸は南北方向と，東西方向に大きく分けられる。南北方向に主軸をもつ建物が多いが，その中でも，A地区でSB1，4，12がN－4°～8°－E，SB8，11がN－11°～14°－E，SB2，6がN－21°～23°－E，SB3，7がN－4°～8°－Wと4方向に分けられる。また，東西方向のものとしては，N－71°－W方向のSB10があるが，SB2，6とほぼ直交する主軸方向である。

遺物は，黒色土の残りの良いA地区南西部のSB7～12周辺に多く見られた。特に，SB7およびその西側のSB5とSB8，9 に挟まれた部分（特に黒褐色土の残りの良好な地点）に集中する。

表3．掘立柱建物跡一覧表

建物番号	柱間	桁行 m	梁行 m	柱間寸法 m		主軸方向	備考
				桁行(平均)	梁行(平均)		
SB1	2間×3間	4.8	3.4	1.6	1.7	N4°E	
SB2	2間×2間	3.8	3.3	1.9	1.7	N8°W	棟持柱1本（2本?）有り
SB3	2間×3間	4.9	3.7	1.6	1.8	N23°E	桁側両辺に柱3本で支える軒が有る
SB4	2間×2間	4.2	3.2	2.8，1.4	1.6	N8°E	棟持柱1本有り
SB5	2間×2間	3.3	2.8	1.7	1.4	N1°W	
SB6	2間×5間	7.8	4.1	1.6	2.0	N21°E	
SB7	2間×3間	5.5	4.1	1.8	2.1	N4°W	
SB8	2間×3間	5.7	北辺 4.5 南辺 4.1	1.9	北辺 2.3 南辺 2.1	N14°E	梁南辺は狭くなっている
SB9	2間×3間	5.6	4.4	1.9 (最小 1.3 最大 2.3)	2.2	N6.5°E	南辺は北辺より狭くなっている。柱間寸法はまばら
SB10	2間×3間	6.5	3.8	2.2	1.9	N71°W	北辺の柱3本は細い材を2本ずつ用いている。 棟持柱1本有り。
SB11	2間×3間	5.2	3.7	1.7	1.8	N11°E	
SB12	2間×2間	3.2	2.9	1.6	1.5	N6°E	北辺ややいびつ
SB13	2間×2間	4.2	3.6	2.1	1.8	N85°E	桁の柱並びはいびつ
SB14	2間×3間	5.6	4.0	中1間では1.3 両外では1間 2.1	2.0	N5°W	桁の中2本の柱間は狭い
SB15	2間×3間	4.9	4.0	1.6	1.9	N6°E	建物内に土壙（?）あり
SB16	2間×3間	5.6	4.1	1.9	2.0	N10°E	北辺はいびつ
SB17	2間×3間	5.1	3.7	1.7	1.8	N84°E	北辺はいびつ

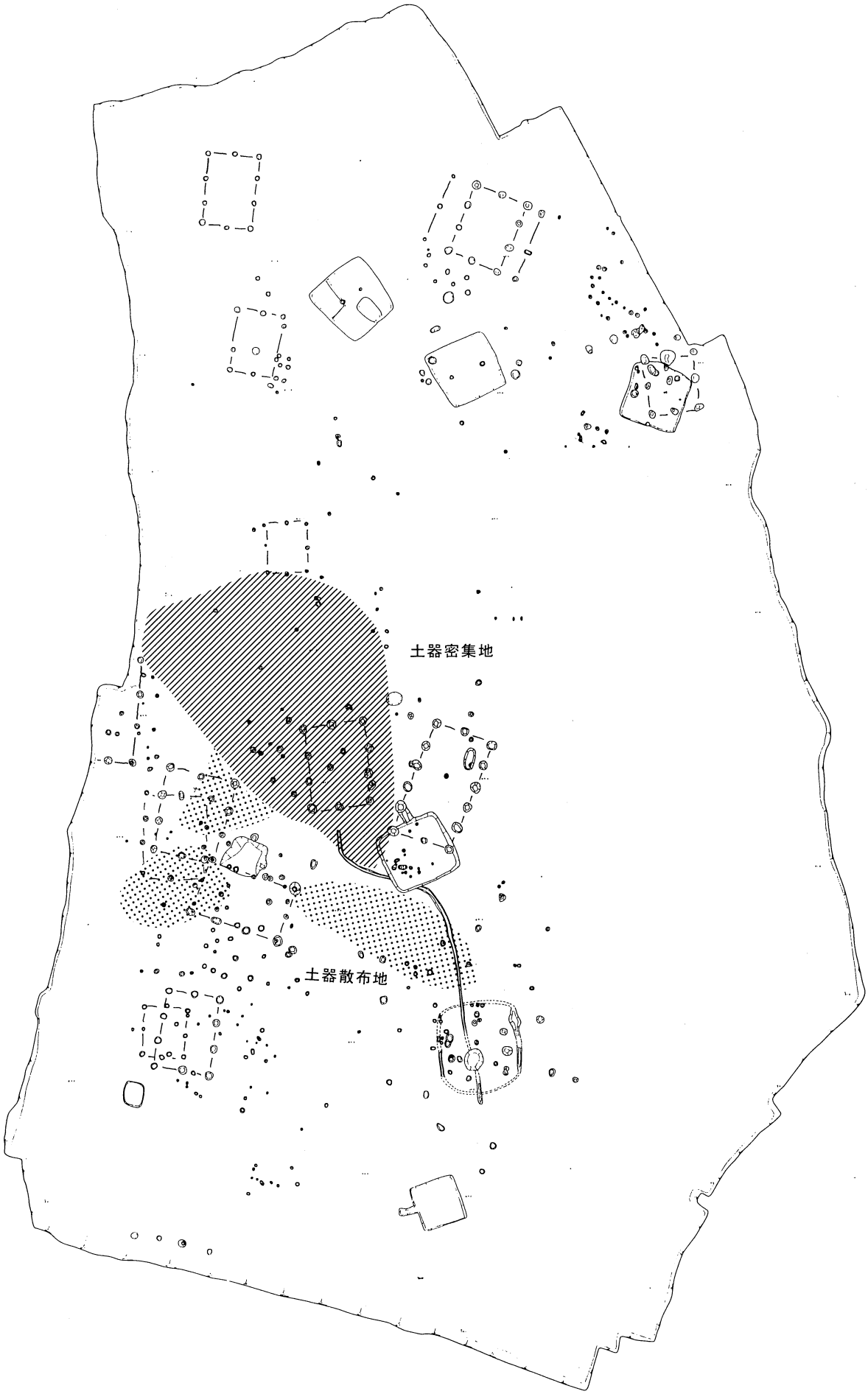


Fig. 3 A 地 区 古 代 遺 物 分 布 状 況 図

土器の器種では土師器甕，埦，坏（ヘラ切り底），内黒土器埦，布痕土器，須恵器甕，壺，埦，鉢，蓋などがみられる。

土師器甕は口径20cm以下の小型の甕が多く，口径20cm以上の大型のものは少ない。器形からみると，頸部がくびれ胴部が張り最大径を胴部にもつタイプ（132），頸部がくびれるが胴部があまり張らずに最大径を口縁部あるいは胴部にもつタイプ（143），同タイプで胴部の張らないタイプ（142），頸部がくびれて口縁が倒れ気味に外反し胴部はあまり張らないが最大径を口縁部あるいは胴部にもつタイプ（138），同タイプで肩の全く張らないタイプ（127），やはり同タイプで頸部に丸味をもつタイプ（137）などがみられる。

土師器坏は全てヘラ切り底である。タイプとしては底部と坏部の境が明瞭なタイプが多く，脚台が付くタイプ（157，162，172）もみられる。また，底部と坏部の境に丸味をもつタイプは少ない（163）。口縁部の系態では直線的ないしは内湾気味に立上るものが多く，口縁部付近で外反するものは少ない（159）。

土師器皿（224）も1点みられる。これはヘラ切り底で，B地区SB15の北東角柱穴内から出土したものである。

黒色土器は坏，甕に比べると量的には少ない。1点（176）のみ両面黒色のものがあるが他は全て内黒である。器種は埦が主だが，B地区からは深手の埦（鉢？）もみられる。177，178では底部外面にヘラ記号がある。

布痕土器は口径12cm前後で底部は尖底を呈す。器形は円錘形で内面に布目圧痕のみられる土器である。口縁部はヘラ状工具によって外方はそぎ落されている。

須恵器は甕，壺，坏，埦，鉢，蓋等が出土している。

甕は大甕の口縁部のほかはほとんどが胴部片である。外面～格子目文，平行線文，内面～平行線文，同心円文の各種の叩き目が施されている。

坏はヘラ切り底で底部と坏部の境にわずかな高台をもつタイプである。

埦は付け高台をもつもの（208）と，底部から体部へ丸味をもって直立気味に立ち上るタイプ（212）がある。

蓋は器高の高いタイプ（213）と低いタイプ（215，216）がある。214はつまみをもつ。

その他の遺物としてはSA3周辺から出土した土錘（241～251）や表採品の石製の紡錘車（240）などがある。

土壙

土壙はA地区5基（SC1，2，5，6，7）とB地区6基（SC3，4，8，9，10，11）の合計11基が検出された。プランは方形プラン1基，楕円形プラン4基，円形プラン5基，台形状プラン1基を数える。規模は土壙の径および1辺の長さが100cm前後の規模のもの（SC3，4，5，8，10，11）が多く，150cm前後の大型のもの（SC2，6，7）や，80cm前後の小型のもの（SC1）がある。深さは削平を受けているためか，20～30cmと浅い土壙が多いが，SC6，7は50cm前後の深さを持つ。

11基の土壙のうち遺物を伴う土壙は4基（SC1，2，3，4）と少ない。出土状況も覆土中および上位からの出土で，土師器の甕や布痕土器，内黒土器がみられる。特にSC3からは内黒土器の埦，手ずくね土器，底部を利用した紡錘車が出土しており特異な土壙と思われる。一応，SC1，2，3，4については古代の時期の土壙と言える。他の7基の時期は不明である。

表4．土壙一覧表

土壙番号	プラン	規模 長軸×短軸×深さ（m）	出土遺物	備考
SC1	円形	0.78×0.78×0.20	土師器坏，甕，須恵器甕(格子叩き)	平安
SC2	〃	1.49×1.18×0.22	土師器壺，甕，布痕土器	〃
SC3	〃	1.06×0.88×0.22	土師器甕，内黒土器坏，手づくね土器，紡錘車	〃
SC4	楕円形	0.92×0.70×0.23	土師器甕	〃
SC5	円形	1.08×0.92×0.20	—	
SC6	楕円形	1.52×0.72×0.54	—	
SC7	方形	1.69×1.42×0.47	—	
SC8	台形？	0.98×0.80×0.25	—	
SC9	楕円形？	1.22×0.68×0.18	—	
SC10	楕円形？	0.98×0.81×0.32	—	
SC11	円形	0.91×0.89×0.15	—	

第3節　水田跡の調査

1．調査の概要

水田跡の調査は，昭和57年度のA地区・B地区の調査（1次調査）の際に調査区の南から北東方向へ延びる谷底低地に水田跡の所在する可能性が十分考えられたため，昭和57月に宮崎大学にプラントオパール分析を依頼した。地形に合わせて20m 間隔で27箇所から土壌の採集を行い分析した。その結果，Fig．4のような範囲からプラントオパールのピークが確認された。そこで水田跡の予想される約4,000㎡の地区のうち，1次調査のB地区に隣接する南西側の約1,200m を調査した。調査期間は昭和58年5月17日から6月23日までを要した。

調査の結果，明確な遺構は検出されなかったが，トレンチの断面から畦畔らしい盛り上がりが見られたが平面的な広がりは検出できなかった。遺物はプラントオパールの検出されなかった南西角に集中しており，弥生土器片，土師器片，陶磁器片，土錘，石包丁などが出土した。また，足跡もらしい痕跡も水田地区と思われる場所から数箇所確認された。

2．包含層の状態

水田部の基本層序は，耕作土（Ⅰ層・50cm），旧耕作土（Ⅱ層・40cm），白色砂質土層(Ⅲ層・2cm)，黒色土層（Ⅳ層・30cm），茶褐色土層(Ⅴ層)……となっている。部分的にはⅣ層とⅤ層の間に植物腐食土や灰白色粘土質の見られるところもある。なお，Ⅳ層の黒色土は純粋な黒色土ではなくⅤ層の茶褐色土の混じりが見られる。また，Ⅲ層の白色砂質土は調査区の南側に行くに従って見られなくなり，Ⅳ層の黒色土が急激におちこんでいく。遺物や足跡はⅣ層の黒色土層上位から出土する。しかし，同じⅣ層でもⅤ層の茶褐色土の混入量の多い下位になると遺物の出土は見られなくなる。

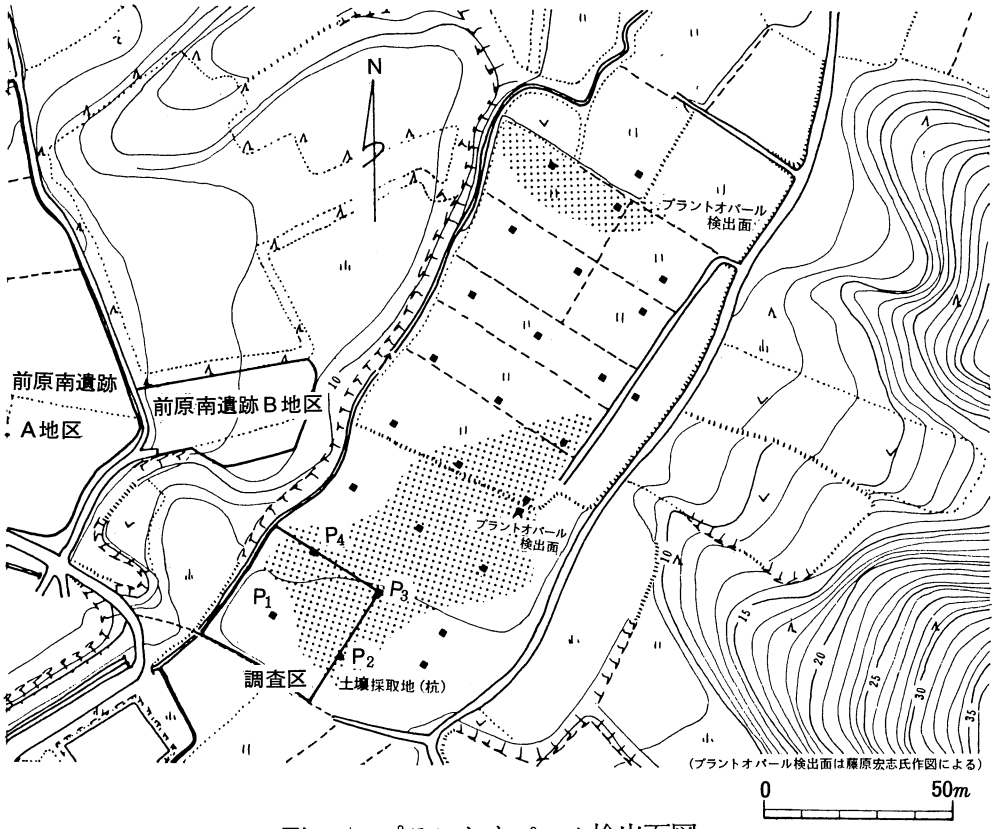


Fig. 4　プラントオパール検出面図

3．遺構と遺物

水田跡と思われる遺構としては，第７トレンチ掘削中の断面にⅣ層黒色土上位に畦畔らしいわずかな盛り上がりがみられたためトレンチを拡張したが平面的にとらえることはできなかった。

その他の遺構としては湿抜き用の竹管を埋設した溝が２－ａ～ｄ区をたてに延びるものと４－ｄ区を南北に延びる２本が検出され，４－ｃ区では3.5～4cm径の木杭が約40cm間隔で南北方向に４～５本打ちつけられた状態で検出された。いずれも時期は不明であるが，４－ｄ区溝上で洪武通宝が出土している。

また，４－ｄ区では13点程の足跡と思われる痕跡がⅣ層の黒色土上面で認められた。Ⅲ層の白色砂質土が足跡と思われる窪みに堆積している。５点は方向の検出が可能な足跡だが方向性は一定ではない。

遺物は調査区北西角の２－ａ～ｄ区に集中しておりⅣ層の黒色土層上位から出土する。出土遺物には弥生土器，土師器，石包丁がみられる。

このうち出土土器について主なものの特徴を述べると，甕・壺が主体となる。

甕は，最大径を胴部にもつタイプ（252，253）や口縁部にもつタイプ（256，257）と，頸部に突帯をもつタイプのうち刻目施文をおこなうもの（255）とおこなわないもの　（254）に分類できる。このうち，底部までが残るものは252，253でいずれも上げ底を呈している。

壺は，ラッパ状にひらき途中で水平に外反する口縁部に頸部と肩部の境に一条の突帯を有するもの（264），外反する口縁に球形に近い胴部と平底をもつもの（262），胴部最大径に比べ器高が２倍近くの比率をもつ細長のもの（263，267），めりはりの少ない長頸壺（268）などがみられる。

時期的には，上げ底の底部をもつ甕（252）や，頸部と肩部の境に突帯をもつ壺（264）など弥生後期にみられる土器や古墳時代前期に比定されるＢ地区ＳＡ９でもみられた刻目突帯を持つ甕（255）もみられる。

Fig.5 水田跡遺物出土状況およびC－4区足跡検出状況図

石包丁は２－ｃ区のⅣ層黒色土中から出土した。方形の石包丁で両端に抉りを持つ。刃部は鋭く穿孔途中の穴が１つみられる。

第４節　まとめ

古墳時代の遺構としてはカマド付きの竪穴住居６軒を検出した。住居跡群の時期についてみると，土器量の多いＳＡ９出土の土器群では，上げ底気味の底部の甕（39，44）もみられるが，頸部のくびれがみられる甕（33，34），刻目突帯をもつ甕（35，36）などや「く」の字に外反する口縁部と丸底気味の尖底をもつ倒卵形の胴部の壺（37，41，42），坏部下位から内湾気味にひらき中位で稜を有しながら大きく外反する坏部とひらき気味の脚部から内湾してひらく裾部をもつ高坏（51），口縁部と裾部がラッパ状にひらく鼓状の器台（53）から成る。これは，学園都市遺跡群熊野原遺跡Ｃ地区出土の土器群と類似する様相をもつており４世紀前半に比定できる。しかし，前原南遺跡のＳＡ９の土器群は，刻目突帯をもつ甕や高坏に古い様相を含んでおり，熊野原Ｃ地区にやや先行する可能性もある。

他の住居跡の土器量は余り多くはなく，時期を確定するには無理もある。ＳＡ８，ＳＡ３の土器群には壺・甕にＳＡ９と同じ様相をもつものがみられるが，ＳＡ４，ＳＡ５の土器群には，甕の頸部のくびれが緩やかになる点や壺の口縁がさほど反らなくなる点などＳＡ９の土器群よりは新しい様相もみられる。

古代の遺構としてはカマド付き竪穴住居３軒と掘立柱建物群が検出された。カマド付き住居３軒は，住居の壁際にカマドを持ち１ｍ前後の煙道とその先に煙り出し用のピットをもつ形態のもので，学園都市遺跡群内でも下田畑，平畑，浦田，赤坂，陣ノ内の各遺跡でみられるカマド付き住居と同形態のもので，平安時代前期の時期にあたる。前原南出土の３軒のカマド付き住居のうちＳＡ６は陣ノ内ＳＡ13でみられたようなくり抜き式の煙道をもつ。ＳＡ７，ＳＡ１は上部が削平を受けており煙道の形態はよくわからない。

出土土器はＳＡ７が胴の張る長胴甕（69，71），格子叩きの須恵器壺（78），高台付須恵器埦（86～88），薄手の須恵器蓋（94～97），ＳＡ６では木ノ葉底の横広の甕（99，100），同形態の甑（101），須恵器蓋（102～104），ＳＡ１では丸底の長胴甕（105），ヘラ切り底の坏（113），内黒土器（111），格子叩き，平行叩きの須恵器甕（114，115）布痕土器（116～124）がみられ，ＳＡ１の土器群は下田畑ＳＡ２の土器群と様相が類似する。ＳＡ７の長胴甕は９世紀～10世紀にかけてみられるが，高台付須恵器埦は学園都市遺跡群内の小山尻東遺跡の10世紀前半の竪穴住居（ＳＡ１）出土のものと類似する。さらにＳＡ７とＳＡ６では薄手の内面に反りのない須恵器蓋を出土しており，ＳＡ７，ＳＡ６とも10世紀前半を中心とする時期と思われる。

住居外出土の遺物のうち，特に遺物の集中のみられるＳＢ７～12周辺出土の土器については，甕や，坏の形態から平安時代前半と考えたいが高台付埦・内黒土器，布痕土器など学園都市遺跡群内で10世紀代と考えられる平畑，下田遺跡等出土の土器群にもみられる土器を共伴していることから，住居外出土の遺物も10世紀前後の時期と考えるのが妥当であろう。掘立柱建物群も多少の時期差はあるものの同時期と考えたい。すなわち，前原南遺跡では，10世紀前半を中心にカマド付竪穴住居と掘立柱建物群が多少時期を前後しながら集落を形成していたと思われる。

水田跡については，プラントオパールの検出や，畦畔の断面，足跡等断片的に水田跡と思われる実証はいくつか得られたが，水田跡を確証するだけの遺構の検出はできなかった。また，時期を判断する資料としては，弥生時代後期から古墳時代初頭の土器を伴っており，Ａ，Ｂ地区でみられる古墳時代前期の住居出土の土器群とも一部は一致する。しかし，Ａ・Ｂ地区からの流れ込みも考えられ水田跡の時期を決定できうる資料は得られなかった。今回の調査の結果から，水田跡の存在も考えられ，その時期については，弥生時代後期から古墳時代初頭にかけての時期を想定することも可能である。

（永友　良典）

参考文献

(1) 「山内石塔群」『宮崎学園都市遺跡群発掘調査報告書第１集』宮崎県教育委員会　1984年

(2) 「浦田遺跡，平畑遺跡，堂地東遺跡，熊野原遺跡」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第２集』宮崎県教育委員会　1985年

(3) 「下田畑遺跡，小山尻東遺跡，田上遺跡，赤坂遺跡，小山尻西遺跡」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第３集』宮崎県教育委員会　1985年

(4) 外山秀一「学園都市遺跡群周辺の地形分類」『宮崎学園都市埋蔵文化財発掘調査概報』（Ⅲ）宮崎県教育委員会　1982年

(5) 「浄土江遺跡」『宮崎市文化財調査報告書』第６集　宮崎市教育委員会　1981年

(6) 石川悦雄「宮崎平野における弥生土器編年試案一素描（ＭＫ・Ⅱ）」『宮崎考古』第９号　1984年

(7) 長津宗重「弥生後期～庄内，布留式併行期の土器編年」『シンポジウム，地域間交流を考える』資料1986年

(8) 森田勉「焼塩壺考」『太宰府古文化論叢，下巻』吉川弘文館，1983年

表５．石器一覧表

図面番号	遺物番号	遺構名	種類	大きさ (cm) 長軸	短軸	厚さ	備考
第31図	237	ＳＡ３	磨石	10.40	7.61	3.22	
〃	238	〃	石皿？	—	—	3.55	$\frac{3}{4}$程度欠損
〃	239	〃	磨石	11.90	3.15	2.65	
第33図	278	水田跡	石包丁	8.05	4.08	0.75	

表６．土製品一覧表

図面番号	遺物番号	遺構名	種類	直径・長さ (cm)	厚さ・径 (cm)	孔径 (cm)	重 (g)	備考
第30図	67	ＳＣ３	紡錘車	6.8	1.2	0.75	23	半分欠損，底部利用
第31図	252	Ａ地区	〃	6.2	1.6	0.8	40	
〃	241	Ａ地区	土錘	6.5	2.0	0.5	18	ＳＡ４周辺
〃	242	〃	〃	3.6	2.1	0.6	12	〃
〃	243	〃	〃	3.9	2.3	0.6	13	〃
〃	244	〃	〃	3.8	1.5	0.6	6	〃
〃	245	〃	〃	3.5	1.3	0.6	4	〃
〃	246	〃	〃	3.0	1.6	0.6	5	〃
〃	247	〃	〃	—	1.3	0.5	3	〃
〃	248	〃	〃	4.2	1.7	0.5	6	〃
〃	249	〃	〃	—	1.3	0.5	2	〃
〃	250	〃	〃	2.7	1.4	0.5	3	〃
〃	251	〃	〃	3.2	1.4	—	3	〃

表7．A・B地区出土土器観察表

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器部	文様および調整 外面	文様および調整 内面	焼成	色調 外面	色調 内面	胎土	備考
第18図	1	SA3	甕	口縁～底部	口縁 ヨコナデ 胴部 風化，ナデ？ 底部 指押え	口縁 ヨコナデ 頸部～胴部上位ヨコ右下がりのハケメ，底部指押え	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4) 黄灰 (2.5Y 4/1)	1～4㎜大の褐色・灰色の粒を含む	口唇部，胴半ばスス付着，内面底部黒斑，平底
〃	2	〃	甕	口縁～胴半ば	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	灰・茶色の細砂粒を含む	外面 スス付着
〃	3	〃	壺	完形	口縁 ヨコナデ 胴部上半 右下から左上へのハケメ その上をナデ消し 胴部下半 ハケメのあとヘラミガキ	口縁 ヨコナデ 頸部 指押え 胴部 ハケメ 底部 指押え	良好	浅黄橙 (10YR 8/4) にぶい黄橙 (10YR 7/2)	浅黄橙 (10YR 8/4)	1～3㎜程の白・黒・こげ茶の粒を含む	粘土のつなぎ明瞭 外面，黒斑あり，丸底
〃	4	〃	蓋	完形	タテ方向のハケメ 天井部に指押え	斜方向のハケメ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	1㎜～1㎝大の茶褐色の粒を含む	外面 スス付着 内面 黒斑あり
〃	5	〃	鉢	口縁～胴部	口唇部 ヨコナデ 胴部 ナデ	ヨコナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (5YR 7/6)	白・茶・灰色の細砂粒を含む	
〃	6	〃	埦	口縁～底部近く	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄 (2.5Y 8/3)	橙 (7.5YR 7/6)	細砂粒を含む	
〃	7	〃	器台	脚部	斜からタテ方向のハケメ	ヨコ方向のハケメ	良好	黄橙 (10YR 8/6) 明黄褐 (10YR 7/6)	黄橙 (10YR 8/6) 明黄褐 (10YR 7/6)	0.5～2㎜前後の茶・灰色の粒を多含	円形透しが，二段交互に3ヶ所残る
〃	8	〃	高坏	脚部～脚裾部	脚裾部 タテ方向のハケメ 脚部 風化のため不明	ヨコナデ	良好	黄橙 (10YR 8/6)	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	1～3㎜のうす茶，灰色の粒を含む	円形透しが，二段交互に3ヶ所残る
〃	9	〃	高坏	脚部	タテ方向のハケメ	脚部上位 指ナデ ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/3) 暗灰黄 (2.5Y 5/2)	にぶい黄橙 (10YR 7/3) 暗灰黄 (2.5Y 5/2)	1～2㎜大の褐色の粒を含む	
〃	10	〃	カップ	完形	風化，タテ方向のミガキ？	指押え	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/3) 浅黄橙 (7.5YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	1～2㎜大の砂粒を含む	粘土のつなぎ明瞭・あげ底
〃	11	SA5	甕	口縁	風化（わずかにハケメの痕跡）	風化のため不明	良好	橙 (5YR 7/6)	黄橙 (7.5YR 8/6)	1～5㎜の茶，黒，灰色の粒を含む	
〃	12	〃	甕	口縁～胴部	ナデ	風化（ハケメの痕跡）	良好	橙 (2.5YR 6/6) 黄橙 (10YR 8/4)	橙 (2.5YR 6/6) にぶい黄橙 (10YR 7/4)	0.5～2㎜程のうす茶，灰色の砂粒を多含	
〃	13	〃	甕	胴部～底部	ナデ	風化（ハケメの痕跡）	良好	橙 (5YR 6/6) 黄橙 (10YR 8/4)	明黄褐 (10YR 7/6) 褐灰 (10YR 4/1)	0.5～1㎜程のうす茶，灰色砂粒を多含，黒雲母，石英含む	内面 黒斑あり 平底
〃	14	〃	壺	胴部～底部	ナデ	風化のため不明	良好	橙 (5YR 6/6)	橙 (5YR 6/6) 褐灰 (10YR 4/1)	0.5～1㎜大の褐色，黒，白，の砂粒を含む	底部，内面，黒斑あり丸底気味
〃	15	〃	壺	口縁～底部	ナデ	ナデ	良好	黄橙 (7.5YR 7/6) 浅黄橙 (7.5YR 8/4)	橙 (7.5YR 7/6) 浅黄橙 (7.5YR 8/4)	0.5～2㎜大の褐色，白，黒の粒を含む	丸底
第19図	16	SA4	甕	頸部～胴部下位	風化のため不明	ヨコ方向のヘラ状のものでのナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/3) 黒褐 (10YR 3/1)	2～5㎜程のうす茶，白色の粒を含む	外面 スス付着
〃	17	〃	甕	口縁～胴部上位	ヨコナデ	ヨコナデ 頸部 指押え	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	1～3㎜大のうす茶，白，灰色の粒を含む，5㎜大のものも含む	外面 スス付着
〃	18	〃	壺	胴部上位	風化のため不明	風化のため不明	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/3) 橙 (5YR 7/6)	にぶい黄橙 (10YR 8/4)	1～3㎜程の白，灰，うす茶の粒を含む	
〃	19	〃	甕	口縁～胴部半ば	口縁 タテ方向のハケメのあとヨコナデ 胴部 ナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/3)	にぶい黄橙 (10YR 7/4) 橙 (7.5YR 7/6)	1～3㎜程のうす茶，灰色の粒を含む	
〃	20	〃	甕	口縁	口唇部 ヨコナデ 風化のため不明	口唇部ヨコナデ 風化のため不明	良好	黄灰 (2.5Y 6/1)	橙 (7.5YR 7/6)	1～3㎜程の灰，うす茶，白色の粒を含む	
〃	21	〃	ミニチュア	完形	口縁～底部近く タテ方向のヘラナデ 底部 指押え	口縁端部 ヨコナデ 剝離	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/2) 底部…灰 (7.5Y 5/1)	浅黄橙 (7.5YR 8/4) 底部…褐灰 (7.5YR 4/1)	1～3㎜大の茶，灰色の粒を含む	平底
〃	22	〃	ミニチュア	完形	タテ方向のヘラミガキ	タテ方向のハケメ 指押え	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	にぶい黄橙 (10YR 7/2) 底部…褐灰 (10YR 4/1)	0.2～2㎜程の黒，褐色の粒を含む	外面口縁付近，黒斑丸底気味
〃	23	〃		底部	ナデ？	風化のため不明	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4) 橙 (5YR 7/6)	にぶい黄橙 (10YR 7/4) 橙 (5YR 7/6)	1～3㎜程の茶，灰色の粒を含む	平底
〃	24	〃	高坏	坏部中位～脚部上位	ナデ	ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	0.5～3㎜程の茶，黒っぽい砂粒多含，石英含む	円形透しあり
〃	25	〃	鉢	口縁～胴部下位	口縁～胴部上位 ヨコナデ 胴部下位 風化のため不明	口縁～胴部上位 ヨコナデ 胴部下位 風化のため不明	良好	明黄褐 (10YR 7/6)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	1～3㎜のうす茶，灰色の粒を含む	
〃	26	〃	ミニチュア	完形	タテ方向のヘラミガキ 上半は風化のため不鮮明	ヨコナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/4) にぶい黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/4) にぶい黄橙 (10YR 8/4)	細砂粒を含む	外面胴部下位炭素吸着・丸底気味
〃	27	SA9	甕	口縁～底部	口縁 ヨコナデ 胴部 タテ方向のハケメ 底部 指押え	口縁 ヨコナデ 胴部 ハケメ	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	1～3㎜程の砂粒を含む	外面頸部～底部付近スス付着，内面黒斑・平底
〃	28	〃	甕	口縁～胴部下位	口縁～頸部 斜・タテ方向のハケメ 胴部 斜方向のハケメ	口縁 ヨコナデ 胴部 ナデ	良好	にぶい黄橙 (7.5YR 7/4) 褐色 (7.5YR 4/3)	浅黄橙 (10YR 8/4) 黒褐色 (10YR 3/1)	1～5㎜の赤褐色の砂粒を多含	外面全体にスス付着 内面，胴部，黒斑あり
〃	29	〃	甕	口縁～胴部下位	口縁 ヨコナデ 胴部 ヨコ～斜方向のハケメ	口縁 ヨコナデ 胴部 ヨコ～斜方向のハケ	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/4) にぶい橙 (5YR 7/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/4) にぶい橙 (5YR 7/4)	1～2㎜程の砂粒を含む	内面，胴部下位黒斑あり
〃	30	〃	甕	口縁～胴部下位	口縁端部 ヨコナデ 口縁～胴部 斜方向のハケメ	口縁 ヨコ～斜方向のハケメ 胴部上半 ヨコ方向のハケメ 胴部下半 ヨコナデ	良好	明褐色 (7.5YR 7/2)	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	1～5㎜程の砂粒多含	外面 黒斑あり
〃	31	〃	甕	口縁～胴部中位	口縁 斜方向のハケメ 胴部 ヨコナデ	口縁端部 ヨコナデ 斜方向のハケメ	良好	にぶい橙 (7.5Y 7/4)	にぶい橙 (7.5Y 7/4)	1～4㎜程の砂粒，石英長石を含む	
〃	32	〃	甕	口縁～胴部上位	口縁 ヨコから斜方向のハケメ 胴部 ヨコ方向のタタキ	口縁端部 ヨコナデ 口縁 斜方向のハケメの上指押え 胴部 斜方向のハケメ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	0.5～2㎜程の砂粒多含 3㎜大の小石も含む	胴部下半 スス付着
第20図	33	〃	甕	口縁～胴部下位	口唇部 ヨコナデ 口縁～胴部下位 ナデ	口縁 ヨコナデ 胴部 ナデ	良好	黄橙 (10YR 8/6)	橙 (5YR 7/6)	1㎜前後の砂粒を含む	外面，口縁端部と胴部下位にスス付着
〃	34	〃	甕	口縁～胴部下位	口縁 ヨコナデ 胴部上半 斜～タテ方向のハケメ 胴部下半 ナデ	口縁 ヨコナデ 胴部 ナデ	良好	橙 (7.5YR 6/6)	橙 (7.5YR 6/6)	0.2～3㎜程の灰，茶，白色の砂粒を含む	外面，口縁～胴半ばまでスス付着
〃	35	〃	甕	口縁～胴部下位	口縁 ヨコナデ 頸部～胴部中位 タテ方向のハケメ 胴部下位 タテ方向のナデ	口縁 ヨコナデ 胴部風化 ナデ？ 胴部下位 タテ方向のヘラナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/3)	黄橙 (10YR 8/6) 褐灰 (10YR 4/1)	1～2㎜程の砂粒を含む	頸部，刻み目突帯，外面胴下半にスス付着
〃	36	〃	甕	口縁～胴部中位	口縁 ヨコナデ 胴部 風化のため不明	口縁 ヨコナデ 胴部 風化のため不明	良好	橙 (5YR 7/6)	浅黄橙 (7.5YR 8/4) 褐灰 (10YR 5/1)	1㎜前後の砂粒を含む 3㎜大の粒少量含む	
〃	37	〃	壺	口縁～底部	口縁 ヨコナデ，肩部 ハケメのうえをナデ 胴部 ハケメ 底部 ナデ	口縁 ヨコナデ 胴部 ハケメの痕跡（剝離）	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/4) にぶい黄橙 (10YR 6/2)	にぶい黄橙 (10YR 7/2) 褐灰 (10YR 5/1)	1～3㎜程の茶，うす茶，白透明に光る粒を含む	丸底
〃	38	〃	壺	口縁～胴部下位	口縁 ナデ 胴部 タテ方向のハケメ	口縁 指押え ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 8/4)	にぶい黄橙 (10YR 8/4)	2～5㎜程の灰，茶色の粒を含む	外面，胴部下半スス付着
〃	39	〃		胴部上位～底部	風化のため不鮮明 ナデ？	胴部中位 斜方向のハケメ 一部剝離 底部 指押え	良好	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	2～3㎜程の茶，灰，黒色の粒を含む，5㎜大のもの少量含む	あげ底
〃	40	〃	壺	胴部上位～底部	胴部上半 タテ方向のハケメ 胴部下半 ナデ	斜～タテ方向のハケメ 胴部上位 指押え	良好	にぶい黄 (2.5Y 6/3)	褐灰 (10YR 4/1)	1㎜前後の砂粒を含む	
〃	41	〃	壺	口縁	風化のため不明	風化のため不明	良好	橙 (5YR 7/6) 浅黄橙 (7.5YR 8/4)	橙 (5YR 7/6) 浅黄橙 (7.5YR 8/4)	0.5～2㎜程の砂粒を含む	
〃	42	〃	壺	頸部～底部	タテ方向のミガキ	頸部 指押え 胴部 斜方向のハケメ 底部 指押え	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	0.5～1㎜程の砂粒を含む	丸底
〃	43	〃		胴部上位～底部	風化のため不鮮明 ナデ？	胴部上位 横，斜方向のハケメ 胴部下位 ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/3)	淡橙 (5YR 8/3)	2～3㎜程の砂粒を含む	あげ底
〃	44	〃		胴部下位～底部	タテ方向のハケメ 底部 整形指押え	風化のため不明	良好	にぶい橙 (7.5YR 7/3)	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	3㎜程の灰，白の粒を多含	あげ底

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
					外面	内面		外面	内面		
第21図	45	SA9		胴部下位～底部	風化のため不明	剝離	良好	にぶい橙 (5YR 7/4)	灰黄 (2.5YR 6/2)	1㎜前後の砂粒を含む	平底
〃	46	〃		胴部下位～底部	ナデ	ナデ	良好	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/6)	1～3㎜程の砂粒と1㎜程の石英を含む	平底
〃	47	〃		底部	ヨコナデ	ナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	黒褐 (10YR 3/1)	1～3㎜程の粒と光る粒を含む	平底
〃	48	〃		底部	ナデ 指押え	ハケメ ヨコナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/3)	淡黄(2.5Y 8/4) 灰黄(2.5Y 6/2)	3㎜前後の砂粒を含む	平底
〃	49	〃		底部	ナデ	ハケメ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	灰黄褐 (10YR 5/2)	3㎜前後の砂粒を含む	内面黒斑あげ底
〃	50	〃	鉢	完形	口縁 ヨコナデ 胴部 風化のため不明	口縁 ヨコナデ 胴部 ナデ	良好	黄橙 (10YR 8/6)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	3㎜程の粒を多含	丸底
〃	51	〃	高坏	口縁～脚裾部	坏下部 ヨコから斜り方向のハケメ 坏下部～脚上半 タテ方向のミガキ 脚上半～脚裾 下半 タテ方向のミガキ 脚端部 ヨコ方向のミガキ	坏部 風化 ミガキ？ 脚上半タテ方向のナデ 下半ヨコ方向のナデ 脚裾上半ハケメ 下半ヨコナデ	良好	坏部 橙 (2.5YR 6/6) 脚部にぶい橙 (5YR 7/4)	坏部にぶい橙 (7.5YR 7/4) 脚部にぶい橙 (5YR 7/4)	うす茶，灰色の細砂粒を含む	脚裾部3ヶ所に円形透しあり
〃	52	〃	器台	受部～脚部	タテ方向のヘラミガキ	風化のため不明	良好	橙 (2.5YR 7/6) 浅黄橙 (2.5YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	0.5～2㎜程の砂粒を含む 3㎜大の粒も少量含む	二段に交互に5ヶ所円形透し残る
〃	53	〃	器台	ほぼ完形	受部 風化のため不明 脚部 タテ方向のミガキ？風化	受部 風化のため不明 脚部上位 ヨコナデ 脚裾部 風化のため不明	やや不良	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	受部 浅黄橙 (7.5YR 8/4) 脚部 浅黄橙 (7.5YR 8/6)	1～3㎜程の砂粒を多含	三段に交互に3ヶ所づつ円形透し残る
〃	54	SA8	甕	口縁	口縁端部 ヨコナデ 口縁 タテ方向のハケメ(風化)	ハケメ？(風化のため不鮮明)	良好	橙 (7.5YR 7/6)	黄橙 (10YR 8/6)	0.5～2㎜程の砂粒を含む	
〃	55	〃	甕	口縁～胴部上位	風化のため不明	ヨコナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 8/3)	浅黄橙 (10YR 8/3)	細砂粒を含む	外面スス付着
〃	56	〃	甕	口縁～胴部上位	風化のため不明	口縁端部 ヨコナデ 風化のため不明	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	0.2～4㎜程の茶，灰，褐色の粒，石英を含む	頸部に刻み目突帯
〃	57	〃	甕	頸部	ナデ	ナデ	良好	橙 (5YR 7/6)	黄橙 (10YR 8/6)	1～2㎜の砂粒を含む	刻み目突帯
〃	58	〃	壺	口縁	ナデ	ナデ	良好	黄橙 (7.5YR 7/6)	黄橙 (7.5YR 7/6)	1～2㎜の砂粒を含む	二重口縁櫛描波状文あり
〃	59	〃		底部	ナデ	ナデ	良好	黄橙 (7.5YR 7/6)	黄橙 (7.5YR 7/6)	1㎜前後の砂粒を含む	内外面スス付着・平底
〃	60	〃		底部	ナデ	ハケメの上を部分的にナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	1～5㎜程の粒を含む	あげ底
〃	61	〃		底部	タテ方向のミガキ	タテ方向のハケメ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/3)	1㎜前後の砂粒を含む 5㎜程の粒を少量含む	平底
〃	62	〃	壺	口縁中位～底部	口縁～胴上位 風化 ミガキ？ 胴下位～底部 風化のため不明	ヨコナデ	良好	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/6)	白，黒，光る細砂粒を含む	長頸壺 丸底気味
〃	63	SA2	壺	口縁～胴部上位	口唇部 ヨコナデ 口縁 タテ方向のハケメ 胴部 タテ方向のミガキ(風化)	ヨコナデ	良好	橙 (5YR 7/6)	にぶい黄 (2.5Y 6/3)	1～2㎜のうす茶，白色の粒を含む	
〃	64	〃	壺	口縁	口縁端部 ヨコナデ 口縁 タテ方向のミガキ	口縁端部 ヨコナデ 口縁 ヨコ方向のハケメ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	うす茶，灰色の細砂粒，雲母を含む	
〃	65	〃	ミニチュア	完形	口縁端部 ヨコナデ 胴部～底部 下向きのヘラミガキ	ヨコナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	橙 (7.5YR 7/6)	0.1～0.4㎜の茶，灰色の砂粒を含む	外面底部近く黒斑あり
〃	66	〃		口縁	口縁上半 ヨコナデ 口縁下半 タテ方向のナデ	ヨコナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	1～2㎜のうす茶，白，灰色の砂粒を含む	
〃	67	〃		底部	ハケメ	ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 6/3)	にぶい黄橙 (10YR 6/3)	1㎜前後の白，うす茶，灰色の砂粒を含む	平底
〃	68	〃		脚部	タテ方向のミガキ 脚裾端部 ヨコナデ	ハケメ？	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	1～3㎜程の茶，うす茶，白色の粒を含む	円形透し2ヶ所残
第22図	69	SA7	甕	口縁～底部	口縁・底部 ヨコナデ 胴部上位 タテ方向のハケ目 胴部中～下位 ヘラケズリ	ヨコナデ 底部指押え有	良好	橙 (5YR 7/6) 黄 (2.5Y 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	1～4㎜程の砂粒を含む	あげ底気味
〃	70	〃	甕	口縁～胴部中位	口縁部 ヨコナデ 頸部 ヘラ状による2本の粗い溝(1本になることも)，胴部 タテ方向にヘラミガキ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/3～7/4)	浅黄橙 (10YR 8/4) 灰黄褐 (10YR 5/2)	0.2～3㎜程の褐・灰色の砂粒を含む	あげ底気味 木の葉底？
〃	71	〃	甕	胴部中位～底部	胴部中位 タテ方向ヘラミガキ 胴部下位 ナデ上げ 底部 ヨコナデ・指押え有	ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/3～7/4)	浅黄橙 (10YR 8/4) 灰黄褐 (10YR 5/2)	0.2～3㎜程の褐・灰色の砂粒を含む	内面底部に黒斑有
〃	72	〃	甕	口縁～胴部下位	口縁部 ヨコナデ 胴部上位 タテ方向のハケ目 胴部中～下位 ハケ目の後ナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/4) にぶい橙 (5YR 7/4)	0.5～2㎜程の粒(うす茶・黒)を含む	
〃	73	〃	甕	口縁～胴部中位	口縁部 ヨコナデ 胴部 格子目状タタキ	口縁部 ヨコナデ 胴部 上方向の雑なヘラケズリ	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	浅黄橙 (10YR 8/4) にぶい橙 (7.5YR 7/4)	2㎜前後の灰・茶・黒の粒と7㎜前後の茶・灰・白・黒の粒を含む	内・外面口縁～頸部黒斑有
〃	74	〃	甕	口縁～胴部下位	口縁部 ヨコナデ	風化	良好	浅黄橙 (10YR 8/3)	浅黄橙 (7.5YR 8/6) 橙 (5YR 7/6)	2～3㎜程の砂粒を含む	口唇部沈線あり
〃	75	〃	甕	口縁～胴部下位	口縁～頸部 ヨコナデ 胴部 ミガキ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/6) 浅黄 (7.5Y 8/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	4㎜前後の小石を含む 1～3㎜程の茶・灰・黒色の砂粒を含む	内面胴部継ぎ目有，外面胴部下位スス付着
〃	76	〃	甕	口縁～胴部上位	口縁部 ヨコナデ 胴部 風化	口縁部 ヨコナデ 胴部 風化	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/3)	浅黄橙 (7.5YR 8/3)	0.5～2㎜程の砂粒を含む	
〃	77	〃	須恵器壺	口縁	ヨコナデ	ヘラ状工具でひっかいたような跡が4ヶ所有 ヨコナデ	良好	灰 (N・5/)	黄灰 (2.5Y 6/1)	黒・白色の細砂粒を含む	ヘラ描波状文有，一部釉がかかっている
〃	78	〃	須恵器壺	口縁～胴部下位	口縁部 ヨコナデ 胴部 格子目のタタキ	口縁～肩部 ヨコナデ 胴部，ヨコナデの後タタキのあて板？の弧状痕有，頸部指押え有	良好	灰白 (2.5Y 8/1～8/2)	灰白(2.5Y 8/2) 浅黄(10YR 8/4)	0.1～3㎜の褐・灰色の砂粒を含む	
〃	79	〃	須恵器壺	胴部中位～底部	胴部 タテ方向のケズリ 底部付近 ヨコ方向のケズリ？	ヨコ方向のハケ目	良好	淡黄 (2.5Y 8/3)	灰白 (7.5YR 8/2)	0.5～3㎜程の砂粒を含む	内・外面黒斑有
第23図	80	〃	鉢	口縁～胴部下位	口縁部 ヨコナデ 胴部上位 ヨコナデの後ヘラケズリ 胴部中～下位 上方向に粗いヘラケズリ	ヨコナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	0.5～2㎜程の砂粒を含む	
〃	81	〃		底部	ナデ	ナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	1～3㎜程の砂粒を含む 5～6㎜程の小石を少し含む	丸底
〃	82	〃		底部	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	橙 (5YR 7/6)	1～4㎜程の砂粒を含む	平底
〃	83	〃		底部	ヨコナデ	ナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	黒褐色 (10YR 3/1)	1～3㎜程の砂粒を含む	平底
〃	84	〃	坏	口縁～底部	風化	風化	良好	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/6)	きめ細かい 細砂粒を含む	
〃	85	〃	黒色土器埦	口縁～胴部	ヨコナデの後ミガキ	ヨコナデの後ミガキ	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	黒 (10YR 1.7/1)	きめ細かい 1㎜前後の砂粒(茶色)を含む 2.5～4㎜の小石を少し含む	内黒
〃	86	〃	須恵器高台付埦	完形	ヨコナデ	ヨコナデ	やや良	黄灰 (2.5Y 6/1)	黄灰 (2.5Y 6/1)	1～2㎜程の黒い粒と細砂粒を含む	付け高台
〃	87	〃	須恵器高台付埦	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	やや良	灰 (N・5/)	青灰 (5B 6/1)	砂粒を含む	付け高台
〃	88	〃	須恵器高台付埦	完形	ヨコナデ	ヨコナデ	やや良	黄灰 (2.5Y 6/1)	黄灰 (2.5Y 6/1)	細砂粒を含む	付け高台

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
					外面	内面		外面	内面		
第23図	89	SA7	ミニチュア	胴部～底部	タテ方向にヘラミガキ	タテ方向にハケ目	良好	浅黄橙(10YR 8/4)	褐灰(10YR 4/1) にぶい黄橙(10YR 7/3)	0.5mm前後の白っぽい粒と石英を少し含む	外面黒斑有，尖底，底部に穿孔有(貫通)
〃	90	〃	埦	口縁～胴部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙(7.5YR 8/4)	浅黄橙(7.5YR 8/4)	きめ細かい 0.5～2mm程の砂粒を含む	
〃	91	〃	埦	口縁～胴部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙(7.5YR 8/3)	浅黄橙(10YR 8/3)	きめ細かい 細砂粒を含む	
〃	92	〃	埦	口縁～胴部	ヨコナデ？（風化）	ヨコナデ？（風化）	良好	橙(5YR 7/6)	橙(5YR 7/6)	きめ細かい 1mm程の粒を含む	
〃	93	〃	須恵器蓋	口縁～天井	ヘラケズリの後ナデ？	口縁部～体部　ヨコナデ 体部～天井　ナデ	良好	明褐灰(5YR 7/2) 灰白(2.5Y 7/1)	灰褐(5YR 6/2) 灰白(2.5Y 7/1)	0.5～2mm程の砂粒・白色粒を含む	
〃	94	〃	須恵器蓋	口縁～天井	ヨコナデ	ヨコナデ	やや良	灰白(2.5Y 7/1)	灰(N 5/0)	細砂粒を含む	
〃	95	〃	須恵器蓋	完形	天井部　ヘラケズリ 口縁～体部　ヨコナデ	ヨコナデ	やや良	淡黄(2.5Y 8/3)	淡黄(2.5Y 8/3)	細砂粒を含む	
〃	96	〃	須恵器蓋	完形	天井部　ヘラケズリ 口縁～体部　ヨコナデ	ヨコナデ	やや良	浅黄橙(10YR 8/3)	灰白(10YR 8/2)	石英･細砂粒を含む	
〃	97	〃	須恵器蓋	口縁～天井	天井部　ヘラケズリ 口縁～体部　ヨコナデ	ヨコナデ	やや良	灰白(2.5Y 7/1) 黄灰(2.5Y 6/1)	灰白(2.5Y 7/1) 黄灰(2.5Y 6/1)	1mm前後の砂粒を含む	つまみ欠損
〃	98	SA6	甕	口縁～胴部上位	口縁部　ヨコナデ 胴部　斜方向のハケ目	ヨコナデ	良好	浅黄橙(10YR 8/4)	淡黄(2.5Y 8/3)	1～3mm程の砂粒を含む	
〃	99	〃	甕	完形	口縁　ヨコナデ 胴部　タテ方向のナデ	口縁　ヨコナデ 胴部　ヨコナデ	良好	浅黄橙(7.5YR 8/4) にぶい黄橙(10YR 7/3)	浅黄橙(10YR 8/3)	2mm前後の茶・灰色の砂粒を含む	底部木の葉圧痕有 若干あげ底
〃	100	〃	甕	胴部中位～底部	胴部　下から上にヘラケズリの後ナデ？ 底部　指押え有	ナデ	良好	浅黄橙(10YR 8/4)	浅黄橙(10YR 8/4)	2mm前後の茶・白の粒を含む	平底 底部木の葉圧痕有
〃	101	〃	甑器	完形	口縁部 底端部 ヨコナデ 胴部　タテ方向のハケメ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ナデ，穿孔部指ナデ	良好	浅黄橙(10YR 8/3)	浅黄橙(7.5YR 8/4)	3～4mm程の小石を含む	胴部下端に黒斑あり
〃	102	〃	須恵器蓋	完形	口縁～体部　ヨコナデ 天井　ヘラ切り	ヨコナデ	良好	灰(5Y 5/1)	灰(5Y 5/1)	3mm程の灰色の粒わずかに含む	
〃	103	〃	須恵器蓋	完形	口縁～体部　ヨコナデ 天井　ヘラ切り	ヨコナデ	やや良	灰(7.5Y 5/1)	黄灰(2.5Y 5/1)	1mm前後の茶の粒をわずかに含む	
〃	104	〃	須恵器蓋	口縁～天井	口縁～体部　ナデ 天井部　ヘラケズリ	ヨコナデ	良好	灰(7.5Y 5/1)	灰(7.5Y 5/1)	0.1～1mm程の白･灰･黒色の砂粒を含む	
第24図	105	SA1	甕	口縁～底部	風化のため不明	ナデ	やや不良	橙(7.5YR 7/6) 浅黄橙(10YR 8/4)	灰オリーブ(5Y 6/2)	1～4mmの砂粒を多含	丸底
〃	106	〃	甕	口縁～胴部中位	口縁　ヨコナデ 胴部　ナデ	口縁　ヨコナデ 胴部　ナデ	良好	黄橙(10YR 8/6)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	1～3mmのうす茶・灰色の粒を含む	
〃	107	〃	甕	口縁～胴部中位	ナデ	ナデ	良好	浅黄橙(7.5YR 8/4)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	1～3mmの茶・灰色の砂粒と石英を含む	外面スス付着
〃	108	〃	甕	口縁～胴部中位	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙(10YR 8/4)	浅黄橙(10YR 8/4)	1～2mmのうす茶・灰色の粒を多含，石英も含む	
〃	109	〃	甕	口縁～胴部中位	口縁　ヨコナデ 胴部　タテ方向のナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙(7.5YR 8/4)	浅黄橙(10YR 8/3)	1～3mmの砂粒を多含	
〃	110	〃		胴部中位～底部	タテ方向のハケメ？	ナデ	良好	浅黄橙(5YR 8/3)	浅黄橙(7.5YR 8/4)	1～4mmの砂粒を多含	外面スス付着 丸底気味
〃	111	〃	黒色土器埦	口縁～胴部下位	ヨコ方向のミガキ	タテ方向のミガキ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/4)	黒	1～2mmのうす茶・灰色の粒を含む	外面口縁端部黒斑あり
〃	112	〃	黒色土器埦	口縁～胴部下位	ヨコナデのあと ミガキか？	剥離面多し （タテ方向のミガキか？）	良好	にぶい黄橙(10YR 7/4)	黒	1～2mmの白・茶色の粒を含む	外面口縁端部黒斑あり
〃	113	〃	坏	完形	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙(10YR 8/3)	浅黄橙(10YR 8/3)	茶色の細砂粒を含む	ヘラ切り底
〃	114	〃	須恵器甕	胴部	格子目状タタキ	ナデ	良好	淡黄(2.5Y 8/3)	浅黄橙(10YR 8/3)	茶色の細砂粒を少量含む	
〃	115	〃	須恵器甕	胴部	平行線タタキ	平行線タタキのうえをナデ	良好	黄灰(2.5Y 6/1)	黄灰(2.5Y 6/1)	黒･白･光る細砂粒を含む	
〃	116	〃	布痕	口縁	ナデ	布目	良好	黄橙(10YR 8/6)	黄橙(7.5YR 8/8)	1～2mmのうすい灰色，白い細砂粒を含む	
〃	117	〃	布痕	口縁	ナデ	布目	良好	橙(5YR 7/6)	橙(7.5YR 7/6)	1～2mmの白・うす茶の粒，5mm大の茶色の粒を含む	
〃	118	〃	布痕	口縁	ナデ	布目	良好	黄橙(7.5YR 8/8)	黄橙(7.5YR 8/8)	1～2mmの灰色の粒を含む	
〃	119	〃	布痕	口縁	口縁端部　ソギオトシ 胴部　ナデ	布目	良好	橙(7.5YR 7/6)	橙(7.5YR 7/6)	1～2mmの灰色の粒を含む	
〃	120	〃	布痕	口縁	ナデ	布目	良好	橙(5YR 7/8)	橙(5YR 7/6)	1～2mmの白色の粒を含む	
〃	121	〃	布痕	胴部	ナデ	布目	良好	橙(7.5YR 7/6)	橙(7.5YR 7/6)	白い細砂粒，1mm前後のうす茶の砂粒を含む	
〃	122	〃	布痕	胴部	ナデ	布目	良好	橙(5YR 7/6)	橙(5YR 7/6)	1～3mmの白・うすい灰色の粒を含む	
〃	123	〃	布痕	底部	ナデ	布目	良好	橙(7.5YR 7/6)	橙(7.5YR 7/6)	2～5mm程の茶の粒を含む	尖底
〃	124	〃	布痕	底部	ナデ	布目	良好	橙(7.5YR 7/6)	橙(7.5YR 7/6)	1～3mmの白い粒を含む	尖底
第25図	125	A区	甕	口縁～頸部	口縁部　ヨコナデ 頸部　タテ方向のハケ目？	口縁部　ヨコナデ 頸部　タテ方向のケズリ	良好	橙(7.5YR 7/6)	浅黄橙(7.5YR 8/6)	2～3mmのうす茶・灰色の砂粒を含む	
〃	126	〃	甕	口縁～胴部上位	ヨコナデ	口縁～頸部　ヨコナデ 胴部　ヘラケズリ(下から上)	良好	浅黄橙(10YR 8/3)	浅黄橙(10YR 8/3)	石英などの2mm前後の砂粒を含む	外面口縁部に黒斑有
〃	127	〃	甕	口縁～胴部上位	口縁～頸部　ヨコナデ 胴部　ナデ	口縁部　ヨコナデ 頸部～胴部　ケズリ(下から上)	良好	浅黄橙(7.5YR 8/4) にぶい橙(7.5YR 7/4)	浅黄橙(7.5YR 8/4) にぶい橙(7.5YR 7/4)	1～5mm程の(灰・茶色の)砂粒を多く含む，石英などの細砂粒を多く含む	外面スス付着
〃	128	〃	甕	口縁～胴部上位	口縁～頸部　ヨコナデ 胴部　ナデ	口縁部　ヨコナデ 頸部～胴部　横･タテ方向のハケ目	良好	橙(5YR 7/6)	浅黄橙(7.5YR 8/6)	1～5mmの灰・茶色の砂粒を多く含む	
〃	129	〃	甕	口縁～胴部	口縁～頸部　ヨコナデ 胴部　ナデ	口縁部　ヨコナデ 頸部～胴部　ヘラケズリ(下から上)	良好	橙(7.5YR 7/6)	橙(7.5YR 7/6)	1～3mmの茶・黒色の砂粒を多く含む，石英などの細砂粒を含む	外面スス付着
〃	130	〃	甕	口縁～胴部上位	口縁部　ヨコナデ 胴部　ナデ	口縁部　ヨコナデ 頸部～胴部　ヘラケズリ(下から上)	良好	橙(7.5YR 7/6) 灰白(10YR 8/2)	にぶい黄橙(7.5YR 7/4) 浅黄橙(10YR 8/3)	1～3mm程の砂粒を多く含む	
〃	131	〃	甕	口縁～胴部上位	ナデ	ナデ	良好	浅黄橙(7.5YR 8/3, 8/4)	浅黄橙(7.5YR 8/3･8/4)	2mm前後の(茶･灰色の)砂粒を含む 石英を含む	
〃	132	〃	甕	口縁～胴部上位	口縁部　ヨコナデ 胴部　ハケ目の後ナデ	ヨコナデ	良好	橙(2.5YR 7/6) 浅黄橙(7.5YR 8/6)	淡黄(2.5Y 8/4) 浅黄橙(7.5Y 8/6)	2mm前後の茶・白色の砂粒を含む	

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器部	文様および調整 外面	文様および調整 内面	焼成	色調 外面	色調 内面	胎度	備考
第25図	133	A区	甕	口縁～胴部上位	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 タテ方向のケズリ	良好	浅黄橙(7.5YR8/6)	浅黄橙(7.5YR8/4)	2～5mm程のうす茶・茶色の砂粒を含む	
〃	134	〃	甕	口縁～胴部上位	ヨコナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ヘラケズリ(下から上)	良好	浅黄橙(7.5YR8/4・6)	浅黄橙(7.5YR8/4・6)	1～4mm程の茶・灰色の砂粒を含む	
〃	135	〃	甕	口縁～胴部上位	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ヘラナデ	良好	にぶい橙(7.5YR7/4) 浅黄橙(7.5YR8/4)	にぶい橙(7.5YR7/4) 浅黄橙(7.5YR8/4)	1～2mm程の茶・灰・黒色の砂粒を含む 石英などの細砂粒を含む	
〃	136	〃	甕	口縁～胴部上位	口縁部 ヨコナデ 胴部 ハケ目	口縁部 ハケ目 胴部 ヘラナデ(下から上)	良好	にぶい橙(7.5YR7/4)	(5YR7/4) 浅黄橙(10YR8/4)	0.5～4mm程の砂粒を多く含む	内面胴部黒斑有
〃	137	〃	甕	口縁～頸部	口縁部 ヨコナデ 頸部 ナデ	口縁部 ヨコハケ目の後ヨコナデ 頸部 ヘラケズリ(下から上)	良好	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1～3mm程のうす茶・茶・灰色の砂粒を含む 石英などの細砂粒を含む	
〃	138	〃	甕	口縁～胴部上位	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ?	口縁部 ヨコナデ 胴部 ヨコ方向のケズリ	良好	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1～4mm程のうす茶・灰色の砂粒を多く含む 石英などの細砂粒を含む	外面頸部スス付着
〃	139	〃	甕	口縁～胴部上位	風化	口縁部 ヨコ方向のハケ目 胴部 ヘラケズリ(下から上)	良好	浅黄橙(7.5YR8/4)	黄橙(7.5YR8/8)	2～3mm程の茶・黒色の砂粒を多く含む	
〃	140	〃	甕	口縁部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	褐灰(10YR6/1)	灰白(10YR8/2)	2～3mm程のうす茶・白・灰色の砂粒を含む	
〃	141	〃	甕	口縁～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 ヨコ方向のハケ目	口縁部 ヨコ方向のハケ目の後ナデ 胴部 ヘラナデの後ヨコナデ	良好	にぶい橙(5YR7/4)	にぶい橙(5YR7/4) (5YR7/6)	0.5～3mm程の砂粒を含む	
〃	142	〃	甕	口縁～底部付近	口縁部 ヨコナデ 胴部上位 ヨコハケ目の後ナデ 胴部下位 タタキ	口縁部 ヨコナデ 胴部上位 ヨコ方向のヘラナデ 胴部下位 ヘラナデ(下から上)	良好	浅黄橙(7.5YR8/4) にぶい橙(7.5YR7/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	1～3mm程の茶・灰色の砂粒を多く含む	外面胴部下半スス付着
〃	143	〃	甕	口縁～胴部	ヨコナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ヨコナデの後ヘラケズリ	良好	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	2～6mm程の茶・黒色の砂粒を含む 1mm前後の石英などを含む	外面スス付着
〃	144	〃	甕	口縁～胴部	口縁～胴部上半 ヨコナデ 胴部 ヨコ方向のハケ目?	口縁部 ヨコ方向のハケ目の後ナデ 胴部 ヘラケズリ(下から上)	良好	浅黄橙(7.5YR8/6)	浅黄橙(7.5YR8/6)	1～7mm程のうす茶・茶・灰色の砂粒を多く含む 石英などの細砂粒を含む	
第26図	145	〃	甕	口縁～胴部上位	口縁部 ヨコナデ 胴部 剝離	口縁部 ヨコナデ 胴部 斜方向のケズリ	良好	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	1～3mm程の黒・うす茶色の砂粒を含む	
〃	146	〃	甕	口縁～胴部上位	ヨコナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 タテ方向のナデ	良好	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	2～3mm程の黒・茶・灰色の粒を含む	内面頸部にスス付着
〃	147	〃	甕	口縁～胴部	ナデ	口縁部 ナデ 胴部 ヘラケズリ(下から上)	良好	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6) (5YR5/6)	2mm前後の砂粒を多く含む, 石英の砂粒を含む	外面胴部スス付着
〃	148	〃	甕	口縁～胴部上位	ヨコナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 斜方向のヘラケズリ	良好	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1～2mmのうす茶・茶・灰色の砂粒を含む 石英の細砂粒を含む	
〃	149	〃	甕	口縁～胴部上位	ナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 斜方向のケズリ	良好	橙(5YR7/6)	にぶい橙(5YR7/4)	1～2mmのうす茶・灰色の砂粒を含む	
〃	150	〃	甕	口縁～胴部上位	口縁部 ヨコナデ 胴部 タテ方向のヘラナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ヘラケズリ(下から上)	良好	浅黄橙(7.5YR8/6)	浅黄橙(7.5YR8/6) (10YR8/3)	うす茶・灰色の細砂粒を含む	
〃	151	〃	甕	口縁～胴部上位	ナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 斜方向のヘラナデ	良好	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	1～3mmのうす茶・茶・灰色の砂粒を含む 石英などの細砂粒を含む	
〃	152	〃	甕	口縁～胴部	口縁～胴部上位 ヨコナデ 胴部 タテ方向のハケ目	口縁部 ヨコナデ 胴部 ヘラケズリ(下から上)	良好	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	1～3mmの灰・茶色の砂粒を多く含む	
〃	153	〃	甕	口縁～胴部	風化	ナデ	良好	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	2mm程の茶・白・黒色の砂粒を含む 石英などの細砂粒を含む	外面胴部スス付着
〃	154	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ 底部 風化	ヨコナデ 底部 風化	良好	橙(7.5YR7/6) 浅黄(2.5Y8/4)	橙(7.5YR7/6) 浅黄橙(10YR8/4)	1～3mm程の茶・白色の砂粒を含む	ヘラ切り底
〃	155	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	細砂粒を多く含む	ヘラ切り底
〃	156	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	きめが細かい 1～2mm程の茶・灰色の砂粒を含む	ヘラ切り底
〃	157	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	きめが細かい 黒色などの細砂粒を含む	ヘラ切り底
〃	158	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	白, うす茶色の細砂粒を含む	ヘラ切り底
〃	159	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙(10YR8/3)	褐灰(10YR6/1)	白, 茶, 黒色の細砂粒を含む	ヘラ切り底
〃	160	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4) 灰黄(2.5Y5/2)	きめが細かい	ヘラ切り底
〃	161	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR8/6)	1～2mm程の白, 黒, 茶色の砂粒を含む	回転ヘラ切り底
〃	162	〃	埦	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙(7.5YR8/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	白, 灰色の細砂粒を含む	付け高台?
〃	163	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ 底部 風化	ヨコナデ	良好	橙(7.5YR7/6)	黄橙(7.5YR7/8)	1～3mm程の白, 灰, 茶色の砂粒を含む	ヘラ切り底
〃	164	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ 底部 ナデ	ヨコナデ	良好	灰白(5Y8/2)	灰白(5Y8/2)	黒・白色や石英の細砂粒を含む 1mm程の砂粒を含む	
〃	165	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	淡黄(2.5Y8/3)	淡黄(2.5Y8/3)	1mm前後のうす茶・灰・茶色の粒を含む	ヘラ切り底
〃	166	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	1mm前後のうす茶・黒・白色の粒を含む	ヘラ切り底
〃	167	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	0.5～2mm程の灰・茶・黒色の粒を含む	ヘラ切り底
〃	168	〃	坏	胴部上位～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	黄橙(10YR8/6)	浅黄橙(10YR8/4)	1mm前後の砂粒を多含	ヘラ切り底
第27図	169	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙(7.5YR8/6)	浅黄橙(7.5YR8/6)	1mm前後のうす茶・灰色の粒を含む	ヘラ切り底
〃	170	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙(7.5YR8/6)	橙(7.5YR8/6) 淡黄(2.5Y8/4)	1～4mmの茶の粒を多含	ヘラ切り底
〃	171	〃	坏	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	白, 黒, 茶の細砂粒を含む	ヘラ切り底
〃	172	〃	高台付埦	口縁～高台	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	淡赤橙(2.5YR7/4) 浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	透明な粒, 朱色の粒, 細砂粒を含む	付け高台
〃	173	〃	高台付埦	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	淡黄(2.5Y8/3)	淡黄(2.5Y8/3)	細砂粒を含み, 0.5～1.5mm程の粒も含む	高台欠落
〃	174	〃	黒色土器埦	口縁～底部	ナデ(一部ミガキの痕跡か)	ミガキ	良好	浅黄橙(10YR8/3)	黒(5Y2/1)	0.5～1mm前後の粒を多含 白・黒く光る粒を含む	口縁端部黒斑あり, 底部～胴部中位スス付着 底部にヘラ記号
〃	175	〃	黒色土器埦	口縁～胴部中位	ヨコ方向のミガキ	ミガキ	良好	にぶい黄橙(10YR7/4)	灰(5Y5/1)	1mm程の茶, 黒, 灰色, 光る粒を含む	
〃	176	〃	黒色土器埦	口縁～胴部中位	ヨコ方向のミガキ	ヨコ方向のミガキ	良好	黒褐(10YR3/1)	緑黒(5G2/1)	白, 黒, 灰色, 光る細砂粒を含む	口唇部に重ね焼きの跡

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器部	文様および調整 外面	文様および調整 内面	焼成	色調 外面	色調 内面	胎土	備考
第27図	177	A 区	黒色土器 埦	胴部中位～底部	ヨコ方向のミガキ	ヨコ方向のミガキ	良 好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	黒 (5Y 3/1)	白，灰の細砂粒を含む	
〃	178	〃	黒色土器 埦	底 部	ナデ	ミガキ	良 好	浅黄橙 (10YR 8/4)	黒 (5Y 3/1)	1～2㎜の茶・白・灰色の粒を含む	底部外面ヘラ記号あり
〃	179	〃	黒色土器 埦	口縁～胴部下位	ヨコナデ	ミガキ	良 好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	黒 (5Y 3/1)	2㎜程の黒・灰・茶・白色の粒光る細砂粒を含む	
〃	180	〃	黒色土器 埦	口縁～胴部下位	ヨコナデ	ヨコ方向のミガキ	良 好	淡黄 (2.5Y 8/3)	黒 (10YR 1.7/1)	1㎜程の粒，細砂粒を含む	口縁端部に黒斑
〃	181	〃	布痕	口縁～胴部下位	口 縁 ソギオトシ 胴 部 ナデ	布目	良 好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	1㎜前後の灰，うす茶の粒を含む	
〃	182	〃	布痕	口縁～胴部下位	口 縁 ソギオトシ 胴 部 ナデ	布目	良 好	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	橙 (7.5YR 7/6)	2～3㎜の灰；うす茶の粒を含む	
〃	183	〃	布痕	口縁～胴部下位	口 縁 ソギオトシ 胴 部 ナデ	布目	良 好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	1㎜前後の灰・黒・茶・白色の粒を含む	
〃	184	〃	布痕	口縁～胴部下位	口 縁 ソギオトシ 胴 部 ナデ	布目	良 好	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	橙 (7.5YR 7/6)	2㎜前後の茶・灰・白・黒く光る粒を含む	
〃	185	〃	布痕	胴部下半	ナデ	布目	良 好	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/6)	2～4㎜程の粒を含む	尖底
〃	186	〃	壺	口 縁	ヨコナデ	ナデ	良 好	灰黄 (2.5Y 6/2)	灰白 (2.5Y 8/1)	1～3㎜の砂粒わずかに含む	
〃	187	〃	須恵器 壺	頸部～肩部	頸 部 ナデ 肩 部 格子目状タタキ	頸 部 ヨコナデ 肩 部 風化	良 好	黄灰 (2.5Y 6/1)	灰白 (2.5Y 8/1)	1㎜前後の砂粒を含む	
〃	188	〃	須恵器 壺	口 縁	ヨコナデ	ヨコナデ	良 好	灰白 (2.5Y 7/1)	灰白 (2.5Y 7/1)	細砂粒を含む	内面自然釉かかる
〃	189	〃	須恵器	底 部	ヨコナデ	ヨコナデ	良 好	灰 (5Y 5/1)	褐灰 (10YR 5/1)	精良	平底
〃	190	〃	須恵器 壺	頸部～胴部下位	ヨコナデ	ヨコナデ	良 好	灰オリーブ (5Y 5/2)	灰 (7.5Y 5/1)	精良	外面胴部中位から下に自然釉かかる
第28図	191	〃	須恵器 壺	頸部～底部	ヨコナデ	ヨコナデ 肩部に指押え	良 好	灰 (5Y 5/1)	オリーブ褐 (2.5Y 5/3) オリーブ灰 (10Y 5/2)	精良	外面頸部から胴部中位まで自然釉かかりオリーブ灰を呈す，内面自然釉かかる
〃	192	〃	須恵器 壺	頸部～胴部上位	頸 部 ヨコナデ 胴 部 平行線タタキ	頸 部 ヨコナデ 胴 部 同心円タタキ	良 好	灰オリーブ (5Y 6/2)	黄灰 (2.5Y 6/1)	精良	
〃	193	〃	須恵器	胴 部	平行線タタキ	ナデ 部分的に平行線タタキ	良 好	灰オリーブ (5Y 6/2)	灰オリーブ (5Y 6/2)	精良	
〃	194	〃	須恵器	胴 部	格子目状タタキ	当て板痕残る	良 好	灰 (7.5Y 5/1)	灰 (7.5Y 6/1)	精良	
〃	195	〃	須恵器	胴 部	格子目タタキ	ナデ	良 好	灰 (7.5Y 5/1)	灰 (7.5Y 5/1)	精良	
〃	196	〃	須恵器	胴 部	格子目状タタキ	ナデ	良 好	灰 (7.5Y 5/1)	灰 (7.5Y 5/1)	精良	
〃	197	〃	須恵器	胴 部	格子目状タタキ	当て板痕残る	良 好	灰 (7.5Y 7/1)	灰 (7.5Y 5/1)	精良	
〃	198	〃	須恵器	胴 部	格子目状タタキ	同心円文タタキの後ナデ	良 好	灰黄 (2.5Y 6/2)	灰 (7.5Y 5/1)	精良	
〃	199	〃	須恵器	胴 部	格子目状タタキ	同心円文タタキの後ナデ	良 好	暗灰黄 (2.5Y 5/2)	灰 (7.5Y 5/1)	精良	
〃	200	〃	須恵器	胴 部	格子目状タタキ	同心円タタキ	良 好	灰 (5Y 5/1)	黄灰 (2.5Y 6/1)	精良	
〃	201	〃	須恵器	胴 部	格子目状タタキ	同心円タタキ	良 好	灰 (5Y 5/1)	黄灰 (2.5Y 6/1)	精良	
〃	202	〃	須恵器	胴 部	平行線タタキ	同心円タタキ	良 好	黄灰 (2.5Y 5/1)	黄灰 (2.5Y 5/1)	精良	
〃	203	〃	須恵器	胴 部	格子目状タタキ	タタキの後ナデ	良 好	浅黄 (2.5Y 7/3) 黄灰 (2.5Y 6/1)	黄灰 (2.5Y 6/1)	精良	
〃	204	〃	須恵器	胴 部	平行線タタキ	同心円タタキ	良 好	灰 (5Y 5/1)	灰 (5Y 6/1)	精良	
〃	205	〃	須恵器	胴 部	平行線タタキ	同心円タタキ	良 好	灰オリーブ (5Y 5/2)	黄灰 (2.5Y 6/1)	1㎜前後の茶・黒・黒く光る粒を含む	外面，自然釉かかる
第29図	206	〃	須恵器	胴部上位～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	やや良	灰白 (2.5Y 8/2)	淡黄 (2.5Y 8/3)	2㎜前後の灰色の砂粒を含む	ヘラ切り底
〃	207	〃	須恵器	胴部上位～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	やや良	灰白 (7.5Y 8/2)	灰白 (7.5Y 8/2)	2㎜前後の灰色の砂粒を含む	ヘラ切り底
〃	208	〃	須恵器	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良 好	灰 (10Y 5.5/1)	灰 (10Y 4.5/1)	きめ細かい白・黒・透明光沢の砂粒を含む	付け高台
〃	209	〃	黒色土器	胴部下位～底部	ヨコナデ	ナデ	良 好	淡黄 (2.5Y 8/4)	黒褐 (10YR 3/1)	光沢のある粒と細砂粒を含む	付け高台
〃	210	〃	須恵器	胴部下位～底部	ヨコナデ	ヨコナデ（風化）	やや良	灰白 (2.5Y 8/1)	黄灰 (2.5Y 5/1, 4/1)	1㎜前後のうす茶・灰色の粒をわずかに含む	
〃	211	〃	須恵器 埦	口縁～胴部下位	ヨコナデ	ヨコナデ	良 好	暗灰黄 (2.5Y 5/2)	灰黄褐 (10YR 5/2)	白色の砂粒を含む	
〃	212	〃	須恵器 埦	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良 好	(7.5Y 灰 5/1) (10Y 灰 4/1)	灰 (7.5Y 5/1)	精良	
〃	213	〃	須恵器 蓋	天井～体部	ヨコナデ	ヨコナデ	良 好	灰オリーブ (5Y 5/2)	灰オリーブ (5Y 6/2)	0.5～2.5㎜の白・黒の砂粒を含む	
〃	214	〃	須恵器 蓋	天井～口縁	宝 珠 ナデ ヨコナデ	ヨコナデ	やや良	黄灰 (2.5Y 6/1)	淡黄 (5Y 8/3)	精良	宝珠付
〃	215	〃	須恵器 蓋	天井～口縁	天 井 ケズリ 体部～口縁 ヨコナデ	ヨコナデ	良 好	黄灰 (2.5Y 6/1)	黄灰 (2.5Y 6/1)	精良	
〃	216	〃	須恵器 蓋	天井～口縁	ヨコナデ	ヨコナデ	やや良	灰白 (2.5Y 8/2)	灰 (5Y 6/1)	精良	
〃	217	B 区	鉢	口縁～胴部下位	ヨコナデ	ヨコナデ	良 好	淡黄 (2.5Y 8/3)	浅黄橙 (10YR 8/4)	1～1.5㎜程の砂粒を含む	外面スス付着，内面黒斑？内面口縁部スス付着
〃	218	〃	黒色土器 埦	口縁～底部	口縁～胴部中位 ヘラミガキ 胴部中～下位ヘラミガキ？，底部ナデ？	ミガキ	良 好	淡黄 (2.5Y 8/4)	黒 (2.5Y 2/1)	0.5～1.5㎜の褐・白色半透明・黒色の砂粒を含む 橙色の細かい酸化鉄粒を含む	内黒
〃	219	〃	黒色土器 埦	胴部下位～底部	ヘラミガキ	ヘラミガキ	良 好	淡黄 (2.5Y 8/3)	淡黄 (2.5Y 8/1)	1㎜前後のうす茶・灰色の砂粒を含む	内黒 外面底部十文字文様有
〃	220	〃		胴部下位～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良 好	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	細砂粒を含む	ヘラ切底

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器部	文様および調整 外面	文様および調整 内面	焼成	色調 外面	色調 内面	胎土	備考
第29図	221	B 区		底 部	ヨコナデ	風化	良 好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	白・灰色などの砂粒を含む	ヘラ切底
〃	222	S H	須恵器壺	口 縁	ヨコナデ	ヨコナデ	良 好	黒 (10Y 3/1)	黒 (10Y 3/1)	精良	内面自然釉の為明黄褐(2.5Y 5/6)を呈す
〃	223	〃		胴部中位～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良 好	にぶい橙 (5YR 7/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/3)	白・黒・光る細砂粒を含む	ヘラ切り底
〃	224	〃	皿	完 形	ヨコナデ	ヨコナデ	良 好	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/6) (2.5YR 6/6)	1mm前後の茶，黒色の砂粒を含む	内底にヘラ記号 ヘラ切り底
〃	225	〃	布痕	口縁～胴部	ナデ	布目	良 好	淡橙 (5YR 8/4)	淡橙 (5YR 8/4) 灰白 (7.5Y 8/2)	1～2mm程の砂粒を含む	
〃	226	〃		口縁～胴部	ナデ	布目	良 好	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/6)	細砂粒を含む	
〃	227	〃		胴部中位～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良 好	黄橙 (10YR 8/6)	浅黄橙 (10YR 8/4)	1～2.5mm程の茶・灰色の砂粒を含む	回転ヘラ切り底
〃	228	〃		胴部下位～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良 好	底部…淡黄 (2.5Y 8/4) 胴部…灰黄 (2.5Y 6/2)	黄橙 (10YR 8/6)	灰・茶の細砂粒を含む	付け高台 ヘラ切り底
〃	229	SC1	壺	頸部～胴部上位	風化	頸部 ヨコナデ 胴部上位 タテ方向にナデ	良 好	にぶい橙 (7.5YR 7/4) 灰黄 (2.5Y 6/2)	淡黄 (2.5Y 8/3)	0.5～2mm程の茶色などの砂粒と5mm前後の小石を含む，石英も含む	
〃	230	〃	甕	胴部下位～底部	胴部下位 ヨコナデ 底 部 ナデ	ヨコナデ	良 好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	0.5～1mmの黒・茶色の砂粒を含む，石英も含む	
〃	231	SC2	甕	口 縁	口縁部 ヨコナデ 胴 部 風化	口縁部 ヨコナデ 胴 部 ナデ	良 好	淡黄 (2.5Y 8/4)	淡黄 (2.5Y 8/3)	2mm程の茶・灰・褐色の砂粒を含む	
〃	232	〃		胴部下位～底部	ナデ	ナデ	良 好	浅黄橙 (10YR 8/4)	にぶい橙 (5YR 7/4)	2mm程の茶・灰の砂粒を含む	平底
〃	233	SC3	甕	口縁～胴部上位	口縁部 ヨコナデ 胴部上位 ナデ	ナデ？	良 好	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	黄橙 (10YR 8/6)	0.5～3mm程の灰・褐・茶などの砂粒を含む	
〃	234	〃	黒色土器	口縁～胴部下位	口縁部 ミガキ 胴 部 風化	ヘラミガキ	良 好	橙 (7.5YR 7/6)	褐灰 (10YR 4/1)	きめ細かい 細砂粒を含む	
〃	235	〃	ミニチュア	完 形	ナデ？	ナデ	良 好	明黄褐 (10YR 7/6)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	きめ細かい 細砂粒を含む	手づくね土器，平底，内面黒斑有，口縁端部突帯有

表8．水田跡出土土器観察表

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器部	文様および調整 外面	文様および調整 内面	焼成	色調 外面	色調 内面	胎土	備考
第31図	252	a 1	甕	口縁～底部	口縁部 ナデ 胴 部 タテ方向のハケ目 胴部下位～底部 ナデ(下から上)	口縁部 ヨコナデ 胴部上位 斜方向のハケ目，胴部ナデ 底 部 指押えの後ナデ	良 好	浅黄橙 (10YR 8/3) 灰白 (2.5Y 8/1)	灰白 (10YR 8/2) 灰白 (5Y 8/1) 底部	1～3mm程の砂粒を含む	あげ底，内面底部黒斑有，外面口縁～胴部スス付着
〃	253	〃	甕	口縁～底部	口縁部 ヨコナデ，タテ方向のハケ目 胴 部 風化，底部ナデ	口縁部 ヨコ方向のハケ目 胴部上位 斜方向のハケ目の後ナデ 胴部中位 ナデ，底部指押え有	良 好	灰白 (2.5Y 8/2)	灰白 (2.5Y 8/2)	0.5～2mm程の砂粒を含む	あげ底 外面一部黒斑有
〃	254	a 2	甕	口縁～肩部	口唇部 ナデ，口縁部 ハケ目後ナデ 頸部～突帯部 ヨコナデ 肩 部 タテ方向にハケ目？	口縁部 ハケ目の後ヨコナデ 肩 部 風化	良 好	灰白 (2.5Y 7/1)	淡黄 (2.5Y 8/3)	1mm程の砂粒を含む	内面口縁部黒斑有 頸部突帯
〃	255	b 2	甕	口縁～胴部上位	口唇部 ヨコナデ 口縁～胴部 ヨコ斜方向のハケ目	口縁上半 ハケ目の後ナデ 口縁下半 ハケ目の後指押え 胴 部 ヨコ方向のハケ目の後ナデ	良 好	にぶい黄橙 (10YR 7/2)	灰白 (2.5Y 8/2)	1～3mm程の砂粒を含む	頸部刻み目突帯 261と接合
〃	256	a 2	甕	口縁～胴部中位	口縁部 ヨコナデ 胴 部 ハケ目	口縁部 ヨコナデ 頸部～胴部 ナデ	良 好	灰白 (10YR 7/1)	灰黄 (2.5Y 7/2)	きめが細かい 1～3mm程の砂粒を含む	外面スス付着
〃	257	〃	甕	口縁～胴部	口唇部 ヨコナデ 口縁～胴部 ヨコ，ナナ目方向のハケ目の後ナデ	ヨコ，タテ，斜方向のハケ目の後ナデ	良 好	灰白 (10YR 8/2)	灰白 (10YR 8/2)	1～4mm程の砂粒を含む	外面，胴部中位～下位スス付着
〃	258	〃	甕	完 形	風化	口縁～胴部中位 ヨコナデ 胴部～底部 風化	良 好	浅黄 (2.5Y 7/3)	浅黄 (2.5Y 7/3)	0.1～4mm程の砂粒を含む 角閃石を少し含む	内面口唇部黒斑有 平底，外面口縁～胴部上位黒斑有
〃	259	b 1	甕	胴部下位～底部	胴 部 タテ方向にハケ目 底 部 ナデ・指押え有	胴部 タテ，斜方向にハケ目の後ナデ 底部 ナデ	良 好	灰黄 (2.5Y 6/2)	黄灰 (2.5Y 6/1)	1～4mm程の砂粒を含む	外面一部スス付着 あげ底，内面炭化物付着・黒斑有
〃	260	a 1		胴部中位～底部	風化	ハケ目	良 好	浅黄橙 (10YR 8/3)	浅黄橙 (10YR 8/4)	1～2mmの砂粒・石英を含む	平底
〃	261	b 2		胴部中位～底部	胴部中位 ナデ，底部指押え有 胴部下位～底部 タテ方向のハケ目のあとナデ	胴 部 ハケ目の後ナデ 底 部 指押え有	良 好	にぶい黄橙 (10YR 7/2)	にぶい黄褐 (10YR 5/3)	2～3mm程の砂粒を含む	平底 255と接合
第32図	262	〃	壺	口縁～底部	口縁部 ヨコナデ 胴 部 タテ方向のミガキ	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 ヨコ・タテ・斜方向のハケ目 頸部～肩部に指押え有	良 好	にぶい黄 (2.5Y 6/3)	にぶい黄褐 (10YR 5/3)	3mm程の砂粒・石英を含む	外面胴部中位スス付着 外面一部黒斑有
〃	263	a 2	壺	完 形	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 ナデ？	口縁部 ヨコナデ，胴部上位 指ナデ 胴部中位・底部 指押え 胴部中位 ハケ目の後ナデ	良 好	灰白 (2.5Y 8/2)	灰白 (2.5Y 8/2)	2～3mm程の砂粒，5mmの小石を含む	平底
〃	264	〃	壺	口縁～胴部上位	口縁・胴部上位 風化 頸 部 ヨコナデ	口唇部 ヨコナデ，胴部上位 指ナデ 口縁～頸部 ハケ目の後ナデ	良 好	淡橙 (5YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/3)	1mm前後の石英を含む 1～3mm程の砂粒を含む	
〃	265	〃	壺	頸 部	ナデか？	指押え有 ナデ	良 好	淡黄 (2.5Y 8/3)	緑黒 (5G 3/1)	0.5～2mm程の砂粒を含む	
〃	266	〃	壺	頸部～底部	頸部～肩部 ハケ目(風化) 胴部中位～底部 ナデ	ナデ	良 好	淡黄 (2.5Y 8/3)	緑黒 (5G 3/1)	0.5～2mm程の砂粒を含む	外面肩部黒斑有
〃	267	a 1	壺	口縁～胴部下位	ナデ	口縁部 ヨコ方向にハケ目の後ナデ 頸部～胴部中位 指ナデ 胴部下位 タテ方向にハケ目	良 好	灰白 (5Y 8/1, 8/2)	オリーブ黒 (5Y 3/1)	2～3mm程の砂粒を含む	
〃	268	b 1	壺	頸部～底部	ナデ	頸部・肩部 指押え 胴部下位～底部 タテ方向のハケ目	良 好	灰白 (7.5Y 8/2)	灰黄 (2.5Y 7/2)	2～3mm程の砂粒を含む	外面底部黒斑有
〃	269	a 2	壺	胴部～底部	ハケ目の後ナデ	ナデ，一部ハケ目有	良 好	浅黄 (2.5Y 7/3)	浅黄 (2.5Y 7/3)	0.5～3mmの砂粒・石英を含む	
〃	270	b 1	壺	胴部～底部	ナデ？	胴部中位 ヨコ方向にハケ目 底 部 斜方向に指ナデ	良 好	淡黄 (2.5Y 8/3)	にぶい褐 (7.5YR 5/3)	1～3mm程の砂粒を少し含む	丸底
〃	271	a 2	壺	胴部～底部	胴部上位 ナデ 胴部中位～底部 風化	ナデ	良 好	(5YR 7/6) 灰白 (2.5Y 8/2)	灰黄 (2.5Y 7/2) 黄灰 (2.5Y 5/1)	1～3mm程の砂粒を含む	平底
〃	272	a 1	壺	頸部～底部	胴部上位 ハケ目？ 胴部中位～下位 ナデ 底 部 指押え有	胴部上位 斜方向のハケ目 胴部中～下位 ナデ 胴部中位・底部 指押え	良 好	浅黄橙 (10YR 8/3)	明黄褐 (10YR 6/6)	2～3mm程の砂粒，5mm程の小石を含む	あげ底
〃	273	a 2	ミニチュア	完 形	ナデ	ナデ	良 好	灰白 (2.5Y 8/2)	灰白 (2.5Y 8/2)	1mm前後の砂粒を含む	平底
〃	274	〃	壺	頸部～底部	頸部～胴部中位 ミガキ？ 胴部中位～底部 ナデ	頸部～胴部中位 ナデ？ 胴部中位～底部下位 ヨコ方向にハケ目	良 好	灰黄 (2.5Y 7/2)	灰黄 (2.5Y 7/2)	細砂粒・1～2mm程の砂粒と赤色酸化鉄粒を含む	丸底
〃	275	〃	高坏	脚 部	風化	ヨコナデ	良 好	浅黄橙 (7.5YR 8/3)	浅黄橙 (7.5YR 8/3)	1mm前後の石英と細砂粒を含む	
〃	276	a 1	器台	脚 部	裾 部 ヨコナデ 脚 部 剝離	脚 部 ナデ 裾 部 ヨコナデ	良 好	浅黄橙 (10YR 8/4)	淡黄 (2.5Y 8/3)	1.5～3.5mmの暗灰・褐色の細礫と赤色酸化鉄の細粒を含む	内面裾部黒斑有
〃	277	a 2	鉢	完 形	口唇部 ナデ 全体に斜，タテ方向にハケ目	口縁～胴部下位 斜方向にハケ目 底 部 ナデ	良 好	灰 (2.5Y 白 8/3) (7.5Y 黒 3/1)	灰 (2.5Y 白 8/3) (7.5Y 黒 3/1)	1～3mm程の砂粒・石英を含む	外面黒斑有，平底 内面・胴部中位～底部黒斑

第Ⅵ章　前原北遺跡の調査

第１節　遺跡の位置と環境

前原北遺跡は，宮崎市から清武町にまたがる宮崎学園都市建設予定地の東端，宮崎市大字熊野に位置する。舌状に東に突き出した標高11～13ｍの台地形を占地し，西側が平坦に削平され本来の遺跡を構成する地形的な広がりは確定し難いものの，おおよそ30,000㎡に及び遺構の分布が確認された。なお，西側の削平面は東側とほぼ平坦なレベルでシラス層にまで及ぶもので，比較的急な小高い山地形の存在が考えられ，発掘し得た範囲が集落としては完結した広がりに含まれるもので，アカホヤ上の遺構については一集落の単位を全面発掘し得たと考えている。

前原北遺跡の東には今江城（仮称）の丘陵が延び，遺構的にも中世から近世にかけての掘立柱建物跡などは山城との関連を抜きにすることは出来ないであろう。また，今江城（仮称）での意外な成果となった弥生時代の竪穴住居跡の存在は，逆に前原北遺跡との有機的な関係を無視することはできない。

前原北遺跡の西の続きには，おそらく削平された小高い山地形を挟んだ形で前原西遺跡が存在する。前原西遺跡は，旧地形を復元的に追えば，起伏に富んだ比較的面積の限られた南向きから西向きにかけての傾斜地が想定され，その中に旧石器時代から縄文早期，弥生の竪穴住居跡，中世の掘立柱建物跡と方形周溝をもつ墓坑が点在する。いずれの時代についても，これもまた両遺跡の有機的な関係が問題とされるであろう。

そうした遺跡とは対照的に，南に位置する前原南遺跡は前原北遺跡の古墳時代から中世にかけての空白期を埋める竈を持つ竪穴住居跡や同時期の掘立柱建物跡が検出されており，両遺跡は継続的な関係を示すものとみられる。

さらに南に位置する陣ノ内遺跡と車坂城跡との関係も，山城での弥生遺構の存在はないものの，前原北と今江と同様の関係性を見い出す事ができ，今江と車坂の山城としての関係を鍵としながら，前原北遺跡の位置付けも問われてくるであろう。

なお，前原北遺跡は学園都市遺跡群の中の弥生時代の集落としては，Ⅲ期末の堂地東遺跡に先立ち，もっとも古く遡るものとなった。縄文時代後・晩期の遺跡は，西約１kmの平畑遺跡で確認されているが，晩期後半から弥生Ⅰ期に相当する遺構は確認されていない。その空白を繋ぐものとして，夜臼系の突帯文土器が平畑，前原北の両遺跡で検出されているが，断片的である。集落立地としては台地下の平野部に一時降りたことも考えておかなければならないだろう。

第２節　調査の経過

日誌抄

1981年８月31日	試掘調査開始
９月２日	Ａ地区において遺構の広がりが確認され全面調査に切り替える。
９月７日	Ｂ地区を中心に表土剝ぎを開始。
９月29日	Ｂ地区を精査の結果６棟の竪穴住居跡を確認。
９月30日	Ｃ地区の試掘を実施。
10月６日	Ａ地区およびＢ地区，遺構の埋め土の除去開始。
10月８日	Ｆ地区表土剝ぎ。
10月９日	Ｂ地区竪穴住居跡埋め土除去継続。また，２号（20号）住居跡の南側において多量の土器を

包蔵する土坑確認。

10月15日　２号（20号）竪穴住居跡の遺物出土状態図作成。

10月19日　A地区ピット群検出完了。のち写真撮影。

10月21日　A地区遺構平面図作成準備。

10月23日　３号（19号），４号（17号）遺物出土状態図作成。

11月９日　C・D地区遺構検出。

11月16日　F地区遺構検出。

11月18日　A地区全体精査。

11月20日　A地区全体写真撮影。

12月24日　B地区実測および写真撮影完了。

1985年

４月４日　表土剝ぎ開始。

４月15日　表土剝ぎ継続，および精査継続。

４月18日　記録用８㎜撮影。

５月１日　第１回検出面精査終了。

５月14日　81年検出分の３棟の竪穴住居跡再発掘。

５月17日　今日までで９棟の竪穴住居跡発掘。小型丸底壺出土。

５月22日　新たに５棟の竪穴住居跡発掘。また，アカホヤ下において集石遺構検出。

６月５日　遺構実測図作成。

７月５日　全体的な遺構検出完了。石灰線引きののち写真撮影。

７月18日　ＳＣ５から夜臼系突帯文土器出土。

７月31日　土坑を中心に宮崎大学藤原宏志氏によるプラントオパール分析実施。

８月29日　近世墓検出。

９月２日　長崎大学松下孝幸氏による近世墓検出人骨取り上げ。

９月30日　ＳＣ101土師器小皿出土。墓坑か。

10月２日　柱穴群精査発掘。

10月20日　現地説明会。

10月23日　竪穴住居跡45棟を数える。

11月５日　竪穴住居跡50棟を越える。

11月25日　東端からアカホヤ下の集石遺構群の検出。

12月13日　縄文早期遺物群の面的な広がりを確認。

12月27日　平板実測。

第３節　調査の結果

検出された遺構と遺物は多種にわたる。縄文早期の集石遺構と早期土器群，縄文晩期の夜臼式系土器，弥生時代の各期の竪穴住居跡と貯蔵穴，それに伴う膨大な弥生土器群，古墳時代の竪穴住居跡と土師器，須恵器，さらに中世から近世にかけての掘立柱建物跡と陶磁器，そして近世墓などである。

1．縄文時代の遺構と遺物

31基の集石遺構と約 1,000㎡におよぶ散石が認められた（第２図）。集石遺構は主に遺跡の東端に集石してあり，その中でも台地形の縁辺よりにおおむね分布し，散石はそれらの内側に広がる傾向をみせる。そうした石のほとんどは，肉眼観察においては加火されている。その中で注目を引いたのは，南辺よりに検出された東西に並ぶＳＩ11～14の４基の集石遺構で，それぞれに集石の形状に差が認められる。それらは連続して形成されたものと見ることも出来るし，機能問題についてはしばらく保留しておくとしても，集石の形成そして廃絶の過程の各段階を示すもののようにも見ることが出来る。最も深い掘り込みをもつものはＳＩ13で55cmを計る。また，ＳＩ22・23には扁平な石の配合が認められた（図第22図）

一方，検出された縄文土器は全体的に量が少ないが，いわゆる吉田・前平式土器（第56図１～35）や貝殻文系の各種の土器（第56図36～54）が中心的で，押型文（第56図55～62）や塞ノ神式（第56図63～64）はわずかな点数が認められるだけである。

これら早期の縄文土器群の中で48・52など雲母を含む土器が注目される。

石器類では石鏃が８点ほど確認されたに過ぎない（fig.1）。

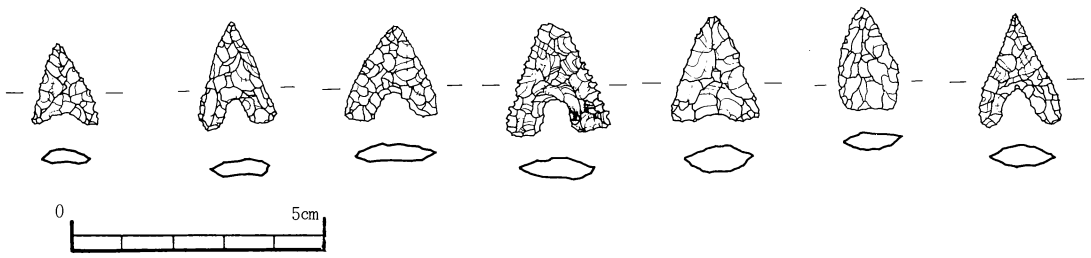


Fig. 1　打製石鏃実測図

2．弥生時代の遺構と遺物

検出された竪穴住居跡は，最終的には60棟として数えた。なお，１次調査の時点で輪郭が確認されていたもののその後の耕作深耕などにより２次調査時では確認できなかったもの，さらに厳密に重複関係から分離出来なかったものも含めると70棟を越えるものとなる。その内，弥生時代から古墳時代初頭にかけての竪穴住居跡は33棟である。

弥生時代の住居跡での確実な上限は，Ⅲ期まで遡ることができる。縄文から弥生へと繋ぐ遺物としては夜臼式系の刻目突帯文土器片（第46図 382）が確認されており，学園都市遺跡群全体のなかでの弥生文化の成立について極めて重要かつ示唆的な遺物である。しかし，それらの遺物が直接的に伴うとみられる遺構の確定は出来ない。

弥生Ⅲ期の住居跡は，13棟である。ＳＡ13・14（第７図）は直径８m 前後の円形住居跡で，学園都市遺跡群の弥生住居跡のなかでは，最も古く遡らせる事ができる。また，県内では新富町新田原遺跡で検出された住居跡と共に，典型を示す円形住居跡に数えることができる。住居のほぼ中心に長径 1.6m 程の掘り込みがあり，さらにその中に２本の主柱穴があり，壁寄りに円状に10本以上の主柱穴が巡る。

しかし，ほぼ同時期これら円形住居跡のほかにＳＡ32（第12図）・39（第13図）・42（第14図）などの方形住居跡も存在している。典型としてＳＡ55（第15図）の方形住居跡は二本の主柱穴をもつ。

これらⅢ期の住居跡の後，しばらくの空白がある。Ⅳ期の住居跡として確定できるものはＳＡ41（第14図）があるのみである。

その後，Ⅴ期にはいると間仕切り住居が登場する。ＳＡ６（第４図）・ＳＡ50（第15図）が基本プランを円形とし，ＳＡ22（第10図）・ＳＡ30（第11図）が基本プランを方形とする。また，ＳＡ54（第16図）はやや不整形の方形である。これら間仕切り住居の以外にＳＡ２（第３図）・ＳＡ９（第５図）・ＳＡ56（第４図）などの方形住居が存在する。このことは，熊野原遺跡・堂地東遺跡などとの比較の上で留意すべき問題である。

こうした住居跡のほかに本遺跡で注目されるものは，ことに遺跡の東北の区域に集中してみられる貯蔵穴である。円形に限りなく近い隅丸のプランと床面中央に柱穴をもつＳＣ12（第17図）などはその最も特徴的なものである。また，貯蔵穴が住居内に設けられたと見られるＳＡ10（第６図）・ＳＡ20（第９図）などの例もあり，これまでの他の学園都市遺跡群のなかでは検出されることのなかった貯蔵穴の存在は貴重である。

弥生土器の分類

本遺跡において弥生土器を扱うさい前期・中期・後期の呼称をとらない。佐原真氏の一連の提案を受け，Ⅰ～Ⅴ期の時期区分を採用する。また，いわゆる庄内式併行の時期をⅥ期として，甕と壺形土器の分類のみ記述する。

甕Ａ類

210の甕形土器を代表とする。口縁部およびその直下，さらに胴部に突帯をめぐらす。口縁部の突帯は風化が著しくはっきりしないが，胴部突帯には刻みが見られる。この一点だけで他に資料はないが，弥生の甕形土器の中ではⅡ期前半からの古い様相を残すものとみておきたい。

甕Ｂ類

口縁部にほぼ水平の張り出しの強い突帯をめぐらし，逆Ｌ字形の口縁を成すもので，ＳＡ39の甕形土器を中心にそのバラエティをみることができる。口縁部突帯の先端はやや窪むか沈線様を呈することもある。275，278などは，胴部最大径にかけて突帯を張り付けるタイプであるが，３条突帯がもっとも多く，大型のもので４条，通常のものでも１・２条は少ない。底部はおおむねいわゆる「充実した脚台」と呼ばれる高い柱状脚台をもつ。

基本的に上記の類と同じであるが，口縁部突帯の低く胴部突帯の見られない 277， 279や胴部に沈線をめぐらすもので141，280などがある。また，口縁突帯上面に数条単位の沈線をもつ279，373，あるいは突帯をもつ 473などもある。

これらのなかでは 279が底部から胴部下位にかけ沈線をめぐらし，特異な形状を示ている。

一方，ＳＡ１の１，３，４などは口縁突帯の充実度がなく，薄く，上記の土器群の中ではやや趣の異なる印象を受ける。

甕Ｃ類

大型のもので口縁部および胴部上位の突帯が大きくタガ状にめぐる209，214などをあげる。口縁突帯の先端は上向きである。そのなかで,403のような「く」字形に近くなるものを新しい様相とみておきたい。

甕Ｄ類

口縁が「く」字形よりＬ字形に近く屈折する211，282，354，355などをあげる。このての底部は明らかでない。時期的には幅がありそうである。

甕Ｅ類

口縁が「く」字形に外反するもので，Ⅳ期以降さらには古式土師器までの普遍的な形状を示す162，215，440，442などである。底部は平底にならずやや上げ底を呈するものをこの類とする。胴部最大径は口縁径とほぼ等しいかやや小さい。

甕Ｆ類

明瞭な頸部を形成せずに小さく上方に延びる口縁をもつ12の甕形土器をあげる。

壺A類

鋤先状の口縁をもつ突帯文の壺形土器 208である。点数はすくない。口縁上面に2個単位の円形浮文を付ける。肩部および胴最大径部に3条の突帯をめぐらす。甕A類と共に古い様相をとどめるものとして認めておきたいが，同時に口縁の内面に向けた張り出しの消滅などに新しい傾向がみられる。

壺B類

甕B類とセットを成すもので，口縁部突帯の構成は共通の意識でなりたっている。286，360は肩部に3条の突帯をめぐらす。252，372は口縁内側にも突帯をめぐらし，さらに胴最大径部よりやや上部に3条の突帯が加わる。370 は口縁部以外には突帯をもたず，頸部のなだらかな曲線を描くものである。

底部は分厚い平底である。器面調整は，基本はハケメで，その後ヘラ磨きを加えるものもみられる。

壺C類

突帯文壺のなかで口唇部に沈線がめぐり刻みをもつ 276の壺をあげる。口縁内側にも突帯をもち，胴最大径部のやや上部にある2条の突帯の上下には櫛描波状文を施文する。

また，肩部と胴部の突帯間を結ぶように斜位の5条単位の沈線文も施文されている。

壺D類

突帯文壺のうち口縁部がストレートに大きく開く類である。

壺E類

433の壺で口縁部が肥厚し頸部から胴上部にかけて櫛描の直線文と波状文が交互に施されている。

瀬戸内地方からの搬入品とみられる。

壺F類

いわゆる複合口縁壺の類で，123，124，190，404，445，447，448などをあげる。124，448 には櫛描波状文，447は波状文が途中から刺突文風に変わる。底部は基本的に平底であるが，448のように丸底化がみられるものもある。この類は，ことにⅥ期までを含む「微妙な」土器群である。

壺G類

袋状の複合口縁をもつ222をあげる。口縁端部は内傾している。

壺H類

胴最大径部に2条の突帯をもち，その間に櫛描波状文を施す薄手の20の土器である。

壺I類

167の頸部から肩部にかけて沈線文間に綾杉の沈線を施文する壺である。

壺J類

21，239のように短く外反する口縁をもつ壺である。この類には頸部に小さな穿孔が施されるものもある。

壺K類

いわゆる一般的な217，301，446 などのようなやや長めの直線的に開く口縁をもつ壺を一括したい。細かくは17，451などのような小型で球体の胴部をもつ類と446 などのような長胴の大型のものなどと分類されるであろう。

壺L類

頸部が明瞭にくびれず口縁にいたる255をあげる。

3．古墳時代の遺構と遺物

小型丸底壺およびその系統を受ける土器から6世紀代の須恵器までを摘出し，古墳時代とすることができる。ここ

では円形のプランはみられずすべて方形住居跡である。ＳＡ５（第４図）・ＳＡ15（第７図）などのように約４ｍ×４ｍの小型の住居跡とＳＡ４（第４図）・ＳＡ16（第８図）などのように約７ｍ×６ｍの大型の住居跡とがある。

土師器の分類

弥生時代終末から古墳時代にかけてしばらくの空白が生じる。小型丸底壺ないしはその系列を受けた小型壺および高坏ではいわゆるエンタシス状の脚部をもつにいたる時期から再び集落の形成が見られる。

甕形土器は，頸部の直線化（313，314，427），あるいは屈折するもの（315，316）でも口縁部が長くなり，はっきりとした弥生土器との違いを示している。また，底部では狭少化（313など)から丸底化（74，75），そして再び平底（66）の再生と変遷する。

壺形土器では，平底ないしは丸底化した底部に球体の胴部をもち，小さな頸部と口縁をもつもの（319，321）が主体となる。

高坏形土器では，坏底部と口縁との屈折が明瞭になり，口縁部が大きく外反するもの（428），深く立ち上がるやや小型のもの（326，329），いわゆる「エンタシス」状の脚部をもつもの（273，428），湾曲した坏部（263)をもつものとがある。

坏形土器では，須恵器の影響を受けた蓋坏（229，230など）が目立ち，椀のバラエティ（ＳＡ４の各種）を産みだす。

４．中世の遺構と遺物

検出された主な掘立柱建物跡は51棟を数える。分布の場所は，東北の区域，北側中央の区域，そして西南の区域に集中する。また，これらの遺構は東に所在する今江城（仮称）との関連も考えられるものである。

建物の形態は，桁行３間×梁行１間（21棟），３間×２間（11棟），２間×１間（６棟）が比較的平均的な規模を持つ構造の建物とする事ができる。そのほか桁行４間もので，梁行１～３間のバラエティが存在する建物が見られるが数は少ない。特殊な建物として注目されるものは，柱間寸法は２ｍと平均寸法ながら８間（15.5ｍ）×１間（3.9ｍ）の長大な建物，３間×２間の総柱建物，６間×４間の寄せ棟造り建物，６間×１間に南北の二面庇の切り妻造り建物などである。

また，庇付きの建物は西南区に限られる点が注目される。

柱間寸法については，標準的な寸法は２ｍで，ＳＢ１・４・６・９～11・19・25など半数が採用している。逆に特殊例と考えられるのは，ＳＢ18・31の二棟に採用された柱間 1.3m であろう。また，柱間２ｍに対しばらつきがみられるのが特徴といえるが，1.5m の柱間寸法が10数棟に採用されている。

出土した土器は，土師器の系統を受ける素焼きの坏と小皿がある。底部切り離しの技法はヘラ切りと糸切りの両者がみられる。その他，玉縁をもつ白磁椀，常滑の大甕，須恵質の片口鉢などがある。

さらに，近世墓がただ２基だけ検出され，そのうちの１基からは盃と銅銭さらに棺材とみられる木片と銅片が遺存度の悪い人骨とともに出土している。

第４節　まとめ　―弥生土器のⅢ期編年を中心に―

前原北遺跡は，地形的な制約の上から見ても，完結した各々の時期の人間の生活単位，つまりは単位的な集落を割りだすことの出来る貴重な遺跡となった。ただ，発掘調査においても本報告の整理調査にしても，諸般の事情から不十分な心残りの多いものとなった。その責はいずれ補わなければならないとして，現時点でのまとめをしておきたい。

旧石器時代に関する追及は不十分なものとなったが，縄文時代早期の遺構・遺物を検出することができた。集石遺構がおおむね台地の縁辺にそって分布するのは，この時期の必然的なそして普遍的な人間の動きを想定させる。それに対して，遺物の分布は集石遺構の分布の内側にみられ，明確な住居跡の検出はなかったが居住の範囲をうかがうことが出来る。なお，集石遺構の同時存在を確定するため熱ルミネッセンス法による年代測定を計画しているが，ここに間に合わすことができなかった(1)。

縄文土器の中心は貝殻文系土器であった。いわゆる吉田・前平式土器については現在概念の混乱が見られる(2)が，その混乱を収拾しうる資料に欠けるため，ここでは一括した取り扱いをした。

石器では石鏃の出土のほか，チャートを中心とした剝片の散布がみられているが，十分な検討が行えないためここでは保留しておきたい。

縄文時代晩期後半の刻目突帯文土器は，夜臼Ⅱ式(3)に併行させうるものである。学園都市の遺跡群の中では平畑遺跡(4)での出土例があるが，いずれも該当する生活遺構を確定することができない。

こうした縄文時代の終わりから弥生時代の開始期は学園都市の台地上では不明であるが，台地下の沖積平野の微高地において検出される可能性は大きいであろう。

前原北遺跡に刻まれた弥生の生活が，学園都市遺跡群の中での弥生時代の始まりである。そして，出土した土器群は宮崎県内においてこれまで不明であったⅢ期の時期を埋める好資料となった。全体的な弥生土器の編年は，大筋で石川悦雄氏の編年(5)を参考に，後期以降土師器にいたるものについては長津宗重氏が細分を試みた編年(6)をも参考に記述を進めたい。

Ⅲ期に編年した前原北Ⅰ式には，Ⅱ期の影響下にあるものもみられ，二期に細分される可能性があるが，ここでは敢えての分離は試みず可能性の指摘にとどめておく。甕B類とした3・4の甕の口縁部の突帯はまだ小さく，Ⅱb期の鐙式に近いものであろう。また，208・209・210は一括として扱い，特徴的にみられる古い様相から分離されると考えたが，また逆には新しい要素もみとめられる点もあり，他に類例がなく「類」として成立しうるかの確定が本遺跡では出来ない以上Ⅲ期の大枠として捉えておきたい。したがって，Ⅲ期の後半に下がることもある。壺A類とした208・甕A類とした210の壺・甕における古い様相は，壺では胴部から頸部にかけての屈折したプロポーションと鋤先状の口縁に認め，甕では口縁直下と胴部の下にさがった突帯などに認められよう。

これまでの空白を埋めるⅢ期の特徴は，やや大型化した口縁部の突帯にあり，壺・甕ともB類として分類したが，共通の意識で作成される。ＳＡ39出土の資料が鉢形土器を含む一括の良好な資料である。275は大型の甕であるが，278の小型の甕と比べると，底部が低く，これは大型であることからする結果であろうか。基本的な甕の底部はいわゆる「充実した脚台」と呼ばれる柱状脚台である。口縁部突帯はⅡ期のものに比べると格段に大型化するが，ＳＡ39に見るように，口縁突帯の断面形状には微妙な差異も存在する。277はことに突帯の突出が低く扁平な印象を与え，281は口縁内面が丸く全体に丸い印象を持つ。280の口縁突帯は先端の窪みが沈線化している。これらに時期差を認めるかは今後の該当期の資料の増加に待つしかないであろう。器面調整はハケメが主体で一部にヘラ磨きを併用するものもある。

一方B類とした壺形土器では，口縁部形状に二種の傾向が見られる。一つは286・360などを代表とするもので，いま一つは252・372などを代表とするものである。前者の口縁突帯はほぼ水平に延び，先細りとなる。後者の口縁は先端が下向きとなり，先端まで厚みもほぼ変わらない。後者には内面にも突帯が張り付けられる。また，前者は肩部に3条の突帯を持つのみで，後者が胴最大径部のやや上部にも3条の突帯を張り付けるのは，規格的な違いと認定できる可能性がある。器面調整は甕とほぼ同じであるが，ヘラ磨きの度合いが多くなる。

この時期，壺では他に特徴的な幾つかの種類を確認できる。壺Ⅰ類とした167，壺C類とした276，壺E類とした433

		甕　形　土　器	壷　形　土　器	鉢・高坏・器台形土器
Ⅲ期	前原北Ⅰ式	3, 4, 214, 210, 275, 278, 279, 280, 281, 354	208, 167, 252, 276, 286, 360, 370	203, 169, 171, 433, 283, 251
Ⅳ期	前原北Ⅱ式 a	294, 411		405, 417, 296
	前原北Ⅱ式 b		222	220, 218, 418, 219, 221
Ⅴ期	前原北Ⅲ式 a	442, 440, 443, 441	445, 447, 446, 448, 451, 450, 449	454, 452, 435, 453, 426, 455, 399
	前原北Ⅳ式 b	122	190, 124, 20	23, 189, 25, 125, 18, 22, 193
Ⅵ期	前原北Ⅴ式	461, 419, 464, 460	0　20cm	471, 468, 469

Fig.2　前原北遺跡弥生土器編年案

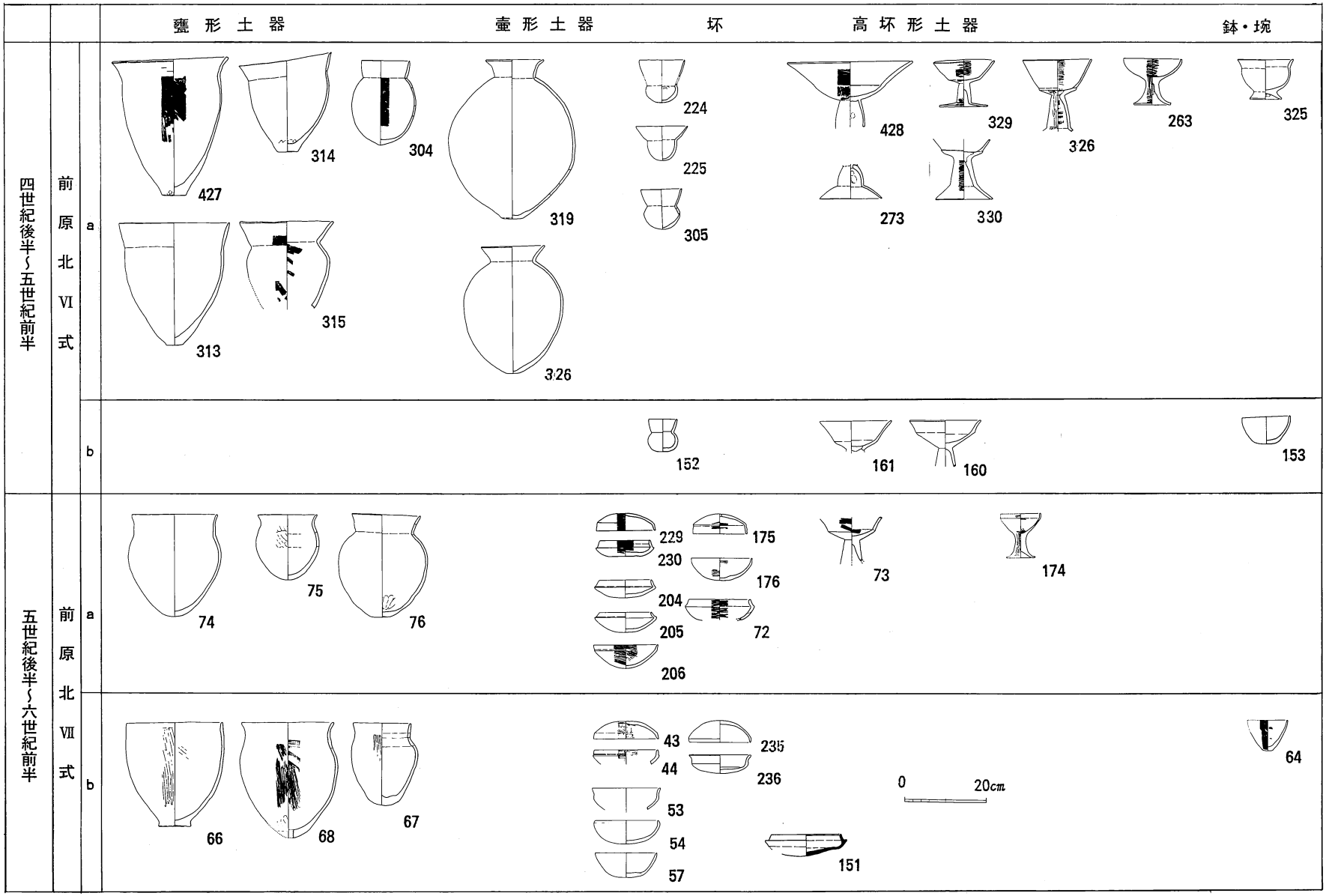


Fig.3　前原北遺跡土師器編年案

である。167の頸部の綾杉状の文様帯はⅠ期からみられるものであるが，ここでは沈線間に交互に斜めの沈線を施しており，その系譜を検討する必要がある。276は特徴的な口縁を形成するが，本遺跡では数は多くない。胴部突帯の上下に見られる櫛描波状文と斜めの沈線文が注目される。 433は肥厚化した口縁に櫛描の直線文と波状文を施す。瀬戸内地方からの搬入品であろう。

この時期の高坏としては，坏部と脚部の境に突帯をもつ169をあげておく。

こうしたⅢ期の後，集落の形成には空白が生じる。

前原北Ⅱ式としたものは，Ⅳb 期に相当するものである。411の甕が代表で，「く」字形の口縁のやや下方に三角突帯を一条もつ。高坏として，坏底部から口縁にかけて湾曲する 296をあげておく。Ⅱ式をa ・b に分けたが，鉢形土器の形式的な変遷を考慮した結果であり，222の複合口縁壺などはⅢ式に近いものであろう。

前原北Ⅲ式を，Va 期を構成するものとしたい。特徴的には壺Ｆ類とした複合口縁壺の細分を基準にＶ期をａ・ｂに分離した。前原北Ⅲ式の一括資料はＳＣ38にみられる。複合口縁壺には大型の 445と小型の447・448がある。複合部はやや長めに内傾し，底部は平底である。448は球体の胴部をもち，丸底で新しい様相を感じ させるが，厳密にはまだ微かに平底を残している。複合口縁壺以外では，壺Ｋ類とした一般的な壺があるが，これにも大型の446・449と小型の 451 がある。大型のものは明瞭な平底をなす。これら壺形土器の器面調整は，基本的にハケメで一部のものにヘラ磨きの併用が見られる。

Ⅴb 期の前原北Ⅳ式は，124・190の壺を特徴とする。複合部がやや直立ぎみに立ち上がるか，あるいは複合部が小さくなる傾向を認める。

Ⅲ式とⅣ式の高坏は，坏底部と口縁部の屈折から口縁部の外反化として捉えることができる。

これら前原北Ⅱ式からⅣ式にかけて，ほかに変遷の追えるものとして明瞭に屈折した口縁をもつ浅鉢形土器を上げることができる。Ⅱ式では 405があり，やや器高は高く，口縁部の延びも小さい。Ⅲ式では219・220があり，やや口縁部の延びが大きくなる。Ⅳ式ではＳＣ38の一括資料の452～454があり，口縁の延びと共に大きく外反するようになる。底部は小さな平底か丸底である。

これに対し，甕形土器はⅢ式とⅣ式，さらには次のⅤ式までの間に大きな違いは認められない。おおむね器面の調整に明瞭なハケメを多用している。また，底部はつまみ調整のやや上げ底を成すものが基本である。その中で，器高のやや低い443・122・464と系譜する甕が存在する。

前原北Ⅴ式は 469の内湾ぎみの口縁をもつ壺形土器を特徴とする。Ⅵ期とするが，古式土師器との認定が成り立つかもしれない。

古墳時代に入る土師器は，実年代としては４世紀後半から５世紀前半，５世紀後半から６世紀前半の二期を与えることができるものである。前原北Ⅵa 式は，224・305などの小型丸底壺，および326・327などの坏底部と口縁部が稜をなし深い坏部の高坏と273・428などのエンタシス状の脚部をもつ高坏を基準とする。一括資料としてはＳＡ49があげられる。これには一部古い要素と新しい要素が窺える資料が含まれるが，学園都市遺跡群の中では熊野原Ｃ遺跡[7]や陣ノ内遺跡[8]などの時期に幾分後出する時期を考え，高坏のうち坏部が外反する159～161をⅥb 式として分離した。

甕形土器には，破片としてしか刻目突帯をもつ甕はみられず，頸部のくびれが間延びし，また屈折するものでも口縁が長く延びた甕が主体となるのが前原北の大きな特徴である。底部はおおむね平底で小さくなる傾向を認め，全体的に弥生土器からの隔絶を示す。

前原北Ⅶ式は，須恵器の蓋坏を模した土師器の登場で区画される。須恵器のⅠ～Ⅱ期に近い土師器蓋坏をⅦa 式とし，蓋坏の他椀形へのバラエティの生じるものをⅦb 式として分離した。

甕形土器は，Ⅶａ式では丸底が定着しているが，Ⅶｂ式では安定した平底が再び登場する。その後平底も一般化し

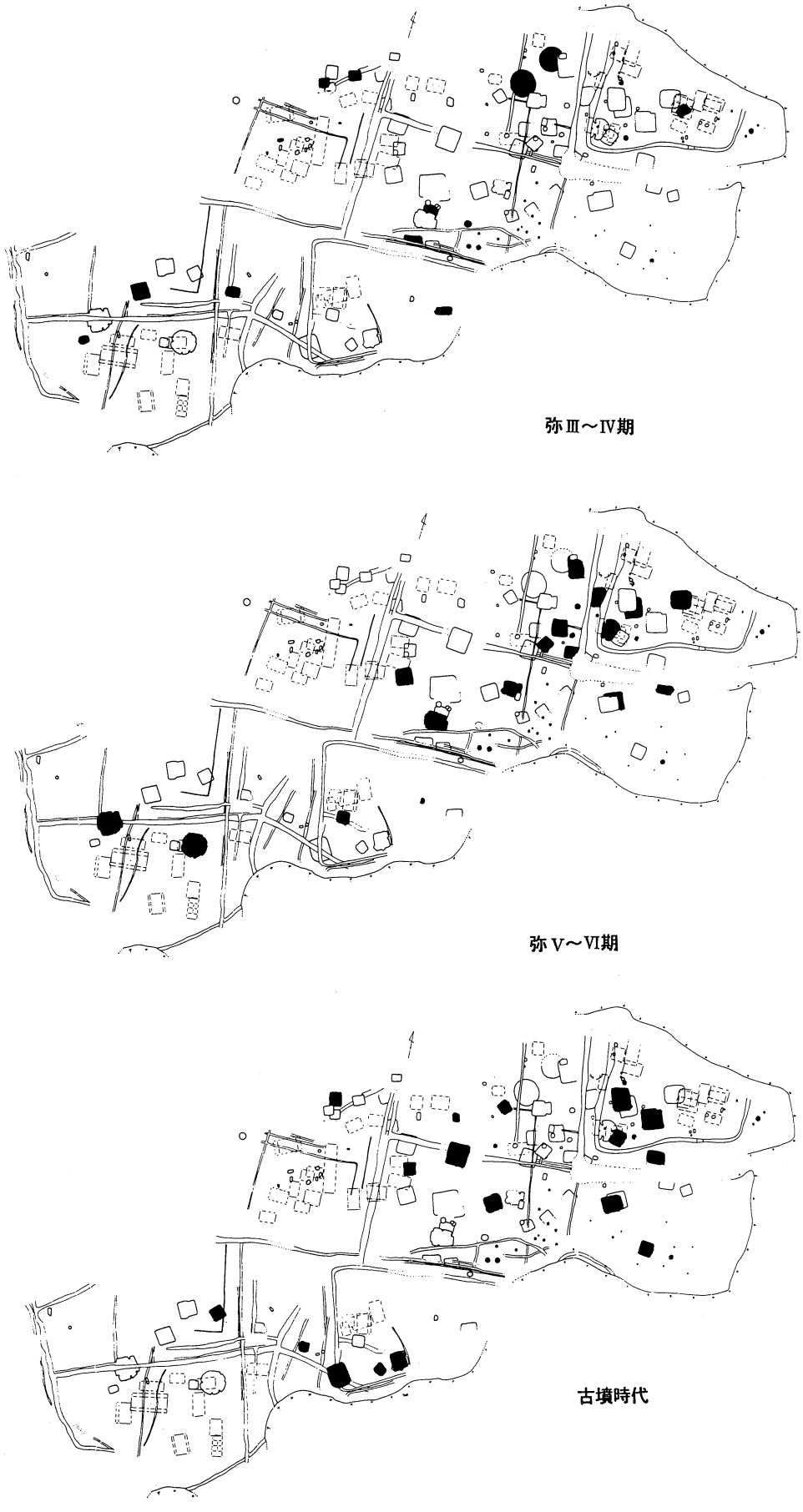


Fig.4　前原北遺跡集落の変遷

てゆく。Ⅶb期の年代を決定する資料はＳＡ15の須恵器坏身に求めることが出来る。内面に残された同心円叩き，立ち上がりの端部の内傾する段などからすれば陶邑編年[9]でのⅡ型式１段階に当たり，下るとしても６世紀前半に留まる資料である。

以上の土器編年をもとに，竪穴住居跡から構成される集落の変遷を素描してみたい。

Ⅲ期に開始される生活は，ＳＡ13・14の位置関係からいえば，二棟が同時に存在していた可能性は薄く，二世代にわたることが考えられる。そのような目からみれば，多量のⅠ式土器を出土した住居跡としてはＳＡ39・53の二棟があり，ＳＡ53はむしろ大型の土坑とすべきかもしれないが，ＳＡ39は４×３m の小規模な住居跡である。こうした小規模な住居は他にＳＡ48・55など全体で７棟ある。従って，一時期における集落は円形大型住居１棟と小規模な方形住居３棟ほどで構成されたとみることができる。この時期にみられる土坑は，不整方形ないし楕円形のものであるが，性格の認定はしがたい。

Ⅳ期の住居としてはＳＡ41をあげるに過ぎないが，確実な時期決定の資料を欠く住居の中に何棟かが存在すると想定しても，集落の衰退は歴然としている。この該当期に堂地東遺跡にまとまった集落が形成されている。これを前原北集団の移動と見るか否かが問題となるが，土器群の主体を担う系統に大きな変化を指摘することができる。土器群の変化を宮崎平野部の普遍的な変化と見得るか否かが問題の鍵となろう。

Ⅴ～Ⅵ期は間仕切り住居の時期である。しかし，堂地東遺跡，熊野原遺跡が間仕切り住居中心であるのに対して，同時に方形住居が相半ばして存在する違いは注目される。このことも，前に述べた集団の系統の問題と絡んでこよう。住居は台地の東北部と西南部に分かれる傾向がみられる。円形プランを基本とする間仕切り住居はＳＡ６・50の２棟，方形プランを基本とする間仕切り住居がＳＡ22・30の２棟，不整方形がＳＡ54の１棟である。こうして見てゆくと，Ⅲ期の集落とさほどの規模の変化はなく，おのおの１棟の円形間仕切りと方形間仕切り，それに通有の方形住居が数棟組合う集落が想定されるであろう。

古墳時代に入ると間仕切り住居は姿を消し，規格的な二種類の住居で集落が成り立つようになる。一つは４×４m，いま一つは７×６m の規模である。

ここでもまた集落の規模に大きな変化はない。

むしろ集落が拠点的な様相を持つのは，鎌倉から室町にかけての掘立柱建物の時期になる。それは，単に生活の拠点としてではなく，今江城（仮称）との関係も含め，政治的・軍事的拠点としての時代の要請に対応しての事であった。溝の時期を決定する資料に欠けたが，東北部を区画する溝は，南辺に陸橋部を持つもので，その内側に配置されるＳＢ１～14のうちの数棟の掘立柱建物と関連した可能性があり，中世の居館の在り方をしめす一つとみることができよう。

（北郷　泰道）

註1) 北郷泰道「考古学は自然科学のために何をしたか」『日本文化財科学会会報』第14号　日本文化財科学会　1987年
熱ルミネッセンス法年代測定の狙いについて参照されたい。

(2) 本田道輝「縄文時代」『鹿児島考古』第20号　鹿児島考古学会　1986年

(3) 山崎純男「弥生文化成立期における土器の編年的研究」『鏡山猛先生古希記念古文化論攻』　1980年

(4) 菅付和樹ほか「平畑遺跡」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第２集　宮崎県教育委員会　1985年

(5) 石川悦雄「宮崎平野における弥生土器編年試案一素描（Ｍｋ．Ⅱ）」『宮崎考古』第９号　宮崎考古学会　1984年

(6) 長津宗重「弥生時代後期～古墳時代初頭の土器編年表」『国富町文化財調査資料』第４集　国富町教育委員会　1985年

(7) 面高哲郎「熊野原遺跡Ｃ地区の調査」　註(4)に同じ

(8) 本報告書

(9) 中村　浩『和泉陶邑窯の研究』　1981年

表1　集石遺構一覧表

項目番号	大きさ 径、深さ	掘り込みの有無	集石の疎密	焼石の大きさ	円・角礫の違い	配石の有無	焼土の有無	炭化物の有無	タールの有無	遺物混入の有無	備考
1	70×60, 0	なし	疎	10～18	角多	なし	なし	なし	なし	なし	
2	95×80, 0	薄い	やや密	5～14	円多	なし	なし	少量	有り	なし	
3	130×100, 0	なし	やや密	5～16	角多	なし	なし	なし	なし	なし	円礫が砕片化している
4	210×200, 34	有り	密	5～16	小角多	有り	なし	なし	なし	なし	石は著しく赤化
5	70×50, 15	有り	密	10～18	円	有り	なし	なし	少量	なし	
6	120×100, 20	有り	やや密	5～15	円	有り	なし	有り	有り	なし	
7	100×90, 0	なし	疎	10～16	角多	なし	なし	少量	少量	なし	
8	100×90, 10	薄い	密	4～10	円多	なし	なし	なし	少量	なし	
9	120×90, 0	なし	やや密	5～19	角多	なし	なし	なし	少量	なし	
10	70×70, 10	有り	密	8～10	角	なし	なし	なし	なし	有り	
11	85×60, 12	有り	疎	5～12	円・角	なし	なし	有り	有り	なし	
12	130×90, 10	薄い	密	4～12	円・角	なし	なし	なし	少量	なし	
13	120×115, 55	有り	やや密	6～21	角多	有り	なし	なし	有り	有り	条痕文
14	125×110	——	密	6～12	小円多	有り	なし	なし	少量	なし	
15	50×50, 35	有り	疎	4～16	角多	なし	なし	なし	有り	有り	条痕文
16	85×75, 0	有り	密	8～19	円	なし	なし	なし	なし	なし	
17	100×85, 17	有り	疎	5～12	小円	なし	なし	有り	有り	なし	
18	210×130, 28	有り	やや密	4～23	大円	有り	なし	有り	少量	なし	
19	210×120, 25	有り	やや密	3～10	角多	有り	なし	なし	少量	なし	
20	175×170, 0	なし	密	3～16	角多	有り	なし	なし	少量	なし	
21	70×40, 0	なし	密	5～21	円	なし	なし	なし	少量	なし	
22	180×160, 30	有り	密	3～18	円	有り	なし	有り	少量	なし	
23	90×90, 10	有り	密	5～15	角多	なし	なし	なし	有り	なし	
24	90×75, 0	なし	疎	5～13	角多	なし	なし	有り	少量	有り	凹み石
25	90×90, 0	なし	疎	5～14	角	なし	なし	なし	少量	なし	
26	105×100, 25	有り	密	6～14	角	なし	なし	有り	なし	なし	
27	95×80, 13	有り	密	8～17	円	有り	なし	なし	有り	なし	
28	90×90, 18	有り	密	8～17	円	有り	なし	なし	有り	なし	
29	86×70, 0	なし	密	12～20	円	なし	なし	有り	少量	なし	
30	100×100, 23	有り	やや密	8～17	角多	有り	なし	有り	なし	なし	
31	65×50	——	密	6～16	角多	有り	なし	なし	なし	なし	

表２　竪穴住居跡一覧表

住居番号	平面形	柱数（主柱）	規模 長軸×短軸(m)	規模 床面積(㎡)	住居内施設	出土遺物	備考
ＳＡ１	－	－	－	－		甕・石皿	
〃 2	隅丸方形	(4)	6.7×6.3	34		甕・壺・鉢・高坏・磨石・叩石	
〃 3	方　形	(4)	7.7×7.4	57	北・西辺の一部やや高くなる	甕・小型丸底壺・鉢・磨石	
〃 4	〃		7.1×5.7	35		甕・坏身・坏蓋・鉢	ＳＡ56と切り合い
〃 5	〃	(2)	4.4×4.0	17		甕・坏身・高坏	ＳＡ６と切り合い
〃 6	円　形		径6.8	34	４方間仕切り住居	甕・壺	ＳＡ５と切り合い
〃 7	?	(2)	5.7×－	－	中央２本主柱	甕・壺・高坏・ミニチュア・叩石	焼土面
〃 8	方　形	(2)	6.2×5.8	35		脚台付小形丸底壺・高坏	ＳＡ13と切り合い
〃 9	〃	(2)	4.9×4.7	23	屋内貯蔵穴	甕・鉢・ミニチュア・壺	焼土面
〃 10	〃	(2)	4.3×3.8	16	屋内貯蔵穴	甕・壺・鉢・軽石製品・凹石	ＳＡ57と切り合い
〃 11	〃	(2)	4.4×－	－		－	
〃 12	不整方形	(4)	6.6×－	－		甕・壺・ミニチュア	ＳＡ14と切り合い
〃 13	円　形	(12～)	(径7.8)	48	中央２本主柱	甕・壺	ＳＡ８と切り合い
〃 14	〃	(17)	径8.6	58	〃	甕・凹石	炭化材，ＳＡ12と切り合い
〃 15	方　形	(2)	3.3×3.6	13	周壁溝	甕・須恵器坏身	
〃 16	〃	(8)	7.0×6.4	44	中央２本主柱	甕・壺・高坏・小型丸底壺・鉢	
〃 17	隅丸方形	(4)	6.0×－	－	中央凹穴 ４周が２段に高くなる	甕・壺・高坏・鉢・脚台付鉢・石庖丁	
〃 18	方　形	(4)	4.6×4.6	20		甕・壺・高坏・坏身・坏蓋	
〃 19	〃	(2)	4.2×4.0	17	周壁溝２辺に残る	壺・高坏・須恵器甕・石鏃	
〃 20	〃	－	5.7×5.5	30	屋内貯蔵穴	甕・壺・鉄製鋤鍬先	
〃 21	〃	－	(5.8×－)	－		甕・壺・凹叩石	２棟以上の切り合いか
〃 22	〃	(2)	5.6×4.1	22	４方間仕切り住居 中央凹穴	甕・壺・凹石・砥石・石鏃	３土坑と切り合い
〃 23	〃	(2)	3.1×－	－		甕・坏身・坏蓋	
〃 24	〃	(4)	3.7×－	－		－	
〃 25	〃	(2)	3.8×－	－		甕・壺・浅鉢	焼土面
〃 26	〃	(2)	5.4×4.6	24		甕・小型丸底壺・高坏	ＳＡ60と切り合い
〃 27	〃	(2)	3.6×3.4	12		軽石製品・凹叩石	
〃 28	〃	(4)	4.5×4.3	19		甕・坏身・坏蓋	
〃 29	〃	(2)	5.7×－	－		甕・壺・坏身・坏蓋	
〃 30	〃	1～	5.9×5.7	33	２方間仕切り住居	甕・壺	ＳＡ52と切り合い ３棟以上が重複の可能性
〃 31	方　形	－	－×－	－		－	
〃 32	〃	(2)	5.7×－	－	中央凹穴	甕・壺・高坏	
〃 33	(円形)	－	－×－	－		甕・壺・浅鉢	
〃 34	(〃)	－	－×－	－		壺	
〃 35	方　形	(2)	3.7×3.4	12		甕・高坏	
〃 36	不整方形	(2)	5.2×4.8	(24)	周壁溝	甕・小型丸底壺	焼土面、炭化材
〃 37	〃	－	3.7×3.2	11		甕	焼土面
〃 38	方　形	－	7.2×6.1	43		甕・壺・高坏	
〃 39	〃	(2)	3.9×3.0	11		甕・壺・浅鉢・器台	
〃 40	〃	(4)	4.9×4.3	21	周壁溝	甕・鉢・高坏・器台	
〃 41	〃	(2)	4.7×4.0	18	〃	甕・壺・高坏	焼土面
〃 42	〃	(2)	5.7×5.0	28	中央２本主柱	甕	
〃 43	梯　形	－	3.0×2.9	8		甕	
〃 44	方　形	－	3.7×3.5	12		壺・鉢	
〃 45	〃	－	3.0×2.8	8		壺・小型丸底壺	
〃 46	〃	2～	4.6×3.7	17		甕	焼土面

住居番号	平面形	柱数(主柱)	規模		住居内施設	出土遺物	備考
			長軸×短軸(m)	床面積(㎡)			
SA47	方形	—	—×—	—		壺・高坏	
〃 48	〃	—	4.1×3.3	13		甕	
〃 49	〃	(2)	5.4×4.8	25	周壁溝	甕・壺・脚台付鉢・高坏・ミニチュア壺・凹石	焼土面 SA58・59と切り合い
〃 50	円形	5～	径8.0	46	5方間仕切り住居 中央に凹穴	甕・壺・鉢・高坏	焼土面
〃 51	方形	(2)	3.8×3.6	13		甕	
〃 52	〃	—	4.6×—	—		甕	SA30と切り合い
〃 53	〃	—	3.7×2.3	8		甕・壺	
〃 54	不整方形	—	7.3×—	—	4方間仕切り住居	甕	
〃 55	方形	(2)	4.7×3.5	16	中央凹穴	甕・壺	
〃 56	〃		6.3×6.1	38		甕・壺・叩石	SA4と切り合い
〃 57	〃	(4)	5.6×4.9	27		高坏	SA10と切り合い
〃 58	〃	—	7.5×5.6	40		甕	SA49・59と切り合い
〃 59	〃	—	7.6×6.4	48		—	SA49・58と切り合い
〃 60	〃	(4)	5.6×5.5	30		甕	SA26と切り合い

表3　土坑一覧表

土坑番号	プラン	規模	内部施設	出土遺物	備考
		長軸×短軸×深さ(m)			
SC1	不整方形	2.38×2.17×0.09		甕・ミニチュア壺	
〃 2	円形	1.20×1.17×0.68		壺・高坏	貯蔵穴
〃 3	〃	1.28×1.08×0.30			〃
〃 4	〃	1.09×1.00×0.38			〃
〃 5	〃	1.38×1.15×0.14		刻目突帯文	〃，突帯文は流れ込みか
〃 6	方形	1.05×0.92×0.09			
〃 7	楕円形	3.06×2.28×0.14			
〃 8	円形	0.75×0.69×0.40		石庖丁	
〃 9	〃	1.65×1.53×0.11			
〃 10	〃	1.04×1.00×0.39		壺	
〃 11	〃	1.21×1.20×0.43		甕・鉢・小型鉢・器台	
〃 12	隅丸方形	1.59×1.45×1.15	中央ピット，周壁溝	甕・高坏	
〃 13	円形	2.08×1.87×0.62	周壁溝	甕・器台	
〃 14	長楕円形	2.23×1.48×0.47		壺	
〃 15	円形	1.62×1.61×0.43			
〃 16	〃	1.23×1.18×0.95	中央ピット	甕	
〃 17	不整円形	0.89×0.40×0.26			
〃 18	〃	1.54×1.41×0.26			
〃 19	〃	1.20×1.14×0.17			
〃 20	楕円形	2.17×1.82×0.63		甕・壺・鉢	
〃 21	長方形	2.55×1.31×0.60		甕・壺	
〃 22	不整形	2.08×1.46×0.09		甕・壺・鉢・高坏	
〃 23	円形	1.36×1.27×0.54			
〃 24	不整形	1.56×—×0.05		凹石	
〃 25	〃	1.11×0.98×0.24			
〃 26	不整楕円形	1.84×1.29×0.30		甕	
〃 27	〃	0.97×0.85×0.20			
〃 28	不整方形	1.51×0.68×0.09		甕・ミニチュア壺	

土坑番号	プラン	規模 長軸×短軸×深さ(m)	内部施設	出土遺物	備考
SC29	円形袋状ピット	上面0.96×0.95 底面1.24×1.15×1.01		甕	貯蔵穴
〃 30	方形	1.50×0.98×0.17		甕・壺	
〃 31	円形	0.94×0.87×0.05			
〃 32	円形	1.15×1.05×0.25			
〃 33	〃	1.49×1.43×0.49	中央ピット		
〃 34	長楕円形	1.67×0.88×1.06			
〃 35	円形	1.11×1.09×0.97	中央ピット，周壁溝	甕・壺・高坏	
〃 36	〃	1.88× — ×0.50	中央ピット	甕	
〃 37	不整方形	2.13×1.56×0.13		甕・壺	
〃 38	円形	1.76×1.53×0.64		甕・壺・浅鉢・高坏・器台	SA30と切り合い
〃 39	〃	1.30×1.11×0.68	中央ピット	甕・壺・鉢・高坏・ミニチュア	
〃 40	長楕円形	1.99×0.86×0.28		甕	

表4　堀立柱建物一覧表

建物番号	柱間 桁行×梁行	桁行(m)	梁行(m)	柱間付法(m) 桁行	柱間付法(m) 梁行	主軸方向	備考
SB1	3間×1間	6.0	3.9	2.0	3.9	N−84°−W	
〃 2	〃	5.4	3.5	1.8	3.5	N−88°−W	
〃 3	〃	6.0	3.5	2.0	3.5	N− 2°−E	
〃 4	〃	6.0	3.8	2.0	3.8	N− 1°−W	
〃 5	〃	6.0	4.3	2.3	4.3	N−85°−W	
〃 6	3間×2間	6.6	4.2	2.0	2.0	N−86°−W	
〃 7	〃	5.0	3.0	1.6	1.5	N−82°−W	
〃 8	3間×1間	6.5	3.2	1.8	1.6	N−80°−W	
〃 9	(4間)×2間	(6.0)	4.1	2.0	2.0	N− 3°−E	
〃 10	3間×1間	6.0	4.0	2.0	4.0	N−85°−W	
〃 11	3間×2間	5.8	4.0	1.9	2.0	N− 3°−E	
〃 12	3間×1間	4.9	3.0	1.5	3.0	N− 3°−E	
〃 13	3間×1間						
〃 14	2間×1間	3.4	3.0	1.7	3.0	N− 2°−E	
〃 15	〃						
〃 16	〃	4.2	3.6	2.1	(1.6) (2.0)	N− 9°−W	
〃 17	〃	3.6	3.0	1.8	1.5	N−78°−E	妻側の柱がやや外へ出る
〃 18	4間×3間	5.2	3.9	1.3	1.3	N−77°−E	
〃 19	3間×2間	5.8		1.9	2.2	N−85°−E	総柱
〃 20	2間×2間						
〃 21	3間×2間		4.0		2.0	N−87°−E	
〃 22	〃	4.8	3.6	1.6	1.8	N−57°−E	
〃 23	3間×1間		3.6	1.9	3.6	N−81°−E	
〃 24	4間×1間						
〃 25	3間×1間	5.7	4.0	1.9	4.0	N−11°−W	
〃 26	〃	6.0	4.0	2.0	4.0	N−84°−E	
〃 27	〃	6.6	3.8	2.2	3.8	N−12°−W	
〃 28	8間×1間	15.5	3.9	1.9	3.9	N− 5°−W	
〃 29	3間×1間	5.4	4.2	1.8	4.2	N−90°−E	
〃 30	〃	5.1		(1.5) (2.0)		N−88°−E	

建物番号	柱間 桁行×梁行	桁行(m)	梁行(m)	柱間寸法(m)		主軸方向	備考
				桁行	梁行		
SB31	5間×3間	6.0	4.0	1.2	(1.2) (1.5)	N−83°−W	
〃 32	3間×1間	4.5	3.0	1.5	3.0	N−3°−E	
〃 33	〃	5.7	3.8	1.9	3.8	N−85°−E	
〃 34	〃	4.5	3.5	1.5	3.5	N−87°−W	
〃 35	6間×4間	8.5	4.5	1.4	1.1	N−68°−E	寄棟
〃 36	3間×1間	5.1	3.3	1.7	3.3	N−88°−W	
〃 37	3間×2間	6.3	3.4	2.1	1.7	N−10°−W	東庇,庇出0.8柱間
〃 38	〃	6.0	4.0	2.0	2.0	N−63°−E	
〃 39	2間×1間	3.8	3.8	1.9	3.8	N−80°−E	
〃 40	〃	4.0	2.8	2.0	2.8	N−28°−W	
〃 41	3間×2間	6.9	4.0	2.3	2.0	N−24°−W	
〃 42	4間×1間	8.0	4.0	2.0	4.0	N−10°−W	
〃 43	3間×2間	6.0	3.6	2.0	1.8	N−78°−E	
〃 44	3間×1間	4.5	3.8	1.5	3.8	N−10°−W	
〃 45	4間×2間	6.8	3.4	1.7	1.7	N−6°−W	総柱
〃 46	3間×1間	6.0	3.8	2.0	3.8	N−7°−W	東西庇,庇出0.8
〃 47	5間×1間	9.0	2.8	1.4	2.8	N−82°−E	
〃 48	6間×1間	11.0	3.4	(1.8) (2.0)	1.7	N−87°−E	南北庇,庇出1.0
〃 49	4間×1間	6.8	4.0	1.7	4.0	N−8°−W	西庇,庇出0.8
〃 50	3間×1間	6.9	3.5	2.3	3.5	N−86°−E	
〃 51	3間×2間	6.0	3.8	2.0	1.9		

表5　石器一覧表

図面番号	遺物番号	遺構名	種類	大きさ			備考
				長軸	短軸	厚さ	
	1	SA1	石皿	19.9	16.6	10.2	
	2	〃	石皿	23.4	(15.3)	3.4	
	3	〃	石皿	(18.3)	(14.7)	6.0	
	4	SA2	磨石	6.3	6.1	3.6	
	5	〃	叩石	37.9	14.8	11.1	
	6	SA3	磨石	15.4	9.5	2.9	
	7	SA56	叩石	19.7	10.8	5.6	
	8	SA7	叩石	8.1	4.1	2.0	
	9	SA10	軽石製品	6.7	3.8	1.1	
	10	〃	凹石	12.8	9.8	5.1	片面凹
	11	SA14	凹石	35.9	(22.0)	8.7	
	12	SA19	磨製石鏃	3.6	1.3	0.3	
	13	SA21		17.0	10.6	6.5	
	14	〃		19.7	13.8	7.8	
	15	〃	凹叩石	20.4	7.1	5.1	片面凹
	16	SA22	凹石	9.5	(7.6)	5.6	両面凹
	17	〃	凹石	9.0	(4.7)	5.1	〃
	18	〃	砥石	(5.4)	3.7	0.8	
	19	SA22 SC1	凹石	(7.6)	7.8	4.4	両面凹
	20	〃	凹石	8.2	5.3	3.8	
	21	〃	磨石	(10.0)	5.7	4.6	

図面番号	遺物番号	遺構名	種類	大きさ			備考
				長軸	短軸	厚さ	
	22	SA22 SC1	凹石	12.7	10.1	4.5	両面凹
	23	〃	凹石	9.2	8.4	4.5	〃
	24	〃	凹石	10.9	(7.1)	4.4	〃
	25	〃	叩石	12.7	6.0	5.0	
	26	SA22 SC2	凹叩石	(11.7)	(8.1)	(6.7)	
	27	〃	打製石鏃	1.7	1.2	0.3	
	28	SA22 SC3	凹石	12.7	8.0	3.6	
	29	〃	磨製石鏃	4.6	2.4	0.5	
	30	SA26	凹石	10.6	(8.2)	2.8	両面凹
	31	SA26	凹石	17.5	9.5	7.5	両面凹
	32	SA27	軽石製品	8.5	6.7	4.3	
	33	〃	凹叩石	(16.2)	9.7	5.8	
	34	SA30 SC1	軽石製品	17.2	8.7	5.2	
	35	〃	叩石	(9.9)	6.0	3.8	
	36	SA49	凹石	10.0	7.1	3.7	両面凹
	37	SC8	石庖丁	6.4	2.8	0.8	
	38	SC24	凹石	16.1	9.9	4.7	
	39	SA26					
	40	SA17					
	41	〃	石庖丁	10.3	4.9	0.7	
	42	SA20	鉄製鋤鍬先				
	43		石錘	10.5	9.9	3.2	
	44		石錘	8.7	7.5	3.0	
	45		凹石	7.3	7.3	2.5	
	46			5.3	5.2	2.0	
	47		石錘	7.0	4.5	2.0	
	48			(5.0)	5.4	1.3	

表6．縄文土器観察一覧表

図面番号	遺物番号	器種	器部	文様および調整 外面	文様および調整 内面	焼成	色調 外面	色調 内面	胎土	備考
56	1	深鉢	口縁	貝殻腹縁刺突文 くさび形突帯，口唇部押圧きざみ	ナデ（風化）	良好	橙 (7.5YR6/8)	黄橙 (10YR 8/6)	0.2～2.5mmの黒，白，透明，黒く光る砂粒を含む。	
〃	2	〃	口縁	貝殻腹縁刺突文 くさび形突帯，口唇部押圧きざみ	ヨコナデ	良好	橙 (7.5YR7/6)	明黄褐 (10YR 7/6)	0.2～1.0mmの黒，白，透明，黒く光る砂粒を含む。	
〃	3	〃	口縁	貝殻腹縁刺突文 くさび形突帯，口唇部押圧きざみ	ヨコナデ	良好	橙 (7.5YR7/6)	橙 (5YR 6/8)	0.2～2.5mmの黒，白，透明，黒く光る砂粒を含む。	
〃	4	〃	口縁	貝殻腹縁刺突文 くさび形突帯，口唇部押圧きざみ	ヨコナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	0.2～1.0mmの黒，白，透明，黒く光る砂粒を含む。	
〃	5	〃	口縁	貝殻腹縁刺突文 くさび形突帯，口唇部押圧きざみ	ナデ（一部風化）	良好	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	0.2～1.5mmの黒，白，透明，茶黒く光る砂粒を含む。	
〃	6	〃	口縁	貝殻腹縁刺突文 くさび形突帯，口唇部押圧きざみ	ナデ	良好	明黄褐 (10YR 7/6)	橙 (7.5YR7/6)	0.2～1.5mmの黒，茶，透明，白，黒く光る砂粒を含む。	
〃	7	〃	口縁	貝殻腹縁刺突文 くさび形突帯，口唇部押圧きざみ	ヨコナデ（一部風化）	良好	にぶい褐 (7.5YR6/4)	橙 (7.5YR6/8)	0.2～2.0mmの白，透明，黒，黒く光る砂粒を含む。	
〃	8	〃	口縁	貝殻腹縁刺突文 くさび形突帯，口唇部押圧きざみ	ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	橙 (7.5YR7/6)	0.2～1.0mmの黒，白，透明，黒く光る砂粒を含む。	
〃	9	〃	口縁	貝殻腹縁刺突文 くさび形突帯，口唇部押圧きざみ	ナデ（一部風化）	良好	褐灰 (10YR 4/1)	橙 (5YR 6/8)	0.2～2.0mmの黒，白，透明，黒く光る砂粒を含む。	スス付着
〃	10	〃	口縁	貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文，口唇部押圧きざみ	ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 6/4)	橙 (7.5YR6/6	0.2～2.0mmの黒，白，透明，金雲母の粒を含む。	
〃	11	〃	胴部	貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文	ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	0.1～1.5mmの石英，白，黒く光る砂粒を含む。	
〃	12	〃	胴部	貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文	ナデ	良好	橙 (7.5YR7/6)	橙 (5YR 6/8)	0.1～1.0mmの透明，黒，白の砂粒を含む。	
〃	13	〃	胴部	貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文	ナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR7/4)	橙 (7.5YR7/6)	0.2～1.0mmの透明，白，黒の砂粒を含む。	
〃	14	〃	胴部	貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文	風化	良好	にぶい黄橙 (10YR6/4)	橙 (7.5YR7/6)	0.2～1.0mmの透明，茶，白，黒の砂粒を含む。	
〃	15	〃	胴部	貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文	ナデ	良好	橙 (7.5YR6/6)	橙 (5YR 6/6)	0.1～1.5mmの黒，白，茶，透明，黒く光る砂粒を含む。	
〃	16	〃	胴部	貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文	風化	良好	橙 (7.5YR7/6)	橙 (5YR 6/6)	0.1～2.5mmの白，灰色，茶，透明な砂粒を含む。	
〃	17	〃	胴部	貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文	ナデ	良好	橙 (7.5YR7/6)	橙 (5YR 6/8)	0.2～2.0mmの白，黒，透明な砂粒を含む。	
〃	18	〃	胴部	貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文	ナデ	良好	にぶい橙 (5YR 6/4)	橙 (5YR 6/8)	0.2～1.0mmの白，黒，透明な砂粒を含む。	
〃	19	〃	胴部	貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文	ナデ	良好	橙 (5YR 6/8)	橙 (5YR 6/8)	0.2～1.5mmの白，透明，黒，茶の砂粒を含む。	
〃	20	〃	胴部	貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文	風化	良好	橙 (7.5YR7/6)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	0.1～1.0mmの白，透明な砂粒を含む。	スス付着
〃	21	〃	胴部	貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文	ナデ	良好	橙 (7.5YR7/6)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	0.1～1.0mmの白，黒，茶，灰色の砂粒を含む。 茶，	
〃	22	〃	底部	きざみ	剝離のため調整不明	良好	にぶい橙 (7.5YR7/4)	橙 (5YR 7/6)	0.2～4.5mmの黒，白，透明，茶，黒く光る砂粒を含む。	
〃	23	〃	底部	きざみ	風化	良好	にぶい橙 (5YR 6/4)	にぶい橙 (5YR 7/4)	0.1～1.5mmの黒，白，透明，茶，黒く光る砂粒を含む。	
〃	24	〃	底部	きざみ	ナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR7/4)	橙 (7.5YR7/6)	0.2～1.5mmの黒，白，透明な砂粒を含む。	
〃	25	〃	底部	きざみ	ナデ	良好	にぶい橙 (5YR 6/4)	橙 (5YR7/6)	0.2～1.5mmの黒，白，透明，4.5mmの砂粒を含む。	
〃	26	〃	底部	貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文	剝離のため調整不明	良好	灰褐 (5YR 5/2)	橙 (5YR 6/8)	0.2～2.5mmの黒，白，透明な砂粒を含む。	
〃	27	〃	底部	貝殻腹縁刺突文 きざみ	剝離のため調整不明	良好	橙 (7.5YR7/6)	橙 (5YR 7/6)	0.1～3.0mmの黒，白，透明，黒く光る砂粒を含む。	
〃	28	〃	底部	貝殻腹縁刺突文 きざみ	剝離のため調整不明	良好	にぶい橙 (7.5YR7/3)	橙 (5YR 7/8)	0.1～2.0mmの黒，白，透明，黒く光る砂粒を含む。	
〃	29	〃	底部	きざみ	風化	良好	にぶい橙 (7.5YR7/4)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	0.2～1.0mmの白，黒，透明，黒く光る砂粒を含む。	
〃	30	〃	口縁	貝殻条痕文	ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	0.2～2.0mmの黒，白，透明，黒く光る粒を含む。5.0mmの粒も含む。	
〃	31	〃	口縁	貝殻腹縁刺突文 貝殻条痕文	ミガキ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄 (2.5Y 7/3)	0.1～1.5mmの透明，黒，白黒く光る砂粒を含む。	
〃	32	〃	口縁	貝殻条痕文	ナデ	良好	明黄褐 (10YR 6/8)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	0.2～1.5mmの白，透明，黒黒く光る砂粒を含む。	
〃	33	〃	口縁	貝殻条痕文	ナデ（風化）	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	0.2～2.0mmの白，透明，黒黒く光る砂粒を含む。	
〃	34	〃	口縁	貝殻条痕文	丁寧なナデ	良好	黄橙 (7.5YR7/8)	橙 (5YR 7/6)	0.1～0.2mmの透明，黒，白黒く光る砂粒を含む。	
〃	35	〃	口縁	貝殻条痕文	ナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR7/3)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	0.1～2.0mmの黒，白，透明な砂粒を含む。	
〃	36	〃	底部	貝殻条痕文	ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/3)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	0.1～1.5mmの黒，白，透明な砂粒を含む。	
〃	37	〃	口縁	貝殻条痕文	ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	明黄褐 (10YR 7/6)	0.5～2.5mmの白，透明，黒黒く光る砂粒を含む。	
〃	38	〃	口縁	貝殻条痕文	ナデ（風化）	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	0.5～2.5mmの白，透明，黒黒く光る砂粒を含む	
〃	39	〃	口縁	貝殻条痕文	ナデ（風化）	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	明黄褐 (10YR 7/6)	0.5～2.5mmの白，透明，黒黒く光る砂粒を含む。	
〃	40	〃	口縁	貝殻条痕文	ヨコナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 6/4)	灰黄褐 (10YR 5/2)	0.5～2.0mmの白，透明，黒黒く光る砂粒を含む。	
57	41	〃	口縁	貝殻腹縁刺突文	ナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	0.5～4.5mmの白，透明，黒黒く光る砂粒を含む。	
〃	42	〃	口縁	貝殻腹縁刺突文	ナデ	良好	黄褐 (10YR 5/6)	にぶい黄褐 (10YR 5/3)	0.2～2.0mmの白，透明，黒黒く光る砂粒を含む。	
〃	43	〃	口縁	貝殻腹縁刺突文	風化のため調整不明	良好	浅黄橙 (10YR8/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	0.2～2.0mmの黒，白，透明黒く光る砂粒を含む。	
〃	44	〃	口縁	ヨコナデ 口唇部押圧きざみ	ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	0.2～1.5mmの白，黒，透明黒く光る砂粒を含む。	

図面番号	遺物番号	器種	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
				外面	内面		外面	内面		
57	45	深鉢	胴部	貝殻腹縁刺突文	ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR6/3)	灰黄褐 (10YR6/2)	0.1～2.5mmの白,灰色,黒の砂粒を含む。	
〃	46	〃	胴部	貝殻腹縁刺突文	ナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	0.2～2.5mmの白,透明,黒金雲母の粒を含む。	
〃	47	〃	胴部	貝殻腹縁刺突文	丁寧なナデ	良好	橙 (5YR6/6)	にぶい褐 (7.5YR5/3)	0.1～3.0mmの白,黒く光る砂粒を含む	
〃	48	〃	胴部	貝殻押引き	ナデ	良好	にぶい褐 (7.5YR5/3)	灰黄褐 (10YR4/2)	0.2～3.0mmの白,黒,金雲母の粒を含む。	
〃	49	〃	底部	貝殻腹縁刺突文	ナデ（風化）	良好	黄橙 (7.5YR8/8)	にぶい橙 (7.5YR7/3)	0.2～1.0mmの黒,白,透明黒く光る砂粒を含む。	
〃	50	〃	胴部	貝殻条痕文	ナデ（風化）	良好	灰褐 (7.5YR5/2)	明赤褐 (5YR5/6)	0.1～1.0mmの黒,透明,白の砂粒を含む。	
〃	51	〃	胴部	貝殻条痕文	ナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR7/4)	灰褐 (7.5YR5/2)	0.2～1.0mmの黒,白,茶, 透明な砂粒を含む。	
〃	52	〃	胴部	貝殻条痕文	風化	良好	にぶい黄褐 (10YR5/3)	灰褐 (7.5YR5/2)	0.2～3.0mmの透明,白,茶金雲母の粒を含む。	
〃	53	〃	胴部	貝殻条痕文	風化	良好	明黄褐 (10YR7/6)	にぶい黄橙 (10YR6/4)	0.2～2.5mmの白,茶,金雲母の粒を含む。	
〃	54	〃	胴部	貝殻条痕文	ナデ	良好	にぶい橙 (5YR6/3)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	0.2～3.0mmの黒,白,灰色,金雲母の粒を含む。	
〃	55	〃	口縁	山形押型	ナデ	良好	暗灰黄 (2.5YR5/2)	灰黄褐 (10YR6/2)	0.2～3.5mmの白,黒,茶黒く光る砂粒を含む。	
〃	56	〃	胴部	山形押型	ナデ	良好	にぶい橙 (5YR6/4)	橙 (7.5YR6/6)	0.1～3.0mmの黒,白,透明黒く光る砂粒を含む。	
〃	57	〃	胴部	山形押型	ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄 (2.5YR6/4)	0.2～1.5mmの白,灰色,透明な砂粒を含む。	
〃	58	〃	胴部	山形押型	山形押型	良好	橙 (7.5YR7/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	0.1～1mmの白,黒,透明な砂粒を含む。	
〃	59	〃	胴部	貝殻押引き	ナデ	良好	橙 (7.5YP6/6)	にぶい褐 (7.5YR5/4)	0.2～1.5mmの黒,白,透明黒く光る砂粒を含む。	
〃	60	〃	胴部	格子押型文	ナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	0.2～4.0mmの黒,白,透明黒く光る砂粒を含む。	
〃	61	〃	胴部	格子押型文	丁寧なナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR7/4)	浅黄 (2.5YR7/4)	0.2～3.5の白,透明,黒黒く光る砂粒を含む。	
〃	62	〃	胴部	山形押型の上 貝殻条痕文	ナデ	良好	明黄褐 (10YR7/6)	灰黄褐 (10YR6/2)	0.2～3.0mmの黒,白,透明黒く光る砂粒を含む。	
〃	63	〃	口縁	ナデ 洗線文,口唇部押圧きざみ	ナデ	良好	橙 (7.5YR6/6)	にぶい黄橙 (10YR5/4)	0.2～1.0mmの白,透明,黒黒く光る砂粒を含む。	
〃	64	〃	胴部	撚糸文 洗線文	ヨコナデ	やや不良	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/3)	0.1～0.5mmの白,黒,石英の砂粒を含む。	

表７．土器観察一覧表

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器部	文様および調整 外面	文様および調整 内面	焼成	色調 外面	色調 内面	胎土	備考
24	1	ＳＡ１	甕	口縁	口唇部 ヨコナデ 口縁部 ヨコナデ	ハケメ	良好	にぶい橙 (5YR 7/4)	にぶい橙 (5YR 6/4)	微細砂，精緻	
〃	2	〃	甕	口縁	口唇部 ヨコナデ 口縁部 ナデ	一部指押え，ハケメ	良好	浅黄橙 (10YR 8/3)	浅黄橙 (10YR 8/4)	微細砂含み粗い	スス付着 二条突帯
〃	3	〃	甕	口縁	口唇部 ヨコナデ 口縁部 風化不明	風化	良好	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/8)	1～3㎜大石粒多く含み粗い	三条突帯
〃	4	〃	甕	口縁	ヨコナデ 一部ナナメハケメ	ナデ ヨコハケ	良好	浅黄橙 (10YR 8/3)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	微細石，砂混じえ精緻	一部黒斑か黒塗り 三条沈線
〃	5	〃	甕	口縁	口唇部 ヨコナデ 口縁部 タテ・ナナメハケメ	ナナメハケメ	不良	黄灰 (2.5Y 6/1)	浅黄橙 (10YR 8/3)	微細砂含む	明瞭な沈線
〃	6	〃	甕	口縁	口唇部 明瞭な沈線 口縁部 ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/3)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	微細石砂も含む	三条突帯
〃	7	〃	甕	底部	ナデ	風化	良好	橙 (5YR 7/6)	褐灰 (10YR 5/1)	石砂多く含む	
〃	8	〃	甕	胴部下部～底部	ヘラ磨き	ナデ	良好	淡橙 (5YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	砂少なく精緻やや砂質	
〃	9	〃	甕	胴部下部～底部	風化	風化	やや不良	淡黄 (2.5Y 8/3)	浅黄橙)10YR 8/3)	1～3㎜大砂粒多く含む	
〃	10	ＳＡ２	甕	口縁～胴部下部	口縁部 ヨコナデ 胴部下部 タテ・ナナメハケ	口縁部 ヨコハケのナデ 胴部下部 粗いハケ・ナデ	良好	橙 (5YR 6/6)	橙 (5YR 7/6)	2～5㎜大石粒やや多く含む	スス付着 (胴部)
〃	11	〃	甕	口縁～胴部上部	ハケメ	口縁部 ヨコナデ 胴部上部 浅いハケメ	良好	橙 (5YR 7/6)	浅黄橙 (10YR 8/4)	2～3㎜大石粒多く含む	スス付着
〃	12	〃	甕	完形	口縁部 ナデ・底部 指押え 胴部 粗いハケメ・細いハケメ	口縁部 ナデ 胴部 ハケメ・ナデ	良好	橙 (5YR 7/8)	橙 (5YR 7/8)	2～8㎜大の石粒子少量混じえ精緻	
〃	13	〃	甕	胴部～底部	ハケメの上をナデ	ハケメの上をナデ	不良	橙 (5YR 7/6)	黄灰 (2.5Y 6/1)	2～5㎜大石粒子少量	スス付着 (胴部)
〃	14	〃	甕	胴部～底部	胴部 一部ハケメ 底部 止め跡，調整具	胴部 ヘラ痕，粗いハケメ 底部 指押え	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	2～4㎜大の石粒やや多く含む	スス付着 (胴部)
〃	15	〃	甕	胴部～底部	風化	風化	良好	橙 (5YR 7/6)	浅黄橙 (10YR 8/4)	2～4㎜大石粒多く含み砂質	
〃	16	〃	壺	口縁～肩部	口縁部 ナデ 肩部 一部ハケメ	口縁部 ヨコハケメ 肩部 ヨコハケメ	良好	黄橙 (7.5YR7/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	2～3㎜大の石粒多く砂質	
〃	17	〃	壺	(付近) 口縁～底部	口縁部 タテハケメ 胴部～底部付近 ナナメハケメ，ケズリ	口縁部 ヨコハケメ 胴部～底部付近 指押圧，ハケメ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/6)	灰白 (5Y 8/1) (5YR 7/6)	石砂粒少なく精緻	
〃	18	〃	鉢	口縁～底部	ハケメ	ハケメ	不良	浅黄橙 (7.5YR8/6)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	2～4㎜大の石粒を多く混入	
〃	19	〃	鉢	(付近) 口縁～底部	口縁部 細いハケメ 胴部～底部付近 ナデ	口縁部 粗いハケメ 胴部～底部付近 ハケメあとヘラナデ	やや不良	浅黄橙 (7.5YR8/4)	橙 (5YR 7/6)	精緻	小さな灰斑 (口縁部)
25	20	〃	壺	肩部～底部	肩部～胴部 風化 底部 ヘラミガキ	肩部 ヨコハケメ 胴部～底部 ナナメ，ヨコハケメ	良好	黄橙 (10YR 8/6) 橙 (2.5YR 6/6)	橙 (2.5YR6/8)	1～2㎜大砂粒小量，砂質	胴部～二つの突帯，黒斑
〃	21	〃	甕	口縁～肩部	ナデ	口縁部 ナデ 肩部 細いハケメ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/4)	橙 (7.5YR7/6)	石粒なく精緻やや砂質	
〃	22	〃	鉢	口縁～底部	口唇部 ナデ 胴部～底部 ヘラ磨き	ヘラ磨き	良好	黄橙 (7.5YR7/6)	橙 (5YR 6/6)	砂粒少なく精緻	黒斑(胴部)
〃	23	〃	鉢	口縁～底部	風化	ごく一部ハケメ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4) 橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/8)	3～4㎜大石粒多	
〃	24	〃	高坏	口縁	ナナメヘラ磨き	風化	良好	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/6)	2～3㎜大の石やや多く含みやや砂質	
〃	25	〃	高坏	坏部	不明瞭なヘラ磨き	口縁部 ヘラ磨き 底部 ハクリ	良好	黄橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	石粒少なく精緻	
〃	26	〃	壺	口縁	ヨコナデ，ヘラハケメ	ヨコ，ナナメハケメ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/4)	橙 (5YR 7/6)	石粒少なく砂質	
〃	27	〃	鉢	胴部下部～底部	胴部下部 ヘラ磨き 底部 ヨコナデ	胴部下部 ハケメ	良好	橙 (5YR 7/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	2～5㎜大石粒少量含む精緻	一部黒斑
〃	28	〃	高坏	脚部	ヘラ磨き	ハクリ	良好	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	1～2㎜大石粒少量含む精緻	
〃	29	〃	ミニチュア	胴部	指押え	指押え	良好	にぶい橙 (5YR 7/4)	にぶい橙 (5YR 7/4)	石粒少なく精緻	
〃	30	〃	ミニチュア	底部	タテのナデ	ナデ	良好	黄橙 (10YR 8/6)	橙 (5YR 7/6)	1～2㎜大石粒少量	
〃	31	〃	鉢	底部	ヘラ磨き	ナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (10YR 8/4)	石粒なく精緻	
〃	32	ＳＡ３	甕	口縁～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 風化	口縁部 ヨコナデ 胴部 浅いハケメ（下部）	良好	浅黄橙 (7.5YR8/6)	橙 (5YR 7/6)	2～3㎜大の石粒多く混入	
〃	33	〃	小型甕	口縁～底部	口縁部 ヨコナデ 胴部 一部ハケメ	肩部 薄いハケメ	不良	浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	2㎜大石粒多く含む	
〃	34	〃	小型甕	口縁～胴部	ヨコナデ	胴部 風化 底部 指押え	良好	橙 (7.5YR7/6)	橙 (5YR 7/6)	1～2㎜大石粒やや多く含む	
〃	35	〃	鉢	胴部～底部	胴部 ハクリ不明 底部 ナデ	胴部 細いハケメ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/4) 橙 (5YR 7/6)	にぶい橙 (5YR 7/4)	石粒少なく精緻	平底 黒斑(胴部)
〃	36	〃	鉢	胴部～底部	胴部 ナデ	胴部 細くうすいハケメ	良好	淡橙 (5YR 8/4)	橙 (5YR 7/6)	2～3㎜大の石粒多く含む	
〃	37	〃	鉢	胴部下部～底部	削り	細いハケメ	良好	橙 (5YR 7/8)	灰 (7.5Y 5/1)	2～3㎜大の石粒を多量に含む	平底
〃	38	〃	鉢	口縁～底部	ナデ，粗いハケメか削り	口縁部～胴部 部分的粗いハケメ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	1～2㎜大の細い石粒を多く含む	黒斑(口縁部)
〃	39	〃	壺	口縁	櫛描き，磨き	ナデナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	精緻	
〃	40	〃	壺	口縁付近	櫛描き，ナデ	ナデ	良好	橙 (5YR 7/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	精緻	沈線
〃	41	〃	甕	口縁～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 削り(？)	口縁部 ヨコナデ 胴部 粗くうすいハケメ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	2～5㎜大以上の石粒を比較的多く混入	外面 スス付着
〃	42	〃	甕	口縁～底部	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 粗いハケメ・ケズリ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ハケメ 底部 ナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/6)	橙 (5YR 7/6)	2～4㎜大の石粒を比較的多く混入	内・外面胴部 スス付着
26	43	〃	坏蓋	口縁～天井部	ヘラ磨き	ヘラ跡	良好	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/8)	精緻	
〃	44	〃	坏身	口縁	ヨコナデ，ヘラ磨き	ヘラ磨き	良好	橙 (5YR 6/6)	橙 (5YR 6/8)	精緻	

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
					外面	内面		外面	内面		
26	45	SA4	坏身	口縁～底部	ヨコナデ	ヘラ磨き，ヨコナデ	良好	黄(7.5YR 5/4)橙(2.5YR 5/6)	橙(2.5YR 6/8)	やや砂質，精緻	内・外面胴部スス付着
〃	46	〃	坏身	口縁	ヨコナデ，ヘラ磨き	ヨコナデ	良好	橙(5YR 6/8)	橙(5YR 7/6)浅黄橙(7.5YR 8/4)	精緻	
〃	47	〃	坏身	口縁	ヘラ磨き	ナデ	良好	橙(5YR 7/8)	橙(5YR 7/8)	精緻	
〃	48	〃	坏身	口縁	ヘラ磨き	ヘラ磨き	良好	橙(2.5YR 7/6)	橙(2.5YR 7/6)	精緻	
〃	49	〃	坏身	口縁	ヘラ磨き	ヘラ磨き	良好	橙(5YR 6/6)	橙(5YR 7/6)	精緻	
〃	50	〃	坏身	口縁	ナデ	ヘラ磨き	良好	橙(5YR 7/6)	橙(5YR 7/6)	やや砂質	
〃	51	〃	坏身	口縁～底部	ヨコナデもしくはヘラ磨き	体部 風化気味(ヨコヘラ磨き?) 底部 風化	良好	浅黄橙(7.5YR 8/6)	浅黄橙(7.5YR 8/6)	精緻，やや砂が多いただし表面は荒れてザラザラ	内・外面丹塗り
〃	52	〃	坏身	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ，ヘラ跡	良好	橙(5YR 7/8)	橙(5YR 7/8)	やや砂質ながら精緻	
〃	53	〃	坏身	口縁	ナデかハケメの上を磨き	ハケメ，ヘラ磨き	良好	橙(5YR 7/8)	橙(5YR 7/8)	精緻	
〃	54	〃	坏身	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙(5YR 7/8)	橙(5YR 7/8)	2～3㎜大石粒など比較的に砂粒を多く含む	
〃	55	〃	坏身	口縁～胴部	ヨコナデの上をヘラ磨き	ヨコナデの上をヘラ磨き	良好	橙(2.5YR 6/6)	橙(2.5YR 6/6)	精緻	
〃	56	〃	坏身	口縁～胴部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙(7.5YR 8/4)	浅黄橙(7.5YR 8/4)	精緻	
〃	57	〃	坏身	口縁～底部	ヨコナデ，磨き	ヨコナデ	良好	浅黄橙(10YR 8/4)赤褐明(2.5YR 5/6)	浅黄橙(7.5YR 8/4)	2～3㎜大石粒など比較的に砂粒を多く含む	外面一部黒斑 内・外面丹塗り
〃	58	〃	坏身	口縁～底部	ヨコナデか磨き	ハクリ？不明	良好	橙(5YR 7/6)	橙(5YR 7/6)	やや砂質，精緻	
〃	59	〃	坏身	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ，一部磨き	良好	橙(5YR 6/6)	橙(5YR 6/6)	精緻，少量の砂粒を含む	
〃	60	〃	坏身	口縁～胴部	ヨコナデ、粗いハケメ	ヨコナデ	不良	橙(7.5YR 7/6)	橙(7.5YR 7/6)	砂質	黒塗り(？)
〃	61	〃	坏身	口縁～底部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	黄橙(7.5YR 8/8)	黄橙(7.5YR 7/8)	微砂質	
〃	62	〃	坏身	口縁	ヨコナデ	ヨコナデ	不良	黄橙(10YR 8/6)	浅黄橙(10YR 8/4)淡橙(5YR 8/4)	砂質が強い	
〃	63	〃	坏身	口縁	ヘラ磨き	ヘラ磨き	良好	橙(5YR 7/6)黄橙(10YR 8/6)	橙(5YR 6/8)	精緻	
〃	64	〃	鉢	口縁～底部	粗いハケメ	一部ヨコハケ	良好	橙(5YR 7/8)	橙(5YR 7/6)	2㎜大の石粒多く含む	一部黒斑
〃	65	〃	小型壺	胴部～底部	ヘラ磨き（一部分）	ナデ	不良	赤(10R 5/6)	浅黄橙(10YR 8/3)	精緻，やや砂粒を含む	丹塗り
〃	66	〃	甕	口縁～底部	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 ナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 ナナメナデ	やや不良	浅黄橙(10YR 8/4)	浅黄橙(7.5YR 8/6)	2～8㎜大の石粒を多く含む	外面・胴部スス付着
〃	67	〃	甕	口縁～底部	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 粗いヘラ先でナデ上げ	ヨコナデ	やや不良	橙(5YR 7/8)	橙(5YR 7/6)	1～5㎜大の石粒を多く含む	〃
〃	68	〃	甕	口縁～底部	口縁部 強くヨコナデ 胴部～底部 ハケメ・ナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ハケメ	良好	浅黄橙(7.5YR 8/6)	橙(7.5YR 7/6)	2～8㎜大の石粒やや多く含む	内面一部黒斑外面胴部スス付着
〃	69	SA56	甕	口縁部～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 かすかにハケメ残る	ナデ上げ	良好	浅黄橙(10YR 8/4)	浅黄橙(10YR 8/4)暗灰黄(2.5Y 5/2)	2～5㎜大石粒やや多く含む	外面スス付着
〃	70	〃	小型甕	口縁～底部	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 ナデ	ヨコナデ	やや不良	にぶい黄橙(10YR 7/3)	にぶい橙(7.5YR 7/4)	石粒少なめ	
〃	71	〃	甕	胴部～底部	一部ハケメ残る	ナデ	良好	浅黄橙(7.5YR 8/4)	浅黄橙(7.5YR 8/4)	1～5㎜大の石粒を多く含む	スス付着
27	72	SA5	坏身	口縁	ヨコ方向ミガキ	ヨコ方向ミガキ	良好	橙(2.5YR 6/6)	橙(5YR 7/6)	1～2㎜の白，茶の粒を含む	
〃	73	〃	高坏	坏部～脚部	坏部 ハケメのあとヨコナデ 脚部 ナデ	坏部 ハケメのあとナデ 脚部 ナデ	やや不良	浅黄橙(7.5YR 8/4)	浅黄橙(7.5YR 8/4)	1～2㎜の茶，白，灰色や石英などの粒を含む	外面一部黒変
〃	74	〃	甕	口縁～底部	ヨコナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ，底部 指押え	良好	浅黄橙(7.5YR 8/4)	浅黄橙(7.5YR 8/6)	やや大きめの石粒，砂粒を多く含む	外面胴部スス付着
〃	75	〃	甕	口縁～底部	口縁部 ヨコナデ 胴部 粗いナナメハケメ	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 ナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/4)橙(7.5YR 7/6)	にぶい橙(5YR 7/4)	2～3㎜少，5㎜大の石粒を多く含む	
〃	76	〃	壺	口縁～底部	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 ナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 ナデ	良好	にぶい橙(7.5YR 7/4)	にぶい橙(7.5YR 7/4)	1～3㎜のうす茶，白，灰色の粒を含む	外面胴部スス付着
〃	77	〃	甕	胴部～底部	ハケメ	ナデ	良好	橙(5YR 7/6)	橙(5YR 7/8)	やや砂粒多く含む	上げ底
〃	78	SA6	甕	口縁	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙(7.5YR 8/6)	浅黄橙(7.5YR 8/6)	1～2㎜のうす茶，灰色の砂粒や石英など含む	
〃	79	〃	甕	底部	タテのハケメか	ナデ	良好	橙(5YR 7/6)	橙(7.5YR 7/6)	1～4㎜のうす茶，灰色，赤褐色の砂粒を多く含む	
〃	80	〃	甕	口縁～底部	ヨコナデ，タテのハケメ	タテ，ナナメ方向のハケメ	良好	にぶい橙(7.5YR 7/4)にぶい黄橙(10YR 7/3)	にぶい橙(7.5YR 7/4)褐灰色(10YR 5/1)	1～5㎜の灰色，うす茶，褐色の砂粒を多く含む	スス付着
〃	81	〃	壺	胴部	ヘラ磨き，ナナメ・タテのハケメ	ナナメ・ヨコのハケメ	良好	橙(5YR 7/6)	橙(5YR 7/6)橙(7.5YR 7/6)	精緻	
〃	82	〃	壺	胴部～底部	胴部 左下りのハケメ 底部 ナデ	右下りのハケメ	良好	浅黄橙(10YR 8/3)	褐灰(10YR 4/1)	1～3㎜の黒，灰，褐色の砂粒を含む	黒変
〃	83	〃	甕	胴部～底部	胴部 下から上への削り 底部 ナデ	胴部 ハケメあとナデ 底部 指頭圧	良好	にぶい橙(7.5YR 7/4)	浅黄橙(10YR 8/3)	1～3㎜の灰色，うす茶，褐色の砂粒を含む	
〃	84	〃	甕	底部	タテのハケメ	ハクリ	良好	淡黄(2.5Y 8/3)	黄灰(2.5Y 6/1)	石英砂を多く含む	底部内面スス付着
〃	85	〃	甕	胴部下部～底部	ヘラ磨き	胴部下部 タテのハケメ 底部 指押え	良好	橙(5YR 6/6)	にぶい橙(5YR 6/4)黄灰(2.5Y 4/1)	2～4㎜大を少量	
〃	86	SA7	甕	口縁	ヨコナデ	ヨコ，タテのヘラ磨き	良好	橙(5YR 7/6)黄橙(7.5YR 8/6)	黄橙(10YR 8/6)	2～4㎜大の石粒を多く含む	一条刻目突帯
27	87	〃	甕	口縁～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 タテ，ナナメのハケメ	口縁部 ヨコナデ 胴部 右下りハケメ	良好	黄橙(10YR 8/6)	黄橙(10YR 8/6)	1～3㎜の茶，灰，白の砂粒を含む	外面胴部スス付着
〃	88	〃	甕	口縁～胴部	口唇部 ヨコナデ 口縁部～胴部上部 ハケメ	口縁部 ハケメ 胴部 下明	良好	黄(10YR 8/6)にぶい黄橙(10YR 7/3)	橙(5YR 7/6)	3～5㎜大の石粒を多く含む	外面スス付着

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器部	文様および調整 外面	文様および調整 内面	焼成	色調 外面	色調 内面	胎土	備考
28	89	SA7	壺	胴部	口唇部 ヨコナデ 口縁部～胴部上部 ハケメ	一部ハケメ	不良	橙 (7.5YR7/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	1～2㎜の石粒を少量含む	胴部外面スス付着
〃	90	〃	高坏	脚部	ヘラ	ヨコ，ナナメのハケメ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	砂質がとけている	
〃	91	〃	高坏	脚部	風化	ヘラ磨き	良好	橙 (5YR7/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	1～2㎜大の石砂粒を多く含む	
〃	92	〃	ミニチュア	口縁～底部	指押え	指押え	良好	黄橙 (7.5YR7/8)	黄橙 (10YR8/6)	2～3㎜大の石粒を多く含む	
〃	93	SA8	鍔台付小型丸底壺	胴部～底部(付近)	ヘラ	ヨコナデ，櫛描波状文	良好	黄橙 (10YR8/6)	黄橙 (10YR8/6)	やや砂質，小砂粒多く含む	胴部外面二条突帯
〃	94	〃	高坏	脚部	細いタテのハケメ，脚裾端部ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙 (5YR7/6)	橙 (5YR7/6)	1～2㎜大の石粒を多く含む	粘土のつぎ目あり
〃	95	〃	壺	底部	ヘラ磨き	ナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/6)	橙 (5YR7/6)	2～3㎜大の砂粒をやや多く含む	
〃	96	SA9	甕	口縁～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 不明	風化ハケ目？	やや不良	橙 (5YR7/6)	(5YR 7/4 橙) (10YR 8/4 黄橙)	3～4㎜大石粒を多く含む	胴部外面スス付着
〃	97	〃	甕	口縁	ヨコナデ，ハケメ	ハケメ	良好	橙 (5YR7/6)	橙 (2.5YR7/6)	1～3㎜の茶，黒の砂粒，光る細砂粒を含む	一条刻目突帯
〃	98	〃	ミニチュア	口縁～底部(付近)	指押え	指押え	良好	浅黄橙 (7.5YR8/4)	橙 (5YR7/8)	砂質，精緻	
〃	99	〃	浅鉢	頸部～胴部	頸部 ヘラ止め跡 胴部 ナデ	ミガキ	良好	浅黄橙 (10YR8/4)	黄橙 (10YR8/6)	精緻	
〃	100	〃	甕	胴部下部～底部	胴部下部 ナナメハケメ 底部 ナデ	ヘラ磨き	良好	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	2～4㎜大の石粒を多く含む	
〃	101	〃	壺	胴部～底部	ヘラ磨き	風化ハケメの痕跡あり	良好	浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	砂質，精緻	上げ底
〃	102	〃	甕	口縁部～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 ハケメ	ヨコハケメの上をヨコナデ	良好	浅黄橙 (10YR8/4)	明黄褐 (10YR7/6)	3～5㎜大の石粒をやや多く含む	外面スス付着
〃	103	〃	甕	口縁部～胴部	ヨコナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ハケメ	良好	にぶい橙 (7.5YR7/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	2～3㎜大の石粒やや多い	外面スス付着
〃	104	〃	甕	胴部	ナデ	タテ方向のナデ	やや不良	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	2～5㎜大の石粒を多く含む	内・外面スス付着
〃	105	〃	壺	口縁	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	明黄褐 (10YR7/6)	(10YR 6/4 黄褐) (5Y 5/1 灰)	1～3㎜大の石粒を多く含む	
〃	106	〃	壺	口縁～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナナメハケメ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナナメハケメ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/6)	橙 (7.5YR7/6)	2～3㎜大の石粒をやや多く含む	
〃	107	〃	壺	肩部	タテかナナメハケメの上をヘラ磨き	ハケメの上を指押え	良好	浅黄橙 (7.5YR8/6)	橙 (7.5YR7/6)	3～5㎜大の石粒をやや多く含む	一条三角突帯
〃	108	〃	壺	胴部	ナナメハケメ	指ナデ	良好	橙 (5YR7/6)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	2～3㎜大の石粒を少精緻	
〃	109	〃	鉢	口縁～底部	ハクリ，不明	ヨコハケメ	やや不良	浅黄橙 (7.5YR8/4)	(10YR 7/4 にぶい黄橙) (5Y 5/1 灰)	2～4㎜大の石粒を多く含む	
〃	110	〃	壺	胴部～底部	削り	粗いハケメ	良好	橙 (5YR 7/6)	(10YR 7/4 にぶい黄橙) (7.5YR 7/4 橙)	2～4㎜大の石粒をやや多く含む	
〃	111	〃	壺	胴部～底部	粗いハケメ	ハケメ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/4)	橙 (7.5YR7/6)	2㎜大の石粒をやや多く含む	外面スス付着
〃	112	〃	甕	胴部下部～底部	胴部下部 タテのハケメ 底部 指押え	ヨコ，ナナメのハケメ	不良	浅黄橙 (7.5YR8/6)	黄灰 (2.5Y 4/1)	砂質	上げ底
〃	113	〃	甕	胴部下部～底部	ヘラ磨き	幅広いハケメ，ナデ	良好	(7.5YR 8/6 浅黄橙) (5Y 8/6 橙)	橙 (5YR 7/6)	石粒少なく砂質，精緻	
29	114	SA10	甕	口縁～底部	口縁部 ナデ 胴部 タテハケメ	ヨコハケメ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	1～3㎜の砂粒を含む	
〃	115	〃	壺	胴部～底部	ナナメミガキ，タテハケメ	ヨコハケメ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/4)	にぶい黄橙 (10YR 6/3)	1～2㎜大の砂粒を含む	
〃	116	〃	甕	口縁～底部	口縁部 ヨコナデ 胴部 タテ・ナナメのハケメ	ヨコ，ナナメ，タテのハケメ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/6)	橙 (5YR 7/6)	2～3㎜の石粒を多く含む	外面スス付着
〃	117	SA10 SC1	壺	口縁～底部	口縁部 ヨコナデ 胴部 タテハケメ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ハケメ	良好	橙 (5YR 7/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	1～3㎜の砂粒を含む	外面黒変
〃	118	〃	高坏	坏部	タテ，ヨコの磨きか	ナデか	良好	浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	1㎜前後の砂粒を含む	
〃	119	SA10	高坏	脚部	タテの磨き	風化不明	良好	橙 (2.5YR7/6)	橙 (5YR 7/6)	0.5～1㎜の砂粒，茶色の粒を含む	
〃	120	SA57	高坏	坏部	タテハケメのあとナデ	ハケメのあとナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR7/4)	浅黄橙 (10YR 8/3)	0.5～1㎜の砂粒を含む	
〃	121	SA12	甕	口縁～底部	口縁部 ヨコナデ 胴部 タテハケメ 胴部～底部 ナデ	口縁部 風化のため不明 胴部 ヨコ方向のハケメ・ナデ	良好	(5YR 7/6 橙) (にぶい橙 5YR 7/4)	橙 5YR 7/6)	1～6㎜の砂粒や石粒を多く含む	外面胴部スス付着・上げ底
〃	122	〃	甕	口縁～底部	ナデか	口縁部 ヨコナデ 胴部 一部ハケメ残る 胴部下部～底部 風化のため不明	良好	(5YR 7/6 橙) (にぶい褐 7.5YR 5/3)	橙 (5YR 7/6)	1～3㎜大の茶，こげ茶，灰色の砂粒を多く含む	外面底部黒変
〃	123	〃	壺	口縁～胴部	口縁部 ヨコナデ 頸部 タテナデ 肩部～胴部 ナデ	口縁～頸部 ヨコナデ 肩部～胴部 ナデ	良好	(7.5YR 7/4 橙) (7.5YR 7/6 橙)	橙 (7.5YR7/6)	精緻，石粒の混入は少ない	二重口縁
〃	124	〃	壺	口縁～底部	頸部 タテハケメ 胴部 ハケメ・タタキか 底部 ナデ	口縁・胴部～底部 ナデ 頸部 ヨコハケメ	やや不良	(5YR 7/6 橙) (5YR 5/6 明赤褐)	(5YR 7/6 橙) (5YR 5/1 灰褐)	1～2㎜大の石粒を少量	口縁櫛描波状文二重口縁
〃	125	〃	鉢	口縁～底部	口縁部～胴部 風化 底部 指押え	風化	不良	(10YR 8/4 浅黄橙) (7.5YR 8/3 浅黄橙)	(7.5YR 7/6 橙) (7.5YR 8/6 黄橙)	2～4㎜大の石粒を多く含む	外面 黒塗？ 内面 スス付着
〃	126	〃	ミニチュア	口縁～底部	ナデ	ナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/6)	黄橙 (10YR 8/6)	1～2㎜大の石粒少なく精緻	
〃	127	〃	ミニチュア	口縁～底部	ナデ	ナデ	良好	黄橙 (10YR 8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	石粒少なく精緻	
〃	128	〃	ミニチュア	胴部～底部	ナデ	ヘラ跡	良好	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/6)	砂質，石粒は少ない	上げ底
〃	129	〃	甕	胴部～底部	削り	ナデ	良好	橙 (5YR 7/6)	灰 (5Y 5/1)	2㎜大の石粒やや多く含む	上げ底
〃	130	SA13	甕	口縁	ヨコナデ	ナデ	良好	明赤褐 (5YR 5/8)	明赤褐 (5YR 5/8)	0.1～1㎜前後のうす茶，黒色の砂粒や金雲母を含む	突帯あり，スス付着，沈線
〃	131	〃	甕	口縁	ヨコナデ	ナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	1㎜前後の茶色の砂粒を含む	突帯あり 凹線 } 外面
〃	132	〃	甕	口縁	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	1㎜前後の砂粒を含む 角閃石，ガラス質も含む	外面 凹線

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器部	文様および調整 外面	文様および調整 内面	焼成	色調 外面	色調 内面	胎土	備考
29	133	S A 13	甕	胴部	ナデ	ナナメナデ	良好	にぶい橙 (5YR 6/4)	明赤褐 (5YR 5/6)	砂粒少なく精緻，黒雲母含む	外面 4条三角突帯
〃	134	〃	甕	胴部	ハケメの上を部分ナデ消し	一部ヨコハケ	良好	にぶい橙 (5YR 6/4) 淡橙 (5YR 8/4)	橙 (7.5YR 7/6)	透明な粒，黒く光る粒，及び砂粒を多く含む	外面 細沈線あり
30	135	〃	甕	口縁	ハケメの上をナデ，ヨコナデ	ナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	2㎜大の石粒を多く含む	外面 三角突帯あり
〃	136	〃	甕	口縁	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	にぶい橙 (5YR 6/4)	にぶい橙 (5YR 6/4)	砂粒少なく精緻，黒雲母含む	
〃	137	S A 14	甕	口縁部～胴部	ヨコナデ	ナデ ナナメハケメ	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	1㎜前後の白，茶，灰色の粒や雲母も含む	外面 スス付着 二条 三角突帯
〃	138	〃	甕	口縁部～胴部	強いヨコナデ ナデ	ヨコナデ あらいハケメ	良好	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/6)	1㎜前後の白，うす茶，灰の粒や雲母も含む	外面 胴部スス付着 三条 三角突帯
〃	139	〃	甕	口縁部～胴部	ヨコナデ，ハケメ	ヨコナデ，指押え	良好	橙 (5YR 7/6)	にぶい橙 (7.5YR 7/6)	1㎜前後の白，灰，黒の粒を含む	外面 胴部スス付着 三条 三角突帯
〃	140	〃	甕	口縁部～胴部	ヨコ，タテナデ	ナデ	良好	橙 (5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6) にぶい褐 (7.5YR 5/3)	0.5～1㎜大の茶，灰色の砂粒，長石・石英を含む	外面一部分スス付着 二条 三角突帯
〃	141	〃	甕	口縁部～胴部	ヨコナデ	ヨコ，ナナメのハケメ	良好	にぶい橙 (5YR 7/4)	にぶい橙 (7.5YR 7/3)	1～2㎜の白，黒，うす茶の粒を含む	外面 二本の沈線
〃	142	〃	甕	口縁部～胴部	口縁部 横方向のハケメのあとナデ 胴部 ヨコナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 刷毛目のあとナデか	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	0 細砂粒を多く含む	外面 三条三角突帯
〃	143	〃	甕	口縁部～胴部	ヨコ，ナナメのハケメ	ハケメか	良好	橙 (5YR 6/6)	橙 (7.5YR 7/6)	0.1～0.2㎜の灰，うす茶色の砂粒を多く含む	内・外面 スス付着 外面 二条三角突帯
〃	144	〃	甕	胴部～底部	ナデ タテのヘラ磨き，指押え	ナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	1㎜前後の茶，白，黒の粒や長石を含む	
〃	145	〃	甕	胴部～底部	ナデ，指押え	ナデ	良好	にぶい橙 (5YR 7/4)	にぶい橙 (7.5YR 7/3)	1㎜前後の白，こげ茶，灰色の粒を含む	上げ底
〃	146	〃	甕	底部	ヨコナデ，ナデ	ナデ	良好	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 6/6)	1㎜前後の砂粒を含む	
〃	147	S A 15	甕	口縁～胴部	ヨコナデ，削りか	ヨコナデ，ナデ	良好	橙 (5YR 7/6)	黄灰 (2.5YR 7/2)	1～3㎜大の砂粒を多く含む	外面 スス付着
〃	148	〃	甕	口縁～胴部	（風化）ヨコ方向ナデか	板状のもので横方向ナデか	良好	浅黄橙 (10YR 8/4) 浅黄橙 (7.5YR 8/6)	黄灰 (2.5Y 5/1) 浅黄橙 (7.5YR 8/6)	1～3㎜大の粒や細砂粒を多く含む	
〃	149	〃	壺	胴部～底部	ヘラナデか	ヨコナデ，ナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR 7/4) にぶい橙 (7.5YR 7/4)	にぶい橙 (7.5YR 7/4) にぶい橙 (7.5YR 7/4)	1～6㎜大の粒を含む	外面 黒変，スス付着
〃	150	〃	壺	口縁部～胴部	口縁部 ヨコナデ 頸部～胴部 ヨコ方向のミガキ	ミガキ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4) にぶい橙 (7.5YR 7/4)	浅黄橙 (10YR 8/4～8/1) 灰黄 (2.5Y 6/2)	1㎜大の砂粒を多く含む	
〃	151	〃	坏身	口縁～底部	口縁部 ヨコナデ 底部 ヘラ削り	口縁部 ヨコナデ 底部 ヨコナデ，タタキ	良好	灰白 (2.5Y 7/1) ～灰黄 (2.5Y 7/2)	灰白 (2.5Y 7/1) ～灰黄 (2.5Y 7/2)	1～3㎜大の粒を含む	自然釉
〃	152	S A 16	小型丸底壺	口縁～底部	風化気味 ナデか	ヨコナデか，指押え	良好	橙 (5YR 7/6)	橙 (2.5YR 6/6)	0.1～1㎜小の砂粒を多く含む 微粒子・石英も含む	
〃	153	〃	鉢	口縁～底部	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ上げ 底部 ナデ	ヨコナデ	良好	橙 (2.5YR 6/6)	橙 (7.5YR 6/6)	0.5 ㎜大の砂粒，光る微粒子を含む，小石も含む	外面 黒変
〃	154	〃	高坏	坏部	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	2㎜小の砂粒，光る微粒子，角閃石を含む	
31	155	〃	甕	口縁～胴部	ヨコナデ	風化気味だかナデか	良好	橙 (7.5YR 6/6)	橙 (7.5YR 7/6)	0.5～3㎜大の砂粒，小石を含む，石英も含む	外面 スス付着
〃	156	〃	甕	口縁～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 タテ方向ナデ	ヨコナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	0.1～4㎜大の砂粒，小石を含む，石英も含む	外面 スス付着
〃	157	〃	壺	胴部～底部	ナデ，ヘラ状工具のあとナデ	ナデ	良好	黄灰 (2.5Y 4/1-5/1)	橙 (5YR 7/6)	0.1～1㎜小の砂粒，光る微粒子，石英を含む	外面 底部 黒変
〃	158	〃	甕	胴部～底部	ナデか	風化気味だがナデか	良好	橙 (5YR 7/6)	灰白 (10YR 7/1)	0.5～2㎜前後の砂粒，4㎜大の小石を含む	上げ底
〃	159	〃	高坏	坏部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/3)	灰白 (10YR 8/2)	1㎜前後の砂粒を含む	外面 スス付着
〃	160	〃	高坏	坏部～脚筒部	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙 (5YR 7/4) 橙 (5YR 7/6)	浅黄橙 (7.5YR 8/4) 橙 (5YR 7/6)	0.5～2㎜前後の砂粒を多く含む，小石も含む	
〃	161	〃	高坏	坏部	風化気味だがナデか	風化気味だがナデか	良好	橙 (5YR 7/6) 浅黄橙 (7.5YR 8/4)	橙 (5YR 7/6)	0.5㎜前後の砂粒を含む	継目あり
〃	162	S A 17	甕	完形	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナナメ・タテのハケメ 底部 ヨコナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナナメ・ヨコナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	2～5㎜大の石粒やや多く含む	口縁部～胴部外面・胴部下部 スス付着
〃	163	〃	甕	口縁～胴部下部	口縁部 ヨコナデ 胴部～胴部下部 タテナデ ナナメ・タテハケメ	口縁部 ヨコナデ 胴部～胴部下部 ヨコナデ	やや不良	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	2～5㎜大の石粒を多く含む	胴部外面 スス付着
〃	164	〃	甕	口縁	ヨコナデ，ナデ	ナデ・指押え	良好	浅黄橙 (10YR 8/3)	浅黄橙 (10YR 8/4)	微細石粒多く含む	突帯 外面スス付着
〃	165	〃	甕	口縁	ヨコナデ	ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/3)	浅黄橙 (10YR 8/3)	1～3㎜大の石粒，微細粒多く含む	突帯あり
〃	166	〃	甕	口縁	タテ・ヨコナデ	ヨコナデ	不良	にぶい黄橙 (10YR 7/2)	にぶい黄橙 (10YR 7/2)	石英砂多く含む	
〃	167	〃	壺	頸部～底部	風化	肩部～胴部 指押え 底部 ナデ	不良	黄橙 (7.5YR 8/6)	黄橙 (7.5YR 8/6)	1～3㎜大の石粒を含む（胴部～底部）	綾杉状の沈線あり（肩部外面）
〃	168	〃	壺	胴部（肩部）	ヨコナデ	ナデ	不良	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	1～3㎜大の石粒を含み，砂質	突帯あり
〃	169	〃	高坏	坏部～脚上部	口縁部 ヨコナデ 体部 一部ヘラ磨き跡	一部ヘラ磨き，ヨコナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	1～2㎜大の石粒を多く含む	脚上部 一条突帯
〃	170	〃	鉢	口縁～底部	口縁部 ヨコナデ 底部 ナナメハケメ	口縁部 ヨコナデ 底部 一部ハケメ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	2～4㎜大の石粒を多く含む	
〃	171	〃	脚台付鉢	口縁～脚台	ヘラ磨き	ヘラ磨き	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	1～2㎜大の石粒少なく精緻	
〃	172	〃	甕	口縁	ナデ	ナデ	やや不良	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	微細砂多く含み，やや砂質	
〃	173	〃	高坏	坏裾部	ヨコナデ，ハケメ	ヨコ方向のハケメ・ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/3)	浅黄橙 (10YR 8/3)	石粒ほとんどなく精緻	
〃	174	S A 18	高坏	坏部～脚部	口縁部 ヨコナデ 脚部 粗いヘラ	口縁部 ヨコナデ 体部 所々にヘラ	良好	黄橙 (10YR 8/6)	黄橙 (10YR 8/6)	石粒少なく精緻	一部黒斑（体部外面）
32	175	〃	坏蓋	完形	磨き	磨き	良好	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/6)	精緻	
〃	176	〃	坏	完形	口縁部 ヨコナデ 体部 ヘラ跡	口縁部 ヘラ跡	良好	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/6)	砂質	

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
					外面	内面		外面	内面		
32	177	SA18	坏	口縁～底部(付近)	口縁部 ヘラ跡	ナデ	良好	黄橙 (7.5YR7/6)	黄橙 (7.5YR7/6)	石粒ごく少なく砂質	黒塗り？(口縁部外面)
〃	178	〃	壺	頸部～底部	胴部 ヘラ磨き	胴部 工具ナデ	良好	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	石粒なく精緻，やや砂質	黒斑(底部)
〃	179	〃	壺	口縁～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 削りか	胴部 細いナナメハケメ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	1～2mm大の石粒やや含む	ス付着(胴部外面)
〃	180	〃	甕	胴部～底部	ヨコナデ	一部ハケメ	良好	黄橙 (10YR 8/6)	褐灰 (7.5YR4/1)	2～4mm大の石粒少量含み砂質	
〃	181	SA19	壺	口縁部	ハケメ	ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/3)	浅黄橙 (10YR 8/3)	2～3mm砂粒含む	
〃	182	〃	壺	胴部～底部	ナデ	胴部 ハケメ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	1mm内の砂粒を含む	
〃	183	〃	高坏	脚部	上部 左右のハケメ 下部 ヨコ方向のハケメ	下部 ヨコ方向のハケメ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	微粒の砂粒を含む。1～3mmのレンガ色粒を少々含む	外面 ス付着
〃	184	〃	高坏	脚部	磨き	ナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	光る粒，砂粒を含む	
〃	185	〃	高坏	脚部	ナデ	ヨコ方向のナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	光る粒，砂粒含む	
〃	186	〃	高坏	脚部	ナデ	坏部 磨き	良好	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/6)	3mm砂粒をわずかに含む	外部・内面風化著しい
〃	187	〃	高坏	脚部	ヨコ方向の磨き	ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/3)	淡黄 (2.5Y 8/3)	細砂粒を含む	
〃	188	〃	須恵壺	口縁部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	灰 (7.5Y 5/1)	灰 (7.5Y 6/1)	精緻	突帯あり
〃	189	SA20	鉢	口縁部～底部	口縁上部 ハケメのあとナデ 頸部 たて方向のハケメ	ナデ	やや良好	黄橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR6/6)	1～4mm角の砂粒を多く含む	
〃	190	〃	壺	完形	口縁 ヨコ方向のハケメ 頸部 タテ方向のハケメ	口縁～胴部 ナデ 胴部 ナナメ方向のハケメ	良好	黄橙 (10YR 7/6)	黄橙 (10YR 7/6)	2～4mm角の砂粒をわずかに含む	二重口縁 内面 指圧痕あり
〃	191	〃	壺	口縁～底部	口縁～胴部 ヨコ・タテ方向のハケメ 胴部 タテとナナメ方向のハケメ	口縁 ヨコ方向のハケメ 胴部 指によるナデあげ タテ・ナナメ方向のハケメ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	砂粒を含む	内面 指圧痕あり
〃	192	〃	壺	口縁部	ヨコ方向のハケメ	ヨコ方向のハケメ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	淡黄 (2.5Y 8/4)	1mm以下の砂粒を含む	口唇部付近にス付着，線刻
〃	193	〃	高坏	坏部	体部 ナナメ方向の磨き	ナデ	良好	黄橙 (10YR 7/6)	黄橙 (10YR 7/6)	光る粒・1mm内の砂粒含む	
〃	194	〃	甕	口縁部～胴部	口縁部 ヨコ方向のハケメ	口縁部～肩部 ヨコ方向のハケメ 胴部 左右のハケ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	2～3mmの砂粒を含む	
33	195	〃	甕	胴部～底部	タテ・ナナメ方向のハケメ	ナナメ方向のハケメ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	2～4mmの砂粒を含む	内面 ス付着 外面 指頭痕 底部 上げ底
〃	196	〃	壺	胴部～底部	ナナメ方向のハケメ	ナナメ方向のハケメ	良好	黄橙 (7.5YR7/8)	浅黄 (5Y 7/4)	1～2mmの砂粒を含む	
〃	197	SA21	壺	頸部～胴部	表面風化の為調整不明	胴部 一部ナナメ方向のハケメあり	良好	淡黄 (2.5Y 8/4)	淡黄 (2.5Y 8/4)	微砂粒を多量に含む	頸部刻み目突帯
〃	198	〃	甕	口縁部～胴部	胴部 一部ナナメ方向のハケメがみられる	ヨコナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/3)	浅黄橙 (10YR 8/3)	微砂粒を多量に含む	内面 指頭痕
〃	199	〃	甕	口縁部～底部	胴部 かすかにタテ方向のハケメがのこる	胴部 かすかにヨコ方向のハケメがのこる	良好	浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	2～4mm大の石粒をやや多く含む。砂質	
〃	200	〃	甕	口縁部～胴部	ヨコナデ	一部ナナメ方向のハケメがのこる	良好	浅黄橙 (10YR 8/3)	浅黄橙 (10YR 8/3)	1～2mm大の石粒をやや多く含む。砂質強	頸部刻み目突帯
〃	201	〃	甕	胴部～底部	胴部 ややうすいハケメ	ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/3)	浅黄橙 (10YR 8/3)	1～2mm大の石粒やや多く含む。砂質強	
〃	202	SA22 SC1	甕	底部	ハケメのあとミガキか	風化	良好	淡黄 (2.5Y 7/3)	にぶい黄橙 (10YR 7/4) 灰黄褐 (10YR 5/2)	1mm前後の茶，黒色の砂粒多く含む 黒く光る粒。ガラス質の粒含む	
〃	203	〃	甕	完形	口唇部 ヨコナデ 胴部～底部 風化	口縁部 ヘラ磨き	良好	灰白 (10YR 8/2) 浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	光る粒，1mm内の砂粒を多く含む。	
〃	204	SA23	坏身	完形	風化のため不明	ミガキ	良好	橙 (5YR 6/8)	橙 (5YR 6/6)	砂質	
〃	205	〃	坏身	完形	風化	ミガキ	良好	橙 (5YR 6/6)	橙 (5YR 6/6)	精緻	
〃	206	〃	坏身	完形	ナナメヘラ	ヨコ，ナナメヘラ	良好	橙 (7.5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	精緻	
〃	207	〃	甕	口縁～胴部	口縁部 ヨコハケメ（一部）	胴部 タテ方向ハケメ	良好	明黄橙 (10YR 7/6)	明黄橙 (10YR 7/6)	5～8mm大の石粒を少量含むが精緻	
34	208	SA22 SC1	壺	口縁～胴部	口唇部 ヨコナデ 口縁部 ヨコナデ，タテのハケメ 胴部 タテのハケメ	口縁部 ヨコナデ，ヨコのハケメ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	明黄褐 (10YR 7/6)	1mm前後の茶，黒色の砂粒多く含む。黒く光る粒，ガラス質の粒含む	頸部・胴部 突帯 胴部 黒変，ス付着
〃	209	〃	甕	口縁～胴部上部	口縁部 ヨコナデ 胴部 タテのハケメ	口縁部 ヨコナデ 胴部 タテ・ナナメのハケメ	良好	橙 (7.5YR7/6)	黄橙 (10YR 8/6) 灰黄 (2.5Y 4/1)	1mm前後の石英，1～3mmの砂粒を多く含む	内面に黒斑，指頭痕あり，突帯あり
〃	210	〃	甕	口縁～底部	ナデ	ナナメナデ	不良	にぶい黄褐 (10YR 5/4)	にぶい黄褐 (10YR 5/4)	2～7mm大の石粒を多量に含む	口縁部 2条突帯 胴部 刻み目2条突帯，ス付着
〃	211	〃	甕	口縁～胴部上部	口縁部 ヨコナデ細いハケメ 胴部 風化	口縁部 ヨコナデ	良好	橙 (2.5YR6/6)	橙 (2.5YR6/6)	石英砂多量に含む	胴部 ス付着
〃	212	SA22 SC2	壺	肩部	ナデ	ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	5mm大の長石，微細砂含む	2条突帯
〃	213	SA25	甕	口縁	ヨコナデ，2条沈線	ヨコナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/3)	浅黄橙 (7.5YR8/3)	1～3mm大の石粒多く含む	
35	214	SA22 SC3	甕	口縁	ナナメハケメの上をナデ	ヨコ方向のハケメ	良好	橙 (2.5YR6/6)	橙 (2.5YR6/6)	雲母を多量に含む	2条突帯
〃	215	SA25	甕	口縁～底部	口縁部 ヨコナデ 胴部 ハケメ 底部 ヨコハケメ，ナデ	口縁部 ナナメハケメ 胴部 ナナメハケメ 底部 ナデ	良好	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/6)	石粒少，やや砂質	胴部下位 黒斑 胴部 ス付着
〃	216	〃	甕	口縁～胴部下部	ナナメハケメ	口縁部 ヨコハケメ 胴部 ナナメハケメ	やや不良	灰白 (10YR 8/2)～(7.5YR 8/4)	灰白 (10YR 8/2)～(7.5YR 8/4)	2～5mm大の石粒を多く含む	口縁部 ス付着
〃	217	〃	壺	口縁～胴部上部	口縁部 タテ，ヨコのハケメ 胴部上部 タテ，ナナメのハケメ	口縁部 ハケメ 胴部 ナデ，指押え	良好	黄橙 (10YR 8/6)	浅黄橙 (10YR 8/4)	やや砂質，石粒は少	肩部 線刻あり
〃	218	〃	小型甕	完形	胴部 タテのナデ	ナデ	良好	黄橙 (7.5YR8/6)	黄橙 (7.5YR8/6)	1～3mm大の微細石砂を多く含む	
〃	219	〃	浅鉢	完形	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナナメハケメ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナナメハケメ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	2～5mm大石粒多量混	
〃	220	〃	浅鉢	完形	口縁～底部 ヘラ磨き	口縁～底部 ヘラ磨き	良好	明褐灰 (7.5YR7/2)	明褐灰 (7.5YR7/2)	2～5mm大の石粒多	

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
					外面	内面		外面	内面		
35	221	SA25	小型鉢	完形	タテ方向のヘラ磨き	ナナメ，ヨコ方向のヘラ磨き	良好	浅黄橙(7.5YR8/6)	浅黄橙(7.5YR8/6)	石粒少なく精緻	外面黒塗り
〃	222	〃	壺	口縁部～胴部	口縁部 ヨコ方向のヘラ磨き 胴部 一部ヘラ磨きが残る	口縁部 ヨコ方向のヘラ磨き 胴部 ナナメ方向のハケメ	良好	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	石粒少なく精緻	外面 焼付着or黒塗り
〃	223	SA26	甕	口縁部～胴部	ヨコナデ	口縁部 ヨコナデ 頸部 ナナメナデ	良好	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	2～5㎜大の石粒多く含む	
〃	224	〃	小型丸底壺	口縁部～底部	ナデ	口縁部 ナナメナデ 頸部 ヨコ，ナナメナデ	良好	浅黄橙(10YR8/3) 灰黄(2.5Y6/2)	浅黄橙(10YR8/3)	1～3㎜大の細石粒多く含み粗い	
〃	225	〃	小型丸底壺	口縁部～底部	強いヨコナデ	強いヨコナデ	良好	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	石粒少なく精緻	
〃	226	〃	高坏	脚部	ナナメ，タテ方向のヘラ磨き	ナデ	良好	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	微細石が少ないが精緻	
〃	227	SA60	甕	口縁部～胴部	ヨコナデ	ヨコナデ	やや不良	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	2～3㎜大石粒多く含み粗い	
〃	228	〃	壺	口縁部	ヘラ磨き	ヨコナデ	良好	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	1～3㎜大の石粒含み精緻	
〃	229	SA28	坏蓋	完形	ナナメ方向の削りの上をヨコ方向の磨き ヨコナデのあとヨコ方向の磨き	ナデ ヨコナデ	良好	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	1～2㎜の白，灰，うす茶の粒を含む	
〃	230	〃	坏身	完形	ヨコ方向の磨き	ヨコ方向の磨き	良好	橙(5YR6/6)	橙(5YR7/6)	白，灰色の細砂粒を含む	
〃	231	〃	甕	口縁部～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 ヨコ方向のハケメ 縦方向のナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 横方向のハケメ	良好	にぶい橙(7.5YR7/4) 灰黄褐(10YR5/2)	にぶい橙(7.5YR7/4) 灰黄褐(10YR5/2)	3～5㎜大の粒（褐色など）を多く含む	一部スス付着
36	232	〃	甕	口縁部～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 ヘラ(板状のもの？)ナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ	良好	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	3～5㎜大の粒(褐色,白っぽい粒など)を多く含む	
〃	233	〃	甕	口縁部～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 ヨコ方向のハケメ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ヨコ方向のハケメ	良好	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	1～3㎜大の粒を多く含む	
〃	234	〃	甕	底部	ヘラナデ？	ナデ	良好	橙(7.5YR7/6)	にぶい橙(5YR6/4)	3～5㎜大の粒(褐色,白っぽい粒など)を多く含む	
〃	235	SA29	坏蓋	完形	風化している為調整不明	風化している為調整不明	良好	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	砂質	
〃	236	〃	坏身	完形	風化している為調整不明	風化している為調整不明	良好	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	砂質	
〃	237	〃	甕	口縁部～底部	口縁部 ヨコナデ 胴部 タテ方向の削り？	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデがうすくナナメにのこる	良好	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	2～5㎜大の石粒多く含む	外面 胴部スス付着
〃	238	SA30	甕	口縁部～肩部	ヨコナデ	ヨコナデ	やや不良	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	石粒多く含み粗い	口縁部穿孔
〃	239	〃	甕	底部	タテ方向のハケメ	ナデ	良好	淡黄(2.5YR8/3)	淡黄(2.5Y8/3)	精緻	
〃	240	〃	甕	底部	タテ方向のハケメ	ナナメ方向のハケメ	良好	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	石英砂多く，粗い	
〃	241	〃	甕	底部	ミガキ	ナデ	不良	浅黄橙(10YR8/4)	褐灰(10YR4/1)	砂粒多く含み粗い	
〃	242	SA52	甕	口縁～胴部	口縁部 ナナメ，ヨコハケメ 胴部 ナナメハケメ	口縁～胴部 細いナナメハケメ	良好	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	1㎜大の細石粒，やや多く含む	全面スス付着(外面)4条突帯
〃	243	〃	甕	口縁～胴部下部	口縁部 ナデ，ヨコナデ 胴部 ナナメナデ	口縁部 ヨコナデ	良好	黄橙(10YR8/8)	橙(5YR7/6)	1～3㎜大の石英砂多く含む	口縁部スス付着，突帯
〃	244	〃	甕	口縁～胴部上部	口唇部 ヨコナデ 胴部 ナデ	ナデ	良好	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	2～5㎜大石粒やや多く含む	外面スス付着3条突帯
〃	245	〃	甕	胴部下部～底部	風化	風化	やや不良	浅黄橙(7.5YR8/6)	浅黄橙(7.5YR8/6)	2～5㎜大石粒多量に含む	胴部スス付着
〃	246	〃	甕	底部	ヘラ磨き	ナデ	良好	灰褐(5YR5/2)	灰褐(5YR5/2)	黒雲母，石英，長石を多く含む	内面，外面スス付着
〃	247	SA32	甕	口縁	口唇部 ヨコナデ 口縁部 ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ナデ	良好	にぶい橙(7.5YR7/3)	にぶい橙(7.5YR7/3)	1㎜前後の白,うす茶,灰色の粒や3㎜の茶,黒の粒を少量含む	
〃	248	〃	甕	口縁	ヨコナデ	ナデ	良好	浅黄橙(7.5YR8/4)	にぶい橙(5YR7/4)	1～2㎜のこげ茶，灰色の粒を含む	
〃	249	〃	甕	底部	ハケメの上をナデ	ナデ	良好	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	1～2㎜のこげ茶，灰色の粒を含む	内面スス付着？
〃	250	〃	甕	底部	ハケメの痕跡	ナデ	良好	浅黄橙(7.5YR8/3)	明褐灰(7.5YR7/1)	1～2㎜のこげ茶，灰色の粒を含む	
〃	251	〃	高坏	脚部	ハケメ	ハケメ	やや不良	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/3)	1㎜前後の茶，白，灰色の粒を含む	刻み目突帯
37	252	〃	壺	(付近)口縁～底部	ハケメの上をヘラ磨き	口縁部 ナデ 胴部 ヨコ方向ハケメ	良好	にぶい橙(7.5YR7/4) 黒(10YR2/1)	にぶい褐(7.5YR5/3)	1～2㎜の白，茶，黒の粒を含む	
〃	253	SA33	甕	完形	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 ナデ～指押え	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 ナデ～指押え	良好	橙(2.5YR6/6)	明黄褐(10YR6/6)	2㎜前後の黒，灰，茶の粒を含む	上げ底
〃	254	〃	鉢	(半完形)口縁～底部	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 ナデ	ナデ，一部磨き	良好	橙(7.5YR7/6)	明黄褐(10YR7/6)	1～4㎜の砂粒を多く含む	刻み目突帯 底部 黒斑
〃	255	〃	壺	完形	口縁部 ヨコナデ，ナナメミガキ 胴部～底部 タテのハケメ	所々に指押え	良好	橙(5YR7/6) にぶい黄橙(10YR7/4)	暗灰黄(2.5Y5/2) にぶい黄橙(10YR7/4)	1～3㎜の茶，白，灰色の石粒,石英を少し含む	胴部 線刻
〃	256	SA34	壺	底部	粗い削りのあとナデ	剝離	良好	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	3㎜弱の砂粒を含む	
〃	257	SA35	甕	完形	ナデ	タテのナデ	良好	橙(5YR7/6) 浅黄橙(10YR8/4)	橙(5YR6/6) にぶい黄橙(10YR7/4)	1～2.5㎜の砂粒を多く含む	胴部スス付着
〃	258	〃	小型甕	口縁～底部	タテのハケメ	口縁部 ヨコハケ 胴部 ヨコ，ナナメ，タテのハケメ	良好	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	0.3～3㎜の砂礫を少し含む	口縁，胴部黒斑
〃	259	〃	高坏	坏部	口縁からタテ→ヨコ→タテの磨き	ヘラ跡	良好	明黄褐(10YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	1.5㎜の鉱物粒,0.5～3.5㎜の酸化鉄塊を少量含む	
〃	260	〃	高坏	脚部	ナデ，一部ヘラ磨き	ハケメの上をナデ	良好	橙(7.5YR7/6)	明黄褐(10YR5/6)	1～2.5㎜の白，茶，黒の砂粒や透明の砂粒を含む	すかしが4か所ある
〃	261	SA36	甕	口縁部～底部	口縁部 斜ナデのあとヨコナデ 胴部 ヨコナデ，粗いハケ状のナデのあと丁寧な縦ナデ(下から上)	口縁部 ヨコナデ 胴部 横，斜方向のナデ	良好	にぶい黄橙(10YR7/4)	黄橙(10YR8/8)	0.5～3㎜大の白,灰,うす茶,茶色の粒を含む	内面指押え
〃	262	〃	長頸坩	完形	斜，ヨコナデ	斜，ヨコナデ	良好	橙(7.5YR8/6,7/6)	橙(5YR7/6)	1～2㎜程度の白,うす茶,茶色の粒，透明な粒を含む	外面底部黒斑
〃	263	SA38	高坏	完形	坏部 ヨコ磨き 脚部 縦・ヨコ磨き	坏部 ヨコ磨き 脚部 上部 縦方向のナデ 下部 ヨコナデ	良好	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい橙(10YR7/4)	2㎜前後の茶，灰色の粒を含む	
38	264	SA36	甕	完形	ナデ	ナデ	良好	浅黄橙(10YR8/4)	橙(5YR7/6)	1～3㎜大の灰，うす茶，茶色の粒を多く含む	外面胴部スス付着 外・内面 指押え

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器部	文・様および調整		焼成	色調		胎土	備考
					外面	内面		外面	内面		
38	265	SA37	甕	完形	口縁部～胴部 ハケメ 底部 ナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 ナデ	良好	にぶい橙 (5YR 6/3)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	1～3㎜大のうす茶，茶灰色の粒を多く含む	外面口縁部 指押え
〃	266	SA38	甕	口縁部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/3)	淡黄 (2.5Y 8/4)	3㎜以下の茶，灰，白の粒を含む	外面 刻目突帯
〃	267	〃	甕	口縁部 ～底部	左斜方向のハケメ ナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ	良好	橙 (5YR 6/6)	橙 (5YR 6/6)	1～3㎜大の白，灰，うす茶，茶色の粒を含む	外面 胴部 スス付着
〃	268	〃	甕	口縁部 ～胴部	ヨコナデ 縦方向のハケメ	ナデ	良好	淡黄 (2.5Y 8/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	0.5~3㎜大の灰，茶色の粒を含む	
〃	269	〃	甕	胴部 ～底部	ナデ ハケメ	ハケメ	良好	橙 (5YR 7/6)	にぶい黄 (2.5Y 8/3)	1～4㎜大の白，灰，うす茶，茶色の粒を含む	外面 底部 布痕あり
〃	270	〃	壺	頸部 ～底部	ナデ	ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	灰黄 (2.5Y 6/2)	1～3㎜大の灰，うす茶，茶色の粒を含む	外・内面 指押え
〃	271	〃	高坏	坏部	ナデ	風化著しい為調整不明	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	橙 (7.5YR7/6)	0.5~2㎜大の灰，うす茶，茶色の粒を多く含む	
〃	272	〃	高坏	脚部	ナデ	ナデ	良好	橙 (7.5YR7/6)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	0.5~2㎜大の白，灰，茶色の粒を多く含む	
〃	273	〃	高坏	脚部	ナデ	ナデ	良好	橙 (5YR 7/6)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	1㎜前後の白，うす茶，茶，灰色の粒を多く含む	内面指押え
〃	274	〃	壺	口縁部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄 (2.5Y 7/6)	浅黄 (2.5Y 7/6)	1㎜前後の灰，茶色の砂粒を含む	
39	275	SA39	甕	完形	口縁部～胴部 ハケメ 底部 ナデ	ヨコ方向のハケメのあとナデ	良好	橙 (7.5YR6/6)	橙 (7.5YR6/6)	1㎜前後の白，黒，灰の粒，金雲母を含む	外面口縁 台円形状の突帯 外面 4条の三角突帯 内面 指頭圧
〃	276	〃	壺	完形	頸部 縦方向のミガキ 肩部～胴部 ヨコ，タテ，ナナメのミガキ，ナデ	ヨコナデ，指頭痕	良好	橙 (7.5YR6/6)	橙 (5YR 6/6)	0.5㎜前後の石英と1～2㎜の砂粒を多く含む	外面口縁部 沈線・刻目 肩部 二二条二三角突帯 櫛描波状文
40	277	〃	甕	口縁部 ～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 ハケメ	ハケメ 指押え	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	3㎜以下の遺明・白・茶・灰黒の砂粒を含む	
〃	278	〃	甕	完形	ナデ	ナデ，指押え	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	橙 (2.5YR6/6)	石英・金雲母含む 0.5~1㎜前後の砂粒含む	外面口縁部 沈線 外面胴部 三条三角突帯 スス付着・黒変
〃	279	〃	甕	完形	口縁部 ヨコナデ 胴部 ハケメ 底部 ハケメのあとミガキ	ナデ，指押え	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	1㎜前後の石英・1～3㎜の砂粒を多く含む	外面口唇部 8本の刻み 外面口縁部 凹線 底部 二条三角突帯黒斑
〃	280	〃	甕	完形	口縁～胴部 ヨコナデ・ハケメ 底部 タテ方向のハケメ，指頭痕	ヨコ方向のハケメ	良好	橙 (5YR 6/6)	橙 (5YR 6/6)	1㎜前後の石英・1～2㎜の粉っぽい白色粒と赤褐色を含む	口縁 沈線 胴部 タテ方向に2条の又櫛あり，横沈線 外面スス付着
〃	281	〃	甕	完形	口唇部 ヨコナデ 口縁～胴部上部 ナナメハケメ 胴部下部～底部 タテミガキ	口縁～胴部下部 ナナメ，ヨコのハケメ 底部 ナデ	良好	橙(7.5YR6/6) にぶい黄(2.5Y 6/4)	橙(5YR 7/6) 黒(5Y 2/1)	1㎜前後の透明，白，黒，灰，茶の砂粒を含む	
〃	282	〃	甕	口縁 ～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 タテナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 タテナデ	良好	灰(7.5YR5/1) にぶい褐(7.5YR5/3)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	1㎜前後の透明，白，黒灰，茶の砂粒を含む	
〃	283	〃	浅鉢	完形	口縁部 ヨコミガキ 胴部 タテハケメのあとナナメミガキ 底部 ヨコミガキ	口縁部～胴部 粗いミガキ 底部 ナデ	良好	明赤褐 (2.5YR5/6)	明赤褐 (2.5YR5/6)	1~2㎜の角閃石，石英を多く含み 1~3㎜の白，赤褐色の砂粒も含む	口縁～底部付近 黒斑 継目あり
〃	284	〃	壺	口縁 ～肩部	口縁部 ヨコナデ 肩部 ミガキ	ヨコナデ，一部指押え	良好	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/6)	1㎜前後の透明，白，茶，灰，黒色の砂粒を含む	
〃	285	〃	壺	肩部 ～底部	肩部 ミガキ 底部 ミガキ 胴部 ハケメのあとミガキ	ナデ	良好	明黄褐 (10YR 7/6)	橙 (7.5YR6/6)	1㎜前後の石英，角閃石や1～3㎜の砂粒を多く含む	黒斑 一条の凹線
41	286	〃	壺	口縁 ～底部	口唇部 沈線 胴部～底部 ミガキ	ナデ	良好	黄(10YR 7/8) 橙 黒(10YR 2/1) 褐	明黄褐 (10YR 7/6)	精緻，細砂粒を含む	胴部～底部 黒斑
〃	287	SA40	甕	口縁～胴部(上部)	口縁部 ヨコナデ 胴部上部 ナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部上部 ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3-7/4)	1～3㎜大の茶，灰色の粒を含む	スス付着
〃	288	〃	甕	頸部 ～底部	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/3-7/4)	1～4㎜大の粒を多く含む	胴部下部 スス付着
〃	289	〃	甕	胴部下部 ～底部	ナデ	胴部上部 ナデ，指押え	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	浅黄橙 (10YR 8/3)	1～2㎜の茶，こげ茶の粒，光る粒を含む	胴部下部 スス付着
〃	290	〃	甕	胴部 ～底部	ナデ	ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	0.5~2㎜大の白，灰，うす茶の粒を含む	
〃	291	〃	ミニチュア鉢	完形	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	0.5~1㎜の白，灰，うす茶，茶色の粉や透明な粒を含む	一部黒変
〃	292	〃	高坏	脚部	ヘラナデ，ヨコナデ	指押えのあとナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	1～2㎜大の白，茶色の粒や透明な粒を含む	
〃	293	〃	器台	脚部	ナデ	ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	橙 (7.5YR6/6)	0.5~3㎜大の白，うす茶，茶色の粒を多く含む	
〃	294	SA41	甕	口縁～胴部(上部)	ヨコナデ，左上りのハケメ	口縁部 ヨコナデ 胴部上部 左上りのナデ	良好	黄橙 (10YR 8/6)	にぶい褐 (7.5Y 5/4)	1～2㎜の茶褐色の砂粒を含む	内面 スス付着 一条突帯
〃	295	〃	壺	口縁 ～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 細ハケメのあとナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 細ハケメのあとナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	明黄褐 (10YR 7/6)	砂粒を少量含む	
〃	296	〃	高坏	坏部～脚部(上部)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	良好	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	1~2㎜位の砂粒を含む	
〃	297	〃	高坏	坏部上部	ヨコナデ，ナデ	ナデのあとヘラ磨き	良好	淡橙 (5YR 8/4)	淡橙 (5YR 8/4)	1～2㎜の砂粒を少量含む	
〃	298	SA42	甕	口縁	ヨコナデ	ナデ	良好	明褐 (7.5YR5/6)	橙 (5YR 6/6)	0.2~2㎜の白，灰，茶の細砂粒を含む	
〃	299	SA43	壺	口縁	ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	2㎜前後の茶，灰の粒を含む	炭化物付着
〃	300	SA44	壺	口縁	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	精緻，2㎜大の茶の砂粒を多く含む	櫛描波状文
〃	301	〃	壺	口縁 ～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ	口縁部 ヨコナデ 肩部部 しぼり，胴部 指頭痕	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	0.2~0.5㎜大の茶の砂粒，灰茶等の細砂粒も含む	頸部 黒斑
〃	302	〃	ミニチュア	完形	口縁部 ナデ 胴部 ヘラナデ	ヘラナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	浅黄橙 (10YR 8/3)	細砂粒を含む	一部黒斑
〃	303	〃	甕	胴部 ～底部	タテ方向ナデ	ナデ	良好	明黄褐 (10YR 7/6)	にぶい黄 (2.5Y 6/3)	細砂粒を多く含む	胴部 スス付着
42	304	SA45	小型壺	完形	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 タテのナデ	口縁部 ヨコナデ 肩部～胴部 ハケメ，底部 ナデ	良好	浅黄 (2.5Y 7/4)	にぶい黄橙 (10YR7/3-7/4)	0.5~2㎜大のうす茶，茶，灰色の粒を多く含む	尖底 口縁 スス付着
〃	305	〃	小型丸底壺	形形	口縁部 ヨコナデ 肩部～底部 ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR7/3-7/4)	にぶい橙 (7.5YR7/4)	1～2㎜大のうす茶，茶，灰色の粒を多く含む	
〃	306	SA46	甕	底部	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR7/4)	橙 (7.5YR7/6)	0.2~2㎜の茶，灰の砂粒を多く含む	
〃	307	SA47	壺	口縁	風化	ヨコナデ	良好	橙 (5YR 7/6)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	1㎜前後の石英と3㎜位の砂粒を多く含む	
〃	308	〃	甕	胴部 ～底部	胴部 ケズリあげのハケメ 底部 ナデ	ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/3)	浅黄橙 (10YR 8/3)	3～5㎜の粒が多量に含む	胴部下部 黒斑

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
					外面	内面		外面	内面		
42	309	SA47	高坏	脚部	ヨコナデ，ヘラ磨き	タテ方向にナデ，ヨコナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/2)	浅黄橙(10YR 8/3)	細砂粒を含む	
〃	310	SA48	甕	口縁～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 タテのハケメ	口縁部 ヨコのハケメ 胴部 風化	良好	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	2㎜前後の透明，黒，灰，白，茶色の砂粒を含む	三条，突帯
〃	311	〃	甕	口縁～底部付近	ヨコナデ	ナデ	良好	褐灰(10YR 4/1)～淡黄(2.5Y 8/4)	褐灰(10YR 4/1)～淡黄(2.5Y 8/4)	2㎜前後の透明，黒，灰，茶色，光る黒の粒を含む	一条，突帯
〃	312	〃	甕	底部	ミガキ，ヨコナデ	ナデ	良好	浅黄橙(10YR 8/3)	———	2㎜前後の透明，黒，灰，白，茶色の砂粒を含む	
〃	313	SA49	甕	完形	口縁部～胴部 工具あとナデ 底部 ナデ	口縁部 工具のあとナデ 胴部 ハケのあとナデ	良好	にぶい橙(5YR 7/4)～にぶい黄橙(10YR 7/3)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	0.5～1㎜大の砂粒，黒く光る粒ガラス質の粒を含む	口縁～胴部黒変
〃	314	〃	甕	完形	ナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 ナデ	良好	浅黄橙(10YR 8/4)	浅黄橙(10YR 8/4)	0.5～2㎜大の砂粒，ガラス質の粒を含む	胴部 黒変
〃	315	〃	甕	口縁～胴部(下位)	口縁部 タテのハケメ 胴部下位 ハケメ	口縁部 ヨコナデ 胴部上位 ナナメハケメ下位ナデ	良好	浅黄(2.5Y 7/3)	明黄褐(10YR 7/6)	0.5～1㎜大の粒，2～3㎜大の茶色の粒を含む	全面 スス付着
〃	316	〃	甕	口縁～胴部(下位)	ハケのあとナデ	ハケのあとナデ	良好	淡黄(2.5Y 8/3)	淡黄(2.5Y 8/4)～暗灰黄(2.5Y 5/2)	0.1～0.5㎜大の砂粒，黒く光るもの，ガラス質の粒を多含	
〃	317	〃	甕	底部	タテ方向ヘラ状工具	風化	良好	橙(5YR 6/6)	にぶい橙(7.5YR 7/4)	0.5～1㎜の茶，うす茶，半透明の砂粒ガラス質のもの，黒く光る粒を含む	
〃	318	〃	甕	底部	ナデ，ヨコナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/3)	にぶい黄橙(10YR 7/4)～灰黄(10YR 5/2)	0.5～3㎜前後の砂粒を多量にガラス質の粒も含む	
43	319	〃	壺	半完形	胴部～底部 タテヘラ磨きか	風化	良好	浅黄橙(10YR 8/4)	にぶい黄橙(10YR 7/4)～暗灰黄(2.5Y 5/2)	0.2～3㎜の灰色，褐色の砂粒を含む	所々にスス付着
〃	320	〃	壺	半完形	口縁部 ヨコナデ 肩部～底部 ナデ	口縁部 ヨコナデ 肩部～底部 ナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/4)	にぶい橙(7.5YR 7/4)	0.2～1㎜の褐色，灰色の砂粒，石英，長石を含む	肩部～底部 スス付着(外，内面)
〃	321	〃	壺	口縁部～底部	ナデ・ハケメ	ナデ・ハケメ	良好	にぶい橙(7.5YR 7/4)	黄灰(2.5Y 5/1)	ガラス質のもの含む 0.5～2㎜弱の砂粒多含む	外面 胴部スス付着
〃	322	〃	壺	口縁部～肩部	口縁部 ヨコナデ 肩部 ナデ？	口縁部 ヨコナデ 肩部 ナデ？・指押え	良好	にぶい橙(7.5YR 6/4)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	1㎜前後の白，黒，茶の粒を含む	
〃	323	〃	壺	頸部～底部	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙(5YR 6/4)	浅黄橙(10YR 8/4)	黒く光るもの，ガラス質のもの細砂粒含む	外面 スス付着
〃	324	〃	ミニチュア	完形	口縁部～胴部 ヨコナデ 底部 ナデ	ヨコナデ	良好	橙(7.5YR 7/6)	橙(5YR 7/6)	0.5～2㎜の石英，長石，白色の砂粒を含み，角閃石を少量含む	
〃	325	〃	脚台付鉢	口縁部～底部	口縁部 タテナデ 胴部 ナデ，底部ヨコナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 ナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/4)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	0.2～1㎜の褐色，灰色の砂粒を含み，石英，長石を少量含む	内面 胴部～底部黒変
〃	326	〃	高坏	口縁部～脚部	坏部 ヨコナデ・ミガキ 脚部 縦方向のミガキ，ハケメ	坏部 ミガキ 脚部 ナデ・ハケメ	良好	橙(7.5YR 7/6)	橙(7.5YR 7/6)	黒く光るもの含む。ガラス質のもの，0.5㎜大の茶，白保色などの細砂粒多含	
〃	327	〃	高坏	坏部	ナデ	ヨコナデ ナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/4)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	0.5～1㎜弱の茶，半透明の砂粒多く含む	外面 スス付着
〃	328	〃	高坏	坏部	ヨコナデ？	ミガキ	良好	黄橙(10YR 8/6)	淡黄(2.5Y 8/4)	黒く光るもの，ガラス質のもの含む，灰，うす茶色などの細砂粒含む	
〃	329	〃	高坏	完形	ミガキ	坏部 ミガキ 脚部 ナデ	良好	明赤褐(5YR 5/6)	にぶい赤褐(5YR 5/3)	ガラス質のもの多く含む 黒く光るもの少々含む 細砂粒，1㎜弱の砂粒含む	外面 坏部黒変？
〃	330	〃	高坏	坏部～脚部	坏部 ナデ 脚部 ミガキ	坏部 ナデ 脚部 ヨコナデ・ナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/4)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	2㎜前後の茶，灰，白の粒を含む	
〃	331	〃	高坏	坏部～脚部	ミガキ ヨコナデ	坏部 ミガキ 脚部 ハケメ・ナデ	良好	黄灰(2.5Y 5/1)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	ガラス質のもの多く含む 黒く光るもの，0.5㎜大の白茶などの細砂粒多く含む	
44	332	SA58	甕	口縁部～胴部	ヨコナデ 口縁部 凹線 胴部 三条三角突帯	ヨコナデ・ナデ	良好	にぶい橙(7.5YR 7/4)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	黒く光るもの，ガラス質のもの，0.5～1㎜の灰・黒色などの砂粒含む	外面 黒変・スス付着部分あり
〃	333	〃	甕	口縁部～胴部	ヨコナデ・ハケメ 口縁部 凹線 胴部 三条三角突帯	ナデ・ハケメ	良好	にぶい橙(7.5YR 7/4)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	ガラス質・半透明・黒く光るもの含む，0.1～1㎜大の茶，灰色などの砂粒多く含む	外面 スス付着
〃	334	〃	甕	底部	ナデ	ナデ	良好	淡黄(2.5YR 8/4)	灰黄褐(10YR 5/2)	ガラス質，半透明・黒く光るもの含む，0.1～2㎜弱の黒・茶・灰色などの砂粒含む	
〃	335	〃	甕	底部	ナデ	ナデ	良好	灰黄(2.5YR 6/2)	褐(7.5YR 4/3)	金雲母多く含む ガラス質，3㎜大の粒少々含む	内面 スス付着
〃	336	SA50	壺	口縁部～肩部	縦方向のハケメ	口縁部 斜め方向のハケメ 肩部 ナデ	良好	浅黄橙(7.5YR 8/6)	浅黄橙(7.5YR 8/6)	2～3㎜の砂粒を多く含む	
〃	337	〃	甕	口縁部	ヨコナデ 斜め方向のハケメ	ヨコナデ	良好	浅黄橙(10YR 8/3)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	1～4㎜大の砂粒を多く含む	スス付着
〃	338	〃	甕	口縁部～胴部	ヨコナデ・ハケメ 線刻有り	口縁部 ヨコナデ 胴部 斜方向のハケメ	良好	浅黄橙(10YR 8/4)	浅黄橙(10YR 8/4)	3～5前後の石を多く含む	
〃	339	〃	甕	口縁部～胴部	ヨコナデ 口縁部 凹線 胴部 （2条？）突帯	ヨコナデ	良好	浅黄橙(7.5YR 8/4)	浅黄橙(7.5YR 8/4)	1㎜弱の石英を少しと，1～2㎜前後の砂粒を多く含む	
〃	340	〃	甕	口縁部～胴部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/4)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	1㎜前後の石英と角閃石を少しと，3㎜までの砂粒を多含む	
〃	341	〃	甕	口縁～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 5/4)～灰黄褐(10YR 5/2)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	1～3㎜大の灰，うす茶，茶色の粒を含む	外面 スス付着
〃	342	〃	高坏	坏部口縁	ヨコナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/4，9/3)	にぶい黄橙(10YR 7/4，9/3)	1～3㎜大の灰，うす茶，茶色の粒を含む	
〃	343	〃	壺	口縁	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	黄橙(10YR 8/6)	浅黄橙(7.5YR 8/4)	1～3㎜の砂粒を含む	櫛描波状文
〃	344	〃	壺	口縁	ヨコナデ，一部磨き	ヨコナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/3)～浅黄橙(10YR 8/4)	浅黄(2.5Y)	0.5～3㎜大の白，う茶，茶，灰色の粒を含む	
〃	345	〃	壺	口縁	タテ，ヨコナデ	指押えの後ヨコナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/3)～浅黄橙(10YR 8/4)	橙(7.5YR 7/6)	1～4㎜大の白，うす茶，茶色の粒を含む	
〃	346	〃	ミニチュア	口縁～底部(付近)	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 ナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 ナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/4)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	1～3㎜大の白，灰，茶色の粒を含む	
〃	347	〃	鉢	完形	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ 底部 指押え	口縁部 ヨコナデ 胴部 ハケメ 底部 指押え	良好	にぶい黄橙(10YR 7/4)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	1～2㎜大の茶，灰色の粒を含む	
〃	348	〃	高坏	脚部	ナデ	坏部 ナデ 脚部 風化	良好	にぶい黄橙(10YR 7/4)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	0.5～2㎜大の灰，黒，茶色の粒や透明な粒を含む	
〃	349	〃	甕	底部	ヨコナデ，指頭圧	ナデ，指押え	良好	にぶい橙(7.5YR 7/4)	褐灰(10YR 4/1)	1～2㎜大の茶，灰の粒を含む	
〃	350	〃	甕	底部	ヨコナデ，指頭圧	ナデ	良好	にぶい黄橙(10YR 7/3)	にぶい黄橙(10YR 7/4)	2～3㎜の茶，黒の粒を含む	
〃	351	〃	甕	胴部下位～底部	胴部下位 ナデ 底部 指頭圧	胴部下位 ナデ 底部 指ナデ（タテ）	良好	にぶい橙(7.5YR 7/4)	橙(7.5YR 7/6)	1～2㎜の茶，灰色の粒を含む	
〃	352	SA51	甕	底部	タテのハケメ？	剝離	良好	浅黄橙(10YR 8/3)	———	2㎜前後の透明，黒，灰茶，白色の砂粒を含む	

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
					外面	内面		外面	内面		
44	353	SA53	甕	口縁～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナナメハケメ,ミガキ?	ヨコハケメ後ヨコナデ	良好	にぶい橙(7.5YR6/4)	にぶい橙(5YR6/4)	0.3～3mmの黄,白色の粒と金雲母を含む	三条突帯
〃	354	〃	甕	口縁～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 タテ・ナナメのハケメ	ナデ	良好	にぶい橙(5YR6/4)	にぶい橙(5YR6/4)	0.5～2mmの褐色,うす茶,白色の粒を含む	
〃	355	〃	甕	口縁～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴部 タテのハケメ	口縁部 ヨコナデ 胴部 タテのナデ	良好	淡黄(2.5Y8/3)	淡黄(2.5Y8/3)	0.2～2mmの褐色,灰色の砂粒や石英,長石,角閃石を少含む	胴部 スス付着
〃	356	〃	鉢	口縁	タテのナデ	ヨコ,ナナメのハケメ	良好	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	0.2～2mmの石英,長石や褐色,灰色の砂粒を含む	スス付着
〃	357	〃	甕	口縁～底部付近	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部付近 ヘラ磨き	口縁部 ヨコナデ	良好	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい橙(7.5YR7/4)	0.2～2mmの褐色,灰色の砂粒や石英,長石を少量含む	底部付近 黒変
〃	358	〃	壺	口縁～肩部	タテハケメ後ヨコ・タテヘラ磨き	ヨコナデ後ヨコヘラ磨き	良好	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	0.5～3mmの褐色,黒色,白色の粒や石英,長石を少し含む	肩部 沈線あり 所々に黒変
45	359	〃	甕	完形	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 ナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 風化	良好	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	0.5～2mmの褐色,灰色の砂粒を多く含む	三条突帯
〃	360	〃	壺	完形	風化	胴部 ヨコナデ 内面 風化	良好	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	0.5～3mmの褐色,灰色の砂粒や石英,長石を少含	三条突帯
〃	361	〃	壺	口縁部～肩部	ハケメの後 ヘラミガキ	ハケメ ヨコナデ	良好	淡黄(2.5Y8/3)	淡黄(2.5Y8/3)	1mm前後の黒,褐色の粒含む,石英,長石,角閃石(?)を少含	
〃	362	〃	甕	底部	タテナデの後 タテヘラミガキ	風化のため調整不明	良好	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/4)	0.2～2mmの石英・長石や褐色の粒を含む	内面 スス付着
〃	363	〃	甕	胴部～底部	風化のため調整不明	胴部 風化のため調整不明 底部 ハケメ	良好	にぶい橙(7.5YR7/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	0.2～2mmの石英・長石や灰色・クリームの砂粒を含	
〃	364	〃	甕	胴部～底部	タテハケメ	ヨコハケメ 指押え	良好	にぶい黄橙(10YR7/4)	淡黄(2.5Y8/4)	0.2～2mmの石英,長石,角閃石(?),褐色の砂粒を含む	
〃	365	SA54	壺	口縁部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	橙(7.5YR7/6)	にぶい橙(7.5YR7/4)	きめ細かい。灰,茶の2mm程の砂粒少し含む	
〃	366	〃	甕	口縁部	風化著しく調整不明	ヨコナデ (風化著しく調整不明)	良好	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	0.2～2mm程の灰,茶等の砂粒を多く含む。石英,角閃石を含む,きめ細かい	
〃	367	〃	甕	口縁部	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄(2.5Y7/3)	灰,茶,黒等の細砂粒を多く含む,角閃石,石英を含む,きめ細かい	
〃	368	〃	甕	口縁部	タテ,ヨコ方向のミガキ	ヨコ方向のミガキ	良好	橙(7.5YR7/6)	にぶい橙(7.5YR7/4)	きめ細かい,細砂粒,2mm程の褐色の粒を含む	
〃	369	〃	高坏	坏部～脚部	ヨコナデ 剝離しているため調整不明	風化著しく調整不明	良好	にぶい黄橙(10YR7/4)	黒褐(10YR3/1)	きめ細かい,0.2～3mm程の茶褐等の砂粒を多く含む,ガラス質の小さな粒を含む	
〃	370	〃	壺	口縁部～底部	ハケメ ミガキ	ナデ ハケメ	良好	浅黄(2.5Y7/3)	浅黄橙(10YR8/4)	きめ細かい,灰,黒,茶等等の0.2～2mm程の砂粒を多く含む石英含む	外面 胴部～底部スス付着
〃	371	〃	壺	胴部～底部	風化している (ヘラミガキ)	剝離している為調整不明	良好	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/3)	きめ細かい,ガラス質のもの含む,黒,茶,褐等の0.2～2mm程の砂粒を多く含む	外面 底部線刻あり
〃	372	SA55	壺	口縁部～胴部	ハケメの後ミガキ	口縁部 ミガキ 胴部 風化しているがわずかにハケメらしきものがのこる	良好	にぶい黄橙(10YR6/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	きめ細かい,0.5～2mm程の灰,茶,黒等の砂粒を多く含む石英,角閃石を含む	口縁部 凹線 肩部,胴部 三条二角突帯スス
46	373	〃	甕	口縁部～胴部	ハケメ ハケメの上をミガキ	ハケメ 指頭痕	良好	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	きめ細かい,0.2～2mmの茶灰の粒多く含む。石英を含む	口頸部 4条の刻み目り 口縁部 凹線 一条三角突帯
〃	374	〃	甕	完形	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 ハケメ,ヘラミガキ	口縁部 ハケメ 胴部～底部 ナデ?	良好	明黄褐(10YR6/6)	明黄褐(10YR7/6)	きめ細かい,0.5mm以下の砂粒,2mm程の灰,茶,褐色の砂粒を多く含む	口縁部 凹線 胴部 二条三角突帯 スス付着,平底
〃	375	SC1	甕	口縁部～底部	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 ナデ	ナデ	良好	明黄褐(10YR7/6)	にぶい黄橙(10YR7/4)	きめ細かい 0.2～2mm程の灰,茶の砂粒多く含む	外面胴部 スス付着 内面胴部 黒斑
〃	376	〃	壺	胴部～底部	タテ,斜め方向のナデ	縦・ヨコ・斜め方向のナデ	良好	浅黄橙(7.5YR8/4)	灰黄(2.5Y7/2)	1mm前後の石英と1～4mmの砂粒多く含む,1～4mmの赤褐色の砂粒も多く含まれる	外面 黒斑
〃	377	〃	壺	口縁部～底部	口縁部 ヨコナデ 胴部 ハケメ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ハケメ	良好	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	1～2mmの茶・灰色の粒を含む	外面 胴部スス付着
〃	378	〃	壺	胴部～底部	ハケメ ナデ	部分的にハケメ ナデ	良好	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	きめ細かい 0.2～2mm程の灰・茶等の砂粒を多く含む	外面胴部 スス付着 平底
〃	379	〃	小型壺	頸部～胴部	ナデ	ナデ	良好	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	黒・茶の細粒含む	
〃	380	SC2	小型壺	ほぼ完形	ナデ? 縦方向のミガキ	ナデ	良好	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	きめ細かい,石英などの細砂粒と1～4mmのうす茶,灰色,褐色の砂粒を多く含む	
〃	381	〃	高坏	坏部	ヨコ・ナナメヘラ磨き	ヘラ磨き	良好	にぶい橙(7.5YR8/4)	にぶい橙(7.5YR7/4)	1～3mmのうす茶,灰色,褐色の砂粒や石英などの細砂粒も含む	
〃	382	SC5	甕	口縁～胴部(上位)	口縁部 ナデ 胴部 ヘラ磨き	口縁部 ヨコナデ	やや不良	黄灰(2.5Y5/1)	浅黄(2.5Y7/3)	石砂粒含む	孔列刺突文 口縁部三角刻目突帯 口縁部,胴部
〃	383	SC10	壺	胴部	ヨコ・ナナメのハケメ	ヨコ・ナナメのハケメ	良好	にぶい黄橙(10YR7/4)	灰(5Y5/1)	2mm前後の透明・白・黒・灰・茶の粒や黒く光る粒を含む	
〃	384	SC11	甕	完形	口縁部 風化 胴部～底部 タテ・ヨコのハケメ	口縁部～胴部 タテ・ヨコ・ナナメハケメ 底部 指押え	良好	にぶい橙(7.5YR7/4)	橙(7.5YR7/6)	3mm前後の粒を含む	
47	385	〃	甕	完形	口縁部～胴部 ナデ 底部 指押え	口縁部 指押え 胴部 ハケメ 底部 指押え	良好	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	1～3mmのうす茶,白,灰色の粒や石英を含む	内面 黒変
〃	386	〃	器台	脚部	タテのミガキ	ナデ,指押え	良好	橙(7.5YR8/6)	黄橙(7.5YR8/6)	1～3mmの白,灰,うす茶の粒,透明の粒を含む	
〃	387	〃	浅鉢	口縁～胴部	磨き(ハケメの跡)	磨き(ハケメの跡)	良好	にぶい黄橙(10YR7/4)	浅黄橙(10YR8/4)	1～4mmの砂粒,石英を少し含む	胴部 黒斑
〃	388	〃	小型甕	完形	ナデ	口縁部 ヨコのナデ 胴部～底部 ヨコ・ナナメハケメのあとナデ	良好	浅黄橙(10YR8/4)	灰黄褐(10YR6/2)	0.5～1mmの砂粒を含む	
〃	389	SC12	高坏	坏部	風化	風化	良好	浅黄橙(7.5YR8/4)	(7.5YR8/4)橙 (5Y3/1)黒	1～3mm大の白,うす茶,茶色の粒を含む	
〃	390	〃	甕	底部	ナデ	指押えのあとナデ	良好	にぶい黄橙(10YR8/3)	にぶい橙(7.5YR7/4)	1～3mm大のうす茶,茶,灰色の粒を多く含む	あげ底
〃	391	〃	甕	胴部下位～底部	胴部下位 ナデ 底部 指押え	ハケメ	良好	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	0.5～3mm大の灰,うす茶,茶色の粒を含む	
〃	392	SC13	甕	完形	口縁部 右下りのハケメの上をナデ 胴部 ハケメ(一部)底部 ヨコナデ	口縁部 ヨコハケメ 胴部～底部 摩研	良好	橙(7.5YR7/6)	(5YR6/6)橙 にぶい黄橙(10YR7/4)	1～5mmの茶,灰,白,透明,光る粒を多く含む	口縁部～胴部 スス付着(外面) 胴部下位 一部黒変(内面)
〃	393	〃	甕	完形	口縁部 ナデ 底部 指押えナデ 胴部 右下り,タテのハケメ	口縁部 指押圧,ナデ 胴部～底部 右下りのハケメ(一部)	良好	浅黄色(2.5Y8/3)	浅黄色(2.5Y8/3)	1～4.5mmの砂粒や細砂粒も含む	頸部外面 工具跡
〃	394	〃	甕	完形	ナデ	ナデ(タテ)	良好	明黄褐(10YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	1～5.5mmの茶,黒,灰色の砂粒を多く含む	胴部 スス付着(内面)
〃	395	〃	甕	口縁～胴部	口縁部 タテのナデ 胴部 ナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部 ナデ	良好	黄橙(7.5YR7/8)	黄橙(7.5YR8/6)	0.5～4.5mm茶,灰,白色の砂粒を含む	外面全体 スス付着
〃	396	〃	器台	脚部	ナデ,指押圧,タテ・ナナメのハケ	ナデ,ヘラ跡,ヨコハケメ	良好	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	細砂粒を多く含む	透かし孔が周囲に推定6コ

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
					外面	内面		外面	内面		
48	397	SC13	甕	口縁～胴部下位	口縁部 右下りハケメ 胴部下位 右下りハケメ	口縁部 ヨコナデ，ヘラミガキ 胴 部 ヘラ磨き	良 好	橙 (5YR 6/6)	明黄褐 (10YR 7/6)	1mm前後の砂粒，光る粒透明な粒を含む	
〃	398	〃	器台	脚 部	タテ方向のミガキ	ナデ・ハケメ	良 好	橙 (5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	1~2mmの茶，白，黒の透明，黒く光る砂粒を含む	三ケ所に透かし孔あり
〃	399	〃	器台	脚 部	ハケの上をナデ	ナデ，ヨコ・ナナメのハケの上をナデ	良 好	明黄褐 (10YR 7/6)	明黄褐 (10YR 7/6)	粘土に細砂粒を多く含む	透かし孔周囲に6コ
〃	400	SC14	壺	胴 部	ヨコヘラ磨き	指頭圧あと右下りのハケメ	良 好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	黄 灰 (2.5Y 5/1)	0.5~1mmの粗い砂粒を多く含む	三条突帯
〃	401	〃	壺	胴 部	ヨコ ヘラミガキ	ハケメ ハケメの上をナデ	良 好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	黄 灰 (2.5Y 5/1)	径0.5~1mm程度の粗い砂粒（黒色透明光沢，白色半透明，黒色，灰色）を多く含む 径0.5~1.5mmの赤色酸化鉄粒を少量含む	外面 スス付着 二条三角突帯
〃	402	SC16	甕	口縁部～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴 部 丁寧なナデ，ハケメ	口縁部 ヨコナデ 口縁部～胴部 ナデ	良 好	褐 灰 (7.5YR 4/1)	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	1~3mmの白，褐色の粒を含	頸部 一条三角刻目突態
〃	403	SC20	甕	口縁部～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴 部 タテ方向のハケメ	ヨコ方向のハケメ	良 好	橙 (5YR 6/6)	明赤褐 (5YR 5/6)	きめ細か，灰，白等の0.2~2mm程度の砂粒を多く含む，金雲母が多く目につく	外面胴部 スス付着
〃	404	〃	壺	口縁部～肩部	口縁部 ヨコナデ 頸部～肩部 風化のため不明	口縁部～肩部 ヨコナデ 肩 部 ハケメの上を所々ヨコナデ	良 好	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	灰黄褐 (10YR 5/2)	1mm前後のうす茶，白の粒を含む	二重口縁
〃	405	〃	甕	口縁部～底部	ナデ	口縁部 ナデ 胴部～底部 ヨコ方向のハケメ・ナデ	良 好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	1mm前後の茶，灰の粒を含む	
〃	406	〃	小型甕	完 形	粗いナデ，指押え	ハケメ 部分的に指ナデが強く残る	良 好	明黄褐 (10YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	きめ細かい，0.2~2mm程の灰，茶等の砂粒が多く含まれる	外面 スス付着，外面底部 黒斑，上底
〃	407	〃	甕	底 部	タテ方向のハケメ のち ヨコナデ	――――	良 好	浅黄橙 (10YR 8/3)	――	1mm前後の白，茶，灰色の粒を含む	三つの，三角突帯
〃	408	〃	甕	底 部	指押えのあとハケメ	風化のため不明	良 好	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	1mm前後の茶，灰，白色の粒を含む	上げ底
〃	409	SC21	甕	口縁部～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴 部 ナデ，風化のため不明	丁寧なヨコナデ	良 好	にぶい黄橙 (10YR 6/3)	にぶい黄橙 (10YR 6/3)	0.5~3mm程度のうす茶，茶，灰色の粒，透明に光る粒を含む	口縁部，一条三角突帯
〃	410	〃	壺	胴 部	ナデ	風化の為調整不明	良 好	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	灰 白 (2.5Y 8/2)	透明に光る粒，0.5~3mm大のうす茶・茶色などの粒を多く含	一条刻目突帯
〃	411	SC22	甕	口縁部～胴部	ヨコナデ	口縁部 ヨコナデ 胴 部 ナデ	良 好	淡 黄 (2.5Y 8/3)	浅黄橙 (10YR 8/3)	1mm前後の石英と1~3mmの砂粒を多く含む	一条三角突帯
〃	412	〃	甕	胴 部～底部	ヨコナデ・ナデ	ナデ	良 好	淡 黄 (2.5Y 8/3)	黄 灰 (2.5Y 5/1)	1mm前後の石英と1~3mmの砂粒を多く含む	上げ底
49	413	〃	甕	完 形	口縁部 ヨコナデ 胴 部 縦ハケメ，一部ヨコハケメ 底 部 ナデ・ヨコナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 左斜ナデ，ナデ	良 好	浅黄橙 (7.5YR 8/3)	浅黄橙 (7.5YR 8/3)	1~3mm大の灰，うす茶，茶の粒を多く含む	外面口縁部～胴部部分的にスス付着 上げ底
〃	414	〃	甕	完 形	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 ナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 ナデ	良 好	淡 黄 (2.5Y 8/3)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	0.5~4mm大の粒を多く含む。1~2mm大の白色の粒，透明な粒，茶色の粒を含む	外・内面 黒斑 上げ底
〃	415	〃	甕	口縁部～胴部	ヨコナデ 斜めハケメ 一部にミガキ	口縁部 ヨコナデ 胴 部 左斜ハケメ，縦ハケメのあとナデ	良 好	浅黄橙 (7.5YR 8/3)	浅黄橙 (10YR 8/3)	1~3mm大の白，灰，うす茶，茶の粒，透明な粒を含む	外面 スス付着
〃	416	〃	壺	口縁部～肩部	口縁部・肩部 ヨコナデ 頸 部 ヨコナデの後ミガキ	ナデ	良 好	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	0.5~2mm大の灰，うす茶，茶，透明な粒を含む	
〃	417	〃	埦	ほぼ完 形	口縁部～胴部 ヨコミガキ 底 部 ナデ	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 風化のため調整不明	良 好	浅黄橙 (10YR 8/3)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	0.5~3mm大の白，うす茶，茶，灰色，透明な粒を含む	
〃	418	〃	高坏	坏 部～脚部	坏 部 風化著しい ヨコ，斜めの荒いハケメ 脚 部 ナデ	坏 部 ヨコナデ，ナデ 脚 部 ナデ	良 好	淡 黄 (2.5Y 8/3)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	0.5~2mm大の灰，うす茶，茶，透明な粒を含む	
〃	419	SC26	甕	口縁部～胴部	ヨコナデ	口縁部 ヨコナデ 胴 部 ハクリ・風化の為調整不明	良 好	浅黄橙 (10YR 8/3)	浅黄橙 (10YR 8/3)	黒，透明，茶に光る粒，茶，灰，うす茶などの細砂粒を多く含む	外面胴部 三角突帯 内面 口縁部 黒変
〃	420	SC28	甕	口縁部～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴 部 風化の為調整不明	口縁部 ヨコナデ 胴 部 ナデ	良 好	浅黄橙 (10YR 8/3)	浅黄橙 (10YR 8/3)	0.5~3mm大の茶，こげ茶，の粒が多く含まれる	外面胴部 スス付着
〃	421	〃	小型壺	胴 部～底部	ナデ	ナデ	良 好	浅黄橙 (10YR 8/4) 橙 (5YR 6/6)	橙 (5YR 7/6)	0.2mmの茶の粒と細砂粒を含む	尖底
〃	422	SC29	甕	口 縁～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴 部 ナナメハケメ	口縁部 指押えあとナナメハケメ 胴 部 ナナメハケメ	良 好	黒褐 (10YR 3/1) にぶい橙 (10YR 6/4)	にぶい橙 (7.5YR 6/4) 黒褐 (10YR 3/1)	2mmの茶，灰，黒の粒を多量に含む	外面胴部 黒変 三条突帯 口唇部凹
〃	423	〃	甕	胴 部～底部	タテ・ナナメの磨き	ヨコの磨き	良 好	にぶい黄橙 (10YR 7/4) 黒 (2.5Y 3/1)	黄 灰 (2.5Y 5/1)	2mmの茶，うす茶，白，黒の砂粒や光る粒を含む	平底
〃	424	SC30	壺	口 縁	ヨコナデ，ナデ，波状沈線	ヨコナデ，指押え	良 好	浅黄橙 (7.5YR 8/3)	浅黄橙 (7.5YR 8/3)	1～3mmの茶，うす茶，白色の粒を含む	
〃	425	〃	壺	完 形	口縁部 ヨコナデ 胴部～底部 剝離，風化	口縁部 ヨコナデのあと指押え 胴部～底部 指ナデ	良 好	にぶい黄橙 (10YR 7/4) 褐 (10YR 4/4)	浅黄橙 (10YR 8/4) 黄橙 (10YR 8/8) 灰 (10YR 5/1)	1～3mmの茶，うす茶，灰色の粒が多量に含む	あげ底
〃	426	〃	壺	口 縁～胴部	口縁部 ヨコナデのあと一部指押え 胴 部 タテ，ナナメのハケメ	ヨコ・タテ・ナナメのハケメ	良 好	灰 (5YR 5/1) 褐 (5YR 4/4)	灰黄褐 (10YR 6/2)	1~5mmの黒，茶，うす茶の粒を多量に含む	
50	427	SC35	壺	ほぼ完 形	口縁部 ヨコナデ 胴 部 タテハケメ 底 部 指押え	口縁部 ヨコナデ 胴 部 ナナメ，タテのハケメ 底 部 指押え	良 好	にぶい橙 (5YR 7/4)	橙 (5YR 7/6)	0.5~3mm大の灰，うす茶，茶色の粒を含む	外面胴部 スス付着
〃	428	〃	高坏	坏部～脚部(上位)	坏 部 ヨコハケメ，ミガキ 脚部上部 ミガキ	坏 部 ミガキ，指押えのあとナデ 脚部上部 指押えのあとナデ	良 好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	1~2mm大の白，灰，うす茶の粒や透明な粒を含む	
〃	429	〃	壺	口 縁	タテ・ヨコナデ	ヨコナデ	良 好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	0.5~2mm大の茶，うす茶，の粒や透明な粒を含む	
〃	430	SC36	小型甕	口縁部～胴部	ナデ・指押え	ナデ	良 好	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	黄 褐 (2.5Y 5/3)	7mmの茶，4mm以下の茶，灰白，白透明の粒を含む	平底
〃	431	〃	小型壺	胴 部～底部	ナデ・指押え	ナデ・指押え	良 好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	4mm前後の灰，茶，黒，白及び黒，金色に光る砂粒，光る微粒を含む	外面胴部 スス付着 上げ底
〃	432	SC37	壺	口縁部～頸部	ヨコナデ タテ・斜め方向のハケメ	風化のため不明	良 好	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	0.5~3mm大の茶，うす茶，灰，黒色の粒が多く含まれる	
〃	433	〃	壺	口縁部～胴部	口縁部 ヨコナデ 肩 部 ハケメ 胴 部 ヨコ・タテ方向のミガキ	口縁部 ヨコナデ 頸部～胴部 剝離のため不明	良 好	橙 (5YR 6/6)	橙 (2.5YR 6/6)	1~2mmの石英と1~3mmの砂粒多く含む	外面肩部 3つの櫛描波状文
〃	434	〃	壺	底 部	ナデ ヘラミガキ（風化著しい）	剝離のため不明	良 好	橙 (5YR 7/6) (7.5YR 8/6)	橙 (7.5YR 7/6)	3mmの長石（乳白色）1個，1～2mmの石英，1～4mmの砂粒を多く含む	平底
〃	435	SC38	高坏	坏 部～脚部	タテ方向のミガキ	坏 部 タテ方向のミガキ 脚 部 タテナデ・ヨコハケメ	やや不良	にぶい黄橙 (10YR 7/3-6/3)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	1mm前後の褐色，灰の砂粒，角閃石（？），長石などの細砂粒含む	外・内面坏部，外面脚部 部分的に黒変，透しあり
〃	436	〃		坏 部	ミガキ	ミガキ	良 好	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	1～2mmの茶，灰，黒，透明に光る粒含む	外面 一部黒斑
51	437	SC37	甕	口縁部～胴部	口縁部 ヨコナデ 胴 部 ハケメが一部残る	ハケメのあと指押え 指ナデ	良 好	橙 (7.5YR 6/6)	橙 (7.5YR 6/6)	0.5~2mm大の金色の粒多く含む，0.4mm以下の白透明・細砂粒を多く含む	
〃	438	SC38	高坏	脚 部	タテ方向のヘラミガキ	ナデ	良 好	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/6)	1~2mm大石粒多く含む	円孔透し4個
	439	〃	高坏	脚 部	タテ方向のミガキ	ナデ・黒斑	良 好	橙 (7.5YR 7/6)	にぶい黄橙 (10YR 7/3)	1mm内の粒含む	透し 4個
〃	440	〃	甕	口縁部～底部	口縁部～頸部 ヨコナデ 胴 部 ハケメ，底部 指押え	ハケメ 指押え，指ナデ	良 好	灰黄褐 (10YR 6/2)	灰黄褐 (10YR 6/2)	10mm前後の沼鉄鉱，5mm以下の茶・黒・灰・白・白黒まだら，透明・黒く光る粒，光る砂粒を含む	上げ底 外面口縁部～胴部 スス付着 内面一部黒斑

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
					外面	内面		外面	内面		
51	441	SC38	甕	口縁部 ～底部	口縁部～胴部　タテ方向のハケメ，一部風化 底部　指押え，ナデ	口縁部　ヨコ方向のハケメ 胴部　斜め，タテ方向のハケメ	良好	明黄褐 (10YR 7/6)	黄橙 (10YR 8/6)	1～3㎜の茶・白・灰の砂粒含む	外面胴部～底部黒斑，上げ底
〃	442	〃	甕	完形	口縁部　ヨコナデ・ハケメ 胴部　ハケメ・ナデ 底部　ナデ・ヨコナデ・指頭痕	口縁部　ヨコナデ 胴部　タテ方向のナデ 底部　指ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	1～2㎜の黒・茶・白の粒を含む	外面胴部　スス付着　上げ底
〃	443	〃	甕	口縁部 ～底部	口縁部　ヨコナデ 頸部　ハケメ 胴部～底部　ナデ	口縁部　ヨコナデ 胴部　ナデ・ヨコナデ 底部　ヨコナデ	良好	黄橙 (7.5YR 7/8)	橙 (7.5YR 7/6)	1～4㎜の茶・灰・白の粒多く含む	内面胴部～底部黒変，平底
〃	444	〃	甕	口縁部 ～底部	口縁部　ハケメ 胴部　ナデ	口縁部　ハケメ 胴部　ハケメ・ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	2～5㎜及びやや大粒の石粒をやや多く含む	外面 スス付着
52	445	〃	壺	口縁部 ～底部	口縁部　ヨコ方向のハケメ 頸部　タテ方向のハケメ 肩部～底部　タテ方向ハケメの上をタテミガキ	口縁部　ヨコナデ 頸部　ヨコ方向のハケメ 胴部～底部　指押え，ヨコ方向のハケメ	良好	口縁～胴部半ば橙 (7.5YR 7/6) 胴部-底部にぶい橙 (7.5YR 6/4)	口縁部-肩部明黄褐 (10YR 7/6) 胴部～底部　褐灰 (10YR 4/1)	1～2㎜の茶・灰・黒・の粒を含む	外面胴部　スス付着　二重口縁
〃	446	〃	壺	完形	口縁部　風化のため不明 胴部　風化しているが一部ハケメ残る 底部　ナデ	口縁部　風化のため不明 胴部～底部　風化しているが一部ハケメ残る	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	灰白 (10YR 8/2)	ガラス質のもの，黒く光るもの少少含む。1㎜前後の茶・半透明などの砂粒多く含む	外面胴部 一部黒変
〃	447	〃	壺	口縁部 ～底部	頸部　タテ方向のハケメ 胴部～底部　ヨコ方向のハケメ・ナデ	口縁部　ヨコナデ 頸部～底部　ハケメ	良好	明黄褐 (10YR 7/6)	橙 (5YR 7/6)	1～3㎜の灰・茶・白・黒の砂粒含む	二重口縁・胴部穿孔1ケ所，口縁部櫛描波状文途中から重なりながら櫛描刺突文
〃	448	〃	壺	口縁部 ～底部	頸部　ヨコナデ・タテ方向のハケメ 胴部　タテ方向のハケメ・ナデ 底部　ナデ	口縁部　ヨコナデ・頸部，ナデ 胴部　指押え・ヨコ方向のハケメ 胴部～底部　ハケメのあと指ナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	浅黄橙 (10YR 8/3)	1～2㎜の茶・灰・黒の粒を含む	二重口縁 口縁部櫛描波状文
〃	449	〃	壺	口縁部 ～底部	口縁部～頸部　斜方向のハケメ 胴部　タテ・斜め方向のハケメ 胴部～底部　タテ・斜方向のハケメ（風化）	ヨコ・斜め方向のハケメ 指押え	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	浅黄橙 (10YR 8/3)	1㎝前後の沼鉄鉱の粒，4㎜以下の茶・灰・白透明な粒，黒く光る粒，光る微粒を含む	内面胴部～底部一部黒斑
〃	450	〃	壺	頸部 ～底部	風化のため不明	ハケメ	良好	橙 (5YR 7/6)	橙 (5YR 7/6)	1～2㎜大の砂含む，やや砂質	
53	451	〃	壺	完形	口縁部　斜めハケメのあとミガキ？ 胴部　タテ方向ハケメのあとタテミガキ 底部　ミガキ？（風化）	口縁部　ナデ 胴部　指押え，タテ・斜めハケメ 底部　指押え	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/3)	5㎜の茶，4㎜の白，1㎜以下の茶・黒の砂粒及び光る微粒を含む	外・内面胴部～底部　黒斑
〃	452	〃	浅鉢	完形	口縁部　ヨコ方向ヘラミガキ 頸部　一部下調整ハケメみえる 胴部　タテ方向ミガキ	胴部　うすくヘラ痕認める	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	1～2㎜大の石粒やや含む　精緻	
〃	453	〃	浅鉢	口縁部 ～底部	ナデ？ 全体に表面風化　調整不明	口縁部　ヨコナデ 胴部～底部　ナデ？（風化）	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	1㎜前後の灰・うす茶・黒の粒含む	
〃	454	〃	浅鉢	口縁部 ～底部	口縁部～胴部　風化のため不明 胴部～底部　ナデ	口縁部～胴部　ヨコナデ 胴部～底部　ナデ，剥離	良好	赤灰 (2.5YR 4/1)	明黄褐 (10YR 7/6)	1～4㎜の茶・黒・白の砂粒多含 1㎜弱の黒・透明で光る粒もある	
〃	455	〃	器台	脚部	タテ方向のヘラミガキ	上部　タテ方向のミガキ 中部　指押え 下部　風化のため不明	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	橙 (5YR 7/6)	1～2㎜の茶・白・灰の粒含む	透し3ケ所残る
〃	456	SC39	甕	口縁部 ～底部	口縁部・底部　ナデ 胴部　斜め，タテ方向のハケメ	口縁部　ヨコ・斜め方向のハケメ 胴部　斜め方向のハケメ 胴部下部～底部　ナデ・指押え	良好	赤橙 (10YR 6/6)	橙 (2.5YR 7/8)	0.5～2㎜大の粒を多く含む。1㎜大の白，3㎜幅2.5～6㎜大の茶の粒を含む	外・内面胴部　スス付着　外面胴部黒斑
〃	457	〃	甕	口縁部 ～底部	口縁部～胴部中部　ナデ 胴部中部～下部　タテ・斜のハケメ 底部　ナデ	口縁部　ヨコ方向のハケメ 胴部　ヨコ・斜ハケメ 胴部下部～底部　指ナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (5YR 6/8)	0.1～3㎜大の粒を多く含む。3㎜幅・1.4㎝長さの朱色粒含む	外面胴部中部～底部と内面胴部　黒斑　上げ底
〃	458	〃	甕	完形	口縁部・胴部中部　粗いナデ 胴部下部～底部　ハケメ	口縁部～胴部中部　ハケメ 胴部下部～底部　ナデ	良好	赤 (10YR 5/6)	赤 (10YR 5/6)	ガラス質のもの，1～2㎜大の砂粒含む	外面胴部 スス付着
54	459	〃	甕	口縁部 ～底部	ナデ・指押え	口縁部～胴部　ハケメ 胴部～底部　指押え，ハケメのあとナデ？	良好	橙 (2.5YR 7/8)	橙 (5YR 7/6)	0.5～3㎜大の粒多く含む	外面胴部　黒斑，一部スス付着　内面胴部～底部黒斑
〃	460	〃	甕	完形	ナデ・指押え	ハケメ	良好	浅黄 (2.5Y 7/3)	橙 (7.5YR 7/6)	1～2㎜大の茶・灰などの砂粒多く含む	上げ底　外面胴部一部スス付着
〃	461	〃	甕	完形	口縁部，底部　ナデ 胴部　ナナメ・タテのハケメ	口縁部～胴部上部　ヨコハケメ 胴部下部～底部　タテハケメあとナデ	良好	橙 (5YR 7/6) 明黄褐 (10YR 7/6)	橙 (5YR 7/6) 淡黄 (2.5Y 8/3)	0.5～2㎜前後の茶・うす茶の砂粒や黒く光る粒含む	外面，内面胴部黒変
〃	462	〃	甕	口縁 ～胴部	ナデ	ヨコ，ナナメ，タテのハケメ	良好	にぶい橙 (10YR 7/4) 橙 (7.5YR 7/6～6/6)	橙 (10YR 7/6)	0.5～2㎜の茶色などの砂粒を含む	外面 スス付着
〃	463	〃	甕	口縁～胴部(下部)	ナデ	口縁部　ヨコナデ後指押え 胴部（上部～下部）　ハケメ？	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	橙 (7.5YR 7/6)	0.5～3㎜前後の砂粒や黒く光る粒，ガラス質の粒も含む	内部胴部下部　黒変
〃	464	〃	甕	完形	口縁部～胴部　ナデ？ 胴部下部　ヘラ跡　底部　ナデ	口縁部　ヨコナデ，ヘラ跡 胴部　ナデ？　底部　ハクリ	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	0.5～2㎜大の茶，灰色の砂粒やガラス質の粒も含む	外面胴部　スス付着，黒変
〃	465	〃	甕	口縁～胴部(上部)	頸部　刻目突帯 口縁部　ヨコナデ　胴部　タテハケメ？	風化	良好	黄橙 (7.5YR 7/8)	黄橙 (7.5YR 7/8)	0.5～4㎜の砂粒，ガラス質の粒を含む	突帯の一部黒変 外面胴部スス付着
〃	466	〃	壺	胴部下部 ～底部	胴部下部　ハケメ 底部　指調整	ハケメ	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	2～4㎜の砂粒を少し含む	外面底部 スス付着
〃	467	〃	ミニチュア	完形	指調整	指調整	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	細砂粒，光る微粒子など含む	
〃	468	〃	浅鉢	完形	ナナメ・ヨコ磨き	磨き	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	0.5～1㎜前後の茶，白っぽい色の粒粒，微粒子を含む	底部付近 黒変
55	469	〃	壺	完形	口縁部　タテ方向工具調整 胴部　タテ・ナナメハケメ 底部　ナデ	口縁部　ヨコハケメ 肩部　指ナデ　底部　指ナデ 胴部　ヨコ・ナナメハケメ	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/6)	褐灰 (7.5YR 5/1)	1～5㎜の赤褐色の砂粒を多く含む	平底
〃	470	〃	高坏	坏部	タテ，ナナメのミガキ，ハケメの跡	タテのミガキ	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (2.5YR 6/8)	2㎜大の粒を多く含む	口縁部内面　体部外面　黒斑
〃	471	〃	鉢	口縁 ～底部	ナデ　底部　指頭痕	風化	良好	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	橙 (5YR 7/6)	1～3㎜の砂粒や細い石英も含む	一部黒斑　底部外面・口縁部～体部
〃	472	SC40	甕	口縁 ～胴部	口縁部　ヨコナデ 胴部　ナナメハケメ	口縁部　ナナメハケメ 胴部　風化	良好	橙 (7.5YR 6/8)	橙 (7.5YR 6/8)	3㎜大の砂粒や光る微粒子も含む	二条突帯
〃	473	〃	甕	口縁 ～胴部	口唇部　四条単位の突帯あり 口縁部～胴部　ナデ	口縁部　指押え 胴部　ナデ	良好	褐 (10YR 4/4)	明黄褐 (10YR 7/6)	3～8㎜の砂粒や光る微粒子を含む	四条突帯 胴部
〃	474	〃	甕	底部	磨き，ナデ（風化気味）	指押え	良好	にぶい黄橙 (10YR 6/4)	灰褐 (5YR 4/1)	1㎜大の砂粒や光る微粒子を含む	
〃	475	〃	甕	胴部下部 ～底部	ナデ	胴部下部　ナデ 底部内面　指の調整	良好	浅黄橙 (7.5YR 8/4)	橙 (5YR 7/6)	0.5～1㎜の黒・茶の砂粒やガラス質の粒を含む	
〃	476	SC101	高坏	坏部	ヨコナデ	風化	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	精緻，白・茶・黒色の粒や透明な粒を含む	
〃	477	〃	小皿	口縁～底部(付近)	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	精緻，細砂粒や透明な粒を含む	ヘラ切り底
〃	478	〃	小皿	口縁～底部(付近)	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	精緻	ヘラ切り底
〃	479	〃	小皿	口縁～底部(付近)	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	にぶい橙 (7.5YR 7/4)	精緻	ヘラ切り底
〃	480	SC102	小皿	完形	ヨコナデ	ヨコナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/3, 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/3, 8/4)	精緻，白・茶の細砂粒を含む	ヘラ切り底
〃	481	SH24	高坏	坏部	ナデ	ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	精良	
〃	482	SH76	小皿	体部 ～底部	ナデ	ナデ	良好	浅黄橙 (10YR 8/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	精良	回転糸切底
〃	483	SH89	小皿	体部 ～底部	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	浅黄橙 (10YR 8/4)	精良	回転糸切底 黒斑
〃	444	SH84	小皿	体部～底部(付近)	ナデ	ナデ	良好	橙 (7.5YR 7/6)	橙 (7.5YR 7/6)	精良	回転糸切底 段差あり

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
					外面	内面		外面	内面		
55	485	SH22	小皿	体部～底部(付近)	ナデ	ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR 7/4)	にぶい黄橙 (10RR 7/4)	精良	回転糸切底
〃	486	SH82	小皿	体部～底部	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR6/4)	にぶい橙 (7.5YR6/4)	精良	右廻りのヘラ切り底
〃	487	SH89	小皿	体部～底部(付近)	ナデ	ナデ	良好	にぶい橙 (10YR 7/4)	黄灰 (2.5Y 5/1)	精良	回転糸切底
〃	488	D	鉢	口縁部～胴部	ヨコナデ	口縁部 ヨコナデ 体部 ナナメナデ	良好	灰 (7.5Y 5/1)	灰 (7.5Y 5/1)	白・うす茶，0.5～3mm大の粒を含む	
〃	489	A	白磁	口縁部～底部	施釉	口縁～体部の上位まで釉がかかっている	良好	灰白 (5Y 7/1)	灰白 (5Y 7/1)	?	体部外面 全体に釉がかかっている
〃	490	SH46	玉縁白磁	胴部～底部	底部 ヘラ使い（二ケ所）	釉がかかっている	良、好	灰白 (5Y 7/1)	灰白 (5Y 7/1)	?	体部外面 釉がかかっている(一部)

第Ⅶ章　今江城（仮称）跡の調査

第１節　調査の経過と概要

宮崎学園都市建設予定地約300*ha*内に分布調査によって23遺跡が確認され，昭和55年から調査が行われていた。昭和58年４月頃，汚水処理場東側丘陵地の伐採が進むに至り，当初分布調査の対象から除外されていた杉林から想像もされなかった，保存状態の良好な山城が姿を現した。それを契機に，文化課では再度山城周辺の丘陵地全体を見直し，昭和58年７月15日から17日にかけて奈良女子大助教授村田修三氏を特別調査員として招聘し，山城の踏査を実施した。その結果，独立した中世山城として認識出来るとされ，堀の状態など完全に近いことや櫓台の位置する郭の隅の状況など保存状態が良好であること，当山城における北面の敵に備える土塁と堀の構えが山城における戦略史上の貴重な資料であることが判明した。また，名称については文献等に比定できるものが見当たらない事から，字名をとって「今江城」と仮称することとした。発掘調査は，城どりを一層把握するため写真測量による正確な測量図を作成した後，昭和59年10月９日から昭和60年３月20日まで行った。

今江城は，完全に現存する二つの郭と土取りによって一部削平されている郭，そしてその周囲に巡らされた堀からなっている。標高の最も高い主郭と考えられる第１郭は平坦部も広く，北側と南側に土塁が構築されている。土塁の土層断面から，文献に記載された修築あるいは増築を裏付けるような結果を得ることが出来た。内部からは，土坑１６基，井戸１基，多数の柱穴などの遺構と伴に土師器や青磁，備前焼などの陶磁器も出土した。もう一つの現存する郭（第２郭）は，現在明確な土塁は見られず，周囲の北から東にかけて堅固な防禦施設が見られる。北から東にかけては緩やかに傾斜しており，城としては最も弱い箇所である。このため二重に巡らされた帯曲輪と深さ約２ｍで薬研掘りの堀が設けられている。内部には掘立柱建物跡１棟，土坑２基，カマド１基など，生活の感じられる遺構を検出した。一部土取りによって削平されている郭（第３郭）は第２郭の南に位置する。責め込まれ易い東側の防禦を考えた場合，第３郭の東側又は南側，あるいはどちらにも郭が造られていた可能性がある。

また，第２郭からは弥生時代後期から終末期にかけての住居跡３軒を検出したほか，第１・３郭や堀の埋土中から同時期の土器が多量に出土した。

第２節　環　　境

(1)　地理的環境

宮崎学園都市遺跡群は宮崎市街地から20kmほど南下した宮崎市大字熊野から宮崎郡清武町大字木原にまたがる台地上に分布している。台地は大淀川から加江田川までの広大な平野部に突き出した形で，東西約 2.5km，南北 1.5kmの舌状をなす。この舌状台地は西から東に向かって標高約30ｍ～15ｍの緩斜面を呈し，清武川や加江田川の支流によって開析された谷が複雑に入り込んでいる。台地の東端は約20ｍの比高差をもって山地形の丘陵をなし，丘陵の南端は車坂城が，北端には当山城が築かれている。この二つの山城は，木花神社や木花中学校がある標高約34m の平坦部をあたかも守るかのように立地している。今江城の丘陵は南側の平坦面とは繋がらず，現在道路が通っている部分で切れている。この丘陵の西側は清武川の支流が流れ，当時は低湿地を呈し自然地形を利用した堀の役割が考えられる。丘陵上は以前は一部畑として使われていたようだが，最近は杉林となっていた。(Fig.2)

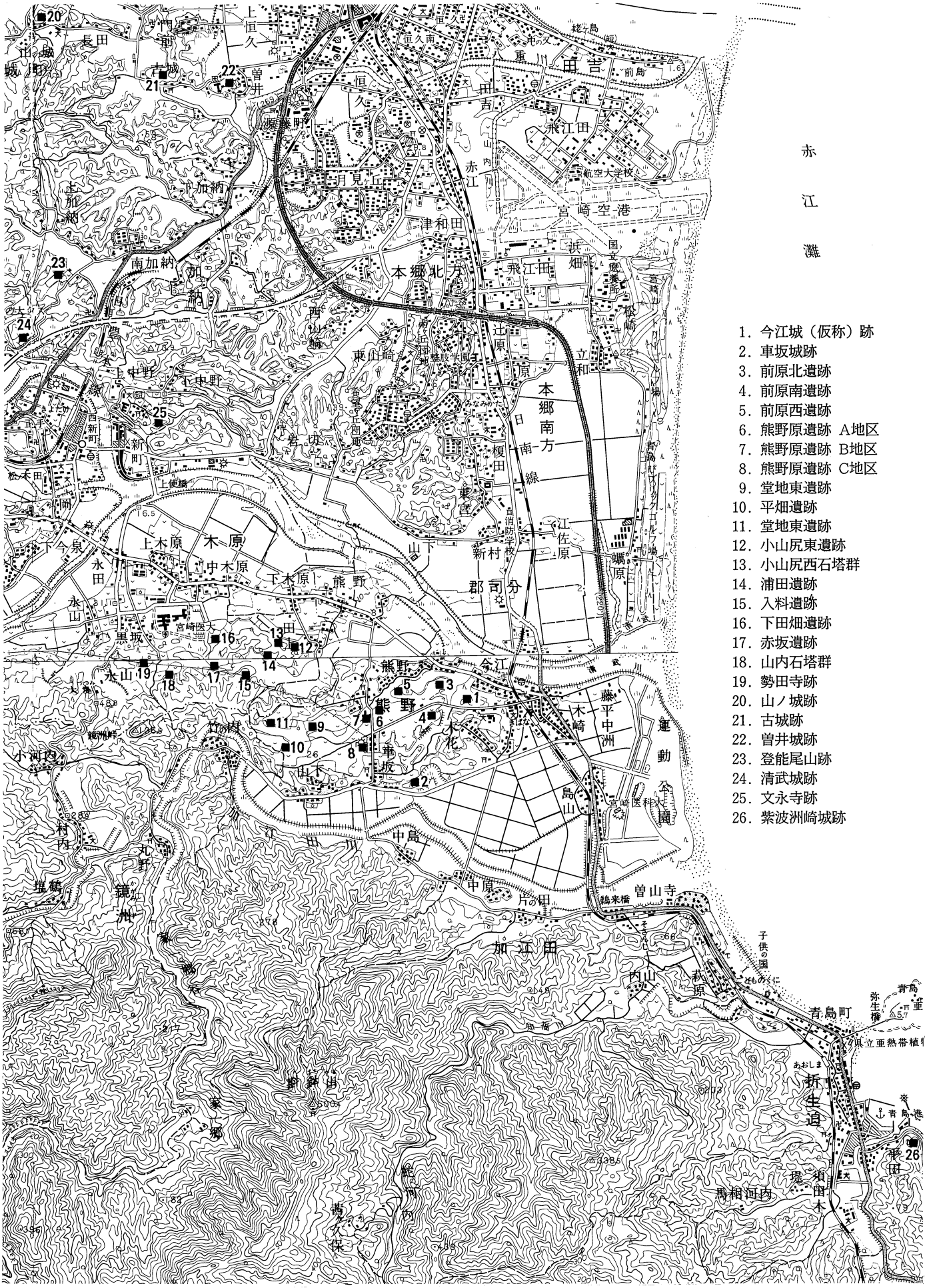

赤江灘
1．今江城（仮称）跡
2．車坂城跡
3．前原北遺跡
4．前原南遺跡
5．前原西遺跡
6．熊野原遺跡 A地区
7．熊野原遺跡 B地区
8．熊野原遺跡 C地区
9．堂地東遺跡
10．平畑遺跡
11．堂地東遺跡
12．小山尻東遺跡
13．小山尻西石塔群
14．浦田遺跡
15．入料遺跡
16．下田畑遺跡
17．赤坂遺跡
18．山内石塔群
19．勢田寺跡
20．山ノ城跡
21．古城跡
22．曽井城跡
23．登能尾山跡
24．清武城跡
25．文永寺跡
26．紫波洲崎城跡

Fig 1．遺跡位置図

Fig.2　今江城跡周辺地形図

丘陵頂部では，西は学園都市全体および清武城が，北は清武川さらに本郷南方の水田地帯，東は木花地区の集落および日向灘という具合に視界が開けている。逆に，車坂城のある南西丘陵部方向については見通しがきかない。

(2) 歴史的環境

大化の改新以後，日向でも国郡制がしかれ和銅6年(613年)大隅国の分立を経て，臼杵，児湯，那珂、宮崎、諸県の5郡を治めている。それは、現在の宮崎県と鹿児島県曽於郡の大部分を含む地域に該当する。国府は児湯郡内におかれ、現在の西都市三宅付近と考えられている。また、各郡はいくつかの郷に分けられ、奈良時代初期には郷数26であったものが平安時代になると28に増加している。宮崎学園都市遺跡群のある熊野の地は宮崎郡に含まれ、「延喜式」にみられる日向16駅のひとつである救麻駅の比定地でもある。平安時代の後半になると各所で荘園開発が盛んになり、特に日向では島津荘と宇佐宮領が二大勢力となる。宇佐宮は臼杵、児湯、宮崎の3郡に神領を有し、1057年には諸県荘、浮田荘を、1066年には臼杵荘を、1083年那珂荘、1093年田島荘をそれぞれ立券している。このように日向における宇佐宮神領は、永承年間から嘉保2年頃までに大淀川と一ツ瀬川によって作られた平野部を中心に拡大されていった。一方、島津荘は平家の武士であった平季基によって現在の都城盆地を中心に開発が進められた。1026年には関白藤原頼通に献上し，日向で最初の荘園となった。以後、島津荘は都城盆地を中心隈や薩摩地方へ拡大していった。その他、土着の豪族たちも次第に荘園開発を手がけていった。日下部氏によって開発された国富荘もそのひとつで、保元の頃（1156～1159年）には八条女院を本家とする八条院領に組み入れられたと考えられている。「日下部姓之系図」によると久安5年（1149年）に日下部盛平が日下部氏の正統を継いだ時、那珂郡司や国富荘河南本郷郡司などを兼ねたとあり，国富荘の名が初めて出てくる。また，文治3年（1187年）盛平は，土持冠者栄妙を養子に迎え在国司職や日下部氏の正統を全て譲った。このことにより土持氏は宮崎平野部進出への足掛かりを掴んだのである。鎌倉時代初期の建久図田張りよれば国富荘は大部分を土持氏が地頭として支配しており，ほかに加江田・加納・隈野には地頭平五の名もみられる。

鎌倉初期に日向の地頭職にあった工藤祐経の子である伊東祐時の庶子が建長四年（1252年）前後に日向へ下向し田島・木脇・門川の3氏を興した。さらに建武中興の際，後醍醐天皇から足利尊氏に国富荘が，その妻方には佐院が与えられ，その確保のために伊東祐持を建武2年（1335年）日向に下向させている。また，祐持には恩賞として児湯郡都於郡三百町が与えられ，以来伊東氏の宮崎平野進出の根拠地となり，当時国富荘を掌握していた土持氏とともに旧宇佐宮領の経略を進めていく。そして，天授5年（1379年）には実質的にこの地を治めていた伊東・土持の両氏に分領され，本郷は伊東氏の支族清武氏，隈野は土持氏の支族熊野氏，加江田は土持氏の支族岡富氏に分割されることになった。都城盆地を中心にしていた島津氏は（1333年）には日向・大隅の守護職に，建武2年（1335年)には島津貞久の弟の時久が新納院地頭職に就き児湯郡高城（現在の木城町）に新納氏を興すなど山東の地への進出の意気込みが感じられる。このように，山東では伊東氏が，山西では島津氏が勢力を拡大し以後，14世紀末から伊東と島津の攻防が各所で繰り返されてきた。特に，伊東氏の飫肥への執着は強く幾度となく進撃し天文10年（1541年）伊東義祐によって飫肥を手中にした。熊野の地は，こうした飫肥をめぐる島津氏と伊東氏の攻防の場となるが，文安年間に伊東祐卉が当時曽井氏領であった本郷・鏡洲・熊野を所領として以来，天正5年（1577年）の義祐の豊後落ちまでの約130年間伊東氏の領するところとなる。その後，天正15年(1587年)まで島津氏の支配となるが，同年豊臣秀吉の九州制圧に伴い義祐の子祐兵が曽井に封ぜられ，翌年飫肥に配されて以来幕末まで飫肥藩伊東氏領として世襲された。

現在，学園都市予定地の台地は熊野神社と加江田神社の周辺に人家が集中し，他は畑が主で一部には墓地もみられ，谷底低地や開析谷部には水田が形成されている。開発以前のこの集落景観は近世，あるいは中世のそれにかなり近いものではないかと考えられる。車坂城や今江城の周辺にはそれらに関係した陣ノ内や古城，麓，犬ノ馬場，野首など

の字名もみられる。今江城のある丘陵の北端には諏訪神社があるが，それに関する記載がどの文献にも見られず創建の時期や由来については不明である。

宮崎学園都市遺跡群[(1)]では，奈良～平安時代の遺跡として前原南遺跡，陣ノ内遺跡，平畑遺跡，下田畑遺跡，浦田遺跡，小山尻東遺跡がある。それ以後の遺跡としては，堂地東遺跡，堂地西遺跡，前原西遺跡，前原北遺跡，熊野原遺跡があり，古代の遺跡と中世の遺跡が重なりあって存在する遺跡は見当たらない。そのほかに山内石塔群や小山尻西石塔群などもある。

周辺の山城としては清武城[(2)]，曽井城[(3)]，紫波洲崎城[(4)]が，神社では熊野神社や加江田神社が，寺跡としては明治５年に廃されたが，当時勢力を持っていたと考えられる勢田寺などが知られる。

第３節　遺構と遺物

当山城は，現存状況から考えると３つの郭とそれをとりまく堀や土塁によって構成されている。最も高い郭を第１郭，第１郭の北西に位置する台形状の郭を第２郭，既に土取りによって一部破壊しているものを第３郭とした。

１．第１郭（第２図）

今江城のなかで最も高い標高約37m のところに位置し周囲に展望がきく。郭の大きさは長軸である北東一南西が42m，短軸の北西一南東が26m を測り，郭内の平坦部は約1500㎡である。また，現地形での郭とその下場との比高差は，西で約10m，北で約９m（堀の底からでは約12m）と他の郭より規模が大きく当山城の主郭として考えられる。土塁は第２郭と第３郭に面した部分と南側に築かれている。土塁のない西側および東側に若干の高まりがみられることから当時土塁があった可能性もある。第２郭にみられるような生活遺構は検出できなかった。

(1) 土　　坑

土坑は全部で17基検出した。郭内でもどちらかといえば縁辺部に多く分布している。形態は方形，円形，不定形のものがみられ，比較的残りの良いＳＣ７～10について実測図を掲載した。詳細については土坑観察表を参照していただきたい。（表１）

ＳＣ７・7′は円形と長方形の土坑の切り合いで，円形のＳＣ7′のほうが新しい（第３図）。遺物は東側壁面の中程に貼り付いた状態で出土した完形の土師器小皿（糸切り）の他，土師器坏・小皿片や備前焼，青磁，土錘などが出土している。遺物のほとんどは包含層中からのもので，床面付近から出土したものはない。ＳＣ７は東側床面に川原石が３個，中央付近に１個検出した。遺物は土師器坏・小皿片がほとんどであったが，ＳＣ７′の出土遺物の中にＳＣ７のものも一部含まれていると思われる。ＳＣ８は中位から上位にかけて拳大から４～50cmの石を多量に検出した（第３図）。土坑の層序は，上半がレンズ状に堆積した砂層，下半は褐色土となり，砂層中に石群がある。遺物は土師器片で石間に少量出土しただけであった。ＳＣ９はＳＣ７・７′の北に接近している（第４図）。上層はしまりのある褐色土，下層は炭化物を多く含んだ褐色である。遺物は上層ではほとんどみられず，下層から土師器坏・小皿片や鉄器，炭化物が出土している。北側には拳大～人頭大の石が多くみられ，南側床面には炭化物が敷きつめられたような状況で検出された。ＳＣ10はＳＣ９より西へ約12m のところにある（第４図）。備前焼甕片や土錘が出土している。

(2) 井戸状遺構

ＳＣ10の北約７m のところにあり，郭では北側縁辺のほぼ中央に位置する。平面形は径約４m の円形を呈す。検出

土坑番号	プラン	規模 長軸×短軸×深さ(m)	出土遺物	備考
SC 1	円形	2.8×2.5×0.8	青磁，備前焼	
2	方形	1.8×1.6×1.2	土師器（ヘラ切り）	
3	不定形	(1.9)×(1.7)×0.6	土師器（ヘラ切り）弥生土器	
4	不定円形	0.7×0.68×0.22	土師器（ヘラ切り），火鉢	
5	方形？	(2.5)×(1.9)×0.10	土師器（ヘラ切り），備前焼甕	
6	円形	1.85×0.2	土師器	
7	円形	1.22×(1.12)×1.18	土師器(糸切り，ヘラ切り)，備前焼甕 青磁，土錘	
7′	長方形	(1.17)×0.86×0.77		
8	長方形	1.40×1.0×0.78	土師器（ヘラ切り）	上層に多量の礫
9	長方形	1.63×1.26×0.72	土師器（糸切り，ヘラ切り）	床面全体に炭化物
10	方形	1.45×0.97×0.15	備前焼甕，土錘	4つのピットあり
11	不定形	(2.4)×1.2×0.24	青磁	
12	隋円形	0.91×0.6×0.22	土師器	
13	不定形	(2.3)×2.6×0.21	土師器(ヘラ切り)，弥生土器，青磁	
14	不定形	(6.8)×6.1×0.1	土師器	
15	不定形	(1.8)×1.2×0.05	土錘	
16	不定形	(3.2)×(2.0)×0.10	土師器	

表1．第1郭土坑観察表

面から深さ約3mで砂れき層に変化し，約3.6mのところで粘質土となりそこで水が湧いてきた。雨が降った後などは1mほど水が溜り，無くなるまでにはかなりの時間を要した。また，遺構の周辺や壁面には石組などの施設は認められなかった。

(3) 柱穴

郭中央部には中心に約100本ほど検出したが，掘立柱建物をみつけるまでには至らなかった。出土遺物は大部分が土師器坏・小皿片で青磁，白磁，備前焼，土錘のほか弥生土器も一部みられる。

(4) 土塁

南側土塁の構築状況を観察するためにトレンチを設定した（第1トレンチ）。平坦部からの高さは1.8m，基底部の幅は6.5mを測る。外側は丸味をもち，内側は緩やかな傾斜で平坦部へ続く。Ⅳ層～Ⅸ層は自然層と考えられ，土塁の両端は地山を削って蒲鉾状に成形し，その土を盛って土塁を構築している。土塁の頂部には固く締まった層（Ⅱ層）がみられるが，現状ではすでにこのⅡ層が露出していたことから，本来はもっと高かったと思われる。また，土塁内側の地山が削られた部分には土塁上部の土が流れ込んだ粘質土（Ⅹ層～ⅩⅤ層）が堆積している（第5図）。

第2トレンチとして西側のやや起伏のあるところに設定した。地山は縁辺に向かって階段状に緩やかに傾斜している。地山直上の13・14層は非常に固く締まっていて，一時期ここに生活面があったと思われる。そ

の後，７層や３，４層の状況でもわかるように叩きしめながら盛り上げていき，最終段階では地山からの高さは約 1.6m を測る。ただ，８－ｂ層としてレンズ状に黒褐色土が堆積していることから，７－ｃ，ｅ層を盛土したまでの段階が間に一時期入る可能性がある（第６図）。

第３トレンチは北側土塁の断面図を作成するために設定した。土塁の高さは基底部から約２ｍ，幅10m である。土塁は地山を削って作られたのでなく，すべて盛土によって構築されている。南側土塁の構築方法と対象的でこれはもともとの自然地形に因るものであろう。つまり，南から北に向かって傾斜していた地形を平坦にするために南側の地山を削り，その土を北側に盛土したと考えられる。土層には15・16層，３・５層，６・10層を中心とした三つの固く締まった層が認められる。何れも内側に傾斜していて，土塁盛土が流出するのを防いでいる。北側土塁は他の土塁よりも幅広であることや固く締められた層が幾つかみられることから複数の増層が行われたと思われる。また，外側傾斜部に柱穴らしい落ち込みを検出した（第７図）。土塁の幅を広くしたことによって，防禦的役割から帯曲輪のような攻撃的なものに変化したと考えられる。

伐採された杉を搬出するための道が北側土塁の一部を破壊して造られている。その壁面を清掃して土層を観察した（第７トレンチ）。39～40層は自然層である。その直上の33・34層は固く締まった黒褐色土で土塁の盛土とは異なり，最初の生活面ではないかと考えられる。その上には13層と５－ａ層二つの固く締まった層がみられ，増築の段階が窺える。最終段階での地山から表土までの高さは 1.6m で，幅 5.5m を測り，土塁外側端には柱穴らしい落ち込みがみられ，内側は平場を設けながら階段状に下がる（第８図）。また，第２トレンチで確認した土塁の幅に比べると狭くて低くなっていて，近くに出入り口があった可能性がある。この部分に杉搬出用の道が造られたのは示唆的である。

このように土塁の土層断面から，２回あるいは３回の大きな補強工事が行われたようである。

２．第２郭（第９図）

第１郭の北東約15m のところに位置し，北側が長く，南側が短い台形状を呈す。北側は約 1.5m ほど段落ちしていて，現況では幅８ｍ，長さ35m のテラス状の平場をなしている。上段は標高約36m と第１郭より１ｍほど低く，堀の底からとの比高差は約６ｍである。郭は南北約28m を測り，平坦部は 630㎡の広さである。現状においては南側には第１郭より低い土塁が認められる程度であるが，西側及び東側にも土塁が廻っていた可能性がある。郭内では掘立柱建物跡１棟，土坑，カマドと思われる集石遺構や柱穴群を検出した。また，発掘区の北西部や北東部には用途不明の散石が検出されている。

(1) ＳＢ１（第10図９）

発掘区のほぼ中央に位置する。東西に桁行４間，南北に梁行２間で北と南に庇がつく床張りの建物で，方位はＮ75°Ｗを示す。柱間寸法は，桁行北側で東より 1.9m ＋ 2.0m ＋ 2.0m ＋ 1.8m ＝ 7.7m，南側で東より 1.9m ＋ 2.0m ＋ 1.9m ＋ 1.8m ＝ 7.6m，梁行東妻は北より 2.3m ＋ 2.2m ＝ 4.5m，西妻は北より 2.1m ＋ 2.2m ＝ 4.3m を測る。桁行と庇の間の長さは北側で約 1.2m，南側で約 1.5m である。柱穴の大きさは，40～60cm，深さ20～40cm と他の柱穴より大きく容易に識別できた。これは時期差を示していると思われる。

(3) 土坑（第12図）

発掘区の北西部で２基検出した。

ＳＣ１は不定形を呈し，東西 2.7m，南北 2.1m，深さ約15cm を測る。東半分に10cm 前後の石や遺物が集中し，焼土も二箇所認められた。遺物としては土師器の坏や小皿，備前焼大甕（１個体分あり），土錘などが出土している。

ＳＣ２はＳＣ１の西に近接し不定形を呈す。東西 3.3m，南北 2.7m，深さ約20cmを測る。東の端に拳大～人頭大の石が集まっていて，付近には焼土や炭化物も見られることからカマドとして使用されていた可能性がある。遺物は土師器坏・小皿片や備前焼甕片などが出土している。

(4) ＳＪ１（第11図）

ＳＣ１の東に，径約60cmの範囲に５～30cmの石が集中している。集石の下には60cm×45cmの掘り込みがあり，中心部には比較的大きな石が置かれ，周囲には立った状態のものもある。石の間には炭化物や土師器片がみられるが，焼土は確認されなかった。北側には10cm前後の石や30cmほどの石が散乱し，それに混じって土師器や備前焼大甕，青磁などの破片や土錘が出土している。カマドとして使われていた可能性がある。

(5) 柱　穴

発掘区内で約 200本の柱穴を検出した。北側は散石，他の三方はそれより先は郭が切れることからこれが第２郭のほぼ全てであろうと思われる。ただ，南側土塁の西半分の下に柱穴や土師器片が見つかっていることから，土塁の東半分の下にもある可能性が大きい。

このことから，最初土塁を築く前に何らかの生活遺構があり，「戦」という緊張状態に入って，土塁が築かれたと考えられる。

柱穴からは土師器片や鉄器，土錘，陶磁器などがみつかっている。特に，ＳＨ 167からは土師器坏・小皿が約30個体ほど出土した。

(6) 土　塁

郭の南東隅にＬ字状の等高線がみられそこに土塁のあったことがわかるが，現状は僅かに起伏しているだけであった。そこで土層断面を観察するためにトレンチ設定した（第４トレンチ）。表土を除いた高さは 0.8m，幅 5.5m ＋ α で，内側に固く締められた層（12層）がみられる（第13図）。また，東側トレンチ（第９トレンチ）を入れたが縁辺部に向かって傾斜した土層で土塁を構築した痕跡は認められなかった（第15図）。

３．第３郭

第１郭の東約15m，第２郭の南約７m に位置する。南側はすでに土取りによって削平されているため大きさは不明である。ただ，第２郭から延びる堀や第１郭からの等高線の様子から，南北30m 強，東西10m 強の大きさであろうと考えられる。第２郭とほぼ同じ高さで，第１郭東側土塁上部と比べると２m ほど低い。周囲に巡らされた堀の底との比高差は約３m である。また，土塁などの防禦施設はみられないが，縁辺部に第２郭と同様な散石の状況が認められた。

４．その他の調査区

郭周辺の堀を中心に調査を行った。

(1) 第５トレンチ（第16図）

第１郭の東に廻る堀と第２郭と第３郭の間を走る堀とがぶつかる箇所にトレンチを設定した。堀は西に向かうにつれ段を有しながら徐々に上って，堀底から約90cmの高さのところに幅 1.2m の平場がある。そこから，やや急角度で

傾斜して第１郭を廻り堀底へ続く。平場と堀底との比高差は約２m を測る。この平場は南に延びているが，それが第１郭を廻る堀に続くのか，第３郭の周囲に廻るのか，途中で切れているのかは確認できなかった。しかし，敵勢力を分散・停止させるという防禦面から考えると途中で切れている可能性が大きい。第１郭土塁頂部と堀底の差は約 7.6m である。

(2) 第６トレンチ（第18図）

第２郭と第３郭との間に設定した。堀は薬研掘りで郭との比高差は 2.6m を測る。土層を観察するとまず，中位よりやや上に水が流れて堆積したと思われる砂層（10・11層）があることから，12層・13－a 層の上面まで人為的に埋められ，その後期間をおいて２層直下まで再度埋められたと考えられる。ただ，18～22層は堀完掘後，床面として固められた部分かもしれない。

(3) 第８トレンチ（第17図）

第２・３郭の東を廻る堀が南と西に分かれる地点に設定した。堀は表土から 1.8m 深さで，底幅が約 2.3m と他のトレンチで確認した堀より広くなっている。東側は東へ傾斜した自然地形の土層（６～12層）の上に盛土して帯曲輪状の平坦面を構築している。

(4) 第10トレンチ（第14図）

第２郭の東側の堀に設定した。堀は薬研掘りで，郭から堀底までの比高差は約６m である。24～26層は第６トレンチでもみられたように床面として固められた可能性がある。また，東側には第８トレンチの続きとして帯曲輪状の平場が認められる。３・６・７層は，自然層である10層および11層に類似していることから，堀内部の土をそのまま盛土して平坦面を作ったと考えられる。

(5) 第１郭南西下の緩斜面

第１郭北側，第２・３郭との間には堀が巡るが，西側および南側には堀は見られず約５m の幅で緩斜面が続き，急角度で低地へ下っている。この緩斜面上には堀などの施設は検出できなかった。また，西端には櫓状の高まりもみられるが，人為的なものではなく自然地形であり，柱穴などの遺構は確認できなかった。

５．遺　　物

土師器や青磁，白磁，備前焼などの陶磁器のほかに土錘，鉄製品なども出土している。詳細については実測図と観察表をあわせて参照していただきたい。

(1) 土師器（第18図，第19図27～43，第20図68～79，第21図，第22図98～112，第23図136～139）

土師器は他の遺物に比べ多量に出土しているが，良好な一括資料を得ることはできなかった。そこで，形態を中心に分類を試みた。ヘラ切り底をⅠ類，糸切り底をⅡ類とし，坏形土器をＡ類，小皿をＢ類として分類した。(表２)

Ⅰ－Ａ－１類（２・24・27・90・91）

底部と体部との境が明瞭で，体部は直線的に延びる。体部は厚手で，口縁端部は丸味をもつ。

Ⅰ－Ａ－２類（28・89）

Ⅰ類より底部と体部との境が明瞭で厚い。体部には調整の凹凸を残し，内湾しながら延びる。口縁端部はややシャ

ープである。

Ⅰ－A－3類（6・9・33）

底部と体部の境は，丁寧に仕上げられ明瞭である。体部はそれほど立ち上がらず外方向へのびる。比較的薄手である。

Ⅰ－A－4類（5・30・82・83）

底部と体部との境は明瞭だが，1・3類のように底部付近で外反するようにのびるのではなく，底部から直線的に体部へ移行しているもの。底部は他に比べると薄い。

Ⅰ－A－5類（72）

底部と体部との境が不明瞭で，体部は内湾しながらのびる。

Ⅱ－A－1類（18・20・136）

底部から丸味をもって立ち上がる。全体に薄手である。

Ⅱ－A－2類（70）

底部と体部との境は明瞭。体部はやや内湾しながらのびる。口径に比べ底径が小さい。厚手である。Ⅰ－A－1類に類似する。

Ⅱ－A－3類（21）

底部と体部との境は丁寧に仕上げられている。Ⅰ－A－3類に似ている。

Ⅰ－B－1類（41・69・79・102・103・105・111・112）

底部と体部との境が明瞭で，外反しながらのびる。体部は直線的あるいはやや内湾し，口縁端部は丸く仕上げられるものと，シャープなものとがある。

Ⅰ－B－2類（104・106）

底部と体部との境は明瞭で，外反しながらのびる。体部は直線的なものや内湾するものがある。体部は他に比べると長く，口縁端部は丸い。

Ⅰ－B－3類（17・42・80・107～110）

底部と体部との境は明瞭で，体部は短く外方へ引きのばされる。端部は丸味をもつものとシャープに仕上げられるものとがある。

Ⅱ－B－1類（12）

底部と体部との境は丸味をもち，体部はやや内湾しながらのびる。

Ⅱ－B－2類（13）

底部と体部との境が明瞭で，体部は直線的にのびる。

(1) 青磁（第20図51～66，第22図113～127・131，第23図140・141）

青磁は全部で約40点ほど出土しているが何れも破片である。器種は殆ど碗で，他は盤が1点出土している。

碗の殆どは口縁が外反し無文である。蓮弁が施されるものもあるが小片で非常に少ない。外反する口縁部は体部と変わらない厚さで外反するものと，端部が肥厚するもの，小さな玉縁状を呈するものとに分かれる。底部は厚手の高台と比較的薄く三角形をなすものとがある。(表3)

(3) 白磁（第20図66・67，第22図115・129・130）

白磁は土師器や青磁に比べるとさらに少なく，全部で10点にも及ばない。

器種には皿，碗，角坏，合子などがある。(表３)

(4) 備前焼（第19図44～46，第23図132～135）

備前焼は大甕片が多く，１点だけ摺鉢が出土している。大甕の口縁部はすべて玉縁状を呈し，その外の形態のものは見られない。第２郭ＳＣ２やＳＩ１周辺から大甕片が多量に出土し，132と135は同一個体と考えられる。摺鉢は口縁上面を外下りに斜めに切り落としたもので，内面には10本を一単位とした櫛描の条線が施されている。(表３)

(5) その他の出土遺物

陶磁器は前述したものの他に，第２郭から天目茶碗（第22図 128）や第１郭からは瓦質の火鉢（第19図47・48・50）などが出土している。(表３)

土錘は第１郭から29個，第２郭から112個，その他周辺から4個の計145個が出土している（第24図）。すべて管状土錘で，指ナデによって仕上げられている。長さ2.1cm～5.75cm，最大径1.05～1.8cm，重量1.5g～6.3gを測る。そのなかで両端部を切り落として面取りされているものが多く，端部がすぼむものは少ない。(表４)

その外，石製の硯（第26図３）や鉄製品なども出土している。

小　結

最初に，当山城の城どりについて触れてみたい。

城の大手は北西の二又に分かれた丘陵の間を上り，第１郭と第２郭の北西側に通じる。ここには門あるいは塀や柵などの遮蔽物があったと考えられる。また，この直前で分かれて等高線に沿って第２郭の北を巡るもう一つの道がある。これらの通路は郭の周囲に巡らされた堀の底を利用している。第１郭東の通路は第２・３郭の間には通じず，そのまま第１郭南の平場に抜ける。この平場は南側防御のためと北から堀底を上って攻めてくる敵に対して「武者だまり」的な役割や小さな帯曲輪的な要素が考えられる。また，土塁が切れていることや第３郭からの防禦を考えた時，第１郭への登り口がこの付近にあった可能性が高い。現在杉搬出用の道路によって破壊されている部分の土層断面（第７トレンチ）から出入り口の存在が想定される。第２郭の北から東側を通る道は第３郭の北東部で西と南に分かれ，西側に伸びるものは途中で切れ第１郭東側の通路とは結がらない。第２郭への上がり口は未確認だが，郭東辺中央のやや括れた部分に設けられていたかもしれない。また，外部からの進入路は大手とは別に第２郭東側(帯曲輪の外側)の緩斜面にも登り口（搦手？）があったと考えられるが未確認である。

城の防禦施設としては第１郭の南西下には櫓台状の高まりが，その北と東には帯曲輪状の緩斜面があり南に対する防禦がなされている。西側には竪堀などは確認できなかった。第２郭の北から東にかけては，緩やかな斜面が続き最も攻められ易い箇所である。そのため堀と二重の帯曲輪が構築され，北からの敵の侵入に備えている。帯曲輪のさらに下（北側）にも塀や柵等の施設があったと考えられる。また，第３郭の東側は土取りによって削平されているため丘陵を独立させるための堀や第２郭とともに北からの侵入を防ぐための郭の有無については確認できなかった。

第１郭では柱穴はあったものの明確な建物は確認できなかった。そのほかに用途不明の土坑や井戸等を検出した。また，他の郭に比べ土塁も高く幅広であることなどから「詰城」的な役割をもっていたと考えられる。それに対し第２郭には明瞭な土塁もなく掘立柱建物跡やカマドなど生活の跡が窺える。

次に出土遺物についてみてみたい。第１郭と第２郭との出土遺物の違いは認められないが，第２郭の方が出土量が多い。遺物としては土師器が最も多いが，比較的時期比定が可能な陶磁器との共伴関係に恵まれず，県内の各遺跡出土土器の相対的な前後関係を示す資料も少ない。また，ヘラ切り底から糸切り底への転換の時期についても確実な資料はない。

当山城や車坂城出土資料をみた場合，圧倒的にヘラ切り底のものが多く糸切りは少ない。山城の存続期間から15世紀あるいは16世紀までヘラ切り底が根強く残っていたと考えられる。昭和56～57年にかけて調査された山内石塔群では応永25年（1418年）を最古として，承応３年（1654年）が最も新しい紀年銘を持つ石塔が発見され[5]，文献から読みとれる当山城の活動期とある程度一致し，石塔群出土の中に数多くの類似した土器を見い出すことができる。当遺跡分類のⅠ－Ａ－１・２類にみられる底部と体部との境を特徴としたタイプのものは，ヘラ切り単独で出土する平畑遺跡[6]や糸切り単独で出土する若宮田遺跡[7]ではみられず，ヘラ切りと糸切りが混在して出土する堂地東遺跡[8]にみられる。つまり，ヘラ切りと糸切りの転換期に出現するタイプの土器として考えられないであろうか。また外方へ短く引き伸ばされるⅠ－Ｂ－３類はヘラ切り単独で出土している平畑遺跡にもみられ，堂地東遺跡でも少量出土していることからⅠ－Ａ－１・２類と同様ヘラ切りから糸切りへの転換期までの時期に位置付け出来る。ただ，平畑遺跡出土の方が薄手で作りが丁寧である。ヘラ切り底と糸切り底の共伴は宮崎市の源藤遺跡２号土坑にみられ，文献に登場する「長命寺」との関連から15世紀から16世紀前半に位置付けされている[9]。源藤遺跡出土の土師器は，当遺跡出土のものには類似資料がみられず，堂地東遺跡や前原西遺跡周溝墓出土資料に同形態のものがある。これは時期差を示し，後者の方が新しいと考えられる。

陶磁器類である程度年代を決定できるものは備前焼大甕だけである。第２郭ＳＩ１およびその周辺から出土した大甕は玉縁状の口縁や滑らかに屈曲する頸部など備前焼Ⅲ期末からⅣ期に位置付けできよう[10]。それは南北朝から室町時代（15世紀前後）にあたる第１郭でもこの型式の備前焼しか出土していない。青磁は15世紀代に比定できると思われる[11]が確証はない。129の合子は12世紀代のもの[12]であろうが，伝世品の可能性もある。

このように良好な共伴資料に恵まれなかったことから土師器の時期を確定することは出来ないが，周辺の遺跡や文献を参考に上限として14世紀は遡らないと考えられる。また，下限を山内石塔群において16世紀後半から17世紀に比定した，口径に対して極端に底径が小さくなるタイプの土器が出土していないことや陶磁器類に16世紀代まで下る確実な資料がないことから15世紀から16世紀前半に置いておきたい。

第４節　弥生時代の遺構と遺物

(1) 遺　構

弥生時代の住居跡は第２郭から３軒みつかっているが，後世の山城築造のために大部分が破壊され詳細は不明な点が多い。

ＳＡ１（第27図）

第２郭の南端の既に削平されてしまった土塁の下から検出された。土塁築造のため南東隅の角の部分だけしか確認出来なかった。出土遺物もほとんど小片であったが，ＳＨ８からほぼ完形の鉢と複合口縁壺の口縁部が出土し，住居に伴う柱穴と考えられる。

ＳＡ２（第27図）

第２郭発掘区のほぼ中央に位置する，7.8×5.5m の方形の住居である。東側は西側に比べやや狭くなる。検出面からの深さは南側で約16cm，東側で約５cmを測る。柱穴についてはよくわからない。南東隅付近に0.6，0.4m の範囲に焼土を確認した。遺物は小片が遺構全体から出土するものの，山城に伴う土師器皿や坏と混在している。そのなかで残存状況の良好なものだけを図示した。

ＳＡ３（第27図）

ＳＡ２のすぐ北にある2.4×1.6m を測る不定形の住居である。平面形については後世の攪乱が激しく確定はできな

いが，遺物は他の住居より遺物の残りが良く器台などまとまった状態で出土している。

(2) その他の遺構・遺物について

平坦面になる各郭から多くの弥生土器片が出土しているが，遺構については把握できなかった。そのなかで弥生土器片が出土している柱穴などは住居に伴う可能性もある。

(3) 遺　　物（第28・29図）

遺物は住居跡以外からも各郭の包含層から弥生時代の土器片が多量に出土している。図示していないが甕の破片が最も多く，次いで壺，鉢の順に多い。特に，器形のせいもあるかもしれないが複合口縁壺が目に付く。なお，土器についてはあとに土器観察表を掲載しているので実測図とあわせて参照していただきたい。(表５)

小　　結

住居の時期については後世の攪乱が激しく確定はできないものの，ＳＡ３の丸味をおびてくの字状に屈曲する口縁の甕や器台が前原遺跡出土のものに類似していることなどから弥生時代後期後半でも終末期に近い時期が考えられる。また，ＳＡ１・２もこの時期とそう違わないと思われる。また一括資料の遺物のなかには，堂地東遺跡で多量に出土したくの字口縁に刻み目突帯をもつ甕など後期前半まで上るものから，複合口縁壺の拡張部が外傾しているものや丸底の壺も一部存在することから古墳時代初頭まで下るものまで幅広くみられる。このことから生活の場として以外にも何らかの活動の場として使われていたのではなかろうか。

今江城の眼下には弥生時代中期から古墳時代まで続く前原北遺跡や弥生時代終末期の前原南遺跡があり，これらの遺跡が立地する台地と本遺跡との比高差は約20m を測る。台地上の集団が一部丘陵に移動する現象は，何らかの「敵」に対する緊張説も考えられるが，宮崎学園都市遺跡群の弥生時代集落の在り方からみると各時期拠点的集落と１～２軒からなる集落とに分かれ，今江城の弥生時代住居もこれの一つの例証として捉えられよう。

第５節　まとめ

今江城（仮称）跡は，宮崎学園都市遺跡群の立地する舌状台地東端部丘陵の一部に作られた平山城である。城は幅約2.5m の空堀で区切られた3＋α の郭からなる。主郭と思われる第１郭は最も標高が高く面積も最大である。この主郭を守るかのように東側に第２・３郭が並列し，さらにその外側（北と東）には二重の帯曲輪で防御している。城は現地形からみてもさらに南に郭が続くとは考えにくく，現在道路が通っているところまでの範囲で収まるものと想定される。今江城はこのように各郭の独立性が強いものの，南九州特有の大規模で分散型の城とは趣を異にし[13]，「居城」というより砦や出城としての要素が強い。

文献によく出てくる車坂城は今江城がある丘陵の南端に構築されている。車坂城は土持氏の支族熊野氏の居城であったものを応永の頃，都於郡城主伊東祐立が攻め取っている。以後，伊東氏と島津氏との攻防が幾度となく繰り返され，文明12年(1480年)伊東祐国が島津氏から城を奪い取ってから天正５年(1577年)，伊東義祐が島津氏に敗れ豊後落ちするまでの約百年間は伊東氏の居城となる。しかし，永禄11年（1568年）「日向記」の伊東氏48城の中には車坂城の名はみられないことから，すでに廃城になっていた可能性もある。「日向地誌」によれば城は六区に分かれ，すべて

深い空堀によって区画されていたらしく，現存しているのはその中で「西ノ城」と呼ばれていたものである[14]。車坂城とその北東に開けた平坦面は土橋によって結ばれ，この平坦部も城内として捉えられよう。そして，今江城はこの平坦部を含めた車坂城を，北からの敵に対して防御するためや飫肥に抜ける街道の押さえ，さらに北を流れる清武川の押さえとして作られたのではなかろうか。一方，南（飫肥）へ侵攻したい伊東氏と三州統一のため山東へ侵攻したい島津氏とがぶつかりあったのがこの熊野の地であり，南に対する車坂城が伊東，北に対する今江城(仮称)が島津の前線基地の城とする考え方がある[15]。そうするならば，伊東氏方の文献である「日向記」に当山城についての記載がないことは示唆的である。また，島津方の『山田聖栄自記』に「……是も元久御代山東加江田倉そこノ城責落之時合戦，新納殿内隈江方討死，敵ニ者宮崎之手ニ数十人被討華，加江田本城ハ取誘，阿多加賀守被差置，」[16]とあり「加江田本城」が車坂城を指し，「山東加江田倉そこノ城」は周辺に相当するような城跡が無いことから当城跡をこれに比定できるかもしれないが確証はない[17]。

今江城(仮称)跡の築造年代や廃棄時期については不明であるため出土遺物からみると，ある程度確実に年代が押さえられるものは備前焼で15世紀前後に位置付けできる。しかし第２郭から出土した備前焼大甕の胴下半には穿孔が施されていて再利用した可能性もあり，使用期間は比較的長期に及んだものと考えられる。文献でみてみると文明12年（1480年），最終的に伊東祐国が島津氏から城を奪い取った時期に近い。また，糸切り底のみを出土し，当山城の最終段階として考えている第１郭ＳＣ７やＳＣ９は，糸切り底が大半を占める15世紀代に位置付け出来，備前焼の年代や文明12年（1480年）にほぼ合致する。土塁にみられた改築や増築などの改変は文献に幾つかみられるが，そのほか文献ない改変が行われたことはいうまでもない。多少の危険を覚悟でいうなら，第１郭東側土塁（第３トレンチ）の最終に記載され最終的増強は応永31年（1424年）島津久豊が伊東祐安と和睦し，「加江田，隈野，木原等の地，兵禍で戸口散亡。久豊，窮民を安撫し，数塁を築いて辺備を修する。」[18]時期に比定できるのではなかろうか。

今江城の西に広がる台地には宮崎学園都市遺跡群があり，旧石器から近世まで多くの遺跡が発見されている。古代（奈良～平安時代）の遺跡としては平畑遺跡，前原南遺跡，陣ノ内遺跡，赤坂遺跡，下田畑遺跡があり，中世の遺跡としては堂地東遺跡，前原西遺跡，前原北遺跡，熊野原遺跡がある[19]。このように古代の遺跡と中世の遺跡とはほとんど複合しないという特徴がみられる。古代の建物は，カマド付きの竪穴式住居や掘立柱建物跡は２間×３間が主体でそれに庇がつくものなどあり前者の方が古く，新しくなって竪穴と掘立の同時併存も考えられる。中世では全て掘立柱建物で１間×３間を基本に大型の建物も多く見られる。居住地の移動は貴族社会から武家社会への変化を背景にしているのは当然のことながら、具体的要因については発掘した集落がどういう性格のものであったのか，またどのような階層の人々のものであったのかがまず問題となり，谷部から台地上へ農作地の拡充，つまり農業経営の変化や古代の延喜式にみられた幹道が別な場所に移動した等考えられるが未解決で今後の課題である。古代の遺物としては土師器，黒色土器，布痕土器，須恵器，硬陶の緑釉皿，越州窯の坏等が出土し，当時熊野の地が主要な位置を占めていたことが窺える。中世の遺物は土師器をはじめ12～13世紀代のものとして白磁，古瀬戸，東播系の摺鉢，常滑焼が，14世紀以後は左記のものの他に青磁，備前焼，天目茶碗，染付等が出土し，全国的な流通経路にのっていたと考えられる。その中で染付は城跡からはほとんどみられず，堂地東遺跡から多量に出土している[20]。今江城眼下の前原北遺跡では，白磁や古瀬戸，常滑焼などが出土し[21]，城に関連した，あるいは熊野氏等の豪族の館跡の可能性もある。また，染付を多量に出土した堂地東遺跡では，石塔類や時代がやや下るが近世墓が存在していたこと，そして「堂地」という字名が残っていることなどから寺の存在が想定され，日向地誌にでてくる文政年間（1818～1830年）に廃絶した「貞永寺」が候補としてあげられている[22]。また，山内石塔群対岸の低丘陵には勢田寺が所在し，日向地誌には「勢田寺址，真言宗飫肥願成就寺ノ末派ナリ黒阪勢田堂ノ下池ノ上ニアリ古ハ十二ノ支院アリト云傳フ頗ル大伽藍ナリシト見ユ明治五年壬申廃ス今山林トナル」とあり，当時は相当な勢力を有していたと考えられる。このように文献によってクローズ・アップされてい

る伊東氏と島津氏との攻防以外にも寺社勢力が庶民には大きな影響力を与えていたと考えられ，むしろ後者を理解することによって当時の人々の生活の一端に近づくことが出来るのではないだろうか。そして，武家勢力は寺社勢力や庶民にどれだけの規制力を持っていたのかが重要な鍵となるであろう。

今回の調査によって中世の城跡や館址は、造成しやすい低丘陵に立地し破壊の危機に瀕しやすい。そのため県内全体の把握（字名を含めた）が急務であり保存を前提とした保護措置の検討を痛感した。また，宮崎学園都市の建設は遺跡破壊という問題がある反面，限られた（ある程度の広さをもった）地域で各時代に亘る数多くの遺跡が発掘され，地域研究を行うための良好な素材を提供することとなった。ほとんどの遺跡が姿を消してしまった現在，今後の研究課題としその責を果たしたい。

（谷口　武範）

註

(1) 「山内石塔群」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告　第１集』宮崎県教育委員会　1984
『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告　第２集』宮崎県教育委員会　1986
『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告　第３集』宮崎県教育委員会　1986
本　書

(2) 「城内遺跡」『九州縦貫自道車道埋蔵文化財発掘調査報告書（３）』宮崎県教育委員会　1979

(3) 「大分・宮崎・愛媛」『日本城郭大系　16』新人物往来社　1980

(4) （３）と同じ

(5) 「山内石塔群」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告　第１集』宮崎県教育委員会　1984

(6) 「平畑遺跡の調査」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告　第２集』宮崎県教育委員会　1986

(7) 「若宮田遺跡」『清武町文化財調査報告書』清武町教育委員会　1979

(8) 「堂地東遺跡の調査」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告　第２集』宮崎県教育委員会　1986

(9) 「源藤遺跡」『宮崎市文化財調査報告書』宮崎市教育委員会　1987

(10) 間壁忠彦「備前」『世界陶磁全集（３）』小学館　1977

(11) 上田秀夫「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究　No２』1982

(12) 『世界陶磁全集（12）』小学館　1977

(13) 林田修三編『図説　中世城郭事典　三』新人物往来社　1987

(14) 「西ノ城」以外の郭は現在までの採土によってすべて消滅し，詳細は全くわかっていない。

(15) 有田辰美氏の御教授による。

(16) 山田聖栄は島津氏の有力な家臣で『山田聖栄自記』は自筆の記録である。
『山田聖栄自記』鹿児島県　1966

(17) 車坂城の名前のわからない郭を指している可能性もある。

(18) 『日向地誌』より一部改変。

(19) （１）と同じ

(20) （８）と同じ

(21) 本書に掲載

(22) （８）に同じ

参考文献

平部嶠南『日向地誌』　1855
平部嶠南『日向纂記』　1855
喜田貞吉『日向国史』　1930
日高次吉『宮崎県の歴史』山川出版社　1970
『伐株山城跡』大分県玖珠町教育委員会　1984
『日本城郭大系　別覧Ⅱ』新人物往来社　1980

表２．土師器観察表

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器形	法量(cm)			色調		胎土	焼成	調整			備考
					口径	底径	高	内面	外面			内面	外面	底部	
18	1	SC2	坏	底部	—	8.1	—	浅黄橙(10YR8/4)の明るい	浅黄橙(10YR8/4)の明るい色	細砂粒(黒,白,褐)を含む 6mm大の小石？も含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	全体的に風化
〃	2	〃	坏	口縁～底部	12.6	8.5	3.6	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	細砂粒(褐)を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	底部と体部の堺に粘土のたまり
〃	3	〃	坏	体部～底部	—	8.4	—	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	きめが細かい	良好	風化のため調整不明	横ナデ	ヘラ切り	
〃	4	SC3	坏	体部～底部	—	7.2	—	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	きめが細かい	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	5	〃	坏	体部～底部	—	8.0	—	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	細砂粒を含む(褐,黒)	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	6	〃	坏	体部～底部	—	9.0	—	にぶい橙(7.5YR7/4)にぶい褐(7.5YR5/3)	にぶい橙(7.5YR7/4)褐(7.5YR5/3)	細砂粒を含む(黒,透明な粒 etc)	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	7	SC4	坏	体部～底部	—	8.0	—	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	きめが細かい	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	8	SC5	坏	底部	12.8	—	—	浅黄橙(7.5YR8/4)のくすんだ色	浅黄橙(7.5YR8/4)のくすんだ色	きめが細かい	良好	ナデ	横ナデ	—	体部外面に横ナデによる凹凸を残す
〃	9	〃	坏	体部～底部	—	7.8	—	浅黄橙(7.5YR8/3～8/4)	浅黄橙(7.5YR8/3～8/4)	細砂粒(褐 etc)を含む)	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	10	SC7	坏	体部～底部	—	7.2	—	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	0.3mm～0.5mm大の黒,茶白の砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	不明	
〃	11	〃	小皿	ほぼ完形	—	6.1	—	にぶい橙(5YR7/4)	にぶい橙(5YR7/4)	0.2mm～0.5mmの砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	糸切り	
〃	12	〃	小皿	完形	7.5	6.2	1.6	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	細砂粒を少量含む	良好	横ナデ	横ナデ	糸切り	
〃	13	〃	小皿	ほぼ完形	—	6.2	—	にぶい橙(5YR7/4)	にぶい橙(5YR7/4)	0.5mm前後の砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	糸切り	
〃	14	〃	坏	体部～底部	—	7.8	—	にぶい橙(5YR7/3)	浅黄橙(7.5YR8/4)	0.2mm～0.3mmの茶,黒の砂粒を含む茶＞黒＞白	良好	横ナデ	横ナデ	糸切り	
〃	15	〃	坏	体部～底部	—	6.8	—	灰黄褐(10YR5/2)	にぶい黄橙(10YR7/2)	0.5mm～1mmの茶色の粒 0.2mm～3mmの黒の粒	良好	横ナデ	横ナデ	糸切り	
〃	16	〃	坏	体部～底部	—	8.0	—	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	0.2～0.3mmの黒,茶,白の砂粒を含む	良好	風化のため調整不明	風化のため調整不明	不明	
〃	17	SC8	小皿	口縁～底部	7.4	7.0	1.45	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	きめ細か,黒茶等の細砂粒を含む，黒く光る粒を含む	良好	ナデ	横ナデ	—	
〃	18	SC9	坏	体部～底部	—	8.0	—	橙(5YR6/6)	橙(5YR6/6)	きめ細か，白黒等の細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	糸切り	
〃	19	〃	坏	体部～底部	—	7.8	—	灰黄褐(10YR5/2)	にぶい黄橙(10YR7/2)	1mm前後のうす茶，茶，黒の粒を含む	やや不良	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	20	〃	坏	体部～底部	—	7.8	—	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	茶,灰の細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	糸切り	
〃	21	〃	坏	体部～底部	—	6.4	—	淡橙(5YR8/4)	淡橙(5YR8/4)	細砂粒(褐 etc)を含む	良好	横ナデ	横ナデ	糸切り	
〃	22	〃	坏	体部～底部	—	6.7	—	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/4)	こげ茶,灰の細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	糸切り	
〃	23	〃	坏	体部～底部	—	6.7	—	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	うす茶,黒,白の細砂粒をを含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	24	〃	坏	口縁～底部	8.8	5.5	2.6	明褐灰(7.5YR7/2)	明褐灰(7.5YR7/2)	細砂粒(黒,白 etc)を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	底部と体部の堺に粘土のたまり
〃	25	SC13	坏	体部～底部	—	7.4	—	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	茶，灰色の細破粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	26	〃	坏	体部～底部	—	—	—	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	うす茶，白，灰の細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
19	27	第1郭	坏	ほぼ完部	10.5	6.8	3.7	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/3)	白，うす茶，灰の細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	底部に板目が残る
〃	28	〃	坏	口部～底形	13.3	9.2	3.3	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	うす茶，白の細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	体部外面に横ナデによる凹凸を残す
〃	29	〃	坏	体部～底部	—	8.6	—	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	茶，白の細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	30	〃	坏	体部～底部	—	8.0	—	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	茶,灰,白の細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	31	〃	坏	体部～底部	—	6.4	—	橙(5YR7/6)	橙(5YR7/6)	1mm前後の茶、白，黒の粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	糸切り	
〃	32	〃	坏	体部～底部	—	7.6	—	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	うす茶，灰色の細砂粒を含む	不良	風化	風化	ヘラ切り	底部は摩耗あるいはナデ消し
〃	33	〃	坏	体部～底部	—	8.2	—	浅黄橙(7.5YR8/4)	橙(7.5YR6/6)暗褐(7.5YR3/1)	うす茶，灰，白の細砂粒を含む	やや不良	横ナデ	風化	ヘラ切り	底部は摩耗あるいはナデ消し
〃	34	〃	坏	体部～底部	—	7.5	—	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	灰，うす茶の細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	底部に板目が残る
〃	35	〃	坏	体部～底部	—	7.6	—	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	茶，灰色の細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	雑なヘラ切り	
〃	36	〃	坏	体部～底部	—	7.8	—	浅黄橙(7.5YR8/4)	にぶい橙(7.5YR7/3)	白，灰色の細砂粒を含む	やや不良	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	37	〃	坏	体部～底部	—	6.8	—	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	灰色，茶の細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	38	〃	坏	体部～底部	—	6.4	—	浅黄橙(7.5YR8/4)	橙(7.5YR6/6)黒褐(7.5YR3/1)灰	茶，白の細砂粒を含む	不良	風化	横ナデ	ヘラ切り	
〃	39	SH16	坏	体部～底部	—	—	—	淡橙(5YR8/4)	淡橙(5YR8/4)	うす茶，白，黒の細砂粒を含む	やや不良	横ナデ	横ナデ	—	
〃	40	第1郭	坏	体部～底部	—	7.6	—	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/4)	灰，茶の細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	41	〃	小皿	口縁～底部	7.4	6.1	1.4	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	灰，茶の細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	42	SH9	小皿	口縁～底部	7.0	6.3	0.9	浅黄橙(7.5YR8/4)	橙(7.5YR6/6)暗灰黄褐(10YR5/2)	灰,うす茶の細砂粒を含む	良好	ナデ(指先でベタベタなでたような跡)	横ナデ	ヘラ切り	
〃	43	第1郭	小皿	体部～底部	—	6.9	—	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	白，灰色の細砂粒雲母を含む	良好	横ナデ	横ナデ	雑なヘラ切り	
20	68	第2郭	坏	ほぼ完形	12.0	6.8	3.15	橙(7.5YR6/6)	橙(7.5YR6/6)	細砂粒 (褐，白 etc)を含む	良好	横ナデ	横ナデ	糸切り	

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器形	法量(cm)			色調		胎土	焼成	調整			備考
					口径	底径	高	内面	外面			内面	外面	底部	
20	69	SH80	小皿	口縁～底部	9.7	8.0	—	浅黄橙(7.5YR8/3)	浅黄橙(7.5YR8/3)	0.1mm～0.3mmの砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	70	SH101	坏	口縁～底部	11.8	6.2	3.2	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	0.5mm～1mm程度の黒茶の粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	糸切り	
〃	71	SH167	坏	体部底部	—	8.2	—	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	0.2mm前後の黒い粒と0.5mm前後の茶色の粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	72	〃	坏	ほぼ完形	—	6.4	—	明黄褐(10YR7/6)	明黄褐(10YR7/6)	茶・黒等の細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り板目が残る	底部に板目が残る
〃	73	〃	坏	体部～底部	—	7.6	—	明黄褐(10YR7/6)	明黄褐(10YR7/6)	茶・灰色の細砂粒を含む透明な光る粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	74	〃	坏	体部～底部	—	7.8	—	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	75	〃	坏	体部～底部	—	8.2	—	にぶい黄橙(10YR7/4)	にぶい黄橙(10YR7/4)	茶，灰の細砂粒を含む透明な光る粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	76	〃	坏	口縁～底部	—	—	—	橙(7.5YR7/6)	橙(7.5YR7/6)	黒・茶の細砂粒を含む透明な光る粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	底部に板目が残る
〃	77	〃	坏	口縁～底部	—	—	—	明黄褐(10YR7/6)	明黄褐(10YR7/6)	黒・茶等の細砂粒を含む透明な光る粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	78	〃	坏	体部～底部	—	6.1	—	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	0.2～0.3mmの破粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	79	〃	小皿	ほぼ完形	7.8	(長)6.7 (短)6.5	1.25	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	細砂粒（茶・黒）を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	80	〃	小皿	ほぼ完形	—	6.8	1.4	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	0.2～0.3mmの砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
21	81	第2郭	坏	完形	11.5	7.2	3.5	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	細砂粒(黒,褐 etc)を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	底部にヘラのあとナデ
〃	82	SA3	坏	ほぼ完形	—	—	—	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	きめ細，細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	底部に板目が残る
〃	83	第2郭	坏	完形	11.4	8.2	3.5	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	茶，白，灰色の細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	底部に板目が残る
〃	84	SA3	坏	ほぼ完形	—	—	—	にぶい黄橙(10YR7/3)	にぶい黄橙(10YR7/3)	きめ細，細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	板目が残る	
〃	85	第2郭	坏	体部～底部	—	8.0	—	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	0.2～0.3mm前後の黒，茶の砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	86	〃	坏	体部～底部	—	—	—	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	1mm前後のこげ茶，灰色の粒を含む	良好	横ナデ(円を描くような)	横ナデ	ヘラ切り	底部に板目が残る
〃	87	〃	坏	体部～底部	—	7.7	—	浅黄橙(7.5YR8/4)の少しうすい色	浅黄橙(7.5YR8/4)の少しうすい色	細砂粒（黒・褐）を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	88	〃	坏	体部～底部	—	7.2	—	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/4)	細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	89	〃	坏	体部～底部	—	7.0	—	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	0.2～0.5mmの砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	体部内外面に横ナデ凹凸が残る
〃	90	〃	坏	口縁～底部	—	—	—	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	茶、灰色の細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	91	〃	坏	口縁～底部	10.5	6.8	2.8	にぶい黄橙(10YR7/3)一部灰黄褐(10YR6/2)	にぶい黄橙(10YR7/3)一部灰黄褐(10YR6/2)	細砂粒（白，黒 etc)含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	92	〃	坏	体部～底部	—	7.2	—	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	0.2mm前後の砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	底部に板目が残る
〃	93	〃	坏	体部～底部	—	5.7	—	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)底・灰白(7.5YR8/2)	うす茶・灰色の細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	94	〃	坏	体部～底部	—	7.5	—	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	うす茶，白・黒の細砂粒光る粒を含む	良好	横ナデ	横ナデスス付着	ヘラ切り	
〃	95	〃	坏	体部～底部	—	8.5	—	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	細砂粒(黒·褐·白)を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	96	〃	坏	体部～底部	—	6.8	—	明褐灰(7.5YR7/1)	浅黄橙(7.5YR8/4)	茶，白，灰色の細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ ヘラ先が切り込んだような跡	ヘラ切り	
〃	97	SA2	坏	体部～底部	—	8.0	—	黄橙(7.5YR7/8)	黄橙(7.5YR7/8)	茶，灰等の細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
22	98	第2郭	坏	口縁～底部	10.4	7.4	3.15	橙(5YR7/8)	橙(5YR7/8)	0.2～0.5mmの砂粒（茶，黒）を含む	良好	横ナデ	横ナデ	糸切り	
〃	99	〃	坏	体部～底部	—	6.0	—	浅黄橙(7.5YR8/4)でところどころ赤味をおびたりくすんだりしている	浅黄橙(7.5YR8/4)でところどころ赤味をおびたりくすんだりしている	細砂粒（黒，キラキラ光る粒）を含む	良好	横ナデ	横ナデ	糸切り周囲に粘土のたまり	
〃	100	〃	坏	体部～底部	—	5.2	—	浅黄橙(10YR8/4)	浅黄橙(10YR8/4)	細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	糸切り	
〃	101	〃	坏	体部～底部	—	5.5	—	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/3)	1mm前後の黒，うす茶の粒、白く光る細粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	糸切り	
〃	102	〃	小皿	口縁～底部	8.5	7.0	1.35	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	細砂粒(白,黒,褐)を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	103	〃	小皿	ほぼ完形	7.3	6.3	1.4	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	白,灰,茶の細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り 中央は切りそこないのように粘土がたまっている	
〃	104	〃	小皿	ほぼ完形	8.2	6.5	1.75	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	0.2mm前後の砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	105	〃	小皿	ほぼ完形	8.0	6.2	1.55	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	細砂粒(白,黒,褐)を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	106	〃	小皿	ほぼ完形	7.8	5.95	2.1	浅黄橙(7.5YR8/6)に赤味を滞びた色	浅黄橙(7.5YR8/6)に赤味を滞びた色	細砂粒（白，黒，褐，キラキラ光る粒）を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	底部ヘラ切りのあとナデ
〃	107	〃	小皿	口縁～底部	7.2	6.7	1.5	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	0.2mm前後の砂粒 0.5mm前後の茶色の粒を含	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	108	〃	小皿	口縁～底部	6.2	5.0	1.2	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	細砂粒（黒，褐 etc)を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	109	〃	小皿	ほぼ完形	7.3	6.7	1.65	浅黄橙(7.5YR8/6)	浅黄橙(7.5YR8/6)	黒，灰色の細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ ヘラ先でサッと切ったような跡	ヘラ切り	
〃	110	〃	小皿	口縁～底部	—	—	—	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	0.2mm前後の黒い粒,それよりやや大きめの茶の粒を含む	良好	—	—	—	
〃	111	〃	小皿	口縁～底部	7.7	5.9	1.25	浅黄橙(7.5YR8/4)少々赤味をおびている	浅黄橙(7.5YR8/4)少々赤味をおびている	細砂粒（黒，褐，キラキラ光る粒 etc)を含む	良好	横ナデ	横ナデ風化	ヘラ切り	
〃	112	〃	小皿	口縁～底部	9.5	7.7	1.45	浅黄橙(7.5YR8/4)一部くすんでいるところもある	浅黄橙(7.5YR8/4)一部くすんでいるところもある	細砂粒（黒，褐 ete）を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器形	法量(cm)			色調		胎土	焼成	調整			備考
					口径	底径	高	内面	外面			内面	外面	底部	
〃	136	第3トレンチ	坏	体部～底部	—	7.2	—	淡橙(5YR8/4)底面一淡黄橙(7.5YR8/4)	淡橙(5YR8/4)	うす茶，白，白く光る細砂粒を含む	良好	横ナデ	横ナデ	糸切り	
〃	137	第9トレンチ	坏	体部～底部	—	7.8	—	浅黄橙(7.5YR8/4)	浅黄橙(7.5YR8/4)	細砂粒（黒，褐 etc）を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	138	第6トレンチ	坏	体部～底部	—	6.8	—	浅黄橙(10YR8/3)	浅黄橙(10YR8/3)	細砂粒(白，黒，褐)を含む	良好	横ナデ	横ナデ	ヘラ切り	
〃	139	〃	坏	口縁～底部	12.8	7.4	3.2	浅黄橙(10YR8/4)ところどころ橙(7.5YR7/6)	浅黄橙(10YR8/4)ところどころ橙(7.5YR7/6)	細砂粒(白，黒，褐)を含む	良好	ナデ	横ナデ	ヘラ切り	

表３．陶磁器観察表

図面番号	遺物番号	遺構名 No.	器種	部位	法量（cm）	色調	形態・成形技法の特徴	備考
19	44	第１郭	備前焼甕	口縁	推定口径約30	内外－赤褐 (10Y 5/3)	内，外面とも横ナデ 口縁部は玉縁口縁をなす	
〃	45	第１郭	備前焼甕	口縁	－	内外－にぶい赤 (7.5R 5/4) 釉－灰オリーブ (5Y 5/3)	内，外面とも横ナデ 口縁部は玉縁口縁をなす，口縁上部自然釉	
〃	46	第１郭	備前焼甕	口縁～底部	－	内外－灰黄褐(10YR 6/2)	内，外面とも横ナデ 口縁部は玉縁口縁をなし下方にやや乗れる	
〃	47	第１郭	瓦質土器火鉢	口縁	－	内外－灰 (5Y 5/1)	内，外面とも横ナデ 口縁直下に１条の突帯，口縁下にスタンプ文	
〃	48	第１郭	瓦質土器火鉢	胴部	－	内－灰黄 (2.5Y 6/2) 外－暗灰黄(2.5Y 5/2)	内，外面とも横ナデ ２条の貼付け突帯，突帯間にスタンプ文，突帯下に円形の窓	
〃	49	第１郭	陶器鉢	口縁	－	内－橙(5Y 7/6) 外－灰(5Y 5/1)	口縁外面全体に刻み目，こね鉢？	
〃	50	第１郭	瓦質土器火鉢	口縁	－	内－黄灰(2.5Y 5/1) 外－黄灰(2.5Y 5/1)	調整は風化の為不明 口縁は肥厚する。口縁下に１条の突帯，突帯下にスタンプ文	
20	51	第１郭	青磁碗	口縁～胴部	口径16.2	内外－オリーブ灰 (10Y 5/2)	口縁は端反り	
〃	52	第１郭	青磁碗	(口縁部)	口径14.8	内外－オリーブ灰 (5GY 5/1)	口縁は端反り，外面に調整時の凹凸有り	
〃	53	第１郭	青磁碗	口縁部	－	釉調－緑灰(7.5GY 5/1)	口縁は端反り，外面は凹凸がはげしい	
〃	54	第１郭	青磁碗	口縁部	－	釉調－灰白(10Y 7/1)	口縁はやや肥厚し端反り，貫入有り 外面は釉の厚薄による凹凸がはげしい	
〃	55	第１郭 SC 13	青磁碗	口縁部	－	釉調－オリーブ灰 (10Y 5/6)	口縁は端反り	
〃	56	第１郭 SC 7	青磁碗	口縁部	－	釉調－オリーブ灰 (10Y 5/2)	口縁は端反り	
〃	57	第１郭	青磁碗	口縁部	－	釉調－オリーブ灰 (5Y 7/2)	口縁部下でやや外反する	
〃	58	第１郭	青磁碗	口縁部	－	釉調－オリーブ黄 (5Y 5/3)	口縁はやや肥厚し端反り，貫入有り	
〃	59	第１郭	青磁碗	口縁部	－	釉調－オリーブ灰 (10Y 5/2)	口縁はやや肥厚し端反り	
〃	60	第１郭	青磁碗	口縁部	－	釉調－オリーブ灰 (5GY 5/1)	口縁は端反り，比較的釉は厚い	
〃	61	第１郭	青磁碗	口縁部	－	釉調－灰オリーブ (7.5Y 5/2)	口縁は肥厚し端反り，口縁直下に１条の沈線	
〃	62	第１郭	白磁碗	口縁部～胴部	口径15.4	釉調－灰 (7.5Y 5/1) 無釉部－淡黄(2.5Y 8/3)	体部上半は横ナデで凹凸が残る。体部下半から高台にかけてヘラ削り 口縁部は端反り，体部下半は露胎，見込に1条の沈線とヘラ描による花弁状の文様	
〃	63	第１郭 SC 1	青磁碗	体部～底部	推定底径 4.2	釉調－灰白 (10Y 7/2)	体部から底部までヘラ削り，施釉後も認められる，畳付から高台内部はきれいに削りとられ，露胎をなす，見込部に１条の沈線	
〃	64	第１郭	青磁碗	底部	底径 5	釉調－明オリーブ灰(5GY 7/1) 無釉部－にぶい黄(2.5Y 6/3)	体部下半から高台にかけて，ヘラ削り，高台は比較的薄い 畳付と高台内は露胎	
〃	65	第１郭	青磁盤	口縁～体部	口径24	内－オリーブ黄(5Y 6/4) 外－オリーブ黄(5Y 6/3)	口縁部近くで外方に屈曲し口縁部は水平をなす。口縁端部は肥厚し，波状を呈す。 口縁部上面には沈線，体部内面は菊花状をなす。	
〃	66	第１皿	白磁皿	底部	底径 3.8	釉調－灰白(10Y 8/1)	体部下半横ナデ，高台はヘラ削り，体部下半から高台内部まで露胎	
〃	67	第１郭	白磁小鉢	1/3残存	口径8.2底径3.2	釉調－灰白(10Y 8/1)	上面形は八角をなす，体部下半から上方に伸び口縁はやや外反する。体部外面の稜線は上までつかない，高台はヘラによる削り出しでやや上底を呈す。見込に花文のスタンプ文，体部下半から高台内部まで露胎	
22	113	第２郭	青磁碗	口縁～体部	口径 約17	内外－淡黄(7.5Y 8/3)	内，外面とも横ナデ。口縁下に４本の沈線。内面体部下半にもヘラ描きによる沈線。	
〃	114	第２郭	青磁碗	口縁部	口径 推定18	内外－オリーブ灰(10Y 5/2)	口縁端反り，やや厚手である。	
〃	115	第２郭	青磁	口縁部	－	内外－うすい緑がかった灰 (10Y 5/1)	口縁端反り，端部がやや肥厚する。	
〃	116	第２郭	青磁碗	口縁部	口径 推定16.6	内外－明オリーブ灰(5GY 7/1)	口縁端反り	
〃	117	第２郭	青磁碗	口縁部	口径15.4	内外－オリーブ灰(10Y 5/2)	口縁端反り，釉が比較的厚い，厚手	
〃	118	第２郭	青磁碗	口縁	－	内外－灰オリーブ(7.5Y 5/2)	口縁端反りで肥厚する。	
〃	119	第２郭	青磁碗	口縁～体部	口径14.6	内外－明オリーブ灰(2.5GY 7/1)	口縁端反り，外面に調整による凹凸あり。	
〃	120	第２郭	青磁碗	口縁	12	内外－灰オリーブ(7.5Y 5/2)	口縁端反りで肥厚する。	
〃	121	第２郭	青磁碗	口縁	－	内外－灰白(10Y 7/1)	口縁端反り	
〃	122	第２郭	青磁碗	口縁～体部	－	内外－灰白(7.5Y 7/2)	口縁は体部に比べ薄く端反りである。体部上半及び内面は横ナデ体部下半はヘラ削りで露胎。	
〃	123	第２郭	青磁碗	口縁部	－	内外－灰白(10Y 7/2)	口縁端反り，体部内面に１条の沈線	
〃	124	第２郭	青磁碗	口縁～体部	－	内外－灰オリーブ(7.5Y 5/2)	口縁端反り，口縁及び内面は横ナデ，体部下半はヘラ削り。	
〃	125	第２郭	白磁皿	口縁	口径 9.8	内外－灰白(7.5Y 8/1)	体部は内湾する。	
〃	126	第２郭	青磁碗	底部	－	施釉－オリーブ灰(10Y 5/2) 無釉－にぶい橙(7.5YR 6/4)	高台内部及び見込部は露胎	
〃	127	第２郭	青磁碗	底部	底径 6.5	内外－オリーブ灰(5GY 7/1)	体部は内，外面とも横ナデ，高台はヘラ削り，体部内面に重ね焼きにより粘土が付着，見込部に完結しない1条の沈線畳付きから高台内部は露台	
〃	128	第２郭	天目茶碗	口縁～底部	－	外－浅黄(2.5Y 7/4) 釉調－内外－黒(7.5YR 7/1)	内面及び外面体部上半は横ナデ，体部下半はヘラ削り，口縁はやや内湾する。内面及び外面体部上半には光沢のある茶褐緑，黒色の釉，それ以下は光沢のない茶褐色の釉底部と体部との境付近から露胎。	
〃	129	第２郭	白磁合子蓋		4.2	外－釉調明緑灰(10GY 8/1) 内－白色	天井部は草文の浮文で淡青色の透明釉がかけられる 内面には薄い釉がかかる	
〃	130	第２郭	白磁？皿	底部	3.8	外－白色 内－釉調－明緑灰(7.5GY 8/1)	高台はヘラ削りされ，露胎である。	
〃	121	ＳＡ３	青磁？碗	底部	底径 4.6	施釉－オリーブ灰(10Y 5/2) 無釉－黄灰(2.5Y 6/1)	高台及び内部はヘラ削り，高台内部は露胎，見込部は円形に釉が掻きとられる。他の青磁に比べ質がよい。	
23	132	第２郭	備前焼甕	口縁～肩部	－	外－にぶい赤褐(7.5R 5/4) 内－灰褐(5YR 5/2)	内，外面とも横ナデ，口縁部は玉縁を呈す。頸部に自然釉	

図面番号	遺物番号	遺構名 No.	器種	部位	法量(cm)	色調	形態・成形技法の特徴	備考
23	133	第2郭	備前焼 甕	底部	推定24.2	外 にぶい橙(5YR6/3) 内 にぶい黄橙(10YR7/3)	外面はナデ，底部内面は斜方向にヘラ状の工具でのナデ。	
〃	134	第2郭	備前焼 播鉢	口縁	—	外-灰黄褐(10YR5/2) 一部褐灰(10YR5/1) 内-にぶい黄橙(10YR7/2)	内外面とも横ナデ，口縁部は体部に直交する。端部には自然釉，内面に1単位10条の条線	
〃	135	第2郭	備前焼 甕	底部	—	外-赤褐色(5YR5/6) 内-灰白(10YR7/1) 灰褐(7.5YR5/2)	内、外面とも横ナデ，胴部下半に1個所径約2cmの焼成後の穿孔あり	
〃	140	第3トレンチ	青磁碗	口縁	—	釉調-オリーブ黄(5Y6/3)	口縁端反り，端部は先細りになる	
〃	141	第4郭	青磁碗	口縁	—	釉調-灰(10Y6/1)	口縁端反り	

表4．土錘観察表

図面番号	遺物番号	遺構名	長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重(g)	備考
24	1	第1郭 SC7	5.15	1.2	0.7	3.5	
〃	2	第1郭 SC7	4.2	1.5	0.7	3.8	
〃	3	第1郭 SC7	4.25	1.5	0.75	4.8	
〃	4	第1郭 SC7	3.15	1.3	0.65	2.3	
〃	5	第1郭 SC10	3.15	1.25	0.5	2.0	
〃	6	第1郭 SC10	4.45	1.5	0.65	5.0	
〃	7	第1郭 SC15	4.35	1.5	0.7	3.5	
〃	8	第1郭	4.65	1.15	0.6	2.7	
〃	9	第1郭	4.8	1.2	0.5	3.5	
〃	10	第1郭	4.45	1.55	0.5	4.8	
〃	11	第1郭	5.2	1.5	0.5	5.0	
〃	12	第1郭	4.4	1.7	0.55	6.3	
〃	13	第1郭	4.6	1.35	0.45	4.0	
	36	第1郭	(2.15)	1.05	0.3	1.5	未掲載
	37	第1郭	(4.25)	1.65	0.35	4.3	〃
	38	第1郭	4.85	1.45	0.3	3.3	〃
	39	第1郭	(4.2)	1.5	0.5	3.2	〃
	40	第1郭	4.2	1.25	0.45	3.7	〃
	41	第1郭	(3.75)	1.15	0.4	2.5	〃
	42	第1郭	(3.85)	1.3	0.45	2.8	〃
	43	第1郭	(3.85)	1.25	0.4	2.5	〃
	44	第1郭	4.2	1.55	0.6	3.7	〃
	45	第1郭	(4.05)	1.15	0.3	2.5	〃
	46	第1郭	(3.8)	1.45	0.4	3.0	〃
	47	第1郭	(3.3)	1.55	0.6	2.5	〃
	48	第1郭	(3.75)	1.4	0.4	3.0	〃
	49	第1郭	4.95	1.8	0.47	6.5	〃
	50	第1郭 SH86	4.1	1.1	0.5	2.	〃
	51	第1郭 3トレンチ	3.7	1.2	0.5	2.5	〃
24	14	第2郭 SH49	4.9	1.3	0.4	4.0	
〃	15	第2郭 SH76	4.45	1.2	0.7	3.3	
〃	16	第2郭 SH76	5.0	1.5	0.9	4.8	
〃	17	第2郭 SH76	5.0	1.25	0.5	3.5	
〃	18	第2郭 SH76	2.3	1.45	0.55	2.7	
〃	19	第2郭 SH130	5.75	1.3	0.45	4.7	
〃	20	第2郭 SH143	4.8	1.4	0.7	5.0	
〃	21	第2郭 SA2	3.9	1.2	0.65	3.0	
〃	22	SA2	4.55	1.4	0.7	4.0	
〃	23	SA2	4.7	1.5	0.95	4.5	
〃	24	第2郭	4.45	1.2	0.55	2.0	
〃	25	SA3	4.65	1.5	0.7	5.0	
〃	26	第2郭 SA3	4.2	1.5	0.75	4.3	
〃	27	第2郭	4.05	1.2	0.55	3.5	
〃	28	第2郭	4.9	1.45	0.7	4.0	

図面番号	遺物番号	遺構名	長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重(g)	備考
24	29	第2郭	3.8	1.55	0.55	4.2	
〃	30	第2郭	4.4	1.35	0.6	3.5	
〃	31	第2郭	5.1	1.25	0.7	4.3	
〃	32	第2郭	5.1	1.7	0.55	4.8	
〃	33	第2郭	4.9	1.35	0.65	4.0	
〃	34	第2郭	4.9	1.35	0.55	4.3	
〃	35	第2郭	5.7	1.5	0.45	5.5	
	52	第2郭	4.75	1.2	0.5	3.5	未掲載
	53	第2郭	4.9	1.45	0.4	3.8	〃
	54	第2郭	4.95	1.25	0.4	4.0	〃
	55	第2郭	4.4	1.3	0.4	4.5	〃
	56	第2郭	4.9	1.6	0.55	5.8	〃
	57	第2郭	4.5	1.5	0.4	4.5	〃
	58	第2郭	4.0	1.6	0.7	5.5	〃
	59	第2郭	4.6	1.3	0.4	3.7	〃
	60	第2郭	4.7	1.3	0.4	3.7	〃
	61	第2郭	4.5	1.55	0.45	4.3	〃
	62	第2郭	4.0	1.5	0.4	4.5	〃
	63	第2郭	4.05	1.3	0.35	3.0	〃
	64	第2郭	3.6	1.3	0.45	2.8	〃
	65	第2郭	(3.4)	1.3	0.4	2.7	〃
	66	第2郭	3.7	1.15	0.45	1.8	〃
	67	第2郭	(2.65)	1.2	0.5	2	〃
	68	第2郭	(2.15)	1.15	0.35	2.2	〃
	69	第2郭	(2.55)	1.1	0.35	1.3	〃
	70	第2郭	4.4	1.6	0.55	5.5	〃
	71	第2郭	4.8	1.4	0.4	4.5	〃
	72	第2郭 SH142	4.15	1.1	0.4	2.3	〃
	73	第2郭 SH145	3.95	1.2	0.35	2.5	〃
	74	第2郭 SH156	4.1	1.15	0.35	2.5	〃
	75	第2郭 SH 76	(3.9)	1.2	0.45	3	〃
	76	第2郭 SH118	(2.75)	1.3	0.4	2.2	〃
	77	第2郭 SH118	(2.1)	1.15	0.4	1.2	〃
	78	第2郭 SH 76	(3.15)	—	—	1.0	〃
	79	第2郭 SH152	4.75	1.35	4.5	4.5	〃
	80	第2郭	3.6	1.1	0.45	2.5	〃
	81	第2郭	4.8	1.4	0.45	5	〃
	82	第2郭	5.8	1.3	0.4	4.5	〃
	83	第2郭	3.9	1.3	0.3	4.0	〃
	84	第2郭	(2.3)	1.3	0.45	2	〃
	85	第2郭	5.5	1.5	0.45	5.5	〃
	86	第2郭	5.1	1.4	0.5	5	〃
	87	第2郭	(4.2)	1.3	0.4	3.5	〃
	88	第2郭	4.2	1.5	0.45	4.5	〃

図面番号	遺物番号	遺構名	長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重(g)	備考
	89	第2郭	4.4	1.7	0.45	5.5	未掲載
	90	第2郭	4.2	1.6	0.45	5	〃
	91	第2郭	4.35	1.5	0.5	4.5	〃
	92	第2郭	5.25	1.5	0.4	5	〃
	93	第2郭	4.3	1.2	0.4	3	〃
	94	第2郭	4.4	1.4	0.4	5	〃
	95	第2郭	5.1	1.2	0.3	4	〃
	96	第2郭	4.4	1.4	0.5	4	〃
	97	第2郭	4.35	1.3	0.45	4	〃
	98	第2郭	(2.7)	1.4	0.4	2.5	〃
	99	第2郭	5.15	1.3	0.45	4	〃
	100	第2郭	3.8	1.6	0.55	4.5	〃
	101	第2郭	3.65	1.3	0.45	3.5	〃
	102	第2郭	4.6	1.3	0.45	4	〃
	103	第2郭	4.9	1.5	0.5	5	〃
	104	第2郭	4.4	1.6	0.6	5	〃
	105	第2郭	(3.3)	1.3	0.5	3	〃
	106	第2郭	(2.4)	1.25	0.5	2	〃
	107	第2郭	5.2	1.4	0.45	5.5	〃
	108	第2郭	5.3	1.3	0.5	4.5	〃
	109	第2郭	4.75	1.3	0.45	4.5	〃
	110	第2郭	4.3	1.1	0.4	3	〃
	111	第2郭	4.95	1.1	0.45	3.5	〃
	112	第2郭	4.65	1.4	0.4	4.5	〃
	113	第2郭	5.2	1.5	0.45	5	〃
	114	第2郭	4.3	1.3	0.5	3	〃
	115	第2郭	(3.8)	1.2	0.4	3	〃
	116	第2郭	4.1	1.4	0.55	3	〃
	117	第2郭	(3.1)	1.4	0.5	3	〃

図面番号	遺物番号	遺構名	長さ(cm)	径(cm)	孔径(cm)	重(g)	備考
	118	第2郭	(3)	1.4	0.4	3	未掲載
	119	第2郭	(3.4)	1.3	0.5	2	〃
	120	第2郭	(2.1)	1.2	0.4	2	〃
	121	第2郭	(2.65)	1.4	0.4	3	〃
	122	第2郭	5.1	1.3	0.4	5	〃
	123	第2郭	4.5	1.2	0.4	3.5	〃
	124	第2郭	(3.2)	1.4	0.45	3	〃
	125	第2郭	(2.7)	1.3	0.4	2.5	〃
	126	第2郭	(2.6)	1.3	0.35	2	〃
	127	第2郭	5.2	1.5	0.4	4.5	〃
	128-1	第2郭	2.3	1.1	0.3	1.5	〃
	128-2	第2郭	2.1	1.2	0.3	1.0	〃
	129	第2郭	3.5	1.1	0.45	2.0	〃
	130	第2郭	(4.1)	1.5	0.4	5	〃
	131	第2郭	(2.8)	1.45	0.5	3	〃
	132	第2郭 SH78	(4.15)	1.5	0.45	4	〃
	133	第2郭 SH87	4.7	1.4	0.55	5	〃
	134	第2郭 SH87	4.15	1.6	0.5	6	〃
	135	第2郭 SH 180	4.8	1.3	0.4	5	〃
	136	第2郭	3.4	1.3	0.4	3	〃
	137	第2郭 SI-1	5.7	1.2	0.55	4	〃
	138	第2郭 SI-1	4.3	1.3	0.5	4	〃
	139	第2郭 SI-1	4.4	1.2	0.45	3	〃
	140	第2郭 SI-1	4.2	1.5	0.4	4	〃
	141	第2郭 SJ-1	4.3	1.5	0.45	4	〃
	142	第4郭	5.3	1.4	0.4	5	〃
	143	第4郭	5.2	1.3	0.4	4	〃
	144	第4郭	4.0	1.5	0.5	4	〃
	145	第4郭	(3.0)	1.4	0.45	3	〃

表５．弥生土器観察表

図面番号	遺物番号	遺構名	器種	器部	文様および調整 外面	文様および調整 内面	焼成	色調 外面	色調 内面	胎土	備考
27	1	ＳＡ１	甕	口縁	横ナデ	口縁 横ナデ	良好	明黄褐 (10YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	きめ細か，茶・黒・灰等の1～2㎜大の砂粒を含む。黒く光る粒を含む	外面 スス付着
〃	2	ＳＡ１	甕	口縁	口縁 横ナデ 刻み	口縁 ハケ目か	良好	黄橙 (10YR8/6)	黄橙 (10YR8/6)	きめ細か，灰，茶の1～2㎜の砂粒を含む	口縁直下に刻みメ突帯
〃	3	ＳＡ１	甕	底部	胴部 ナデ 底部 ナデ	胴部 ナデ 黒斑	良好	にぶい黄橙 (10YR7/3)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	きめ細か，0.5～２㎜程の茶，灰，白黒等の砂粒を多く含む，透明の光る粒を含	平底
〃	4	ＳＡ１	鉢	胴部～底部	風化著しく調整不明	風化著しく調整不明	良好	黄橙 (7.5YR7/6)	黄橙 (7.5YR8/6)	きめ細か，0.5～2㎜程の灰・白茶等の砂粒，透明に光る粒を含む	
〃	5	ＳＡ２	複合口縁壺	口縁	口縁部 横ナデ 胴部 横ナデ	口縁 横ナデ	良好	浅黄色 (10YR8/4)	にぶい黄橙 (10YR7/4)	2㎜前後の茶，黒，白色の砂粒及び光る微粒を含む	
〃	6	ＳＡ２	甕	底部	胴部 ナデ 底部付近 指押え 底部 ナデ	底部 ナデ	良好	浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/4)	2㎜前後の茶，灰，白の砂粒及び光る微粒を含む	あげ底
〃	7	ＳＡ２	壺	底部	風化著しく調整不明	ナデ 方向が一定でない	良好	明黄褐 (10YR7/6)	黄橙 (7.5YR7/6)	0.5～3㎜の白，灰，黒，透明で光る砂粒を含む	乳房状の底部
〃	8	ＳＡ２	壺	胴部～底部	ハケ目 スス付着 底部付近 指押え	口縁部 指ナデ 胴部 ナデ 底部 指によるタテ方向のナデ	良好	浅黄橙 (10YR8/4)	にぶい黄橙 (10YR6/3)	1～2㎜の白，うす茶，黒の粒を含む	外面 スス付着 平底
〃	9	ＳＡ２	壺	胴部～底部	タテナデ スス付着	胴部下 タテ方向にナデ 底部に粘土がたまっている	良好	浅黄橙 (10YR8/4)	浅黄橙 (10YR8/3)	1～4㎜の砂粒を多く含む	外面 スス付着，平底
〃	10	ＳＡ２	壺	胴部～底部	胴部 ナデ，スス付着	胴部 ナデ，スス付着	良好	にぶい橙 (5YR6/4)	橙 (5YR7/6)	1～3㎜の砂粒を多く含む	内面，外面 スス付着
〃	11	ＳＡ２	壺	胴部～底部	胴部 ナデ 一部スス付着	胴部 ナデ 底部 ナデ	良好			2㎜前後の黒，茶，灰，白透明の砂粒及び黒く光る細粒及び光る微粒を含む	外面 スス付着
〃	12	ＳＡ２	鉢	胴部～底部	胴部 ナデ，スス付着 底部 ナデ，スス付着	胴部 ある工具による横ナデ	良好	にぶい黄橙 (10YR7/3)	浅黄橙 (10YR8/3)	1㎜前後の石英と1～3㎜の砂粒を多く含む	外面 スス付着
〃	13	ＳＡ２	高坏	坏部	胴部 横ナデ，ハケ目 底部 ナデ	胴部 ナデ 底部 ナデ	良好	黄橙 (10YR8/6)	黄橙 (10YR7/6)	きめ細か，0.5～２㎜の灰，茶，黒等の砂粒を多く含む，黒く光る粒を含む	
〃	14	ＳＡ２	高坏	脚部	胴部 みがき 底部 ナデ	底部 みがき	良好	浅黄橙(10YR8/4) 橙 (5YR7/6)	浅黄橙 (10YR8/4)	黒く光る，透明で光る，透明，灰，茶のごく細かい砂粒を含む	
〃	15	ＳＡ２	高坏	坏部	口縁部 横ナデ 胴部 風化のため調整不明	口縁部 横ナデ 胴部 摩耗のため調整不明	良好	浅黄橙(10YR8/4) 橙 (5YR7/6)	橙 (5YR7/6) 浅黄 (2.5Y7/3)	1～2.5㎜の茶，灰，白，透明で光る砂粒を含む，粉っぽい	
〃	16	ＳＡ３	甕	底部	胴部 ミガキ，炭素付着か 底部 あらい仕上げのあと指ナデ	胴部，底部 ハケのあと たて方向のていねいなナデ	良好	にぶい黄橙(10YR7/3) 炭素吸着部黒(5Y3/1)	浅黄橙 (10YR8/4)	きめ細か，0.5～2㎜程の灰，茶等の砂粒を含む	
28	17	ＳＡ３	甕	口縁～頸部	口縁部 横ナデ 胴部 ナデ	口縁部 横ナデ 胴部 ナデ一部黒斑	良好	灰 (5Y5/1) 浅黄色(10YR8/4)	浅黄色 (10YR8/4)	2㎜前後の茶，黒，灰，白，白透明黒く光る砂粒及び光る微粒を含む	
〃	18	ＳＡ３	甕	口縁～頸部	口縁部 横ナデ 一部黒斑	口縁部 横ナデ	良好	灰白 (7.5YR8/2)	浅黄色 (7.5YR8/4)	3㎜前後の灰，茶，白，黒，白透明茶色く光る砂粒及び光る微粒を含む	
〃	19	ＳＡ３	壺	底部	胴部 タテ方向のミガキか 底部 ナデ	胴部 ハケ目か 底部 ハケ目か	良好	浅黄色 (10YR8/4)	浅黄色 (10YR8/3)	2㎜前後の茶，灰，黒，白透明，透明の砂粒及び5㎜前の細長い茶色の粒を含む	
〃	20	ＳＡ３	高坏	脚部	脚部 上部はナデ，下部はミガキ一部風化 脚内部 ナデ，形成が雑	底部部 ナデ，風化	良好	橙(7.5YR7/6, 5YR7/6)	橙 (7.5YR7/6)	1㎜以下の透明で光る，黒く光る，白の砂粒を含む	
〃	21	ＳＡ３	器台	裾部	裾部 風化が著しく調整不明 一部黒斑	裾部 上部は横方向のけずり状のナデ 下部は横ナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	1～4㎜の砂粒を多く含む	二段に互い違いに４コの円形のスカシ
〃	22	ＳＡ３	器台	裾部	裾部 たてにヘラミガキ 一部黒斑	裾部 上部は板状の工具で横ナデか，中部に指頭痕 下部は横ナデ	良好	浅黄橙 (10YR8/3)	浅黄橙 (10YR8/4)	1～3㎜の砂粒を多く含む	二段に互い違いに５コの円形のスカシ
〃	23	ＳＡ３	鉢	頸部～底部	胴部 たて方向のナデ 底部近くに黒斑	胴部 ナデ 底部 ナデ	良好	にぶい橙 (7.5YR8/4)	橙 (7.5YR7/6)	白，灰等の細砂粒を含む	
〃	24	ＳＡ３	鉢	体部	胴部 ナデ 櫛描き波状文	胴部 ナデ	良好	橙 (5YR7/6)	橙 (5YR7/6)	細かな光る粒を多く含む	穿孔有り，その直下に櫛描波状文
〃	25	第１郭	甕	口縁～胴部	口縁部 横ナデか 胴部 調整不明，ススが多量に付着	口縁部 横ナデ 胴部 横方向のハケ目	良好	橙 (7.5YR7/6)	明黄褐 (10YR7/6)	0.5㎜前後の砂粒を含む	頸部直下にきざみ目突帯
〃	26	第１郭	甕	底部	胴部 調整不明，一部スス付着 底部付近指押え	胴部 風化の為調整不明	良好	浅黄橙 (7.5YR8/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	1～5㎜程度の小石を多く含む	あげ底 スス付着
〃	27	第１郭	甕	底部	胴部 下半斜方向のハケ目あと底部までナデ，スス付着	胴部 たて及び斜方向のハケ目のあとナデ，底部付近押さえ	良好	にぶい橙 (7.5YR7/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4)	1～3㎜程度の小石を多く含む	あげ底 スス付着
〃	28	第１郭	複合口縁壺	口縁	口縁部 横ナデのあと下の方にたて方向のハケ目	口縁部 横ナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/6)	黄橙 (10YR8/6)	1～2㎜の砂粒を含む	
〃	29	第１郭	複合口縁壺	口縁	口縁部 櫛描き波状文のあと横ナデ	口縁部 横ナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/6)	浅黄橙 (7.5YR8/6)	1㎜前後の砂粒を多く含む	
〃	30	第２郭	複合口縁壺	口縁～頸部	口縁部 櫛描き波状文のあと横ナデ	口縁部 横ナデ 胴部にかけて指頭痕	良好	橙 (5YR7/6)	黄橙(10YR8/6) 灰黄 (2.5Y7/2)	0.5～2㎜程の灰，白，茶等の砂粒を多く含み透明に光る粒を含む	頸部に刻み目
〃	31	第２郭	複合口縁壺	口縁～頸部	口縁部 横ナデ	口縁部 横ナデ 一部黒変	良好	浅黄橙(10YR8/3) 一部黄灰 (2.5YR5/1～5/2)	浅黄橙(7.5YR8/4) 口縁部は橙(5YR7/6)	1～2㎜大の砂粒（黒，褐白）を含む	拡張部が短い
〃	32	第２郭	鉢	完形	口縁部 胴部 〈風化，ハケ目のあとがある 底部底面 指押え	風化のため調整不明だが口縁部に刷毛目らしいあとがある	良好	浅黄橙(7.5YR8/4) ～橙(5YR7/6)	浅黄橙(7.5YR8/4) ～橙(5YR7/6)	1.2㎜大の粒（黒，白）を含む	
〃	33	第２郭	鉢	底部	底部 刷毛目	底部 ナデ	良好	浅黄橙 (7.5YR8/4)	褐灰(10YR8/4) ～灰黄褐(10YR5/2)	1～3㎜大の粒（褐，白，キラキラ光る粒）を含む	尖底気味の底部
〃	34	第２郭	鉢	底部	風化のため調整不明	風化のため調整不明	良好	浅黄橙 (7.5YR8/4) 一部にぶい黄橙 (10YR7/4)	浅黄橙 (7.5YR8/4) 一部にぶい黄橙 (10YR7/4)	1㎜大の砂粒(灰色，白，褐透明な粒）を多く含む	尖底気味の底部
〃	35	第４郭	ミニチュア	完形	口縁部から底部にかけて指ナデ	口縁部から底部にかけて指ナデ	良好	浅黄橙 (10YR8/4)	黄灰 (2.5Y 5/1)	1㎜前後のうす茶，灰色の粒を含む	
〃	36	第９トレンチ	複合口縁壺	口縁	風化著しく調整不明	風化著しく調整不明	良好	黄橙 (7.5YR8/6)	黄橙 (7.5YR8/6)	0.5～3㎜程の灰，黒等の砂粒を多く含む	

第Ⅷ章　車坂城西ノ城跡の調査

第１節　調査の経過と概要

１．調査の経過

「車坂城」と呼ばれる中世の山城が宮崎市熊野のこの地に存在することは以前から知られていた。しかし，「車坂城」は過去の数回に及ぶ土取り工事によって既に消滅したとされていた。そのため，この地が学園都市建設予定地の一角に含まれてはいたが，周辺に「車坂城」関連の遺跡が確認されるのみと考えられていた。しかし，昭和58年４月ごろ，当初，分布調査からは除外した汚水処理場東側丘陵地の繁茂した杉林の伐採により保存状態の良好な山城（仮称「今江城」）が発見された。これを機に山城周辺の丘陵地全体の踏査を行ったところ，土取りによって消滅したと思われていた「車坂城」の西側に残されていた丘陵地に城の一角が良好な状態で残されていることを確認した。

二箇所の山城跡の発見が事業実施途中であったため，保存を含めた城跡の取り扱いについて協議を重ねたが，工法上計画変更が困難であるため，記録保存の措置を取ることとした。　（永友　良典）

２．調査の概要

車坂城跡は現在幾度かの土取りによってその多くを失ってしまっている。明治初年に著された『日向地誌』には土取りされる以前の車坂城跡について次のように記されている（一部，読み易いように改めた）。

「車坂城墟　木花山ヨリ南ニ連ナリ加江田川上ニ突出セシ長岡ナリ。東ハ正連寺水田ニ臨ミ南ハ加江田川ヲ帯ビ西ハ環スルニ数十町ノ深田ヲ以テス。要害頗ル険固ナリ。其頂，今皆畦圃トナレドモ城形猶存ス。城，画シテ六区トナル。其間，皆深陣ヲ鑿チテ要害トス。本丸ハ方22～23間，四旁，皆断崖壁立。此ト隍ヲ隔テ東北ニアルヲ北ノ城ト云。又一町許離レテ西南ニアルヲ西ノ城ト云。西ノ城ト本城トノ中間ニ二岡アリ。南ナルヲ幸乗屋敷ト云。蓋シ，幸乗ト云者ノ居リシ所ト見ユ。北ナルハ稍，陋小ナリ。城名伝ハラズ。又，幸乗屋敷ヨリ南ニ突出セシ一岡ハ，段別大約西ノ城ト斉シ，亦城名伝ハラズ。」

これによると当車坂城跡は，「車坂城」の中の本丸より一町程西南に位置する「西ノ城」跡と言われるものと考えられる。その後，昭和45年発行の地図では既に大きく土取りされた様子がみられ，わずかに「本丸」の一部あるいは「北ノ城」と思われる部分が残されているが，昭和53年頃埋立用の土取場となり，再び採土されて現在に至っている。

今回調査を始めるにあたり，自然地形に人の手を加えていると思われる平坦面や傾斜面等の概略を作図した（Fig1）。築城時の改変，修築時の改変，後世の改変等が加わっているものと考えられるが，現状では，採土によって南東側が急崖化した曲輪（第１曲輪）を中心に北西側に帯曲輪（第２曲輪）が巡り，南西側には空堀（西堀）と土塁が巡っている様子がみられる。そして，第１曲輪の南西端から西側の一部にかけて土塁が築かれ，その北側の端は下段の第２曲輪の西端に対応し大きく開く虎口状の斜面がみられる。この第２曲輪の東側にも虎口状の斜面はある。第１曲輪の北東側は採土をまぬがれ，ここが空堀で区切られていたことが観察できる。また，南西側は浅い空堀（西堀）と幅広の土塁，そしていつの頃からあるのか南西側の尾根とを区切る様に深い道が北西麓から第１曲輪の下の空堀（西堀）を南～東へと通じている。この道は地区の古老の話しでは明治末年頃はまだ浅く，その後採土によって現在のように深くなったといい，あるいはこの土塁はさらに南西の尾根の盛土された曲輪状の平坦面へと続いていたのかもしれない。しかし，防御の面からは尾根筋を分断するかのように作られたこの道は理に適っていると思われるのであるが，前掲『日向地誌』にもそのような空堀があったという記述はみられない。この曲輪の南西尾根筋には，西～北西側に

盛土による数段の平坦面が観察できる。また，この城の裾部は全て約1m程の崖になっているが，これが近年の土取りによるものかどうかは不明である。

発掘調査が進行するにつれて第1曲輪の東南部に虎口と思われる遺構が2カ所検出された。南に開口した方は外側空堀へと向かい，一方の東側へ開口した方は第1曲輪の東端近く，南北に掘られた深い空堀状の遺構（東堀）へと通じていた。また，第1曲輪の北西側下段に見られた第2曲輪には曲輪沿いに南西側空堀へと続く深さ約 2.5m の2段に掘り込まれた空堀が巡ることが判明した。その埋土にも第1曲輪上の遺構の埋土にも多くの炭火材片と焼土が混入している。そして，西側の空堀は現状より約2m 前後深く，北西側に虎口状に開く部分は盛土をされているようであり，さらに南西側の幅広の土塁や北西側の第2曲輪には明らかな拡張の痕跡がみられた。特に南西側の幅広の土塁の方は急拵えで拡張したのか様に盛土に締まりがなく，トレンチを入れると同時に土砂の崩壊が始まるといった有り様であった。その南西側の尾根の平坦面を形成している盛土も同様に締まりがなくもろさを感じさせるものであり，同時期に造られた可能性がある。第1曲輪の北東側下段は赤っぽい土砂による盛土により南側から次第に傾斜させてあった。また，南西～北西側を巡る空堀の埋土は明らかに人為的に埋められたものであり，空堀の北東端部には空堀に沿って流れてくる水を一時的に溜めておけるような方形プランの遺構が地山の砂岩に掘り込まれていた。しかし，これは南西側の堀と同じ埋土で埋まり，それに先の赤っぽい土砂による盛土斜面がなされていた。この空堀の埋土は北側の虎口状に開く箇所を境に南西側と北東側で土砂の質が異なり，先述のように南西側と東側端部は同じ埋土，北側は上の第1曲輪にみられる土砂や第1曲輪上の土塁にみられる土砂と同質と思われる土砂を用いているようである。

Fig1 現　況　概　念　図

このように，当車坂城（西ノ城）跡は数度の修改築が行われており，第１曲輪東端部にみられる堀状の遺構（東掘）や第２曲輪の拡張の痕跡，さらに第１曲輪の土塁下から土師器小皿片等が出土することなどから，このうち幾度かはかなり大規模に改変されたものと考えられる。この改変が文献上のどの修築に該当するのかは今後の課題である。

第２節　遺跡の立地と歴史的環境

宮崎学園都市遺跡群の大半は清武川と加江田川とに挟まれた舌状台地上に展開している。この台地は鰐塚山系の尾根から北東へのびる丘陵の端部にあたり西から東へと緩傾斜しているが，東～東南端は再び比高差約20m の丘陵地帯となっている。丘陵地帯の中央部は標高36m 前後の平坦地で木花公園として現状保存される予定の木花遺跡である。一方，北端と西南端の丘陵地は谷によって隔てられ，その地形を利用して中世山城が営まれている。この北端丘陵が昨年調査した今江城（仮称）跡で西南端が土橋によって接続する当車坂城跡である。

車坂城跡は北東の丘陵地帯を除けば割合視界がひらけており，南側は比高差約35m の急斜面をなして眼下に沖積水田地帯が広がり，加江田川を挟んだ対岸には斟鉢（くんぱち）山系の山々が連なる。また，東側は曾山寺沖から遠く青島付近を含む日向灘を展望でき，北側は今江城跡及びその先の本郷南方の水田地帯，北西へ連なる清武城跡を遠望できる。そして，西側は広い熊野の台地あるいは旧飫肥街道筋の鏡洲から加江田川が流れ下って沖積水田へとひらける竹内のあたりを広く俯瞰できる等立地条件は良好である。昨年調査された今江城跡が北方に対し展望がきいていたのに比べ当車坂城跡はどちらかというと南に対して展望がきくといえよう。

次に車坂城をとりまく歴史的環境について先学の文献をたよりに触れておきたい。(1)

車坂城跡は宮崎市大字熊野字古城に位置する。古代，この熊野の地は『延喜式』にみえる日向16駅のひとつ救麻駅の所在地に比定されており，鎌倉時代初期には建久８年（1197年）に出された『建久図田帳』の中の国富（くどみ）荘隈野の地に比定されている。国富荘の開発は在庁官人であった日下部氏らによって行われ，その中心は大淀川以南（河南）の国富本郷にあったと考えられている。本郷は現在の宮崎市本郷南方・北方付近に比定され，熊野からは北へ約４kmの近接地である。

この国富荘は日下部氏らによって開発されたのち保元の頃（1156～1159年）には八条女院を本家として女院領に組み入れられたと考えられる。その後寿永３年（1184年）平氏滅亡後没官領となったがその年４月には平頼盛に安堵され，頼盛が領家となっている。一方，土着勢力の日下部・土持両氏からみた国富荘は『日下部姓之系図』によると久安５年（1149年），日下部盛平が日下部氏の正統を継いだ時，河南本郷郡司その他の職を兼ねたとあり，また，その後文治３年（1187年）盛平が養子にしたとされる土持栄妙宣綱に在国司職その他日下部氏の正統を全て譲ったことにより土持氏は国富荘の中心地国富本郷にも進出，そして，この地は後の南北朝時代には土持氏の主要な根拠地になったと考えられている。また，先の建久図田帳によると土持氏とともに国富荘のうち加納，加江田，隈野には地頭平五の名がみられる。

国富荘は建暦元年（1211年）八条女院の死後皇族領となっていたが，建武中興の際，後醍醐天皇から足利尊氏に与えられている。そして，この後日向と深くかかわる伊東氏は先に建長４年（1252年）前後に庶子が下向し田島・門川・木脇の名氏を興していたが，建武２年（1335年）に至り足利尊氏の命を受け本統伊東祐持が国富荘とその背後にある尊氏の妻方の所領である穆佐院の確保のため日向に下向してきており，同時に恩賞として与えられた児湯郡都於郡に日向経略の基盤を築いている。また，その子祐重は正平３年（1348年）伊東本統の全てを都於郡に移している。こうして伊東氏は南北朝時代を通じて足利氏に属しつつ，当時国富荘を掌握していた土持宣栄ら土持氏とも協力や対立を繰り返しながら旧宇佐宮領を中心に経略を進めてゆくのである。暦応３年（1340年）足利尊氏は国富荘を天竜寺に

寄進しているが，その後天授５年（1379年）には実質的にこの地を支配してきた伊東・土持の両氏により分領され，本郷は伊東氏，加納は伊東氏の支族清武氏，隈野は土持氏の支族熊野氏，加江田は同支族の岡富氏の領するところとなる。一方，この頃島津氏の方は５代貞久が元弘３年（1333年）日向・大隅の守護職を付加され，建武２年（1335年）にはその弟の時久が新納院地頭職に着き児湯郡高城（木城町）に居を構え新納氏を興すなど次第に山東の地にも進出の足掛りを求めてきている。その後正平５年（1350年）にこの新納院高城は足利氏の将畠山義顕により攻め落とされたが，島津氏は南北朝時代を通じて山東の地をしきりと窺うのである。

このように熊野の地は勢力拡大をはかる伊東氏と山東をねらう島津氏の最前線のひとつとして幾度かの攻防の場となるのであるが，文安元年（1444年）伊東祐堯が島津氏に応じた曽井氏を攻め落とし本郷・鏡洲・熊野を含む曽井氏領をその所領として以来，天正５年（1577年）島津氏に敗れた伊東義祐の豊後落ちまで約130年間ほぼ伊東氏が領することになる。その後天正15年（1587年）まで島津氏領となるものの，九州を制圧した豊臣秀吉によって同年伊東義祐兵が曽井に封ぜられ，翌16年（1588年）祐兵が飫肥に移って以来幕末までこの地は飫肥伊東氏領として明治を迎える。

次に車坂城をめぐる攻防についても触れておきたい。

幕末清武郷に生まれた平部嶠南の著した『日向地誌』には『日向記』，『西藩野史』からの引用として車坂城跡のことが記されている。それによると車坂城は「加江田車阪城」となっており当時この地は加江田とも呼ばれていたらしい。また，車坂城については築造の年月は不明とされているが，熊野の地は天授５年（1379年）土持氏の支族熊野氏の所領となっており，天授～応永年間の初期頃までは熊野某の居城となっていたところを都於郡城主伊東祐立が攻め取ったとある。しかし，この伊東祐立は応年34年（1427年）伊東氏を継ぐのであってこの頃はまだ都於郡城主は父祐安であったと考えられる。その後間もなく鹿児島領主島津元久がこの城を攻め取り城塁を修築し，その将阿多加賀守を置くことになる。このことは文明14年（1482年）までに記された島津氏の一族山田聖栄の『山田聖栄自記』には次のように載っている。「是も元久御代山東加江田倉そこノ城責落之時合戦（朱書，「応永十年癸未也」），新納殿内隈江方討死，敵二者宮崎之手ニ数十人被討畢，加江田本城ハ取誘，阿多加賀守被差置」。この加江田本城というとが車坂城のことと思われ，先の日向地誌の記述はこの応永10年（1403年）の戦いをさすものと考えられる。これに先立つ応永４年（1397年）島津元久は初めて山東の清武城を攻め，伊東・土持の両氏と戦っている。伊東祐立が清武城に近い車坂城を攻め取ったのはこの伊東・土持両氏の協力体制の後であろうか。日向地誌による車坂城はその後再び伊東氏に奪い返されている。応永26年（1419）島津氏はその将伊作氏兄弟に車坂城を攻め取らせ一度は手中に握る。が，すぐまた伊東祐立はこれを取り返している。そしてさらに内海峠城にも兵をおき南方に備えている。ところで車坂城が応永10年の戦いの後再び伊東氏領に復していた応永19年（1412年）伊東祐立は島津氏に応じた同支族の曽井氏を攻めているが，この時加江田の兵も島津方に属しており，この「加江田ノ兵」というのが車坂城の守兵のことではないかと思われる。さらに日向地誌によると，この後応永30～31年（1423～1424年）にかけて島津久豊は油津から海上を北上し内海峠城，車坂城を攻め，祐立と戦っている。この時車坂城は島津久豊の手に落ち，久豊は城塁を修築，その後９代忠国は20余年にわたってこの城を維持したと記されている。しかし，文安元年（1444年）曽井氏が再び島津氏に応じた際，祐立の子祐堯が曽井氏を攻めその所領を奪ったが，この中に本郷，熊野鏡洲などの地名もみえ，文安元年より先に車坂城周辺は伊東氏支族曽井氏領に復していた可能性がある。ただ，車坂城は「加江田車坂城」とも呼ばれ，この時の所領の中に加江田の地名がみられないことから，あるいはまだ島津氏領であったかもしれない。

日向地誌には文安の頃から車坂城は再び伊東氏領となったが永禄11年（1568年）の日向記の伊東氏48城の中にその名がみえないことから，永禄の頃には既に廃城となり守将もおかれていなかったものとされている。車坂城が文安の頃再び伊東氏領に復して後，長禄２年（1458年）には島津氏の一族新納氏が飫肥を領有しており，文明12年（1480年）

島津氏は紫波洲崎城を攻め取ったが直ちに伊東祐国に追い返されている。日向地誌の内海峠城の項に車坂城についてこの時「伊東祐国即日加江田ニ出馬ス。車坂城ノ薩兵城ヲ焼テ遁ル」とあり，少なくとも1480年頃はまだ車坂城は廃城にはなっていなかったものと思われる。

以上のように当車坂城跡については，文献内容の考証も勿論なされなければならないが，断片的にではあるがその歴史上の流れが把握できる。日向地誌にみえるだけでも島津氏側の修築の記録が２回。これに記録されていない土持氏や伊東氏の修築，近世～昭和までの開墾による改変，近年の採土による破壊など考えあわせると，様々に手が加えられてきた結果が現在の車坂城跡の姿であるといえよう。そして，車坂城跡は伊東・島津氏の攻防に応じ，その時々に南向きの備えがなされたりあるいは北～北西向きの備えがなされてきたであろうことが文献からも読み取れよう。

最後に車坂城跡周辺の中世の遺跡について述べておく。

ほぼ同時代の山城としては曽井城跡，清武城跡，紫波洲崎城跡，内海峠城跡などが知われている。このほかに同じ学園都市遺跡群内では，陣ノ内遺跡で土壙墓や掘立柱建物跡が，前原北遺跡（13世紀を中心に14～15世紀），熊野原遺跡Ｃ地区（14～15世紀），平畑遺跡（13世紀代～14世紀前半），堂地東遺跡（13～16世紀前半）で掘立柱建物跡群が検出されている。また，前原西遺跡Ａ地区（14～15世紀）では周溝を持つ土壙墓が，山内石塔群（13世紀後半～17世紀の主に詣り墓）や小山尻西石塔群（15世紀前半），堂地東遺跡（15世紀代）では五輪塔や板碑類が出土している。さらに城跡としては，車坂城と一連の丘陵北端に今江城（仮称，15～16世紀前半が主）跡が位置している。

（菅付　和樹）

註（１）　日高次吉　『宮崎県の歴史』　山川出版社　1970年
主に上記の文献をたのみに書いた。日高次吉氏は，『建久（日向）図田帳』，『宇佐宮御神領大鏡』，『日向記』，『日向纂記』，『日向地誌』，『日向国史』，『日向古文書集成』その他を参考に書いている。

第３節　遺構

今回の調査では調査区を主要部分（第１曲輪）とその下段を取り囲むような形で帯状に巡る帯曲輪（第２曲輪）に分けられる。第１曲輪からは柱穴群，土壙状遺構，溝状遺構，空堀，土塁などが，また，第２曲輪からは溝状遺構や空堀などが検出された。なお，遺構は用途の不明なものが多くすべて遺構番号で示した。

第１節，２．調査の概要でも多少は述べたが，遺構の詳細について述べたい。

１．第１曲輪（第２図）

第１曲輪は標高35～36m あり，下段の第２曲輪との比高差約７m を計る。規模は長軸約56m，短軸約33m の長方形から長めの台形状を呈しているが，南側を５分の１程度土取りによって削平されており正確な規模をつかむことは困難である。平坦地の土層の状態は第１曲輪の北東側と南西側の中央部に礫層が露出しており，その南北両端と曲輪中心部に２次堆積の風化土が見られる。特に中心部は若干の谷地形を呈している。

遺構は曲輪の西から南西の際にかけて土塁，南東端に堀状の遺構，南西側に溝状の遺構と土壙状の遺構さらにピット群，北東側に土壙状の遺構とピット群の密集がそれぞれ見られる。

１）土塁（第３図）

土塁は幅約５m，高さ約２m，長さが現況で約30m を計る。曲輪の南西部から西角にかけての１辺に築かれた土塁は西角で直角に折れて10m 程北片にも築かれるが虎口状に谷地形が若干入り込むNo.４遺構付近で土塁は切れる。北側の土塁は先端から５m 程削平によって消滅している。土塁の土層断面には上下２ケ所に黒色帯が見られ，土塁の改築がうかがわれる。

表1．第1曲輪遺構一覧表

遺構番号	プラン	規模 長軸×短軸×深さ（m）	内部施設	出土遺物	備考
No. 3	長方形	1.04×0.74×1.31			
No. 6	長方形	0.86×0.66×1.23			
No. 7	長方形	0.85×0.51×0.51			
No. 9	方形	0.84×0.8 ×0.77		土師皿（ヘラ切）	
No. 10	長方形	1.08×0.79×1.22		土師坏（ヘラ切）	
No. 11	長方形	0.98×0.54×1.12		土師坏（ヘラ切） 青磁盤	
No. 12	長方形	0.8 ×0.52×0.67			ピットと切り合う
No. 14	隅丸方形	0.88×0.86×0.38			
No. 15	長方形	0.61×0.43×0.36			
No. 16	隅丸長方形	0.78×0.5 ×0.27			ピットと切り合う
No. 18	円形	1.13×1.03×1.22			
No. 19	方形	1.33×1.18×1.52	ピット		
No. 23	長方形	0.7 ×0.33×0.22		土師坏（ヘラ切）	
No. 24	方形？	1.04×1.02×0.80			
No. 25	長方形	1.33×0.85×1.37			
No. 26	不定形	1.82×0.72～1.77×1.13		土師皿（ヘラ切）	No.26′(長方形)と切り合い
No. 28	長方形	1.13×1.81×1.31		土師坏，皿（ヘラ切） 備前壺	No.31と切り合う
No. 29	方形	1.13×1.00×0.46			No.30と切り合う ピットと切り合う
No. 30	長方形？	0.87×0.63×0.30	ピット？		No.29と切り合う
No. 31	不定形	1.8 ×1.45×0.36	ピット	土師皿 擂鉢	No.28と切り合う
No. 33	長方形	0.63×0.5 ×1.00			
No. 34	長方形	0.95×0.5 ×0.29			
No. 35	不定形	1.62×1.1 ×0.31		土師坏（ヘラ切） 擂鉢	西側に溝？
No. 36	不定形	1.54×1.29×1.69		土師皿 土錘	
No. 41	長方形	1.05×0.48×0.92		土師皿（糸切）	No.49と切り合う
No. 42	長方形	0.71×0.33×0.26			
No. 43	長方形	1.18×0.53×0.25			No.43′と切り合う
No. 43′	隅丸長方形	0.62×0.54×0.47			No.43と切り合う
No. 44	長方形	0.77×0.53×0.43		土師坏，皿（ヘラ切）	ピットと切り合う
No. 45	長方形	1.17×0.77×0.55			
No. 46	円形	0.82×0.82×0.98			
No. 49	楕円形	0.59×0.4 ×0.29			No.41と切り合う

２）堀状遺構（第４図）

曲輪の東角に曲輪長軸に対して45度の方向で空堀状の遺構が築かれている。堀は南北方向に延びており，幅は約７ｍと広く，深さも３ｍを優に超える。東壁は斜度70度と急傾斜の掘削で西壁側も１段緩やかな傾斜面をもつが段落ち後はかなりの急傾斜で堀が築かれている。確認時の堀土層断面は，破砕された岩盤のブロック層が層にわたってみられ，曲輪の平坦面と同レベルにまで埋められていた。

３）溝状遺構

No.１遺構，No.２遺構とも溝状の遺構でいずれも東堀へ傾斜しながら通じている。No.１遺構は最大幅約２ｍ，深さ約1.5ｍ，No.２遺構は最大幅約1.5ｍ，深さ約１ｍを計る。

その北側のピット群の西端に幅30～40cm，深さ10～20cmの４～５本の溝状遺構が北西から南東方向に延びる。溝の中頃に不定形の窪地を伴い，No.１遺構の溝に通じている。

４）土壙状遺構

遺構番号のうちNo.３～No.50の遺構のなかには方形や長方形の土壙，円形の土壙，不定形の土壙，皿状の窪みを持つ土壙などが見られる。

長方形プランの土壙には，長軸1.0～1.2m，短軸0.6～0.8m，深さ1～1.2mの深手の土壙（No.３，６，10，11，25，28），長軸0.6～0.8m，短軸0.3～0.4m，深さ0.2～0.4mの小型の浅手の土壙（No.15，16，23，34，42，44），深さ0.6ｍと小型で深手の土壙（No.12），長軸0.8～1.0m，短軸0.5m，深さ1.0mの細長い土壙（No.41）などのタイプが見られる。

正方形プランの土壙は，一辺1.2～1.3mで深さが1.5m程の大型の深手の土壙（No.19）や深さが0.5m程の浅手の土壙（No.29），一辺が0.8m前後の中型の土壙（No.９，27）などのタイプが見られる。

円形の土壙は径1.4～1.5m深さ1.8m前後のやや楕円形状の大型の土壙（No.36），径が１ｍ前後で深さ1.2前後の中型の土壙（No.18），径が0.8m深さ１ｍの小型の土壙（No.46）などがある。

不定形プランの土壙は中央部が窪む浅手の皿状の土壙が主となる。遺物を多く含む土壙が多く見られる。（No.21，35など）。No.35遺構は東に溝が延びており，No.９遺構に通じる。

２．第２曲輪（Fig．２）

第２曲輪は第１曲輪より比高差約７ｍ下段にあり，第１曲輪の北角～北西部，さらには西角～南西部に当たる箇所にわたって約20m幅で帯状に曲輪が巡っている。南角～北東部にかけての部分は土取りによる削平のため詳細は不明である。第２曲輪は北から第１曲輪に入り込んでくる谷地形によって北区と西区の２地区に分けられる。さらに北側下段には緩やかな斜面が広がる。

調査以前の状況は北区は幅約20mのほぼ平坦面を形成していた。また，西区は幅12～13m，高さ２ｍの土塁が外側に巡っており，土塁と第１曲輪の裾部との間は平坦面を形成していた。

調査の結果，北区では地山を次のように整形していることが確認できる。第１曲輪裾から幅４～５ｍ，深さ２ｍのＶ字状の空堀（北堀）を築き，空堀の上がり際を２～３ｍの平坦面に整形し，さらに高さ１ｍ程の高まりを残して土塁状の地形に整形している。この高まりは地山が３～４ｍ残りあとは約８～９ｍ盛土で土塁状の地形を形成している。つまり，第１曲輪北区の外側の半分近くは盛土地形で拡張のあとがうかがわれる。（第５図）

なお，空堀と第１曲輪裾の間に犬走り状の幅30～40cmの平坦面がめぐっている。

西区でも，かなりの地山整形がなされており，北区同様に第１曲輪裾と土塁との間に，幅８～９ｍ深さ２ｍの空堀が築かれており南へ行くほど幅も４～５ｍ深さも１ｍ前後とその規模も小さくなる。堀の部分はいずれも岩盤のブロック状の土砂で埋められている。北区の堀の立ち上がり部分に見られた平坦面はなく緩やかな傾斜をたもつ程度であ

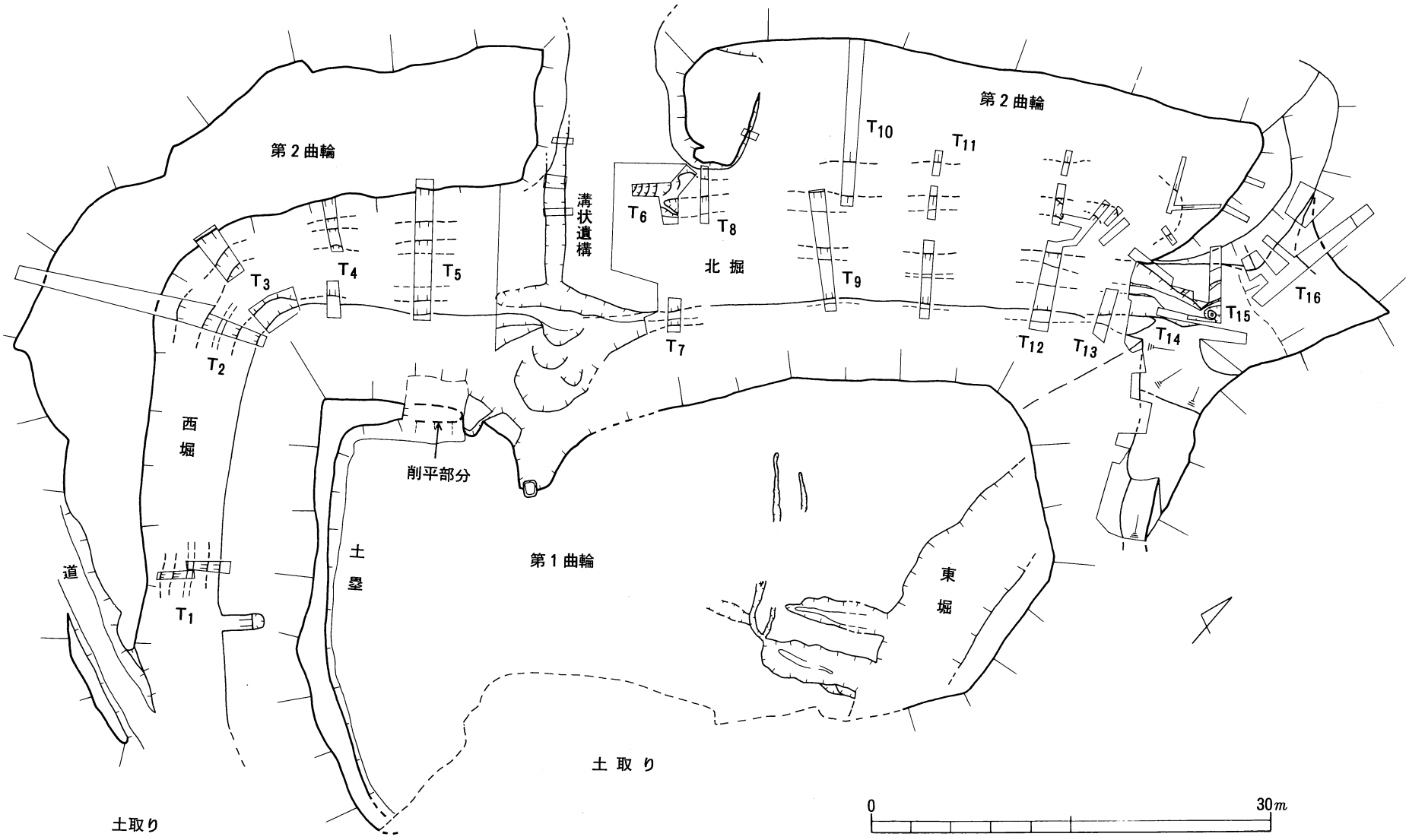


Fig2　遺構およびグリッド配置図

る。土塁は3分の2程度が確認できた。しかし土塁の盛土はあまり固められておらず試掘トレンチの壁面がもろくも崩れる状況であった。

北区と西区は北西部中央で谷地形によって切断される形をとる。この谷地形は第1曲輪まで延びており虎口状の地形を呈する。トレンチではかなりの傾斜が確認された。調査以前の地形は北区と同レベルの平坦面となっておりかなりの埋土がなされていたと思われる。埋土上で第1曲輪から北西に延びる幅1.2～1.3m のT字状の浅い溝状の遺構が見られた。

北区の東側下段には第1曲輪へ向って北から南へ上がるゆるやかな傾斜地形がみられる。第2曲輪でみられた空堀（北堀）が，傾斜地方向へ5～6m 延びており，先端には水溜めを目的としたと思われる遺構がみられた。（T15）

第2曲輪の南西方向は尾根地形の先端にあたり，5～6段にわたって自然地形を形成した痕跡がみられる。また，第2曲輪と南西方向にのびる尾根地形を切断する形で深い道が形成されている。（永友　良典）

第4節　遺　　物

1．中世の遺物（第8図～第13図）

当遺跡から出土した遺物は量的にはそう多くない。第1曲輪は全面発掘したこともあって出土量は多いが，表土及び薄い包含層中，遺構からの出土である。第2曲輪は表土除去中に遺物が出土しているが，出土量は極端に少ない。遺物の大部分は土師器の小皿・坏類の小破片であり，しかもこれらは磨耗が著しい。また，このほかには輸入陶磁器，国産陶磁器，石鍋，古銭などがある。輸入陶磁器は国産陶磁器とほぼ同量出土しているが，点数では国産陶磁器をうわまわる。なお，実測図中の遺物の出土遺構及び観察所見は表2～5のとおりである。

土師器（表2）

出土遺物の中では量的に最も多い。第1曲輪の方形土壙や不定形の落ち込み，溝状遺溝，ピット，包含層などほぼ全面から出土している。また，磨耗した細片のものが殆どであるが，遺構出土のものも出土状況としては流れ込みの可能性が強い。遺構，包含層及び表土出土のものの中から口径，底径の復元可能なものを中心に図化したがすべては掲載していない。径の復元できたものは主に口縁部の形態や器高・口径などから次のように分類できる。分類の基準は『山内石塔群』で用いられた坏をA類，小皿をB類，ヘラ切り底をⅠ類，糸切り底をⅡ類とする分類法[(1)]に準拠し，さらに先の特徴により細分した。

A－Ⅰ－1　口縁部が直線的に外方へのびるもの。口縁端部は2・3類よりシャープで厚みが少ない。器高と口径によりa（5・96），b（6・12・15・24）に細分できるが，76・92などは器高はaと，口径はbとほぼ同じである。

2　口縁部が1類より立ち気味に上方へのび，端部は丸く厚みがある（13・14・37）。

3　口径が広く，器高が比較的低い。内湾気味に上方へのびる口縁端部は丸く厚みがある（22）。

A－Ⅱ　底部から内湾気味に立ち上がり，口縁部が直線的に外方へのびるもの（101）。口縁端部はシャープで厚みが少ない。底部は上げ底である。法量はA－Ⅰ－1bに近似する。

B－Ⅰ－1　口縁部が直線的に外方へのび，端部は細く尖り気味になるもの（16・46）。

2　口縁端部が丸く，1類程は細くならず尖らないもの。器高によってa（1・17・30・45・104・105・11・18・103・106）・b（2・3）に細分できる。また，a・bは口径の違いにより二分できる。

3　口縁部が直立気味に短く立ち上がるもの（9・10・57）。器高も1・2類より若干低い。口径にばらつきが見られる。

Ｂ－Ⅱ－１　口縁部が細く尖り気味に外方へのび，端部は丸い（29）。形態はⅠ－２ａ類の後者に近い。

２　開き気味の口縁部が外方へ短くのび，端部は丸い（28・52・107）。いずれもわずかに上げ底である。口径にばらつきが見られる。

輸入陶磁器[2]（表３，図版11～14）

磁器は，青磁，白磁がほぼ２：１の割合で出土しており，染付は１点のみ出土している。全体の器形のわかるものはあまりないが，遺構，ピット，表土中出土のものから各器種大破片のものを中心に図化した。なお，時間の関係上，図化できたのは一部である。出土遺構は，７が方形の土壙，32・33や43・44などが不定形の落ち込み，そのほかはピット出土である。青磁は碗が殆どでそのほかに皿・小鉢・盤が数個分ずつみられる。また，白磁も碗が殆どでついで小皿が５～６点みられる。染付は図化しなかったが，底に「大明成化年製」の文字がみられ，16世紀末～17世紀前半代のものと思われ，第１曲輪の中央部表土中から出土している。

陶器では，天目茶碗（63・119）が３個体分，ピットNo. 169出土の褐釉陶器の壺（図版14）が１点出土している。量的には微量である。

国産陶磁器[3]（表３，図版11～14）

輸入陶磁器に比べると点数では少ない。備前焼・常滑焼・瀬戸・在地産と思われるものなどが，表土下や第１曲輪の方形土壙，ピットから出土している。No.28遺構からは土師器とともに備前焼壺片が出土している。備前焼は壺や甕，擂鉢が数個体分ほど出土している。また，常滑焼は大甕片や擂鉢片などがやはり数個体分出土している。21や23は在地産と考えられる擂鉢であるが，23は備前焼の擂鉢を模倣したものと考えられる。このほかに，第１曲輪からは青磁盤に類似した瀬戸盤（120）が出土し，時代が下って近世（18世紀～19世紀代）の肥前系統の磁器類やその他瓦器火鉢なども少量ずつだが出土している。

石　鍋（第11図112・113，表３，図版12）

滑石製の石鍋片が３点出土している。図化したものは，第１曲輪中央部付近の楕円形落ち込みNo. 137遺構出土のもの（112），No. 135付近出土のもの（113）である。

古銭・その他（図版15）

第１曲輪の不定形落ち込みNo.21遺構の東側とピットNo.40の埋土中から銅銭が約66枚出土した。No.21遺構東側出土の銅銭は約19枚あり，いずれも鋳あがりの悪い脆いものである。殆どが私鋳銭と思われる。文字は潰れているが，１枚だけ辛うじて「皇宋通寶」と読める。ピットNo.40は溝状遺構No.２の北側，方形土坑No.３の南側で土層観察用ベルトに近い位置にある。このピットNo.40からは，約47枚の鋳あがりの悪い銅銭とともに植物質の繊維を編んだものが出土している。これは乾燥のため収縮していて全体の形状は不明である。表面の一部にわずかに緑青が付着している。銅銭にはしっかりした文字のものも含まれており，「淳化元寶」のくずし字のもの，「太平圓寶」，「元圀通寶」，「皇宋通寶」，「治平元寶」，「天聖元寶」，「圜祐通圜（？）」，「開元通寶」などが読める。これらは，「開元通寶」が唐代のものであるほかは，いずれも北宋銭をもとに私鋳されたかもしくは輸入されたものと考えられる。

土　錘（表４）

いずれも磨耗が著しい。また，割れて半欠のものが殆どである。完形のものは少ないが，重さには６～10g までばらつきがみられる。「西ノ城」跡の北方に位置し，地理的に川に近い「今江城（仮称）」跡に比べると出土量はかなり少ない。

２．その他の遺物

縄文土器（第13図133～137，表５），打製石斧，凹石，剝片等が少量出土している。縄文土器は，133 が前期曽畑式系の土器と思われ，そのほかはそれぞれ早期の無文土器（134），前平式系土器（136），塞ノ神式系土器（135），

轟式系土器（137）と思われるものである。

3．小　結

車坂城（あるいは加江田城）が文献上に初めてあらわれるのは，「応永の頃」といわれるから14世紀末～15世紀初めぐらいのことである。それより前，国富荘が分領された頃から熊野，加江田のあたりに土持氏の支族が住み始めている。それを考慮すれば，少なくとも14世紀後半代には車坂城は造られていた可能性がある。その後，16世紀中頃まで車坂城は伊東氏と島津氏の攻防の歴史の中でしばしば登場するようになるが，それは主に15世紀代である。当西ノ城跡が文献上にあらわれる「車坂城」とどのような関係にあったのか，また，削平された「本丸」跡との関連はどのようなものであったのか，現在ではよくわからない。だが，公団が展望台を作るために削平した第1曲輪の西側土塁北端部で，土塁の下から土師器（96・98・105）が出土したこと，第1曲輪東側には大規模な空堀状の遺構が，完全に埋められた状態で検出されたこと，第1曲輪下段北側の空堀も完全に埋め戻された状況が土層断面から読み取れることなど文献上にあらわれる車坂城の「修築」は，この西ノ城にも及んでいたと考えられる。また，第1曲輪の東堀の存在は，「修築」以上に大規模な城の改造（その形状をも変えた程の）が行われた可能性を想像させてくれる。

それはさておき，西ノ城跡出土の遺物の中には，石鍋や擂鉢，碗や小皿，網錘と考えられる土錘や水甕と考えられる国産陶器など，この曲輪上でも日常の生活が営まれていたことを感じさせる遺物が多い。国産陶器や輸入陶磁器など一般にいわれるように，製作年代と使用年代で時期差があることは当然考えられることである。それらを加味して考えると，備前焼の擂鉢を模倣して作られたとされる23や備前焼壺の121，大甕122などは間壁氏編年[4]のⅢ期後半からⅣ期にさしかかるころ（14世紀後半頃）に位置付けできるものと思われる。また，輸入陶磁器では佐賀県立九州陶磁文化館の大橋康二氏によると，青磁碗が14世紀～15世紀前半代，小鉢が14世紀後半～15世紀初頭，白磁碗が14世紀代，小皿が14世紀後半～15世紀初頭頃の所産であろうということである。一方，古銭は，前述したように北宋銭を中心とするもので，「洪武」銭，「永楽」銭など14世紀後半，明の成立後，日本にも輸入され広く使われた明銭は一枚もみられない。土師器は，先に『山内石塔群』[5]の報告書において，ヘラ切り底から糸切り底への変換期を14世紀前半代と推定されている。また、前原西遺跡の中世周溝墓からは北宋銭とともに糸切り底の土師器のみが出土し，14世紀末～15世紀初頭に比定されている[6]。ヘラ切り底と糸切り底の土師器がしばらく併存していたとしても14世紀後半頃にはすべて糸切り底に変換されたとみると，西ノ城跡出土土師器の様相は14世紀前半代の糸切り底への変換が始まった頃のものとみられる。

以上のことをまとめると，次のようになる。文献上での「車坂城」の存続年代は14世紀後半～16世紀中頃までと推測される。「西ノ城」跡もその時期幅に収まるものと考えた場合，遺物からは，国産陶器が14世紀後半頃，輸入陶磁器が14世紀～15世紀前半代の幅に，また，出土古銭は，これが私鋳銭であるとしても，15世紀後半には下らず，土師器だけが14世紀前半代の古い様相を示している。中世土師器の編年がまだ確立されたとはいえない現在，これらの遺物は大半が文献に記された伊東氏と島津氏の攻防戦盛んな14世紀末から15世紀前半頃に使用されたものといえよう。

（菅付　和樹）

註（1）　谷口武範「第4節　土師器に関する二・三の問題について」『山内石塔群』宮崎県教育委員会　1984

（2）　陶磁器については佐賀県立九州陶磁文化館の大橋康二氏が来県されおり，御教示御指導を賜った。

（3）　(2)に同じ。

（4）　間壁忠彦「備前」『世界陶磁全集』3　1977

（5）　(1)に同じ。

（6）　山中悦雄「4．16号地遺跡」『宮崎学園都市埋蔵文化財発掘調査概報』（Ⅱ）　1982

第５節　まとめ

今回の発掘調査は山城の調査としては十分なものとは言えないが，得られた成果から，何ケ所かに改築の痕跡が確認された。

１．第１曲輪東側に大規模な空堀（東堀）を検出したが，空堀は完全に埋めもどされていた。

２．第１曲輪西側の土塁下から土師皿等を検出した。断面にも黒色帯が２～３層みられ何度かの補強がみられた。

３．第２曲輪をめぐるように，空堀と土塁を検出したが，空堀は完全に埋めもどされており，土塁も外側へ拡張した盛土がみられた。

４．第２曲輪と南西に延び丘陵を区切るような痕跡がみとめられた。

第１曲輪と第２曲輪で検出された空堀や土塁がある程度同時期に使用されていたと仮定するなら，南側が土取りによって消滅しており詳細が分かりにくいが西側と南西側に対する構えを想定したつくりとなっている。南西側は第２曲輪から尾根が続いており，また，西側は比較的平坦な地形が続いており攻め易い地形となっている。そのため，第２曲輪に深い空堀と土塁を築き，南西側に丘陵を切断するような堀？を築き，それぞれの備えとする。また，第１曲輪の東堀も，初期段階での丘陵との堀切りとも考えられるが，東角にみられた溝状の遺構を虎口と考えれば，，第２曲輪北区の東にみられた傾斜地からこの東堀を利用して虎口に達していたとも思われる。

このように西～南西方向に構えをととのえた時期が遺物の集中する14世紀末から15世紀前半に比定されるのかは言及できないが，その後，土塁の拡張や空堀を埋めもどすといった改築（？）が行われたと想定される。

（永友　良典）

表2．土師器観察表

図面番号	遺物番号	遺構名No.	器形	法量(cm)			色調		胎土	焼成	調整		備考
				口径	底径	高	内面	外面			内外面	底部	
8	1	9	小皿	7.7	5.6	2.0	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	完形
〃	2	9	小皿	推定8.0	推定6.0	2.3	淡橙色	淡橙色	精良，細砂粒を少量含む	良好	ナデ	ヘラ切り	
〃	3	9	小皿	推定6.8	推定5.1	2.4	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	
〃	4	10	坏	—	8.5	—	にぶい黄橙色	浅黄橙色	精良，0.1~1ミリの砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	
〃	5	11	坏	推定12.4	推定8.2	3.85	にぶい橙色	にぶい橙色	精良，細砂粒を含む	不良	ナデ	ヘラ切り	
〃	6	11	坏	推定11.2	推定7	3.4	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	
〃	8	23	坏	—	8.5	4	にぶい橙色	にぶい橙色	精良，砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	
〃	9	26	小皿	推定8.6	推定8.1	1.4	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	
〃	10	26	小皿	推定6.4	推定5.6	1.5	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	
〃	11	26	小皿	推定7	推定6	1.6	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	
〃	12	28	坏	推定11.2	推定8.2	3.25	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，0.2~0.3ミリの砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	
〃	13	28	坏	推定11	推定8	3.1	淡黄色	淡黄色	精良	良好	ナデ	—	
〃	14	28	坏	推定11.2	推定9	3.3	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	精良	良好	ナデ	ヘラ切り	
〃	15	28	坏	推定11	推定7.1	3.2	にぶい橙色	にぶい橙色	精良，砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	
〃	16	28	小皿	推定9.1	推定5.5	1.5	浅黄橙色	浅黄橙色	精良	良好	ナデ	ヘラ切り	
〃	17	28	小皿	推定7.8	推定5.9	1.7	にぶい橙色	にぶい橙色	精良，砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	
〃	18	28	小皿	推定7.0	推定5.4	1.7	にぶい橙色	にぶい橙色	精良，砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	
〃	20	31	小皿	—	—	—	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	—	
〃	22	35	坏	推定13.2	推定10.2	2.75	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	
9	24	36	小皿	推定11.0	推定7.7	3.15	褐灰色	褐灰色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	—	1/3残
〃	25	36	小皿	推定11.0	推定8.2	2.15	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，0.5~1ミリの砂粒を含む	良好	ナデ	—	全体的に風化
〃	28	41	小皿	推定5.7	推定4.6	2.2	橙色	橙色	精良，0.5ミリの細砂粒を含む	良好	ナデ	糸切り	1/8残
〃	29	41	小皿	7.0	6.1	1.55	橙色	橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	糸切り	1/4弱残
〃	30	44	小皿	—	—	—	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	1/8残
〃	31	44	坏	—	—	—	浅黄橙色	にぶい黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	
〃	37	21. 東側	坏	推定10.8	推定7.5	推定4.3	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	銅銭出土
〃	38	21.南東側	坏	推定7.2	推定5.5	1.7	にぶい橙色	にぶい橙色	精良，細砂粒を含む	やや不良	ナデ	ヘラ切り	1/4残
〃	39	21. 東側	小皿	—	推定4.8	—	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	
〃	41	137	坏	—	推定7.4	—	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，0.2~0.5ミリの細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	1/4残
〃	45	2	小皿	7.5	5.8	1.5	浅黄橙色	浅黄橙色	精良	良好	ナデ	ヘラ切り	完形
〃	46	2	小皿	推定8.5	推定6.5	1.8	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，砂粒を含む	やや良好	ナデ	ヘラ切り	
〃	47	SE5	坏	—	推定7.0	—	淡黄色	淡黄色	精良，0.5ミリ以下の砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	全体的に風化
〃	48	SE5	小皿	—	推定7.1	—	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	—	全体的に風化している
〃	49	SE5	小皿	—	—	—	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	
10	52	38	小皿	8.1	6.0	1.3	橙色	橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	糸切り	ピット 1/2残
〃	53	38	坏	推定11.0	—	—	浅黄橙色	橙色	精良，0.5ミリの細砂粒を含む	良好	ナデ	—	ピット
〃	54	40	小皿	—	—	—	橙色	橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	—	ピット 銅銭・植物出土 全体的に風化
〃	55	71	小皿	—	推定8.3	—	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	—	ピット・1/8残 全体的に風化
〃	56	75	小皿	—	推定8.3	—	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	ピット 1/8残
〃	57	77	小皿	推定5.8	推定5.2	1.2	浅黄色	浅黄色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	ピット 1/8残
〃	58	79	小皿	—	推定7.0	—	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	ピット
〃	64	99	坏	—	—	—	灰黄褐色	灰黄褐色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	ピット
〃	66	121	坏	—	—	—	浅黄橙色	浅黄橙色	精良	良好	ナデ	—	ピット 1/8残
〃	67	121	小皿	—	—	—	にぶい黄褐色	浅黄色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	ピット

図面番号	遺物番号	遺構名 No.	器形	法量(cm) 口径	底部	高	色調 内面	外面	胎土	焼成	調整 内外面	底部	備考
10	69	124	小皿	—	推定 8.4	—	浅黄橙色	浅黄橙色	精良	良好	ナデ	ヘラ切り	ピット 1/8残
〃	74	134	小皿	—	—	—	灰白色	灰白色	精良，1ミリの細砂粒を含む	良好	ナデ	—	ピット 1/12残
〃	75	135	坏	—	—	—	にぶい橙色	にぶい橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	—	ピット
〃	76	136	坏	推定 11.1	推定 7.6	3.75	淡橙色	淡橙色	精良，0.2~1ミリの細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	ピット 底径の1/4残
〃	77	136	坏	—	推定 9.15	—	にぶい橙色	にぶい橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	ピット 1/3残
〃	79	136 西側	小皿	推定 6.6	推定 6.0	0.85	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，0.2ミリ~0.5ミリの細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	1/2弱残
〃	80	136 西側	小皿	—	推定 7.1	—	灰褐色	にぶい橙色	精良，1ミリ程の砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	1/3残
〃	81	140	坏	—	—	—	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	精良，1ミリ以下の細砂粒を含む	良好	ナデ	—	ピット
〃	82	140	小皿	—	—	—	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，0.2~0.5ミリの細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	ピット
〃	83	148	小皿	—	推定 6.5	—	褐灰色	褐灰色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	ピット 底径の1/3残
〃	84	150	小皿	—	—	—	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	—	ピット 全体的に風化
〃	85	155	小皿	—	—	—	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	—	ピット 全体的に風化
〃	86	159	小皿	—	推定 6.0	—	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	ピット 全体的に風化
11	88	161	小皿	—	推定 5.6	—	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	ピット
〃	90	165	小皿	—	—	—	にぶい橙色	にぶい橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	ピット
〃	93	168	小皿	—	推定 6.5	—	灰赤色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	ピット 底径の1/8残
〃	95	171	小皿	—	—	—	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	ピット 全体的に風化
〃	96	第1曲輪	坏	推定 12.8	推定 8.6	3.9	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	1/4残
〃	97	第1曲輪	坏	推定 11.3	推定 7.5	3.8	浅黄橙色	浅黄色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	—	全体的に風化
〃	98	第1曲輪	坏	—	推定 7.9	—	にぶい黄橙色	浅黄色	精良，1ミリ以下の細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	1/4残
〃	99	第1曲輪	坏	—	推定 7.6	—	浅黄橙色	にぶい黄橙色	精良，0.1~1ミリの砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	1/4残
〃	100	第1曲輪	坏	—	推定 7.0	—	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	—	1/2残 全体的に風化
〃	101	第1曲輪	坏	推定 11.4	推定 6.8	2.9	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	精良，0.1~1ミリの砂粒を含む	良好	ナデ	糸切り	1/4残
〃	102	第1曲輪	坏	—	推定 6.5	—	淡黄色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	糸切り	1/4残
〃	103	第1曲輪	小皿	推定 6.8	6.4	1.8	にぶい橙色	にぶい橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	底部 完形 口縁部 1/2残
〃	104	第1曲輪	小皿	—	推定 5.5	2.2	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	1/2強残
〃	105	第1曲輪	小皿	推定 7.4	推定 6.0	1.8	褐灰色	褐灰色	精良	良好	ナデ	ヘラ切り	1/8残
〃	106	第1曲輪	小皿	推定 7.2	推定 5.6	1.55	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	底径の1/4残
〃	107	第1曲輪	小皿	7.2	5.6	1.1	淡橙色	淡橙色	精良，0.1~1.5ミリの砂粒を含む	良好	ナデ	糸切り	ほぼ完形
〃	108	第1曲輪	小皿	—	推定 5.9	—	にぶい橙色	にぶい橙色	精良，細砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	底径の1/3残
〃	109	第1曲輪	小皿	—	推定 6.0	—	にぶい橙色	にぶい橙色	精良，0.5~1ミリの砂粒を少し含む	良好	ナデ	糸切り	底径の1/4残
13	124	第2曲輪	坏	—	推定 7.3	—	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，0.1~1ミリの砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	1/4残
〃	125	第2曲輪	坏	—	推定 9.0	—	淡黄色	淡黄色	精良，0.1~1ミリの砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	1/4残
〃	126	第2曲輪	小皿	—	—	—	にぶい黄橙色	にぶい黄橙色	精良，0.1~0.5ミリの砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	
〃	127	第2曲輪	小皿	—	—	—	浅黄橙色	浅黄橙色	精良，0.1~1ミリの砂粒を含む	良好	ナデ	ヘラ切り	

表3．陶磁器観察表

図面番号	遺物番号	遺構名 No.	器種	器形	器部	釉調	胎土色調	形態・成形技法等の特徴	備考
8	7	11	磁器	青磁盤	底部	青みのある灰白色		釉の表面が傷んで浅黄色に変色している	27と同一個体と思われる
〃	19	28	陶器	備前壺	肩部	外一灰色 内一灰色	1～2ミリの白茶の砂粒を含む	外一ナデ 内一ヨコナデ	
〃	21	31	陶器	須恵質の擂鉢	底部	外内 } 淡黄	1ミリ小の白色の粒と細砂粒を含む	外一ヨコナデ～ナデ 内一ヨコナデ～ナデ	
〃	23	35	陶器	須恵質の擂鉢	口縁～胴部	外内 } 浅黄橙色	茶の細砂粒，0.5～1センチの石粒を含む		
9	27	36付近	磁器	青磁盤	口縁	青みのある灰白色		釉の表面が傷んで浅黄色に変色している	7と同一個体と思われる
〃	32	21	磁器	青磁碗	口縁	明緑灰色，光沢がある			
〃	33	21	磁器	白磁碗	底部～高台	淡い灰オリーブ色，：光沢がある	灰白色	見込劃花文，高台断面台形，底部ヘラケズリ，調整ていねい	
〃	40	21東側	磁器	白磁碗	底部～高台	淡黄灰色，にぶい光沢がある	灰白色	高台断面台形	
〃	43	151	磁器	青磁小鉢	口縁	淡緑色，にぶい光沢	灰白色	胴部外面に蓮弁文	
〃	44	1	磁器	青磁碗	口縁	明緑灰色，光沢がある	淡黄色	貫入あり	
10	63	89	陶器	天目茶碗	口縁	茶褐色～黒褐色	灰黄色	全体に光沢にぶい，特に外面口縁はほとんど光沢がない。鉄釉2度がけ，中国製	ピット
〃	65	118	磁器	白磁小皿	口縁	淡黄色，光沢がある	淡黄色	貫入あり	ピット
〃	68	122	磁器	白磁碗	底部～高台	淡灰黄色，光沢がある		高台断面台形，底部ヘラ，貫入あり	ピット
〃	70	125	磁器	白磁小皿	底部～高台	乳白色，光沢がある	淡黄色	貫入あり	ピット
〃	78	136	磁器	白磁小皿	口縁	乳白色，光沢がある	淡黄色		ピット
〃	87	159	磁器	青磁碗	口縁	明緑灰色，光沢がある			ピット
11	89	161	磁器	青磁小鉢	口縁	灰白色，光沢がある	淡白色	胴部外面に蓮弁文	ピット
〃	94	170	陶器	一	口縁付近	外一浅黄色，淡赤橙色 内一にぶい橙色	1ミリ前後の白い粒を含む	内外ともヨコナデ，口縁近く剝離	ピット
〃	112	第1曲輪	滑石製	石鍋	口縁			外面スス付着	
〃	113	第1曲輪	滑石製	石鍋	胴部下半				
12	114	第1曲輪	磁器	青磁碗	口縁	淡緑色，光沢がある			
〃	115	第1曲輪	磁器	青磁盤	口縁	にぶい黄色 光沢がない		貫入あり	116と同一個体と思われる
〃	116	第1曲輪	磁器	青磁盤	底部～高台	にぶい黄色 光沢がない	黄橙色	貫入あり	115と同一個体と思われる
〃	117	第1曲輪	磁器	白磁碗	口縁	淡い灰緑色を呈し，光沢がある	灰白色	貫入あり	
〃	118	第1曲輪	磁器	白磁碗	底部～高台	緑がかった灰白色	灰白色	高台断面長方形	
〃	119	第1曲輪	陶器	天目茶碗	口縁	茶褐色～黄褐色 光沢がある	灰白色	釉は発色がよく光沢もあるが，口唇部のみ内外面とも光沢がない。鉄釉2度がけ，中国製	
〃	120	第1曲輪	陶器	瀬戸盤	口縁	淡オリーブ色，光沢がある		貫入あり	
〃	121	第1曲輪	陶器	備前壺	口縁	外一灰色 内一灰色	1ミリ大の白い砂粒を含む		
〃	122	第1曲輪	陶器	備前大甕	口縁	外一暗赤褐色 内一にぶい赤褐色	1ミリ大の白褐の砂粒を含む		
〃	123	第1曲輪	陶器	常滑擂鉢	体部	外一灰黄褐色 内一褐灰色	1ミリ前後の白，茶，灰の粒を含む	内外面ともナデ	
13	129	第2曲輪	磁器	青磁碗	口縁	明緑灰，光沢がある		貫入あり	
〃	130	第2曲輪	磁器	青磁碗	底部～高台	灰白色，光沢がある		見込印花文，貫入あり	
〃	131	第2曲輪	磁器	青磁碗	底部～高台	オリーブ灰色，光沢がある		見込印花文，調整がやや雑	
〃	132	第2曲輪	磁器	青磁碗	底部	淡緑色，光沢がある		見込印花文，貫入あり	

表4．土錘計測表

図面番号	遺物番号	遺構名 No.	器形	法量			色調	胎土	焼成	備考
				現長(cm)	最大径(cm)	重(g)				
9	26	36	土錘	3.1	1.35	5	褐灰色	きめ細かい	良好	
〃	34	21	土錘	5.15	1.2	7	灰白色	きめ細かい	良好	完形 全体的に風化
〃	35	21	土錘	4.25	1.5	10	灰白色	きめ細かい	良好	完形
〃	36	21	土錘	2.85	1.25	6	灰白色	きめ細かい	良好	ピット
〃	42	137	土錘	3.75	1.8	10	灰白色	きめ細かい	良好	
〃	50	SE 5	土錘	2.45	1.15	4	浅黄橙色	細砂粒を含む	良好	
10	51	16	土錘	3.65	1.8	9	黄灰色		良好	ピット
〃	59	79	土錘	2.95	1.3	5	灰白色		良好	ピット
〃	60	79	土錘	3.0	1.3	5	灰白色		良好	ピット
〃	61	79	土錘	3.2	1.5	7	灰白色		良好	ピット
〃	62	79	土錘	2.7	1.5	5	灰白色		良好	ピット
〃	71	127	土錘	5.1	1.4	8	浅黄橙色	きめ細かい	良好	ピット 完形
〃	72	132	土錘	3.5	1.4	7	灰白色	きめ細かい	良好	ピット
〃	73	133	土錘	3.0	1.3	4	灰白色	きめ細かい	良好	ピット
11	91	166	土錘	4.75	1.3	8	黄灰色	細砂粒を含む	良好	ピット
〃	92	166	土錘	4.8	1.5	10	灰白色	細砂粒を含む	良好	ピット
〃	110	第1曲輪	土錘	4.6	1.3	6	黄灰色	細砂粒を含む	良好	完形
〃	111	第1曲輪	土錘	4.7	1.7	12	灰黄色	きめ細かい，細砂粒を含む	良好	
13	128	第2曲輪	土錘	3.6	1.35	6	黄灰色	きめ細かい	良好	完形

表5．縄文土器観察表

図面番号	遺物番号	遺構名	器部	文様および調整		焼成	色調		胎土	備考
				外面	内面		外面	内面		
13	133	第1曲輪	胴部	短沈線文 ナデ	ナデ	良好	にぶい赤褐色	にぶい赤褐色	0.5ミリ大の砂粒多い	
〃	134	第1曲輪	胴部	無文 よこナデ	よこナデ	良好	橙色	にぶい橙色	細砂粒含む	
〃	135	第1曲輪	胴部	沈線3条 ナデ	ナデ	良好	浅黄橙色	浅黄橙色	0.5ミリ以下の細砂粒を多く含む	
〃	136	第1曲輪	底部	貝殻腹縁刺突文 ナデ	よこナデ，ナデ	良好	明黄褐色	にぶい橙色	細砂粒含む	
〃	137	第2曲輪	胴部	突帯3条 ナデ	たてナデ	良好	にぶい橙色	にぶい橙色	0.5ミリ以下の細砂粒多い	

第Ⅸ章　結　　語

昭和55年10月，５号地遺跡のちの入料遺跡から宮崎学園都市遺跡群の発掘調査がはじまった。人員的な事を含め，全国的なレベルから10年遅れている，と言われ続けてきた本県埋蔵文化財行政の文字通り本格的な出発であった。その後の歩みの決算はまだ出すことはできない。しかし，埋蔵文化財「保護」行政と言い得ないところに，決算の一つはある。そして，昭和61年の車坂城跡・陣ノ内遺跡の発掘調査を最後にして，本報告書の刊行をもって宮崎学園都市遺跡群の調査の全工程に一応の終止符がうたれる。

少なくとも学園都市遺跡発掘調査が，宮崎県考古学史上欠かすことのできない記念碑的調査となったことは確かである。堂地西遺跡における剝片尖頭器を中心とした旧石器時代，平畑遺跡における縄文後，晩期の集落，前原北遺跡・堂地東遺跡・熊野原遺跡・前原南遺跡へと時期を追い，時代を追い形成された弥生時代から古墳時代，さらには古代・中世にいたる各集落，そして山内石塔群における500基を越える五輪塔・板碑群，これらは時にその量と抽出されうる質において，本県のみならず全国的な考古学の課題にも応え得るものである。また，そのような評価を受けている。遺跡群の位置から，宮崎平野部における中心的な遺跡とは言えず，むしろ周縁地域の文化を映すものである印象は強いが，完結した一地域の全体像を伝えるものとしては，かけがえのない資料を提供する。その意味から言えば，遺跡そのものの持つ固有な性格において貴重であるという以上に，各遺跡の有機的な関係において貴重であるといえる。ただ，振り返って，かくいう貴重なその全体像を発掘調査の上でも，本報告の上でもいかに引き出し得たかについては，諸般の制約を受けての調査であるとはいえ，はなはだ心もとない。その心もとなさが今後につなぐ課題となろうか。いや，発掘調査から整理・研究そして報告書完成までの経費，日程，人員，技術，体制いずれをとっても，現実的にはより苛酷な課題であり，実態的な解決以外に本質はない。

埋蔵文化財という原資料から導き出される考古学の成果については，今後も各時代を通じての検討が継続して行われる必要がある。しかし，少なくともこれまでの成果をもってしても各時代について，土器編年をはじめとする「定点」を与えることは出来た，とわたしたち自身自己評価してよいであろう。それを育てていけるか否かは，また別の問題である。

その一方で，建設された学園都市のもとに消えさった遺跡群は，二度と取り戻すことのできない歴史的景観そのものであった。学園都市という極めて将来的な都市づくりの中に，回復不可能な歴史的環境を，何故残し得なかったのか。このことはわたしたちの大きな弱点であったと，いずれ歴史的な評価を受けるであろう。都市づくりのなかに歴史的環境を保存していくことは，それが将来的であればあるほど必要とされる創造的な構想である。また，行政上の大きな課題でもある。ただ，その認識の徹底には，なお長い道のりを経なければならない。ここでは，こうした構想について全く議論が行われなかった訳ではないということを，やはり記しておきたい。

事前協議，分布調査を含め本報告書刊行にいたる今日まで10年の歳月が過ぎようとしている。その間，協議の席に着いた多くの人々がおり，発掘調査に関わったより多くの人々がおり，整理作業を支えたまた多くの人々がいた。しかし，かの土地に旧石器時代から積上げられた２万年に及ぼうとする歴史と，その破壊の上になった学園都市建設までの膨大な人間の営みという「山河」からすれば，そうした人々もわたしたちも，ついには一瞬の「点景」に過ぎないといえる。とはいえ，今日という時点を通過することなくして，歴史を将来に繋ぐことができない以上，わたしたちのこのわずかな営みが確かなものであったことを信じたい。

（北郷泰道）

宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書第４集

熊野原遺跡Ａ・Ｂ地区　前原西遺跡
陣ノ内遺跡　前原南遺跡
前原北遺跡　今江城（仮称）跡
車坂城西ノ城跡

本　文　編

1988年３月25日発行

編集・発行　宮崎県教育委員会